

北斗市
館野 2 遺跡 A地区・B地区

— 高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成23年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

北斗市
館野2遺跡 A地区・B地区

— 高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成23年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



調査区遠景

南から



B地区 縄文時代後期前葉遺物出土状況

西から



A地区 旧石器時代の遺物



B地区 住居跡BH-6 覆土(左)床面(右)出土土器



B地区 住居跡BH-6 床面出土石器・石製品

例 言

1. 本書は高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成19年度に実施した北斗市館野2遺跡A地区・B地区の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 調査は、第2調査部第2調査課が担当した。
3. 本書の執筆は、A地区全てとB地区の一部の遺構に関する事実記載については、各担当者が行い文末に記した。その他の部分の執筆、編集は立田 理が行なった。
4. 遺構図の作図は、皆川洋一、新家水奈、佐藤 剛、立田がそれぞれ担当し、立田が統括した。
5. 調査写真は上記各調査員が撮影し、遺物写真は第2調査部第1調査課中山昭大が担当した。
6. 本書の報告に関する遺物整理は立田が担当した。
7. 遺跡出土の炭化材樹種同定、炭化種実、動物遺存体同定は、バリノ・サーヴェイ株式会社、放射性炭素年代分析は株式会社加速器分析研究所に依頼し、報文をVI章に掲載した。
8. 調査にあたっては下記の諸機関、各氏から御指導、御協力をいただいた。

文化庁、北海道教育委員会、北斗市教育委員会、国土交通省北海道開発局函館開発建設部、株式会社荒井建設

(以下五十音順、敬称略)

青森県埋蔵文化財調査センター：齋藤 岳、青森市：鈴木克彦、厚沢部町教育委員会：石井淳平、今金町教育委員会：宮本雅通、今金町役場：寺崎康史、江別市教育委員会：佐藤一志、乙部町教育委員会：森 廣樹・藤田 巧、帯広百年記念館：山原敏朗、上ノ国町教育委員会：斉藤邦典・塚田直哉、木古内町教育委員会：木元 豊、北見市教育委員会：山田 哲、札幌市埋蔵文化財センター：仙庭伸久・秋山洋司・石井 淳・柏木大延、知内町教育委員会：高橋豊彦、伊達市噴火湾文化研究所：大島直行・青野友哉、室蘭市教育委員会：松田宏介、東京大学：佐藤宏之、特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団：坪井睦美、時田太郎、佐藤 稔、苫小牧市博物館：赤石慎三、七飯町教育委員会：山田 央、函館市立中央図書館：長谷部一弘、市立函館博物館：田原良信・佐藤智雄、函館市教育委員会：阿部千春・福田裕二・野村祐一・吉田 力、函館の歴史的風土を守る会：落合治彦、函館市北方民俗資料館：松崎水穂、北斗市教育委員会：森 靖裕、北海道考古学研究所：横山英介、松前城資料館：久保 泰、松前町教育委員会：前田正憲・佐藤雄生、森町教育委員会：高橋 毅、美幌博物館：八重柏 誠、八雲町郷土資料館：三浦孝一・柴田信一

記号等の説明

- 本文中および図、表中では以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付した。
H：竪穴住居址 P：土坑（墓とみられるものも含む） F：焼土 S：集石 SP：柱穴状小土坑 FC：フレイク・チップ集中域。さらに、各遺構は確認された地区のアルファベットを頭に付し、例えばBH-1などと呼称した。
- 遺構図の縮尺は原則として40分の1である。その他の縮尺を用いるものはスケールを付した。
- 遺構平面図の小数字は標高（単位m）を表している。
- 基本土層図、遺構の土層断面図に表記した数字は、標高（単位m）を示している。
- 基本土層はローマ数字、それ以外の土層はアラビア数字を用いて表した。
- 遺構の規模は、「確認面の長軸長×短軸長、床面（坑底面）の長軸長×短軸長／確認面からの最大深」を単位mで示してある。なお、一部破壊されているものは数値に（ ）を付した。
- 火山灰について以下の略号を用いている部分がある。これらは層位的な検出状況と外見から判断しており、分析による同定は行っていない。
Ko-d：駒ヶ岳d降下火山灰（1640年降下）、B-Tm：白頭山-苦小牧火山灰（10世紀降下）
- 掲載した実測図の縮尺は原則として以下のとおりである。これ以外の縮尺を用いる場合にはスケールを付した。
遺構 1：40 遺物出土状況 1：20 復元土器 1：4 土器拓本 1：2
剥片石器 1：2 礫石器 1：3（石皿については 1：4 としたものがある）
- 石器の大きさは「最大長×最大幅×最大厚」で記してある。なお、破損しているものについては、現存の最大幅を（ ）で示した。
- 遺構図で用いた方位は真北である。
- 遺物実測図中でたたき痕はV-V、すり痕は|—|で範囲を表した。また、自然面はドットで表現した。
- 土層注記について、基本層序の混入状況を説明するため、下記のようにあらわしたものがある。
A+B：AとBが等量混じる A>B：AにBが少量混じる A≧B：AにBが微量混じる
その他の使用したトーンに関しては、そのつど凡例を付してある。
- 遺構の図面のうち、遺物出土状況を表したものの一部に、以下のシンボルマークを使用した。
覆土出土 土器：○ 剥片石器、土・石製品：☆ 礫石器：△ フレイク、チップ：□ 礫：◎
床面出土 土器：● 剥片石器、土・石製品：★ 礫石器：▲ フレイク、チップ：■ 礫：×
- 文献の引用中、北海道埋蔵文化財センター発行調査報告書については、シリーズ名を略し、（北埋調報○○○）と記した。
- 石器の石材について、一覧表について以下の略号を用いた。
SS：砂岩、Sh：頁岩、S.Sh：珪質頁岩、S.W：珪化岩、Ob：黒曜石、Ch：チャート、Qua：珪岩、Ag：メノウ、MS：泥岩、Tu：凝灰岩、CM：礫岩、ST：シルト岩、Rh：流紋岩、Da：デイサイト、An：安山岩、Hb-An：角閃石安山岩、Px-An：輝石安山岩、Bs：玄武岩、Gra：花崗閃緑岩、Di：閃緑岩、Dol：粗粒玄武岩、Sl：粘板岩、G-Tu：緑色凝灰岩、Gls：藍閃石片岩、Grs：緑色片岩、Sc：片岩

目 次

口絵カラー	
例言	
記号等の説明	
目次	
挿図目次	
表目次	
図版目次	

I 章 調査の概要

1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	2
4 調査結果の概要	3
5 本書の内容	4

II 章 遺跡の立地と周辺の遺跡

1 遺跡周辺の地形と地質	5
(1) 地形概略	5
(2) 地形と地質	5
2 北斗市の遺跡	7
3 縄文時代の遺跡立地	14

III 章 調査の方法

1 館野2遺跡の地区区分について	15
2 濁水対策について	15
3 調査の方法	15
(1) 発掘区の設定	15
(2) 調査方法	17
(3) 遺物整理の方法	18
(4) 収納・保管	19
(5) 遺物の分類	19
(6) 基本層序	22

IV 章 館野2遺跡A地区の調査

1 調査結果の概要	25
(1) 概要	25
2 旧石器ブロック	27
3 縄文時代の遺構	30
(1) 遺構の概要	30
(2) 住居跡	30
(3) 土坑	32
(4) 焼土	41

4	包含層出土の遺物	46
	(1) 土器	46
	(2) 石器等	47
V章 館野2遺跡B地区の調査		
1	調査結果の概要	59
2	住居址	61
3	土坑 (BP)	109
4	焼土 (BF)・フレイク・チップ集中域 (BFC)	160
5	方形柱穴列	181
6	柱穴状小土坑	183
7	集石	195
8	包含層出土の遺物	202
	(1) 土器・土製品	202
	(2) 石器等	239
VI章 自然科学的分析		
1	分析・同定の目的と結果	287
2	館野2遺跡B地区における炭化材樹種同定	バリノ・サーヴェイ株式会社 287
3	館野2遺跡出土の炭化種実・動物遺存体同定	バリノ・サーヴェイ株式会社 289
4	館野2遺跡B地区における放射性炭素年代 (AMS測定)	加速器分析研究所株式会社 291
VII章 総括		
1	遺構について	297
	(1) 縄文時代中期前半から中期後半の住居跡について	297
	(2) 住居出土の炭化材について	298
2	遺物について	299
	(1) A地区出土の旧石器時代の遺物について	299
	(2) B地区出土のⅢ群b類土器の一群について	299
	(3) IV群a類土器について	301
	(4) 石鏃に付着するアスファルトとみられるものについて	301
	(5) 花崗閃緑岩製石斧について	303
	(6) 円形・三角形礫石器について	306
引用・参考文献		
写真図版		

挿図目次

図Ⅱ-1	遺跡の位置	6	図V-2-17	BH-6 (3)	82
図Ⅱ-2	北斗市の遺跡	8	図V-2-18	BH-6 (4)	83
図Ⅱ-3	周辺の遺跡	9	図V-2-19	BH-6 出土の土器 (1)	85
図Ⅲ-1	調査区周辺図	16	図V-2-20	BH-6 出土の土器 (2)	86
図Ⅲ-2	濁水処理施設計画図	17	図V-2-21	BH-6 出土の土器 (3)	87
図Ⅲ-3	グリッド設定図	18	図V-2-22	BH-6 出土の土器 (4)	88
図Ⅲ-4	基本土層	23	図V-2-23	BH-6 出土の土器 (5)	89
図Ⅳ-1	A地区遺構配置図	26	図V-2-24	BH-6 出土の土器 (6)	90
図Ⅳ-2	旧石器ブロック1 (1)	28	図V-2-25	BH-6 出土の石器等 (1)	91
図Ⅳ-3	旧石器ブロック1 (2)	29	図V-2-26	BH-6 出土の石器等 (2)	92
図Ⅳ-4	AH-1	31	図V-2-27	BH-6 出土の石器等 (3)	93
図Ⅳ-5	土坑 (1)	33	図V-2-28	BH-7 (1)	94
図Ⅳ-6	土坑 (2)	36	図V-2-29	BH-7 (2)	95
図Ⅳ-7	土坑 (3)	38	図V-2-30	BH-8 (1)	98
図Ⅳ-8	土坑 (4)	40	図V-2-31	BH-8 (2)	99
図Ⅳ-9	焼土	42	図V-2-32	BH-9・BH-11	101
図Ⅳ-10	土坑出土の遺物 (1)	43	図V-2-33	BH-9 出土の土器	102
図Ⅳ-11	土坑出土の遺物 (2)	44	図V-2-34	BH-9 出土の石器	103
図Ⅳ-12	土坑出土の遺物 (3)・焼土 出土の遺物	45	図V-2-35	BH-11 出土の遺物	104
図Ⅳ-13	包含層出土の土器 (1)	48	図V-2-36	BH-10	106
図Ⅳ-14	包含層出土の土器 (2)	49	図V-2-37	BH-12	107
図Ⅳ-15	包含層出土の石器等 (1)	51	図V-3-1	土坑 (1)	110
図Ⅳ-16	包含層出土の石器等 (2)	52	図V-3-2	土坑 (2)	114
図Ⅳ-17	包含層出土の石器等 (3)	53	図V-3-3	土坑 (3)	117
図Ⅳ-18	グリッド別点数 (1)	54	図V-3-4	土坑 (4)	120
図Ⅳ-19	グリッド別点数 (2)	55	図V-3-5	土坑 (5)	123
図V-1-1	B地区遺構配置図	60	図V-3-6	土坑 (6)	126
図V-2-1	BH-1 (1)	62	図V-3-7	土坑 (7)	130
図V-2-2	BH-1 (2)	63	図V-3-8	土坑 (8)	132
図V-2-3	BH-2	65	図V-3-9	土坑 (9)	135
図V-2-4	BH-3 (1)	67	図V-3-10	土坑 (10)	140
図V-2-5	BH-3 (2)	68	図V-3-11	土坑 (11)	143
図V-2-6	BH-3 (3)	69	図V-3-13	土坑 (13)	147
図V-2-7	BH-3 (4)	70	図V-3-14	土坑 (14)	149
図V-2-8	BH-3 (5)	71	図V-3-15	土坑 (15)	153
図V-2-9	BH-3 (6)	72	図V-3-16	土坑出土の遺物 (1)	154
図V-2-10	BH-3 (7)	73	図V-3-17	土坑出土の遺物 (2)	155
図V-2-11	BH-4 (1)	74	図V-3-18	土坑出土の遺物 (3)	156
図V-2-12	BH-4 (2)	75	図V-3-19	土坑出土の遺物 (4)	157
図V-2-13	BH-5 (1)	76	図V-3-20	土坑出土の遺物 (5)	158
図V-2-14	BH-5 (2)	77	図V-3-21	土坑出土の遺物 (6)	159
図V-2-15	BH-6 (1)	79	図V-4-1	焼土 (1)	162
図V-2-16	BH-6 (2)	80	図V-4-2	焼土 (2)	165
			図V-4-3	焼土 (3)	168

図V-4-4	焼土(4)……………	171	図V-7-17	包含層出土の土器(17)……	226
図V-4-5	焼土(5)・フレイクチップ 集中域……………	174	図V-7-18	包含層出土の土器(18)……	227
図V-4-6	焼土出土の遺物(1)……………	175	図V-7-19	包含層出土の土器(19)……	228
図V-4-7	焼土出土の遺物(2)……………	176	図V-7-20	包含層出土の土器(20)……	229
図V-4-8	焼土出土の遺物(3)……………	177	図V-7-21	包含層出土の土器(21)……	230
図V-4-9	焼土出土の遺物(4)……………	178	図V-7-22	包含層出土の土器(22)……	231
図V-4-10	焼土出土の遺物(5)……………	179	図V-7-23	包含層出土の土器(23)……	232
図V-4-11	焼土出土の遺物(6)……………	180	図V-7-24	包含層出土の土器(24)……	233
図V-4-12	焼土出土の遺物(7)・ フレイクチップ集中域出土 の遺物……………	181	図V-7-25	包含層出土の土器(25)……	234
図V-5-1	方形柱六列……………	182	図V-7-26	包含層出土の土器(26)……	235
図V-5-2	柱穴状小土坑配置図……………	184	図V-7-27	包含層出土の土器(27)……	236
図V-5-3	柱穴状小土坑(1)……………	188	図V-7-28	包含層出土の土器(28)・ 土製品(1)……………	237
図V-5-4	柱穴状小土坑(2)……………	189	図V-7-29	包含層出土の土製品(2)…	238
図V-5-5	柱穴状小土坑(3)……………	190	図V-7-30	包含層出土の石器(1)……	241
図V-5-6	柱穴状小土坑出土の 遺物(1)……………	191	図V-7-31	包含層出土の石器(2)……	244
図V-5-7	柱穴状小土坑出土の 遺物(2)……………	192	図V-7-32	包含層出土の石器(3)……	245
図V-5-8	柱穴状小土坑出土の 遺物(3)……………	193	図V-7-33	包含層出土の石器(4)……	246
図V-5-9	柱穴状小土坑出土の 遺物(4)……………	194	図V-7-34	包含層出土の石器(5)……	247
図V-6-1	集石(1)……………	196	図V-7-35	包含層出土の石器(6)……	248
図V-6-2	集石(BS-4)・ Ⅲ層遺物集中……………	197	図V-7-36	包含層出土の石器(7)……	249
図V-6-3	集石出土の遺物(1)……………	200	図V-7-37	包含層出土の石器(8)……	250
図V-6-4	集石出土の遺物(2)……………	201	図V-7-38	包含層出土の石器(9)……	252
図V-7-1	包含層出土の土器(1)……	204	図V-7-39	包含層出土の石器(10)……	254
図V-7-2	包含層出土の土器(2)……	205	図V-7-40	包含層出土の石器(11)……	255
図V-7-3	包含層出土の土器(3)……	206	図V-7-41	包含層出土の石器(12)……	256
図V-7-4	包含層出土の土器(4)……	208	図V-7-42	包含層出土の石器(13)・ 石製品(1)……………	257
図V-7-5	包含層出土の土器(5)……	210	図V-7-43	包含層出土の石製品(2)…	258
図V-7-6	包含層出土の土器(6)……	211	図V-7-44	グリッド別点数(1)……	259
図V-7-7	包含層出土の土器(7)……	212	図V-7-45	グリッド別点数(2)……	260
図V-7-8	包含層出土の土器(8)……	213	図V-7-46	グリッド別点数(3)……	261
図V-7-9	包含層出土の土器(9)……	214	図V-7-47	グリッド別点数(4)……	262
図V-7-10	包含層出土の土器(10)……	215	図VI-1	暦年校正グラフ(1)……	295
図V-7-11	包含層出土の土器(11)……	218	図VI-2	暦年校正グラフ(2)……	296
図V-7-12	包含層出土の土器(12)……	219	図VII-1	BH-4周辺の掲載Ⅲ群土器と 周辺の資料……………	300
図V-7-13	包含層出土の土器(13)……	220	図VII-2	館野2遺跡B地区IV群a類沈線文 土器……………	302
図V-7-14	包含層出土の土器(14)……	223	図VII-3	アスファルト様黒色付着物のある 石鏃……………	303
図V-7-15	包含層出土の土器(15)……	224	図VII-4	花崗閃緑岩製石斧の分布……………	304
図V-7-16	包含層出土の土器(16)……	225	図VII-5	尻屋崎花崗閃緑岩と南北海道の 閃緑岩類……………	305
			図VII-6	「岩版」類の分布……………	306

表 目 次

表 I - 1	館野 2 遺跡年度別調査面積一覧	3
表 I - 2	館野 2 遺跡年度別検出遺構一覧	3
表 II - 1	北斗市遺跡一覧	12
表 IV - 1	A 地区検出遺構一覧	25
表 IV - 2	A 地区出土遺物点数一覧	25
表 IV - 3	A 地区遺構一覧	56
表 IV - 4	A 地区遺構別出土遺物一覧	56
表 IV - 5	A 地区掲載土器一覧 (復元土器)	57
表 IV - 6	A 地区掲載土器一覧 (拓本土器)	57
表 IV - 7	A 地区掲載石器一覧	58
表 V - 1	B 地区検出遺構一覧	59
表 V - 2	B 地区出土遺物点数一覧	59
表 V - 3 - 1	方形柱穴列一覧	182
表 V - 3 - 2	柱穴状小土坑一覧	186
表 V - 4	B 地区遺構一覧	263
表 V - 5	B 地区遺構別出土遺物一覧	265
表 V - 6	B 地区遺構別出土掲載土器一覧 (復元土器)	267
表 V - 7	B 地区遺構別出土掲載土器一覧 (拓本土器)	269
表 V - 8	B 地区遺構別出土掲載石器一覧	272
表 V - 9	B 地区包含層出土掲載土器一覧 (復元土器)	274
表 V - 10	B 地区包含層出土掲載土器一覧 (拓本土器)	279
表 V - 11	B 地区包含層出土掲載石器一覧	285
表 VI - 1	館野 2 遺跡の樹種同定結果	288
表 VI - 2	館野 2 遺跡出土骨同定結果	291
表 VI - 3	放射性炭素年代測定結果 (補正值)	293
表 VI - 4	放射性年代測定結果 (未補正值)	294
表 VII - 1	道南地域における縄文時代中期住居の樹種同定結果一覧	298
表 VII - 2	「岩版」類の石材	306

図版目次

- 口絵カラー
- 図版1 調査風景 (濁水処理施設、沈砂池部分)
調査風景 (拡張部分)
- 図版2 調査終了状況
調査終了状況
- 図版3 旧石器調査風景
旧石器遺物出土状況
- 図版4 旧石器調査範囲調査終了状況
旧石器調査範囲土層断面
細石刃出土状況
彫器出土状況
削器出土状況
- 図版5 旧石器 1～13
接合資料
旧石器 5～7
- 図版6 AH-1 全景
AH-1 土層断面
AH-1 AF-1
AH-1 SP-1 土層断面
- 図版7 AP-1 土層断面
AP-2 土層断面
AP-3 土層断面
AP-4 全景
AP-5 土層断面
AP-6 土層断面
- 図版8 AP-7 土層断面
AP-8 土層断面
AP-8 遺物出土状況
AP-8 遺物出土状況 (2)
AP-9 土層断面
AP-10 土層断面
- 図版9 AP-11 全景
AP-12 全景
AP-13 土層断面
AP-14 土層断面
AP-14 全景
AP-15 全景
- 図版10 AF-1 検出状況
AF-2 土層断面
AF-3 検出状況
AF-4 土層断面
- 図版11 A地区遺構出土遺物
AP-4出土復元土器
AP-5出土復元土器
- 図版12 AP-8出土復元土器
AP-8出土復元土器
AP-14出土拓本土器
A地区土坑・焼土出土拓本土器
- 図版13 A地区包含層出土土器 (1)
- 図版14 A地区包含層出土土器 (2)
- 図版15 A地区包含層出土土器 (3)
A地区包含層出土土器 (1)
- 図版16 A地区包含層出土土器 (2)
- 図版17 調査風景
調査風景
- 図版18 濁水処理施設部分調査状況
調査風景
調査風景
メインセクション
- 図版19 調査終了状況
調査終了状況
- 図版20 BH-1 全景
BH-1 HP・HF-1
BH-1 HP-1
BH-2 南半全景
BH-2 北半全景
BH-2 土層断面
BH-1 全景
- 図版21 BH-3 調査風景
BH-3 全景
- 図版22 BH-3 土層断面
BH-3 土層断面
BH-3 床面遺物出土状況
BH-3 床面遺物出土状況
BH-3 HP-1
BH-3 HF-3
- 図版23 BH-4 全景
BH-4 土層断面
BH-4 HP-1
BH-4 床面遺物出土状況
BH-4 床面遺物出土状況
- 図版24 BH-5 全景
BH-5 床面遺物出土状況
BH-5 土層断面
BH-5 HP-1・2 全景
- 図版25 BH-6 全景
BH-6 土層断面
- 図版26 BH-6 HP-3 土層断面

	BH-6	炭化材出土状況			BP-24	土層断面
	BH-6	HF-1 土層断面	図版36		BP-25	土層断面
	BH-6	遺物出土状況			BP-26	土層断面
	BH-6	遺物出土状況			BP-26・27	全景
	BH-6	遺物出土状況	図版37		BP-28	全景
図版27	BH-7・BH-12				BP-29	土層断面
	BH-7	土層断面			BP-30	土層断面
	BH-7	南半全景			BP-31	全景
	BH-8	全景			BP-32	土層断面
図版28	BH-9	全景			BP-33	土層断面
	BH-9・11	土層断面	図版38		BP-34	土層断面
	BH-9	HF-1			BP-35・36	土層断面
	BH-9	HF-1 土層断面			BP-37	土層断面
図版29	BH-10	全景			BP-38	全景
	BH-10	全景			BP-39	土層断面
	BH-10	床面遺物出土状況			BP-40	土層断面
図版30	BH-11		図版39		BP-41・42, BSP-36・37	全景
	BH-11・HF-1	部分土層断面			BP-42	土層断面
	BH-11・HP-1	土層断面			BP-43	全景
	BH-11・HP-1	全景			BP-44	土層断面
図版31	BH-12				BP-45・46	全景
	BH-12	床面遺物出土状況			BP-47	土層断面
	BH-7・BH-12		図版40		BP-48	土層断面
図版32	BP-1	全景			BP-49	土層断面
	BP-2	土層断面			BP-50	土層断面
	BP-2	全景			BP-51	土層断面
	BP-3	全景			BP-52	土層断面
	BP-5	土層断面			BP-53	検出
	BP-6	土層断面	図版41		BP-54	土層断面
図版33	BP-7	全景			BP-54・56・57	全景
	BP-9	土層断面			BP-55	土層断面
	BP-10	土層断面			BP-56	土層断面
	BP-10	全景			BP-57	土層断面
	BP-12	土層断面			BP-58	土層断面
	BP-13	土層断面	図版42		BP-59	土層断面
図版34	BP-13	全景			BP-60・68, BSP-78	全景
	BP-14	全景			BP-61	土層断面
	BP-15	土層断面			BP-62	土層断面
	BP-16	土層断面			BP-63	土層断面
	BP-17	土層断面			BP-64	全景
	BP-18	遺物出土状況	図版43		BP-65	全景
図版35	BP-19	土層断面			BP-66	全景
	BP-20	全景			BP-67	全景
	BP-21	土層断面			BP-68・69	土層断面
	BP-22	全景			BP-68・69	全景
	BP-23	土層断面			BP-70	土層断面

図版44	BP-71 土層断面	BF-29 土層断面	
	BP-72 土層断面	BF-30 土層断面	図版52
	BP-73 全景	BF-31 土層断面	
	BP-74 土層断面	BFC-1 検出	
	BP-75 土層断面	BSP-32 土層断面	
	BP-76 全景	BSP-34 土層断面	
図版45	BP-77 土層断面	BSP-35 遺物出土状況・土層断面	
	BP-78 全景	図版53	
	BP-79 土層断面	BSP-38 遺物出土状況	
	BP-80 土層断面	BSP-39 遺物出土状況	
	BP-81 土層断面	BSP-40 検出状況	
	BP-82 全景	BSP-40 遺物出土状況	
図版46	BP-83 全景	BSP-46 遺物出土状況	
	BP-84 全景・遺物出土状況	BSP-47 遺物出土状況	図版54
	BP-85 全景	BSP-66 土層断面	
	BP-86 全景	BSP-14 土層断面	
	BP-89 全景	BSP-70 (方形柱穴列1)	
図版47	BF-1 土層断面	BSP-71 (方形柱穴列1)	
	BF-2 土層断面	BSP-72 (方形柱穴列1)	
	BF-3 検出	BSP-73 (方形柱穴列1)	
	BF-4 土層断面	図版55	
	BF-5 土層断面	BS-1 検出	
	BF-6 検出	BS-2 検出	
図版48	BF-7 土層断面	BS-3 検出	
	BF-8 土層断面	BS-4と周辺の遺物出土状況	
	BF-9 土層断面	図版56	
	BF-10 検出	BS-4と周辺の遺物出土状況	
	BF-10 土層断面	BS-5 検出	
	BF-11 土層断面	BS-6 検出	
図版49	BF-12 土層断面	BS-7 検出	
	BF-13 土層断面	BS-8 検出	
	BF-14 土層断面	図版57	
	BF-15 土層断面	BS-9 検出	
	BF-16 検出	BS-10 検出	
	BF-17 土層断面	BS-11 検出	
図版50	BF-18 検出	BS-12 検出	
	BF-19 検出	BS-13 検出	
	BF-20・21 検出	図版58	
	BF-22・25 検出	遺物集中検出状況	
	BF-22・25 土層断面	遺物集中検出状況	
図版51	BF-23 検出	遺物集中No.28検出状況	
	BF-24 土層断面	Ⅲ層遺物出土状況	
	BF-25 検出	遺物集中No.40検出状況	
	BF-26 検出	図版59	
	BF-27 土層断面	BH-1・2出土拓本土器	
	BF-28 土層断面	BH-3出土復元土器	
		BH-3出土復元土器	
		図版60	
		BH-3出土拓本土器(1)	
		図版61	
		BH-3出土拓本土器(2)・	
		BH-4出土拓本土器	
		BH-4出土復元土器	
		BH-4出土拓本土器(1)	

	BH-4 出土拓本土器 (2)		BH-1 出土の礫石器
	BH-5 出土復元土器	図版78	BH-2 出土の礫石器
図版62	BH-6 出土復元土器 (1)		BH-3 出土の剥片石器
	BH-6 出土復元土器 (2)		BH-3 出土の礫石器
	BH-6 出土復元土器 (3)		BH-4・5 出土の剥片石器
	BH-6 出土復元土器 (4)		BH-5 出土の礫石器
	BH-6 出土復元土器 (5)	図版80	BH-6 出土の石鏃
図版63	BH-6 出土復元土器 (6)		BH-6 出土の剥片石器
	BH-6 出土復元土器 (7)		BH-6 出土の土製品・石製品
	BH-6 出土復元土器 (8)	図版81	BH-6 出土の石斧・石のみ
	BH-6 出土復元土器 (9)		BH-6 出土の礫石器
	BH-6 出土拓本土器 (1)	図版82	BH-7~11 出土の剥片石器・石製品
図版64	BH-6 出土拓本土器 (2)		BH-8・9・11・12 出土の石斧・礫石器
図版65	BH-6 出土拓本土器 (3)	図版83	B 地区土坑・焼土出土の剥片石器・石製品
	BH-7 出土土器		B 地区土坑出土の礫石器 (1)
図版66	BH-8 出土復元土器 (1)	図版84	B 地区土坑出土の礫石器 (2)
	BH-8 出土復元土器 (2)		B 地区焼土・BFC・柱穴状小土坑・集石出土の礫石器
	BH-9 出土拓本土器 (1)		B 地区焼土・集石出土の石皿
図版67	BH-9 出土復元土器	図版85	B 地区焼土出土の石皿 (1)
	BH-12 出土復元土器		B 地区焼土出土の石皿 (2)
	BH-9 出土拓本土器 (2)・		B 地区柱穴状小土坑出土の石皿
	BH-10・11・12 出土拓本土器	図版86	B 地区集石出土の石皿 (2)
図版68	B 地区土坑出土の拓本土器 (1)		B 地区集石出土の石皿 (3)
	B 地区土坑出土の復元土器 (1)		B 地区包含層出土の復元土器 (1)
	B 地区土坑出土の復元土器 (2)		B 地区包含層出土の復元土器 (2)
	B 地区土坑出土の拓本土器 (2)		B 地区包含層出土の復元土器 (3)
図版69	B 地区土坑出土の拓本土器 (3)	図版87	B 地区包含層出土の復元土器 (4)
	B 地区土坑出土の復元土器 (3)		B 地区包含層出土の復元土器 (5)
	B 地区土坑出土の拓本土器 (4)		B 地区包含層出土の復元土器 (6)
	B 地区焼土出土の拓本土器 (1)		B 地区包含層出土の復元土器 (7)
図版71	B 地区焼土出土の拓本土器 (2)	図版88	B 地区包含層出土の復元土器 (8)
	B 地区焼土出土の復元土器 (1)		B 地区包含層出土の復元土器 (9)
	B 地区焼土出土の復元土器 (2)		B 地区包含層出土の復元土器 (10)
図版72	B 地区焼土出土の拓本土器 (3)		B 地区包含層出土の復元土器 (11)
図版73	B 地区焼土出土の拓本土器 (4)		B 地区包含層出土の復元土器 (12)
図版74	B 地区焼土出土の復元土器 (3)		B 地区包含層出土の復元土器 (13)
	B 地区焼土出土の復元土器 (4)		B 地区包含層出土の復元土器 (14)
	B 地区柱穴状小土坑出土の復元土器 (1)	図版89	B 地区包含層出土の復元土器 (15)
	B 地区柱穴状小土坑出土の復元土器 (2)		B 地区包含層出土の復元土器 (16)
図版75	B 地区焼土・BFC 出土の拓本土器		B 地区包含層出土の復元土器 (17)
	B 地区柱穴状小土坑出土の復元土器 (3)		B 地区包含層出土の復元土器 (18)
	B 地区柱穴状小土坑出土の拓本土器 (1)	図版90	B 地区包含層出土の復元土器 (19)
図版76	B 地区柱穴状小土坑出土の拓本土器 (2)		B 地区包含層出土の復元土器 (20)
図版77	B 地区柱穴状小土坑・集石出土の拓本土器		
	BH-1 出土の剥片石器		

- B地区包含層出土の復元土器 (21)
- B地区包含層出土の復元土器 (22)
- B地区包含層出土の復元土器 (23)
- 図版91 B地区包含層出土の復元土器 (24)
- B地区包含層出土の復元土器 (25)
- B地区包含層出土の復元土器 (26)
- B地区包含層出土の復元土器 (27)
- B地区包含層出土の復元土器 (28)
- B地区包含層出土の復元土器 (29)
- B地区包含層出土の復元土器 (30)
- 図版92 B地区包含層出土の復元土器 (31)
- B地区包含層出土の復元土器 (32)
- B地区包含層出土の復元土器 (33)
- B地区包含層出土の復元土器 (34)
- B地区包含層出土の復元土器 (35)
- B地区包含層出土の復元土器 (36)
- B地区包含層出土の復元土器 (37)
- 図版93 B地区包含層出土の復元土器 (38)
- B地区包含層出土の復元土器 (39)
- B地区包含層出土の復元土器 (40)
- B地区包含層出土の復元土器 (41)
- B地区包含層出土の復元土器 (42)
- B地区包含層出土の復元土器 (43)
- B地区包含層出土の石製品 (1)
- 図版94 B地区包含層出土拓本土器 (1)
- 図版95 B地区包含層出土拓本土器 (2)
- 図版96 B地区包含層出土拓本土器 (3)
- 図版97 B地区包含層出土拓本土器 (4)
- 図版98 B地区包含層出土拓本土器 (5)
- 図版99 B地区包含層出土拓本土器 (6)
- 図版100 B地区包含層出土拓本土器 (7)
- 図版101 B地区包含層出土拓本土器 (8)
- 図版102 B地区包含層出土拓本土器 (9)
- 図版103 B地区包含層出土拓本土器 (10)
- 図版104 B地区包含層出土拓本土器 (11)
- 図版105 B地区包含層出土拓本土器 (12)
- 図版106 B地区包含層出土拓本土器 (13)
- 図版107 B地区包含層出土拓本土器 (14)
- 図版108 B地区包含層出土拓本土器 (15)
- 図版109 B地区包含層出土拓本土器 (16)
- 図版110 B地区包含層出土拓本土器 (17)
- 図版111 B地区包含層出土拓本土器 (18)
- 図版112 B地区包含層出土拓本土器 (19)
- 図版113 B地区包含層出土拓本土器 (20)
- 図版114 B地区包含層出土拓本土器 (21)・
土製品 (1)
- 図版115 B地区包含層出土土製品 (2)
- B地区包含層出土剥片石器 (1)
- 図版116 B地区包含層出土剥片石器 (2)
- 図版117 B地区包含層出土剥片石器 (3)
- 図版118 B地区包含層出土剥片石器 (4)
- 図版119 B地区包含層出土石斧
- B地区包含層出土礫石器 (1)
- 図版120 B地区包含層出土礫石器 (2)
- B地区包含層出土礫石器 (3)
- 図版121 B地区包含層出土礫石器 (4)
- B地区包含層出土礫石器 (5)・
石製品 (2)
- 図版122 BH-6床面出土石器

I 章 調査の概要

1 調査要項

事業名	高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査
事業委託者	国土交通省北海道開発局函館開発建設部
事業受託者	財団法人 北海道埋蔵文化財センター
現地調査期間	平成19年5月7日～平成19年11月2日
整理期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日 平成23年4月1日～平成24年3月31日
遺跡名	館野2遺跡（道教委登録番号 B-06-35）
所在地	北海道北斗市館野30-1外
調査面積	A地区 953㎡ B地区 3,406㎡

2 調査体制

（平成19年度）

理事長	森重 楯一
専務理事	佐藤 俊和
常務理事	畑 宏明
第2調査部長	西田 茂
第2調査課 課長	佐川 俊一 （発掘担当者）
主査	皆川 洋一 （発掘担当者）
主任	新家 水奈
主任	佐藤 剛
主任	立田 理 （発掘担当者）
普及活用課 主査	立川トマス （平成19年8月21日～11月2日）

（平成22年度）

理事長	坂本 均
専務理事	松本 昭一
常務理事	畑 宏明
第2調査部長	西田 茂
第2調査課 課長	佐川 俊一
主査	皆川 洋一
主査	袖岡 淳子
主任	富永 勝也
主任	佐藤 剛
主任	立田 理

（平成23年度）

理事長	坂本 均
専務理事	松本 昭一
常務理事	畑 宏明
第1調査部長	千葉 英一
第3調査課 課長	土肥 研晶
主査	皆川 洋一
主査	袖岡 淳子
主査	阿部 昭義
主査	佐藤 剛
主任	富永 勝也

3 調査に至る経緯

(1) 調査に至る経緯

高規格幹線道路「函館江差自動車道」は、函館インターチェンジ（以下ICとする）から北斗市・木古内町・上ノ国町を經由し、江差町に至る延長約70kmの自動車専用道路である。完成すると北海道縦貫自動車道、函館新道と接続し道央圏と道南圏を結ぶ高規格幹線道路となる。

この函館江差自動車道に関わる埋蔵文化財調査の経緯は以下のとおりである。

平成6年4月、北海道開発局函館開発建設部（現：国土交通省北海道開発局函館開発建設部）から、北海道教育委員会に埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについての事前協議書が提出された。これを受け、北海道教育委員会は同年より所在調査と試掘調査を開始した。

平成23年4月現在、発掘調査を行なった、または今後行なう予定の遺跡は北斗市内であわせて13か所である。遺跡は北から押上1遺跡、館野遺跡、館野4遺跡、館野2遺跡、館野6遺跡、矢不來6遺跡、矢不來11遺跡、矢不來10遺跡、矢不來9遺跡、矢不來8遺跡、矢不來7遺跡、茂辺地4遺跡、当別川左岸遺跡である。これらのうち茂辺地4遺跡、当別川左岸遺跡、押上1遺跡を除く10遺跡については、発掘調査を終了している。

館野2遺跡における範囲確認調査は、平成15年11月、平成16年4月の2度にわたって行なわれている。前者は上磯町（現北斗市）教育委員会が7地点、後者は北海道教育委員会が16地点の試掘調査を行なった。その結果試掘調査した全範囲について発掘調査が必要と判断された。

館野2遺跡は昭和55年、北海道教育庁文化課と上磯町教育委員会により調査が行なわれ、調査の結果、住居跡が5軒と焼土1か所が検出されている。出土遺物は縄文時代中期前半円筒土器上層B式から中期後半大安在B式までのものが大半を占め、ほかに縄文時代早期後半、後期前葉の土器も少量出土している（上磯町1981）。

平成19年度の函館茂辺地道路にかかわる発掘調査は、館野2遺跡と矢不來9遺跡の2か所について行なう計画がなされていた。調査期間は館野2遺跡が5月15日から10月31日までの約6か月、矢不來9遺跡は8月20日から10月31日までの約3か月間である。

その後、8月20日付けで函館開発建設部函館道路事務所長から北海道教育委員会教育長あてに追加調査の依頼があった。その内容は、矢不來地区において付加車線の増設が決定したため、これまで暫定2車線で調査を実施してきた矢不來6・8・11遺跡の付加車線部分についての調査を要請するというものである。なお、追加分については館野2遺跡の調査面積減で振り替えるとのことであった。これに対して、北海道教育委員会と財団法人北海道埋蔵文化財センターは、館野2遺跡の調査面積を減ずれば、矢不來6遺跡と矢不來11遺跡の対応は可能、矢不來8遺跡については、矢不來9遺跡の調査状況をみて判断するとし、道路事務所の要請に応じた。9月から矢不來6遺跡と矢不來11遺跡の調査を開始し、10月末には終了した。なお、矢不來8遺跡に関しては、矢不來9遺跡の作業人工を一部館野2遺跡の調査に振り替えたため、平成19年度に調査することはできなかった。

館野2遺跡の調査は地形を単位としてA、B、C地区の合計3つに分けて調査している。昭和55年の調査を含めた呼称の経緯についてはⅢ章にて述べる。

北側にあたるA地区においては、遺構が調査区外に広がっていることから、北側に調査区を拡張した。経緯は以下のとおりである。

6月下旬に至り調査範囲の北西端で土坑が1基検出された。調査区外北側に延びる伐採木搬出のための作業道路の壁面に遺構断面とみられる部分があることが確認された。これらのことから、遺構分布は工事用地内ではあるが調査区外である北側の段丘に広がるものと判断された。

北海道教育委員会文化・スポーツ課はこれを受け、7月5、6日に試掘調査を実施した。この結果、A地区の北側約100mを拡張して調査することになった。

この結果平成19年度の調査遺跡における面積、期間は結果以下のようになった。

- ・館野2遺跡 A地区 (953㎡) 5月30日～7月27日
- B地区 (3,406㎡) 5月15日～10月19日
- C地区 (2,231㎡) 5月22日～10月31日
- ・矢不來9遺跡 (2,030㎡) 8月1日～10月31日
- ・矢不來6遺跡 (587㎡) 9月7日～10月31日
- ・矢不來11遺跡 (246㎡) 9月7日～10月31日

4 調査結果の概要

館野2遺跡の発掘調査は平成19・20年度の2か年にわたり行ない、各年度の調査面積、検出遺構数、遺物出土点数は次表のとおりである(表1-1、2)。

表1-1 館野2遺跡年度別調査面積一覧

地 区	A地区	B地区	C地区	計 (㎡)
平成19年度	953	3,406	2,231	6,590
平成20年度	0	0	2,076	2,076
総 計	953	3,406	4,307	8,666

表1-2 館野2遺跡年度別検出遺構一覧

遺構種別	住居跡	土坑	焼土	集石	小ピット	遺物点数
A地区	1	15	4	0	0	2,986
B地区	12	87	32	13	85	110,430
C地区 (平成19年度)	46	153	92	5	30	集計中
C地区 (平成20年度)	47	121	70	6	33	
総 計	106	386	198	24	148	

A地区の調査は平成19年度のみ行なった。旧石器時代の遺物が13点出土している。縄文時代の遺構は住居跡1軒、土坑15基、焼土4か所を検出している。遺物は縄文時代中期前半円筒土器上層式からサイベ沢Ⅶ式、縄文時代後期前葉大津式の土器と、それに伴う石器等が出土している。

B地区の調査は平成19年度のみ行なった。検出した遺構は住居跡12軒、土坑87基、焼土32か所、集石13か所、柱穴状の小土坑85基である。出土した遺物は縄文時代中期前半、円筒土器上層式から見晴町式、中期中葉榎林式、ノダツⅡ式、縄文時代後期前葉の涌元式～トリサキ式、大津～白坂3式のものが多く出土し、伴うとみられる石器等が出土している。

C地区は平成19年と20年度の2か年にわたって調査を行なった。調査により遺構は、住居跡93軒、土坑274基、焼土162か所、集石11か所、柱穴状の小土坑63基検出している。出土遺物は縄文時代中期前葉円筒土器上層Ⅱ式～サイベ沢Ⅶ式、縄文時代中期中葉大安在B式の土器とそれに伴う石器群が出土している。遺構の時期も当該期のものが多いと推測される。C地区は平成23年4月現在整理作業中であり、平成25年度に報告書を刊行する予定である。

5 本書の内容

これらの調査結果のうち、本書では館野2遺跡A地区、B地区の調査結果を報告するものである。本書においては、第Ⅱ章で遺跡の所在する北斗市の遺跡について、および遺跡周辺の地形、地質について述べる。第Ⅲ章においては調査の方法について、Ⅳ章ではA地区で検出された遺構と出土した遺物について述べ、第Ⅴ章ではB地区において検出された遺構と出土した遺物について、第Ⅵ章では自然科学的分析の結果をまとめ、第Ⅶ章では調査結果から遺跡についての考察を行う。

II章 遺跡の立地と周辺の遺跡

1 遺跡周辺の地形と地質

(1) 地形概略

北斗市は北海道南西部、渡島地方の南部中央に位置する。平成18年(2006年)2月1日、旧大野町と旧上磯町が町村合併したことにより、総面積397.31km²の新たな市となった。その範囲は、北は茅部郡森町、北西は松山郡厚沢部町、東北東は亀田郡七飯町、南西を上磯郡木古内町、東は函館市と接し、東南は津軽海峡に面している(図II-1、2)。

地形は平野部、海岸の段丘部、丘陵部、山地からなっている。山地、丘陵は北西から西部にかけて広がり、大野川上流域の三角山(860.5m)を最高峰に、ついで二股岳(825.6m)、三九郎山(817m)などから構成されている。木地挽山(684m)の山頂は七飯町と、弥五兵衛岳(649.9m)、二股岳、三九郎山と南方に延びる無名の山頂を結んだ分水嶺は、そのまま森町、厚沢部町との行政区画となっている。市内で最も南に位置する丸山(482.3m)の山頂は木古内町との境界である。

平野部は東部に広がり、函館平野の西側を大きく占める。平野の中央を流れる久根別川を概ね境とし、七飯町、函館市と接している。段丘は南部にあたる館野～三ツ石地区に広がり、海岸線に沿って発達している。市内を流れる河川は、南から大当別川、当別川、茂辺地川、流溪川、宗山川、戸切地川、大野川、久根別川である。全ての河川が、北西の山地から南東に向かって流れ、函館湾に注いでいる。

(2) 地形と地質

北斗市周辺の地質については、5万分の1の地質図幅が刊行されている(北海道立地下資源調査所1965・1966、工業技術院地質調査所1975・1979)。以下これらを元に、北斗市の地質について説明する。岩石名の呼称などは、年次の新しいものに極力そろえた。

北斗市を構成する地質の中で最も古いものは、上磯層群と呼ばれる中生代(1億数千年前)の地層である。この地層は市の北部、ちょうど旧上磯と大野の町境付近に北西～南東方向に細長くひろがっており、主部岩相と石灰岩相に分かれている。主部岩相は、黒色粘板岩、硬質砂岩、灰白色および淡緑色の珪質岩、輝緑凝灰岩などから構成されている。石灰岩相は戸切地川中流の釜川境付近から、南の水無川上流地域にかけ、一つのまとまった大きな岩体として発達している。なお、石灰岩は、明治5年(1872)地質師として日本政府に招かれたライマンの地図にも現れており、明治期からセメントの原料として利用され現在でも採掘が続けられている。

上磯層群の堆積の後、次の堆積がみられるのは新世代第三紀中新世(1,500～1,600万年前)のこととなる。この時期は日本海の形成と後続して海底火山の活動が活発化し、吹き上げた火山灰は海底で厚い層となった。こうしてできたのが緑色凝灰岩(グリーンタフ)である。この時代に相当する市内の堆積物は戸切地川層と戸田川層、そして茂辺地川層である。戸切地川層と戸田川層は大野川の上流域から細小又沢川の南北に渡り細長く分布がみられる。構成岩石は、戸切地川層が礫岩および粗粒ないし中粒の砂岩、戸田川層が硬質頁岩および泥岩であり、わずかに凝灰質細粒～中粒砂岩および凝灰岩をはさんでいるという。茂辺地川層は前の2者より新しく、戸田川層以南で見られる層である。構成岩石は、泥岩、砂質泥岩、粗粒から細粒までの各種砂岩、凝灰岩などである。

なお新世代第三紀中新世の堆積層には、火山活動による火成岩の貫入がみられ、木古内町との境界にある丸山、湯ノ沢川の上流桂岳、障子山、西股川上流の不二山は、それぞれ丸山が粗粒玄武岩、桂岳は角閃石ダイサイト、後者の2山は流紋岩の貫入によるものである。このほか山体を形成しないが、



この地図は、上が国土地理院1:2,000,000地勢図『函館』平成5年12月1日発行、
下が国土地理院1:25,000地形図『茂辺地』平成18年7月1日発行を使用した。

図Ⅱ-1 遺跡の位置

大野川の中流域、毛無山の東側で大規模な花崗岩質岩などがみられる。

160万年から現在までの期間を地質年代で第四紀と呼んでいる。この時期の始まりに相当する堆積は富川層で、函館平野の西の縁に分布している。岩相は礫岩、含礫粗粒砂岩の卓越した中粒から細粒までの砂岩で構成され、わずかに粘土質の泥岩と泥質凝灰岩を挟んでいる。

第四紀には温暖化と寒冷化が繰り返される。詳細はよくわかっていないが、この寒暖の差により海水準変動がおこり海成段丘が形成される。宮内・八木によると、この段丘は北斗市を含む松前半島東岸において5つに区分できるといふ(宮内・八木1984)。これらは市内ではひな壇状に発達するとされ、それぞれの標高は、高い順からH1面(90~160m) H2面(60~120m)、M1面(50~80m)、M2面(15~70m)、M3面(10~38m)となっている。縄文時代の遺跡はこのうちM1、M2とされる段丘上に位置するものがほとんどである。これらの形成年代は、M1面が下位に堆積する洞爺火山灰の存在から12.5万年前前後、これに続いてM2面は6万年前までの後期更新世の後海水準期に形成されたとみられている。

館野遺跡が立地するM2面は、活断層の調査に伴い段丘堆積物の様子が詳細に観察されている。それによると、富川層を不整合に覆う形で扁平な中礫を主体とする堆積がある。この堆積は平行層理を呈し、部分的にはトラフ型斜行層理がみられる。その上位に青灰色シルトと洞爺火山灰が堆積している。その上位はクリオタペーションにより礫が混じるロームがみられる。ロームの上位は腐植土層が堆積し、腐植土の直下にごく散点的に濁川火山灰がみられるという(田近・大津2006)。

市内において確認されている第四紀に相当する火山灰は、古いほうから前述の洞爺火山灰(Toya)、約12,000年前の濁川火山灰(Ng)、10世紀ごろのものともみられる白頭山-苦小牧火山灰(B-Tm)、1640年の駒ヶ岳火山灰(Ko-d)、がある。矢不來から三ツ石方面の調査においてはこれに加えB-TmとKo-d間に白色~灰白色の粗粒もしくは細粒火山灰が、また三ツ石遺跡ではB-Tmの下位に角閃石の多いシルト~粘土質火山灰が確認されている。紀藤はB-Tm上位を、花岡はB-Tm下位を渡島大島火山灰(Os-b)の可能性のあるものとしており(紀藤1998・2003)(花岡1990a・1991b)、この火山灰についてはまだ不明な点が多い。

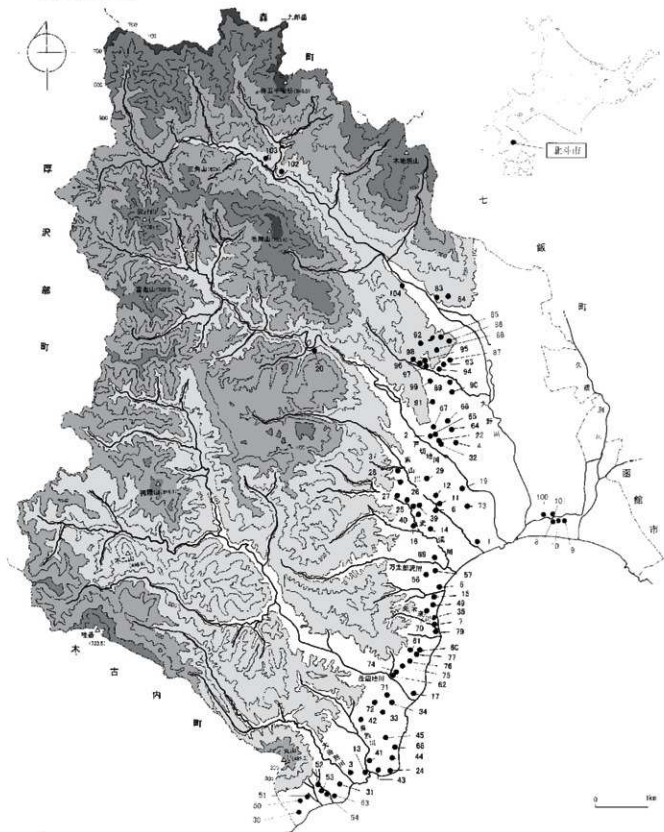
2 北斗市の遺跡

北斗市には、104か所の遺跡が周知されている(図II-1~3、表II-1)。これらの遺跡は主として前述した海成段丘上に分布するが、海浜砂丘上、川沿いの丘陵地、また石灰岩の洞窟にも分布している。時代は旧石器時代から縄文時代全期間、統縄文時代の遺跡に加え、中世の茂別館や、近世函館戦争の激戦地である富川土塁跡、大野口台場もある。旧石器時代よりほぼ途切れることなく人類の生活痕跡が認められている地域である。

これらの遺跡のうち発掘調査が行なわれているものは24遺跡である。これとは別に表採資料が広く知られている。このことは地元の郷土史家である落合計策・治彦父子の2代にわたる精力的な採集活動が背景にある。中でも茂別遺跡、久根別遺跡、添山遺跡の3遺跡の資料は、縄文時代後期~晩期の好資料であることから、昭和初期には考古学界に知られるところとなっていた(国立歴史民俗博物館2001)。以下この採集資料も含め、遺物、遺構の特色を時代・時期ごとに述べていく。なお引用文献は報告書については割愛した。

旧石器時代

2か所の遺跡で確認されている。戸切地川の中流、釜の仙境付近の右岸にある釜洞穴遺跡で、周辺より旧石器の可能性のある剥片が採取されているが、詳細は不明である。また、今回の館野2遺跡A地区の調査において、石刃素材の影器をはじめ、搔器、削器、石刃、細石刃からなる13点の出土資料が得られている。



図Ⅱ-2 北斗市の遺跡

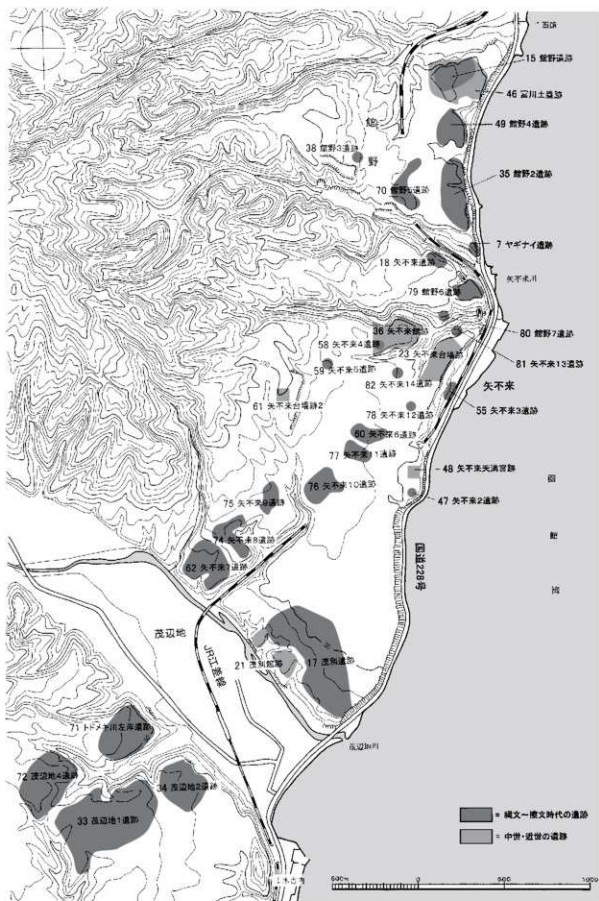


図 II - 3 周辺の遺跡

縄文時代早期

早期前半に位置づけられる遺構の検出は今のところないが、遺物はいくつかの遺跡で確認されている。館野遺跡の調査においては日計式、ムシリI式、アルトリ式などが出土している。茂別遺跡では、根崎式、ムシリI式のややまとまった資料が出土している。このほか点数は少ないが館野4遺跡、矢不來7遺跡、三ツ石2遺跡、当別2遺跡、当別4遺跡でも貝殻文の土器が出土・採集されている。

早期後半に相当するものは、茂別遺跡で確認されている。住居跡1軒(H-7)、土坑1基(P-17)にその可能性があるほか、粘土採掘穴状土坑群とされた、51基からなる重複する土坑群が確認されており、これからは中茶路式土器2個体が得られている。

縄文時代前期

前期前半は、2遺跡で遺構が確認されている。三ツ石遺跡では、出土遺物のうち多くが当期のものと考えられ、確認されている土坑5基、焼土6か所もその可能性があるものである。また茂別遺跡では、住居跡1軒(H-6)が当期のものであるほか、P-4、6とした土坑墓からは、春日町式もしくは般法華式に相当するとみられる土器が各1個体出土している。また、P-15からは縄文式の個体が出土している。

後半になると、遺跡数は増加する。遺物のみ出土、採集されている遺跡は多い。円筒下層式の住居跡が確認できた遺跡としては、矢不來6遺跡で4軒、矢不來2遺跡で1軒、水無遺跡において1軒である。またフコマ野遺跡において、石器製作跡とされた堅穴が確認されている。茂別遺跡では、住居跡は確認されていないものの円筒下層b～c式に相当する若干の出土があるほか、円筒下層a式(P-10)、大木2b～3式(P-63)に相当する土坑墓が検出されている。このほか、整理作業中であるが、館野6遺跡では円筒下層c～d式に相当する盛土遺構とともに、住居跡50軒からなる集落が調査されている。

縄文時代中期

中期前半では、松前藩戸切地陣屋跡の昭和61(1986)年の調査で、円筒上層a～b式に相当するベンチ構造を持つ全長15.7mの大型住居が1軒検出されている。館野4遺跡において、円筒上層b～見晴町式の住居跡6軒、矢不來9遺跡では、サイベ沢VII～見晴町式の住居3軒が確認されている。

中期後半では、館野遺跡において中期中葉から後葉にかけての住居跡が30軒検出されている。これらは平面形が楕円形→卵形→舟形へと変化し、炉は楕円形から卵形への変化に伴い円形から方形に変化しているという。茂別遺跡において、大安在B式期の住居1軒(H-14)のほかいくつかその可能性のあるものがある。矢不來8遺跡においても住居跡が1軒確認されている。館野2遺跡では昭和55(1980)年の調査で確認された中期の住居跡5軒のうち、3軒は中期後半の時期とみられるものである。

縄文時代後期

後期前葉の遺物は、発掘調査が行なわれたほぼ全ての遺跡で出土している。住居跡が検出されている遺跡は中期後半～後期初頭とされるものも含めると、押上1遺跡(14)、ヤギナイ遺跡(1)、三ツ石遺跡(1)、矢不來9遺跡(1)、館野4遺跡(3)、茂別遺跡(4)となっている。()内の数は軒数。

押上1遺跡は、3か年にわたる調査で、住居址9軒などの多くの遺構を検出しており、大半がこの時期のものと考えられる。石倉野遺跡において当期の可能性のあるロームのマウンドや土坑、焼土が確認されている。中心となる時期は涌元I式とみられる。茂別遺跡では、このほか「塚」とされた盛土遺構が検出されている。これは幅約10mの溝を作り、その両側に土を盛り上げた形のもので、発掘調査時の観察と空中写真判読の推定によると、函館湾に突出した段丘先端部を弧状に区画しており、長

き300m以上となるものである。この盛土遺構の形成時期は、重複関係及び出土遺物から、余市式から涌元式の間で作られたものとされている。

後期中葉の資料は、石倉野3遺跡、三ツ石2遺跡において手稲式が若干出土している。

後期後半の遺跡としては、ヤギナイ遺跡において、堂林期の住居2軒（HP-1、2）が確認されている。また、矢不來7遺跡において、住居跡13軒からなる集落跡が調査されている。

後期の最終末に相当するものとして、茂別遺跡における落合計策氏の採集資料が挙げられる。重要文化財である「人形装飾付異形注口土器」を始め、貼瘤文、爪形文、三叉文などの特色をもつ後期最終末から晩期初頭にかけての良好な資料がある（国立歴史民俗博物館2001）。

縄文時代晩期

晩期前葉の資料は、矢不來8遺跡で出土しており、土坑1基と焼土2か所の遺構も検出されている。詳細は不明であるが、久根別A遺跡から大洞Ⅱ式の破片が出土しているといわれている。

晩期中葉の資料は、矢不來8遺跡、ヤギナイ遺跡で出土している。矢不來8遺跡は埋設土器と、土坑1基、焼土1か所が確認されている。ヤギナイ遺跡では、石組炉と埋設土器が検出されている。埋設土器のうちKP-2とされたものは、鹿の上顎骨が納められていた。

晩期後半に相当するものは、添山遺跡があげられる。落合氏採集の多数の完形土器がある。遺跡は昭和54（1979）年に調査され、3か所の焼土と、聖山Ⅱ式に相当するまとまった資料が得られている。

統縄文時代

茂別遺跡は恵山式期の大規模な遺跡である。6軒の住居跡と38基の土坑墓が検出されている。土坑墓のなかには、完形土器や管玉、石斧、魚形石器、石鎌、環石などの石器を副葬するものが多い。平面形は長軸1m内外の円形ないし楕円形を呈するが、瓢箪型や2mを超えるもの、1mに満たない小型の浅い墓もあり、副葬品の内容や上面の配石の有無など、やや多様なあり方を呈している。

下添山遺跡では、やや古手の二枚橋式に相当するものも含めた恵山式土器、魚形石器が採集されている。昭和54・55（1979・1980）年に吉崎昌一によって調査されており、同時期の資料が得られたほか、ソバの栽培の可能性が指摘されている。このほか、恵山式の土器の集中域は、矢不來6遺跡、三ツ石2遺跡、矢不來8遺跡においても確認されている。

擦文文化期

矢不來3遺跡において、擦文前期の住居跡2軒が検出されている。住居は北方向にカマドを持ち、底部にヘラケズリのみられる土器などの遺物が出土している。

東浜遺跡および旧久根別川の対岸にあたる一本松1遺跡は、擦文文化期の遺跡として古くから知られているものである。東浜遺跡では、昭和38（1963）年に調査が行なわれ、五所川原産の須恵器のほか、内黒土師器、擦文土師器など8世紀から10世紀ごろのものとみられる遺物が出土している。一本松1遺跡では、同様な時期とみられる須恵器製の破片が昭和8（1933）年、落合氏により発見されている。

中世

茂別館跡と、矢不來館がある。茂別館は享徳三（1445）年、安東氏による築城といわれ、中核をなす大館と砦としての小館から成る構造が現在でもわかる。矢不來館は、文献史上に記録のない館である。町教委により範囲確認調査が平成11・12（1999・2000）年の2年にわたって行なわれ、15～16世紀のものとみられる陶磁器類が出土し、館の後方に空堀3本と土塁2本、館内部にも土塁と柵列が確認されている。出土遺物の比較から判断すると、茂別館とほぼ同時期に存在したものである可能性がある。

表II-1 北斗市遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代	所在地	報告・遺物紹介等
1	下浜山遺跡	遺物包含地	統緒文(前半期)	北斗市常盤3丁目42-1, 71-1~4, 73-3・4	古崎1982 国立歴史民俗博物館2001
2	清川遺跡	遺物包含地	縄文(中期)、統緒文	北斗市野崎183-2~6	国立歴史民俗博物館2001
3	当別遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市当別2丁目297-1~4, 当別288-1	国立歴史民俗博物館2001
4	野崎遺跡	遺物包含地	縄文(前期)、統緒文	北斗市野崎100-1~129, 101-1	国立歴史民俗博物館2001
5	寺屋敷遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市富川228, 227, 229	国立歴史民俗博物館2001
6	板谷遺跡	遺物包含地	縄文(前期)、縄文(中期)、 縄文(後期)	北斗市板谷187-1, 188-1・2・4・6・7・ 10, 193-1・2, 194-1	市教委2009 b
7	ヤギナイ遺跡	遺物包含地	縄文(中期)、縄文(後期)、 縄文(晩期)	北斗市船野47-1~3	市教委2009 b
8	東浜遺跡	遺物包含地	弥生	北斗市久根別3丁目128, 129, 131-1・2, 132, 134, 142, 143, 311-1~3, 313-1・2, 315- 1~3, 317, 東浜2丁目18-2・3	土曜地史研究会1990 国立歴史民俗博物館2001
9	久根別A遺跡	遺物包含地	縄文(晩期)	北斗市久根別5丁目156-6・11・12・15・32・71・ 83・87・88, 89-5, 久根別4丁目62-1~3・7・ 9・11-13・17~20・22~41, 105-1~74Eほか	国立歴史民俗博物館2001
10	久根別B遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市久根別4丁目113-4~7・9	国立歴史民俗博物館2001
11	浜山遺跡	遺物包含地	縄文(後期)、縄文(晩期)	北斗市浜山148-1・2, 149, 156, 181-1~3, 183-2	町教委1983 国立歴史民俗博物館2001
12	浜山2遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市浜山198-1	
13	丸山神社遺跡	遺物包含地	縄文(中期)	北斗市当別2丁目333, 334-1~3	国立歴史民俗博物館2001
14	水無遺跡	遺物包含地	縄文(前・後期)	北斗市板谷201-1~13	市教委2009 a
15	船野遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市船野1~3, 2, 3-1~4・6~9・11・12	道明文2006 (237)
16	細小股遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市水無136-1・2・4~9, 139-1・3~8	
17	茂別遺跡	集落跡	縄文(早期)、縄文(前期)、 縄文(中期)、縄文(後期)、 縄文(晩期)、統緒文(前 半期)	北斗市矢不來72-2~9, 18・20・22・24~26・ 31, 83, 90~92, 95-1・2, 94, 95, 96-1~ 13・84・85, 98-1~5ほか	上磯町1997 道明文1998 (121) 国立歴史民俗博物館2001
18	矢不來遺跡	遺物包含地	縄文(中期)	北斗市船野154	国立歴史民俗博物館2001
19	大工川1遺跡	遺物包含地	縄文(中期)、統緒文	北斗市大工川167-2, 168-1~5, 171, 181-1~ 10・12・11・13・19~21・23	国立歴史民俗博物館2001
20	釜割穴遺跡	洞穴遺跡	旧石器	北斗市野崎堀林町内	
21	茂別船跡	船跡	中世	北斗市矢不來179, 130, 131-1, 132先, 134, 134先, 135, 135先, 194, 194先, 156, 157, 137-1・2, 160~162ほか	藤本1980 国立歴史民俗博物館2001
22	松前藩戸切地陣屋跡	陣屋跡	近世	北斗市野崎66-10, 100-9, 182, 183-10	上磯町1982, 1993, 1994, 1995・ 1996・1987・1996・2002
23	矢不來台場跡	台場跡	近世	北斗市矢不來320, 322, 323, 356-1, 358	町教委2001 森2002
24	葛登志遺跡	遺物包含地	統緒文(前半期)	北斗市茂辺地740	
25	板谷2遺跡	遺物包含地	縄文(早期)、縄文(前期)、 縄文(中期)、縄文(後期)	北斗市板谷205-7~9	
26	板谷3遺跡	遺物包含地	縄文(後期)、縄文(晩期)	北斗市板谷209-28	
27	板谷4遺跡	遺物包含地	縄文(中期)	北斗市板谷209-58・59・73	
28	板谷5遺跡	遺物包含地	縄文(後期)、縄文(晩期)	北斗市板谷209-68・69	
29	浜山3遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市浜山264-1, 265-1, 266-1	
30	フコマ野遺跡	遺物包含地	縄文(中期)、縄文(後期)	北斗市三ツ石341~6, 342-1~7, 347-1・2・ 348-1~5・7・8	町教委1988
31	三ツ石遺跡	遺物包含地	縄文(前期)、縄文(中期)	北斗市三ツ石305-3~5, 306-1~6・8・11~ 24・28~32	町教委1990 b
32	清川2遺跡	遺物包含地	縄文(中期)	北斗市野崎66-1~33	
33	茂辺地1遺跡	遺物包含地	縄文(中期)、縄文(後期)	北斗市茂辺地775, 776-1・2, 777-1~11	
34	茂辺地2遺跡	遺物包含地	縄文(中期)	北斗市茂辺地719-1~4, 785, 786-1・2, 787-1・ 2, 799-2~41	
35	船野2遺跡	遺物包含地	縄文(中期)、縄文(後期)	北斗市船野28-1・4, 29-1・4, 30-1・2, 31-1	町1981・道明文2011(283)本書
36	矢不來船跡	船跡	中世	北斗市矢不來372, 377, 378, 378-1, 379~381, 382-1~165, 383, 388, 388-2, 390, 391, 393, 396	藤本1980 町教委2001 森2002
37	板谷6遺跡	遺物包含地	縄文(中期)、縄文(後期)	北斗市板谷224-3, 225-1, 245	
38	船野3遺跡	遺物包含地	縄文(中期)	北斗市船野165	
39	板谷7遺跡	遺物包含地	縄文(中期)、縄文(後期)	北斗市板谷194-2	
40	板谷8遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	北斗市板谷201-1	
41	当別2遺跡	遺物包含地	縄文(早期)、縄文(前期)	北斗市当別478-1~41	
42	当別川左岸遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	北斗市当別533-2・16	
43	当別3遺跡	遺物包含地	縄文(前期)、縄文(中期)、 縄文(後期)、弥生	北斗市当別461-2	
44	当別4遺跡	遺物包含地	縄文(早期)	北斗市当別424-1	
45	茂辺地3遺跡	遺物包含地	縄文、弥生	北斗市茂辺地726~141・142・146・147・151, 757- 1, 758, 759-2, 760-1	
46	富川土原跡	未登録	近代	北斗市船野3-3~10・12, 4-4, 5-1	町教委1987
47	矢不來2遺跡	遺物包含地	縄文(前期)、縄文(中期)、 縄文(後期)、統緒文	北斗市矢不來72-1	道明文1987 a (37)
48	矢不來天満宮跡	未登録	中世、近世	北斗市矢不來71-1, 72-1・10	道明文1988 (47)
49	船野4遺跡	遺物包含地	縄文(中期)、縄文(後期)	北斗市船野47-1~52	道明文2006 (233)

番号	遺跡名	種別	時代	所在地	報告・遺物紹介等
50	フコマ野2遺跡	遺物包含地	縄文(前期)	北斗市三ツ石330-3	
51	フコマ野3遺跡	遺物包含地	縄文(晩期)	北斗市三ツ石330-6・7	
52	石倉野1遺跡	遺物包含地	縄文(晩期)	北斗市三ツ石338-1, 362	
53	石倉野2遺跡	遺物包含地	縄文(早期), 縄文(後期)	北斗市三ツ石325, 326	
54	石倉野3遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	北斗市三ツ石328	町教委1992
55	矢不來5遺跡	集落跡	縄文	北斗市矢不來31-1・2, 42-1・2, 43-1・2	町教委1990a
56	柳沢1遺跡	遺物包含地	縄文(後期), 縄文(晩期)	北斗市柳沢149-1, 323	
57	柳沢2遺跡	遺物包含地	縄文(中期), 縄文(後期)	北斗市柳沢13-2	
58	矢不來4遺跡	遺物包含地	縄文(中期)	北斗市矢不來394~396	
59	矢不來5遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	北斗市矢不來292・293	
60	矢不來6遺跡	集落跡	縄文(後期)	北斗市矢不來253, 253-2, 267-1, 268-271, 273~276	道埋文2006(253)・2008(257)
61	矢不來台場跡2	台場跡	近世	北斗市矢不來288	
62	矢不來7遺跡	集落跡	縄文(中期), 縄文(後期), 縄文(晩期), 弥文	北斗市矢不來422-1, 437-1・2	道埋文2006(232)
63	三ツ石2遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市三ツ石201-2, 366-3	町教委1992
64	野崎2遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市野崎104-1	
65	野崎3遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市野崎178-1~7	
66	野崎4遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市野崎115-1, 116-1	
67	野崎5遺跡	遺物包含地	縄文, 弥文	北斗市野崎155, 156, 160~162, 163-1・2, 164~166	
68	当別5遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市当別755-1	
69	柳沢3遺跡	遺物包含地	縄文(中期), 縄文(後期)	北斗市柳沢149-3, 340-2・3, 341-1・2, 342-1・2, 3好285-1・2	
70	船野5遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	北斗市船野2-2, 27, 33, 34, 102	
71	トドメ千川左岸遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市度辺跡16-2, 853	
72	茂辺地4遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市度辺跡18, 921-1, 922-1	
73	押上1遺跡	遺物包含地	縄文(前期), 縄文(中期), 縄文(後期)	北斗市押上135-2, 136-2~9・11~14, 176-1・2, 256-1~3, 257, 258-2・3, 259-2, 260, 262-1・2, 263~265, 266-1(注か)	町教委2003・2004・2005
74	矢不來8遺跡	遺物包含地	縄文(中期), 縄文(後期)	北斗市船野85-1, 91, 92, 95-1~6, 矢不來356-1	道埋文2008(232)・2007(244)・2010(272)
75	矢不來9遺跡	遺物包含地	縄文(中期), 縄文(後期)	北斗市矢不來320, 322, 323, 256-1, 358	道埋文2008(257)・2010(272)
76	矢不來10遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市矢不來229, 231, 233, 234, 235, 236, 239	道埋文2007(244)・2008(257)・2010(272)
77	矢不來11遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市矢不來252, 253, 271	道埋文2006(233)・2008(257)・2010(272)
78	矢不來12遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	北斗市矢不來317, 319-1・3~7, 323	
79	船野6遺跡	集落跡	縄文(前期), 縄文(中期), 縄文(後期)	北斗市船野91, 92, 85-1, 93-2	
80	船野7遺跡	遺物包含地	縄文(前期)	北斗市船野77	
81	矢不來13遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	北斗市矢不來76, 77	
82	矢不來14遺跡	遺物包含地	縄文(中期), 縄文(後期)	北斗市矢不來327, 330, 349	
83	大野口台場跡	台場跡	近代	北斗市村山141, 142	
84	村山遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市村山1-168-169	
85	向野A遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市向野130-1, 131, 152, 153	
86	向野B遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市向野91, 93, 95-1, 98-5・6, 100-1~3	
87	向野C遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市向野277-11・13・25・27~29	
88	向野D遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市向野154-3・9・11・20, 280-7・58	
89	文月A遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市文月115~117, 228-1	
90	文月B遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市文月122-1, 123, 124, 125-1・2, 126, 127-1~7, 228-1	
91	文月C遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市文月152-1~3, 185-16, 191-1	
92	向野E遺跡	遺物包含地	縄文(早期)	北斗市向野140-1・6・14	
93	向野F遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市向野165-1・2, 167-1	
94	向野G遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市向野184	
95	向野H遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市向野171-1・3・4	
96	向野I遺跡	遺物包含地	縄文(前期)	北斗市向野171-3, 179, 212-4	
97	向野J遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市向野179, 180-1, 212-6	
98	向野K遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市向野174-14, 213-21	
99	文月D遺跡	遺物包含地	縄文	北斗市文月189-1	
100	一本木1遺跡	遺物包含地	弥文	北斗市一本木190-5	
101	一本木2遺跡	遺物包含地	縄文(晩期)	北斗市一本木222, 224-1・2, 226	
102	台場山遺跡	遺物包含地	近代	北斗市中山191	河野1924
103	佐藤安之助の墓	墳墓	近代	北斗市中山202-1	河野1924
104	向野L遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	北斗市向野385-1・6・17, 386	

表中の番号は四ノ二の遺跡位置図、及び登録番号と同じ。報告・遺物紹介欄で、「町教委」は北斗町教育委員会、「市教委」は北斗市教育委員会、「道埋文」は財団法人北海道埋蔵文化財センターを表し、() 内の数字は報告書の巻数である。

近世・近代

松前藩戸切地陣屋跡、矢不來台場跡、富川土塁跡、矢不來天満宮跡がある。国指定史跡である松前藩戸切地陣屋跡は、安政元（1854）年の神奈川条約締結後、箱館港の開港に伴って北方防備のため、安政2（1855）年に構築された。工事は洋式築城法により設計され、四稜の陣屋本体と南東部に突出した砲台部分から成り立っている。明治元（1868）年の戊辰戦争で焼失している。昭和54（1979）年より、記念物保存修理（環境整備事業）が行なわれ、平成12（2000）年に調査を完了し、平成14（2002）年に整備を終え、現在では桜の名所として地域に親しまれる史跡公園となっている。

矢不來台場跡は、矢不來館とともに町教委により範囲確認調査がなされ、2か所の砲台と火薬庫の位置、規模が確認されている。

富川土塁跡は、函館戦争時の砲台跡とされているが、昭和62（1987）年に行なわれた調査では、明治40年頃と推測される煉瓦窯跡が検出されている。

矢不來天満宮跡は、昭和62（1987）年に調査が行なわれ、18世紀後半から大正期までの遺物と3期にわたる建物跡を検出している。

このほか茂別遺跡において、調査区の先端に当たる段丘先端部で屈曲する塹壕を検出している。出土遺物から判断すると、函館戦争時の旧幕府軍の施設のあるものである。また、矢不來9遺跡において、幕末から明治期にかけての平地式住居が1軒確認されている。

なお函館戦争時のものとみられる銃弾は、富川から茂別に至る段丘上で多く出土している。報告されているだけでも、矢不來天満宮3点、矢不來10遺跡7点、矢不來11遺跡1点、矢不來6遺跡2点、茂別遺跡1点、計14点である。また、未報告であるが館野遺跡では十数点出土している。当地が函館戦争時の激戦地であることを示す証拠の一つといえよう。

3 縄文時代の遺跡立地

以上北斗市の地形、地質と遺跡を概観してきた。ここでは遺跡数の多い縄文時代の遺跡について立地状況の遷移を記しておく。

縄文時代前期後半から縄文時代中期の時期には、M1、M2段丘面において、標高40～50mの比較的安定した土地に住居を構えており、標高20m以下には遺構をともなう明確な生活痕跡はみられない。特に中期前半の円筒土器上層式の時期には、館野4遺跡、館野2遺跡C地区、茂別遺跡、戸切地陣屋跡など、見晴らしのよい段丘の先端部に立地している傾向がみられる。

縄文時代後期前葉を期にこの状況は変化する。標高15m前後の押上1遺跡、標高10mのヤギナイ遺跡といった標高の低い土地にも住居跡が作られている。それに加え以前から生活の場であったM1、M2段丘面は継続して使用され続けている。

縄文時代晩期になると、添山、久根別A、久根別B遺跡といった標高9m以下の場所でも遺物の出土がみられるようになる。海成段丘上でも遺構、遺物の分布はみられるが、段丘の縁や先端部ではなく、より内陸側で分布が多くなる。内陸に位置する矢不來8遺跡での住居跡が確認されたこと、段丘先端部にある茂別遺跡では晩期の遺物が希薄であるのに対し、より内陸側の地点で後期末から晩期初頭の「人型裝飾付異形注口土器」をはじめとした多くの遺物が採集されていることは、この傾向を示しているものといえよう。

Ⅲ章 調査の方法

1 館野2遺跡の地区区分について

I章で触れているが、館野2遺跡の調査は平成19年度で2回目となる。上磯町教育委員会による昭和55年度の調査では、調査区を無名の沢により二分し、南側をA地区、北側をB地区としている。

平成19年度の調査区は昭和55年の調査区と隣接しており、前回の調査で地区区分の根拠となった沢も調査範囲の中にある。今回の調査では更に北側の沢向いの部分も調査区となっており、結果として調査区は沢により3か所に分断されている(図Ⅲ-1)。これらの地区の主な出土遺物の時期が幾分異なっていること、3か所を同時に調査する都合上から、これらの沢で区切られた地区を北からA、B、Cの各地区とすることにした。煩雑ではあるが、今回の調査では前回のA地区をB地区、B地区をC地区と変更して呼称している。さらに整理作業や調査における混乱を避けるため、それぞれの地区において検出された遺構は各地区のアルファベットを頭につけ(例えばB地区の1号住居跡はBH-1)、検出順に調査することとした。

2 濁水対策について

調査区内の3つの沢は直接函館湾に続いている。通常水は流れていないが、降雨時には一時的に激しい流水がみられることもある。調査区の裸地化により濁水が海に流れ込む事態を防ぐため、発掘調査範囲を囲むように溝を、調査区の最も標高の低い部分に集水枡を設置し、その枡を沈砂池として濁水の浄化を図り、浄化した水のみが直接函館湾に流れ込むよう濁水処理施設を計画した(図Ⅲ-2)。

この計画に従い、調査はまずこの濁水処理施設部分から行なった。なおこの処置は、国土交通省北海道開発局函館開発建設部と上磯郡漁業協同組合とが確認した排水水質基準を遵守するために行なったものである。

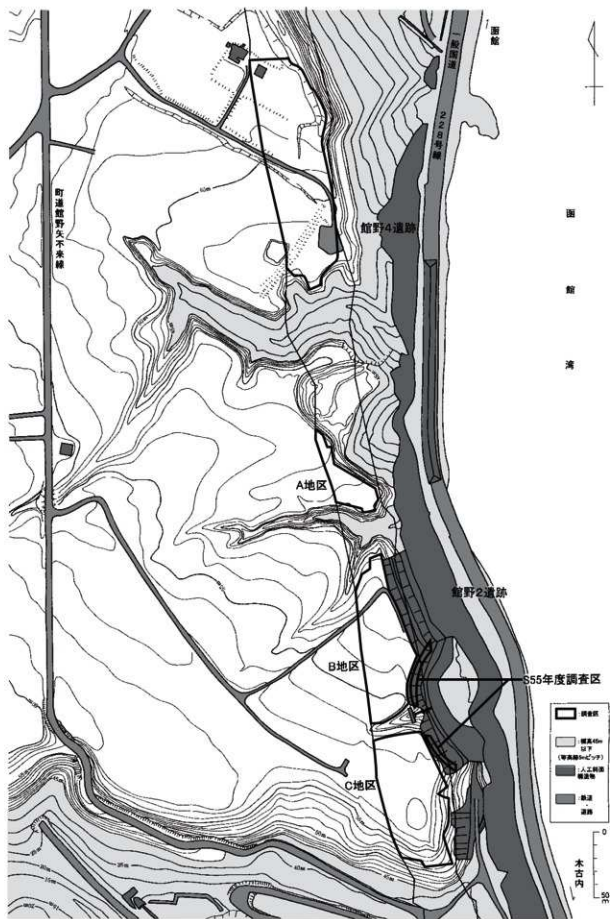
3 調査の方法

(1) 発掘区の設定

発掘区は4×4mとし、アルファベットの大文字と数字の組み合わせで表示した(図Ⅲ-3)。設定にあたっては、国土交通省函館開発建設部の設定した道路中心点P-13900とP-14000を結んだ直線に直交する線を加えて方眼とした。更に中心点P-13900をM-50とし、中心点を結んだ線にアルファベットを、中心点に直交する線に数字を与え、北東を基点として設定した。その結果平成19年度の調査区はF~Tライン、8~87ラインの間となった。なお設定の基準とした中心点P-13900とP-14000の世界測地系による座標は、平面直角座標第X I系に基づき以下の数値となっている。

P-13900 (M-50)	X=-245026.932	Y=30531.759
P-14000 (M-75)	X=-245126.490	Y=36541.125

発掘区の呼称は区画の北東の交点で表した。例えばMラインと40ラインの交点の南西側がM-40区ということになる(図Ⅲ-3)。また、B地区では調査の必要に応じてこの4m方眼の発掘区を2m方眼に4分割し、グリッド基準杭のある北東端から反時計回りに小文字のアルファベットでa、b、c、dを付し、M-40-a、M-40-b、M-40-c、M-40-d、と呼称した部分がある。



図Ⅲ-1 調査区周辺図

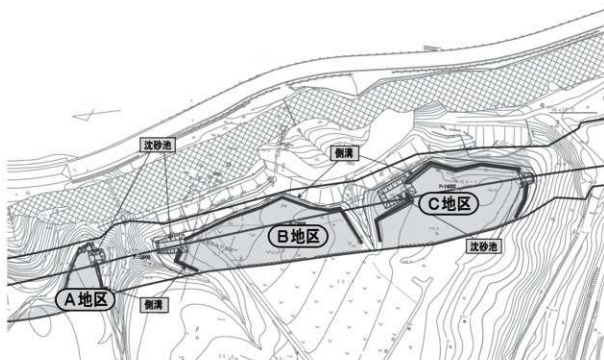
なお、遺構、土層、遺物出土状況などの標高の測定にあたっては、国土交通省北海道開発局が平成6年8月9日に設置した、3級基準点3053（標高=48.306m）、3054（標高=52.413m）を利用した。

（2）調査方法

調査は、濁水処理のための側溝・沈砂池部分から行なった。調査は本調査と同様表土除去をバックフォードで行い、表土以下は人力で調査する方法をとった。沈砂池部分はほぼ全面発掘であるのに対し、側溝部分は幅が狭いため遺構検出が難しく、漸移層付近まで掘り下げての遺構確認調査となることが多かった。また側溝部分は遺構が完全に失われてしまうことから、工事範囲を越えて遺構が広がる場合、全体がわかるよう拡張して調査したもの、あるいは側溝部分のみ調査し、後の全面発掘に至ってから残りの部分を調査することにしたものがある。詳細については各遺構の項に記している。

ロームが露出している地区についてはジョレンにより遺構確認調査を行い、その後自然攪乱の遺物回収を行ったとされた。包含層が残存している部分については移植ゴテを用い、遺物の出土量を見ながら適宜スコップやジョレンを併用した。

遺構の確認はⅢ層下部からⅣ層上面で一度、Ⅴ層上面で一度の計2回行なった。遺構調査においては、検出した後半載もしくはベルトを設定して移植ゴテにより掘り下げた。遺物が出土した場合、覆土のものについては有意とみられる遺物のみ位置を記録し適宜写真を撮影した。坑底、床から出土したものは、微細な遺物を除いて出土状況を撮影して位置を記録した。その後土層断面を記録し完了した。なお検出の状態によっては断面の記録を行なわなかったものがある。



図Ⅲ-2 濁水処理施設設計画図

(3) 遺物整理の方法

a) 図面

調査においては、遺構、有意な遺物の出土状況、また最終面測量毎に図面を作成した。遺構は原則縮尺20分の1で平面図、断面図、遺物出土位置図を作成し、必要に応じて10分の1で出土状況図を作成した。これらは調整して素図を作成し、この素図に墨入れをしたものを報告書の版下としている。

b) 写真

発掘現場での撮影はブローナサイズのカメラを主とし、35ミリカメラ、デジタルカメラを整理用データ撮影に用いた。主に撮影対象としたものは、遺構、遺構の遺物出土状況である。

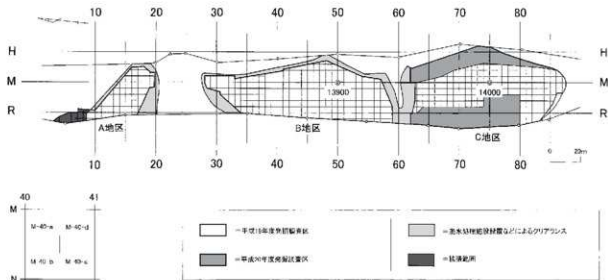
撮影に用いた機材はMamiya社製RZ67PROII、Nikon社製F3、リコー社製 Caplio400Gである。フィルムは、Kodak社、E100G、T-MAX100を用いた。ともにISO100のものを用いていたが、遺構数の増加に伴い日照条件の悪い場合の撮影も不可欠となったため、9月18日よりISO400のものに切り替えた。以後のフィルムはフジフィルム社PROVIA400、PRESTO400に変更した。

室内での撮影は大判カメラで行い、ストロボを用いた。カメラは酒井マシンツール社製、トヨ・トヨビュー45GX、レンズはNikon社製ニッコールAM ED210mm F5.6、カメラスタンドはトヨ・ウエイトスタンド100である。俯瞰撮影にあたってはトヨ・無影撮影台を使用した。露出計はセコニック社製L-408、ストロボはコメット社製CB-2400a、CLX-25miniH。使用したフィルムはフジ・プロビア100F、ネオパンアクロス100である。

c) 遺物

一次整理：出土した遺物は、水洗ののち、土器、石器にわけ、分類を行った。分類された遺物は、それぞれ遺物カードを付し、小グリッドごとに土器は古い順、石器は概ね分類が若い順に並べて番号を記した。その番号を遺物番号とした。この遺物カードの情報をパソコン（マイクロソフト社、エクセル）に入力し、遺物点数の集計を行なった。土器については以下のように注記を行なっている。

注記は第一合成株式会社製、「ジェットマーカ―」を使用した。黒色で印字されるため、ほとんどの土器に対し白色ポスターカラーで下塗りを行なった。なお遺物番号や見えづらいものや小片についてはサインペンで補足して注記している。なお復元、拓本のため接合を行なったものについて、レトラセットジャパン株式会社の「レトラコート・マット」により剥落防止の処理をした。



図Ⅲ-3 グリッド設定図

遺構出土遺物	遺跡名	遺構名	ハイフン	遺物番号	層位
	タテ2	BH-10	-	20	フ2

包含層出土遺物	遺跡名	グリッド	ハイフン	遺物番号	層位
	タテ2	C-8	-	44	Ⅲ

二次整理：

1) 土器：注記後、接合作業を行なった。口縁から底部まで接合したものや、文様が明確なものを選出して図化のための復元作業を行なった。

2) 石器：器種毎に形態分類し、全体を把握できるよう実測する遺物を抽出した。

d) フローテーション

住居の炉跡の土を中心とした任意に採取した土壌サンプルについて、フローテーション法による土壌水洗を行なった。作業はPROJECT SEEDS MODEL TYPE-1を使用し、篩のサイズは浮遊：2.00mm、0.425mm、沈殿：2.00mmのものを用いた。得られた微細な遺物について、土器、フレイク、骨片、炭化材、炭化種子に分類した。同定可能とみられるものについて、株式会社バリノ・サーヴェイに同定を委託した。炭化材、種子の一部については、放射性炭素年代測定の試料として用いている。

(4) 収納・保管

本報告に掲載された遺物については、復元土器はダンボールに、その他の拓影土器、石器はポリエチレン袋に個別に入れ、掲載番号、掲載図を付し、59×39×15cmのプラスチックコンテナ（サンボックス製 36-2B）に収納した。その他の遺物は報告書名、分類内容を明記し同コンテナに収納した。コンテナには遺跡名、報告書名、分類名、収納番号を記したラベルを貼り、収納台帳を作成した。これらの遺物は報告後、北斗市で保管する。

(5) 遺物の分類

a) 土器

出土遺物のうち、土器は縄文時代早期をⅠ、前期をⅡ、中期Ⅲ、後期Ⅳ、晩期をⅤ群とし、続く続縄文時代をⅥ群、擦文文化期をⅦ群とした。この各群にアルファベットの小文字を組み合わせ、前半（a類）、後半（b類）あるいは、前葉（a類）、中葉（b類）、後葉（c類）に分類した。

I群 [縄文時代早期の土器群]

a類：貝殻・沈線土器群および条痕文系平底土器群＝当調査では出土していない。

b類：東銅路式系土器に代表される縄文平底土器

II群 [縄文時代前期の土器群]

a類：縄文尖底土器群＝当調査では出土していない。

b類：円筒土器下層式に相当するもの

III群 [縄文時代中期の土器群]

a類：円筒土器上層a式、b式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当するもの

b類：榎林式、大安在B式、ノダツⅡ式に相当するもの

IV群 [縄文時代後期の土器]

a類：天祐寺式、涌元Ⅰ・Ⅱ式、トリサキ式、入江式、白坂3式に相当するもの

- b類：ウサクマイC式、手稲式に相当するもの
- c類：堂林式、三ツ谷式、湯の里3式に相当するもの

V群 [縄文時代晩期の土器群]

VI群 [統縄文時代の土器群]

VII群 [擦文文化期の土器群] =当調査では出土していない

b) 石器等

石器等は、以下のように分類した。

I群 石鏃・石槍

A類 石鏃

- 1 石刃鏃
- 2 薄手で細身のもの
 - a 柳葉形のもの
 - b 五角形のもの
- 3 三角形のもの
- 4 木葉形のもの
- 5 有茎のもの
- 9 細分の困難な破片

B類 石槍または両面加工のナイフ

- 1 有茎のもの
- 2 無茎で菱形・木葉形のもの
- 9 細分の困難な破片

II群 石錐

A類 石錐

- 1 剥片に刺突部を作出したもの
- 2 棒状のもの
- 3 棒状のもので、つまみ部分のあるもの
- 9 細分の困難な破片・未製品

III群 スクレイパー類

A類 つまみ付きナイフ

- 1 片面全面加工のもの
(裏面の側縁に刃部をもつもの)

- 2 片面全面加工のもの
- 3 片面周縁加工のもの
- 4 ほとんど加工しないもの
- 5 両面加工のもの

B類 スクレイパー

- 1 筥状石器
- 2 縦長剥片を素材とするもの
 - a 刃部外反

b 刃部直線

c 刃部内湾

3 横長剥片を素材とするもの

a 刃部外反

b 刃部直線

c 刃部内湾

4 ラウンドスクレイパー

5 エンドスクレイパー

6 先端部のあるもの

7 抉りこみのあるもの

8 素材剥片の形状をあまり変えずに刃部がつくられるもの

IV群 両面調整石器

A類 いわゆる粗工両面調整石器を含む、不定形なもの

V群 石斧類

A類 石斧

- 1 擦切技法により製作されたもの
- 2 打ち欠きにより整形されたもの
- 3 敲打により整形されたもの
- 4 全面磨製のもの
- 5 擦り切り残片
- 6 研磨石材
- 9 未製品・破片

B類 石のみ

VI群 たたき石

A類 たたき石

- 1 素材礫の端部に敲打痕のあるもの
- 2 扁平礫の周縁に敲打痕のあるもの
- 3 扁平礫の背腹面に敲打痕のあるもの

VII群 すり石

A類 すり石

- 1 断面三角形礫の稜にすり面のあるもの
- 2 扁平礫の側縁にすり面のあるもの

- 3 扁平打製石器（A～Fに細分した）
- 4 北海道式石冠
- 5 円礫などの一部にすり面のあるもの

Ⅷ群 石皿もしくは台石

A類 石皿・台石

Ⅸ群 石鋸・砥石

A類 石鋸

B類 砥石

- 1 研磨面に溝があるもの
- 2 板状のもの
- 3 角柱状のもの
- 8 未製品・細分の困難な破片

X群 石錘

X I 群 加工痕・使用痕のみられる剥片・礫

A類 加工痕・使用痕のみられる剥片

- 1 剥片に加工痕のみられるもの
 - a ビエス・エスキーユ
 - b 加工痕から器種を特定できないもの（Rフレイク）
- 2 剥片に使用痕のみられるもの（Uフレイク）

B類 加工痕のみられる礫

- 1 意図の不明な加工痕のあるもの
- 2 有意の礫

X II 群 石核・剥片類

A類 石核・原石

- 1 石核
- 2 石器原石とみられるもの

B類

- 1 フレイク・チップ

X III 群 礫・礫片

A類 礫・礫片

土製品・石製品については、細分項目を設けずに製品名をそのまま記した。

- ・土偶
- ・鐸型土製品
- ・土玉
- ・耳栓
- ・土製円盤
- ・円形・三角形礫石器
- ・石刀
- ・線刻礫
- ・有孔自然石・玉

なお掲載順については、先行する北斗市館野遺跡の報告（北理調報237）にあわせ、器種内の詳細な分類については本書の分類順に従った。

(6) 基本層序

本遺跡の土層区分は、北斗市館野遺跡（北埋調報237）、館野4遺跡（北埋調報235）の先行報告に従い、当遺跡の実情に合わせて以下のように設定した。なおV層はA地区の調査において細分され、VI層はA地区のみで記録している（図IV-2上段）。

I層：表土・耕作土

II層：火山灰が混じるクロボク土

上半部にK_o-dが散点的にみられる層と、B-T_m降下火山灰が混じる層に区分している。

III層：クロボク土（縄文時代遺物包含層）

IV層：漸移層

V層：ローム層（旧石器時代遺物包含層）

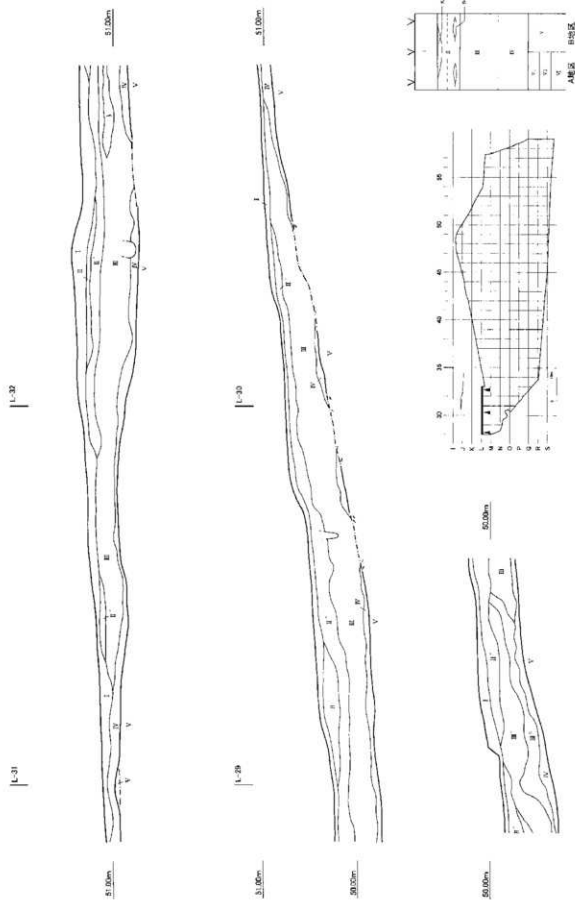
VI層：段丘堆積物

なお基本土層を含めた全ての土層の色調については、『新版標準土色帖』（小山・竹原2004）を用い、粘性の有無、固さ、加えて混入物の種類、大きさ、マトリックスに対する割合について記述した。また土性、粘性、堅密度を『土壌調査ハンドブック』（ペトロジスト談話会1984）の基準を用いて区分したものもある。

B地区平坦面においてはIII層、もしくはIV層上面付近まで削平されている部分が多く認められた。そのため、斜面部分にあたる約20mを図化している。比較的急な斜面であるL-29グリッド以降では、土砂の流出もしくは崩落の影響によるとみられるIII層相当の堆積物がある。これらは「[′]」を付し、基本層序のIII層と区分した（図III-4）。

表III-1 基本土層注記（図III-4）

層名	色 調		特 徴
I	褐灰色	(10YR5/1)	粘性なし ややしまりあり 酸化鉄分を若干混じる 層界画然
II	黒～暗灰色	(N/2~3)	粘性あり ややしまりあり 上面にK _o -dらしき白色火山灰部分的にあり 層界画然
II [′]	暗褐色	(10YR3/3)	粘性なし ややしまりあり 炭化物が混じる部分あり 層界漸変 部分的にB-T _m らしき黄褐色火山灰が混じる
III	黒褐色	(10YR2/2)	粘性なし ややしまりあり 層界漸変
III [′]	暗褐色	(10YR3/2)	粘性なし ややしまりあり 層界漸変 5mm以下の炭化物、2mm以下の黄褐色土粒を斑状に若干混じる
III ^{′′}	黒褐色	(10YR2/3)	粘性なし しまりなし 層界漸変 5mm以下の炭化物、2mm以下の黄褐色土粒を斑状に少量混じる
IV	明黄褐色	(10YR6/6)	粘性なし ややしまりあり 層界漸変 III層をまだらに混じる
V	明黄褐色	(10YR6/6)	粘性なし ややしまりあり 層界漸変



図三 4 基本土層

IV章 館野2遺跡A地区の調査

1 調査結果の概要

(1) 概要

館野2遺跡A地区の調査では、旧石器時代の石器ブロック1か所を検出し、縄文時代の遺構である住居跡1軒、土坑15基、焼土4か所を検出した(表IV-1、図IV-1)。

旧石器時代の石器ブロックは、彫器、削器、搔器、石刃、細石刃からなる計13点の資料である。点数はわずかではあるが、発掘調査で得られた北斗市初の旧石器時代の遺物となる。

縄文時代の遺構は、出土遺物から縄文時代中期前半、縄文時代後期前葉とみられるものがある。住居跡AH-1は中期前半の遺構の一つである。AH-1は調査区の北側に位置し、工事用道路により大きく東側を壊されているが、地床が1か所と柱穴1基をもつ堅穴住居である。後期前葉のものにはAP-2、4、5、8とした土坑があげられる。これらは器形のわかる大きな土器片が置かれるように出土しているものである。4基は、直径60~80cm程度の円形~楕円形の平面で、覆土は埋め戻しとみられる土から構成されるという共通した特徴がある。

これらの遺構は旧石器時代のもも含め調査区西側の境界付近にやや偏って分布しており、遺跡は西側内陸方向に広がっているとみられる。

出土した遺物の総点数は2,989点であり、内訳は土器1,745点、石器等1,244点である。土器は縄文時代後期前葉の太津式~白坂3式に相当するものが最も多く、ついで縄文時代中期前半の円筒土器上層式からサイベ沢Ⅶ式土器、また量は少ないが縄文時代早期後半の東銅路Ⅳ式も出土している。

石器は上記の土器に伴う、石鏃、スクレイパーなどの剥片石器のほか、扁平打製石器などの礫石器が出土している。それぞれの詳細な点数は以下のとおりである。

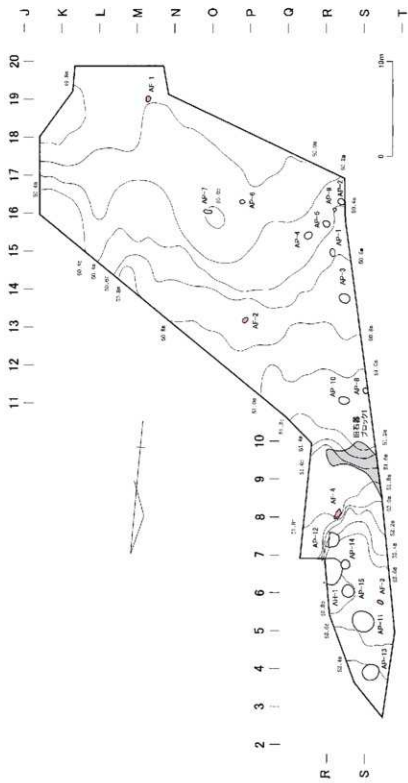
(立田)

表IV-1 A地区検出遺構一覧

	住居跡(AH)	土坑(AP)	焼土(AF)	石器ブロック
旧石器時代	0	0	0	1
縄文時代	1	15	4	0

表IV-2 A地区出土遺物点数一覧

分類	土器					石器等													旧石器					総計		
	I群b類	III群a類	III群b類	IV群a類	IV群c類	石鏃	石錐	スクレイパー	Rフレイク	Uフレイク	石核	フレイク	石斧片	たたき石(片)	すり石	扁平打製石器(片)	加工痕ある礫	石皿・石皿片	原石	礫・礫片	彫器	搔器	削器		石刃	細石刃
遺構	0	50	0	70	0	0	0	1	2	1	0	9	0	0	0	0	0	1	0	139	0	0	0	0	0	273
包含層	5	699	196	705	17	2	1	42	16	10	3	317	3	15	6	17	2	1	15	628	1	1	1	4	6	2713
計	5	749	196	775	17	2	1	43	18	11	3	326	3	15	6	17	2	2	15	767	1	1	1	4	6	2986



図IV-1 A地区道構配置図

2 旧石器ブロック

旧石器ブロック1 (図IV-2、3 表IV-7、口絵2、図版3~5)

位置 S-8・Q~S-9 規模 7.59×4.18m

確認 A地区北側微高地から南側の平坦地に向かう緩斜面部分にあたる標高51.00~51.70mのV層上面で検出した。

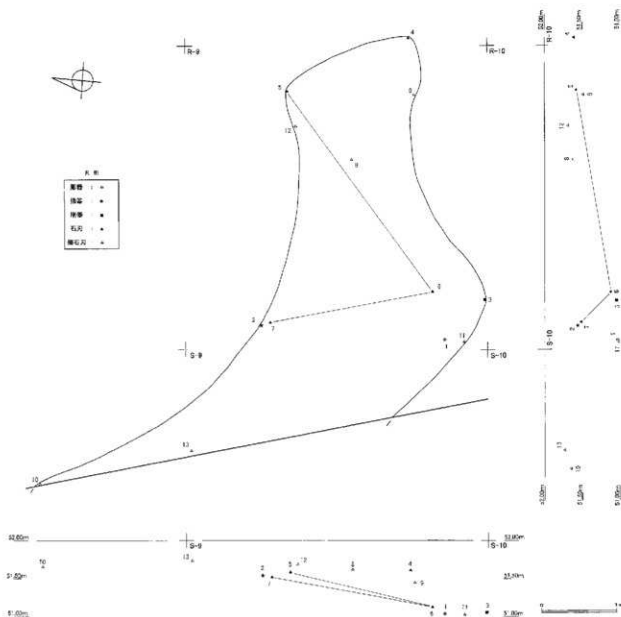
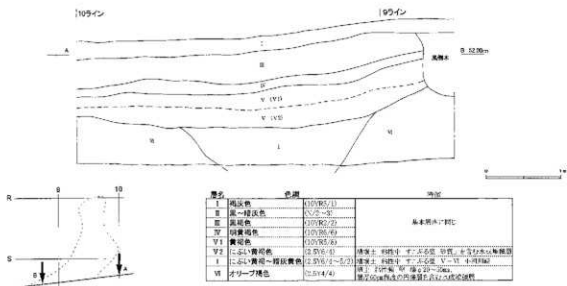
調査 初め、R-9区のV層上面から、縄文時代とは異なる石器製作技術を用い、表面の風化状況が異なる石器(図IV-3-8、細石刃)が出土し、旧石器と判断した。そのため、R-9区及び調査区内のその周囲2mのV1層全てとV2層の上部5cmを旧石器調査範囲として掘り下げを行なった。旧石器調査範囲は、旧石器はR-9区のV(V1)層上面から出土したこと、並行して行なったトレンチ調査の結果においてV層の堆積のうちV1層が風成堆積であることから、旧石器が出土する可能性のある範囲を限定した。その結果、R-9区を中心とするV(V1)層上面及び上面から5~8cmほど掘り下げたV1層の堆積中から旧石器13点が出土し、出土地点を計測した。それらの旧石器について、出土層位・分布状況・接合関係・石器組成から石器ブロックとして認定し、旧石器ブロック1と呼称した。ブロックの形状は緩斜面の上部とそれに続く平坦部分に対応し、出土層位はV層上面及び上面から5~8cmほど掘り下げたV1層である。また、遺物の表面の観察では、埋没後の傷は顕著ではなく、遺物が移動したというはっきりとした痕跡は認められない。このような遺物の分布・表面状況からソリフラクションなどの周氷河作用による影響はあまり顕著ではないと考えられるため、旧石器ブロック1の分布は、本来の分布を反映しているものと考えられる。また、分布状況から、調査区南側の調査区外にも分布は広がっている可能性は高い。

土層 土層は遺物の出土したR-9区の西壁でトレンチ調査を行い、グリッドラインに沿って観察した。層序において基本土層と異なる層は、V1層・V2層・1層である。V1層とV2層は旧石器が出土した周辺のV層が細分できたものである。1層は水成堆積によるもので、VI層の堆積後に段丘上を流れていた沢によるものである。また、V2層についても、砂質土を含むシルト質粘土の水成堆積層と考えられる。V1層については、V2層が風化している部分のみみられる可能性があるが、他の地区のV層と同様な堆積と考えられる。よって堆積状況は、まず、水成堆積であるVI層が段丘化する。そこに沢による1層が堆積した。その後、湿地のような状況であったVI層及び1層上面に、風成によるローム質土を含むシルト質粘土のV2層が堆積することで徐々に陸地化が進み、風成堆積を主体とするV1層が形成されたものと考えた。(佐藤)

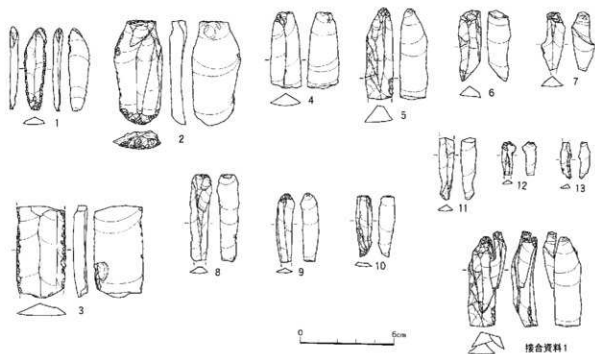
遺物

出土した全ての石器を図化した。掲載番号は出土状況図の番号に対応している。1は彫器。石刃を素材とする。右側縁上部の樋状剥離を打面とし左側に彫刀面が作出される交叉型のもの。彫刀面は最低1回以上の再生が認められる。周縁調整は右側縁において一部抉入状を呈する部分がある。彫刀面と腹面のなす角度は75度である。石材は珪質頁岩。褐色でやや光沢のある石材を用いている。2は搔器。調整打面の残る石刃を素材とし、端部に急角度の調整により刃部が作出されるもの。背面側左側縁上方に細かい二次加工が施されている。3は削器。両端を欠いている。石刃を素材とし、背面側両側縁に細かい二次加工が施されている。2、3はともに頁岩製。色調は2が暗褐色で、微化石らしき白斑があるもの。3が黄土色である。

4~7は石刃。幅の広いものから並べた。5~7は接合し、接合資料1とした。4、7は調整打面である。石材は全て頁岩製。4は褐色、5~7は暗褐色である。8~13は細石刃である。石材は11が



図Ⅳ-2 旧石器ブロック1(1)



図IV-3 旧石器ブロック1(2)

頁岩である他は珪質頁岩である。11は接合資料1と近似する暗褐色のもの。8～10、12は灰色地に白色の脈が入る同一母岩とみられるもの。13はやや明るい灰色であである。

接合資料1は、5、6、7の3点の石刃が接合した。同一方向から連続して剥片剥離を行うもの。背面左側面には母型の整形を示す横方向の剥離痕がある。(立田)

3 縄文時代の遺構

(1) 遺構の概要

検出した遺構は住居跡1軒、土坑15基、焼土4か所である。これらの遺構は全て調査区Mライン以西に位置し、特に調査区西側境に近いQ～Tラインにかけて集中して検出されている。住居は出土遺物から縄文時代中期前半のものとみられ、土坑のうち、AP-6、7、9の3基については縄文時代中期前半、AP-2、4、5、8の4基については縄文時代後期前葉のものとみられる。4か所の焼土とそのほかの土坑については、時期不明か、包含層から多く出土している縄文時代中期前半か後期前葉のものと推察される。(立田)

(2) 住居跡

AH-1 (図IV-4、表IV-3、4、6、7、図版6、11)

位置 Q・R-6 規模 (2.77) × (1.82) / (2.36) × (1.52) / 0.96 m

平面形態 形状不明、方形基調の可能性ある。

確認 A地区北側微高地の標高52.80～52.90mのⅢ層中位～Ⅳ層上面で検出した。

調査 調査区北西側の調査範囲外に設置された工事用道路の壁面において、黒褐色～黄褐色土の堆積と床面、掘り込みのある焼土、壁の立ち上がり、露出している土器を確認し、竪穴住居と判断した。平面的には、表土から手掘りで掘り下げた際に、Ⅲ層中位において黄褐色土と黒褐色土のまとまりを確認した。土層の確認を行なうため、工事用道路の壁面近くをベルトとして設定し、壁面の立ち上りを確認しながら掘り下げた。南西側ではⅢ層中の風倒木により攪乱され、AP-14と切り合っていた。風倒木中であつたため、両者の新旧関係は把握できなかった。また周囲1mの範囲を含めて外柱六等の付属遺構の調査を行なったが、検出しなかった。

覆土 Ⅲ層中位において黄褐色土と黒褐色土のまとまりを確認したことから、掘り込み面はⅢ層中位である。ベルトを設定した工事用道路側では、上部は崩落している。1層とした黄褐色土は埋め戻しと考えられ、2層のⅢ層を中心とする自然堆積をはさみ、3層以下も自然堆積である。

壁 壁はやや急角度で立ち上がり、上部は若干開く傾向である。東側は工事用道路で削平され、南西側はⅢ層中の風倒木により攪乱をうける。

床面 床面はほぼ平坦であるが、地床炉の北側で一部盛り上がる。削平部分に続くため、本来の状況であるかは不明である。

炭化材 検出しなかった。

付属遺構

- ・地床炉 (HF-1) 地床炉の形状は不明であるが、方形基調の可能性ある。掘り込みのあるものである。上面で灰層と考えられる炭化物層(1層)があり、その上面で土器(図IV-4-2)が出土した。
- ・先端ビット 検出しなかった。
- ・柱穴 (HP-1) 形状は円形で掘り込みは浅い。

遺物出土状況

床面からはⅢ群a類土器24点(図IV-4、2)、フレイク4点、礫1点(砂岩・0.13kg)が出土し、本遺構に伴うと考える。地床炉(HF-1)から石皿1点(図IV-4-5)、礫1点(砂岩・1.81kg)、Rフレイク2点(図IV-3、4)、フレイク1点が出土しているが、地床炉使用の際に混入したと考える。

時期 床面出土土器から、縄文時代中期前半である。(佐藤)
遺物 1、2はⅢ群a類。1は床面、2はHF-1上面から出土している。ともに地文は結束第二種斜行縄文。1は口唇端部に縄線による刻みが施される。2は底部付近。胴部がやや膨らむ器形を呈する。3～5はHF-1上面から出土したもの。3、4はRフレイク。いずれも側縁の一部にやや粗い二次加工がなされる。5は石皿。やや扁平な礫の平坦面を利用しているもの。砂岩製。(立田)

(3) 土坑

AP-1 (図IV-5、表IV-3、4、図版7)

位置 R-14・15 **規模** 0.77×0.52/0.60×0.40/0.26m **平面形態** 楕円形

確認 V層で楕円形の黒色土を検出した。

調査 北側を半載し、壁と底を確認した。壁は立ち上がるが、底が平坦でなく、根穴の可能性もある。

覆土 1層は黒色土(10YR1.7/1)でⅢ層起源である。

特徴 平面は楕円形、壁の立ち上がりは急で、底は平坦ではない。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半Ⅲ群a類期または後期前葉のIV群a類期に所属する可能性が高い。(新家)

AP-2 (図IV-5、10、表IV-3、4、6、図版7、11)

位置 R-16 **規模** 0.81×0.66/0.62×0.51/0.11m **平面形態** 円形

確認 V層で円形の暗褐色土を検出した。

調査 東側を半載し、深さ10cmほどの落ち込みを確認した。

覆土 1層はIV層起源の暗褐色土(10YR3/3)で、非常にしまっている。

特徴 平面は円形である。底は平坦で、皿状の浅い土坑である。

遺物出土状況 覆土1層から、IV群a類土器の底部片が出土している(図IV-10-1)

(新家)

遺物 1はIV群a類の底部片。1条の浅い平行沈線により、無文面と縄文帯が区画されている。

大津式に相当するとみられる。

(立田)

AP-3 (図IV-5、表IV-3、4、図版7)

位置 R-13 **規模** 1.11×0.97/0.78×0.71/0.20m **平面形態** 円形

確認 V層上面で円形の黒褐色土を検出した。

調査 南東側を半載し、壁、坑底を確認した。

覆土 1層はIV層を多く含む黒褐色土、2層はVI層(白色粘土質)とIV層起源のにぶい黄褐色土である。

特徴 平面は円形で、皿状の土坑である。

遺物出土状況 出土していない。

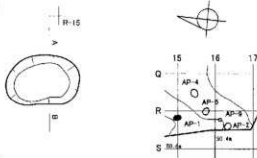
時期 不明であるが、周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものである可能性が高い。(新家)

AP-4 (図IV-5、10、表IV-3、4～6、図版7、11)

位置 Q-15 **規模** 0.83×0.75/0.50×0.44/0.17m **平面形態** 円形

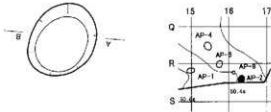
確認 南側平坦地の南西側の標高50.20～50.30mのV層上面で検出した。

AP-1



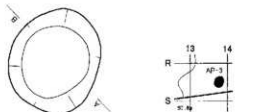
1 黒色 (10YR2/1) 礫層中、礫、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片

AP-2



1 緑褐色 (10YR3/3) 礫層中、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片

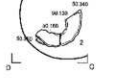
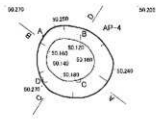
AP-3



1 黒褐色 (10YR2/3) 礫層中、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片

2 二色(黄褐色) (10YR1/3) 礫層中、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片

AP-4・AP-5



50m

AP-4 1 黒褐色 (10YR2/3) 土、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片

2 緑褐色 (10YR3/3) 土、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片

AP-5 1 黒褐色 (10YR2/3) 土、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片

2 緑褐色 (10YR3/3) 土、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片、礫片



図IV-5 土坑(1)

調査 黒褐色土の落ち込みと土器のまとまりを確認した。土層の確認を行なうため半載し、壁面の立ち上がりを確認しながら掘り下げた。坑底と立ち上がりを確認し、土坑と判断した。

覆土 覆土の堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中で、埋め戻しと考えられる。

特徴 立ち上がりはなだらかで、坑底がやや丸みを帯びる。覆土中部にⅣ群a類土器（図Ⅳ-10-2）が置かれる。

遺物出土状況 覆土中部から土器（図Ⅳ-10-2）が出土し、土坑に伴うと考える。

時期 出土土器から、縄文時代後期前葉のものとみられる。（佐藤）

遺物 2は覆土中部から出土したⅣ群a類土器。2分の1弱が復元できた。口縁は平縁でやや外反する中型の深鉢。器面は平滑に調整され無文である。器形から大津式のものと思われる。（立田）

AP-5（図Ⅳ-5、10、表Ⅳ-3、4～6、図版7、11）

位置 Q・R-15 **規模** 0.72×0.70/0.57×0.50/0.18m **平面形態** 円形

確認 南側平坦地の南西側の標高50.20～50.30mのV層上面で検出した。

調査 黒褐色土の落ち込みと土器のまとまりを確認した。土層の観察を行なうため半載し、壁面の立ち上がりを確認しながら掘り下げた。坑底と立ち上がりを確認し、土坑と判断した。

覆土 覆土の堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中で、埋め戻しと考えられる。

特徴 立ち上がりは急角度で、坑底がやや丸みを帯びるボウル状の土坑である。覆土上部に土器（図Ⅳ-10-3）が置かれる。

遺物出土状況 覆土上部から土器（図Ⅳ-10-3）が出土し、土坑に伴うと考える。

時期 出土土器から、縄文時代後期前葉である。（佐藤）

遺物 3は覆土上部から出土したⅣ群a類土器。底部付近が全周するが底はない。磨消縄文による文様が施され、3条の沈線による文様が波状に描かれている。中央の沈線は5か所で強く屈曲するS字状を呈し、図の正面ではS字の上方に延びる文様が付けられている。いわゆる「カニのはさみ」文かもしれない。文様構成から大津式とみられる。（立田）

AP-6（図Ⅳ-6、10、表Ⅳ-3、4、6、図版7、11）

位置 O-16 **規模** 0.55×0.41/0.37×0.22/0.24m **平面形態** 不整楕円形

確認 V層上面で検出した。

調査 南東側を半載した。形はいびつで、底も平坦ではないが、覆土上位から土器片が散在して出土した。

覆土 Ⅲ層起源の黒色土1層である。

特徴 平面、底面ともにいびつである。

遺物出土状況 覆土の上位から、Ⅲ群a類土器8点が出土している。

時期 不明であるが、出土遺物から縄文時代中期前半のものとみられる。（新家）

遺物 4～6はⅢ群a類土器。5、6は検出区であるO-16区のⅢ層から出土したものと接合している。4は胴部。地文はRL斜行縄文である。5は底部。平滑に磨かれ無文である。胎土は4とよく似る。6A～Cは接合しなかったが、同一個体とみられるもの。風化しているが口縁部と底部付近にわずかに縄文が観察される。突起の付く中型の深鉢であろう。（立田）

AP-7（図Ⅳ-6、10、表Ⅳ-3、4、6、図版8、12）

位置 N-16 **規模** 0.83×0.28/0.65×0.17/0.10m **平面形態** 不整楕円形

確認 VI層上面で検出した。

調査 南側を半載した。形はいびつで、底も平坦ではなく、根穴の可能性はある。

覆 土 Ⅲ層起源の黒色土1層である。

特 徴 平面、底面ともにいびつである。

遺物出土状況 覆土上位から、Ⅲ群a類土器が1点出土している。

時 期 出土遺物と周囲の遺物出土状況から、縄文時代中期前半のものである可能性が高い。

(新家)

遺 物 7はⅢ群a類。波状を呈する口縁部。補修孔が認められる。地文は結束第二種の斜行縄文。口唇端部は平坦で、地文がつけられている。

(立田)

AP-8 (図IV-6、11、表IV-3～5、図版8、12)

位置 S-11 **規模** 0.64×0.50/0.33×0.31/0.44m **平面形態** 楕円形

確 認 IV層調査中に検出した。

調 査 IV層調査中、長さ30cmほどの礫1点とその周辺の黒色土を確認した。南側を半截し、掘り下げたところ、覆土から土器片が数点出土した。断面実測後、残りの覆土を坑底まで掘り下げたところ、土器片がまとまって出土した。

覆 土 Ⅲ層～V層起源で、2層に分けた。底に近い2層は、周辺のV層と色味がよく似ており、粘着性が強い。

特 徴 平面は楕円形で、底面は平坦、壁の立ち上がりが明瞭である。

遺物出土状況 覆土から礫1点(砂岩4.2kg)とIV群a類土器が2個体出土している。

時 期 出土土器から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

(新家)

遺 物 8、9は覆土から一括出土したIV群a類土器。8の口縁部は半周するが、底部は接合できなかったため器高は推定復元してある。口縁は緩やかな波状を呈し、やや外反する大型の深鉢である。頸部と胴部に太い沈線で区画された文様帯がある。文様帯には無節Lの縄文が充填され、2段の「乙」字文が連続して施文されている。9は底部を欠くが約2分の1が残存する。平縁でわずかに外反する口縁をもつ中型深鉢。頸部に2条の太い沈線により区画される文様帯があり、文様帯には乙字文が連続施文されている。底部にはケズリのような強い調整が一周している。いずれも大津式である。

(立田)

AP-9 (図IV-6、12、表IV-3、4、6、図版8、12)

位置 R-16 **規模** 0.35×0.34/0.29×0.28/0.22m **平面形態** 円形

確 認 VI層で確認した。

調 査 土器片と頁岩のフレイク、その周囲の暗褐色土を検出した。南側を半截し深さ20cmほどの土坑である事を確認した。

覆 土 もろく粘着性は弱い。IV層主体の覆土である。

特 徴 平面は円形で、底面は平坦、壁の立ち上がりが明瞭である。

遺物出土状況 覆土からⅢ群a類土器が2点、フレイクが1点出土している。

時 期 出土土器片から、縄文時代中期前半のものとみられる。

(新家)

遺 物 10は底部。無文であるが、胎土と調整方法から、Ⅲ群a類とみられる。

(立田)

AP-10 (図IV-6、表IV-3、図版8)

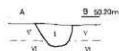
位置 R-10・11 **規模** 1.10×0.72/0.78×0.50/0.34m **平面形態** 楕円形

確 認 V層で黒色土を検出した。

調 査 東側を半截し深さ30cmほどの土坑と判断した。覆土から高師小僧が多く出土した。

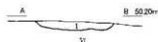
覆 土 3層に分けた。2、3層はIV、V層主体の粘着性の強い覆土である。

AP-6



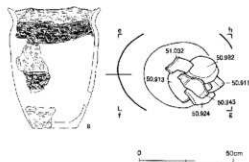
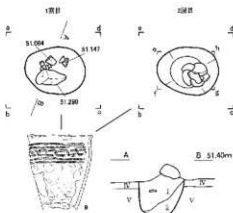
1 褐色 (10YR2/1) 硬土 软性中 粘 质土 中 砂 质 壤 壤 土 壤 壤 土

AP-7



1 灰褐色 (10YR2/3) 硬粘土 粘土 中 砂 质 壤 壤 土 壤 壤 土 壤 壤 土

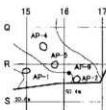
AP-8



1 黑褐色 (10YR2/4) 硬粘土 粘土 中 砂 质 壤 壤 土 壤 壤 土

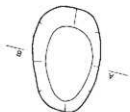
2 暗褐色 (10YR3/5) 硬土 粘 壤 土 粘 壤 土 粘 壤 土

AP-9



1 暗褐色 (10YR3/3) 硬土 粘 壤 土 粘 壤 土 粘 壤 土

AP-10



1 褐色 (10YR2/1) 硬土 粘 壤 土 粘 壤 土 粘 壤 土

2 暗褐色 (10YR3/3) 硬土 粘 壤 土 粘 壤 土 粘 壤 土

3 红-黄褐色 (10YR4/3) 硬土 粘 壤 土 粘 壤 土 粘 壤 土

图IV-6 土坑(2)

特徴 平面は楕円形で、底面は平坦、壁の立ち上がりが明瞭である。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものである可能性が高い。 (新家)

AP-11 (図IV-7、12、表IV-3、4、6、図版9、12)

位置 R・S-4・5 **規模** 2.42×2.16/1.90×1.76/0.32m **平面形態** 円形

確認 A地区北側微高地の北側の標高52.60～52.70mのV層上面で検出した。

調査 黒褐色土と黄褐色土の落ち込みを確認した。土層の確認を行なうためベルトを設定し、壁面の立ち上がりを確認しながら掘り下げた。坑底と立ち上がり、坑底に分布する焼土・炭化物混じり土(4層)を確認し、土坑と判断した。また、周囲1mの範囲を含めて外柱穴等の付属遺構の調査を行なったが、検出しなかった。

覆土 覆土の堆積状態から、掘り込み面はⅢ層中で、1層とした黄褐色土は埋め戻しと考えられ、2層以下は自然堆積である。

特徴 立ち上がりはやや急角度で、坑底がほぼ平坦な皿状の土坑である。坑底に焼土・炭化物混じり土(4層)が分布する。堅穴状遺構の可能性はある。

遺物出土状況 覆土から土器4点、礫125点が出土している。土器はⅢ群a類2点、Ⅳ群a類2点である。礫の石材は砂岩が99点で79%を占め、大きさは直径10cm以下の砂利状のものがほぼ全てである。

時期 周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものとみられる。(佐藤)

遺物 Ⅱは覆土から出土したⅣ群a類土器。乙字状の沈線が描かれる文様帯の部分とみられる。

大津式。

(立田)

AP-12 (図IV-7、表IV-3、4、図版9)

位置 R-7 **規模** (1.56) × (1.06) / (1.10) × (0.78) / 0.69m

平面形態 形状不明。方形基調の可能性はある。

長軸方向 長軸方向は確認できた西側の壁方向またはそれに対する垂直方向と推定する。

確認 A地区北側微高地と緩斜面の肩部分にあたる標高52.40～52.80mのV層上面で検出した。

調査 調査区北側の調査範囲外に設置された工事用道路の壁面において、暗褐色～褐色土の堆積と坑底、壁面の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。平面的には、表土から手掘り掘り下げた際に、木根を除去した後のV層上面において褐色土と暗褐色土のまとまりを確認した。工事用道路の壁面で土層の確認を行い、壁面の立ち上がりを確認しながら掘り下げた。坑底には明瞭な段がある。

覆土 覆土の堆積状態から、掘り込み面はⅢ層中で、埋め戻しと考えられる。掘り込み面は、土坑上部の木根による攪乱のため平面的に確認できなかったが、覆土の堆積状態から判断した。坑底の段差部分と他の坑底近くでは、覆土に違いはなかった。

特徴 立ち上がりは急角度で、坑底は平坦で段がある。

遺物出土状況 覆土下部上部から礫が出土しているが、埋め戻しの際に混入したと判断し、土坑には伴わないと考える。

時期 周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものとみられる。(佐藤)

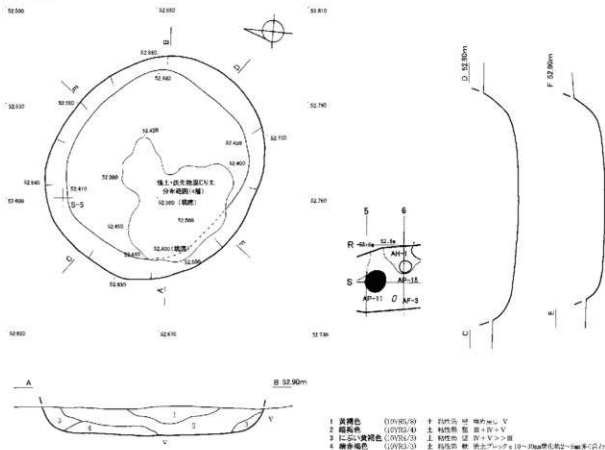
AP-13 (図IV-8、表IV-3、4、図版9)

位置 R・S-3・4 **規模** 1.76×1.72/1.42×1.48/0.73m **平面形態** 円形

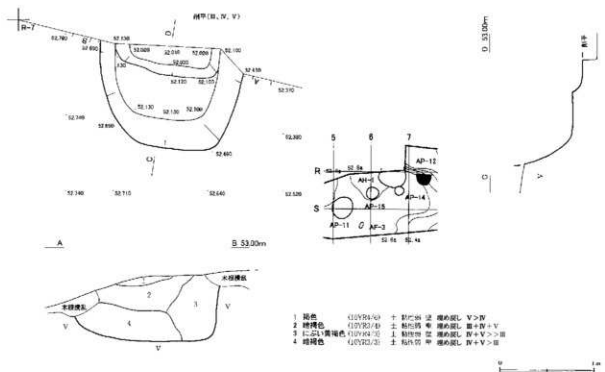
確認 A地区北側微高地の北側緩斜面の標高52.30～52.40mのV層上面で検出した。

調査 暗褐色土の落ち込みを確認した。土層の確認を行なうため半截し、壁面の立ち上がりを確

AP-11



AP-12



図IV-7 土坑(3)

認しながら掘り下げた。坑底と立ち上がり、坑底に分布する炭化物混じり土（6層）を確認し、土坑と判断した。また周囲1mの範囲を含めて外柱穴等の付属遺構の調査を行なったが、検出しなかった。

覆土 覆土の堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中で、1、2層とした暗褐色土は埋め戻し、3層以下は自然堆積である。6層は貯蔵物の痕跡の可能性がある。

特徴 北側の1/4ほどでほぼ垂直に立ち上がる以外は、下部からオーバーハングするフラスコ状土坑である。立ち上がりはなだらかで坑底はほぼ平坦である。坑底に炭化物混じり土（6層）が分布する。

遺物出土状況 覆土2層から、Ⅲ群a類土器が1点出土している。

時期 周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものとみられる。（佐藤）

AP-14（図IV-8、12、表IV-3、4、7、図版9、12）

位置 R-6 **規模** (0.96) × (0.91) / 0.72 × 0.68 / 0.60m **平面形態** 円形

確認 A地区北側微高地の標高52.60mのV層上面で検出した。

調査 AH-1の南西側を調査中に、Ⅲ層中の風倒木により上部を攪乱されている状態で、暗褐色土の落ち込みを確認した。落ち込みの中位まで掘り進めていたため、そこから土層の確認を行なうために半載し、壁面の立ち上がりを確認しながら掘り下げた。坑底と立ち上がり、坑底に分布する焼土、炭化物混じり土（2層）を確認し、土坑と判断した。Ⅲ層中の風倒木による攪乱を除去することを優先して掘り進めたため、AH-1との新旧関係は把握できなかった。

覆土 覆土の堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中で、1層は埋め戻しである。

特徴 北側の1/4ほどの上部でオーバーハングするフラスコ状土坑である。立ち上がりはほぼ垂直に立ち上がり、坑底はほぼ平坦である。坑底に焼土・炭化物混じり土（2層）が分布する。覆土の堆積状況と形状、坑底に焼土・炭化物混じり土（2層）がみられることから、墓坑の可能性がある。

遺物出土状況 覆土から、スクレイパーが1点、フレイクが2点、礫が1点出土している。

時期 周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものとみられる。（佐藤）

遺物 12は覆土から出土したスクレイパー片。背面右側縁が細部調整される。腹面刃部側に弱い光沢が認められる。（立田）

AP-15（図IV-8、表IV-3、4、図版9）

位置 R-5・6 **規模** 1.32 × 1.32 / 1.18 × 1.12 / 0.38m **平面形態** 円形

確認 A地区北側微高地の標高52.70～52.80mのV層上面で検出した。

調査 黄褐色土と暗褐色土の落ち込みを確認した。土層の確認を行なうため半載し、壁面の立ち上がりを確認しながら掘り下げた。坑底と立ち上がりを確認し、土坑と判断した。

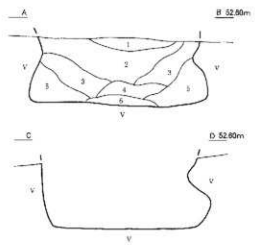
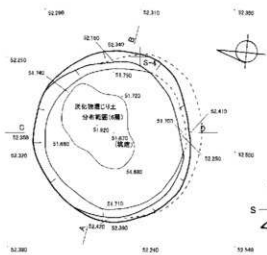
覆土 覆土の堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中で、埋め戻しである。坑底に水平に堆積する暗褐色土（4層）が見られる。

特徴 立ち上がりはほぼ垂直に立ち上がり、坑底はほぼ平坦である。覆土の堆積状況から、墓坑の可能性がある。

遺物出土状況 坑底に水平に堆積する4層上面に1の礫が置かれていた。砂岩の円礫で、重さは0.95kgである。

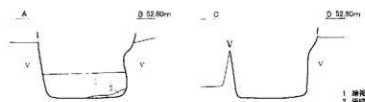
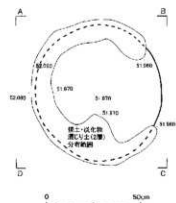
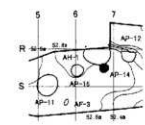
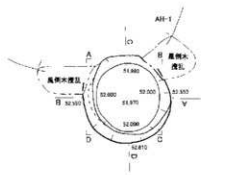
時期 周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものとみられる。（佐藤）

AP-13



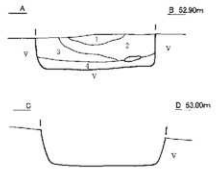
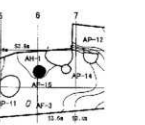
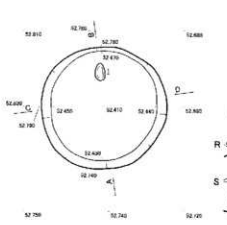
- 1 暗褐色 (10YR5/4) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V 層の底
- 2 暗褐色 (10YR5/3) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V 層の底
- 3 黄褐色 (10YR7/3) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V 層の底
- 4 上から黄褐色 (10YR7/3) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V 層の底
- 5 褐色 (10YR5/2) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V 層の底
- 6 黄褐色 (10YR7/3) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V 層の底

AP-14



- 1 暗褐色 (10YR5/4) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V
- 2 暗褐色 (10YR5/4) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V

AP-15



- 1 黄褐色 (10YR7/6) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V
- 2 暗褐色 (10YR5/3) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V
- 3 黄褐色 (10YR7/6) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V
- 4 暗褐色 (10YR5/3) 土 粘質 粘 弱 + 厚 + V

図IV-8 土坑(4)

(4) 焼土

AF-1 (図IV-9、12、表IV-3、4、6、図版10、12)

位置 M-18・19 規模 0.56×0.52/0.18m 平面形態 不整形

確認 A地区南側平坦地の標高52.10~52.20mのⅢ層中位で検出した。

概要 暗赤褐色土の広がりを確認した。土層の確認を行なうためトレンチ調査を行なった。1層は炭化物を微量に含み、変色した土壌と周囲の土壌との境界は不明瞭である。このことから、その場で形成されたものとする。

遺物出土状況 1層からIV群a類土器が1点、出土位置を図示した遺物8点(図IV-12-13Bを含む)は全てⅢ群a類土器である。

時期 周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものと思われる。(佐藤)

遺物 13ABはⅢ群a類。Aは台形状の突起部分で、突起部分にのみ5条の沈線が描かれる。複節RLR斜行縄文を地文とし、突起部分を含めた口縁には篋状工具による刻みがつけられる。Bは同一個体の胴部付近。13AはL-19区のⅢ層から出土した口縁部。13Bは1層から出土したもの。(立田)

AF-2 (図IV-9、表IV-3、図版10)

位置 O-13 規模 0.70×0.49/0.10m 平面形態 不整形

確認 Ⅲ層で検出した。

概要 焼成は弱く、散漫である。若干の炭化物を含む。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものである可能性が高い。(新家)

AF-3 (図IV-9、表IV-3、図版10)

位置 S-5 規模 0.70×0.38/0.26m 平面形態 不整形

確認 Ⅲ層下位で検出した。

概要 焼土ブロックが散漫にⅢ層と混ざり合う。この場で焼けたものではないと思われる。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものである可能性が高い。(新家)

AF-4 (図IV-8、12、表IV-3、4、6、図版10、12)

位置 R-7・8 規模 1.17×0.60/0.12 平面形態 不整形

確認 A地区北側微高地と緩斜面の肩部分にあたる標高52.50~50.70mのⅢ層中位で検出した。

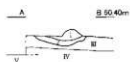
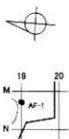
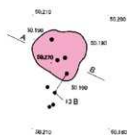
概要 極暗赤褐色土の広がりを確認した。土層の確認を行なうためトレンチ調査を行なった。1層は炭化物と焼土粒を多く含み、変色した土壌と周囲の土壌との境界は明瞭である。このことから、廃棄されたものとする。

遺物出土状況 出土位置を図示した遺物は、礫2点(いびつな砂岩(2.36kg)、泥岩の扁平礫(0.04kg))とⅢ群a類土器(図IV-12-14)である。

時期 周辺の遺構及び遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉のものと思われる。(佐藤)

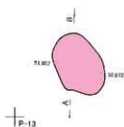
遺物 14はⅢ群a類の底部片。胎土に海綿骨針が多く混じる。(立田)

AF-1



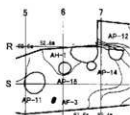
- 1 深褐色 (SVR1/4) 二 动物齿 骸 炭化物 2~20cm 断面状?
- 2 灰白~淡褐色 (BYR1/2) 三 粘粒 胶 粒

AF-2



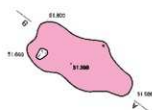
- 1 暗褐色 (J2, YR3/2) 粘壤土 粘粒 中 垂直于坑壁堆积 褐色胶膜

AF-3



- 1 深褐色 (GYR4/6) 碱砂 + 粘壤 胶 动物 > 5cm 断面状 褐色胶膜
- 2 暗褐色 (J2, YR3/2) 壤壤土 粘粒 中 垂直于坑壁堆积 褐色胶膜

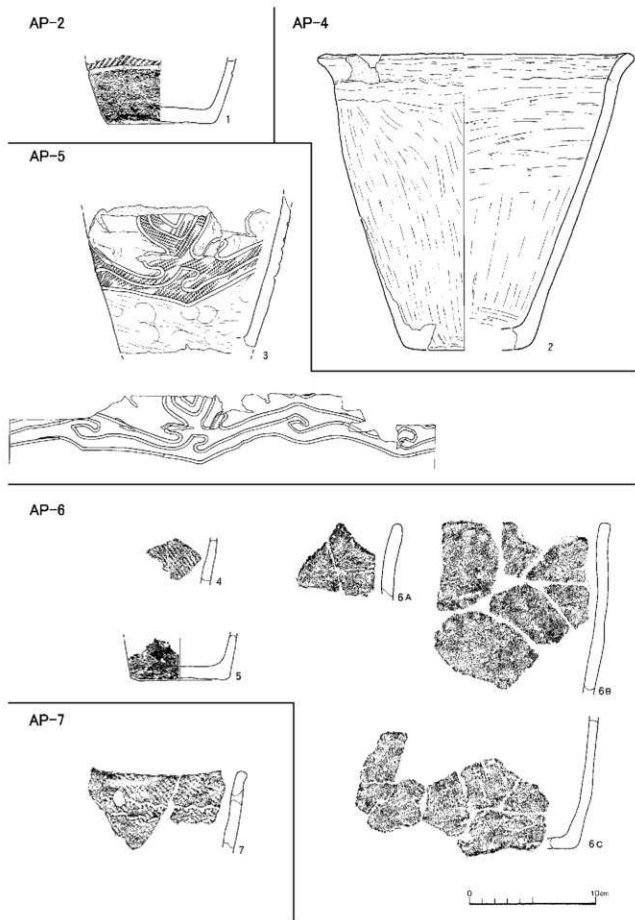
AF-4



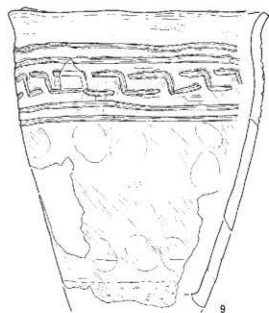
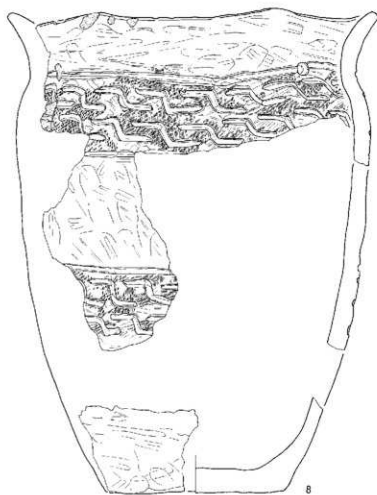
- 1 暗棕黄褐色 (GYR2/3) 土 粘粒 胶 粘土粒 2~2~10cm 炭化 炭化 2~20cm 断面状



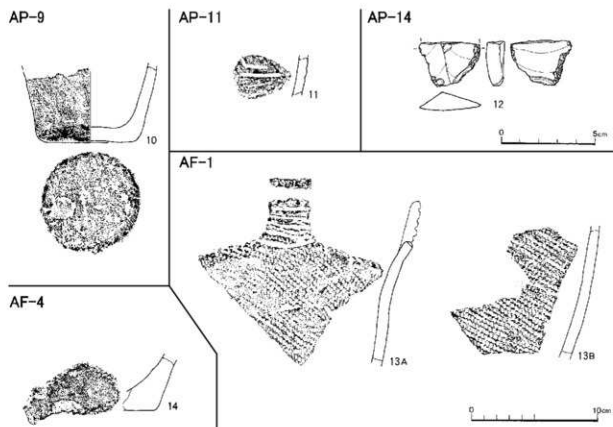
图IV-9 烧土



図IV-10 土坑出土の遺物(1)



図IV-11 土坑出土の遺物(2)



図IV-12 土坑出土の遺物(3)・焼土出土の遺物

4 包含層出土の遺物

(1) 土器 (図IV-13、14 表IV-5、6 図版13~15)

A地区の包含層から出土した土器の総点数は1,622点である。内訳はIV群a類土器が最も多く、705点出土している。ついでⅢ群a類土器が699点、Ⅲ群b類土器196点、IV群c類土器17点、I群b類土器5点となっている。これらの土器分布状況は、O、P-16、17区の4グリッドで全体の約40%の点数が出土しており、土器全体が調査区の南側平坦面にやや偏って出土している傾向がある。

I群b類 (図IV-13-2)

2は東銅路IV式とみられる胴部片である。やや間隔の広い燃糸文が施文されている。

Ⅲ群a類 (図IV-13-3~11)

3は、円筒土器上層a式とみられる口縁部。突起に「ノ」の字状の貼りつけが付けられ、口唇端部と貼付上に縄線が施されている。胎土中には繊維が多い。4は円筒土器上層b式とみられる口縁部。波状を呈する口唇に沿って自縄自巻の手法による馬蹄形圧痕文が2条連続施文され、その間に3本の縄線が施文されている。5、6は貼付による文様がつけられるサイバ沢Ⅶ式の古手とみられるもの。5は貼付上にも縄文が施文され、6は2条一組の細い貼付帯が施される。貼付帯はなでつけられており、無文である。6Aは口縁部。やや尖り縄線により刻みがつけられている。7、8は結束第2種の斜行縄文がつくもの。8は小ぶりの台形の突起が付き、突起の頂部は指頭によりへこんでいる。9は胴部から底部付近の破片。やや節のつぶれたRL斜行縄文が施文される。10は小型の土器の底部とみられるもの。11は突起の付く深鉢。突起部分は欠けているが、孔を穿つ円形に類するものとみられる。突起に沿って沈線が施文され、ほぼ平坦に整形された口唇端部には地文であるRL斜行縄文が施文される。胎土の類似からここに含めたが、Ⅲ群b類である可能性もある。

Ⅲ群b類 (図IV-13-1、12~14)

1は深鉢。胴部上半のみ復元できた。口縁は波状を呈し小ぶりの突起が作られる。頸部はややくびれ、口縁に向かって緩やかに外反している。条が横走気味となるLR斜行縄文を地文とし、頸部には沈線で縁取られた貼付帯が全周している。貼付帯を中心とし、2本一組の平行沈線、渦巻文、短刻線による文様が施されている。大安在B式である。

12は突起の付く口縁部。全面にLR斜行縄文が施文されている。13は複節LRLが施文される口縁部。14は貼付により区分された文様帯があり、貼付上、文様帯中に縄線による文様が施文されている。

IV群a類 (図IV-14-15~30)

本地区で最も多く出土している土器である。15AはLR斜行縄文を横走気味に施文させたもの。横走る筥状工具による沈線文がつけられる。15Bは同一個体とみられる底部片。薄手で明瞭な外傾接合を呈する。16は折り返して整形される口縁部。残存部分では無文である。17は無文地に数条の沈線文が施されるもの。18は2本一組の沈線文が施文される壺形土器とみられるもの。

19、20はやや太目の沈線により文様が描かれるもの。19は壺形、20は鉢とみられる。21~24は乙字文が施文されるもの。21~23は沈線で区画された文様帯があり、その内部の縄文地に乙字文が連続して描かれる。24は無文地。突起があり突起に沿って沈線が刻まれている。25は磨消縄文に連続する「く」の字の文様が描かれている。26は緩やかに外反する口縁部。頸部に沈線により縁取られた無紋帯があり、沈線による文様帯が分断されている。外反する口縁には、2条の連続するS字状の沈線。頸部から胴部にかけて2条の平行な沈線。「く」の字状の沈線文が施されている。27は波状口縁の突起部分。突起部分に施文された縄文を囲むように3条の沈線が表裏につけられている。28は無文面に太い沈線

と櫛状の工具による沈線文が描かれるもの。口縁に近い部分である。29は口縁部片。やや波状を呈する。丁寧に磨かれた無文面に磨消縄文による文様が施される。30同様な磨消縄文の胴部片である。同一個体かもしれない。

IV群c類 (図IV-14-31)

31は壺、もしくは注口土器の胴部とみられるもので、磨消縄文と貼瘤により装飾されているものである。

(2) 石器等 (図IV-15~17 表IV-7 図版15、16)

包含層出土の石器

A地区包含層より出土した石器等の総点数は、1,091点である。内訳は石鏃2点、石錐1点、スクレイパー42点、Rフレイク16点、石斧3点、たたき石6点、扁平打製石器17点などとなっている。

石鏃 (図IV-15-1、2)

2点出土している。全て図化した。1は柳葉形を呈するもの。両面にわたり丁寧に加工されている。頁岩製。2は有茎のもの。右側はかえしが明瞭に作出されるが、左側は再加工により欠失する。珪質頁岩製。

石錐 (図IV-15-3)

1点出土している。剥片の端部を利用し、細部調整により突出部が作出されている。頁岩製。

スクレイパー (図IV-4~10)

42点出土している。素材剥片と刃部の形状から分類した。石材は頁岩が41点、流紋岩が1点である。このうち7点を図化している。4は筈状石器。この1点のみ出土している。両面にわたってやや粗い調整により整形されている。5~9は概ね縦長の剥片を用いるもの。5は刃部がやや外に張り出し、弧状を呈しているもの。同様な形状のものは11点出土している。6、7は縦長剥片を素材とし、刃部が概ね直線状を呈するもの。いずれも素材剥片の両端に原石面が残る。同様な形状のものは14点出土している。8、9はやや内湾する刃部のもの。3点出土している。8は腹面側の両側縁に細部調整が施されるもの。9は背面側に原石面を多く残している。11は概ね横長の剥片を用いているもの。6点出土している。剥片末端の側縁を刃部とするもの。

Rフレイク (図IV-15、16-11~15)

16点出土している。石材は頁岩が11点、珪質頁岩が3点、流紋岩と粘板岩が各1点である。これらのうち5点を図化した。11、12は加工途中の剥片石器とみられるもの。両面にわたり部分的な細部調整が認められる。13は剥片の側縁に意図の不明瞭な加工がみられるもの。加工は粗く階段状を呈している。14は石核状のもの。15は粘板岩製。

Uフレイク (図IV-16-16、17)

10点出土している。石材は頁岩が9点、珪質頁岩が1点である。これらのうち2点を図化した。16はつまみ付きナイフ状のもの。右側縁に使用によるとみられる微細な剥離が認められる。17は珪質頁岩製。

石核 (図IV-16-18、19)

3点出土している。石材は全て頁岩である。このうち2点を図化した。18は拳よりやや小さな頁岩礫を素材とする。19は小ぶりの扁平礫の平坦面を打面としている。

石斧 (図IV-16-20)

3点出土している。全て刃部もしくは端部の破片である。石材は緑色片岩が2点、緑色泥岩が1点



図IV-13 包含層出土の土器(1)



図IV-14 包含層出土の土器(2)

である。3点中1点を図化した。は緑色泥岩製の刃部片である。

たたき石 (図IV-17-21~24)

たたき石は15点出土している。石材は砂岩が12点で、他には流紋岩、チャート、凝灰岩が1点ずつとなっている。このうち4点を図化した。使用痕の位置から3種に分類している。21、22は素材の端部に敲打痕が認められるもの。同様な形状のものは10点出土している。21は台形様の下方の広がる形状の扁平礫、22は楕円形の礫を素材とするもの。いずれも長軸端に強い敲打痕がある。

23は素材礫の周縁ほぼ全周を使用しているもの。3点が出土している。23はチャートの小ぶりな円礫を素材とするもの。断続する周縁の敲打により破断しているが、破断後も正面図奥の破片は敲打されている。両極技法による石核の可能性もあるが、ここに含めた。

24は素材となる扁平礫の背腹面にあたる平坦部分に敲打痕があるもの。この1点のみの出土である。24は素材礫の中心から上に礫の長軸に合わせて敲打痕が認められる。

すり石 (図IV-17-25、26)

6点出土している。平面形が扁平打製石器に似るものほとんどであるが、それより加工が少なく、やや厚手の扁平礫を素材とするものである。石材は安山岩が1点、そのほかは砂岩である。2点を図化した。25、26は断面三角形の礫を素材とし、一稜を使用するもの。26はやや小ぶりなもの。使用面に沿って剥離がある。

扁平打製石器 (図IV-17-27~30)

扁平打製石器は、すり石の中で、扁平な礫を使用し、使用部周辺に加工がみられるものである。破片6点も含めて17点が出土している。石材は多いものから、砂岩が7点、安山岩、流紋岩が4点、凝灰岩が1点である。これらのうち4点を図化した。

27は概半円状に打ち欠きが全周する狭義の扁平打製石器。角閃石安山岩を用い、すり面の幅は1~2.2cmとやや広めである。28、29は流紋岩を素材とする。28は使用面の周囲のみ打ち欠きが認められるもの。すり面の幅は狭く、最大で0.7cm程度である。29は使用面の周囲に加え、周縁の一部にも加工が認められる。形状は三角形に近く他に比べやや異質である。すり面の幅は0.6~1.2cm程度である。30は砂岩の破片を素材とするもの。刃部の周囲に加工が認められる。

加工痕のある礫

2点出土している。石材は砂岩が1点、凝灰岩が1点である。図化したものはない。

石皿 (図IV-17-31)

31は石皿片。この1点のみの出土である。扁平な砂岩の1面を使用するものである。全体の形状は不明であるが、使用面はよく使われ、平滑でややくぼんでいる。

原石

15点出土している。石材はメノウが1点ある他は、全て珪質頁岩もしくは頁岩の原石である。図化したものはない。メノウについては原石面が残る、やや灰色を帯びた半透明の良質なもので、遺跡内に持ち込まれた可能性があるものである。その他の頁岩については、小ぶりて不定形であるため、V層中に含まれていた頁岩礫である可能性が高いものである。

フレイク

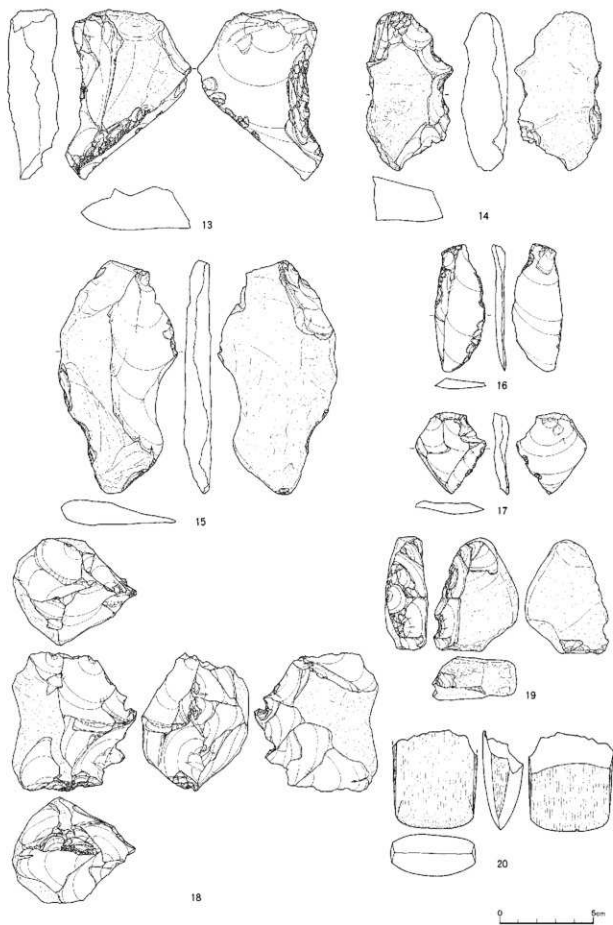
317点出土している。石材は頁岩が273点、珪質頁岩が24点、流紋岩11点、黒曜石3点、チャート2点、珪化岩2点、緑色凝灰岩、粘板岩が各1点となっている。

礫・礫片

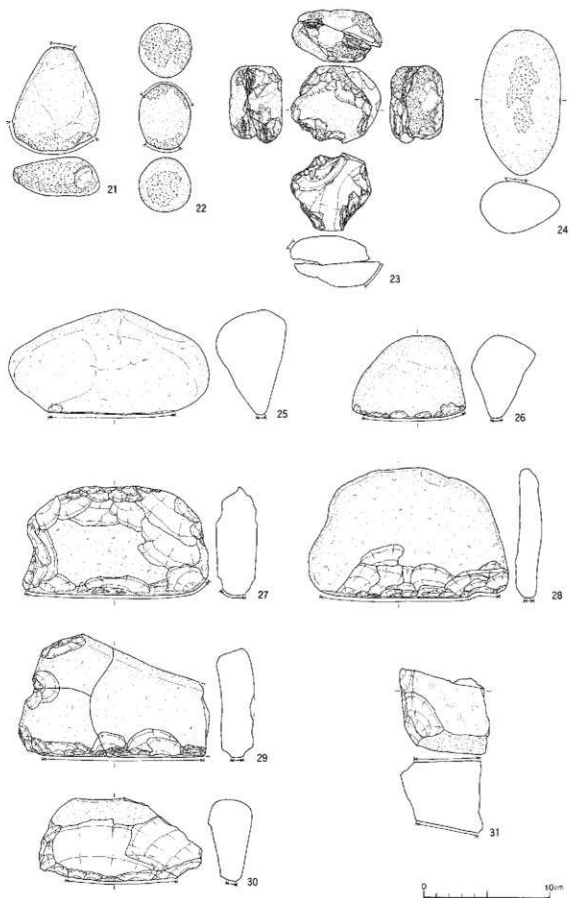
このほか、包含層から礫・礫片が合計628点出土している。



図IV-15 包含層出土の石器等(1)

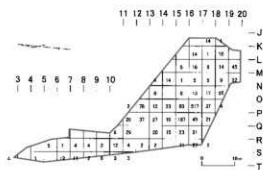


図IV-16 包含層出土の石器等(2)

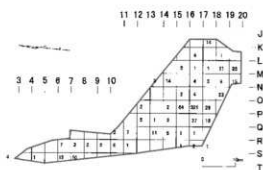


図IV-17 包含層出土の石器等(3)

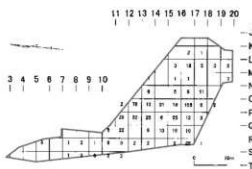
土器全体 1,622点



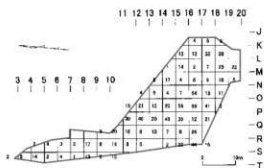
Ⅲ群a類土器 699点



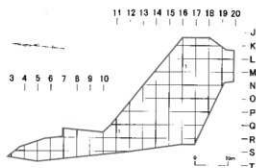
Ⅳ群a類土器 705点



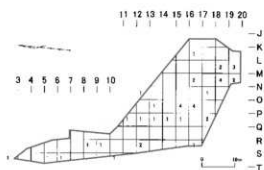
石器全体 1,078点



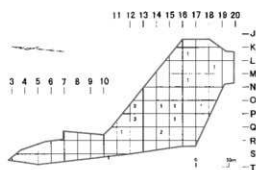
石鏃(片) 2点



スクレイパー(片) 42点

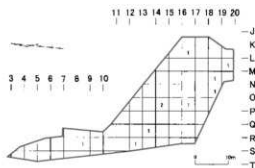


Rフレイク 16点

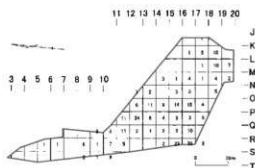


図Ⅳ-18 グリッド別点数(1)

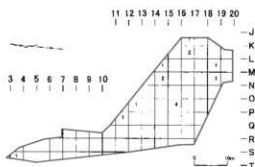
Uフレイク 10点



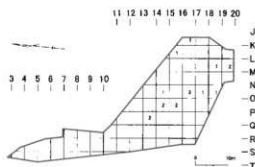
フレイク 317点



たたき石 15点



扁平打製石器 17点



図IV-19 グリッド別点数(2)

表IV-3 A地区遺構一覧

遺構名	調査区	規模(m)		深さ 厚さ	時期	特徴
		確認面の長軸長×短軸長/ 床面(坑底面)の長軸長×短軸長				
住居	AH-1	Q・R-6	(2.77)×(1.82)/(2.36)×(1.52)	0.96	縄文時代中期前半	AP-14と重複
土坑	AP-1	R-14・15	0.77×0.52/0.60×0.40	0.26	中期前半もしくは後期前葉	根穴の可能性あり
	AP-2	R-16	0.81×0.66/0.62×0.51	0.11	縄文時代後期前葉	大津式底部片出土
	AP-3	R-13	1.11×0.97/0.78×0.71	0.20	中期前半もしくは後期前葉	
	AP-4	Q-15	0.83×0.75/0.50×0.44	0.17	縄文時代後期前葉	大津式土器出土
	AP-5	Q・R-15	0.72×0.70/0.57×0.50	0.18	縄文時代後期前葉	大津式土器出土
	AP-6	O-16	0.55×0.41/0.37×0.22	0.24	縄文時代中期前半	根穴の可能性あり
	AP-7	N-16	0.83×0.28/0.65×0.17	0.10	縄文時代中期前半	根穴の可能性あり
	AP-8	S-11	0.64×0.50/0.33×0.31	0.44	縄文時代後期前葉	大津式土器出土
	AP-9	R-16	0.35×0.34/0.29×0.28	0.22	縄文時代中期前半	
	AP-10	R-10・11	1.10×0.72/0.78×0.50	0.34	中期前半もしくは後期前葉	
	AP-11	R・S-4・5	2.42×2.16/1.90×1.76	0.32	中期前半もしくは後期前葉	
	AP-12	R-7	(1.56)×(1.06)/(1.10)×(0.78)	0.69	中期前半もしくは後期前葉	
	AP-13	R・S-3・4	1.76×1.72/1.42×1.48	0.73	中期前半もしくは後期前葉	フラスコ状土坑
	AP-14	R-6	(0.96)×(0.91)/0.72×0.68	0.60	中期前半もしくは後期前葉	フラスコ状土坑
	AP-15	R-5・6	1.32×1.32/1.18×1.12	0.38	中期前半もしくは後期前葉	
焼土	AF-1	M-18・19	0.56×0.52	0.18	中期前半もしくは後期前葉	
	AF-2	O-13	0.70×0.49	0.10	中期前半もしくは後期前葉	
	AF-3	S-5	0.70×0.38	0.26	中期前半もしくは後期前葉	まだら焼け
	AF-4	R-7・8	1.17×0.60	0.12	中期前半もしくは後期前葉	

表IV-4 A地区遺構別出土遺物一覧

遺構名	分類	土器		石器等					総計(点)		
		Ⅲ群a類	Ⅳ群a類	Rフレイク	Uフレイク	スクレイパー	フレイク	石皿		礫	
住居跡	AH-1	27		2	1		5	1	9	45	
土坑	AP-2		4							4	
	AP-4		25							25	
	AP-5		12							12	
	AP-6	8								8	
	AP-7	1								1	
	AP-8		26						1	27	
	AP-9	2					1			3	
	AP-11	2	2						125	129	
	AP-12						1			1	
	AP-13	1								1	
	AP-14						1	2	1	4	
	AP-15								1	1	
	焼土	AF-1	8	1							9
		AF-4	1							2	3
		総計	50	70	2	1	1	9	1	139	273

表IV-5 A地区 掲載土器一覧(復元土器)

図番号	分類	遺跡名	グリッド	遺物番号	器種	復元点数	器種別 点数	同一器種 最大数	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	施文特徴	器形	出土の 主な器入物
IV 10 2	IVa(大形)	A P 4		1	甗土	24	24		25.0	10.3	23.4	無文	平縁・中形深鉢	分級の良い(甲数多い) (石丸・鹿野・チャート)
				2	甗土	24	24							
IV 10 3	IVa(大形)	A P 5		15	甗土	12	12		—	—	(12.3)	曹野陶文によるS字 「カニのハサミ」?	底なし・底縁のみ	分級の良い(甲数多い) (鹿野・チャート)
				16	甗土	9	9							
IV 11 8	IVa(大形)	A P 8		4	甗土	3	3		(28.2)	(14.1)	(28.5)	二段の文様帯 乙文字・無文兼用	口縁や中身反 大形深鉢	分級の良い(甲数多い) (鹿野・チャート)
				5	甗土	7	7							
IV 11 9	IVa(大形)	A P 8		2	甗土	1	1		(28.0)	—	(23.0)	胴部に一段の文様帯 乙文字	口縁わずかに外反 中形深鉢	分級の良い(甲数多い) (石丸・鹿野・チャート)
				3	甗土	2	2							
IV 12 1	遺物 (大安在B)			7	甗土	1	1		23.5	—	(23.0)	胴部に数行帯 短知脚・高背文	底縁あり・深鉢	分級の悪い(甲数多い) (鹿野・鹿野君)
				15	甗土	1	1							
				16	甗土	1	1							
				18	甗土	1	1							
				20	甗土	1	1							
				21	甗土	1	1							
				22	甗土	1	1							
				23	甗土	1	1							
				24	甗土	1	1							
				25	甗土	1	1							
				26	甗土	1	1							
				27	甗土	1	1							
				28	甗土	1	1							
				29	甗土	1	1							
				30	甗土	1	1							
				31	甗土	1	1							
				32	甗土	1	1							
				33	甗土	1	1							
				34	甗土	1	1							
				35	甗土	1	1							

表IV-6 A地区掲載土器一覧(拓本土器)

図番号	分類	遺跡名	グリッド	遺物番号	器種	復元点数	器種別 点数	同一器種 最大数	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	施文特徴	器形	出土の 主な器入物
IV 13 1	遺物 (大安在B)			7	甗土	1	1		23.5	—	(23.0)	胴部に数行帯 短知脚・高背文	底縁あり・深鉢	分級の悪い(甲数多い) (鹿野・鹿野君)
				15	甗土	1	1							
				16	甗土	1	1							
				18	甗土	1	1							
				20	甗土	1	1							
				21	甗土	1	1							
				22	甗土	1	1							
				23	甗土	1	1							
				24	甗土	1	1							
				25	甗土	1	1							
				26	甗土	1	1							
				27	甗土	1	1							
				28	甗土	1	1							
				29	甗土	1	1							
				30	甗土	1	1							
				31	甗土	1	1							
				32	甗土	1	1							
				33	甗土	1	1							
				34	甗土	1	1							
				35	甗土	1	1							

V章 館野2遺跡B地区の調査

1 調査結果の概要

館野2遺跡B地区で検出された遺構は、住居跡12軒、土坑87基、焼土32か所、柱穴状小土坑85基、集石13か所、方形柱穴列2か所である(図V-1-1)。これらは概ね段丘の縁にあたる部分に広がって検出されているが、やや細かく見ると住居跡を中心とした三か所の集中域に分けることができる。一つには北側斜面、二つには東側平坦面、三つは南側調査区境界付近である。伴う住居は北側がBH-1~5、8。東がBH-9~11。南がBH-6、7、12となっており、中心となる時期は、北が縄文時代中期前半~後半。東が縄文時代中期前半および後期前葉。南が縄文時代中期前半~後半の時期である。南北のまともりは長軸6mほどの隅丸方形の住居跡1軒を中心とし、周囲に長軸3m程度の小型住居、直径1mほどの土坑を伴うというやや類似した構成をとるのに対し、東のまともりは、中型の住居と多数の土坑と小柱穴、焼土、集石で構成されている。

出土した遺物の総点数は110,430点である。土器においてはIV群A類土器が最も多く、91,454点であり、全遺物の83%をしめる。ついで多いのがIII群土器で、A類6,100点、B類1,145点が出土している。石器は、石鏃99点、スクレイパーが360点、たたき石が201点、扁平打製石器79点、石皿・台石が77点などとなっており、多く出土する縄文時代中期、後期前葉のものが多いとみられる。

表V-1 B地区検出遺構一覧

住居跡 (BH)	12	フレイク・チップ集中域 (BFC)	1
土坑 (BP)	87	柱穴状小土坑 (BSP)	85
焼土 (BF)	32	集石 (BS)	13

表V-2 B地区出土遺物点数一覧

遺物名	土器						石器等													
	II b	III a	III b	IV a	IV c	V	VI	石鏃 (片)	石楯 (片)	石鏃	つまみ付きナイフ (片)	スクレイパー	両面調整石器	Rフレイク	Uフレイク	石核	フレイク	石斧・石のみ (片)	石斧原石	
遺構	20	2091	525	2676	0	0	0	23	2	1	3	51	3	24	17	4	882	16	0	
包含層	37	4069	620	88778	38	8	2	76	9	8	13	309	5	234	169	45	5420	32	2	
表採	0	2	0	389	0	0	0	2	0	0	1	6	1	10	2	0	85	1	0	
計	57	6100	1145	91454	38	8	2	99	11	9	18	360	8	258	186	49	6302	48	2	
遺物名	石器等																			
	たたき石 (片)	すり石 (片)	扁平打製石器 (片)	北海道式石冠 (片)	石皿・台石 (片)	砥石 (片)	石鏃	加工痕ある礫	原石	土製品類	焼成粘土塊	円形・三角形礫石器	石刀	線割礫	有孔自然石	石製品	砂利	礫	礫片	総計
遺構	19	3	20	0	35	1	0	10	3	3	3	2	0	0	5	0	2730	677	252	10108
包含層	182	17	59	7	42	12	2	55	30	20	92	50	4	1	8	9	3727	4133	739	99816
表採	1	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	506
計	201	20	79	7	77	13	2	65	33	23	95	52	4	1	13	9	6457	4810	991	110430



图 V-1-1 B 地区通構配置図

2 住居跡

住居跡は12軒検出した。BH-3、6はともに隅丸方形で支柱穴4本、長軸6m弱で、規模、規格、長軸方位についてはほぼ同じものであり、縄文時代中期前半の時期とみられるものである。そのほかは4m以下のやや小規模なもので、平面形で分類すると、先端ビットらしき土坑のあるもの（BH-1、2、11、12）。円形を呈するもの（BH-4、7）楕円形に近い形状で張り出しのあるもの（BH-10、12）そのほかの形状のもの（BH-5、8、9）である。このうちBH-8は縄文時代後期前葉のものともみられ、BH-2、9はその可能性があるもの。それ以外は縄文時代中期前半もしくは後半のものである。

BH-1（図V-2-1、2、表V-4、5、7、8、図版20、59、77）

位置 N-29-c・d、N-30-a・b 規模 3.10×2.52/2.28×2.18/0.48m

平面形態 卵形

確認 調査区北部の斜面に位置する。濁水処理施設の沈砂池部分にあたる、N-29、30区において、IV層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。付近を精査すると、落ち込みは不明瞭ではあるが半円形を呈し、西側の調査区外に延びていることがわかった。

調査 調査区境に沿った南北方向にトレンチを設定し、さらに半円の中心を通るように直交するトレンチを追加して掘り下げた。その結果、南北方向のトレンチにおいて明瞭な壁、床が検出された。直交するトレンチにおいては、明瞭な立ち上がりが認められなかったため、土層の記録を作成したのち南北トレンチから壁の立ち上がりを追い調査した結果、直交トレンチでも立ち上がりを概ね把握することができた。壁は北東端で不明瞭に落ち込んでおり、切り合う土坑を想定してベルトを残して掘り下げると、床面より約15cm深く掘られたほぼ円形の坑底を確認した。土坑はちょうど長軸の先端に位置することから、いわゆる先端ビットと判断し、HP-1とした。

調査区内では、全住居の2分の1を調査できた。西側クリアランス部分に延びた部分も調査可能と判断し、拡張して調査することにした。結果、全周する壁を検出し、卵形を呈する全輪郭を捉えた。

覆土 7層に区分した。Ⅲ層1、2としたものはレンズ状に堆積するⅢ層上位相当の黒褐色土である。3、4層は暗褐色～黒褐色土に黄褐色土を混じる汚れた土である。6、7層はHP-1の堆積土である。各層から出土した遺物は、Ⅲ1、2層がⅢ層くぼみとして、3層を覆土1層、4、5層を覆土2層として取り上げている。掘り込み面は断面の観察と覆土の状態からⅢ層中位もしくはそのやや下であるとみられる。

壁 住居南側であるN-30区付近においてやや不明瞭である他は、極めて明瞭に立ち上がりを確認できた。卵形を呈する平面形は、南西端においてほぼ直線を呈しており、その直線部及び東側中央部付近までの範囲の壁際に、やや不明瞭ではあるが溝が1条めぐっている。

床面 中央部がやや低くなっているが概ね平坦である。なお床面は根幹状の細かい起伏が全面に認められる。住居廃絶後の自然変化によるものとみられる。

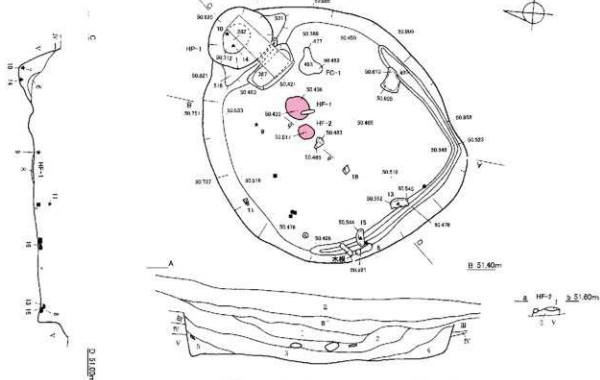
炭化材 出土していない。

付属遺構 覆土中から住居北東側のHP-1の南に接しフレイク・チップ集中域を1か所、ほぼ住居中心に焼土HF-2を検出した。また床面においては、焼土HF-1を検出した。

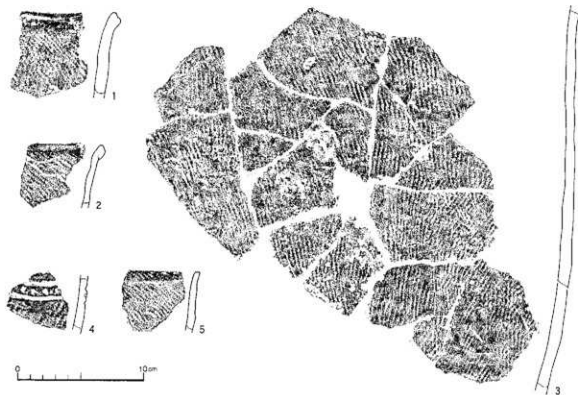
・**地床炉** 住居中央よりややHP-1により、不明瞭な焼土1か所が検出されている。

・**先端ビット** 北東部に1基検出しHP-1とした。住居中心より、長方形の浅い落ち込みを伴う。

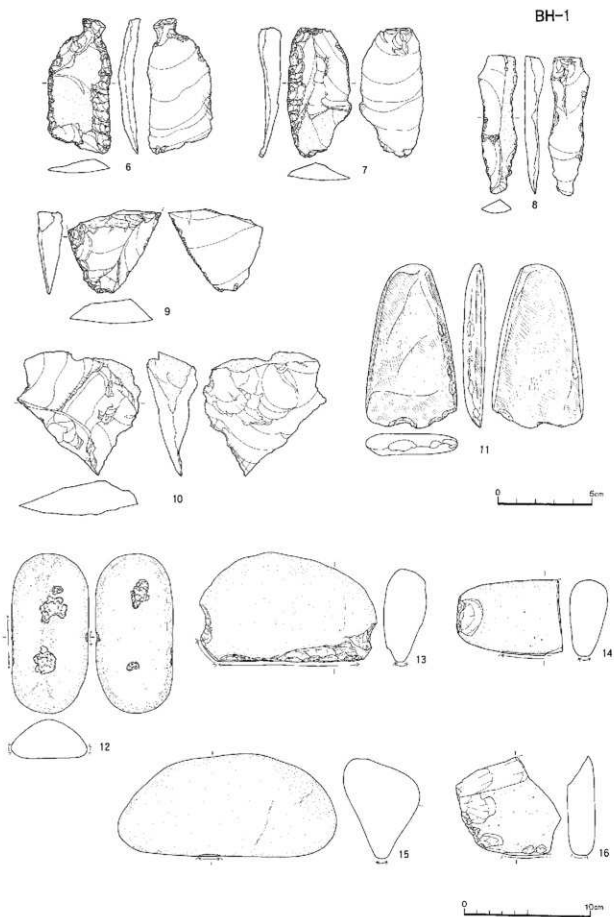
BH-1



- BH-1 II 褐色 (I) (IV22/1) 粘土なし、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石
- B' 褐色層 (I) (IV26/2) 粘土なし、中～小粒の石、灰白色土、灰白色土、灰白色土、灰白色土、灰白色土
- I 灰褐色 (I) (IV22/1) 粘土あり、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石
- 2 褐色 (I) (IV22/1) 粘土あり、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石
- 3 灰褐色 (I) (IV22/2) 粘土なし、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石
- 4 灰褐色 (I) (IV22/2) 粘土なし、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石
- 5 灰褐色 (I) (IV22/2) 粘土なし、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石
- HP-1 I 灰褐色 (I) (IV22/1) 粘土なし、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石
- HP-1 II 灰褐色 (I) (IV22/2) 粘土なし、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石
- HP-2 I 灰色 (I) (IV22/1) 粘土あり、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石
- HP-2 II 灰褐色 (I) (IV22/2) 粘土あり、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石、中～小粒の石



図V-2-1 BH-1(1)



図V-2-2 BH-1(2)

・柱穴 検出されていない。

遺物出土状況 Ⅲ層1, 2とした層から礫などの遺物がややまとまって出土しており、Ⅲ層くぼみの遺物として取り上げた。この層からは、土器はⅢ群a類が36点、Ⅲ群b類土器5点、Ⅳ群a類土器1点等が出土している。覆土からは、Ⅲ群a類土器58点、Ⅲ群b類土器17点、Ⅳ群a類土器1点、スクレイパー2点、石斧1点、Rフレイク2点、フレイク32点、礫・礫片9点が出土している。床面、床面直上からはⅢ群a類土器1点、スクレイパー2点、石斧1点、扁平打製石器2点、すり石1点、フレイク4点、礫1点が出土している。またHP-1の坑底から、扁平打製石器とUフレイクが各1点出土している。

時期 住居の形状、出土遺物などから、縄文時代中期後半のものとみられる。

掲載遺物：土器 1～3はⅢ群b類。1、2は口縁部。1は口唇に沿って沈線が付けられている。2の口唇部分はなでつけられ無文である。3は胴部片。1と同一個体かもしれない。やや節のつぶれたRL斜行縄文を地文としている。4、5はⅣ群a類。4は沈線と刺突文により文様が描かれるもの。5は薄手の口縁部。口唇はやや肥厚し節の細かいRL斜行縄文を地文とする。

掲載遺物：石器 6はつまみ付きナイフ。素材の原石面を残し、背面側右側縁が調整される。7～9はスクレイパー。10はUフレイク。11は石斧である。刃部が欠けているが、丁寧に研磨されている。12はたたき石。素材となった扁平礫の背腹両面に弱い敲打痕がある。13、14、16は扁平打製石器。13は使用面付近が打ち欠かれているもの。14、16は破片。素材長辺の両端のみ打ち欠かれており、すり面の幅が広いもの。15は素材の断面が三角形となるすり石である。7～10、13～16は床面、床面直上からの出土である。

BH-2 (図V-2-3、表V-4、5、7、8、図版20、59、78)

位置 P-32-c・d、Q-32-d 規模 2.16×1.80/(1.64)×1.54/0.30m

平面形態 隅丸方形

確認 調査区北側の平坦面に位置する。濁水処理施設の側溝部分であるP-32区において、Ⅳ層上面を調査中、やや不明瞭な黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 調査は濁水処理施設作成時と本調査の2回に分けている。

濁水処理施設部分の調査において黒褐色土の落ち込みを確認した。落ち込みは側溝の範囲を超えて南東側に延びており、平面形は不明瞭であった。このことから落ち込みを付近で多く検出されていた自然擾乱と考え、そのまま掘り下げた。すると、落ち込みのほぼ中央に焼土を確認した。改めて断面を精査すると、極めて不明瞭ながらも壁の立ち上がりを確認した。残っていた覆土を、遺物を残しながら掘り下げた結果、床、壁を確認した。落ち込みの中心に焼土を伴うことから住居と判断した。側溝部分の壁面にあたる部分で土層断面を記録した。

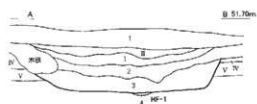
本調査において、P-32区のⅢ層下部からⅣ層上面で精査し、住居の輪郭を捉えた後、遺物を残しながら残る部分の壁、床を確認した。

覆土 4層に区分した。上から2層はⅢ層上位相当とみられる黒褐色土である。その下位の3層は黄褐色土がブロック状に混じる黒褐色土である。4層は地床炉HF-1、赤褐色土粒子が多く混じる黄褐色土である。各層から出土した遺物は、Ⅲ層上位相当の1、2層は、Ⅲ層くぼみ出土とし、3層は覆土1層出土としている。断面の観察および土層の状況から、掘り込み面はⅣ層上面もしくはそのやや上位であるとみられる。

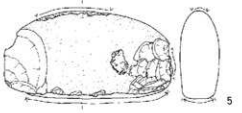
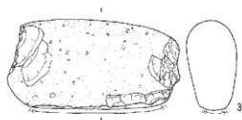
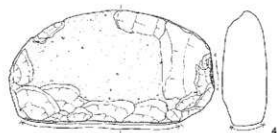
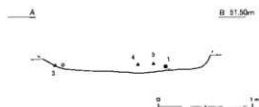
壁 全周して緩やかに立ち上がる。南半分はやや角度が急である。

床面 概ね平坦であるが、根跡状の細かい起伏が多い。

BH-2



- BH-2 1 炭褐色 (EY72/1) 軽微なしまがた。
 2 黒褐色 (EY72/2) 軽微な、中央より外周 黄褐色上アフリックを中量程度に含む。
 3 暗褐色 (EY72/3) 軽微な、ややまじりの 黄褐色上アフリックを多量に含む。赤土層が少量混入。
 HF-1 4 暗褐色 (EY72/3) 軽微な、しまがた。3cm以下の粘土質、炭化物を多量に含む。



図V-2-3 BH-2

炭化材 焼土HF-1及びその周囲の堆積に含まれる微細な炭化物以外には出土していない。

付属遺構 炉跡HF-1、北西端側に先端ビット状の土坑を確認した。

・**地床炉** 地床炉HF-1を確認した。住居のほぼ中心に位置する小規模な焼土である。

・**先端ビット** 隅丸方形を呈する平面形の中心線上の北西側端に土坑がある。土坑は不整な楕円形を呈し、床面よりやや低く坑底が作られている。

・**柱穴** 検出していない。

遺物出土状況 III層落ち込みから扁平打製石器が2点出土している。覆土1層から出土した遺物は、IV群a類土器4点と礫5点が出土している。床面からIV群a類土器が1点、扁平打製石器3点、礫が1点出土している。

時期 床面出土の土器と周囲の遺物出土状況から、縄文時代中期後半または後期前葉のものである。

る可能性がある。

掲載遺物：土器 1は床面直上から出土したIV群a類の胴部片。RL斜行縄文を地文とする。2は覆土から出土したⅢ群b類の底部片。縦位の沈線が施されている。

掲載遺物：石器 3～5は扁平打製石器。素材礫の長辺端にのみ顕著な打ち欠きがあるもの。いずれもすり面の幅は広く、3が最大1.7cm、4、5は2cm以上ある。5はたたき石と複合している。

BH-3 (図V-2-4～10、表V-4～8、図版21、22、59～61、78、79)

位置 L-30-c、L-31-b、M-30-b・c・d、M-31、N-30-a・d、N-31-a

規模 5.68×4.12/5.28×3.58/0.46m

平面形態 楕円形

確認 調査区北部の緩斜面に位置する。濁水処理施設部分の調査において、M-31区のⅢ層下部を調査し、黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みはM-31区を越えて広がっていたため、隣接するグリッドを検出面まで掘り下げた。その結果、明瞭な隅丸長方形の落ち込みを確認することができた。落ち込みの長軸に加え、概ね三等分した位置に直交するトレンチを2本設定し黒褐色土を掘り下げた。

その結果、明瞭な壁、床を検出した。落ち込みの上位で確認したHF-2を調査した後、土層断面の記録を作成し、覆土の堆積の順を追い、遺物を残しながら掘り下げを行なった。

炭化材、遺物の取り上げを行なったのち、付属施設の調査を行い、写真撮影、測量を行い、調査を終了した。0.8m北にBP-10が、0.6m南東にBP-2が、1m西にBP-3が位置している。

覆土 5層に区分した。1層はⅢ層上部に相当する黒褐色土である。この堆積から出土した遺物はⅢ層くぼみとして、他のⅢ層のものとは区別している。2、3層は黄褐色土ブロックが混じる暗褐色土、灰黄褐色土である。いわゆる汚れた土であるが、他遺構の堀上土、もしくは住居構造の土などの可能性がある。これらのことから、掘り込み面はⅢ層中位であるとみられる。

壁 全周で検出できた。南側でやや傾斜がゆるいほかは急激に立ち上がっている。

床面 中心の炉跡付近、及び西側HP-2付近がやや低くなっている。

炭化材 覆土2、3層において、微細な炭化物が多く出土したが、残りのよいものはHP-2付近の図化したもののみである。

付属遺構 柱穴7基、焼土6か所を確認した。焼土のうち2か所は覆土中に形成されたものである。

・**地床炉** 床面において4か所の焼土を確認したが、位置関係から、HF-5としたものが、地床炉の可能性のあるものである。

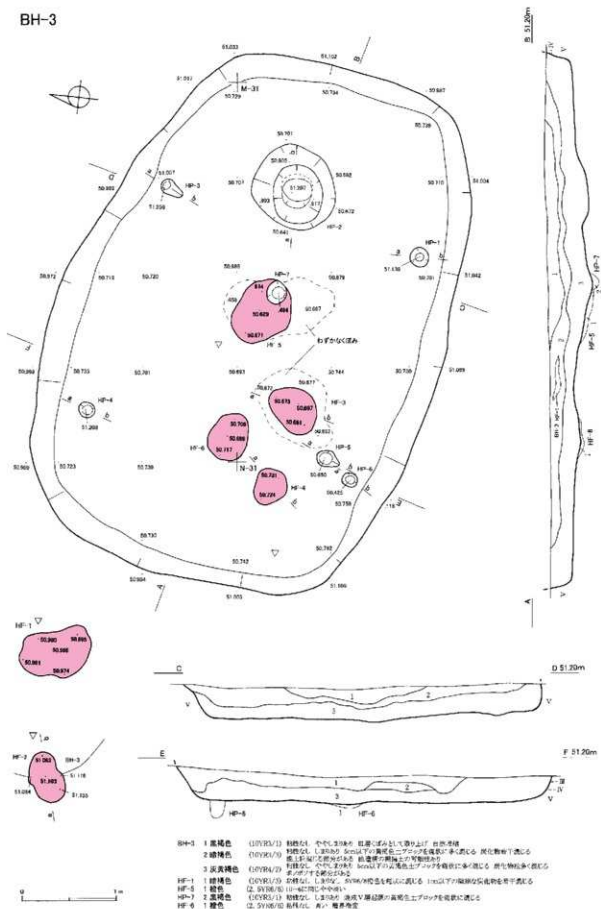
・**柱穴** 検出した7基のうち、深さと位置から主柱穴とみられるものはHP-1、2、3、4、6である。

このうちHP-2は住居主軸上の住居先頭部側、炉に近い位置にあるといういわゆる「中央ビット」とみられる。

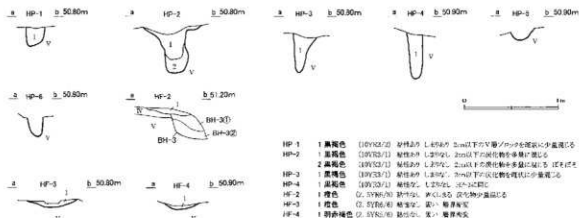
遺物出土状況 Ⅲ層くぼみから出土している遺物は、土器がⅡ群b類土器1点、Ⅲ群a類土器121点、Ⅲ群b類土器5点、IV群a類土器3点、石器はスクレイパー2点、Rフレイク2点、Uフレイク1点、フレイク37点、礫・礫片が25点出土している。覆土からは、土器はⅡ群b類土器1点、Ⅲ群a類土器181点、Ⅲ群b類土器7点、IV群a類土器5点が出土し、石器は石鎌3点、スクレイパー7点、Rフレイク2点、Uフレイク5点、石核2点、フレイク60点のほか礫石器では、たたき石3点、扁平打製石器2点、加工痕ある礫3点、石皿片1点が出土している。礫・礫片が8点出土している。

床面からは、土器はⅢ群a類土器29点が出土し、石器は石鎌1点、スクレイパーが16点、両面調整石器2点、石斧が1点、たたき石1点、扁平打製石器2点、フレイクが30点出土している。砂利を含

BH-3



図V-2-4 BH-3(1)



図V-2-5 BH-3(2)

むろ・礫片が11点出土している。これらの床面からの出土遺物は、やや壁際に寄って出土する傾向がみられる。

時期 床面出土の土器から、縄文時代中期前半、見晴町式の時期のものとみられる。なお、地床炉HF-4から出土した炭化材をAMS法により年代測定を行なったところ、補正年代 $4,450 \pm 30 \text{Y.b.p}$ (IAAA-102910)、 $4,380 \pm 30 \text{Y.b.p}$ (IAAA-102911)の年代を得た。

掲載遺物：土器 3, 4はⅡ群b類。燃糸文を地文とする。4は底部。1, 2, 6~11, 14~16はⅢ群a類。1は口縁部全周の約3分の2が残存する。4か所の山形突起が付く。口唇には篋状工具による刻みが施される。刻みは突起部分には縦位に、それ以外には斜位につけられている。2は3か所の小ぶりの突起が付くもの。胴部がやや膨らむ深鉢である。突起の頂部には粘土紐の貼りつけによる文様がつけられている。口唇直下には器形に沿って2条の沈線がめぐられ、突起下にのみ下位に弧状の沈線と垂下する沈線が加えられている。施文順は突起下の文様が先とみられる。

5は小型のもの。口唇部分は波状を呈し無文である。6は床面から出土したもの。平緑の口縁部。口唇は切出状に整形され、平坦面に棒状工具による浅い沈線が付けられている。7は床面から出土したもの。RL斜行縄文を地文とする胴部片。8は口縁部がわずかに残る胴部。砲弾型で緩やかな形状である。地文はRL斜行縄文。器面全面に施文される。9は平緑の口縁部。10は胴部下半。RL斜行縄文を地文とする。11は底部。器壁は急激に立ち上がる。

12, 13はⅢ群b類。12は山形突起の頂部。頂部は渦状に抉られ、口唇に沿って太く深い沈線が付けられている。13はRL縄文の条が横走するように施されるもの。小ぶりの突起が付き、突起部分は粘土紐貼りつけにより加飾されている。

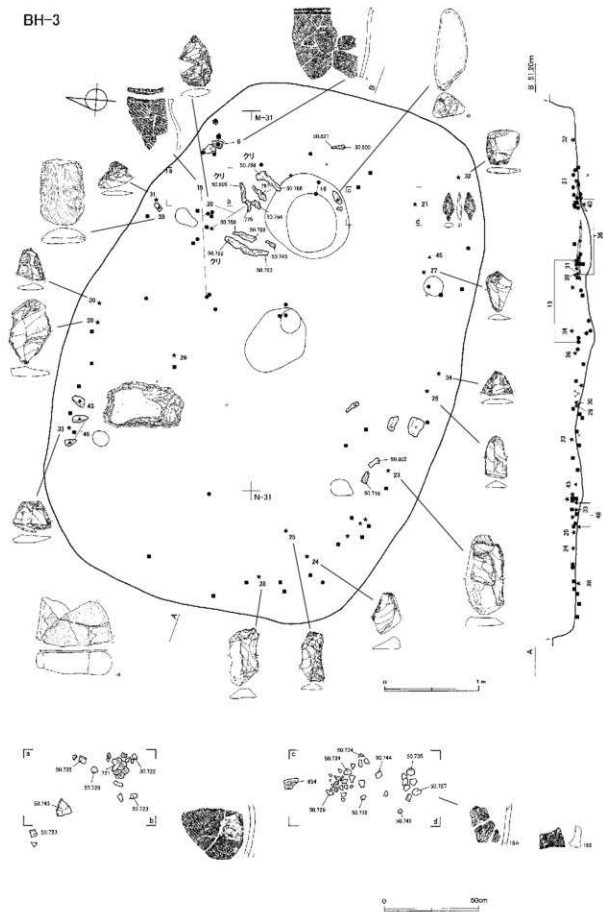
14~16はⅢ群a類。14は口唇に沿って縄線が付けられる。15は床面から出土したもの。壺様の器形を呈する。口唇端部は粘土紐貼付により肥厚している。16A, Bは同一個体。床面から出土したもの。やや張り出す底部。地文はLR斜行縄文、やや深く付けられ、内面は丁寧に磨き上げられている。

17はⅢ群b類。底部付近。比重が軽く、表面は蛇紋岩のようなぬめりがある。

18~20はⅣ群a類としたもの。18は口唇突起部分。無節の縄文が施されている。19は折り返し口縁。20は口唇頂部と口縁に沿って小さな円形の刺突文が連続施文されている。20はⅢ群土器の可能性もある。

掲載遺物：石器 21, 22は石鏃。21は有茎のもの。22は菱形から木の葉形を呈するもの。いずれも比較的調整が粗く、やや厚手に作られている。23~35はスクレイパーである。23~28, 30は概ね縦長の

BH-3



図V-2-6 BH-3(3)

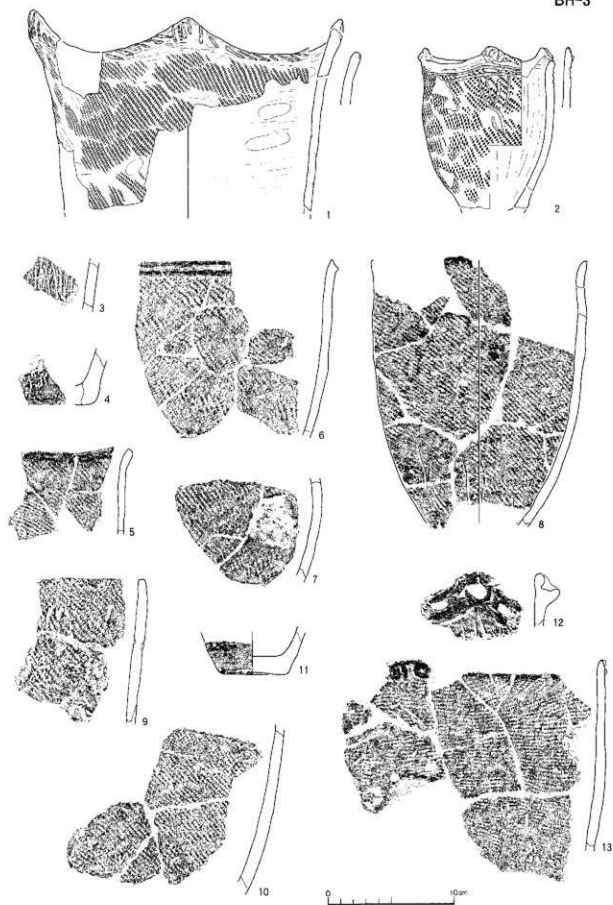


图 V-2-7 BH-3(4)

BH-3

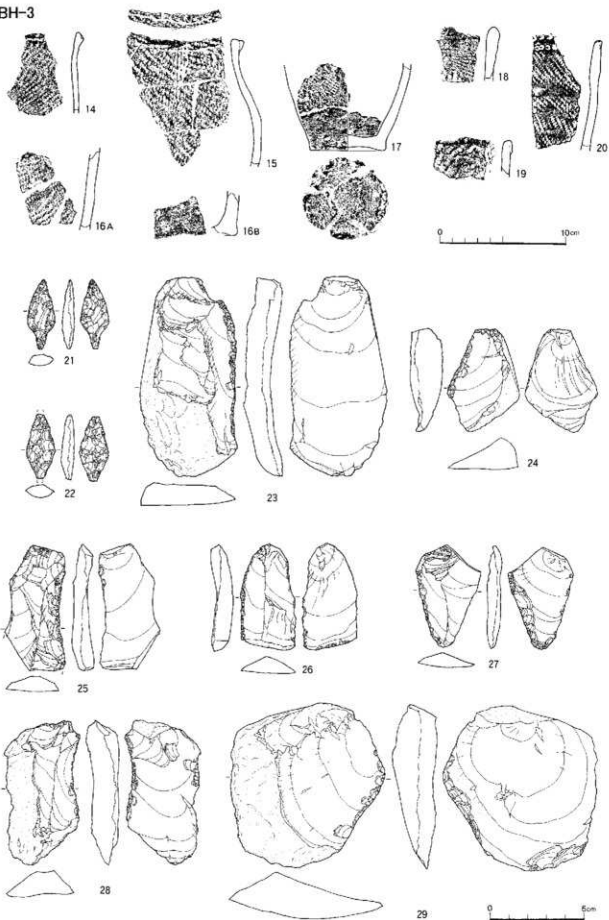


図 V-2-8 BH-3(5)

BH-3

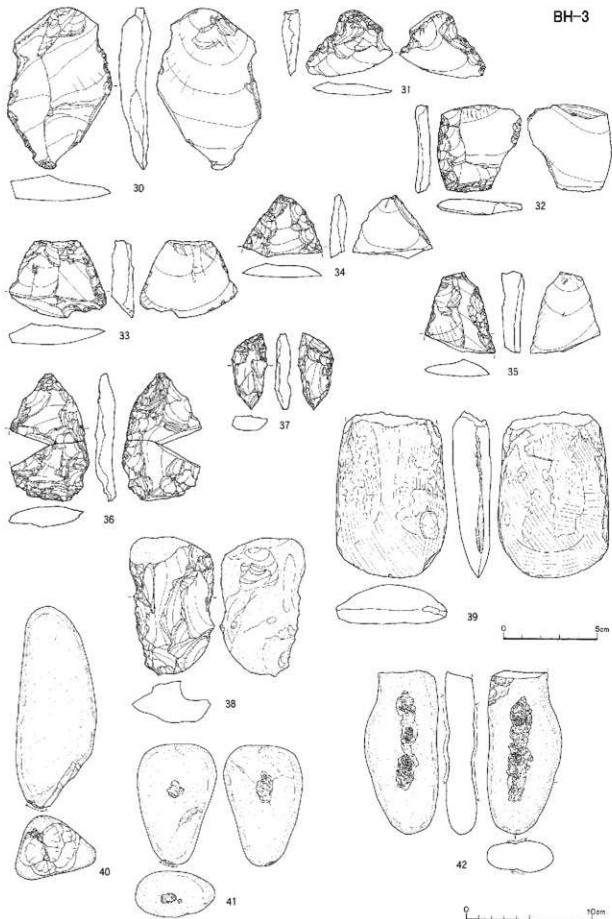
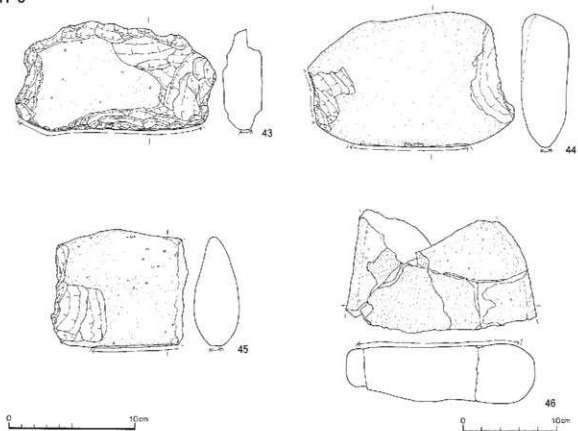


图 V-2-9 BH-3(6)

BH-3



図V-2-10 BH-3(7)

剥片を素材としているもの。23は刃部がやや張り出すもの。24、26、27は概ね直線状の刃部を持つもの。25、28はやや挟まれる刃部のもの。29、31はやや幅の広い剥片を素材としているもの。32～35は破片もしくは刃部の幅が短いものである。

36は両面調整石器。37はRフレイク。いずれも石鏃または石槍の未製品の可能性がある。38は石核である。拳2分の1ほどの原石を用いている。39は石斧。片岩製。基部を欠損する。

40～42はたたき石。40は素材礫の端部に敲打痕があるもの。41は端部のほか、背腹にも敲打痕が認められるもの。42は素材の背腹に敲打痕があり、重複の結果くぼみが生じているもの。43～45は扁平打製石器。43は周縁全体が半円状に加工される狭義のもの。44は素材礫をほぼそのまま用い、両端が打ち欠かれているもの。45は破片であるが、長辺にのみ打ち欠かれているもの。46は石皿、床面と覆土出土の破片が接合している。

BH-4 (図V-2-11、12、表V-4～8、図版23、61、79)

位置 M-29 規模 2.46×(2.04) / 1.84×1.88 / 0.36m

平面形態 円形

確認 調査区北部の斜面に位置する。濁水処理施設部分の調査において、M-29区のIV層上面を精査していたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みはほぼ円形を呈していた。中心を通るようにトレンチを設定してV層まで掘り下げると、明瞭な壁の立ち上がりを確認したため、住居とした。土層断面図を記録した後、覆土を掘り下げ、壁、床を検出した。

BH-4

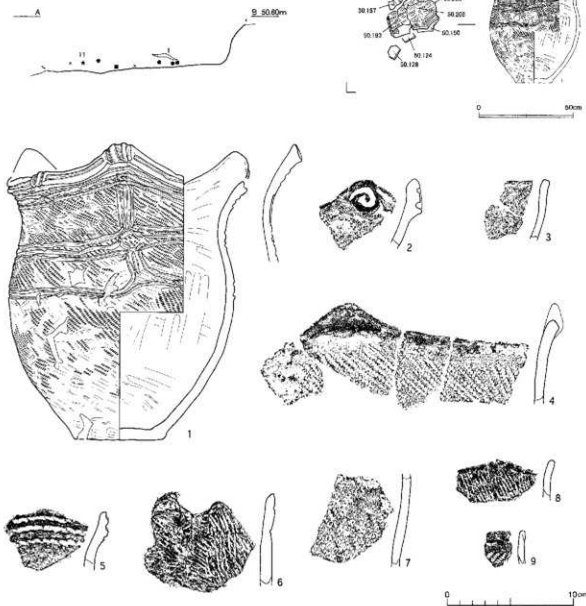
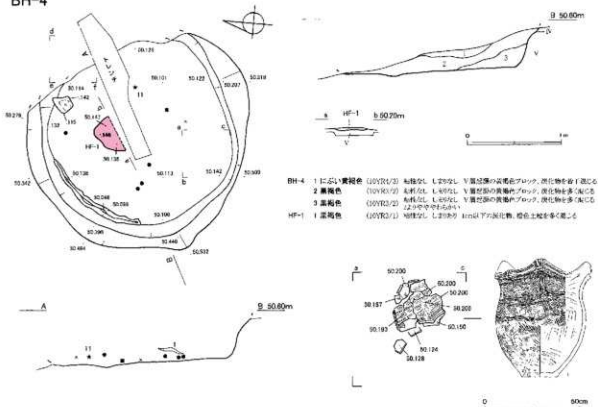
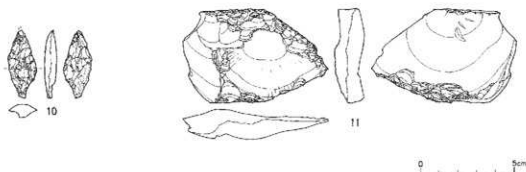


図 V-2-11 BH-4 (1)

BH-4



図V-2-12 BH-4(2)

覆土 3層に区分した。1層とした最上位の堆積は、黄褐色土、炭化物が混じる暗褐色土である。下位の2層は黄褐色土、炭化物の混じる黒褐色土で、いわゆる屋根土とみられる汚れた土である。掘り込み面は検出面より上位である。

壁 北東側を除く全範囲で明瞭な立ち上りを確認した。確認できた範囲では、床面から約20～30cm急激に立ち上がり、それ以上では緩やかになっている。

床面 床面は概ね平らであるが、根跡状の微細な起伏が多く、でこぼこしている。

炭化材 覆土中から微細な炭化物が多く出土しているのみである。

付属遺構 溝を1条、地床炉を1か所確認した。溝は床面の起伏が多く、不明瞭ではあったが、北西側の壁際、全周の約5分の1程度の範囲で検出した。最深部分で5cm程度の浅いものである。

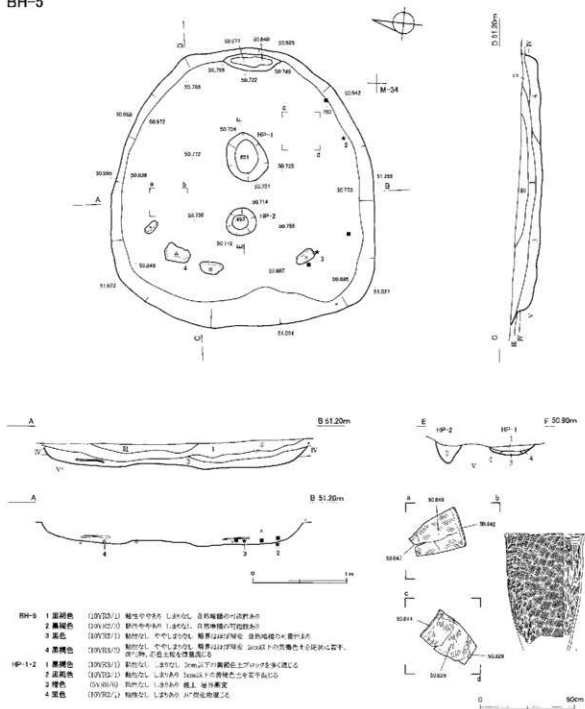
- ・地床炉 住居の中央よりやや北東よりの部分で検出した。覆土2層とみられる黒褐色土中に橙褐色土粒子の混じる弱い焼土である。
- ・先端ビット 検出していない。
- ・柱穴 検出していない。

遺物出土状況 覆土からは、Ⅲ群a類土器が58点、Ⅲ群b類土器1点、石鏃1点、フレイク9点、礫が6点出土している。床面西壁際にⅢ群b類土器が口縁部を壁に向けた状態で出土している。床面からはこのほかⅢ群a類土器7点、Ⅲ群b類土器5点、両面調整石器1点、フレイク2点、礫2点が出土している。

時期 床面出土の土器から、縄文時代中期後半、椋林式の時期のものとみられる。

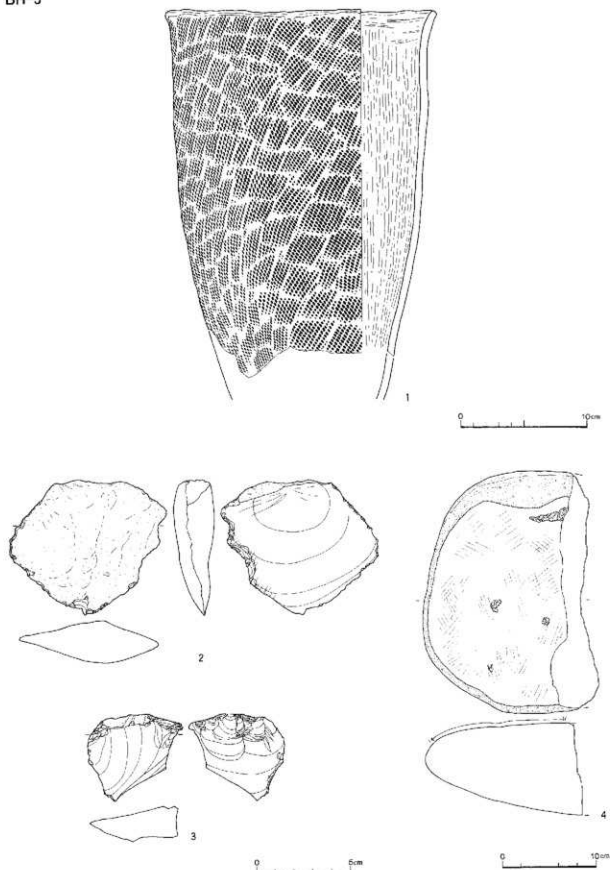
掲載遺物：土器 1は床面から出土したⅢ群b類土器。胴部が膨らむ深鉢。口唇は肥厚し、三ツ山の突起が付く。口唇平坦面に太く深い沈線がめぐらされ、突起の頂部と中間点の一つに分断するように縦に沈線が付けられる。口縁下から胴部中央の最大幅付近まで間隔をあけて三単位、3条、3条、2条一組の沈線がめぐらされており、突起下にはその沈線をつなぐように縦に3条の沈線が付けられ、中央の交点には円文が描かれている。2、4、5、7、8はⅢ群b類。2は突起部分。太い右回りの渦文が描かれている。4は口縁部。口唇は肥厚しなでつけられ無文である。5は3条の縄線がつく口縁部。7は4と同一個体の可能性がある。8は燃糸文が施文される口縁部。波状を呈する。3はⅢ群とした。口唇端部が平坦に整形されている。

6、9は覆土2層から出土したⅣ群a類土器。6は口縁部付近。燃糸文を地文とし、同一原体による縄線文がつけられている。9は折り返しによる口縁部。口唇は角型に整形される。



図V-2-13 BH-5(1)

BH-5



図V-2-14 BH-5(2)

掲載遺物：石器 10は石鏃、11は両面調整石器。11は床面から出土したものの、背面と腹面の一部に粗い調整が認められるもの。

BH-5 (図V-2-13、14、表V-4-6、8、図版24、61、79)

位置 L-33-b・c、M-33 **規模** 2.96×2.80/2.62×2.56/0.24m

平面形態 不整形円形

確認 調査区北側の平坦面に位置する。M-33区において、IV層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは円形に近い形状で、その輪郭は北側で明瞭なのに対し、南側では極めて不明瞭であった。周囲で検出されている小規模な円形の住居が想定し、長短軸に合わせてトレンチを設けV層まで掘り下げた。すると床面及びそれに伴う遺物を検出し、北側でやや明瞭に壁の立ち上がりを確認することができたため、住居とした。不明瞭であった南側の壁は北側の壁を延長し、覆土の様子から類推して立ち上がりを設定した。

覆土 4層に区分した。上位3層はⅢ層相当とみられる黒褐色土である。4層としたものは、西側部分の床面に接して堆積する黄褐色土を斑状に混じる黒褐色土である。断面観察、覆土の色調から掘り込み面はⅢ層下部とみられる。

壁 近接する風倒木の影響により、南西部分の床面がやや盛り上がっている。西側において極めて不明瞭な部分があるが、その他についてはやや明瞭な緩やかに立ち上がる壁を検出した。

床面 概ね平坦である。

炭化材 覆土中、及びHP-1付近の堆積に微細な炭化物が出土しているが、住居の構造材とみられるまともは検出していない。

付属遺構 土坑2基を検出した。

- ・**地床炉** 住居中心よりやや東よりの部分において検出した土坑HP-1の坑底近くで焼土を検出した。本住居に伴う地床炉とみられる。
- ・**先端ビット** 検出していないが、本住居の先端に当たる南東端において、溝状にやや深くくぼむ部分がみられる。自然攪乱の可能性もあるが、検出位置を重視するなら先端ビットに類するものとみることできる。
- ・**柱穴** 地床炉としたHP-1の住居長軸線上の中心よりやや西側の部分において、HP-2を検出した。先端の形状がやや尖っており、床面からの深さは約20cmである。

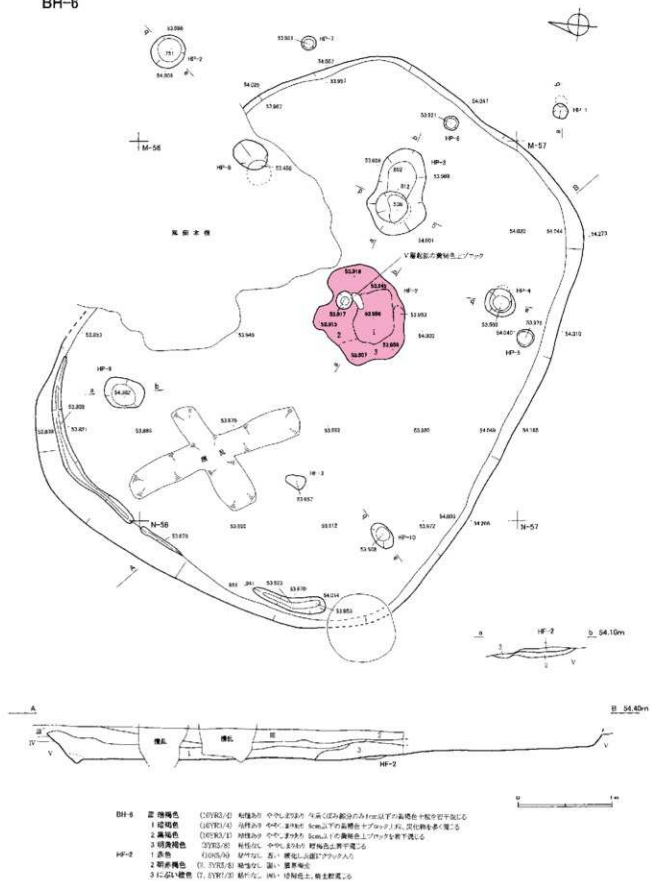
遺物出土状況 住居の落ち込みに伴うⅢ層のくぼみから、Ⅲ群a類土器2点、Ⅳ群a類8点、Rフレイク2点、フレイク1点、礫が10点出土している。覆土からは、Ⅲ群a類土器7点、Ⅳ群a類2点のほか、フレイク4点、礫が6点出土している。床面からは、Ⅲ群b類土器が大きく二つに分かれて出土している(図V-2-13右下)。このほかⅢ群a類土器が37点、スクレイパーが1点、Rフレイクが1点、フレイクが3点出土している。

時期 床面出土の土器から、縄文時代中期中葉、ノダップⅡ式に相当する時期のものとみられる。

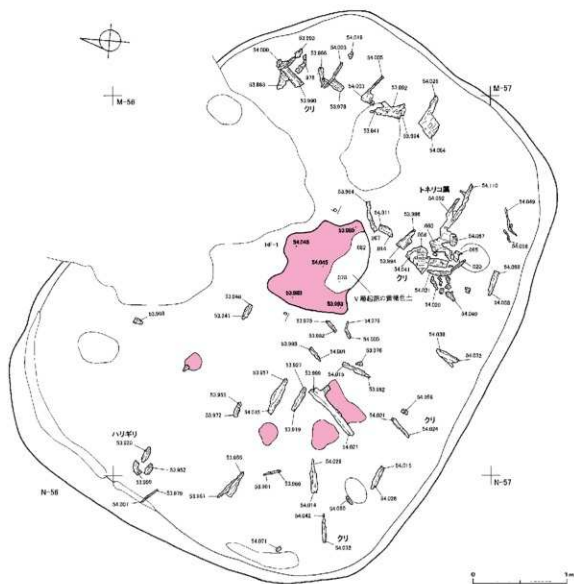
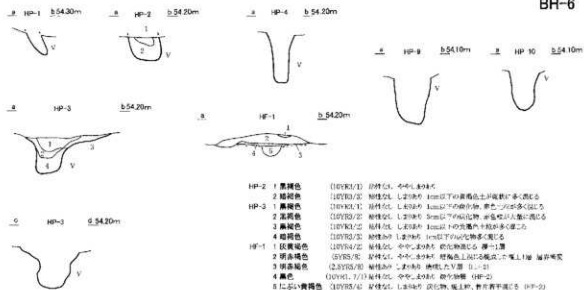
掲載遺物：土器 1は床面から出土したⅢ群b類土器。底部を欠くが、ほぼ全体の器形を復元できた。胴部はほぼ直立し、口縁はわずかに外反している。地文はLR斜行縄文。器面全体に付けられている。やや薄手で内面は丁寧に磨かれている。

掲載遺物：石器 2はスクレイパー、幅広い素材を用い、腹面の左側縁が調整されるもの。調整は二連続する抉入状をなしている。3はRフレイク、腹面の打点付近に粗い調整がなされる。4は石皿。安山岩の扁平な礫を用いている。

BH-6



図V-2-15 BH-6(1)



図V-2-16 BH-6(2)

BH-6 (図V-2-15~27, 表V-4~8, 図版25, 26, 62~65, 80, 81, 122)

位置 L-56-b・c, M-55-c・d, M-56, M-57-a・b, N-55-d, N-56-a・d

規模 5.96×(4.62) / 5.68×(4.44) / 0.28m

平面形態 隅丸方形

確認 濁水処理施設部分と本調査の2回に分けて調査している。調査区南部の平坦面に位置する。濁水処理施設部分の調査において、黒褐色土の落ち込みを確認した。落ち込みは本調査部分に続いていたが、確認できた部分から推定し全長5m以上の住居とみられた。このため全体調査することをあきらめ確認できた部分のみ調査し、残存部分を本調査時に調査することとした。

調査 住居の周囲をV層近くまで掘り下げると、隅丸方形を呈する落ち込みが明確に確認できた。遺物を残しながら覆土を掘り下げ、明瞭な床面を検出することができた。炭化材、遺物、柱穴の記録を作成して濁水処理施設部分の調査を終了した。

本調査部分においては、Ⅲ層下部から5cm単位で慎重に掘り下げ、輪郭が捉えられたⅣ層上面で長軸軸にトレンチを入れて床面まで掘り下げた。その結果、明瞭な壁を確認し、住居全体を捉えることができた。住居は北西-南東方向に長軸のある隅丸長方形を呈し、北東側において風倒木により、また北西側に小規模な攪乱があり、住居の一部が壊されている。BP-76と重複し、北側0.3mにBP-80が、北東0.9mにBS-5が位置している。BP-76との先後関係は不明である。

覆土 3層に区分した。上位には住居の落ち込みに伴うⅢ層が堆積しており、この層から出土する遺物は、Ⅲ層くぼみとして取り上げている。覆土1層は暗褐色土。黄褐色土粒子を斑状にまじる土である。2層としたものも暗褐色土である。炭化物、黄褐色土ブロックを多くまじる土である。3層は黒褐色土である。黄褐色土ブロックが若干まじる。覆土は全ていわゆる屋根土のような、汚れた土で構成されている。掘り込み面は土層の観察から、Ⅲ層中~下部とみられる。

壁 風倒木で攪乱される北部以外のほぼ全周で確認した。北東部でやや緩やかなほかは急である。また北東、及び東部の隅、壁際において浅い溝を1条確認した。

床面 高低差や傾斜はあまりなく、全体として平坦であるが、根跡状の細かい起伏が全面に認められる。住居廃絶後の自然変化によるものとみられる。

炭化材 覆土から床面にかけて多く出土した。図化したものは残りがよく材の向きがわかるものである。36サンプルを取り上げた。うち6サンプルについて、樹種同定を行った。結果はⅥ章に記し、図示した(図V-2-16)。

付属遺構 柱穴10基、焼土2か所確認している。

- ・**地床炉** 住居中央、長軸上やや南東よりのほぼ同じ位置に2枚の焼土を検出している。上位をHF-1、下位をHF-2とした。HF-2から得られた木炭、種子を放射線年代測定したところ、それぞれ4,370±30Y.b.p (IAAA-102913)、4,400±30Y.b.p (IAAA-102912)の値を得ている。
- ・**先端ビット** 検出していない。
- ・**柱穴** 検出した10基のうち、深さと位置から主柱穴とみられるものはHP-4、HP-8、HP-9、HP-10とHP-3の5本である。HP-8は風倒木の影響により傾斜しており不明であるが、その他のものは概ね40~50cmほどの深さである。またHP-3としたものは、住居先頭部側の炉に近い位置にあるといういわゆる「中央ビット」の可能性がある。

遺物出土状況 住居床面、及び覆土から、合計8個体の土器がつぶれた状態で出土している(図V-2-18)。また、住居北西側の壁、壁際付近から、石斧、有孔石製品、石鏃がまとめて出土する部分がある。また石鏃のまとまりは北側の壁際にもみられ、柱穴HP-10からも3点の石鏃が出土して

BH-6

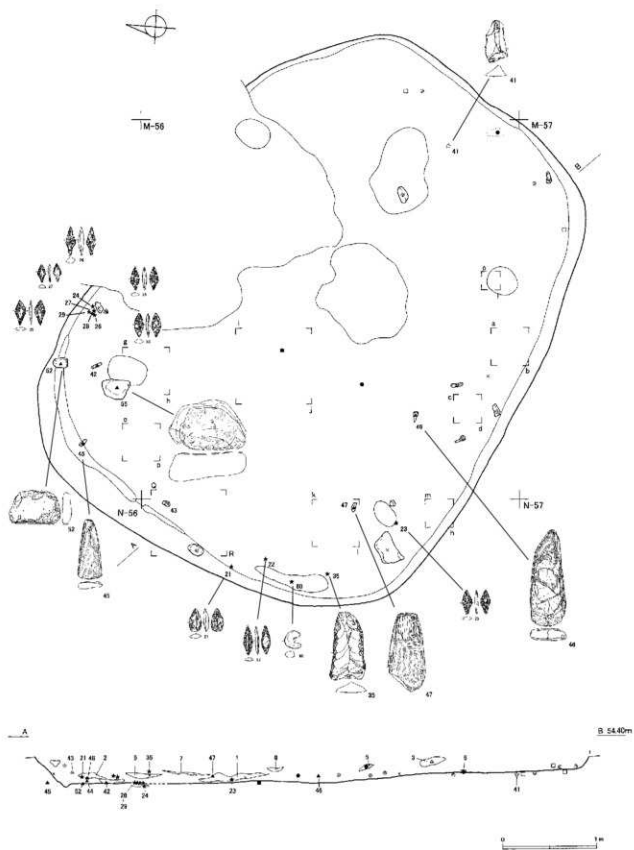
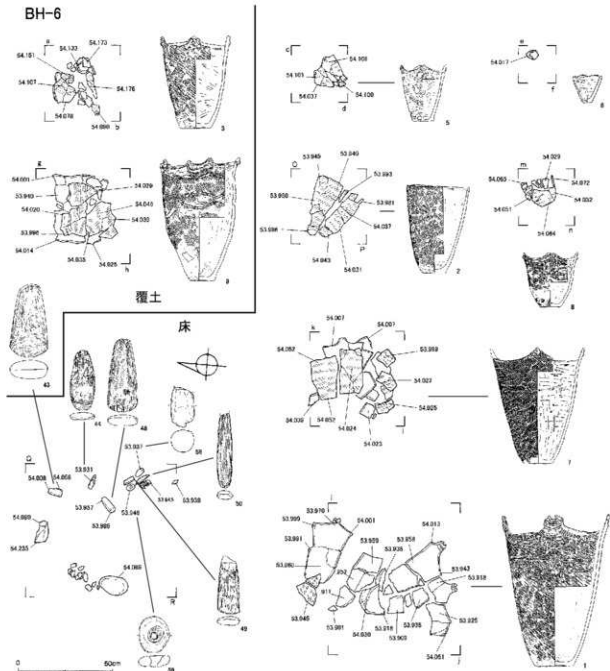


图 V-2-17 BH-6(3)



図V-2-18 BH-6(4)

いる。

Ⅲ層くぼみから、Ⅲ群a類土器が66点、Ⅳ群a類が4点、Uフレイク1点、フレイク15点、石皿片1点、加工痕ある礫1点、礫16点が出土している。

覆土からは、Ⅲ群a類土器621点、Ⅳ群a類80点、石器は石槍1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー8点、Rフレイク6点、Uフレイク3点、石斧4点、たたき石6点、扁平打製石器3点、石皿2点、砥石片1点、フレイク151点、砂利を含む礫・礫片118点のほか、土製品4点、有孔自然石2

点が出土している。

床面からは、Ⅲ群 a 類土器183点、スクレイパー1点、Uフレイク1点、石斧8点、石皿1点、偏平打製石器1点、土製品1点、有孔自然石2点、フレイク72点、礫・礫片が100点出土している。

時期 床面出土の土器から、縄文時代中期前半、サイベ沢VII式新段階の時期のものとみられる。

掲載遺物：土器 1は器高47cmの深鉢。胴部がわずかに膨らむ器形で、4か所のやや大ぶりの「M」字状の突起がつく。突起部分とその間の口縁部には素文の粘土紐による文様がつけられている。胴部上半には2本一組の沈線による文様がつけられる。文様は口縁の波に沿って、さらにそのやや下に2条めぐらせている。2条の沈線は突起下の部分で交差し、交差部分と突起下を囲むように弧状に加えられる。地文は合然りによる斜行縄文。2は平縁のもの。平坦に整形された口縁端部も含め器面全体にLR斜行縄文が施文される。底部は急にすぼまり丁寧に磨かれている。3は底部からほぼ直立する器形をもつ深鉢。4つの小ぶりの突起がつく。残存する3つの突起のうち、2つは孔が穿たれ、1つは山形で突起下に短い貼付帯が付けられている。地文はRLR複節の斜行縄文。器面ほぼ全体に施されている。4は覆土から出土したもの。約3分の1の器形が復元できた。胴部がわずかに膨らむ深鉢。2か所の突起が残存する。突起部分には縦横に短い粘土紐がつけられ、縦位に分断するように短沈線が付けられている。地文はRL斜行縄文。口唇は筥状工具による刻みがつく。5は底部からほぼ直線的に開く器形のもの。4か所の小ぶりの山形突起が付く。突起部分には粘土紐の貼付による装飾がなされている。地文は風化により不明瞭であるが、LR斜行縄文とみられる。6はミニチュア。漏斗状を呈し、底部は小さな平坦面が作られている。無文。7は中型深鉢。底部からほぼ直線的に立ち上がる器形。4か所の小ぶりの山形突起がつく。突起部分に素文の粘土紐が縦位に5条施され、突起頂部のものは数字「6」のように末端が円を描いている。地文は判然としませんが、結束第一種斜行縄文である。8は胴部が膨らみや口縁が開く器形。突起は3つで上面観はやや楕円形である。口唇外面にはやや深く深い沈線が口唇にそって付けられ、突起部分では右巻きの半円を描く。体部上半には縄文地に2本一組の沈線が3条、緩やかな波状を描いている。地文はRL斜行縄文。9は底部がすぼまり胴部は急激に膨らむ器形のもの。突起は小さな山形2か所と「M」字状が3か所からなり、対をなさない。小ぶりの突起には細い粘土紐が2条つけられ、M字のものには突起を区画するように2本の沈線が弧状に描かれている。胴部上半には2本一組からなる沈線文が描かれる。沈線は突起下から二単位と、その下位に弧状に連続する計三単位がめぐらされている。沈線はいずれも粗く、不均一である。地文は条の単位の長いRL斜行縄文。底部付近は施文されていない。

10~16、18はⅢ群 a 類。10Aは平縁のもの。Bは同一個体の底部とみられる。切り出し状にやや尖る口縁で、頸部はくびれる。底部は急にすぼまり、胴部はやや膨らむとみられる。口唇には縄線が斜位に付けられる。11は台形状を呈するとみられる突起部分。素文の粘土紐により装飾される。

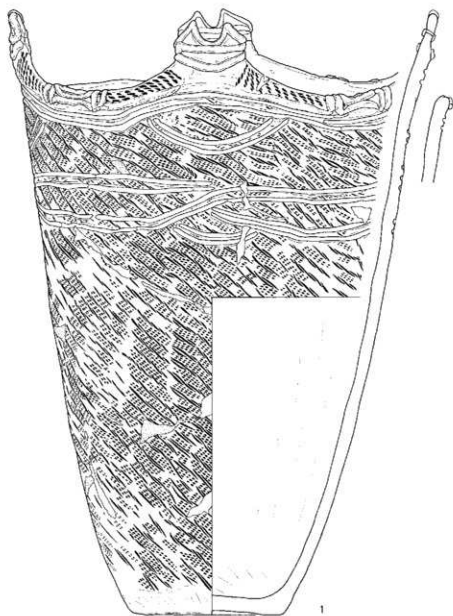
12~15は山形突起がつく見晴町式。12、13は突起部分に素文の貼付帯による装飾がつくもの。13、14は胴部に2本一組の沈線文が描かれるもの。13の地文は複節RLR。15は口唇に筥状工具による斜位の刻みが施されている。

16は覆土から出土した小型土器。無文地に器形に平行な沈線文が描かれている。

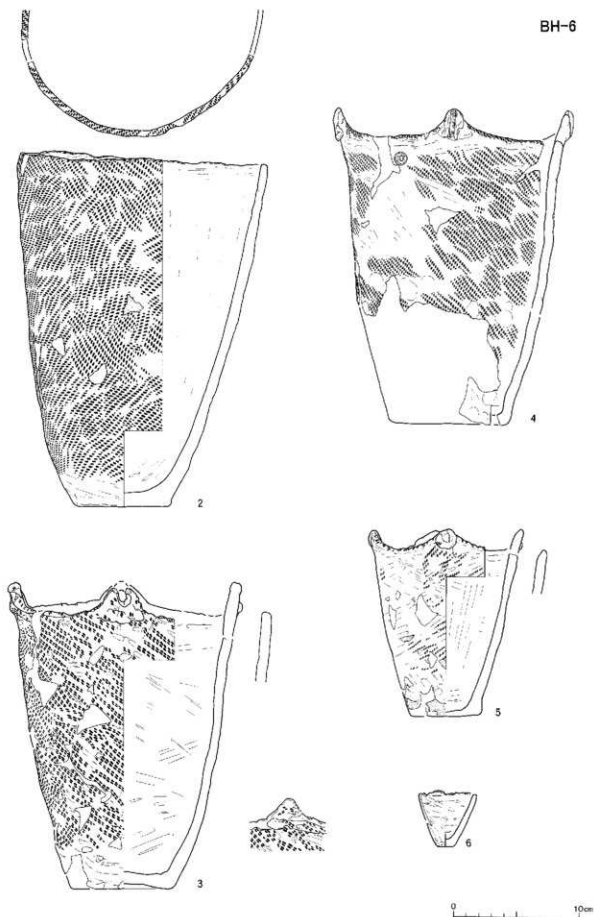
17はⅢ群 b 類の口縁部。やや肥厚し口唇がなでつけられている。地文はLR斜行縄文。19、20はⅣ群 a 類土器。19は小ぶりの突起の付く深鉢。粘土を貼り付けて整形されている。LR斜行縄文が器面全面に施文される。20は平縁のもの。いずれも胎土は粗く砂粒を多く混じる。

掲載遺物：石器 21~29は石礫。21は概ね三角形、22は菱形を呈するもの。23~29は有茎のもの。21が流紋岩、28が無斑晶の玄武岩、23、24が黒曜石製。その他は頁岩製である。30は石槍。両面が丁寧

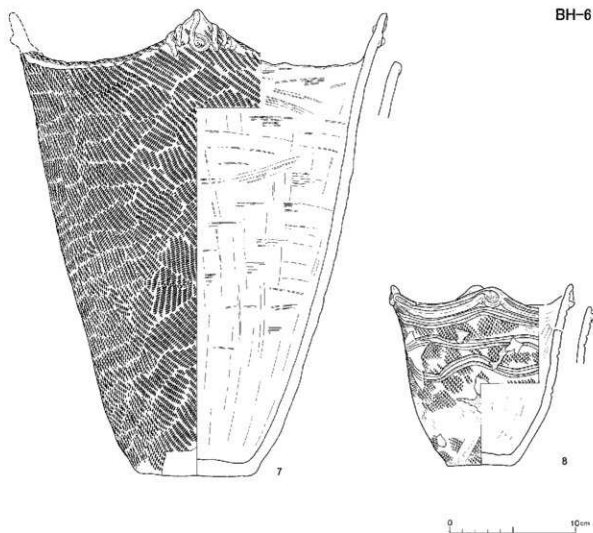
BH-6



図V-2-19 BH-6出土の土器(1)



図V-2-20 BH-6出土の土器(2)



図V-2-21 BH-6出土の土器(3)

に調整される。頁岩製。31はつまみ付きナイフ。縦長剥片を用い、素材の形状をほとんど変えずに作られる。32～40はスクレイパーである。41はヒフレイク。

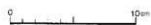
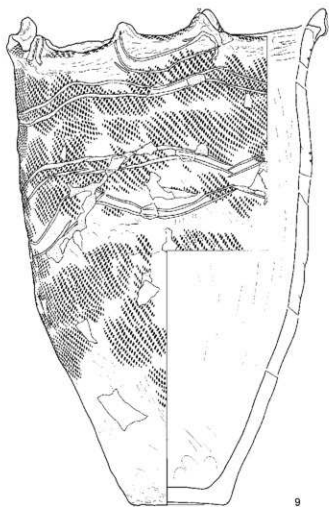
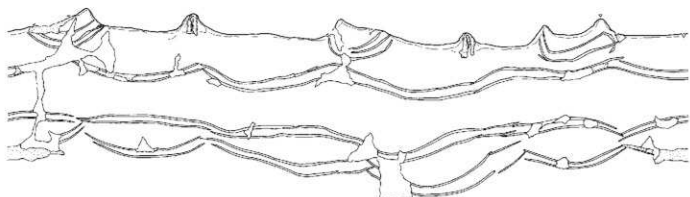
42～49は石斧。50は大きさから石のみとした。46は被熱し黒変する部分がある。43以外は全て床面から出土している。44、48～50はまとまって出土している。石材は42、45が緑色凝灰岩。43、48、50が緑色片岩。46が泥岩。44、47、49が片岩である。

51はたたき石。素材礫の背腹面に敲打痕のあるもの。52、53は扁平打製石器。52は周縁を打ち欠き半円状に整形される狭義のもの。すり面の幅は1.4cmである。53は使用面の部分のみ打ち欠かれているもの。すり面の幅は1.5cm。54は砥石。凝灰岩礫の一部に溝状の痕跡があるもの。55は石皿。砂岩礫の平坦面が使用されているもの。使用面は平滑である。

56～58は土製品。56は円盤状のもの。57、58は焼成した粘土紐状のもの。いずれも表面は丁寧に調整されている。59、60は有孔自然石。

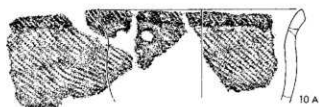
なお、床面からまとまって出土した石礫7点について、図化できなかったため、図版122に写真のみ載せておいた。1～7としたものは、図V-2-18左端に出土状況を掲載したもので、石斧(49、50)土製品(58)石製品(59)とともにまとまっていたものである。以下、番号に基づき説明する。

BH-6



図V-2-22 BH-6出土の土器(4)

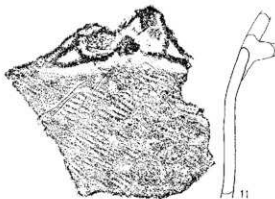
BH-6



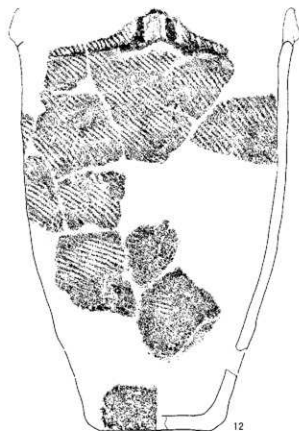
10A



10B



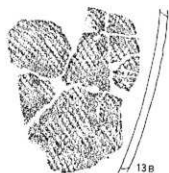
11



12



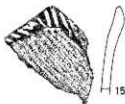
13A



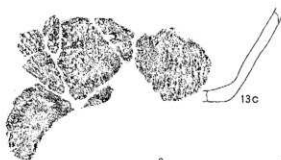
13B



14



15



13C



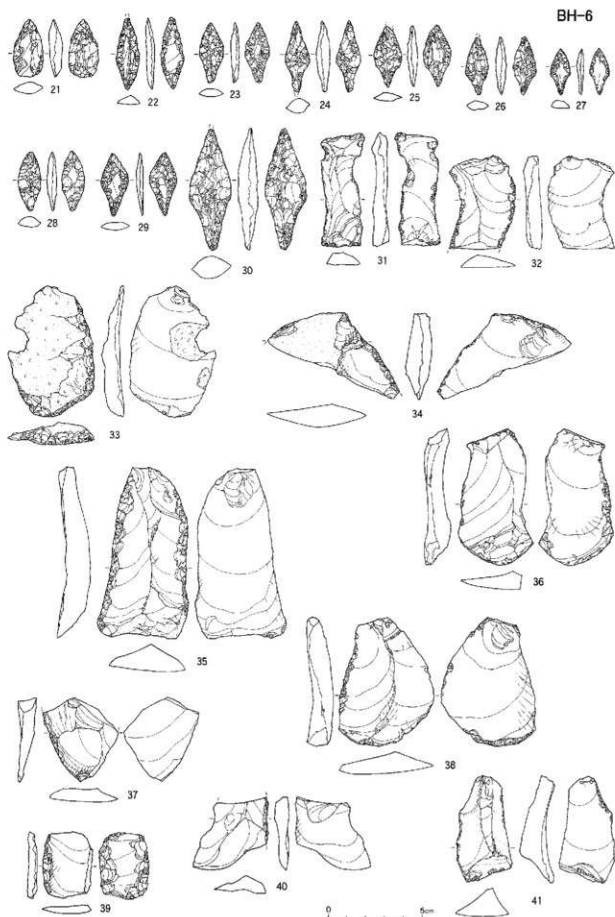
図V-2-23 BH-6出土の土器(5)

BH-6

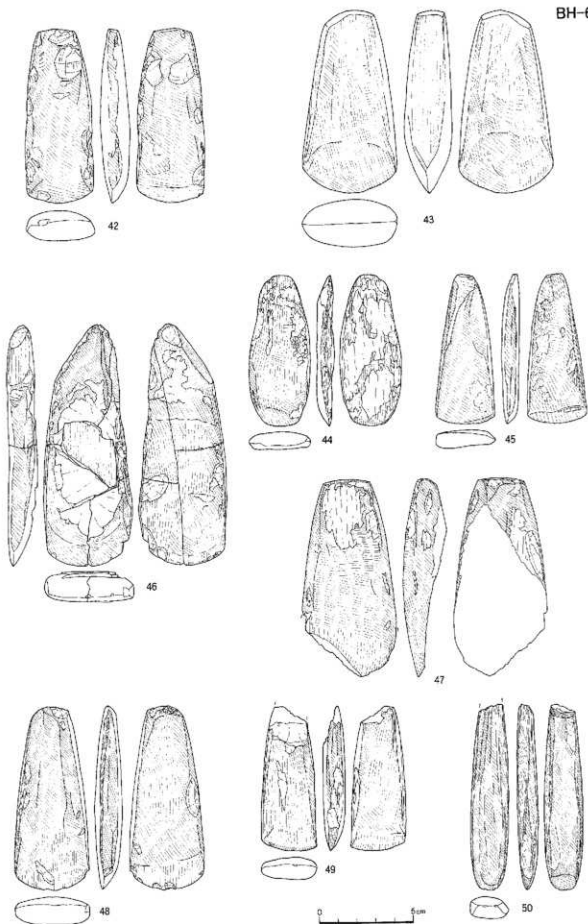


図V-2-24 BH-6 出土の土器(6)

1～7は全て頁岩製、1、2、4、5、6は被熱によるはじけが認められる。4、5は素材剥片の背腹面を残すもの。その他は両面全面に細部調整が施されている。両端がやや尖がり、かえしが不明瞭でやや厚手のよく似た形状を呈する。3は素材剥片の背腹面を残し、周縁のみ加工されるやや薄手のもの。7は茎部が認められるもの。やや厚手である。

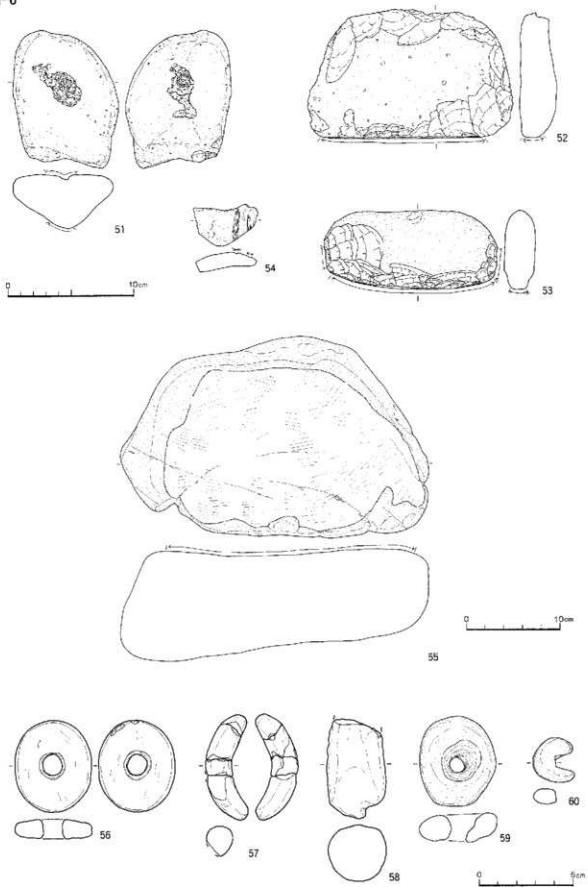


図V-2-25 BH-6出土の石器等(1)



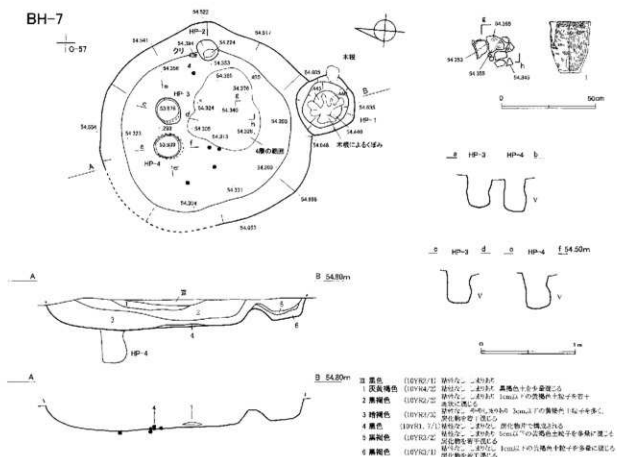
図V-2-26 BH-6出土の石器等(2)

BH-6



図V-2-27 BH-6出土の石器等(3)

BH-7



図V-2-28 BH-7(1)

BH-7 (図V-2-28、29、表V-4~8、図版27、65、82)

位置 L-57-b・c、O-57-a・d 規模 2.74×(2.14) / 1.80×(1.64) / 0.28m

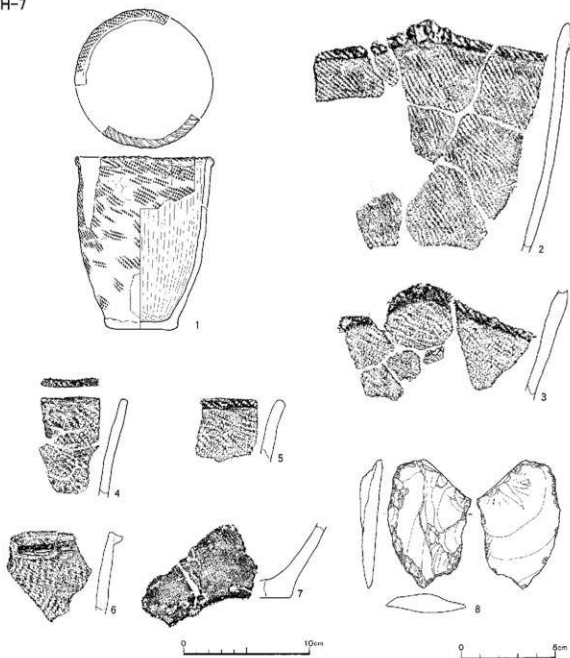
平面形態 楕円形

確認 濁水処理施設部分と本調査の2回にかけて調査している。調査区南部の平坦面に位置する。濁水処理施設部分の側溝にあたる調査において、IV層上面を調査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みの周囲を精査すると、落ち込みは南側に張り出しがある不整な円形であることがわかった。重複する遺構を想定し、長軸にトレンチを設定してV層まで掘り下げた。その結果、明瞭な床面と壁を検出し、住居であることがわかった。さらに張り出し部分は、層位が連続しており、住居と一連のものともみられるため、先端ビット状の付属遺構と判断した。土層断面を作成して覆土を掘り下げると、床面付近に炭化物の小片を多量に含む黒褐色土の広がりを検出した。さらにその上面、落ち込みの中心壁際付近に小型のⅢ群a類土器が出土した。これらの記録を取り、側溝部分の調査を終了した。

本調査にあつて、Ⅲ層の下部を調査中、半円状の黒褐色土の落ち込みが確認された。側溝部分に合

BH-7



図V-2-29 BH-7(2)

わけてほぼ円形を呈するとみられたため、トレンチの位置を踏襲して設定し、V層まで掘り下げた。その結果、明瞭な壁、床を検出した。側溝部分で検出した炭化物を含む黒褐色土の続きを検出し、床面から7点の土器が出土した。いずれもⅢ群a類である。北西に位置するBH-12とほぼ接している。

覆土 住居のくぼみに堆積したⅢ層より下位の層位について6層に区分した。いずれも黄褐色土粒子を混じる黒褐色～暗褐色土であるが、住居中央よりやや南よりの床面直上に堆積する4層は、炭

化物を多く混じる黒色土である。また5、6層としたものはHP-1の堆積である。上位の5層は黄褐色土を多く混じる硬く締まった層で、住居使用時に貼られた土の可能性もある。掘り込み面は検出面より上位である。

壁 HP-1の周囲及び北西部を除き概ね明瞭で急激に立ち上がる壁を検出した。

床面 床は壁と緩やかに連続し、概ね平坦であるが、床面は根跡状の細かな起伏が多く、でこぼこしている。

炭化材 覆土中から多数の炭化物片が出土しているが、炭化材として10cm以上の形状をなしているものは1点のみである。住居東端のHP-2の北側で近接して出土している。

付属遺構 柱穴3基、先端ビット状土坑1基を確認した。

・**地床炉** 検出していない。

・**先端ビット** 住居南端の部分において、覆土が住居と連続する土坑を検出した。土坑は床面とほぼ同じ深さまで掘りこまれている。坑底は根跡状の自然攪乱によりくぼみが多数ある。

・**柱穴** 3基検出した。1基は住居東端壁際に位置するもので、床面から10cmほど掘りこまれた小さなものである。他の2基は住居中心よりやや北よりに東西に並んで検出されている。両者ともに直径25cm前後、深さ35cm程度で、坑底に近い部分がやや膨らむ形状を呈するものである。柱穴の覆土は記録を取らなかったが、覆土3層類似の炭化物を多量に混じる比較的固く締まった土である。

遺物出土状況 住居のくぼみに堆積したⅢ層から、Ⅲ群a類土器3点、礫が1点出土している。

覆土からは、Ⅲ群a類土器50点、Ⅳ群a類4点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、フレイク3点、礫・礫片3点が出土している。床面直上では小型のⅢ群a類土器がまとまって出土し(図V-2-28右上)、床面からは、Ⅲ群a類土器12点、フレイク、礫片が各1点出土している。

時期 床面出土の土器から、縄文時代中期前半、見晴町式の時期のものとみられる。

掲載遺物：土器 1～7はⅢ群a類。1は床面から出土した小型の平縁土器である。結束第二種斜行縄文が器面全面に施文され、平たく整形された口唇には、篋状工具による刻みがつく部分と縄文が施文される部分がある。2、3は山形突起がつくもの。2の突起部分には縄線のつく粘土紐貼り付けが3条施されている。3はRL斜行縄文が全面に施文されている。4は平縁とみられるもの。5は床面から出土した。3と同一個体かもしれない。6は結束第一種斜行縄文が施文される口縁部。7は底部片。胴部が膨らむ器形とみられる。

掲載遺物：石器 8はスクレイパーである。素材剥片の端部背面側が調整されている。

BH-8 (図V-2-30、31、表V-4、5、7、8、図版27、66、82)

位置 P-33 **規模** 2.8×2.18/2.4×1.88/0.38m

平面形態 不整楕円形

確認 調査区北側の平坦面に位置する。Ⅲ層中位を調査中、礫の集中を検出した。下位に遺構がある可能性を考慮し、トレンチを設定してV層まで掘り下げた。その結果、集石の下位に黒褐色土の落ち込みがあることを確認した。当初は落ち込みを伴う集石とし、一つの遺構とみていたが、その後の検討の結果、この落ち込みの中心付近に焼土があることを重視し、立ち上がりの不明瞭な住居が別にあるものとした。上位の集石をBS-9、下位の住居をBH-8とした。北側0.2mにBP-19が位置している。

調査 両遺構の土層断面を記録し、BS-9の取り上げを行い、調査を終了したのち、BH-8の調査を行なった。覆土である黒褐色土を遺物を残しながら掘り下げた。その結果、極めて不明瞭ながら、壁と床面を検出することができた。

覆土 黒色土の単層である。Ⅲ層上～中位相当の自然堆積である。掘り込み面はⅢ層中位～Ⅳ層の間とみられる。

壁 全周で極めて不明瞭である。

床面 中心に向かい若干くぼむ。

炭化材 出土していない。

付属遺構 柱穴状の土坑を2基、炉とみられる焼土を1か所確認した。

・**地床炉** HF-1とした。住居の中央より幾分北東によった位置にある。不明瞭ながら石組みとみられる配石もみられる。

・**先端ビット** 検出していない。

・**柱穴** 2基確認した。住居長軸線上の炉と反対側にHP-1がある、深さは床面から24cmである。また住居の南西側に1基検出した。これをHP-2とした。覆土中にややまとまって土器片が出土し、床面には根跡状のしみがみられるものである。

遺物出土状況 覆土から、Ⅳ群a類土器58点、スクレイパー2点、石皿1点、礫・礫片が3点出土している。Ⅳ群a類土器は、住居東側、もしくは南側HP-2付近にややまとまって出土している(図V-2-30右上)。

時期 覆土から多く出土している遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物:土器 HP-2から出土した土器は2個体に復元できた。1、2はともにⅣ群a類である。

1は2か所の小ぶりの突起が付くもの。突起はそれぞれ尖るものと半円形のものが対となる。地文はLR斜行縄文。器面全体に深く施文されている。2は胴部が膨らみ口縁がややすぼまる器形を呈するもの。上面観は楕円形を呈する。口唇端部は平坦に整形され、上面には縄文が施されている。地文はLR斜行縄文。主に縦位に施文されている。

掲載遺物:石器 3、4はHP-2の覆土から土器1、2とともに出土したスクレイパー。同一の母岩から作られているとみられる。いずれも縦長剥片を用い、背面左側縁を刃部としているもの。5は台石。HF-1の炉石の一つである。砂岩礫の端部に不明瞭な敲打痕がある。被熱し黒変する部分がある。

BH-9 (図V-2-32~34、表V-4~8、図版28、66、67、82)

位置 L-46-c、L-47-b、M-46-d、M-47-a

規模 2.22×2.12/1.92×(1.78) /—m

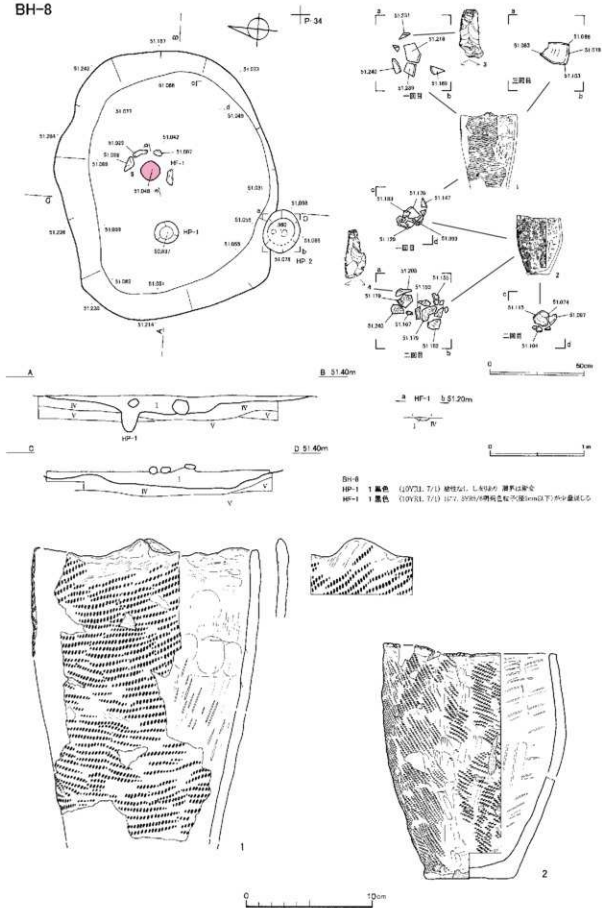
平面形態 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を掘り下げているところ、乳児大ほどの比較的大きな礫がややまとまって出土した。礫を残しつつ掘り下げると、中心に焼土を伴う石組み炉であることがわかった。周囲を精査すると、直径70cm程度のほぼ環状を呈する石組みから北西側に広がる黒褐色土の落ち込みを検出したため、この落ち込みをBH-9とし、配石を石組み炉とした。

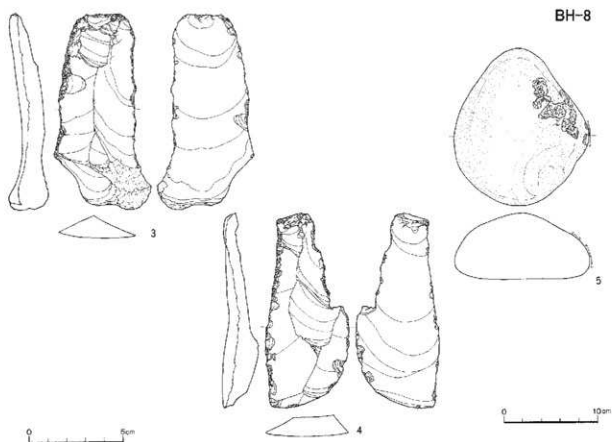
調査 落ち込みの長軸に合わせてトレンチを設定してV層まで掘り下げた。その結果、落ち込みは二つあり、石組炉を伴う落ち込みの下位に、切りあうより古い住居を確認した。下位の住居の長短軸は、石組炉の軸と大きく異なっていたため、下位の住居BH-11のくぼみを利用して、石組炉を伴うBH-9が構築されたものと判断した。

覆土 下位の住居であるBH-11とともに、8層に分層した。BH-9の堆積は1～7層である。このうち、1、2、5、7層としたものが、HF-1～3の堆積である。そのほかは黒褐色土を基調とし、炭化物や黄褐色土を混じる堆積である。掘り込み面は検出面より上位である。

BH-8



図V-2-30 BH-8(1)



図V-2-31 BH-8(2)

壁 風倒木により攪乱される住居北西側以外で、緩やかで不明瞭な壁を検出している。

床面 一部をBH-11と共有している。

炭化材 出土していない。

付属遺構 検出面の石組炉を含めて、3か所の焼土を確認している。

・**地床炉** 検出面の石組炉をHF-1とした。燃焼部の直径は約50cmで、小砂利を伴っている。燃焼部の周囲は15~30cm台の扁平な礫で囲まれており、更に南西方向に3点の礫が等間隔、放射状に配されている。周囲からは遺物が多く出土しており、焼土形成面とみられるものに番号を付し、取り上げた。HF-2は覆土中位のもの、HF-3は床面のものである。HF-3は比較的弱いが、その他は明瞭な焼土である。なお、HF-2からフローテーション法により採取した炭化クルミを放射性炭素年代測定したところ、補正年代で4,420±30Y.b.p (IAAA-102914)、4,390±30Y.b.p (IAAA-102915) の値を得た。

・**柱穴** 検出していない。

遺物出土状況 石組み炉HF-1の検出面では、Ⅲ群a類土器41点、Ⅳ群a類6点が出土している。覆土から、Ⅲ群a類土器85点、Ⅳ群a類土器16点、スクレイパー5点、Uフレイク1点、フレイク20点、扁平打製石器1点、砂利を含む礫・礫片は21点出土している。

床面からは、Ⅲ群a類土器5点、石槍1点、スクレイパー1点、フレイク5点、有孔自然石1点が出土している。

時期 BH-11との重複状況から、縄文時代中期以降、後期前葉までの時期のものとみられる。

掲載遺物：土器 1～7はⅢ群a類。1はBH-11と接合している。口縁に向かい緩やかに開く器形を持つ深鉢。突起は4か所とみられ、縄線の付く粘土紐の装飾がなされる。粘土紐は山形やアーチ条など3つ一組に作られている。地文は結束第二種斜行縄文。概ね器の水平方向に施文されている。2～4はやや小型の土器。2は口唇端部に縄線による刻みが付くもの。2、3の地文は結束第二種斜行縄文。4はRL斜行縄文。5は沈線文の描かれる胴部片。沈線文は、やや幅のある棒状工具で直線的に描かれている。6、7は突起部分。6は縄線による文様。7は粘土紐の円形の貼り付けと縄線が施されている。8、9はIV群a類。8は口縁部。やや肥厚し上面は平坦である。9は燃糸文を地文とする胴部片。補修孔がある。

掲載遺物：石器 10は石槍。やや粗い調整がなされる未製品とみられるもの。11～13はスクレイパー。11、12は縦長剥片を用いるもの。いずれもやや張り出す刃部をもち、刃部のある側縁の腹面側に弱い光沢が認められる。13は幅広の剥片を素材とするもの。無斑品質の安山岩製である。14は扁平打製石器。周縁を打ち欠き、半円状に整形される狭義のもの。砂岩製。15はHF-1の炉石の一つ。石皿である。角閃石安山岩製。16は有孔自然石である。

BH-11 (図V-2-32、35、表V-4、5、7、8、図版30、67、82)

位置 L-46-c・d、L-47-a・b、M-46-d、M-47-a

規模 3.76×2.60/2.96×2.52/0.20m

平面形態 卵形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。BH-9のトレンチ調査中、BH-9の下位に異なる落ち込みを検出した。

調査 BH-9の調査終了後、覆土を掘り下げて完掘した。北東側を風倒攪乱により一部壊されるが、先端ピットのある卵形を呈する住居である。北東0.8mにBP-37が、南西0.4mにBP-72が位置している。

覆土 1層に分層した。炭化物、黄褐色土粒子を混じる灰黄褐色土である。掘り込み面は検出面より上位である。

壁 全周でやや急であるが、南西側にややゆるい部分がある。住居先端である東から北側にかけて、テラス状を呈する部分がある。

床面 概ね平坦であるが、根跡状の痕跡による細かな起伏が多い。

炭化材 出土していない。

付属遺構 壁際に溝1条、土坑1基を確認した。

・**地床炉** 検出していない。

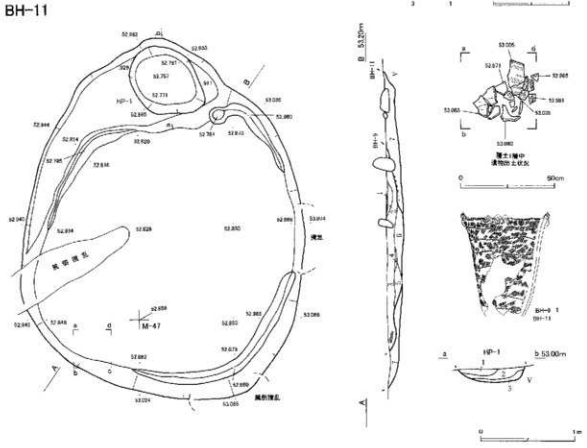
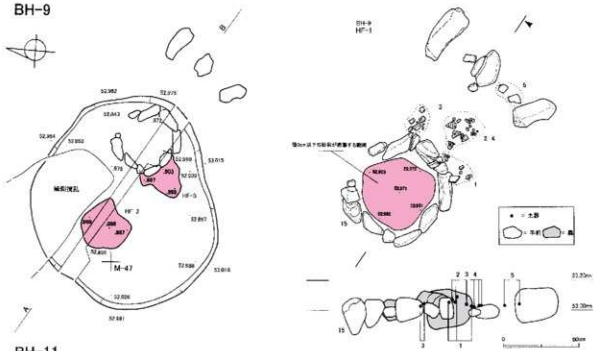
・**土坑** (HP-1) 住居東部のテラス上において検出した。平面形はいびつな楕円形、壁は緩やかである。

・**柱穴** 検出していない。

・**溝** 壁際をめぐるって作られるが、HP-1部分、南、南西側は途切れる部分がある。

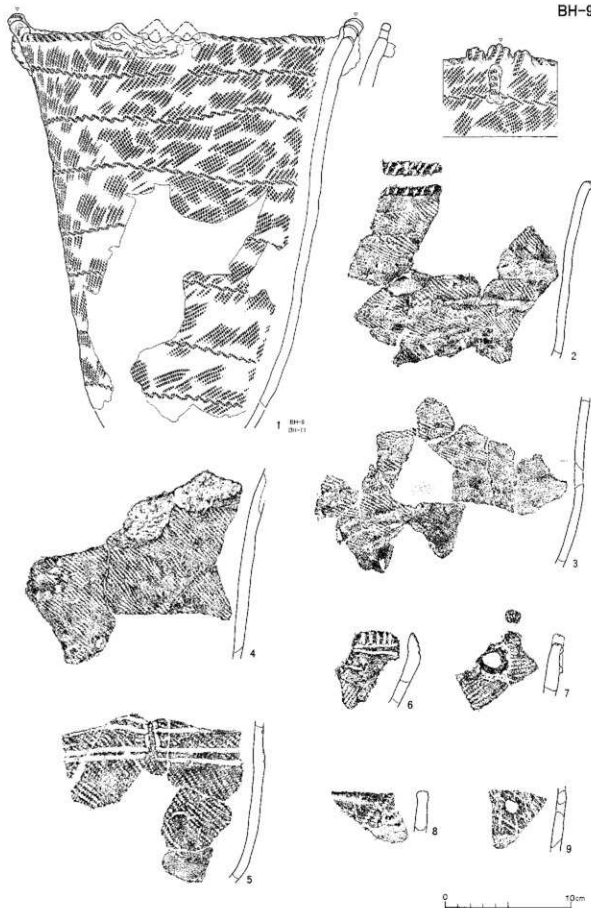
遺物出土状況 住居西端の覆土中から、Ⅲ群a類土器がややまとまって出土している(図V-2-32)。

覆土から、Ⅲ群a類土器87点、IV群a類11点、スクレイパー1点、フレイク8点、扁平打製石器1



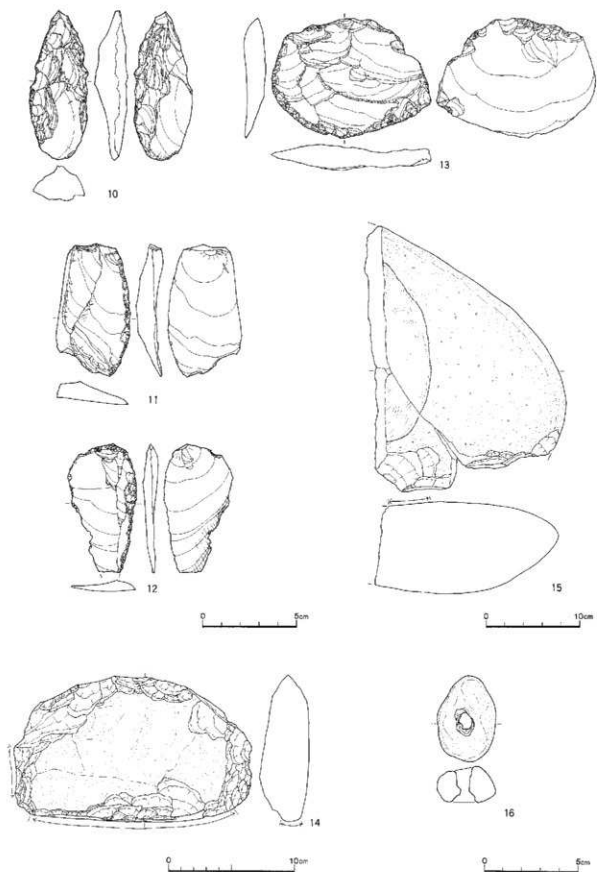
- BH-9
- 1 黒褐色 (17.5V20/2) 粘粘土、中～土功部 2m以下の砂中硬石、チヤール層、10m以内の底石
 - 2 暗赤褐色 (17.5V5/0) 粘粘土、中～土功部 粘化層、砂質粘土中に硬石、黒土層
 - 3 深褐色 (17.5V2/1) 粘粘土、中～土功部 1cm以下の硬石、硬土粒子を含む底石
 - 4 灰褐色 (17.5V4/0) 粘粘土、中～土功部 1cm以下の硬石、粘土層が多量に存在
 - 5 褐色 (17.5V6/0) 粘粘土、中～土功部 1m中～土功部、粘化層多量、黒土層を若干含む
 - 6 赤褐色 (17.5V2/1) 粘粘土、中～土功部 1m以下の硬石、粘化層多量、黒土層を若干含む
 - 7 暗褐色 (17.5V5/0) 粘粘土、1.5m以下 1.5m以下の硬石が多量に存在
- BH-11
- 1 黒褐色 (17.5V3/1) 粘粘土、中～土功部 1cm以下の硬石と粘化層を含む底石
 - 2 に近い黄褐色 (17.5V5/0) 粘粘土、1.5m以下 粘化層と硬石を含む底石 1cm以下の硬石と粘化層が多量に存在
 - 3 に近い黄褐色 (17.5V6/0) 粘粘土、1.5m以下 1.5m以下の硬石が多量に存在

図V-2-32 BH-9・BH-11



図V-2-33 BH-9 出土の土器

BH-9



図V-2-34 BH-9出土の石器

BH-11

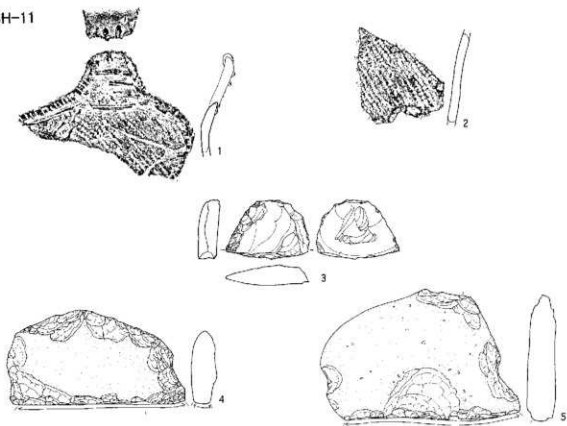


図 V-2-35 BH-11出土の遺物

点、礫・礫片が10点出土している。

床面からは、Ⅲ群 a 類土器 4 点が出土している。

時期 覆土出土の土器、重複関係から縄文時代中期前半のものである可能性がある。

掲載遺物：土器 1、2はⅢ群 a 類。1は台形突起部分。突起部分と口唇に細い粘土紐による文様がつけられている。貼付文と口唇には縄線による刻みが施されている。2は胴部片。1と同一個体かもしれない。

掲載遺物：石器 3はスクレイパーである。5、6は扁平打製石器。5は周縁を打ち欠き半円状に整形される狭義のもの。6は流紋岩の扁平礫を素材とするもの。長辺の両端、頂部と使用面に打ち欠きが認められる。

BH-10 (図V-2-36、表V-4、5、7、8、図版29、67、82)

位置 L-48-b・c、M-48-a・d

規模 2.76×2.62/2.34×2.12/0.10m

平面形態 いびつな卵形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みはややいびつな卵形を呈しており、輪郭はほぼ明瞭であった。長短軸に合わせてベルト、遺物を残して黒褐色土を掘り下げた。その結果、床と数cm程度ではあるが、壁の立ち上がりを検出することができた。土層断面の記録を作成したのちベルトを除去し、床面出土の遺物、及び住居の記録を作成し、調査を終了した。南東側0.8mにBF-21が位置する。

覆土 部分的に黄褐色土、炭化物が混じる黒褐色土の単層である。住居の構造土であるとみられる。掘り込み面は検出面より上位である。

壁 検出できた部分では急でほぼ直立して立ち上がっている。

床面 全体としてはほぼ平坦であるが、ほぼ全面に根跡状の細かい起伏が多く認められる。

炭化材 出土していない。

付属遺構 焼土を2か所確認している。

・地床炉 住居中央に2か所検出した。いずれもV層が焼成する焼土である。

遺物出土状況 住居東側の床面において、Ⅲ群b類土器の小片が260点まとまって出土している(図V-2-36)。床面ではこのほかフレイクが3点出土している。

時期 床面出土の土器から、縄文時代中期中葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 1、2はⅢ群b類。いずれも床面の東側の一部にまとまって出土したもの。1A～Dは同一個体の土器。頸部のくびれる深鉢とみられる。口唇には縄線がつけられ、胴部は縄文地に沈線による文様が描かれている。2は波状を呈する口縁部。条の横走するLR斜行縄文を地文とする。

掲載遺物：石器 3はRフレイク。素材の原石面を大きく残し、周縁の一部が調整されるもの。

BH-12 (図V-2-37、表V-4～8、図版31、67、82)

位置 O-56-c・d、O-57-a・b、P-56-d、P-57-a

規模 2.58×2.18/1.78×1.56/0.22m

平面形態 楕円形

確認 調査区南部の平坦面に位置する。IV層を精査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは北西-南東方向に長軸のある楕円形を呈していた。短軸あわせてベルトを残し、遺物を残しつつ黒褐色土を掘り下げた。その結果、壁、床を確認し、炭化材と焼土を検出した。土層断面の記録を作成し、ベルトを除去したのち、炭化材の位置、焼土の範囲、遺物の位置を記録し、それぞれ取り上げ、掘り下げて調査を終了した。南西にBH-7とほぼ接しており、北側0.6mにBP-79が、0.7m北東にBF-31が位置している。

覆土 2層に分層した。1層は黄褐色土、炭化物の混じる埋め戻しとみられる土である。1層が全体を覆っており、2層は1層中にみられる焼土粒子の混じる土である。掘り込み面は検出面より上位である。

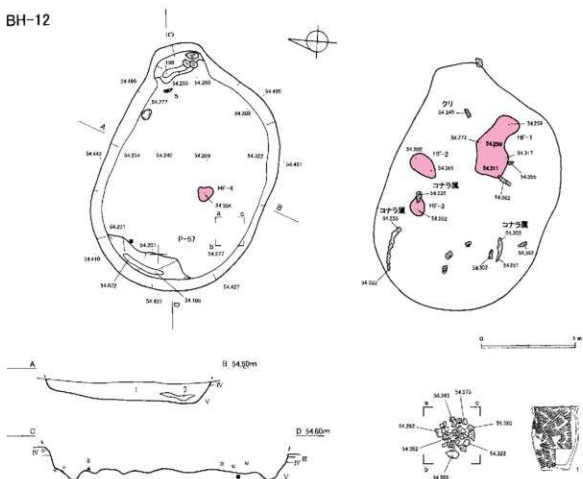
壁 全周し、急角度で立ち上がる。

床面 東側に先端ビット状の張り出しがある。この部分とその反対側である西側の壁付近において他の部分よりややくぼんでいる。他の部分では全体として概ね平坦であるが、根跡状の細かな起伏が多数ある。

炭化材 覆土1層中、及び床面から、炭化材が出土している。覆土中には多数の炭化材があったが、明確に材の方向を確認できるもののみ記録し、10点についてサンプルを採取した。各炭化材の出土状況、サンプル採取位置は図V-2-37のとおりである。

付属遺構 住居東側に先端ビット状の突起がある。覆土中に焼土を3か所、床面で1か所の計4か所の焼土を確認した。

BH-12



- BH-12 1 黒褐色 (GVYR3/2) 粘質なし、ややしっとりなし、2cm以下の高褐色、1cm以下の低粘層を多く含む
 2 黄褐色 (GVYR4/7) 粘質なし、ややしっとりなし、1cm以下の高褐色を多く含む、1cm以下の低粘層を多く含む、1cm以下の高褐色を多く含む、1cm以下の低粘層を多く含む
- HF-1 黒褐色 (GVYR3/1) 粘質なし、ややしっとりなし、層上1層中にGVYR3/1粘質なしを複数に含む、1cm以下
 HF-2 明赤褐色 (GVYR5/9) 粘質なし、ややしっとりなし、層上1層中やや下層部、同じ粘質
 HF-3 明赤褐色 (GVYR5/9) 粘質なし、ややしっとりなし、HF-2に同じ



図 V-2-37 BH-12

石1点、フレイク5点、礫・礫片が7点出土している。床面からやや小ぶりのⅢ群b類土器が1個体まとまって出土している。そのほか床面からは、石斧1点、フレイク1点、礫・礫片が3点出土している。

時期 床面出土の土器から、縄文時代中期後半、大安在B式の時期のものとみられる。なお床面から出土した炭化木片2点について放射性炭素年代測定を行なった。その結果、 $4,090 \pm 30$ Y.b.p (IAAA-102917) $4,150 \pm 30$ Y.b.p (IAAA-102916) の値を得た。

掲載遺物：土器 1は床面からまとまって出土したⅢ群b類土器。頸部のややくびれる小型の深鉢。地文はRL斜行縄文。底部付近まで施文される。2は覆土から出土したⅢ群a類。口唇は切り出し状に尖り、縄線による刻みが付けられる。地文は結束第二種斜行縄文。3、4はⅣ群a類。3は口縁部。折り返しによるとみられる。4は条が横走るLR縄文を地文とする胴部片。

掲載遺物：石器 5は床面から出土した石斧である。わずかに片刃で、後主面を上にして刃部はアーチ状を呈する。緑色泥岩製。

3 土坑 (BP)

土坑は87基検出した。遺物を伴う土坑が少なく、時期の詳細や性格がわからないものが多い。また、BP-12、13、14、24、26、27は、土層の堆積状況から、いずれも土坑かどうかは疑わしいが、明瞭な平面形があり、覆土から遺物が出土することから土坑としたものである。これらは他の遺構とは離れて調査区北西部分に集中している。その他の土坑は、他の遺構と同様に段丘縁辺に広がって検出されている。

BP-1 (図V-3-1、表V-4、図版32)

位置 N-30・31-b・c、O-30・31-a・d 規模 0.68×0.66/0.48×0.44/0.22m

平面形態 ほぼ円形

確認 調査区北部の緩斜面に位置する。濁水処理施設部分の調査において、O-31杭付近でV層上面を精査したところ、黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは検出部分では半月状を呈し、ほとんどが施設部分の外へと延びていることがわかった。壁面を精査すると、明瞭な壁の立ち上がりを確認したので土坑と判断した。このためこの壁面で土層図を作成し、残りの部分を拡張して全体を調査することとした。その結果明瞭に全周する壁を確認することができた。

覆土 2層に分層した。いずれも埋め戻し様の汚れた土である。覆土の色調から掘り込み面はⅢ層中であるとみられる。

特徴 平面形はほぼ円形、壁は急激に立ち上がり、坑底はやや凹凸が多い。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周周で多く出土する遺物、検出された遺構から、縄文時代中期のものとみられる。

BP-2 (図V-3-1、表V-4、5、図版32)

位置 L-31-b 規模 0.8×0.8/0.68×0.6/0.36m 平面形態 円形

確認 調査区北部の緩斜面に位置する。濁水処理施設部分の調査において、L-31区のIV層を調査中、暗褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みはやや明瞭で、ほぼ円形を呈していたことから、南半分を半截して掘り下げた。その結果明瞭な壁、坑底を検出したので土坑と判断した。断面の記録を作成した後、北半分を掘り下げ調査を終了した。

覆土 3層に分層した。V層起源の黄褐色土、粘土の混じる暗褐色、黒褐色、灰黄褐色土で埋め戻しとみられる土である。覆土の色調から掘り込み面はⅢ層中位とみられる。

特徴 壁は東端を除いて全てオーバーハングし、南北の断面では明瞭なフラスコ状を呈する。坑底は根跡状の自然攪乱が多数あり、起伏が多い。0.6m北西にBH-3が位置している。

遺物出土状況 覆土から、Ⅲ群a類土器1点、Uフレイク、フレイク、礫が各1点ずつ出土している。

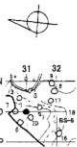
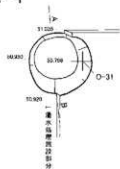
時期 周周で出土する遺物、検出される遺構から、縄文時代中期のものとみられる。

BP-3 (図V-3-1、表V-4、5、図版32)

位置 N-30-b・c 規模 0.66×0.58×/0.38×0.36/0.08m 平面形態 ほぼ円形

確認 調査区北部の緩斜面に位置する。V層上面を精査中、暗褐色土の不明瞭な落ち込みを確認した。

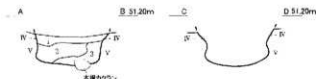
BP-1



1 区画土質褐色 (10755/2) 粘りなし ややゆるみあり V層上部の黄褐色が露出に若干見られる

2 黄褐色 (10753/2) 粘りなし L層あり V層上部の黄褐色土が少量、露出部に少量見られる

BP-2

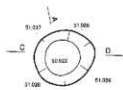


1 緑褐色 (10753/1) 粘りあり L層あり 白色層土(V層上部)が若干見られる

2 黄褐色 (10752/1) 粘りあり ややゆるみあり 白色層土(V層上部)が若干見られる露出部あり

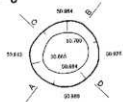
3 灰黄褐色 (10754/2) 粘りあり L層あり 黄褐色土(V層上部)が若干見られる

BP-3



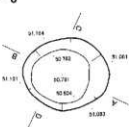
1 緑褐色 (10752/2) 粘りなし L層あり 粘り平ら

BP-5



1 黄褐色 (10752/2) 粘りなし ややゆるみあり V層上部の黄褐色土、黄褐色の灰化土が見られる

BP-6



1 黄褐色 (10752/2) 粘りあり ややゆるみあり V層上部の黄褐色土が露出部に少量、露出部に少量見られる

2 黄褐色 (10752/2) 粘りあり L層あり V層上部の黄褐色土が露出部に若干見られる

0 1m

図V-3-1 土坑(1)

調査 落ち込みは不明瞭ではあったが、概ね円形を呈していたため、南側を半載した。その結果、坑底、壁を確認したので土坑と判断した。記録を作成した後、北側を掘り下げ調査を終了した。

覆土 暗褐色土の単層である。層界は不明瞭。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 壁は極めて緩やかで浅く、皿状を呈する。住居跡BH-3の1m東に位置する。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で検出される遺構から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BP-5 (図V-3-1、16、表V-4、5、7、8、図版32、68、83)

位置 O-30-d **規模** 0.72×0.68/0.50×0.44/0.26m **平面形態** ほぼ円形

確認 調査区北部の緩斜面に位置する。V層上面を精査していたところ、黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みはほぼ円形を呈していたため、南西側を半載した。その結果明瞭な壁、坑底を確認したため土坑と判断した。記録を作成して完掘し、調査を終了した。

覆土 黒褐色土の単層である。黄褐色土ブロックと微量の炭化物が混じる。埋め戻しとみられる。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 壁は急で、坑底と緩やかに連続し、断面形は椀状を呈する。

遺物出土状況 覆土1層中から、Ⅲ群b類土器1点、扁平打製石器が1点、礫・礫片が3点出土している。

掲載遺物：土器 1は覆土1層から出土したⅢ群b類土器。RL斜行縄文が施文されている。胎土は比重が軽く、混入物が見られず、ぬめり様の触感がある。

掲載遺物：石器 2は扁平打製石器。流紋岩の扁平な礫を用い、使用面と周縁の一部が打ち欠かれているもの。

時期 周辺や覆土の出土遺物から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BP-6 (図V-3-1、16、表V-4、5、8、図版32、83)

位置 N-31-d、N-32-a **規模** 0.92×0.72×/0.62×0.58/0.36m

平面形態 楕円形

確認 調査区北側平坦面に位置する。V層上面において黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは南北方向に長い楕円形を呈していたため、長軸に合わせて西側を半載した。その結果、明瞭な壁、坑底を検出したので、土坑と判断した。記録を作成したのち、完掘して調査を完了した。

覆土 2層に区分した。黄褐色土と炭化物の混じる黒褐色土を主体とする埋め戻しとみられる土である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は南北に長い楕円形を呈し、壁は比較的急で、北側では垂直に近く立ち上がる。坑底は概ね平坦である。0.4m東にBP-9が位置している。

遺物出土状況 検出面でたつき石が1点出土している。

時期 周囲で検出される遺構から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

掲載遺物：石器 3はたつき石である。いびつな礫の端部に敲打痕があるもの。砂岩製。

BP-7 (図V-3-2、16、表V-4、5、7、図版33、68)

位置 N-30-c、O-30-d **規模** 0.66×0.64/0.48×0.48/0.28m

平面形態 不整円形

確認 調査区北部の緩斜面に位置する。N-30区においてV層上面を精査していたところ、暗褐色

色土を混じる黄褐色土の落ち込みを確認した。

調査 周囲を精査すると、いびつな円形を呈する輪郭を明瞭に確認できた。南側を半載して壁、坑底を確認したので土坑と判断した。記録を作成したのち、北側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 3層に区分した。全てがにぶい黄褐色土を主体とし、V層起源とみられる多量の黄褐色土、Ⅲ層とみられる少量の黒褐色土が混じる、埋め戻しの土である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はいびつな円形、壁は急激に立ち上がり、坑底と連続して断面形は椀状を呈する。1m南にBP-1が、1.5m南西にBP-5が位置している。

遺物出土状況 覆土からIV群a類土器が70点、フレイクが1点出土している。

時期 周囲で検出される遺構、遺物から縄文時代中期のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 4は覆土から出土した口縁部。折り返しによるもの。 (立田)

BP-8 (図V-3-2、16、表V-4、5、7、図版33、68)

位置 J-49 **規模** 0.92×0.67/0.64×0.42/0.16m **平面形態** 楕円形

確認 湧水処理施設部分の調査中、IV層下位で暗褐色土の落ち込みを確認した。

調査 短軸で半載し掘り下げたところ、遺物が数点出土した。半載面の土層堆積状況を写真および図で記録したのち、全体を掘り下げ、緩やかな壁の立ち上がりを確認した。

覆土 3層に分層した。Ⅲ・IV層が主体である。1層は崩落土と思われる。3層は起源不明の褐色土のブロックが混入したものである。埋め戻しかどうかは不明である。

特徴 平面が楕円形の、浅い皿状の土坑である。

遺物出土状況 覆土・坑底から土器片やフレイク、礫等が数点出土している。

時期 覆土・坑底より出土した遺物から、縄文時代後期前葉とみられる。 (新家)

掲載遺物：土器 5、6はIV群a類。5は覆土から出土した深鉢。無文地に沈線で文様が描かれている。沈線は口唇直下から3本一組の沈線が間隔をあけて二単位、更に間隔をあけて2本一組のものが1条描かれており、上位と下位の文様帯を形成している。両文様帯には、2本一組の縦位の弧線文により「O」字型の文様が連続施文され、上位の文様帯は横位弧線文により連携される部分がある。6は坑底から出土したもの。摩滅により判然としないが縄文が施文された底部付近の破片。 (立田)

BP-9 (図V-3-2、表V-4、図版33)

位置 M-31-c、N-31-d **規模** 0.74×0.70/0.52×0.50/0.2m **平面形態** 円形

確認 調査区北側平坦面に位置する。N-31区のV層上面を精査中に確認した。黒褐色土の落ち込みである。

調査 落ち込みは明瞭な円形を呈していたため、中心から南側を半載して壁、坑底を確認し、土坑と判断した。記録を作成した後、北側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に分層した。いずれもⅢ～IV層にV層起源らしき黄褐色土が混じる汚れた土である。下位の2層には炭化物も混じる。掘り込み面は覆土の色調からⅢ層中位とみられる。

特徴 平面形は円形、壁はやや急で、坑底と緩やかに連続している。坑底は根跡状の起伏が多くでこぼこしている。西側に約0.4m離れてBP-6が位置する。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で検出される遺構、出土する遺物から、縄文時代中期のものと思われる。

BP-10 (図V-3-2、表V-4、5、図版33)

位置 M-30-a-b **規模** 0.84×0.76/0.44×(0.34)/0.62m **平面形態** 楕円形

確認 調査区北部の緩斜面に位置する。M-30区において、V層上面を精査中、黒褐色土の落ち

込みを確認した。

調査 落ち込みは、北東—南西方向に長軸のある楕円形を呈していた。長軸の南東側を半載した。その結果、明瞭に壁、坑底を確認したため、土坑と判断した。記録を作成した後、北西側を掘り下げた調査を終了した。

覆土 4層に分層した。1、2層は黄褐色土、炭化物が混じる堆積で、埋め戻し様の再堆積層である。その下位の3層はⅢ層中～上位相当の自然堆積とみられる。4層は黄褐色粒子の混じる黒褐色土で埋め戻しとみられる土である。掘り込み面は、覆土の自然堆積の状況から、Ⅲ層中～下位とみられる。

特徴 平面形は楕円形を呈する。壁は坑底付近で直立するが、坑口に向かうに従い開き気味となる。坑底は概ね平坦である。0.8m南にBH-3が位置している。

遺物出土状況 覆土からⅢ群a類土器7点、坑底から、礫が1点出土している。

時期 周囲の遺構検出状況から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BP-12 (図V-3-2、16、表V-4、5、8、図版33、83)

位置 O-41-b、P-41-a **規模** 0.94×0.88/0.40×(0.52)/0.74m

平面形態 不整形

確認 調査区中央西側緩斜面に位置する。Ⅳ層上面を掘削中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは不整形な円形を呈していた。輪郭が明瞭であったので南東側を半載した。その結果検出面から0.4m下までは壁を明瞭に確認できたが、それ以下は部分的に深く抉れ、不明瞭である。明瞭な平面形から人為的な可能性が高いと判断し、土坑とした。記録を作成した後、北側を掘り下げた調査を終了した。

覆土 5層に分層した。上位2層は自然堆積とみられるレンズ状の堆積である。下位の3～5層は崩落した土とみられるⅢ～Ⅴ層の混在した堆積である。土坑の深部に溜まるように堆積している。掘り込み面は、覆土の自然堆積の状態から、Ⅲ層中位～上位と考えられる。

特徴 検出面では明瞭な平面形を確認できたものの、坑底は崩落したⅤ層と、その間に堆積する黒色土が重なっていた。これらを追いかけると、坑底は不定形に抉れた形状となった。このような検出状況、土層の状態、坑底の形状は後のBP-13、14も同様な性質である。

遺物出土状況 覆土からたたき石が1点出土している。

時期 不明であるが、遺跡から出土している遺物から想定し、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：石器 7はたたき石。小ぶりの礫の平坦面にやや弱い敲打痕があるもの。

BP-13 (図V-3-3、16、表V-4、5、7、図版33、34、68)

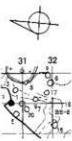
位置 P-39-c・d、P-40-a・b **規模** 2.46×1.16/2.26×0.92/1.00m

平面形態 楕円形

確認 調査区中央西側緩斜面に位置する。Ⅴ層上面を精査中、火山灰を中心に伴う黒褐色土の落ち込みを検出した。

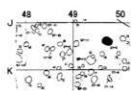
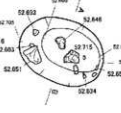
調査 落ち込みは北西方向に長い明瞭な楕円形を呈していたため、短軸に合わせて南東側を半載した。結果、断面図を作成した部分においては比較の明瞭な壁、床を確認できたが、南東端では坑底が不定形に抉れ、大きく凹凸のあるものとなった。記録を作成して完掘したが、北半分も同じく、崩落したⅤ層と隙間に入る黒褐色土が交互に堆積し、極めて不明瞭な坑底であった。明瞭な平面形から人為的なものの可能性が高いと判断し、土坑とした。

BP-7



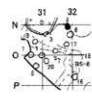
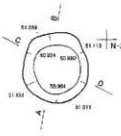
- 1 黄褐色 (1)IV25/2 粘性土、中砂質。黄褐色の黄褐色土が少量混入
- 2 に近い黄褐色 (1)IV14/2 粘性土、中砂質。V層底部の黄褐色土が少量混入
- 3 に近い黄褐色 (1)IV25/2 粘性土、中砂質。V層底部の黄褐色土が少量混入

BP-8



- 1 暗褐色 (1)IV12/2 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入
- 2 黒色 (1)IV11, 7/1 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入
- 3 黒色 (1)IV25/1 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入

BP-9



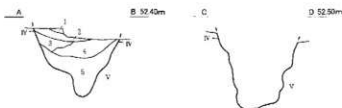
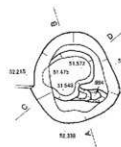
- 1 黄褐色 (1)IV23/2 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入
- 2 に近い黄褐色 (1)IV24/2 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入

BP-10



- 1 反黄褐色 (1)IV54/2 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入
- 2 黄褐色 (1)IV23/2 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入
- 3 黒色 (1)IV22/2 粘性土、粘粒多。
- 4 黄褐色 (1)IV16/1 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入

BP-12



- 1 黄褐色 (1)IV12/2 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入
- 2 黒色 (1)IV11, 7/1 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入
- 3 藍色 (1)IV22/1 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入
- 4 藍色 (1)IV23/1 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入
- 5 黄褐色 (1)IV22/2 粘性土、粘粒多。黄褐色の黄褐色土が少量混入



図V-3-2 土坑(2)

覆土 7層に区分した。上位から1、2層はB-Tmとみられる火山灰、3層はⅢ層中～上位相当の自然堆積、4～6層は崩落したとみられるⅢ～Ⅴ層の混在する堆積である。7層は本遺構の開口時の自然堆積の可能性ある。掘り込み面は、覆土の自然堆積の状況から、Ⅲ層中～上位とみられる。

特徴 検出面の平面形は明瞭であるが、坑底は不規則で大きな凹凸、抉れがある。BP-12、BP-14に類似する。

遺物出土状況 覆土中から、IV群a類土器12点、砥石1点、フレイク6点、礫8点が出土している。坑底からは、IV群a類土器が10点出土している。

掲載遺物：土器 8は覆土から出土したIV群a類土器。沈線により楕円形の様子が描かれている。

時期 不明であるが、遺跡から出土している遺物から想定し、縄文時代中期もしくは後期前葉のものと思われる。

BP-14 (図V-3-3、表V-4、図版4)

位置 P-40-c、P-41-b **規模** 1.58×1.14/1.14×0.94/0.88m **平面形態** 不整長方形

確認 調査区中央西側緩斜面に位置する。Ⅴ層上面を遺構確認中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みの平面形が概ね長方形を呈していたため、遺構を想定して南側を半截した。しかし明瞭な壁、坑底を検出できなかったため、記録を作成せず、黒褐色土中の遺物回収を目的とした掘り下げを行い一旦調査終了とした。後にBP-12、13など、周囲で同様な遺構が検出し、本遺構も類似する遺構の一つと再確認した。黄褐色土の崩落土を掘り下げ、平面の記録を作成して調査を終了した。

覆土 記録を作成していないが、上半にB-Tmとみられる黄褐色シルトを伴う黒褐色土の自然堆積、下半は崩落土とみられるやや汚れた黄褐色土であり、BP-13に同様な特徴を持っている。掘り込み面は覆土の堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中であるとみられる。

特徴 平面形は不整な長方形を呈する。壁は坑口付近では急激に立ち上がる形状を呈する。坑底は北側が大きく抉れ、一部でオーバーハングしている。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、遺跡から出土している遺物から想定し、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BP-15 (図V-3-3、表V-4、5、図版34)

位置 Q-33-d **規模** 0.9×0.66/0.74×0.52/0.12m **平面形態** 楕円形

確認 調査区北側平坦面に位置する。Ⅴ層上面を精査中、黒色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは南北に長い楕円形を呈していたため、短軸の南側を半截した。その結果、壁、坑底を確認したので、土坑と判断した。記録を作成した後、完掘して調査を終了した。

覆土 黒褐色土の単層である。黄褐色土が斑状に混じる、埋め戻しとみられる土である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 壁は緩やか、坑底は細かい起伏があるものの概ね平坦で、浅い皿状を呈する。

遺物出土状況 覆土から、フレイクが1点出土している。

時期 周囲で検出される遺構、出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものと思われる。

BP-16 (図V-3-3、表V-4、5、図版34)

位置 O-31-c、O-32-b **規模** (0.9) × (0.74) / (0.78) × (0.62) / 0.12m

平面形態 楕円形

確認 調査区北側平坦面に位置する。攪乱の壁面を精査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。周囲を精査し、北東側を攪乱により切られる落ち込みを検出した。

調査 概ね楕円形を呈する平面の南側を半載した。その結果、壁、坑底を確認し、土坑と判断した。記録を作成した後、北側を掘り下げて完掘し、調査を終了した。

覆土 炭化物、赤色顔料が混じる黒褐色土の単層である。掘り込み面は確認面より上位である。

特徴 壁は比較的緩やかで、坑底は概ね平らであり、全体として浅い皿状を呈する。

遺物出土状況 覆土から、Ⅲ群a類土器2点、フレイク1点が出土している。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものとみられる。

BP-17 (図V-3-3、16、表V-4、5、8、図版34、83)

位置 N-31-c **規模** 0.62×(0.42) / 0.48×0.30 / 0.18m **平面形態** 楕円形

確認 調査区北側平坦面に位置する。N-31区において、V層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは沈砂池部分の調査時に北東部分約4分の1を欠失しているが、概ね楕円形を呈する輪郭を明瞭に確認できた。確認部分の短軸に合わせて、南側を半載すると、明瞭な壁、坑底のおよび坑底出土の礫を確認したため、土坑と判断した。記録を作成し、遺物を残して北側を掘り下げた。遺物と平面の記録を作成し、調査を終了した。

覆土 暗褐色、黄褐色土ブロックが少量混じる黒褐色土の単層である。埋め戻しとみられる。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 壁は急で、特に東西方向においてはほぼ垂直に立ち上がる。坑底は概ね平坦である。

遺物出土状況 覆土から、Ⅲ群a類土器3点、Ⅳ群a類土器1点のほか、砂利45点、礫11点が出土している。坑底から2分割した石皿が出土している。

時期 周囲で検出される遺構から、縄文時代中期のものとみられる。

掲載遺物：石器 9は坑底から出土した石皿である。楕円形を呈する角閃石安山岩の平坦面を使用するもの。使用面は平滑でややくぼんでいる。

BP-18 (図V-3-4、16、表V-4、5、8、図版34、83)

位置 N-31-b・c **規模** 0.58×(0.45) / (0.42) × (0.38) / 0.20m **平面形態** 円形

確認 BS-8の調査終了後、付近を掘り下げ精査したところ、BS-8の下位に黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは北東部分を欠くもののほぼ円形を呈していた。そのため、中心を通り、落ち込みの両端にかかるよう、南西側を半載した。その結果坑底と壁を確認することができ、土坑と判断した。記録を作成した後、北東側を掘り下げ、遺物出土状況を記録し、調査を終了した。

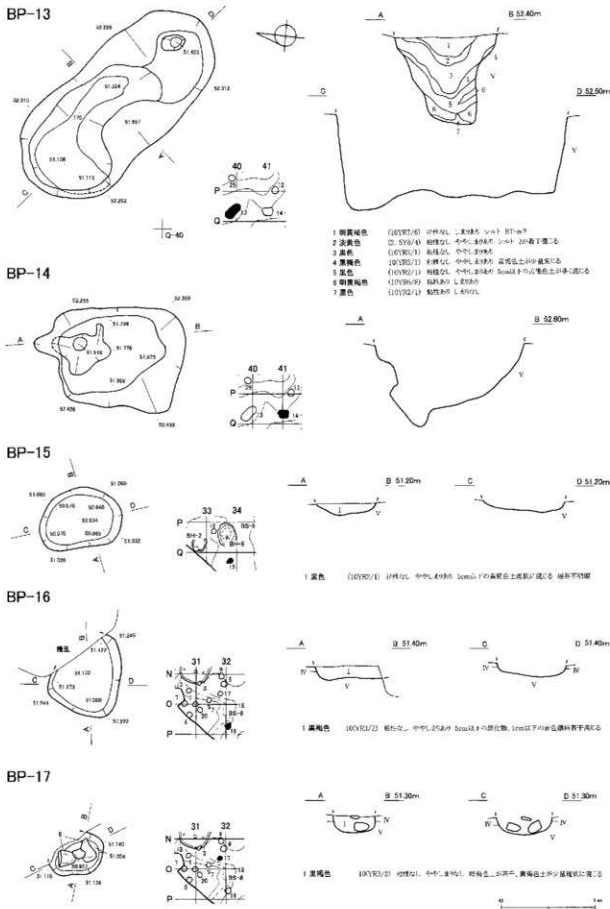
覆土 黄褐色土を若干、炭化物を少量混じる黒褐色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 壁と坑底は緩やかに連続し、椀状を呈する。BS-8は本遺構の直上に、BS-7は0.3m西に位置している。

遺物出土状況 覆土中から礫が27点出土している。上位に位置するBS-8と一連のものである可能性が高い。

時期 周囲で検出される遺構、遺物から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

掲載遺物：石器 9は覆土から出土した石皿。やや多孔質の角閃石安山岩を用い、平坦面を使用するものである。



BP-19 (図V-3-4、表V-4、5、図版35)

位置 P-33-a 規模 0.66×0.66/0.52×0.54/0.02m 平面形態 ほぼ円形

確認 調査区北側平坦面に位置する。V層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは輪郭が比較的明瞭であった。南東側を半載して坑底、壁を確認したので土坑と判断した。記録を作成した後、北西側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 黄褐色土ブロック、炭化物が混じる黒褐色土の単層である。埋め戻しとみられる。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はほぼ円形、坑底は平坦。壁は全周して急である。住居址BH-8の北側0.2mの距離に位置している。

遺物出土状況 覆土から礫が8点出土している。

時期 周囲で検出される遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものとみられる。

BP-20 (図V-3-4、17、表V-4、5、7、図版35、68)

位置 O-31-a 規模 0.76×(0.56)/0.64×(0.42)/0.68m 平面形態 楕円形

確認 調査区北側緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは北東部分を濁水処理調査時に欠失しているものの、概ね円形を呈する形状を明瞭に確認できた。北東側を半載すると、検出面から0.4mほどの深さまでの壁、坑底は比較的明瞭であったが、より下位にあっては不明瞭に決れる部分が多い。記録を作成した後、南東半分を掘り下げて、坑底付近の壁を掘り出し、調査を終了した。平面形が明瞭であったことから、土坑と判断した。

覆土 4層に区分した。上位の1層はⅢ層上位相当の自然堆積とみられる黒色土である。より下位の堆積は、崩落によるとみられる再堆積層である。掘り込み面は、覆土の堆積状況から、Ⅲ層中～上位であるとみられる。

特徴 坑底は平坦であるが、坑底付近の壁は、不自然に決れてオーバーハングする部分がある。このような形状はBP-12、13、26などと共通する特徴である。

遺物出土状況 覆土からⅢ群a類土器が3点、礫・礫片が30点出土している。

時期 周囲で検出される遺構から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 Ⅱは覆土から出土したⅢ群a類土器の突起部分。小ぶりな山形を呈し、突起下には貼付帯が付けられ取手状をなす。

BP-21 (図V-3-4、表V-4、5、図版35)

位置 K-38-b 規模 0.84×0.78/0.40×0.42/0.38m 平面形態 円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。IV層上面を精査していたところ、黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは円形を呈していたため、南側を半載した。その結果明瞭な壁、坑底を確認することができ、土坑と判断した。記録を作成したのち、北半を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に分層した。上位の1層は自然堆積とみられる黒色土、下位の2層は黄褐色土の混じる黒褐色土で埋め戻しとみられる堆積である。掘り込み面は、覆土の堆積状況から、Ⅲ層中であるとみられる。

特徴 壁は比較的緩やかで、坑底は丸底を呈する。全体の形状は楕状である。

遺物出土状況 覆土から礫が5点出土している。

時期 不明であるが、周囲で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BP-22 (図V-3-4、表V-4、図版35)

位置 K-39-c・d **規模** 0.84×0.74/0.70×0.54/0.20m **平面形態** 不整楕円形
確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。IV層上面を精査していたところ、黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは半円形を呈し、東側の側溝部分との境に残したベルトに延びていた。検出部分を掘り下げると、明瞭な壁、坑底を検出し、土坑と判断した。このベルトで土層断面を記録し、東側を掘り下げ、調査を終了した。

覆土 III層に相当するとみられる黒色土の単層である。掘り込み面は断面の観察から、III層中位であるとみられる。

特徴 平面形は不整な楕円形、形状は浅い皿状を呈する。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周囲で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BP-23 (図V-3-4、表V-4、図版35)

位置 K-39-b **規模** 0.72×0.64/0.44×0.34/0.34m **平面形態** ほぼ円形
確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。IV層上面を調査していたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは明瞭で、卵形に近い円形を呈していた。南側を半載して壁、坑底を確認した。記録を作成したのち北側を掘り下げ、調査を終了した。

覆土 暗褐色土、黄褐色土粒子を若干混じる黒褐色土の単層である。埋め戻しとみられる。掘り込み面は、検出面より上位である。

特徴 壁は急激に立ち上がる。坑底は平坦面が小さく、丸底に近い。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周囲で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BP-24 (図V-3-5、17、表V-4、5、8、図版35、83)

位置 Q-40-b・c、R-40-a・d **規模** 1.34×1.10/ (0.92) × (0.64) /—m
平面形態 不整楕円形

確認 調査区中央西側緩斜面に位置する。V層上面を精査していたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは明瞭でほぼ楕円形を呈していたため、Rラインに合わせて東側を半載した。結果明瞭な壁を確認し、土坑と判断した。坑底はでこぼこしている。土層の写真を記録し西側を掘り下げ、調査を終了した。

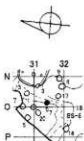
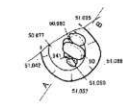
覆土 上位は火山灰の落ち込みを伴う自然堆積、下位は崩落とみられる黄褐色土である。掘り込み面は、覆土の状況から、III層中とみられる。

特徴 検出面の形状は概ね楕円形を呈するが、壁、坑底は不規則な凹凸が多数認められた。検出、覆土、坑底の状況についてBP-12、13、14と類似する特徴がある。

遺物出土状況 覆土から、III群a類土器2点、たたき石1点が出土している。

時期 不明であるが、遺跡から出土している遺物から、縄文時代中期もしくは後期前半のものである可能性が高い。

BP-18



A B 51.30m



1 黒褐色 (10YR5/2) 粘りなし。L層がL. 20cm以下の黒褐色土が少量混入。褐色土が少量混入。

BP-19



A B 51.40m C D 51.40m



1 黒褐色 (10YR5/2) 粘りなし。ややL層がL. 20cm以下の黒褐色土。10cm以下の粘土が若干混入。

BP-20

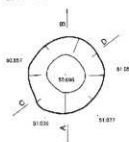


A B 51.10m



- 1 黒色 (10YR2/1) 粘りなし。L層がL. 粘り少く混入。
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 粘りなし。ややL層がL. 黒褐色土が少量混入。
- 3 灰黄褐色 (10YR6/3) 粘りなし。ややL層がL. 黒褐色土が少量混入。
- 4 黄褐色 (10YR5/2) 粘りなし。ややL層がL. 黒褐色土が少量混入。
- 5 明黄褐色 (10YR6/4) 粘りなし。L層がL.

BP-21

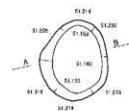


A B 51.50m C D 51.50m

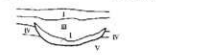


- 1 黒色 (10YR2/1) 粘りなし。L層がL. 自然地層。
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 粘りなし。ややL層がL. 20cm以下の黒褐色土。20cm以下の黒褐色土が若干混入。若干混入。

BP-22



A B 51.70m



1 黒色 (10YR2/1) 粘りなし。ややL層がL. 若干混入。

BP-23



A B 51.50m C D 51.50m



1 黒褐色 (10YR3/1) 粘りなし。L層がL. 20cm以下の黒褐色土。20cm以下の黒褐色土が若干混入。



図V-3-4 土坑(4)

掲載遺物:石器 12は覆土から出土したたき石である。いびつな礫の突出部に敲打痕が認められる。

BP-25 (図V-3-5、17、表V-4~6、図版36、68)

位置 M-35-c **規模** 0.5×0.42/0.36×0.34/0.1m **平面形態** 円形

確認 調査区北側平坦面に位置する。IV層上面を調査中、土器片のまとまりとその下位に黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 土器片のまとまりを精査し、写真と図面により記録した後、上面出土の遺物として取り上げた。落ち込みを改めて精査し、円形を呈する平面形を確認した。南東側を半載した結果、明瞭な壁、坑底を確認したので、土坑と判断した。記録を作成したのち、北西半を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に区分した。上位の炭化物の混じる黒褐色土と壁際に堆積する灰黄褐色土である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は楕円形。坑底は平坦で壁は急激に立ち上がる。

遺物出土状況 検出面でIV群a類土器がややまとまって出土している。

時期 検出面の土器から、縄文時代後期前葉のものとみられる

掲載遺物:土器 13は検出面で出土したIV群a類土器。器壁がわずかに内湾する深鉢。0段多縄とみられるやや節の詰まったLR縄文を地文とする。

BP-26・27 (図V-3-5、17、表V-4、5、7、8、図版36、68、83)

(BP-26) **位置** Q-37-c・d、Q-39-a・b

規模 2.66×1.94/2.02×0.28/1.02m **平面形態** 不整形円形

(BP-27) **位置** P-38-b・c、Q-38-a・d

規模 3.56×1.62/1.62×0.42/—m **平面形態** 不整形

確認 調査区中央西側緩斜面に位置する。V層上面を精査中、火山灰を伴う黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 検出面で精査すると、落ち込みはP-39、Q-38、39、の3グリッドに亘って「く」の字に広がっており、南北それぞれの2か所に降下火山灰を伴うことがわかった。重複する複数の遺構を想定して「く」の字にあわせてトレンチを設定してV層まで掘り下げた。その結果落ち込みは大きく2つの単位に分かれたため、2基の土坑と判断した。切り合いの関係は極めて不明瞭ではあったが、北側が新しいものとし、BP-26、南側の古いものをBP-27として調査した。

土層の様子が明瞭に観察できたBP-26の土層断面についてのみ記録を作成したのち、両者の覆土を掘り下げた。壁、坑底は黄褐色土の崩落土が重なり、不規則な凹凸が多数あり、検出は困難であった。

覆土 BP-26のみ土層断面の記録を作成した。10層に分層している。上位9層までは自然堆積であり、明瞭な2枚の降下火山灰層が認められる。このうち下位は色調からB-Tmと推察される。10層は黄褐色土が混じる黒褐色土を主体とする埋め戻しとみられる堆積である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 (BP-26) 平面形はほぼ北に細長い溝状を呈する。西側にテラス状の浅い落ち込みがあり、南側にBP-27と接している。(BP-27) 北西方向に細長く広がる不整形形状を呈する。2か所に坑底が落ち込む部分があり、南側がより深く落ち込んでいる。さらに南端は大きく抉れてフラスコ状を呈している。

遺物出土状況 (BP-26) 覆土中から、Ⅲ群a類土器2点、IV群a類土器10点、スクレイパー1点、石皿片1点、フレイク1点、礫7点が出土している。

坑底からは、IV群a類土器が9点出土している。

(BP-27) 覆土中からⅢ群 a 類土器 1 点、スクレイパー 2 点、フレイク 4 点、礫 2 点が出土している。
時 期 不明であるが、遺跡で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 14、15はBP-26覆土から出土したⅣ群 a 類土器。14は無文の口縁部。15は燃糸文の施文される胴部片。17、18はBP-27からの出土。17はⅣ群 a 類土器の口縁部。地文はRL斜行縄文。18はⅢ群 a 類。口唇に筥状工具による刻みが施されている。

掲載遺物：石器 16はBP-26の覆土から出土したスクレイパーである。縦長剥片を用い、背面側の両辺が直線状に調整される。19はBP-27から出土したスクレイパー。幅広の剥片を用い、一側縁を刃部とする。頁岩製。

BP-28 (図V-3-5、表V-4、図版37)

位置 N-38-c・d、N-39-a・b 規模 1.30×1.04/1.18×0.92/0.36m

平面形態 不整形円形

確認 調査区中央緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは南北に長い不整形円形を呈していた。南側を半載して坑底、壁を確認したため、土坑と判断した。記録を作成したのち、北側を掘り下げ調査を終了した。

覆土 黄褐色土、暗褐色土の混じる黒色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 壁は緩やかに立ち上がるが、坑底は北東側が大きく不規則に抉れている。

遺物出土状況 出土していない。

時 期 不明であるが、遺跡で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BP-29 (図V-3-6、表V-4、図版37)

位置 O-39-c・d 規模 0.88×0.76/0.78×0.70/0.20m 平面形態 不整形

確認 調査区中央西側緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは方形に近い形状を呈しており、長軸の中心を通るよう南東側を半載した。その結果、不明瞭ではあったが、壁、坑底を確認したので土坑と判断した。記録を作成したのち、北西側を掘り下げ調査を終了した。

覆土 黄褐色土ブロックが混じる黒色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は不整形であるが、概ね隅丸正方形に近い形状である。壁は全周で緩やかであり、坑底は北側が大きく不規則に抉れ、深く掘りこまれている。

遺物出土状況 出土していない。

時 期 不明であるが、遺跡内で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものとみられる。

BP-30 (図V-3-6、17、表V-4、5、7、図版37、68)

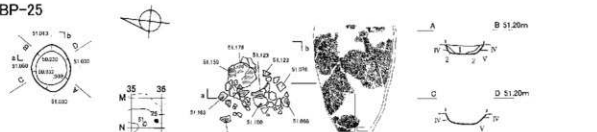
位置 K-45-c 規模 1.12×0.82/0.84×0.76/0.32m 平面形態 楕円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒色土の落ち込みを検出した。

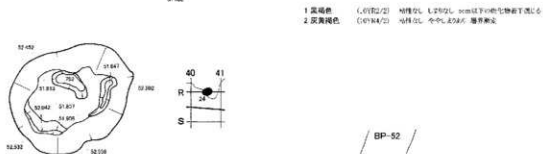
調査 落ち込みはほぼ東西に長い楕円形を呈していたため、長軸に合わせて南側を半載した。その結果、明瞭な壁、坑底を確認したので、土坑と判断した。記録を作成したのち、北側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 3層に区分した。上位1層はⅢ層に相当する黒色土である。下位の2、3層は黄褐色土粒を多く混じる黒褐色土、暗褐色土の2層である。いずれも埋め戻しとみられ、固くしまっている。掘

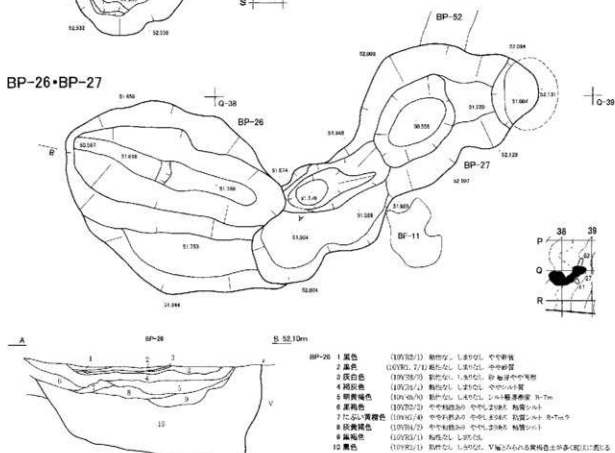
BP-25



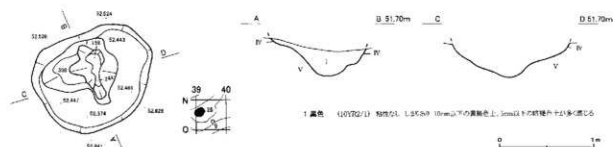
BP-24



BP-26・BP-27



BP-28



図V-3-5 土坑(5)

り込み面は覆土にⅢ層が堆積していることから、Ⅲ層中位～Ⅳ層付近であるとみられる。

特徴 壁はほぼ全周でオーバークラフする。坑底は概ね平坦である。坑口の北西側は舌状のテラスになっている。このテラス部分を含めた坑底全体に根跡状の細かい起伏が多数認められる。なお本遺構上に崖面工事時のものとみられる工事用道路があり、覆土が固くしまっていることや、ややフラスコ状を呈することは工事による土圧の影響によるものである可能性もある。南南東約20cmの距離にBP-87がほぼ接している。

遺物出土状況 覆土から、Ⅱ群b類土器3点、Ⅲ群a類土器1点、礫が10点出土している。坑底に近い覆土3層から、Ⅳ群a類土器4点、礫8点が出土している。

時期 周囲で出土する遺物、覆土3層出土の遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 20は覆土から出土したⅢ群a類土器。地文は結束第二種羽状縄文。口唇には縄線による刻みがつけられている。

BP-87 (図V-3-6、表V-4)

位置 K-45-c、K-46-b **規模** 0.42×0.38/0.30×0.27/0.08m **平面形態** ほぼ円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面を精査していたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは明瞭な円形を呈していたので、南側を半載した。その結果明瞭な壁、坑底を確認したので、土坑として判断した。

覆土 黒色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はほぼ円形。浅い皿状の土坑である。北北西約0.2mの距離にBP-30がほぼ接している。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-31 (図V-3-6、表V-4、図版37)

位置 N-42-c・d **規模** 1.34×0.44/1.12×0.32/0.10m **平面形態** 不整楕円形

確認 調査区中央部緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは北東—南西方向に長軸のある細長い形状を呈していた。落ち込みは明瞭であったため、短軸上にベルトを残して掘り下げた。その結果、壁、坑底を明瞭に確認したので、土坑と判断した。

覆土 黒色土の単層である。Ⅲ層相当の自然堆積とみられる。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は細長い楕円形であるが、南西側は屈曲し「L」字状に近い。壁は緩やかで坑底はほぼ平坦である。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、遺跡内で出土する遺物から、縄文時代中期かもしくは縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-32 (図V-3-6、表V-4、図版37)

位置 N-42-a・b **規模** 1.00×0.78/0.44×0.34/0.24m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央部緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは北東—南西方向に長軸のある楕円形を呈していたため、短軸に合わせて南西側を半載した。その結果不明瞭ではあったが、坑底、壁を確認したので、土坑と判断した。記録を作成

したのち、北東側を掘り下げ、調査を終了した。

覆土 4層に区分した。1～3層は自然堆積、2層は降下火山灰である。B-Tmとみられる。4層は暗褐色土、黒褐色土が斑状に混じり、層界は不明瞭である。覆土にⅢ層が堆積することから、掘り込み面はⅢ層中であるとみられる。

特徴 壁は緩やかである。断面形は二段の丸底を呈している。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、遺跡内で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-33 (図V-3-6、17、表V-4、5、7、8、図版37、68、84)

位置 L-45-a-b **規模** 0.74×0.66/0.48×0.46/0.26m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央部東側緩斜面に位置する。Ⅳ層上面を精査中、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは比較的明瞭な円形を呈し、落ち込みの北側には土器片がややまとまって出土していた。南側を半載すると明瞭な壁・坑底を確認し、土坑と判断した。記録を作成して遺物を取り上げた後、北側を掘り下げた。坑底から出土した遺物、平面の記録を取り、調査を終了した。

覆土 3層に分層した。上位から1層はⅢ層相当の自然堆積。下位の2、3層は黄褐色土ブロックの混じる黒褐色土である。覆土の堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中であるとみられる。

特徴 壁は南東方向でのみやや緩やかで、そのほかでは急である。坑底はやや丸底である。坑底は根跡状の細かい起伏が多い。

遺物出土状況 検出面でⅢ群a類土器が10点まとまって出土している。覆土中からは、Ⅳ群a類土器が2点、坑底からは台石が1点、礫が1点出土している。

時期 周囲で多く出土している遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 21は検出面で出土したⅢ群a類土器。

掲載遺物：石器 22は坑底から出土した台石である。砂岩礫を素材とし、部分的に敲打痕が認められる。大きさから台石とした。

BP-34 (図V-3-6、18、表V-4、5、7、8、図版38、68、83、84)

位置 J-47-c **規模** 1.00×0.74/0.64×0.54/0.30m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。Ⅲ層下部～Ⅳ層上面を精査中、中心に黄褐色土を伴う黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みの形状は不明瞭であったが、検出面の黄褐色土の形状に合わせ、南北に長軸のある楕円形を想定し、トレンチを設定してⅤ層まで掘り下げた。その結果、明瞭な坑底とやや不明瞭な壁を確認することができ、土坑と判断した。次にトレンチを南西方向に拡大して半載の状態で記録を作成した後、北西側を掘り下げ調査を終了した。

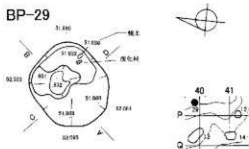
覆土 4層に区分した。1層は検出時に確認した黄褐色土である。2、3層は土器片や黄褐色土、炭化物を混じる黒褐色土。埋め戻しとみられる。4層は坑底に浅く堆積した黒褐色土。この黒褐色土は土坑開口時の堆積か土坑の内容物の可能性がある。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は北東-南西方向に長軸のある楕円形を呈する。壁は坑口付近で急、他で緩やかで、坑底は平坦である。

遺物出土状況 覆土から、Ⅲ群a類土器1点、Ⅳ群a類土器5点、スクレイパー、たき石各1点、フレイク4点、砂利9点が出土している。覆土3層下位、土坑の東側から、礫片が1点出土している。

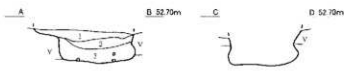
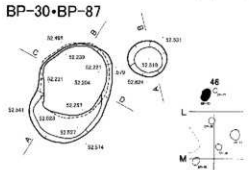
時期 出土遺物、周囲で出土する遺物の状況から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-29



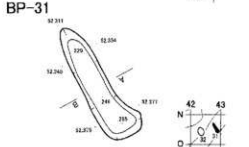
1 黒色 (10YR5/1) 粘性なし、しまりなし、5cm以下の黄褐色土が少量混入する

BP-30・BP-87



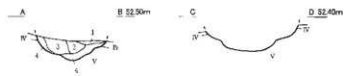
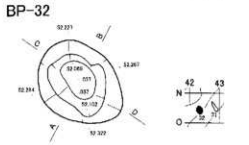
1 黒色 (10YR5/1) 粘性なし、しまりなし、紅褐色土
2 黄褐色 (10YR5/2) 粘性なし、しまりなし、5cm以下の黒褐色土が少量混入する
3 暗褐色 (10YR2/3) 粘性なし、しまりなし、5cm以下の黄褐色土が少量混入する

BP-31



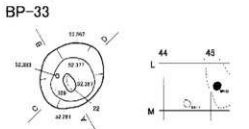
1 黒色 (10YR2/1) 粘性なし、しまりなし、5cm以下の黒色土、5cm以下のマゼンタ赤土が少量混入する

BP-32



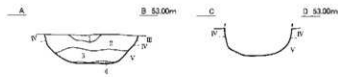
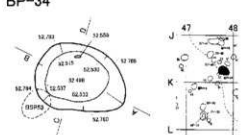
1 黒褐色 (10YR3/1) 粘性なし、しまりなし、自然産物
2 明黄褐色 (10YR6/6) 粘性なし、ややしまりあり、シルト質
3 黒色 (10YR2/1) 粘性なし、ややしまりあり、自然産物
4 暗褐色 (10YR3/2) 粘性なし、ややしまりあり、5cm以下の黒色土が少量混入する、毎坪平均厚

BP-33



1 黒色 (10YR5/1) 粘性なし、ややしまりあり、自然産物
2 黄褐色 (10YR5/2) 粘性なし、ややしまりあり、5cm以下の黄褐色土が少量混入する
3 黄褐色 (10YR5/1) 粘性なし、ややしまりあり、5cm以下の黄褐色土が少量混入する

BP-34



1 に近い黄褐色 (10YR5/2) 粘性なし、しまりあり、5cm以下の暗褐色土が少量混入する
2 黄褐色 (10YR5/2) 粘性なし、ややしまりあり、5cm以下の黄褐色土が少量混入する
3 黄褐色 (10YR5/1) 粘性なし、ややしまりあり、5cm以下の黄褐色土が少量混入する
4 黒色 (10YR2/1) 粘性なし、ややしまりあり

図V-3-6 土坑(6)

掲載遺物：土器 23は覆土から出土したIV群a類土器。斜格子目状の燃糸文が施文される。

掲載遺物：石器 24は覆土から出土したスクレイパーである。原石面の残る剥片を用い、腹面側の一側縁が細部調整される。25はたたき石。小ぶりの礫の周縁が敲打されている。

BP-35・36 (図V-3-7、18、表V-4、5、7、図版38、68)

(BP-35) 位置 J-46-d 規模 0.48×0.42/0.38×0.34/0.08m

平面形態 楕円形

(BP-36) 位置 J-46-a・d 規模 0.66×0.60/0.56×0.50/0.08m

平面形態 楕円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を掘削中、30cm程の大きさの扁平礫が2点まとまって出土した。遺構の存在を想定し、これらを残したままⅣ層上面まで掘り下げると、礫の下部より、不明瞭な黒褐色土の落ち込み2か所を確認した。

調査 2か所の落ち込みは北東-南西方向約10cm離れており、いずれも比較的小さなものであった。これらを西にあるものからBP-35、36とした。上記の扁平礫2点をその直下で検出したBP-35の遺物として取り上げ、その後BP-35は南側を、BP-36は短軸上の南東側を半截した。その結果壁、坑底を確認し、土坑とした。記録を作成したのち、それぞれ北側、北西側を掘り下げ、調査を終了した。

覆土 BP-35、36はいずれも炭化物が微量に混じる黒褐色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 (BP-35) 平面形は楕円形、坑底は平坦で壁は緩やかである。(BP-36) 平面形はややいびつな楕円形、壁は緩やかである。坑底は根跡状の痕跡があり細かな起伏が多く認められる。

遺物出土状況 (BP-35) 検出面で礫が2点、覆土中からUフレイクが1点、フレイクが3点出土している。(BP-36) 覆土から、Ⅳ群a類土器14点、フレイク2点、礫片3点が出土している。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 26はBP-36覆土から出土したⅣ群a類土器。地文はRL斜行縄文。

BP-37 (図V-3-7、18、表V-4、5、7、8、図版38、68、84)

位置 L-46 規模 0.90×0.86/0.66×0.68/0.34m 平面形態 ほぼ円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。Ⅴ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みはいびつな円形を呈していた。輪郭が明瞭な南北方向を軸にして東側を半截した。その結果、明瞭な壁、坑底のほか、坑底に伴う遺物を検出したので、土坑と判断した。記録を作成し、遺物を残して西半を掘り下げ、調査を終了した。

覆土 2層に区分した。2層とも黄褐色土粒子が混じる黒褐色土で、埋め戻しとみられるものである。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 坑底は平坦、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南～北東の坑口付近では壁はやや開き気味で、南西方向の一部は坑底付近でややオーバーハングする。坑底には根跡状の痕跡が多数認められる。南西0.8mにBH-11が位置している。

遺物出土状況 覆土2層下部～坑底で、石皿1点、石皿片1点、礫3点が出土している。このほか覆土中から、Ⅲ群a類土器が1点出土している。

時期 覆土出土の遺物、中期前半の住居跡BH-11に隣接することから、縄文時代中期前半のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 27は覆土から出土したⅢ群a類土器の口縁部。地文はRL斜行縄文。口唇には縄線

で刻みが施される。

掲載遺物：石器 28は石皿である。角閃石安山岩の平坦面を使用するもの。使用面は素材の長軸にあわせて溝状に広がり、ややくぼんでいる。

BP-38 (図V-3-7、18、表V-4、5、7、図版38、68)

位置 L-45-b、L-46-a **規模** 0.56×0.56/0.40×0.40/0.14m **平面形態** 円形

確認 調査区中央東側斜面に位置する。V層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みはほぼ円形を呈していたため、南東側を半載して坑底、壁を確認し、土坑と判断した。記録を作成したのち、北西半を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に分層した。いずれも黄褐色土の混じる黒色土、黒褐色土で、埋め戻しとみられるものである。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は円形、壁は緩やかで坑底は概ね平坦であるが、細かい根跡状の痕跡が多数認められる。

遺物出土状況 坑底からⅢ群a類土器8点、礫片が1点出土している。

時期 坑底出土の遺物から、縄文時代中期前半のものとみられる。

掲載遺物：土器 29は坑底から出土したⅢ群a類土器。縄文地に2本一組の沈線による文様が描かれる。口唇には篋状工具による刻みが施されている。

BP-39 (図V-3-7、表V-4、図版38)

位置 L-46-b **規模** 0.52×0.50/0.38×0.40/0.20m **平面形態** 円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みはほぼ明瞭な円形を呈していたため、南東側を半載した。その結果、明瞭な壁、坑底を確認したので、土坑と判断した。記録を作成した後、北西側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に分層した。上位の1層はⅢ層上～中位とみられる黒褐色土、2層は黄褐色土の混じる黒褐色土である。掘り込み面は、覆土の堆積状況から、Ⅲ層中～下位とみられる。

特徴 平面形は円形、壁は急で、坑底は根跡状の攪乱による起伏が多い。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲の遺構検出状況から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BP-40 (図V-3-7、18、表V-4、5、7、8、図版38、68、84)

位置 L-45-c、M-45-d **規模** 0.68×0.54/0.62×0.48/0.22m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。IV層上面を精査していたところ、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは楕円形であり、比較的明瞭であったため、南東側を半載した。その結果、明瞭な壁、坑底を確認したので、土坑と判断した。記録を作成したのち、北西側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に分層した。いずれもⅢ層上～中位とみられる黒色土の堆積である。掘り込み面はⅢ層中～下位とみられる。

特徴 壁は全周で直立するが、北西側ではオーバーハングして決れる部分がある。坑底は概ね平坦であるが、根跡状の起伏が多数認められる。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器3点、たたき石1点が出土している。

時期 周囲で検出される遺構、出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 30は覆土から出土したIV群 a類土器。燃糸文が施文されている。

掲載遺物：石器 31は覆土から出土したたき石。やや稜のある棒状の砂岩礫を用い、平坦面に敲打痕がある。

BP-41 (図V-3-7、18、表V-4、5、7、図版39、68)

位置 K-48-c **規模** 0.56×0.48/0.42×0.38/0.22m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みはやや不明瞭であったため、中心を通るようにトレンチを設定して掘り下げた。その結果比較的明瞭な壁、坑底を確認したため、土坑と判断した。土層断面を記録し、黒色土を掘り下げて調査を終了した。

覆土 炭化物の混じる黒褐色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は楕円形、壁は緩やかで坑底と連続している。0.4m南東にBP-60が位置している。

遺物出土状況 覆土からII群 b類土器1点、IV群 a類土器30点のほか、フレイクが1点、砂利が9点出土している。

時期 周囲、覆土出土遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 32はBP-41、47から同一個体が出土しているIV群 a類土器。格子目状の燃糸文が施文される口縁部。33、34はBP-41の覆土から出土したもの。33は格子目状の燃糸文が施文されている。34は無文のもの。いずれもIV群 a類土器。

BP-42 (図V-3-7、表V-4、図版39)

位置 K-48-c **規模** 0.46×0.36/0.40×0.30/0.06m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。IV層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは概ね楕円形を呈していたため、南側を半載して坑底、壁を確認したので、土坑と判断した。記録を作成したのち、北側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 黒色土の単層である。III層に相当するとみられる。掘り込み面は覆土の状況から、III層中～下位とみられる。

特徴 平面形は楕円形、壁は緩やかで、坑底は概ね平坦である。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

BP-43 (図V-3-8、表V-4、5、図版39)

位置 Q-46-b・c、R-46-a・d

規模 0.68×0.68/0.52×0.48/0.40m **平面形態** 円形

確認 調査区中央西部の緩斜面に位置する。V層上面で黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは明瞭な円形を呈していたため、南側を半載した。その結果、壁、坑底を検出したので、土坑と判断した。記録を作成したのち、北側を掘り下げて調査を終了した。

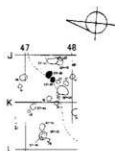
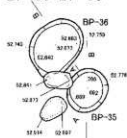
覆土 炭化物、黄褐色土の混じる黒色土の単層である。埋め戻しとみられる。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は概ね円形、壁はほぼ垂直で、北～北西の範囲がややオーバーハングする。

遺物出土状況 覆土1層から、礫片が1点出土している。

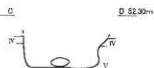
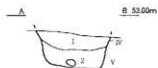
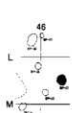
時期 不明であるが、遺跡から出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BP-35・BP-36



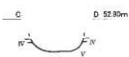
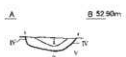
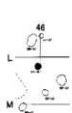
BP-35 1 黒褐色 (19YR3/3) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定
BP-36 1 黒褐色 (19YR3/3) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定

BP-37



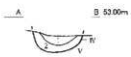
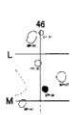
1 黒褐色 (19YR3/3) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定
2 黒褐色 (19YR3/3) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定

BP-38



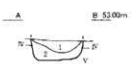
1 黒褐色 (19YR3/3) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定
2 黒褐色 (19YR3/3) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定

BP-39



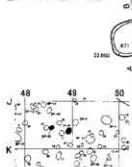
1 黒褐色 (19YR3/3) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定
2 黒褐色 (19YR3/3) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定

BP-40



1 黒色 (10YR1/1) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定
2 黒色 (10YR1/1) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定

BP-41・BP-42



BP-41 1 黒褐色 (19YR3/3) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定
BP-42 1 黒色 (10YR1/1) 粘状土、少量のL、赤い物質が散在する。層厚不定



図V-3-7 土坑(7)

BP-44 (図V-3-8、表V-4、5、図版39)

位置 K-47-a 規模 0.54×0.46/0.46×0.40/0.10m 平面形態 楕円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは概ね楕円形を呈していたため、短軸に合わせて南東側を半截すると、坑底、壁を確認できたので、土坑と判断した。記録を作成したのち、北西側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 黄褐色土ブロックを混じる黒褐色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は北西-南東方向に長軸のある楕円形。壁は南東側が急なほかは緩やかである。坑底には根跡状の細かい起伏がみられる。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器が1点出土している。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

BP-45・46 (図V-3-8、18、表V-4、5、7、図版39、68)

(BP-45) 位置 J-47-a・d 規模 (0.98)×(0.70)/(0.82)×(0.58)/0.08m

平面形態 楕円形

(BP-46) 位置 J-47-d 規模 (0.62)×0.58/(0.52)×0.48/0.06m

平面形態 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みの形状は瓢箪形であったため、遺構の重複を想定して長軸上にトレンチを設定して掘り下げた。その結果、2か所の壁の立ち上がりを確認し、切りあう1組の土坑であることがわかった。うちより新しい北側に位置する土坑をBP-45、南の古いものをBP-46とした。土層の記録を作成した後、順にBP-45の完掘の後、BP-46を調査した。

覆土 (BP-45) 3層に区分した。1層は黄褐色土が混じる黒褐色土、2、3層は中央にある柱穴状土坑の堆積である。BP-45より古い小土坑であるかもしれない。(BP-46) 炭化物が若干混じる黒色土の単層である。いずれも掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 (BP-45) 濁水処理施設部分調査時に北東端を欠損するが、平面形は楕円形とみられる。壁は緩やかで坑底は概ね平坦である。土坑中央に柱穴状の小土坑がある。

(BP-46) 壁は緩やかで坑底は概ね平坦である。BSP-56と重複し、本遺構が新しい。

時期 周囲、また覆土中から出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

遺物出土状況 (BP-45) 覆土から、IV群a類土器10点、床面から、IV群a類土器5点が出土している。

(BP-46) 覆土から、IV群a類土器2点、フレイク3点が出土している。

掲載遺物：土器 35は覆土から出土したIV群a類土器。地文は燃赤文である。

BP-47 (図V-3-8、18、表V-4、5、7、図版39、68)

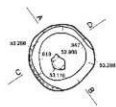
位置 K-49-b 規模 0.90×0.78/0.50×0.58/0.44m 平面形態 円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層下部を調査中、黄褐色土と黒褐色土で構成される落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは不明瞭ではあったが、概ね円形を呈していた。そのため南側を半截した。その結果、やや掘りすぎてから、壁、坑底を確認することができ、土坑と判断した。壁、坑底はともに不明瞭であったため、北側にトレンチを入れ、土層を観察しながら掘り下げた。北側壁検出時に北東側に遺構が重複していることがわかった。BP-62である。先後関係は不明である。

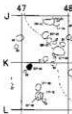
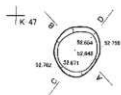
覆土 5層に分層した。上位の1層は黄褐色土、炭化物を若干混じる黒色土である。他遺構の堀

BP-43



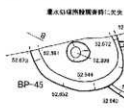
1 黒色 (10V/2/1) やや粘りあり、しびれなし。炭化物、3cm以下の黄褐色土が少量混入する。

BP-44



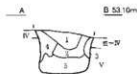
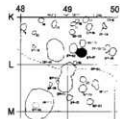
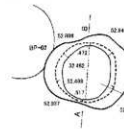
BP-44 1 黒褐色 (10V7/3) 粘りなし、しびれあり。3cm以下の黒褐色土が少量混入する。

BP-45・BP-46



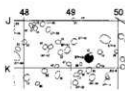
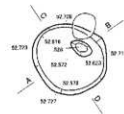
BP-45 1 黒色 (10V2/1) やや粘りあり、しびれなし。炭化物が少量混入する。
 2 黒褐色 (10V2/2) 粘りなし、やや粘りあり。炭化物が少量混入する。
 3 黄褐色 (10V3/1) 粘りなし、しびれあり。炭化物が少量混入する。
 BP-46 1 黒褐色 (10V3/3) やや粘りあり、ややしびれあり。2cm以下の黄褐色土、炭化物が少量混入する。

BP-47



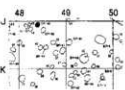
1 黒色 (10V2/1) 粘りなし、しびれなし。3cm以下の炭化物、炭化物が少量混入する。
 2 黄褐色 (10V3/2) 粘りなし、しびれあり。2cm以下の黄褐色土が少量混入する。
 3 黄褐色 (10V3/3) 粘りなし、しびれあり。炭化物が少量混入する。
 4 黄褐色 (10V3/4) 粘りなし、しびれあり。炭化物が少量混入する。
 5 黄褐色 (10V3/5) 粘りなし、しびれあり。2cm以下の炭化物、炭化物が少量混入する。
 6 黄褐色 (10V3/6) 粘りなし、しびれあり。2cm以下の黄褐色土が少量混入する。

BP-48



1 黒色 (10V2/1) 粘りなし、やや粘りあり。2cm以下の炭化物、炭化物が少量混入する。
 2 黄褐色 (10V3/1) 粘りなし、やや粘りあり。2cm以下の黄褐色土が少量混入する。

BP-49



1 黄褐色 (10V3/2) 粘りなし、しびれあり。黄褐色土。



図V-3-8 土坑(8)

上土の可能性がある。4層とした壁際の堆積はV層に相当する黄褐色土。その他2、3、5層は埋め戻しとみられる汚れた土である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は概ね円形を呈し、壁は確認できた部分において、急激に立ち上がり、坑底は平坦である。北西側でBP-62と接している。また東側0.1mには、BP-75が位置している。

遺物出土状況 検出面でIV群a類土器12点、フレイク1点、砂利3点が出土している。

覆土から、IV群a類土器19点、フレイク1点、砂利を含む礫7点が出土している。

時期 周囲、覆土から出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 36は覆土から出土したIV群a類土器。無文地に沈線文が描かれている。

BP-48 (図V-3-8、18、表V-4~7、図版40、68、69)

位置 J-49-b **規模** 0.78×0.76/0.70×0.64/0.12m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。IV層上面を精査中、黒色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは張り出しのある円形を呈しており、遺構の重複が予想された。検出面を精査した結果、土坑と小土坑が重複していることがわかった。小土坑をBSP-42とし、その調査終了後に本遺構の調査を行なった。落ち込みは比較的明瞭な円形を呈していたため、南西側を半載した。その結果、壁、坑底を確認することができた。記録を作成した後、北東側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に分層した。黒色土と黒褐色土とともに黄褐色土を混じる埋め戻しとみられる土である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はほぼ円形、壁は急で、坑底は根跡状の細かい起伏が多数認められる。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器26点、フレイク1点、礫3点が出土している。

坑底からは、IV群a類土器1点、礫片が1点出土している。

時期 坑底出土の土器、周囲の遺物出土状況から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 37は覆土から出土した1点が包含層から出土したものと接合している。やや胴の膨らむ深鉢。胴部上半までの破片があるが、底部は接合していない。地文は条が横走気味となるLR縄文。38は覆土から出土したものの。無文地に貼付帯がつけられ、貼付帯を緑取るように沈線が付けられている。39は坑底で出土した。RL縄文が縦位に施文されている。37~39はIV群a類。

BP-49 (図V-3-8、表V-4、5、図版40)

位置 J-49-a **規模** 0.44×0.40/0.36×0.30/0.10m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。IV層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは楕円形で、中央よりやや西側に礫を伴っていた。長軸から南東側を半載したところ、明瞭な壁、坑底を確認することができた。記録を作成した後、北西側を掘り下げ調査を終了した。

覆土 黒褐色土の単層である。Ⅲ層中位に相当する自然堆積の可能性がある。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は東西にやや長い楕円形、壁は急で坑底はほぼ平坦である。

遺物出土状況 覆土1層から、礫・礫片が2点出土している。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

BP-50 (図V-3-9、19、表V-4、5、7、図版40、69)

位置 K-47-b **規模** 0.70×0.68/0.58×0.56/0.24m **平面形態** 円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面において、遺構確認を行なったところ、中

心に焼土を伴う黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みの輪郭が明瞭であったため、南側を半載した。その結果、坑底と壁を検出し、土坑であることがわかった。記録を作成した後、北側を掘り下げ、調査を終了した。

覆土 5層に分層した。1層は焼土BF-32である。層界が明瞭で、暗褐色土がブロック状に混じるため、焼成した場所から移動したものとみられる。2～5層は黄褐色粘土と炭化物、焼土粒が混じる黒褐色土であり、層界には黄褐色粘土がある。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は概ね円形を呈し、壁は南北方向では直立、西側では緩やかで、東側はややオーバーハングする。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器79点、Rフレイク1点、すり石1点、フレイク3点、砂利40点、礫1点が出土している。

時期 覆土から多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 40A、Bは同一個体。肥厚した口縁部に沈線文がつけられる。体部には燃糸文が施文される。

BF-32 (図V-3-9、表V-4)

位置 K-47-b **規模** 0.42×0.22/0.04m

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面において、遺構確認を行なったところ、中心に焼土を伴う黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みの輪郭が明瞭であったため、南側を半載した。その結果、坑底と壁を検出し、土坑と判断した。このため土坑をBP-50、焼土をBF-32として調査した。

特徴 平面形は概ね東西に長い瓢箪様の形状であり、明瞭な赤褐色を呈する。土層は暗褐色土がブロック状に入り込んでおり、下位に位置するBP-50覆土中にも焼土粒が認められることから、移動した焼土である可能性が高い。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-51 (図V-3-9、表V-4、図版40)

位置 M-35-b・c **規模** 0.56×0.46/0.42×0.38/0.12m **平面形態** ほぼ円形

確認 調査区北側平坦面に位置する。Ⅲ層下部を掘り下げたところ、黒色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは比較的明瞭で概ね円形を呈していたため、南東側を半載した。その結果、明瞭な壁、坑底を確認し、土坑と判断した。記録作成後、北西側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 黒色土の単層。Ⅲ層相当の自然堆積とみられる。層界はやや不明瞭である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はほぼ円形、壁は全周で急。坑底は椀状で、根椀状の痕跡が多数認められる。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BP-52 (図V-3-9、表V-4、5、図版40)

位置 P-38-c **規模** (1.06)×0.50/(0.96)×0.38/0.10m **平面形態** 楕円形

確認 BP-26、27の検出中、BP-27に重複する黒色土の落ち込みを検出した。

調査 BP-26、27の調査終了後、壁面を精査したところ、断面を確認することができ、土坑と判断した。長楕円形を呈する平面形の中心にベルトを残し、落ち込みを掘り下げ、明瞭な壁、坑底を

確認した。

覆土 黄褐色土粒子を混じる黒色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 確認できた部分では、平面形は楕円形、坑底と壁は緩やかに連続して浅い椀状を呈する。BP-27と重複し、本遺構が古い。

遺物出土状況 覆土から、礫片が1点出土している。

時期 不明であるが、遺跡で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-53 (図V-3-9、19、表V-4、5、7、図版40、69)

位置 M-46-c、M-47-b **規模** 0.60×0.46/0.36×0.40/0.20m **平面形態** 不整円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中位～下位を調査中、Ⅳ群a類の比較的大きな破片を検出した。遺構に伴うものの可能性を考慮しそのまま残してⅣ層まで掘り下げた。その結果、土器片を中心に黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みはM-47区に続いていたので、同区のⅣ層上面において、改めて落ち込みの輪郭を検出した。落ち込みは比較的明瞭な円形を呈していたため、上面の遺物を取り上げた後、南側を半載した。その結果明瞭な壁、坑底を確認することができ、土坑と判断した。記録を作成した後、遺物を残しつつ北側を掘り下げた。遺物の出土状況、完掘した土坑の記録を作成して調査を終了した。

覆土 炭化物、黄褐色土を多く混じる黒褐色土の単層である。埋め戻しとみられる。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はいびつな円形、壁は北西側で垂直に近く立ち上がり、その他の部分では緩やかである。坑底は椀状を呈するが、根跡状の細かな起伏が多く認められる。約1m北西にBP-55が位置している。

遺物出土状況 検出面において、Ⅳ群a類土器32点、礫6点が出土している。覆土からは、Ⅳ群a類土器15点、フレイク1点、礫・礫片が2点出土している。

時期 検出面、及び覆土出土土器から、縄文時代後期前葉のものであるとみられる。

掲載遺物：土器 41は検出面で出土したⅣ群a類土器。小ぶりの突起が付く深鉢。条が横走るLR縄文が器面全体に施文される。42は上面と覆土1層中から出土したものが接合している。Ⅳ群a類の底部付近。張り出す底部で器壁は急角度で直線的に立ち上がっている。地文は太さの異なる原体を燃ったLR斜行縄文。

BP-54 (図V-3-9、表V-4、図版41)

位置 N-47-a **規模** 0.68×0.48/0.56×0.42/0.14m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅳ層上面を精査中、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは比較的明瞭な楕円形であったため、短軸南西側を半載した。結果、明瞭な壁、坑底を検出し、土坑と判断した。記録を作成したのち、北東側を掘り下げた調査を終了した。

覆土 炭化物が混じる黒色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は楕円形、壁は緩やかで、坑底は平坦である。0.5m北にBP-57が位置している。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で検出される遺構から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-55 (図V-3-9、19、表V-4、5、7、図版41、69)

位置 M-47-b **規模** 0.48×0.42/0.36×0.34/0.12m **平面形態** 円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅴ層上面を精査中、中心に数点の土器片を伴う黒色

土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは小規模ではあったが概ね円形を呈していた。上面の遺物を撮影し、南側を半載したところ、坑底を検出したので、土坑と判断した。

覆土 黄褐色土の混じる黒褐色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 ほぼ坑底部分のみの検出である。根跡状のしみが多数認められる。約1m北西にBP-53が位置している。

遺物出土状況 検出面において、IV群a類土器19点、フレイク1点が出土している。

時期 検出面出土の土器から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 43～45は検出面から出土したIV群a類土器。43は包含層から出土したものと接合している。無節の結束第二種斜行縄文が施文される。44は底部付近。LR縄文が縦位に施文される。45は底部。燃糸文が施文される。

BP-56 (図V-3-9、表V-4、図版41)

位置 M-46-b・c **規模** 0.54×0.50/0.48×0.42/0.06m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは明瞭な楕円形を呈していたため、短軸の南東側を半載した。結果明瞭な壁、坑底を確認したので、土坑と判断した。記録を作成した後、北西側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 黄褐色土がごく少量混じる黒褐色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 坑底部分とわずかな壁を検出できた。平面形は楕円形、坑底は根跡状の細かな起伏が多数認められる。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で出土している遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-57 (図V-3-9、19、表V-4、5、7、図版41、69)

位置 N-46-d、N-47-a **規模** 0.68×0.56/0.58×0.44/0.10m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。IV層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは概ね楕円形を呈していたため、短軸南西側を半載した。結果壁、坑底を確認することができたので、土坑と判断した。記録を作成した後、北東側を掘り下げ調査を終了した。

覆土 炭化物が混じる黒褐色土の単層である。

特徴 確認できたのは坑底から10cmまでの部分である。壁は緩やかで、坑底は概ね平坦であるが、根跡状の細かい起伏が多数認められる。0.5m南にBP-54が位置している。

遺物出土状況 覆土からIV群a類土器4点、礫2点、坑底からIV群a類土器が1点出土している。

時期 坑底、覆土出土の遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 46は覆土から出土したIV群a類土器。地文は無節rである。

BP-58 (図V-3-10、19、表V-4、5、7、図版41、69)

位置 L-49-b・c **規模** 0.58×0.52/0.46×0.40/0.22m **平面形態** ほぼ円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層を掘り下げていたところ、黄褐色土の不自然な隆起を検出した。改めて精査を行なうと、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みはほぼ円形を呈していた。南半分を半載して坑底、壁を確認することができ、土坑と判断した。記録を作成したのち、北側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に分層した。黄褐色土が混じる黒色土と東壁際に堆積するV層とみられる浅黄色土である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はほぼ円形、壁は全周でほぼ直立し、坑底はほぼ平坦で形状は鍋状である。0.7m北東にBP-59が位置している。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器7点、Rフレイク1点、礫1点が出土している。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 47は覆土から出土したIV群a類土器。無文の胴部片である。

BP-59 (図V-3-10、19、表V-4、5、7、図版42、69)

位置 L-49-a・b **規模** 0.70×0.66/0.52×0.48/0.24m **平面形態** 円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層下部からⅣ層上面を掘り下げていたところ、円形の黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 付近を精査したところ、円形の中心には黒褐色土が堆積し、輪郭に沿って焼土粒、炭化物を混じる土が環状にめぐっていた。遺構を想定して南側を半載すると、明瞭な壁、坑底を確認することができたので、土坑と判断した。記録を作成したのち北側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 3層に分層した。1、2層は中心に堆積する黄褐色土を混じる黒褐色土である。3層は検出面で環状に認められた焼土粒、炭化物を混じる黒褐色土である。壁際に堆積している。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は円形、壁は全周で直立し、坑底は緩やかに椀状を呈する。0.7m南西にBP-58、0.2m東にBP-60が位置し、0.5m南にBF-17が位置している。

遺物出土状況 覆土からIV群a類土器32点、フレイク2点、礫1点、砂利11点が出土している。

時期 周囲、覆土で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものと思われる。

掲載遺物：土器 48、49は覆土から出土したIV群a類土器。48は無文地にやや細めの沈線による文様が描かれている。49は燃糸文が施文される。

BP-60 (図V-3-10、表V-4、図版42)

位置 K-47-a・b **規模** 0.56×0.46/0.28×0.26/0.30m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面で根跡など自然攪乱を掘り下げていたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは不明瞭であったので自然攪乱と判断し、黒褐色土を掘り下げると、全周で壁が現れたため、土坑と認識し、完掘状態のみ記録を作成した。

覆土 掘り下げにより不明である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は東西方向に長軸のある楕円形を呈する。断面形は椀状を呈する。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲の遺構検出状況から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-61 (図V-3-10、19、表V-4、5、7、図版42、69)

位置 J-48-d、J-49-a・d

規模 0.46×0.42/0.24×0.22/0.14m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央部東側緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を掘り下げていたところ、直径40cm程の大きさの礫が出土した。

調査 礫を残したままⅢ層を掘り下げ、V層上面を精査すると、礫の下部に黒色土の落ち込みを検出した。南西側を半載した結果、壁と坑底を確認したので、土坑と判断した。記録を作成し、礫を取り上げた後、北東側を掘り下げて、調査を終了した。

覆土 黄褐色土ブロックの混じる黒色土の堆積である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は概ね円形、壁は緩やかである。0.4m北西にBP-41が位置している。

遺物出土状況 検出面で大礫が出土している。覆土からⅢ群a類土器1点、Ⅳ群a類土器2点、フレイク1点、礫片1点が出土している。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 50は覆土から出土したⅢ群a類土器。口唇に縄線による刻みが施されている。

BP-62 (図V-3-10、19、表V-4、5、7、図版42、69)

位置 K-49-b **規模** 0.80×0.68/0.68×(0.22)/0.24m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。BP-47の調査終了後、北側の壁面に別の落ち込みを確認した。周囲のⅣ層を精査すると、概ね楕円形を呈し、検出面に礫2点を伴う落ち込みの輪郭を検出することができた。

調査 落ち込みは比較的光照であったため、南東側を半載した。結果一部が大きく抉れる坑底を確認したので、土坑と判断した。断面の記録を作成し、北西側を掘り下げた。平面と礫の記録を作成し、礫を取り上げて調査を終了した。

覆土 3層に分層した。いずれも黄褐色土粒子、炭化物、焼土粒子の混じる黒褐色土もしくは黒色土で、埋め戻されたものとみられる。

特徴 平面形は比較的光照な楕円形を呈するが、坑底は一部が柱穴状に抉れ、でこぼこである。南東側でBP-47と接している。先後関係は不明である。南東方向0.3mの位置には、BP-75が位置している。

遺物出土状況 検出面で礫が2点出土している。覆土からⅣ群a類土器10点、フレイク1点、砂利2点、礫1点が出土している。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 51は覆土から出土したⅣ群a類土器。無文地に2本一組の沈線、無文の貼付帯により文様が描かれている。

BP-63 (図V-3-10、19、表V-4、5、7、図版42、69)

位置 P-49-d **規模** 0.58×(0.54)/0.46×(0.44)/0.08m **平面形態** 円形

確認 調査区中央西側平面に位置する。V層上面を精査中、黒褐色土の円形の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みを精査して、南東側を半載した。その結果、自然撈乱のある北東側を除いて坑底、壁を検出し、土坑と判断した。記録を作成したのち、北側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 黄褐色土と炭化物が混じる黒褐色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 壁は緩やかで、坑底は平坦である。北西方向0.8mの位置にBP-65が位置する。

遺物出土状況 覆土から、Ⅳ群a類土器が9点出土している。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 52、53は覆土から出土したⅣ群a類土器。52は口縁部。地文はLR斜行縄文。53の地文は条の横走るLR縄文。

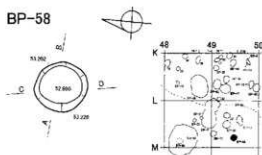
BP-64 (図V-3-11、表V-4、5、図版42)

位置 K-49-a-b **規模** 0.62×0.52/0.52×0.40/0.06m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

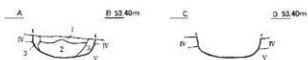
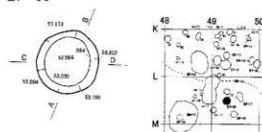
調査 落ち込みは比較的光照であったため、北西側を半載した。やや坑底を掘りすぎた結果、明瞭な坑底を土層で確認することができた。このことから土坑と判断した。記録を作成したのち、南東

BP-58



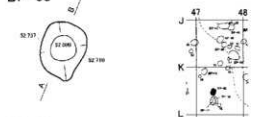
- 1 黒色 (10YR5/2) 粘質砂、中～小、粒径約 2cm以下の黄褐色土層が多数見られる
- 2 黄褐色 (G, 5Y7) 粘質土、土質が均一、母岩性土が若干混入

BP-59

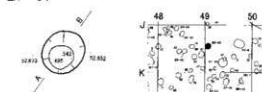


- 1 黒褐色 (10YR5/2) 粘質砂、中～小、粒径約 1cm以下の黄褐色土層が多数見られる
- 2 緑褐色 (10YR5/3) 粘質砂、中～小、粒径約 2cm以下の黄褐色土が多数見られる
- 3 黄褐色 (10YR5/2) 粘質砂、中～小、粒径約 1cm以下の黄褐色土が多数見られる

BP-60

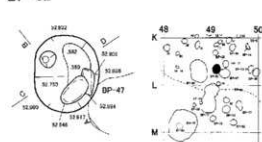


BP-61



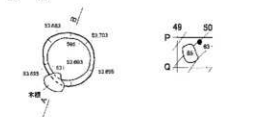
- 1 黒色 (10YR2/2) 粘質砂、中～小、粒径約 3cm以下の黄褐色土が多数見られる

BP-62



- 1 黄褐色 (10YR5/2) 粘質砂、中～小、粒径約 1cm以下の黄褐色土、黄色土が多数見られる
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 粘質砂、中～小、粒径約 1cm以下の黄褐色土、黄褐色土が多数見られる
- 3 灰色 (10YR2/1) 粘質砂、中～小、粒径約 3cm以下の黄褐色土が多数見られる

BP-63



- 1 黄褐色 (10YR5/2) 粘質砂、土質が均一、1cm以下の黄褐色土、灰褐色粘質砂が多数見られる



図V-3-10 土坑(10)

側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 炭化物、黄褐色土の混じる黒褐色土の単層である。掘りこみ面は検出面より上位である。

特徴 平面形は楕円形、ほぼ坑底部分のみである。南東方向0.4mにBF-7、北西方向にBF-23が位置している。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器が4点出土している。

時期 周囲で多く出土する遺物、また覆土出土遺物から、縄文時代後期前葉ものとみられる。

BP-65 (図V-3-11、表V-4、5、図版43)

位置 P-49 **規模** 2.38×1.82/2.20×1.68/0.10m **平面形態** 隅丸方形

確認 調査区中央西側平坦面に位置する。V層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは、隅丸方形を呈していたため、長軸にあたる北東-南西方向にベルトを残してV層まで掘り下げた。その結果、壁と坑底を確認した。このことから土坑と判断した。土層の記録を作成した後、ベルトを除去して調査を終了した。

覆土 III層とみられる黒褐色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 壁は緩やかで坑底は平坦である。平面形は隅丸方形、中央に柱穴状の土坑がある。南東方向0.8mの位置にBP-63が位置する。

遺物出土状況 覆土から、砂利が1点、礫が2点出土している。

時期 不明であるが、遺跡から出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BP-66 (図V-3-11、20、表V-4、5、7、8、図版43、69、83)

位置 K-48-c・d **規模** 1.90×1.38/(1.42)×1.00/0.28m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。III層中位を調査中、幅50cmほどの大礫が出土した。遺構の存在を想定し礫を残して周囲を掘り下げた結果、礫に伴う黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは概ね東西に長い楕円形を呈し、礫はその西端に位置していた。礫にかかるように長軸から南側を半載した。その結果、壁、坑底を確認したので、土坑と判断した。記録を作成した後、北側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に分層した。黄褐色土と炭化物が混じる黒褐色土の堆積である。掘り込み面は検出面より上位とみられる。

特徴 平面形は東西に長い不整な楕円形を呈する。壁は概ね急だが、南北方向でやや緩やかである。坑底はほぼ平坦で、根跡状の細かい起伏が多い。坑底中央よりやや東よりに柱穴状の土坑を1基検出している。

時期 周囲や覆土出土の遺物から、縄文時代後期前葉ものとみられる。

遺物出土状況 検出面で出土した礫は砂岩である。覆土から、IV群a類土器47点、Uフレイク1点、フレイク1点、砂利6点、礫1点が出土している。

掲載遺物：土器 54、55は覆土から出土したIV群a類土器。54は無文の口縁部。55はやや細かいLR縄文が表裏にわたり施文される。

掲載遺物：石器 56は覆土出土のUフレイク。縦長剥片を素材とし、背面左側縁に微細な剥離痕をもつもの。

BP-67 (図V-3-11、20、表V-4、5、8、図版43、84)

位置 M-51-c・d **規模** 0.80×0.76/0.62×0.64/0.34m **平面形態** 円形

確認 調査区南側の緩斜面に位置する。IV層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みはほぼ円形を呈していたため、南側を半載した。その結果、明瞭な坑底と壁、床面に石器1点を確認した。このため土坑と判断した。記録を作成したのち、北側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 4層に分層した。上位の1層はⅢ層上位に相当する黒色土。2～4層は黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土の混じる汚れた土である。埋め戻しとみられる。覆土の状況から、掘り込み面はⅢ層中～下位である。

特徴 平面形は円形。壁は坑底から中半ほどまでが垂直に立ち上がり、坑口付近ではやや緩やかになっている。坑底はほぼ平坦、根跡状の細かい起伏が若干みられる。

遺物出土状況 検出面坑口西に接して砂岩礫1点が出土している。坑底から扁平打製石器が1点、覆土からはⅣ群a類土器3点、フレイク1点が出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものと思われる。

掲載遺物：石器 57は坑底から出土した扁平打製石器である。扁平な砂岩礫を用い、使用面と周縁の一部を打ち欠いて整形されている。すり面の幅は最大1.4cmである。

BP-68・69 (図V-3-12、20、表V-4、5、7、図版43、69)

(BP-68) 位置 M-53-a・b 規模 0.88×0.86/0.68×0.66/0.24m

平面形態 円形

(BP-69) 位置 N-52-d、N-53-a 規模 1.24×1.08/0.92×0.78/0.22m

平面形態 楕円形

確認 調査区南部の緩斜面に位置する。Ⅳ層上面を精査中、黒色～黒褐色土の落ち込みを2か所検出した。

調査 落ち込みは北東～南西に0.2mの間隔でほぼ接しており、どちらもほぼ明瞭な円形、楕円形を呈していたので、南東側を半載した。どちらも明瞭な壁、坑底を確認することができ、土坑と判断した。南西側をBP-68、北東側をBP-69とした。記録を作成したのち、北西側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 (BP-68) Ⅲ層上位に相当するとみられる黒色土の単層である。掘り込み面は覆土の状況から、Ⅲ層中とみられる。

(BP-69) 黄褐色土ブロックの混じる黒褐色土である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 (BP-68) 平面形はほぼ円形、壁の立ち上がりはやや急で、坑底はほぼ平坦である。坑底は根跡状の細かい起伏が多数認められる。

(BP-69) 平面形は楕円形、壁は緩やかに坑底と連続し、椀状を呈する。坑底は根跡状の細かい起伏が多数認められる。

遺物出土状況 (BP-68) 覆土から、砂利が3点出土している。

(BP-69) 覆土から、Ⅲ群a類土器2点、礫1点が出土している。

時期 (BP-68・69) 不明であるが、周囲の遺物出土状況から、縄文時代中期前半もしくは縄文時代後期前葉のもの可能性が高い。

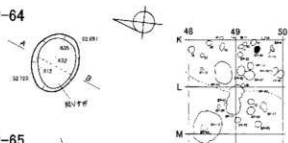
掲載遺物：土器 58はBP-69の覆土から出土したⅢ群a類。沈線文が描かれる口縁部である。口唇には縄線による刻みが施される。

BP-70 (図V-3-12、表V-4、5、図版43)

位置 N-52-d 規模 0.66×0.64/0.60×0.56/0.30m 平面形態 不整形円形

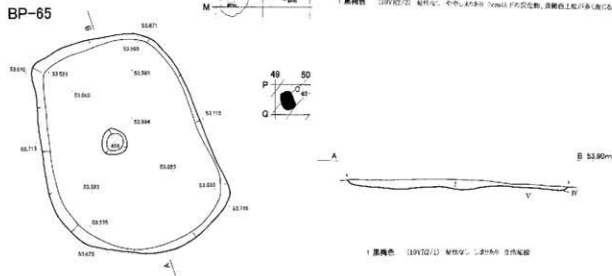
確認 調査区南部の平坦面に位置する。Ⅳ層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。

BP-64



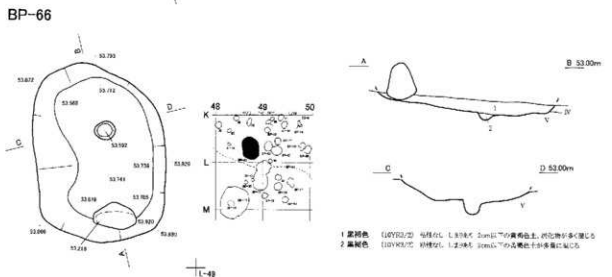
1 黒褐色 (10YR2/2) 粘状土、中央に直径約 2.0m 以下の灰化土、黄褐色土層が多数見られる

BP-65



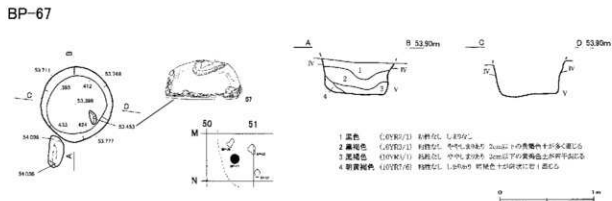
1 黒褐色 (10YR2/1) 粘状土、粘状土、自然埋藏

BP-66



1 黒褐色 (10YR2/2) 粘状土、L.3.5m 以下に黄褐色土、灰化土が多数見られる
2 黒褐色 (10YR2/2) 粘状土、L.2.5m 以下の黄褐色土が多数見られる

BP-67



1 黒色 (5YR2/1) 粘状土、粘状土
2 黒褐色 (5YR2/1) 粘状土、中央に直径約 2.0m 以下の黄褐色土が多数見られる
3 黒褐色 (10YR2/1) 粘状土、中央に直径約 2.0m 以下の黄褐色土が多数見られる
4 黄褐色土 (10YR2/2) 粘状土、L.3.5m 以下に黄褐色土が多数見られる



図V-3-11 土坑(11)

調査 落ち込みは明瞭な円形を呈していたため、南側を半載して坑底、壁を確認し、坑底から礫石器を検出した。このため土坑と判断し、記録を作成した後、北側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に分層した。上位の1層は微量な黄褐色土を混じる黒色土。下位の2層は暗褐色土、黄褐色土を混じる黒褐色土である。埋め戻しとみられる。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はややいびつな円形を呈する。壁は直立して坑底は平坦である。

遺物出土状況 坑底から石皿片1点、礫1点が出土している。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代中期前半もしくは後期前葉のものとみられる。

BP-71 (図V-3-12、20、表V-4、5、7、8、図版44、69、84)

位置 K-48-c、K-49-b、L-48-c、d、L-49-a・b

規模 2.56×1.34/2.14×0.94/0.20m **平面形態** 不整楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは不整ではあるが概ね東西に長い楕円形を呈していた。そのため長軸に合わせてベルトを残して黒褐色土を掘り下げた。その結果、壁、坑底を確認したので、土坑と判断した。土層断面の記録を作成した後、ベルトを除去して調査を終了した。

覆土 2層に分層した。黄褐色土粒子、炭化物の混じる黒褐色土、暗褐色土である。

特徴 平面形は中央が挟まれる不整な楕円形を呈する。坑底と壁は緩やかに連続し、浅い皿状を呈する。坑底は凹凸が多い。南西側に径0.5mほどの円形の落ち込みがある。本遺構に付属するものとしたが、別遺構の可能性もある。0.3m西にBP-73が、北に接してBF-20が位置している。

遺物出土状況 覆土からIV群a類土器が8点、石核1点、フレイク2点、礫・礫片11点が出土している。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 59、60は覆土から出土したもの。60はBP-75から、同一個体が出土している。いずれもIV群a類の口縁部。59は折り返しによるやや外に開く。折り返し部分は無文である。60は口縁が帯状に肥厚するもの。肥厚部分は無文地に縄線が2条、口唇に平行に付けられる。

掲載遺物：石器 61は覆土から出土した石核である。

BP-72 (図V-3-12、表V-4、5、図版44)

位置 M-47-a・d **規模** 0.48×0.40/0.36×0.30/0.12m **平面形態** 円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは明瞭な円形を呈していた。南東側を半載して坑底、壁を検出したため、土坑と判断した。記録を作成したのち、北西側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 炭化物の混じる黒褐色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は円形、壁の立ち上がりは急で、坑底はほぼ平坦である。0.4m北東にBH-11が位置している。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器が6点出土している。

時期 不明であるが、覆土出土の遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性がある。

BP-73 (図V-3-13、20、表V-4、5、7、図版44、69)

位置 L-48-c、L-49-b **規模** 0.54×0.48/0.44×0.42/0.16m **平面形態** 円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは円形を呈していたため、南東側を半載した。その結果、明瞭な坑底、壁を確認したので、土坑と判断した。記録を作成した後、北西側を掘り下げ完掘して調査を終了した。

覆土 炭化物と黄褐色土ブロックの混じる黒褐色土の単層である。埋め戻しとみられる。掘り込

み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は円形、壁の立ち上がりは急で、坑底は概ね平坦である。0.3m東にBP-71が位置している。

遺物出土状況 覆土からIV群a類土器が3点出土している。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 62は覆土から出土したIV群a類土器。無文地に沈線により文様が描かれている。

BP-74 (図V-3-13、表V-4、図版44)

位置 P-56-a・b **規模** 0.58×0.58/0.50×0.44/0.12m **平面形態** ほぼ円形

確認 調査区南部の平坦面に位置する。V層上面を精査中、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは明瞭でほぼ円形を呈していたため、中央にベルトを残して黒色土を掘り下げた。その結果、明瞭な壁、坑底を検出することができ、土坑と判断した。記録を作成した後、ベルトを除去して調査を終了した。

覆土 黄褐色土粒子を混じる黒色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はややいびつな円形。壁は坑底と緩やかに連続し、浅い皿状を呈する。坑底には根跡状の起伏により凸凹が多い。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で検出される遺構、出土する遺物から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BP-75 (図V-3-13、表V-4、5、図版44)

位置 K-49-a・b **規模** 0.62×0.48/0.46×0.36/0.28m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは比較的明瞭な楕円形を呈していたため、長軸の南西側を半截した。その結果明瞭な壁、坑底を検出したので、土坑と判断した。記録を作成した後、北東側を掘り下げて完掘し、調査を終了した。

覆土 4層に区分した。全て黄褐色土が混じる黒~暗褐色土であり、埋め戻しとみられる堆積である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は楕円形、壁は急、坑底は概ね平坦である。西側0.1mにBP-47、北西0.3mにBP-62が、0.5m東にBF-23が位置している。

遺物出土状況 覆土からⅢ群a類土器1点、IV群a類土器8点、フレイク1点、礫2点が出土している。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

BP-76 (図V-3-13、20、表V-4、5、8、図版44、83)

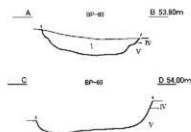
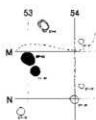
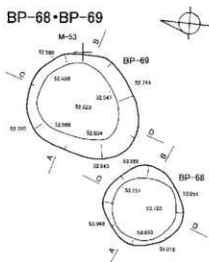
位置 M-55-c、N-55-a **規模** 1.02×0.80/0.74×0.62/0.20m **平面形態** 楕円形

確認 調査区南部の平坦面に位置する。BH-6の壁面を調査中、住居の外に黒色土の落ち込みを検出した。

調査 BH-6の調査終了後、住居の周囲を掘り下げ、黒色土の落ち込みを確認した。平面形は北東-南西方向に長い楕円形を呈していたため、短軸の南東側を半截した。その結果、明瞭な坑底と壁を確認したので、土坑と判断した。記録を作成したのち、遺物を残しながら北西側を掘り下げた。出土遺物、平面の記録を作成し、調査を終了した。

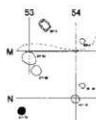
覆土 2層に分層した。上位にⅢ層上位に相当するとみられる黒色土、下位に黄褐色土、炭化物が混じる黒色土が堆積している。掘り込み面は、覆土の状況から、Ⅲ層中であるとみられる。

BP-68・BP-69



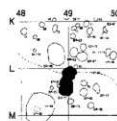
BP-68 1 黄褐色 (1) 52/2/1 粘土質なし。L層なし。D 粉砕塊
BP-69 1 黄褐色 (1) 52/2/3 粘土質なし。中や下層に約 1cm以下の黄褐色土が散在する

BP-70



1 黄褐色 (1) 52/2/1 粘土質なし。中や下層に約 1cm以下の黄褐色土が散在する
2 黄褐色 (1) 52/2/2 粘土質なし。L層あり。黄褐色土がほとんど埋まる

BP-71



1 黄褐色 (1) 52/2/1 粘土質なし。中や下層に約 1cm以下の黄褐色土が散在し、酸化物質が埋まる
2 灰黄褐色 (1) 52/2/2 粘土質なし。中や下層に約 1cm以下の黄褐色土が散在し、酸化物質が埋まる

BP-72

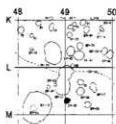


1 黄褐色 (1) 52/2/1 粘土質なし。L層なし。2cm以下の酸化物質が埋まる



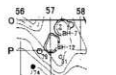
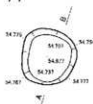
図V-3-12 土坑(12)

BP-73



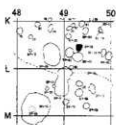
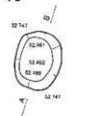
1 黒褐色 (10V92/2) 粘性なし、土中に約 10cm以下の硬物(土粒)あり、50cm以下の黄褐色土が少量に混じる

BP-74



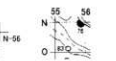
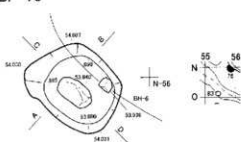
1 黒色 (10V92/1) 粘性なし、やや中粒の砂 20cm以下の黄褐色土が少量に混じる

BP-75



- 1 黒褐色 (10V92/1) 粘性なし、やや中粒の砂 10cm以下の黒褐色土が少量に混じる
- 2 灰褐色 (10V92/2) 粘性なし、やや中粒の砂 10cm以下の黄褐色土が少量に混じる
- 3 黒褐色 (10V92/2) 粘性なし、土中に約 5cm以下の黄褐色土が少量に混じる
- 4 黒色 (10V92/1) 粘性なし、土中に約 10cm以下の黄褐色土が少量に混じる

BP-76



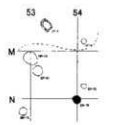
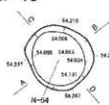
- 1 黒色 (10V92/1) 粘性なし、土中に約 10cm以下の黄褐色土が少量に混じる
- 2 黒褐色 (10V92/2) 粘性なし、やや中粒の砂 20cm以下の黄褐色土が少量に混じる

BP-77



1 黒褐色 (10V92/2) 粘性なし、やや中粒の砂 5cm以下の黄褐色土が少量に混じる、灰化物が少量混じる

BP-78



- 1 黒褐色 (10V92/2) 粘性なし、やや中粒の砂 20cm以下の黄褐色土が少量に混じる、灰化物が少量混じる
- 2 黒褐色 (10V92/2) 粘性なし、やや中粒の砂 20cm以下の黄褐色土が少量に混じる、灰化物が少量混じる
- 3 明黄褐色 (10V97/5) 粘性なし、土中に約 10cm以下の黄褐色土が少量に混じる



図V-3-13 土坑(13)

特徴 平面形は隅丸方形に近い楕円形、壁は緩やかに坑底と連続し、椀状である。坑底には根跡状の細かい起伏が多く認められる。BH-6と南東側で重複するが、BH-6との先後関係はわからない。

遺物出土状況 床面から礫が2点出土している。1点は土坑中央に位置し、砂岩製で全長40cmほどのものである。覆土から、スクレイパー1点、フレイクが1点出土している。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：石器 63はスクレイパー。縦長剥片を用い、背面左側縁にやや内湾する刃部、剥片端部にも細部調整されている。

BP-77 (図V-3-13、表V-4、5、図版45)

位置 R-57-c **規模** 0.56×0.52/0.44×(0.44)/0.08m **平面形態** 楕円形

確認 調査区南端の平坦面に位置する。V層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは西側に礫を伴い、明瞭な円形を呈していたため、礫にかかるように南西側を半載して坑底、壁を確認したので、土坑と判断した。記録を作成したのち、北東側を掘り下げ、礫と平面の記録を作成し、礫を取り上げて調査を終了した。

覆土 黄褐色土と炭化物が混じる黒褐色土の単層である。埋め戻しとみられる。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 削平により上部は失われ、ほぼ坑底付近のみ検出できた。坑底は根跡状の痕跡により多数の起伏がある。

遺物出土状況 検出面と覆土から礫が各1点出土している。

時期 不明であるが、遺跡で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BP-78 (図V-3-13、表V-4、図版45)

位置 M-53-c、M-54-b、N-53-d、N-54-a

規模 0.70×0.66/0.60×0.54/0.22m **平面形態** 円形

確認 調査区南側の緩斜面に位置している。IV層下部で黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは比較的明瞭な円形を呈していたため、南西側を半載した。その結果、壁、坑底を確認したので、土坑と判断した。記録を作成したのち、北東側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 3層に分層した。1、2層はいずれも黄褐色土と炭化物を混じる黒褐色土である。下位の2層は埋め戻しとみられる堆積である。3層は黄褐色土。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はほぼ円形、壁は南東方向が緩やかなほかは急である。坑底は根跡状の起伏が多くでこぼこである。0.7m南東にBF-30が位置している。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、遺跡で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

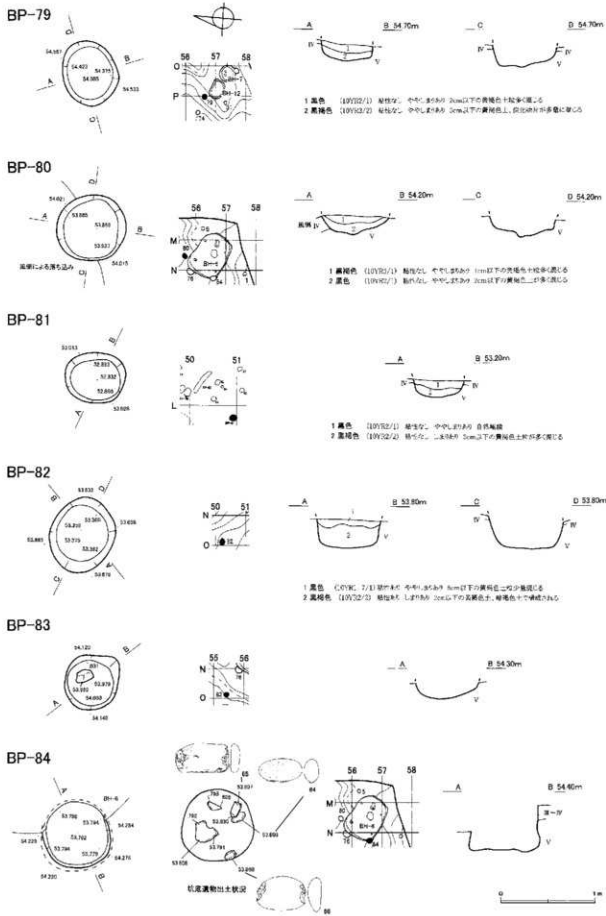
BP-79 (図V-3-14、表V-4、5、図版45)

位置 O-56-c、P-56-d **規模** 0.68×0.58/0.54×0.48/0.20m **平面形態** 楕円形

確認 調査区南部の平坦面に位置する。V層上面を精査中、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みはほぼ円形であったため、南北方向にベルトを残して掘り下げた。その結果、明瞭な壁、坑底を検出し、土坑と判断した。記録を作成した後ベルトを除去して調査を終了した。

覆土 2層に分層した。黒色土と黒褐色土である。いずれも黄褐色土粒子が混じる。下位の黒褐



図V-3-14 土坑(14)

色土には炭化物も混じる。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は北東—南西方向に長軸のある楕円形、壁は急で、垂直に近い。坑底はほぼ平坦であるが、根跡状の細かな起伏が多数認められる。0.6m南側にBH-12が位置している。

遺物出土状況 覆土から、Ⅲ群a類土器2点、礫2点が出土している。

時期 周囲の遺構検出状況、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BP-80 (図V-3-14、表V-4、図版45)

位置 M-55-c・d **規模** 0.72×0.68/0.56×0.60/0.20m **平面形態** 楕円形

確認 調査区南部の平坦面に位置する。IV層を掘り下げていたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは風倒木によるIV層の落ち込みと重なり不明瞭であったが、精査するとほぼ円形を呈する平面形を確認することができた。東側を半載すると、明瞭な坑底、壁を検出したため、土坑と判断した。記録を作成したのち、西側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に分層した。上位の1層が黒褐色土で、2層が黒色土、いずれも黄褐色土が混じる土であるが、下位の2層においてブロック状に多量に混じっている。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は円形、壁は急である。坑底は根跡状の起伏が多く凸凹している。南側0.3mにBH-6が位置している。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で検出される遺構、出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものとみられる。

BP-81 (図V-3-14、表V-4、5、図版45)

位置 L-50-d、L-51-a **規模** 0.62×0.52/0.52×0.42/0.18m **平面形態** 楕円形

確認 V層上面において、調査区南側の緩斜面に位置する。根跡の調査中、V層上面において黒色土の落ち込みを確認した。

調査 精査したところ、落ち込みの形状は明瞭な楕円形を呈していたため、南西側を半載した。その結果明瞭な壁、坑底を確認し、土坑と判断した。記録を作成したのち、北東側を調査した。

覆土 2層に分層した。上位にはⅢ層上位相当の黒色土、下位には黄褐色土の混じる黒褐色土が堆積している。掘り込み面は覆土の堆積状況から、Ⅲ層中とみられる。

特徴 平面形はやや不整な楕円形。壁は緩やかに坑底と連続し、椀状を呈する。0.6m東にBF-24が位置している。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器が1点出土している。

時期 不明であるが、遺跡の遺物出土状況から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものとみられる。

BP-82 (図V-3-14、表V-4、図版45)

位置 N-50-b **規模** 0.78×0.68/0.58×0.56/0.30m **平面形態** 楕円形

確認 調査区南部の緩斜面に位置する。V層上面を精査中、黒色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは明瞭な楕円形を呈していたため、南東側を半載した。その結果明瞭な壁、坑底を検出したので、土坑と判断した。記録を作成したのち北西側を掘り下げて調査を終了した。

覆土 2層に区分した。上位の1層は黄褐色土粒子の混じる黒色土、2層は黄褐色土、暗褐色土がモザイク状に混じる汚れた土である。ともに埋め戻しとみられる。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 坑底は平坦で、壁は全周で急である。土層断面を作成した北東—南西方向においてはほぼ

垂直である。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周辺で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-83 (図V-3-14、表V-4、5、図版46)

位置 M-55-b **規模** 0.58×0.54/0.48×0.48/0.18m **平面形態** ほぼ円形

確認 調査区南部の平坦面に位置する。V層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは不明瞭であったので自然擾乱と判断し、黒褐色土を掘り下げると、全周で壁が現れたため、土坑であると判断し、完掘状況のみ記録を作成した。

覆土 掘り下げにより、不明である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は南東側がやや突出する部分があるが、概ね円形を呈する。壁は南東で緩やかなほかは急である。

遺物出土状況 坑底から、砂岩の礫片が1点出土している。

時期 周囲の遺構検出状況から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BP-84 (図V-3-14、20、表V-4、5、8、図版46、84)

位置 N-56-a・d **規模** (0.72)×0.70/0.66×0.64/0.44m **平面形態** 円形

確認 住居跡BH-6の南西側の壁を出していたところ、南西角に当たる部分に黒褐色土の落ち込みが続いているのを確認した。精査したが、覆土との違いを確認できなかったため、壁際の住居付属施設と考えそのまま掘り下げた。しかし住居床面を掘りくぼめて作られていることから、別遺構とし、BP-84として報告することとした。

調査 落ち込みの黒褐色土を掘り下げ、坑底を確認した。遺物を残しつつ壁を掘り出して完掘し、記録を作成した。

覆土 BH-6の1層と類似する暗褐色土である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は円形で、坑底部分がややふくらみ、若干フラスコ状を呈する。BH-6と重複するが、先後関係は不明である。

遺物出土状況 坑底から、礫石器、礫が計5点出土している。内訳はすり石1点、加工痕ある礫2点、礫2点である。礫としたものも、角閃石安山岩と凝灰岩であり、形状から礫石器の素材とみられるものである。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：石器 64はすり石、楕円形のやや扁平な礫の側面を使用しているもの。角閃石安山岩製。65、66は加工痕のある礫である。65は流紋岩、66は砂岩の扁平礫を用い、長辺の両端を打ち欠いているもの。扁平打製石器の未製品とみられる。64～66は全て坑底からの出土である。

BP-85 (図V-3-15、21、表V-4、5、7、8、図版46、69、83)

位置 K-50-a・b **規模** 2.44×0.52/1.84×0.32/0.42m **平面形態** 長楕円形

確認 調査区南側緩斜面に位置する。IV層上面を精査中、黒色土の細長い落ち込みを検出した。

調査 落ち込みの規模と形状から、Tピットを想定し、落ち込みの中央にベルトを残して掘り下げた。その結果、壁とやや浅めの坑底を検出したので、土坑と判断した。土層断面の記録を作成したのちベルトを除去して調査を終了した。

覆土 2層に分層した。上位の1層はⅢ層上位とみられる黒色土、下位の2層は黄褐色土が混じる黒褐色土である。掘り込み面は覆土の状況から、Ⅲ層中であるとみられる。

特徴 平面形は南東-北西方向に長軸のある長楕円形。坑底は2段になっており、全長の約3分

の1の北西側は坑底面より1段掘り下がっている。壁は緩やかである。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器12点、三角形礫石器1点、礫1点が出土している。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 67A、B、Cは同一個体。Cは覆土から出土し、Bは周囲の包含層と覆土から出土したもの。Aは周囲から出土しているものである。斜格子目状の沈線文が施文されるもの。Aは口縁部。わずかに外反する口縁には横位の沈線文が施文される。68は覆土から出土した別個体。縦位の沈線文が描かれている。全てIV群a類。

掲載遺物：石器 69は覆土から出土した、円形礫石器である。砂岩の扁平な礫を用い、周縁を打ち欠いて概ね円形に整形されている。

BP-86 (図V-3-15、21、表V-4~7、図版46、70)

位置 K-49-c、K-50-b **規模** 0.68×0.54/0.56×0.46/0.46m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層において、根跡など自然攪乱を掘り下げていたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは不明瞭であったので自然攪乱と判断し、黒褐色土を掘り下げると、全周で壁が現れた。このため土坑と改めて判断し、完掘状況のみ記録を作成した。

覆土 掘り下げにより不明である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は北西-南東方向に長軸のある楕円形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、坑底は平坦である。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器100点、Uフレイク1点、フレイク1点、石皿片1点、砂利が5点出土している。

掲載遺物：土器 70、71はIV群a類。70は覆土から出土したものと周囲の包含層が接合している。胴部下半と口縁部は同一個体とみられるが接合はしていない。底部から直線的に立ち上がり、口唇がわずかにすばまる器形を呈するものとみられる。地文はLR斜行縄文が縦位施文されるもの。口唇部付近は風化により不明瞭である。

時期 周囲の遺構検出状況から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-88 (図V-3-15、21、表V-4、5、7、図版70)

位置 J-48-a・d **規模** 0.46×0.38/0.22×0.20/0.10m **平面形態** 楕円形

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。IV層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

調査 落ち込みは明瞭な円形を呈しており、北東側を半載した。その結果明瞭な壁、坑底を確認したため、土坑と判断した。

覆土 暗褐色土の単層である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形はほぼ円形。壁は急で、断面形は碗状を呈する。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器3点、砂利が1点出土している。

時期 周囲の遺構検出状況から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 72は覆土から出土したIV群a類土器。地文はLR縄文。

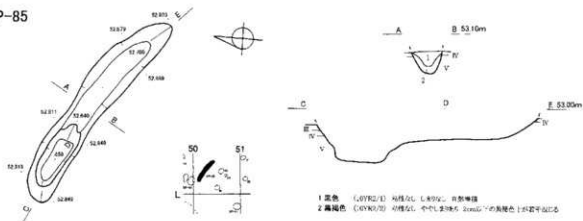
BP-89 (図V-3-15、表V-4、5、図版46)

位置 L-48-b、**規模** 0.52×0.48/0.26×0.26/0.20m **平面形態** 楕円形

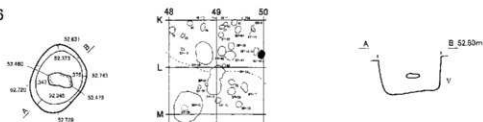
確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。V層上面で根跡等の自然攪乱を掘り下げていたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。

調査 落ち込みは不明瞭であったので自然攪乱と判断し、黒褐色土を掘り下げると、全周で壁を

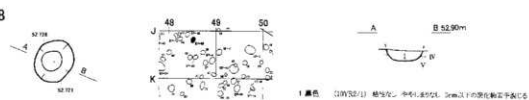
BP-85



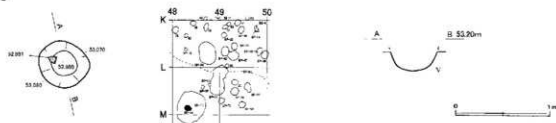
BP-86



BP-88



BP-89



図V-3-15 土坑(15)

確認した。このため土坑と改めて判断し、完掘状況のみ記録を作成した。

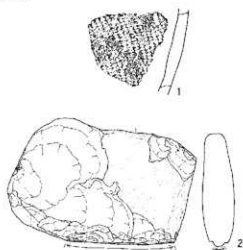
覆土 掘り下げにより、不明である。掘り込み面は検出面より上位である。

特徴 平面形は概ね円形を呈する。壁は急、坑底は丸底で、断面は椀状を呈する。

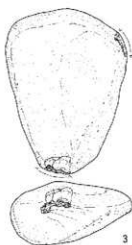
遺物出土状況 覆土から、IV群A類土器12点、フレイク2点が出土し、坑底から、IV群A類土器1点が出土している。

時期 坑底出土の遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BP-5



BP-6



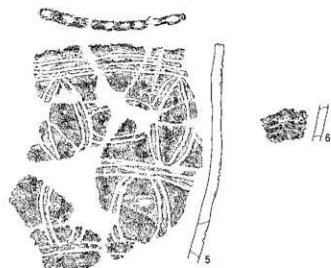
BP-7



BP-12



BP-8



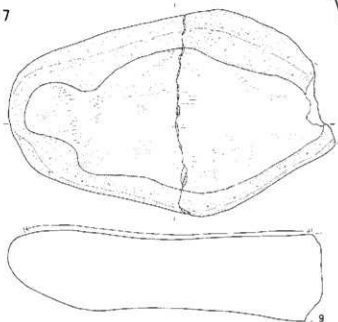
BP-13



BP-18



BP-17



1~6 : 0 5cm

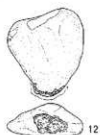
9~10 : 0 10cm

図V-3-16 土坑出土の遺物(1)

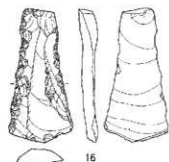
BP-20



BP-24



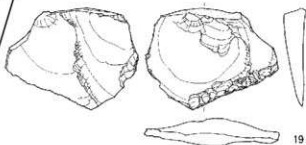
BP-26



BP-25



BP-27



BP-30

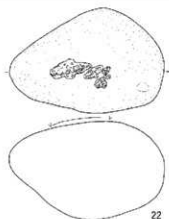


0 5cm : 粘土・燧石器

0 5cm : 16-19

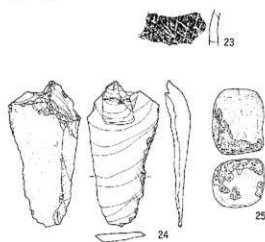
0 10cm : 22

BP-33



図V-3-17 土坑出土の遺物(2)

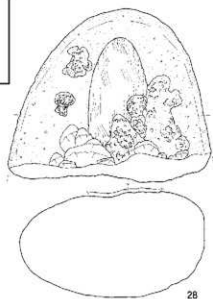
BP-34



BP-36



BP-37



BP-38



BP-40



BP-41



BP-48



石本・線石器
0 5cm

0 24 : 5cm

0 28 : 10cm



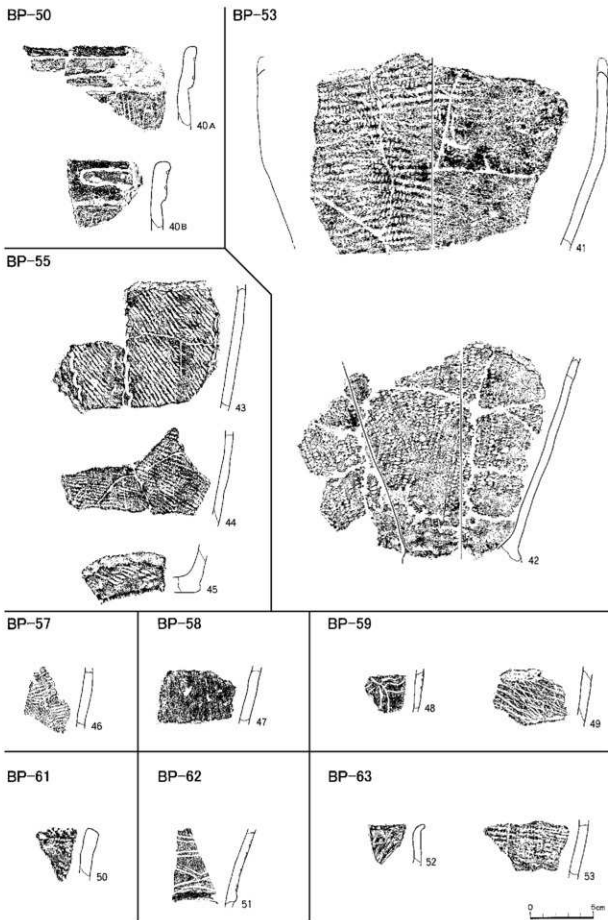
BP-45



BP-47

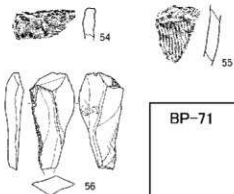


図V-3-18 土坑出土の遺物(3)

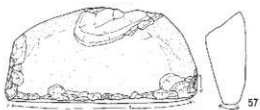


図V-3-19 土坑出土の遺物(4)

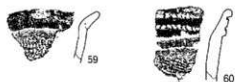
BP-66



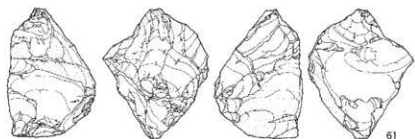
BP-67



BP-71



BP-69



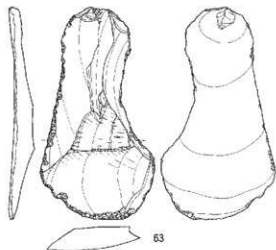
BP-73



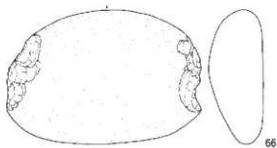
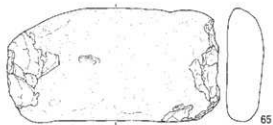
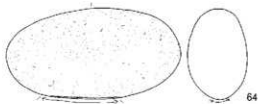
BP-76

0 5cm 拓本・標石器

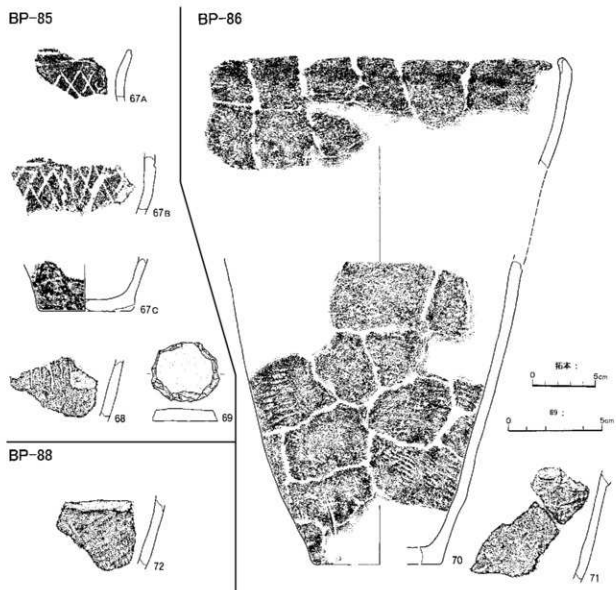
0 5cm :56-81・63



BP-84



図V-3-20 土坑出土の遺物(5)



図V-3-21 土坑出土の遺物(6)

4 焼土 (BF)・フレイク・チップ集中域 (BFC)

焼土は32か所、フレイク・チップ集中域は1か所検出している。焼土は石囲炉が2か所 (BF-5、BF-26)、集石BS-6の下位から検出したもの (BF-14) 砂利状の礫が上面に出土したもの (BF-27、31)、焼土の中央に黒色土の円形のくぼみがあるもの (BF-6・26) などがある。分布状況は他の遺構と変わらないが、調査区東側の縄文時代後期前葉の遺物集中域の南側に接するように、49ラインから55ラインの間にやや集中する傾向がある。この地区では、規模が大きめで、焼土同士が重複するものも確認 (BF-13・15、22・25) されており、他の部分と違った様相を見せている。このうち上面に多くの遺物が出土しているものはBF-5、10、17、22が挙げられる。フレイク・チップ集中域は1か所のみ、調査区北側の平坦地で検出している。

BF-1 (図V-4-1、表V-4、図版47)

位置 L-32-d 規模 0.42×0.38/0.05m

確認 調査区南側平坦面に位置する。Ⅲ層中位を掘り下げていたところ、焼土を検出した。

調査 検出面を精査し、焼土を残してⅢ層を掘り下げた。周囲をⅣ層まで掘り下げた結果、本焼土に伴う遺構はないと判断し、半載した。その結果、明瞭に焼成して変色したⅢ層を確認した。

特徴 概ね東西に長い楕円形の範囲に広がっている。上面の観察で、炭化物が認められる。Ⅲ層中に形成される焼土である。

遺物出土状況 上面で、礫1点、礫片1点が出土している。

時期 周囲で検出される遺構、出土する遺物から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BF-2 (図V-4-1、表V-4、図版47)

位置 L-32-c・d 規模 0.64×0.60/0.10m

確認 調査区北側の平坦面に位置する。濁水処理施設部分の調査においてⅢ層中位を調査中に確認した。

調査 周囲を精査し、円形を呈する平面形を確認した。焼土部分を残して周囲のⅢ層をⅣ層まで掘り下げたところで、南側を半載して記録を作成し、調査を終了した。

特徴 ほぼ円形を呈する。焼土層は明瞭で層界は漸変している。焼成したⅢ層とみられる。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で検出される遺構、出土する遺物から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BF-3 (図V-4-1、表V-4、図版47)

位置 L-29-a・b 規模 0.46×0.36/0.06m

確認 調査区北部の斜面に位置する。濁水処理施設部分の調査において、Ⅲ層中位を調査中に確認した。

調査 検出面を精査して範囲を確認した後、焼土を残して周囲の包含層をⅣ層まで掘り下げた。その後長軸に合わせて西側を半載した。記録を作成した後、東側を掘り下げて調査を終了した。

特徴 焼土は弱く、やや南北に長い形状。焼土層の層界は漸変する。形成面はⅢ層中である。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周囲で多く出土する縄文時代中期のものである可能性が高い。(立田)

BF-4 (図V-4-1、6、表V-4、5、7、図版47、70、83)

位置 K-52-b・c 規模 0.80×0.68/0.16m

確認 調査区南西側の緩斜面の標高53.40～53.50mのⅢ層中位で検出した。

調査 暗赤褐色土の広がりを確認した。土層の確認を行なうためトレンチ調査を行なった。1層は炭化物を含み、変色した土壌と周囲の土壌との境界は不明瞭である。このことから、その場で形成されたものとする。

遺物出土状況 1層と周囲のⅢ層から出土している。

時期 周囲の遺構及び遺物から、縄文時代中期または後期前葉のものとみられる。 (佐藤)

掲載遺物：土器 1はⅣ群a類。地文はRL斜行縄文。

掲載遺物：石器 2はスクレイパーである。原石面の残る縦長剥片を用い、腹面側右側縁が細部調整されている。 (立田)

BF-5 (図V-4-1、6～8、表V-4～8、図版47、70、71、83、85)

位置 L-53-a・b **規模** 1.08×0.78/0.26m

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中位において、方形に配列された礫を検出した。

調査 配石は扁平礫7点で構成されており、礫を残して掘り下げると、配石の中央に焼土を検出した。焼土確認面の遺物を残して精査し、記録を作成した。石の配列は北東-南西方向に長い長方形を呈していたため、長軸に合わせて礫を越えてトレンチを設定して掘り下げた。その結果、検出範囲に微細な骨片を多く混じる明瞭な焼土を確認した。

特徴 7点の礫を方形に配した石囲炉である。炉はやや北側に傾斜しているが、地すべり等の影響によるものかもしれない。

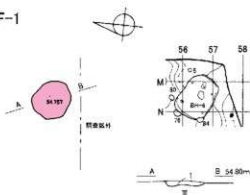
遺物出土状況 本遺構に伴うとみられる土器のまとまりを2か所で確認した。いずれも小片であるが、Ⅳ群a類土器である。配石は北西角に位置するものが角閃石安山岩製の石皿。その他はシルト岩の礫である。その他上面でⅣ群a類土器184点、フレイク3点、三角形礫石器1点、礫8点、礫片7点が出土している。

時期 検出面の遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 3～15はⅣ群a類。3は鉢。上面で出土した2点と、隣接する包含層から出土したものが接合している。無文地に3本組沈線による文様が描かれるもの。沈線は口縁と底部に平行に一周し、胴部の中央を文様帯としている。文様帯の中央には波頭状の文様が横位に連続してつけられ、平行沈線と横位波頭状沈線の間を充填するように弧状の沈線、垂下する沈線が描かれている。4、5は口縁部付近が無文となるもの。4A、Bは同一個体。頸部がくびれ、やや口縁が外反する深鉢。頸部は指頭で押され、頸部から口縁にかけては無文である。地文は無飾L。糸が横走気味に施文される。6は胴部が膨らむ器形の深鉢。粗いつくりで外傾接合が明瞭である。地文は節の大きなRL斜行縄文。7は同一グリッドの包含層から出土したもの。誤って掲載した。6と同一個体の可能性もある。8は摺糸文が施文されるもの。粗いつくりで外傾接合が明瞭である。9は無文の小型土器。10は縄文地に縄線で文様がつけられるもの。11はLR縄文の施文される口縁部。12は貼付帯を縁取って沈線が付けられるいわゆる隆沈線手法によるもの。突起部分である。13は無文地に沈線で文様が描かれるもの。14、15は底部。

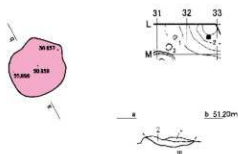
掲載遺物：石器 16は三角形礫石器。流紋岩の平らな礫を用い、不定な形状であるが、円形のものがない可能性がある。17は石皿。炉石の一つである。概ね直方体に近い形状の角閃石安山岩を用い、平坦な面に擦痕と敲打痕がみられるもの。すり面はくぼんでいる。くぼみは図の上方、素材礫の片端部で顕著である。

BF-1



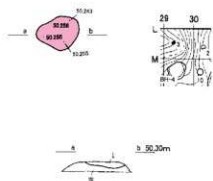
BF-1 1 暗褐色 (7, 57)(82/2) 漆土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層
2 暗褐色 (7, 57)(82/2) 漆土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層
3 褐色 (1)(9)(12/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層

BF-2



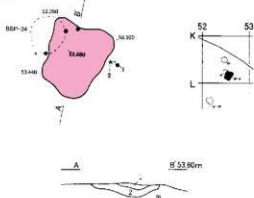
BF-2 1 褐色 (7, 57)(12/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層
2 暗褐色 (7, 57)(82/2) 漆土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層
3 褐色 (1)(9)(12/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層

BF-3



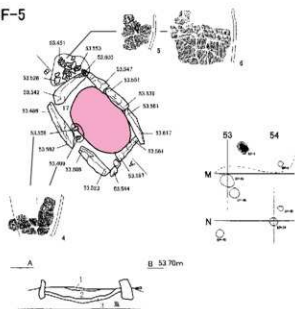
BF-3 1 暗褐色 (7, 57)(25/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層
2 褐色 (1)(9)(12/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層

BF-4



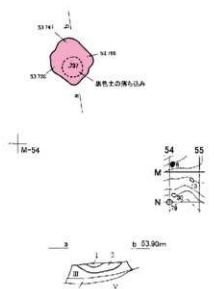
BF-4 1 暗褐色 (7)(13/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層
2 暗褐色 (5)(13/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層

BF-5



BF-5 1 褐色 (1)(9)(12/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層
2 暗褐色 (7, 57)(12/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層
3 漆土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層

BF-6



BF-6 1 褐色 (1)(9)(12/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層
2 暗褐色 (7, 57)(12/1) 粘土・炭化皮 漆・漆屑炭化物・炭成灰層

図V-4-1 焼土(1)

BF-6 (図V-4-1、表V-4、5、図版47)

位置 L-54-b 規模 0.50×0.46/0.10m

確認 調査区南部の緩斜面に位置する。Ⅲ層中～下部を調査中に確認した。

調査 周囲を精査し、東西方向にやや長い平面形を検出した。南側を半載し、やや不明瞭に焼成するⅢ層を確認した。記録を作成して北側を掘り下げ、調査を終了した。

特徴 焼土の中心よりやや西側に直径20cmほどの黒色土の円形の落ち込みがある。焼土層は層界が渐变する。形成面はⅢ層であるとみられる。

遺物出土状況 トレンチから、礫片が2点出土している。

時期 不明であるが、周囲で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BF-7 (図V-4-2、表V-4、図版48)

位置 J-49-c、K-49-d 規模 0.66×0.50/0.16m

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を調査中に確認した焼土である。

調査 周囲を精査し、焼土の範囲を確認した。焼土を残し周囲を若干掘り下げたところで、長軸に合わせてトレンチを設定し、Ⅳ層付近まで掘り下げた。その結果、不明瞭ながらも焼成するⅢ層を検出した。記録を作成して掘り下げ調査を終了した。

特徴 平面の形状はやや東西に長い形状である。約60cm南東側に集石BS-6が位置している。北西0.4mにBP-6が位置している。形成面はⅢ層中である。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で検出される遺構、遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

BF-8 (図V-4-2、表V-4、図版48)

位置 L-36-b・c 規模 1.34×0.60/0.10m

確認 調査区北側の緩斜面に位置する。Ⅳ層上面を精査中に検出した焼土である。

調査 検出面を精査して範囲を明確にしたのち、周囲をⅤ層まで掘り下げた。下位に重複する遺構がないとみられたため、長軸に合わせて南東側を半載した。その結果、やや弱く焼成するⅣ層相当の土層を確認した。

特徴 段丘崖に向かう斜面の傾斜変換点付近に位置する。焼土は斜面の方向である北東方向に細長く伸びている。形成面はⅢ層下部～Ⅳ層上面とみられる。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、遺跡で多く出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BF-9 (図V-4-2、表V-4、5、図版48)

位置 N-39-c 規模 0.40×0.24/0.12m

確認 調査区中央の緩斜面に位置する。Ⅲ層中位で確認した焼土である。

調査 検出面を精査し、焼土の範囲を明確にして周囲をⅣ層まで掘り下げた。下部に遺構の重複がないことを確認した上で、焼土の短軸にあわせ東側を半載した。その結果、明瞭に焼成するⅢ層を確認した。

特徴 東西方向に長い不整な形状を呈する。南東側に大きく抉れる部分がありこの輪郭に沿って炭化物が集中して出土している。なお焼土下および周囲には木の根によるとみられる攪乱があり、この自然攪乱に伴う焼土かもしれない。木根により不明瞭だが、形成面はⅢ層であるとみられる。

遺物出土状況 焼土下部から、フレイクが8点出土している。

時期 不明であるが、遺跡で出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BF-10 (図V-4-2、表V-4~8、図版48、71、72、83)

位置 K-44-b **規模** 0.60×0.56/0.08m

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層下部を調査中に検出した焼土である。

調査 周囲を精査し、焼土と同一面とみられる遺物を残して、IV層付近まで掘り下げた。焼土はいびつであったがほぼ円形を呈していたため、西側を半載した。その結果、明瞭に焼成するⅢ層を確認した。

特徴 明瞭な焼土である。焼土の中心から約1m東に集石BS-10が位置している。形成面はⅢ層中である。

遺物出土状況 周囲で出土した遺物のうち、焼土形成面上にあると判断した遺物のまとまりを記録した。内訳はⅢ群a類土器35点、IV群a類土器75点、礫・礫片各1点である。そのほか、上面でフレイク1点、砂利10点、検出面で礫3点と砂利6点、焼土下においてIV群a類土器8点とつまみ付きナイフ1点が出土している。

時期 検出面で出土した遺物から、縄文時代中期前半、もしくは縄文時代後期前葉のものとみられる。

掲載遺物：土器 18は検出面で出土したⅢ群a類土器。4つ山の突起の付く小型の土器である。地文は複節のRLR。突起部分は細い素文の粘土紐により装飾が施されている。19~22はIV群a類土器。19は肥厚する口縁部。横位に沈線文が施されるとみられるが、摩滅により不明瞭である。20は縄線文のつく胴部。21はLR縄文が縦位施文されるほか、結節部も施文されるがよくわからない。22は検出面と包含層から出土したものが接合した。

掲載遺物：石器 23はつまみ付きナイフである。縦長剥片を用い、つまみの部分のみ加工されるもの。石鉄、石鈎の未製品の可能性もある。

BS-10 (図V-6-1、表V-4、5、図版57)

位置 K-44-a **規模** 0.47×0.18m

確認 Ⅲ層を調査中に検出した集石である。

調査 検出面を精査し、範囲を捉えた上で、周囲を掘り下げた。下位に重複する遺構が無いことを確かめ、記録を作成して取り上げ、調査を終了した。

特徴 直径20cmほどの範囲に11点の礫が密集して出土している。

遺物出土状況 直径10cm程度の安山岩礫が1点ある他は、形状が極めて類似しており、他は全てが、長径6~7cm程度の楕円扁平礫である。

時期 周囲の出土遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

BF-11 (図V-4-2、表V-4、図版48)

位置 Q-38-a・d **規模** 0.58×0.74/0.04m

確認 調査区中央西側緩斜面に位置する。BP-27の検出作業中に伴う精査中に検出した焼土である。

調査 焼土は明瞭であった。北側を半載した結果、赤変するⅢ~Ⅳ層を断面で確認した。

特徴 東西にやや長い不整な形状である。BP-27の西側にほぼ接して位置している。形成面はⅢ層下部であるとみられる。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、遺跡から出土している遺物、検出層位から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BF-12 (図V-4-2、表V-4、図版49)

位置 K-48-a **規模** 0.46×0.26/0.03m

確認 調査区中央西側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中～下部を調査中に検出した焼土である。

調査 周囲を精査し範囲を明確にして半載した。その結果、焼成するⅢ層を確認した。

特徴 不明瞭で小規模な焼土である。北に向かってやや傾斜している。

遺物出土状況 出土していない。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

BF-13・15 (図V-4-3、9、表V-4、5、7、図版49、73)

(BF-13) **位置** K-49-c **規模** 0.68×0.46/0.05m

(BF-15) **位置** K-49-c **規模** 0.20×0.06/0.06m

確認 調査区中央西側緩斜面に位置する。Ⅲ層中部を調査中に検出した焼土である。

調査 検出面を精査して、焼土の広がりを確認したのち、周囲のⅢ層を掘り下げた。Ⅳ層相当まで掘り下げたところで焼土の南東側を半載した。その結果、2枚の焼土を検出した。上位を本遺構。下位をBF-15とした。

特徴 (BF-13) 東西に長い不整形な形状を呈する不明瞭な焼土である。移動した焼土の可能性がある。(BF-15) やや弱い焼土。形成面はⅢ層下部とみられる。移動した焼土の可能性もある。両遺構の南西側にほぼ接してBP-86を検出している。

遺物出土状況 (BF-13) 上面で、Ⅳ群a類土器30点、フレイク1点、砂利6点が出土している。(BF-15) 出土していない。

時期 周囲で多く出土する遺物から、BF-13は縄文時代後期前葉のものとみられる。BF-15は下位に位置することから、それ以前とみられる。

掲載遺物：土器 23はⅣ群a類土器。検出面で出土した3点と、周囲の包含層から出土したものが接合している。やや粗いつくりの深鉢。地文は太さの違う原体を燃ったLR縄文。条が横走気味に施文されている。

BF-14 (図V-4-3、表V-4、5、図版49)

位置 K-49-d **規模** 0.40×0.27/0.05m

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。BS-6の下位で、Ⅲ層中～下を調査中に検出した焼土である。

調査 検出面を精査し、範囲を明確にした後東側を半載した。その結果、赤変する比較的明瞭なⅢ層を確認した。記録を作成したのち西側を掘り下げて調査を終了した。

特徴 小規模な焼土である。形成面はⅢ層中位であるとみられる。

遺物出土状況 上面で、Ⅳ群a類土器2点、フレイク1点、砂利15点、礫2点が出土している。

時期 周囲、上面で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

BF-16 (図V-4-3、表V-4、図版49)

位置 K-48-b **規模** 0.26×0.24/0.04m

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層下部を調査中に検出した焼土である。

調査 精査し、焼土の広がりを確認した後、周囲のⅢ層を掘り下げた。下位に遺構の重複がない

ことを確認し、南側を半載した結果、やや不明瞭な焼成するⅢ層を確認した。

特徴 不整な楕円形を呈する。形成面はⅢ層中であるとみられる。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周囲で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BF-17 (図V-4-3、9、表V-4、5、7、図版49、72、73)

位置 L-49-c・d **規模** 0.88×0.58/0.10m

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。Ⅲ層を調査中に検出した。

調査 周囲を精査して焼土の輪郭を検出し、焼土と検出面の遺物を残して掘り下げた。焼土の長軸に合わせて南側を半載したところ、Ⅲ層が焼成する明瞭な焼土を検出した。記録を作成して北半分を掘り下げ、調査を終了した。

特徴 東西方向に長く概ね楕円形に広がっており、約8cmの高低差で東に傾斜している。0.5m北にBP-59、60が位置している。形成面はⅢ層中位である。

遺物出土状況 焼土上で、フレイクが1点、検出面でIV群a類土器が25点出土している。

時期 検出面の土器から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 24、25は上面で出土したIV群a類土器。24は包含層から出土したものも接合する。やや膨らむ胴部。3本組沈線で区画された上半は同沈線により弧線文が描かれ、下半は斜格子目状の燃糸文が施文される。25は底部。やや厚手で胎土には砂粒が多く混じる。

BF-18 (図V-4-3、9、表V-4、5、7、図版50、72)

位置 M-47-b・c **規模** 0.68×0.56/0.06m

確認 調査区中央西側の緩斜面に位置する。Ⅲ層下部を調査中、焼土を検出した。

調査 検出面を精査し、範囲を明確にして周囲を掘り下げた。V層まで掘り下げた後、焼土長軸の南側を半載した。その結果、明瞭に焼成するⅢ層を確認した。

特徴 層界が漸変する明瞭な焼土。北東0.8mにBP-55が位置する。形成面はⅢ層中である。

遺物出土状況 上面でIV群a類土器2点、礫1点が出土している。

時期 検出面の土器、周囲の遺物出土状況から、縄文時代後期前葉のものであるとみられる。

掲載遺物：土器 26は上面で出土したIV群a類土器。地文はLR縄文。縦位に施文される。

BF-19 (図V-4-3、9、表V-4、5、7、8、図版50、72、84)

位置 N-48-d **規模** 0.30×0.21/0.04m

確認 調査区中央部の緩斜面に位置する。IV層上面を精査中に検出した焼土である。

調査 検出面を精査し、範囲を捉えた上で周囲をV層まで掘り下げた。南側を半載した結果、IV層が焼成するやや不明瞭な焼土を確認した。

特徴 不明瞭で小規模な焼土である。Ⅲ層下部で形成されているとみられる。

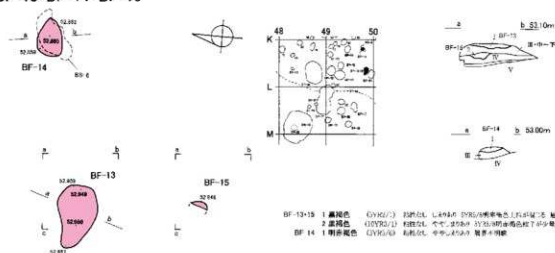
遺物出土状況 検出面でIV群a類土器6点、たたき石1点、礫1点が出土している。

時期 不明であるが、検出層位から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 27は上面で出土したIV群a類土器。無文地に3本組沈線で文様が描かれている。

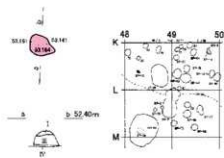
掲載遺物：石器 28はたたき石である。「く」の字状に屈曲する砂岩礫を用い、端部に弱い敲打痕が認められるもの。

BF-13・BF-14・BF-15



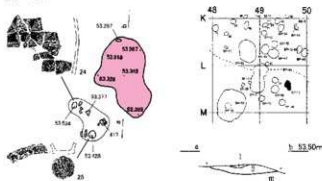
BF-13-15 1 黒褐色 (IV92/3) 粘質土、L層中、IV95/96層褐色土に多少混入、粘質中砂質土
 2 黒褐色 (IV92/3) 粘質土、L層中、IV95/96層褐色土に多少混入、粘質中砂質土
 BF-14 1 明赤褐色 (IV92/3) 粘質土、L層中、IV95/96層褐色土に多少混入、粘質中砂質土

BF-16



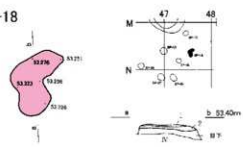
BF-16 1 赤褐色 (IV93/4) 粘質土、L層中、IV95/96層褐色土に多少混入、粘質中砂質土

BF-17



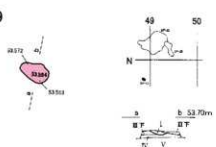
BF-17 1 黒褐色 (IV95/1) 粘質土、L層中、IV95/96層褐色土に多少混入、粘質中砂質土
 2 暗赤褐色 (IV95/4) 粘質土、L層中、IV95/96層褐色土に多少混入、粘質中砂質土

BF-18



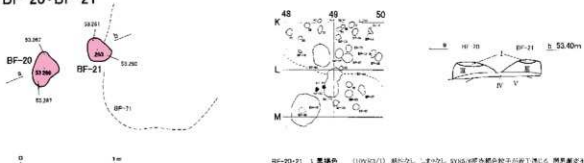
BF-18 1 黒褐色 (IV92/1) 粘質土、L層中、IV95/96層褐色土に多少混入、粘質中砂質土
 2 明赤褐色 (IV95/5) 粘質土、L層中、IV95/96層褐色土に多少混入、粘質中砂質土

BF-19



BF-19 1 明赤褐色 (IV95/6) 粘質土、L層中、IV95/96層褐色土に多少混入、粘質中砂質土

BF-20・BF-21



BF-20-21 1 黒褐色 (IV93/7) 粘質土、L層中、IV95/96層褐色土に多少混入、粘質中砂質土

図V-4-3 焼土(3)

BF-20・21 (図V-4-3、表V-4、図版50)

(BF-20) 位置 L-48-d 規模 0.36×0.26/0.04m

(BF-21) 位置 L-48-d 規模 0.28×0.22/0.03m

確認 調査区中央西側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を調査中に検出した焼土である。**調査** 焼土は2か所に分かれており、30cmほどの距離で北北西-南南東に位置していた。南から番号を付し、BF-20、21とし、長軸に合わせて2つの焼土を半載した。その結果、黒褐色土に明赤褐色粒子が混じる堆積を確認した。記録を作成したのち、反対側を掘り下げて調査を終了した。**特徴** いずれも約30cm四方に収まる小規模で不明瞭な焼土である。BF-20の南に接してBP-71が位置し、BF-21の北西0.8mにはBH-10が位置する。形成面はⅢ層中であるとみられる。**遺物出土状況** 出土していない。**時期** 不明であるが、周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前半のものである可能性が高い。

BF-22・25 (図V-4-4、9、表V-4、5、7、8、図版50、72、73、84)

(BF-22) 位置 M-48-c、M-49-a・b 規模 2.28×1.90/0.14m

(BF-25) 位置 M-49-b・c 規模 1.40×0.58/0.06m

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中～下部を調査中に検出した焼土である。**調査** 焼土部分を精査すると、焼土は南北方向に大きく広がり、4分の1グリッドを占めた。焼土は不整形な「く」の字になっていたため、最も長い直線が取れる部分でトレンチを設定し掘り下げた。その結果、2か所の焼土の重複であることがわかった。新たに確認できた上位の焼土をBF-25とし、記録を作成したのちBF-22を調査した。**特徴** (BF-22) 北西側がやや張り出す不整形な隅丸形状に広がる。東側には土器片がややまとまって出土する部分がある。(BF-25) BF-22とⅢ層中、下部とした黒褐色土を挟んで上位に位置する。北東-南西方向に細長く延び、北東側でBF-22と重複する。形成面はBF-22がⅢ層下部、BF-25がⅢ層中位であるとみられる。**遺物出土状況** (BF-22) 上面でIV群a類土器251点、焼成粘土塊1点、フレイク9点、加工痕ある礫2点、砂利12点、礫・礫片が10点出土している。(BF-25) 出土していない。**時期** BF-22は上面出土の遺物から、縄文時代後期前葉のもものとみられる。BF-25は層位的に上位に位置することから、それ以降のもものとみられる。**掲載遺物：土器** 29～31はIV群a類。29～31は地文が縄文の口縁部。29、30は口唇直下に指頭圧痕が横位に連続している。地文は条が横走するLR縄文。31は口唇が直角に曲がり上面が平坦になるもの。壺形の器形とみられる。32、33は沈線文がつけられるもの。32はやや幅広の沈線による文様が描かれている。33は隆沈線手法によるもの。隆帯上は縄文が施文される。34は胴部片。地文は燃糸文とみられる。**掲載遺物：石器** 35は加工痕のある礫。棒状に長い扁平な礫を用い、表裏にわたって意図の不明瞭な打ち欠きによる加工がなされており、被熱している。打ち欠かれた剥片のうち一枚は接合した。

BF-23 (図V-4-4、表V-4、図版51)

位置 K-49-a 規模 0.48×0.46/0.04m

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。IV層を調査中に確認した焼土である。**調査** 検出面を精査した後、南西側を半載した。その結果、焼成して赤変するIV層を確認した。記録を作成し、土壌サンプルを採取したのち北東側を掘り下げて調査を終了した。

特徴 平面形は半径50cmの概ね円形を呈する。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周辺の出土遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BF-24 (図V-4-4、10、表V-4、5、7、8、図版51、73、85)

位置 K-50-c、K-51-b、L-50-d、L-51-a

規模 1.00×0.60/0.10m

確認 調査区北側の緩斜面に位置する。Ⅲ層下部を調査中に検出した焼土である。

調査 検出面を精査し範囲を確認した後、南東側を半載したところ、明瞭に焼成して赤変するⅢ層を確認した。記録を作成した後、サンプルを採取して掘り下げ、調査を終了した。

特徴 北東-南西方向に長く広がる形状を呈する。0.6m西にBP-81が位置している。形成面はⅢ層中であるとみられる。

遺物出土状況 南西端にやや離れて安山岩礫を伴う。

時期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 36は上面で出土したIV群a類。表面は磨かれ無文である。

掲載遺物：石器 37は石皿。板状の砂岩礫の表面に擦痕が認められる。すり面は平滑で範囲の中心付近がわずかにくぼんでいる。

BF-26 (図V-4-4、10、表V-4~6、8、図版51、74、85)

位置 L-52-a **規模** 0.72×0.60/0.10m

確認 調査区北側の緩斜面に位置する。Ⅲ層下部を調査中に確認した焼土である。

調査 検出面を精査して記録を作成した。その後、南半を半載したところ、明瞭に焼成して赤変するⅢ層を確認した。記録を作成した後、土壌サンプルを採取して掘り下げ、調査を終了した。

特徴 北側に30cm台の扁平礫が2点、焼土を囲むように検出されている。中心には黒褐色土のくぼみが認められる。形成面はⅢ層中であるとみられる。

遺物出土状況 北側の礫は2点とも石皿である。上面から、IV群a類土器109点、礫2点、礫片1点が出土している。

時期 上面で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 38、39はIV群a類土器。上面で出土したもの。周囲の包含層から出土したものも接合している。いずれも残存状況は悪いが概ね器形のわかるもので、胴部がやや膨らみ口縁がすぼまる形状を呈するとみられる。38は口唇と底部を欠く。地文は不明瞭ではあるが、ゆるく燃らされた複節LRLとみられる。39は無文のもの。器壁は篋状工具により器面全体が粗く調整される。

掲載遺物：石器 40は石皿である。炉石の一つとして出土した。角閃石安山岩の扁平礫を素材とし、表面に擦痕が認められる。すり面は滑らかである。

BF-27 (図V-4-4、11、表V-4、5、7、8、図版51、73、85)

位置 M-51-b **規模** 0.70×0.44/0.08m

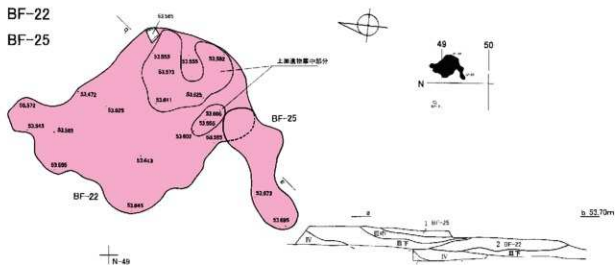
確認 調査区北側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中~下部を調査中に検出した焼土である。

調査 平面形は概ね東西に長い形状であったため、東西を軸に南側を半載した。記録を作成し、土壌サンプルを採取後、北側を掘り下げて調査を終了した。

特徴 平面形は概ね東西に長い楕円形である。東部分に5cm以下の礫が集中して出土する部分がある。形成面はⅢ層下部であるとみられる。

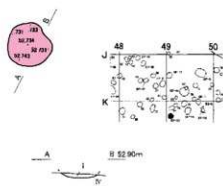
BF-22

BF-25



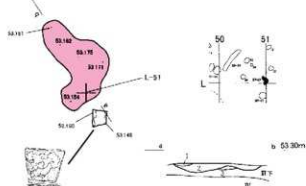
BF-22-25 1 明赤褐色 (OY95/A) 粘性なし、ややこぶあがり 膠厚程度 数を測りつく量あり
2 明赤褐色 (OY95/B) 粘性なし、ややこぶあがり 膠厚程度 数を測りつく量あり

BF-23



BF-23 1 明赤褐色 (OY95/G) 粘性なし、L3.9%、粘り気味 膠厚程度 数を測りつく量あり

BF-24



遺物出土状況 0.5m北東に石皿が1点出土している。検出面でIV群a類土器が79点、フレイク1点、砂利283点、礫3点が出土している。

時期 検出面の遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 41A、Bは同一個体。上面で出土したもの。地文はLR斜行縄文。施文後に縦位の沈線がみられる部分がある。口唇は指頭によりくぼみがつけられている。

掲載遺物：石器 42は石皿である。安山岩の扁平礫を素材とし、表面に擦痕が認められるもの。すり面は平滑で明瞭である。

BF-28 (図V-4-5、11、表V-4、5、7、図版51、73)

位置 M-50-d、M-51-a **規模** 0.86×0.70/0.66m

確認 調査区北側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を調査中に検出した焼土である。

調査 東西に長い形状であったため、長軸の南側を半載した。その結果、Ⅲ層が焼成する明瞭な焼土を確認した。記録を作成したのち、北側を掘り下げ調査を終了した。

特徴 平面形は不整な形状で、西側に舌状に張り出す部分がある。形成面はⅢ層中であるとみられる。

遺物出土状況 上面で、IV群a類土器46点、フレイク2点、砂利2点が出土している。

時期 周囲及び上面で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 43は上面で出土したIV群a類土器。折り返しによる口縁部。地文はLR縄文である。

BF-29 (図V-4-5、11、表V-4、5、7、図版51、74、75)

位置 M-50-a・d **規模** 0.78×0.58/0.24m

確認 調査区北側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を調査中に検出した焼土である。

調査 平面形は不整な形状であるが、概ね北東-南西方向に長軸があった。このため長軸の南西側を半載した。その結果、明瞭にⅢ層が焼成する焼土を確認した。記録を作成したのち、北東側を掘り下げ調査を終了した。

特徴 平面形は不整であるが、風倒木に近接する北東側を中心に三日月状である。断面図中の下位の焼土は風倒木痕に攪乱された本遺構のものとみられる。形成面はⅢ層中である。

遺物出土状況 上面でIV群a類土器41点、フレイク1点、砂利2点、礫2点が出土している。

時期 周囲及び上面で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 44～46は上面で出土したIV群a類土器。44、45は周囲の包含層から出土したのもも接合している。44A、Bは同一個体。地文はLR斜行縄文にLの縄を巻きつけた縄巻縄文。口唇は貼り付けにより肥厚し、無文である。45は底部付近。地文はLR縄文。条が横走気味になるよう施文されている。46は無文地に沈線文が描かれるもの。

BF-30 (図V-4-5、12、表V-4、5、7、図版52、75)

位置 M-54-b **規模** 0.50×0.44/0.04m

確認 調査区南部の緩斜面に位置する。Ⅲ層中～下部付近を調査中に検出した。

調査 検出面を精査して、焼土の広がりを確認した。周囲をIV層付近まで掘り下げたのち、焼土の南側を半載した。その結果、焼成して赤変するⅢ層の堆積を確認することができた。記録を作成して北側を掘り下げ、調査を終了した。

特徴 比較的明瞭な焼土である。0.7m北西にBP-78が位置している。形成面はⅢ層中であるとみられる。

遺物出土状況 上面で、IV群a類土器33点、砂利、礫が各1点出土している。

時期 上面出土の遺物から、縄文時代後期前葉の時期のものとみられる。

掲載遺物：土器 47は上面で出土したIV群a類土器。燃糸文が施文される。

BF-31 (図V-4-5、12、表V-4、5、7、8、図版52、75、83)

位置 P-57-a **規模** 0.50×0.44/0.04m

確認 調査区南部の平坦面に位置する。Ⅲ層中位を掘り下げていたところ、5cm以下の礫やまとまって出土する部分を検出した。その下位には焼土が認められた。

調査 検出面を精査し焼土を残してⅢ層を掘り下げた。周囲をIV層まで調査した結果、下部に本遺構に伴う遺構はないと判断し、南側の礫を検出面で取り上げ、焼土を半載した。その結果、礫の集中の下位に、明瞭に焼成したⅢ層を確認した。

特徴 概ね東西に長い楕円形の範囲に広がっている。0.7m北東にBH-12が位置している。形成面はⅢ層中である。

遺物出土状況 上面でIV群a類土器3点、Ⅲ群a類土器1点、スクレイパー1点、砂利245点、礫20点が出土している。

時期 周囲で検出される遺構から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 48はⅢ群a類土器。口唇には縄文がつけられる。地文はLR斜行縄文。

掲載遺物：石器 49はスクレイパー。原石面の残る縦長剥片を用い、背面側左側縁が細部調整されるもの。刃部はやや外に張り出す形状である。

BFC-1 (図V-4-5、12、表V-4、5、7、8、図版52、75、84)

位置 N-32-c・d、N-33-a・b **規模** 1.76×(1.64)m

確認 調査区北側の平坦面N-32、33区においてⅢ層を調査中に確認した。

調査 周囲を精査して、記録を作成したのち取り上げて調査を終了した。

概要 本集中の北側に隣接してV層の盛り上がりを確認している。風倒木に伴う落ち込みに形成されたものである可能性がある。

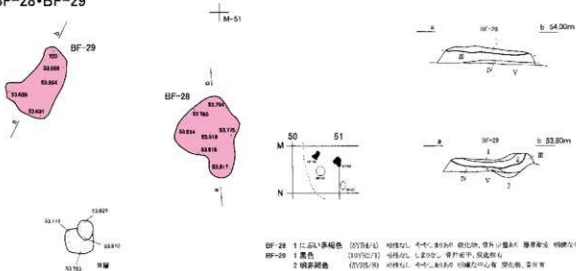
遺物出土状況 不整形で散漫な集中中であるが、南端と北端の一部に灰色頁岩のややまとまって出土する部分がある。検出面で、Ⅲ群a類土器11点、Ⅲ群b類土器2点、フレイク219点、加工痕ある礫が1点、砂利・礫14点、礫片1点が出土している。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代中期のものとみられる。

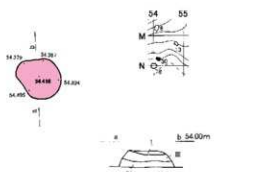
掲載遺物：土器 50、51は上面で出土した。50はⅢ群a類土器。山形突起部分。突起部分には縦位の弧線を向かい合わせて「O」字状の沈線がつけられている。口唇には篋状の工具による刻みが斜位につけられている。地文はLR斜行縄文。51はⅢ群b類。口唇に2列の刺突文が付けられている。

掲載遺物：石器 2は加工痕のある礫。砂岩の扁平礫を用い、両端に意図の不明瞭な打ち欠きの見られる。扁平打製石器の未製品である可能性がある。

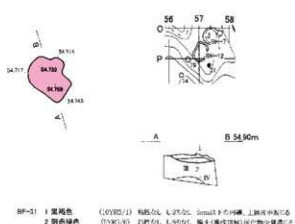
BF-28・BF-29



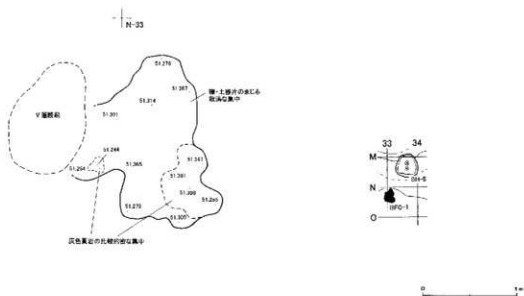
BF-30



BF-31

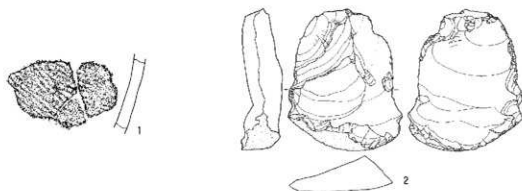


BFC-1

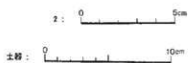
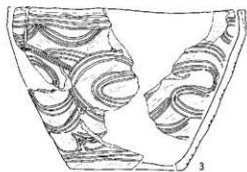
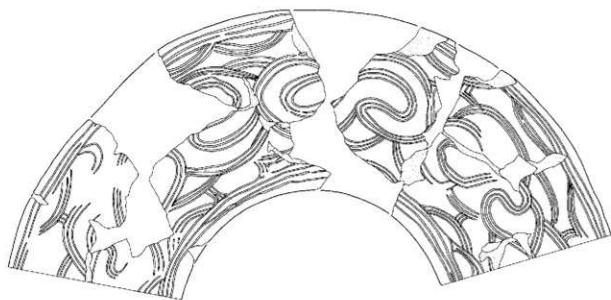


図V-4-5 焼土(5)・フレイクチップ集中域

BF-4



BF-5



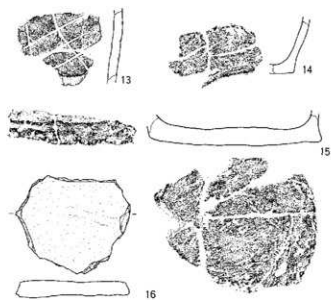
図V-4-6 焼土出土の遺物(1)

BF-5

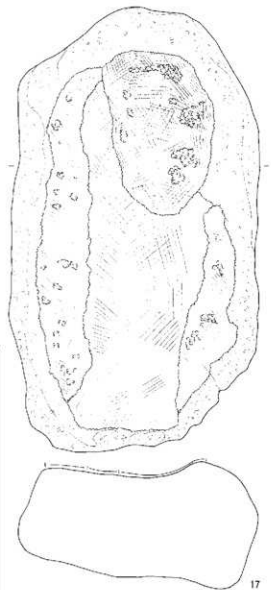
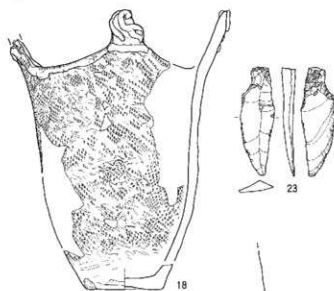


図 V-4-7 焼土出土の遺物 (2)

BF-5

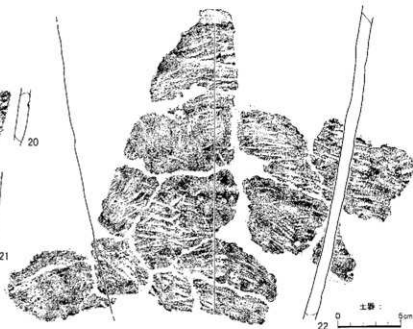


BF-10



0 10cm : 17

0 5cm : 19-23



0 5cm 土器 : 22

図V-4-8 焼土出土の遺物(3)

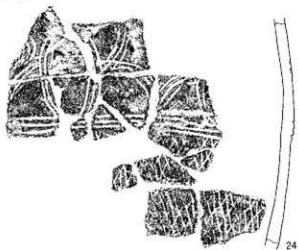
BF-13



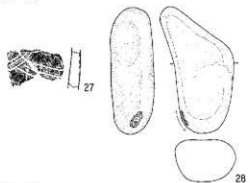
BF-18



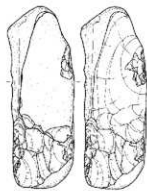
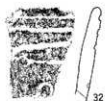
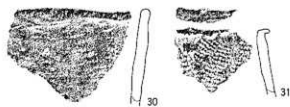
BF-17



BF-19



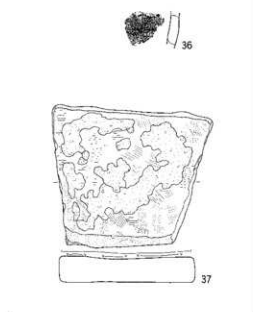
BF-22



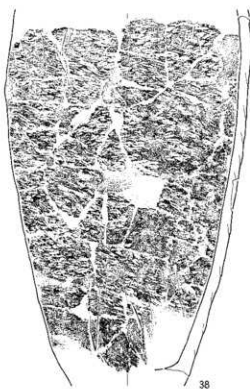
0 10cm

図V-4-9 焼土出土の遺物(4)

BF-24



BF-26



土器 : 0 5cm

37-40 : 0 10cm

図V-4-10 焼土出土の遺物(5)

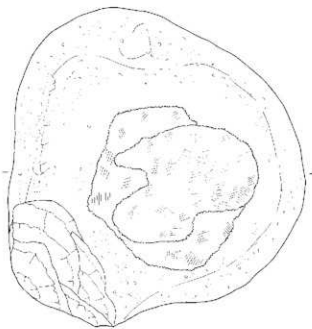
BF-27



41A



41B



42

BF-28



43

BF-29



44A



44B



45

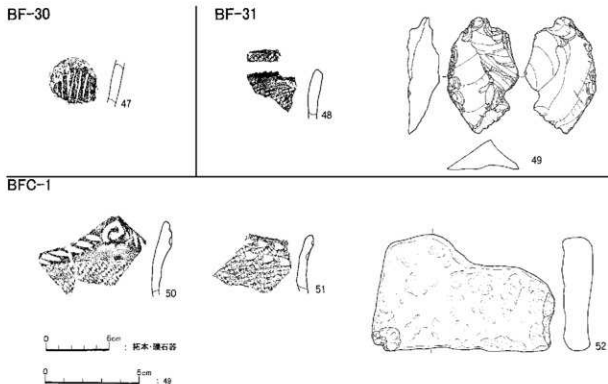


46

0 5cm
土器

0 10cm
42

図V-4-11 焼土出土の遺物(6)



図V-4-12 焼土出土の遺物(7)・フレイクチップ集中域出土の遺物

5 方形柱穴列

本遺跡で検出した柱穴状の小土坑は、85基である。このうち調査区の南端近くの平坦面において明確な配列のある柱穴状小土坑を計9基検出した。これらは規模や、土層の堆積状況が類似しており、また方形を基調とする平面が明らかであるため、方形柱穴列とし他の小土坑と区別した。規模は土坑の中心からの値である。なお柱穴状小土坑、方形柱穴列の呼称の経緯については、第6節に述べる。

方形柱穴列 1 (図V-5-4、表V-3-1、図版54)

位置 Q-56・57、R-56・57 **規模** 3.96×2.76m

確認 V層上面を精査中に確認した。BSP-70、71、72、73の4基からなる。

調査 検出した順に番号を付し、半載して土層断面の記録を行なった。BSP-73については、土層の記録を行なわなかった。確認できた土層は、中心に堆積する柱痕とみられる黒色土と、柱を支えるための裏込を行なったとみられるその周囲に堆積する土からなる。裏込は黄褐色土がブロック状に混じる黒褐色～灰黄褐色土である。

遺物出土状況 BSP-72の覆土からフレイクが1点、BSP-73は礫が1点出土している。

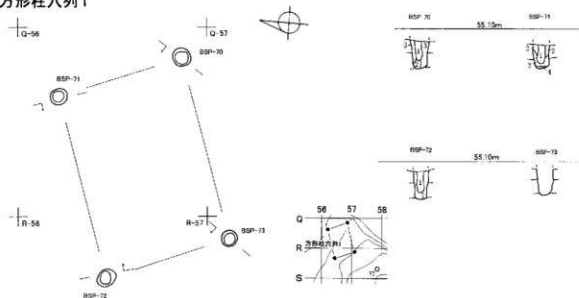
時期 不明であるが、周囲で多く出土する遺物から、縄文時代中期、もしくは縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

方形柱穴列 2 (図V-5-4、表V-3-1)

位置 O-53・54 **規模** (4.32) 2.68×2.36m

確認 V層上面を精査中に確認した。BSP-80、81、82、90、91の5基からなる。

方形柱穴列1



方形柱穴列2

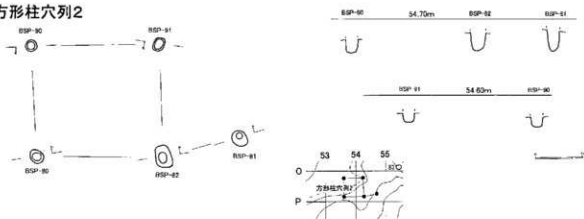


図 V-5-1 方形柱穴列

表 V-3-1 方形柱穴列一覧

遺構名	調査区	規模	深さ	並び	計画					時期	その他			
					色調①	色調②	土質	粘着性	堅固性			境界の明瞭性	境界の起伏	
BSP-70	Q-56-d	0.40/0.28	0.60		1	黒色	HVR2/1	粘性なし	ややしまりあり	5cm以下のルーム	少量凝結する	中層または 地層	方形柱穴列1	
					2	黒色	HVR2/1	粘性なし	ややしまりあり	1cm以下のルーム程	若干凝結する			Y
BSP-71	Q-56-a	0.40/0.24	0.52		1	黒褐色	HVR3/1	粘性なし	ややしまりあり	5cm以下のルームブロック	暗褐色土ブロックが多く凝結する	中層または 地層	方形柱穴列1	
					2	黒色	HVR2/1	粘性なし	しまりなし	境界線	柱状			
					3	灰褐色	HVR1/2	粘性なし	ややしまりあり	暗褐色土	暗褐色土ブロックが凝結する			
BSP-72	R-54-a-d	0.41/0.21	0.58		1	黒色	HVR1.7/1	粘性あり	しまりあり			中層または 地層	方形柱穴列1	
					2	黒褐色	HVR3/1	粘性なし	ややしまりあり	5cm以下のルーム	少量凝結する			
BSP-73	R-57-a	0.36/0.24	0.54						記録なし		中層または 地層	方形柱穴列1		
BSP-80	O-33-c	0.32/0.18	0.25						記録なし		中層または 地層	方形柱穴列2		
BSP-81	O-34-c	0.40/0.18	0.44						記録なし		中層または 地層	方形柱穴列2		
BSP-82	O-34-d	0.45/0.16	0.28						記録なし		中層または 地層	方形柱穴列2		
BSP-80	O-33-d	0.24/0.16	0.20						記録なし		中層または 地層	方形柱穴列2		
BSP-81	O-34-a	0.25/0.22	0.18						記録なし		中層または 地層	方形柱穴列2		

調査 根跡などの自然攪乱を掘り下げ、V層上面を精査したところ、同様な規模の小土坑が方形に並ぶのを確認した。改めて精査すると小土坑は5基からなることがわかった。平面と断面の記録を作成し、調査を終了した。

遺物出土状況 出土していない。

時期 不明であるが、周囲で多く出土する遺物から、縄文時代中期、もしくは縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

6 柱穴状小土坑 (図V-5-2~9 表V-3-2 図版53、54、75~77)

柱穴状小土坑は85基した。以下に(1)呼称の経緯について、(2)本遺跡の状況と区分の方法について、(3)個別の柱穴状小土坑、方形柱穴について説明する。なおBSP-41、57、67、68、69、79の6基については、欠番とした。

(1) 呼称について

B地区の中央部東側、45~52、I~Mライン間、およびやや南に離れてO-53・54区、Q-56区、において、遺物の分布と重なるように小規模な土坑があわせて85基検出された。これらは縄文時代後期前葉の北海道西部地域で多く確認されている「小ピット」(八雲町浜松5遺跡)(八雲町教育委員会1995)「柱穴状の小土坑」(森町濁川左岸遺跡)(北埋調報208)に類するものとみられる。

上記の先行する調査において、この土坑は、調査区内に限られた範囲に分布すること、あまり明らかな配列をなさないこと、緩やかな斜面上に位置していることなどの共通点がある。本遺跡で確認できたものもこれらに合致するものである。

しかし呼称については統一されておらず、単体で検出された場合の上記の呼称のほか、平面上の有意な配列が確認された場合、「方形柱穴」(八雲町山崎5遺跡)(北埋調報165)「掘立柱建物」(八雲町栄浜1遺跡)(北埋調報175)、などと呼ばれている。

本遺跡においては、単体の場合、住居の柱穴に類似する性格を強調するため「柱穴状小土坑」(BSP)とし、また配列が確認できた場合については、「方形柱穴」と呼ぶことにした。調査結果のみでは上位の構造物まで限定できないからである。

(2) 本遺跡の状況と類別

柱穴状土坑の確認された部分では、様々な規模の土坑も検出している。柱穴状小土坑と土坑の区別について調査時点では経験的に行なったが、報告時には以下の基準を用い整理した。区別の方針としては、平面形において小規模な円または楕円で、断面形では長方形もしくは砲弾型に近い形状を呈するという、柱穴らしいかどうかを数値にしたものである。

平面形の直径が0.7m以下のものを分類の対象とし、0.4m以下のものは深さに関わらず決定した。直径がこれ以上であっても深く掘られるものも含めるため、直径が0.4~0.6mで深さが0.25m以上のもの。0.6~0.7mで深さが0.3m以上のもので、平面形が楕円形であるものについては重複している可能性があるものと考え、これらを含めた。

本遺跡での確認の状況は、Ⅲ層中に黄褐色土を確認し、トレンチで断面形を確認したものの、遺物を残しつつⅢ層を掘り下げた結果、Ⅳ~Ⅴ層上面で平面形を確認したものの、Ⅴ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認したものがある。いずれの場合でも根跡と区別がつけずらいが、概ね垂直に伸びるものは小土坑とし、掘り進んだ結果形状が蛇行、屈曲するものは根跡として判断した。

なお本遺跡の柱穴状小土坑の時期は、ほぼ縄文時代後期前葉のものとみられるが、方形柱穴とした9基については、縄文時代中期の住居群BH-6、7、12に近いことから、縄文時代中期の可能性

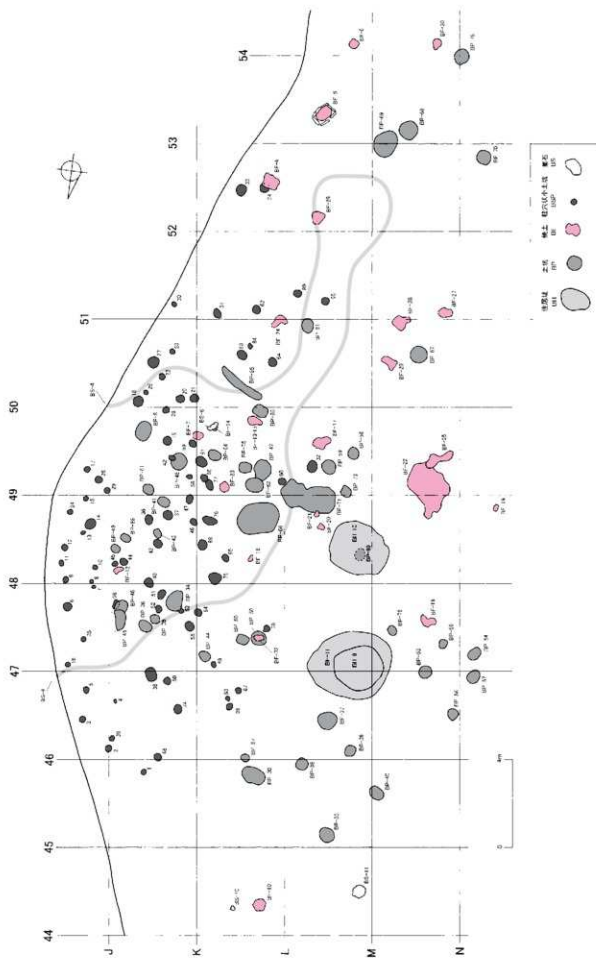


图 V-5-2 柱状小土坑配置图

もあるものとした。

(3) 個別の柱穴状小土坑・方形柱穴列について

85基の柱穴状小土坑について、規模、土層の特徴に関して一覧表(表V-5-1)に記した。規模は確認面での長軸/短軸をmで示した。特徴のあるものと一般的なものを2基については、40分の1に図化し(図V-5-2)、その他のものは検出したグリッドごとに80分の1に図化し、配列の認められた方形柱穴列2か所については、平面図を同じく80分の1に図化した(図V-5-3、4)。以下に特徴のあるもの、一般的なものを2基について、さらに出土した掲載遺物について説明する。

a) 土器の底部付近が正立した状態で納められていたもの(BSP-35、39)

BSP-35は掘り方のあるもので、埋め戻しの可能性のある黒褐色土の堆積が認められる。BSP-39は掘り方がない埋設土器である。出土した土器はいずれもIV群a類である。

b) 覆土に焼土粒子が混じるもの(BSP-32、34、43、44、47、51、53、59)。このうち3基を説明する。

BSP-32 平面形は楕円形を呈し、底の部分がやや膨らむ袋状の形状を呈する。覆土は全て埋め戻しによるものとみられる。焼土は3層とした坑底近くの袋状に広がる部分に黒色土に混じて堆積している。同一層に炭化物も多く混じている。遺物も比較的多く出土し、土器17点、IV群a類土器16点、Ⅲ群a類土器1点、礫2点、フレイク1点が出土している。

BSP-34 平面形はいびつな円形を呈し、断面形は切り出し状に片側が尖る。覆土は全て埋め戻しとみられ、長辺20cm程の細長い礫が2点出土している。焼土が混じる堆積はちょうど2点の礫の間、覆土の上位を占める2層に炭化物とともに少量混じる。出土遺物はIV群a類土器7点、礫2点。全て覆土からの出土である。

BSP-47 平面形は2連の円形状を呈する。断面形は平面形に合わせて階段状となっており、重複する2基の小土坑の可能性が高いものである。焼土は炭化物とともに2層とした階段部分に堆積している。遺物は検出面のこの2層部分から多く出土しており、IV群a類土器13点、礫1点が出土している。

c) 検出面、覆土から多くの遺物が出土しているもの(BSP-37、38、39、40、41、46、47、48、61)。これらは20点以上の土器が出土したものである。このうち1基を説明する。

BSP-38 平面形はダルマ型を呈する。坑底は3段になっており、東側が最も深くなっている。土層は4層に分層した。全て埋め戻しとみられる黄褐色土や炭化物が混じる堆積である。覆土からIV群a類土器95点、砂利、礫、礫片が27点、フレイク3点が出土している。

d) 一般的なものから2基説明する(BSP-63、66)

BSP-63 平面形は不整な楕円形を呈する。坑底はやや凹凸で、北西側がやや深くなっている。土層は3層に分層した。上位に堆積する黒褐色土、下位には、中心部の黒褐色土と、その両側に灰黄褐色土が堆積する。2層は柱跡かもしれない。いずれの層位も、炭化物が混じている。

BSP-66 平面形はほぼ円形、断面形はほぼ「U」字型を呈する。出土遺物は礫が6点、IV群a類土器4点である。土層は2層に分層した。炭化物、黄褐色土を混じる黒褐色土を主とする堆積で、埋め戻しとみられるものである。

e) 柱穴状小土坑出土の遺物

柱穴状小土坑から出土した遺物のうち、掲載したものについて、以下に説明する。

掲載遺物：土器 1は無文の口縁部である。3は底部。4は胴部片である。5はLR斜行縄文を地文とする胴部片。6は燃糸文が施文されるもの。口縁部付近とみられる。7は深鉢。底部と口縁部の一部を復元できた。口縁は波状を呈するとみられる。口縁は折り返しにより整形され、口縁から頭部まで無文である。頭部から下は太さの違う原体を組み合わせたRL斜行縄文が施文されている。8は小

表V-3-2 柱穴状小土坑一覧

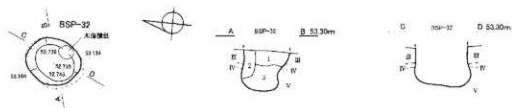
調査坑	調査区	規模(m)	深さ(m)	層	色調1	色調2	土性	粘着性	堅固性	層中の埋物類	埋物の状況	時期	その他
BSP-1	J-43-c	0.21x0.12	0.14	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
				2	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-2	J-46-b	0.21x0.19	0.18	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-4	J-46-d	0.17x0.08	0.22	1	黄褐色	10YR4/4	硬土	強	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
				2	黄褐色	10YR2/2	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-5	J-48-c	0.14x0.14	0.20	1	褐色	10YR4/4	硬土	強	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
				2	黄褐色	10YR2/2	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-6	J-47-c	0.12x0.28	0.26	1	黄褐色	10YR3/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-7	J-47-c	0.21x0.19	0.19	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-8	J-48-b	0.20x0.18	0.17	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-9	J-48-b	0.14x0.19	0.23	1	黄褐色	10YR4/3	硬土	強	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-10	J-48-b	0.24x0.18	0.28	1	黄褐色	10YR3/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-11	J-48-a	0.21x0.09	0.29	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-12	J-48-a+b	0.20x0.18	0.22	1	黄褐色	10YR1.5/3	硬粘土	強	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-13	J-48-a	0.21x0.19	0.27	1	黄褐色	10YR2/2	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-14	J-48-c	0.20x0.13	0.42	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-15	J-48-c	0.21x0.13	0.25	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-16	J-47-b	0.24x0.11	0.24	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-17	J-49-b	0.20x0.14	0.21	1	黄褐色	10YR2/1	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-18	J-50-a	0.24x0.20	0.29	1	黄褐色	10YR1.5/3	硬粘土	強	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-19	J-49-c	0.18x0.17	0.24	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	強	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
				2	黄褐色	10YR2/2	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-20	J-50-b	0.20x0.12	0.24	1	黄褐色	10YR3/4	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
				2	黄褐色	10YR2/2	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-21	J-50-b	0.18x0.22	0.48	1	黄褐色	10YR2/2	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-22	J-50-b	0.21x0.20	0.21	1	黄褐色	10YR2/2	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-23	J-50-c	0.20x0.10	0.30	1	黄褐色	10YR5/6	硬土	強	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-24	J-48-c	0.21x0.11	0.26	1	黄褐色	10YR2/2	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-25	J-50-a	0.21x0.08	0.22	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-26	J-49-b	0.24x0.22	0.22	1	黄褐色	10YR2/1	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-27	J-50-c+d	0.21x0.14	0.22	1	黄褐色	10YR2/2	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-28	J-49-c	0.20x0.13	0.23	1	黄褐色	10YR3/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-29	J-49-b, J-49-a	0.20x0.13	0.29	1	黄褐色	10YR2/3	硬粘土	中	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-30	J-51-b	0.24x0.29	0.22	1	黄褐色	10YR3/2	粘りなし、しまりなし	2cm以下の黄褐色土が若干層に				後期段階	
BSP-31	K-51-a	0.12x0.20	0.24	1	黄褐色	10YR2/1	粘りなし、しまりなし					後期段階	
BSP-32	J-49-a	0.24x0.44	0.42	1	黄褐色	10YR3/6	粘りあり、しまりあり	2cm以下の黄褐色土が若干層に				後期段階	
				2	黄褐色	10YR2/1	粘りなし、しまりあり	1cm以下の黄褐色土が少量層に					
BSP-33	K-52-a+b	0.22x0.44	-	3	黄褐色	10YR2/1	粘りあり、しまりあり	埋物あり	中子土の層	埋物類土、2cm以下の黄褐色土が若干層に		後期段階	
BSP-34	K-52-b+c	0.18x0.29	0.32	1	にじみ黄褐色	10YR6/3	粘りあり、しまりあり	V層にV層の埋物類土が若干層に				後期段階	
BSP-35	J-48-c	0.22x0.28	0.14	1	黄褐色	10YR2/3	粘りなし、しまりあり	黄褐色土が若干層に				後期段階	埋物 4
				2	黄褐色	10YR4/2	粘りなし、しまりあり	埋物類土が若干層に					
BSP-36	J-48-c	0.22x0.28	0.14	1	黄褐色	10YR4/1	粘りなし、しまりあり	2cm以下の黄褐色土が若干層に				後期段階	
				2	黄褐色	10YR4/3	粘りなし、しまりあり	1cm以下の黄褐色土が若干層に					
BSP-37	J-48-c	0.14x0.20	0.12	1	黄褐色	10YR4/3	粘りなし、しまりあり	黄褐色土が若干層に				後期段階	
				2	黄褐色	10YR2/1	粘りなし、しまりなし、自然埋物						
BSP-38	J-46-c+c+d, J-47-a+b	0.18x0.24	0.10	1	黄褐色	10YR2/1	粘りなし、しまりあり	1cm以下の黄褐色土が若干層に				後期段階	
				2	黄褐色	10YR4/2	粘りなし、しまりあり	埋物類土が若干層に					
BSP-39	J-47-d, J-48-a	0.14x0.29	0.10	1	黄褐色	10YR4/4	硬粘土	強	弱	中子土の層	埋物	早期	後期段階 層V
BSP-40	J-47-d, J-48-a	0.14x0.29	0.10	1	黄褐色	10YR2/6	粘りなし、しまりあり	黄褐色土が若干層に				後期段階	
BSP-41	J-49	0.22x0.29	0.18	1	黄褐色	10YR2/1	粘りなし、しまりあり	2cm以下の黄褐色土が若干層に				後期段階	
BSP-42	J-48-b	0.14x0.20	0.10	1	黄褐色	10YR3/3	粘りなし、しまりあり	1cm以下の黄褐色土が若干層に				後期段階	
				2	黄褐色	10YR2/6	粘りなし、しまりあり	2cm以下の黄褐色土が若干層に					
BSP-43	J-48-b	0.20x0.28	0.16	1	黄褐色	10YR2/1	粘りなし、しまりあり	2cm以下の黄褐色土が若干層に				後期段階	
BSP-44	J-48-a	0.20x0.28	0.16	1	黄褐色	10YR2/1	粘りなし、しまりあり	2cm以下の黄褐色土が若干層に				後期段階	
BSP-45	J-48-c, K-48-d	0.21x0.25	0.16	1	黄褐色	10YR3/1	粘りなし、しまりあり	埋物類土が若干層に				後期段階	
BSP-46	J-48-c	0.21x0.25	0.16	1	黄褐色	10YR3/3	粘りなし、しまりあり	2cm以下の黄褐色土が若干層に				後期段階	
BSP-47	K-48-c	0.14x0.21	0.21	1	黄褐色	10YR2/1	粘りなし、しまりあり	2cm以下の黄褐色土が若干層に				後期段階	

遺構名	調査区	発掘(㎡)	深さ(m)	番号	特徴						時期	その他
					色調1	色調2	土性	粘着性	堅硬度	断面の形状		
ISF-48	J-45-c, J-46-b	0.36/0.34	0.16	1	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	固くしまる	土留り	黄褐色土ブロックが多量に	後期奈良	
ISF-49	K-47-a	0.22/0.18	0.24	1	黄褐色	UVK2.0	粘りなし	しまりあり	黄褐色土	縦断片が多量に	後期奈良	
ISF-50	J-48-c	0.25/0.24	0.24	1	黄褐色	UVK3.1	粘りなし	しまりあり	1cm以下の黄褐色土ブロック	黄褐色土が多量に	後期奈良	
ISF-51	J-47-c	0.42/0.18	0.24	2	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	しまりあり	1cm以下の黄褐色土	縦断片が多量に	後期奈良	
ISF-52	J-47-c	0.22/0.20	0.18	1	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	やしまりあり	5cm以下の黄褐色土ブロックが多量に	後期奈良		
ISF-53	J-47-c	0.22/0.14	0.24	1	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	やしまりあり	1cm以下の黄褐色土	縦断片が多量に	後期奈良	
ISF-54	J-47-c, K-47-d	0.36/0.28	0.22	2	黄褐色	UVK4.0	粘りなし	しまりあり	黄褐色土が多量に	後期奈良		
ISF-55	J-47-b	0.40/0.22	0.40	2	黄褐色	UVK3.1	粘りなし	しまりあり	1cm以下の黄褐色土	断面形状が多量に	後期奈良	
ISF-56	J-47-d	0.42/0.22	0.40	2	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	やしまりあり	1cm以下の黄褐色土	縦断片が多量に	後期奈良	
ISF-57	J-47-d	0.22/0.08	0.24	1	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	しまりあり	2cm以下の黄褐色土	ブロックが多量に	後期奈良	
ISF-58	J-49-b	0.24/0.08	0.16	1	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	やしまりあり	2cm以下の黄褐色土	ブロックが多量に	後期奈良	
ISF-59	J-49-c, K-49-d	0.30/0.22	0.16	1	灰色	UVK2.0	粘りなし	やしまりあり	2cm以下の黄褐色土	ブロックが多量に	後期奈良	
ISF-60	J-49-b, K-49-a	0.22/0.22	0.08	1	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	やしまりあり	1cm以下の黄褐色土	縦断片が多量に	後期奈良	
ISF-61	J-49-b, K-49-a	0.26/0.44	0.20	2	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	しまりあり	2cm以下の黄褐色土	縦断片が多量に	後期奈良	
ISF-62	K-21-b	0.40/0.18	0.40	2	黄褐色	UVK2.0	粘りなし	しまりあり	1cm以下の土留り	黄褐色土が多量に	後期奈良	
ISF-63	J-50-c+d	0.40/0.22	0.40	2	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	やしまりあり	5cm以下の黄褐色土	ブロックが多量に	後期奈良	
ISF-64	K-50-b+c	0.44/0.38	0.22	2	黄褐色	UVK4.0	粘りなし	しまりあり	断面形状が多量に	後期奈良		
ISF-65	J-51-a+b	0.44/0.38	0.22	1	黄褐色	UVK2.0	粘りなし	しまりあり	土留り	黄褐色土が多量に	後期奈良	
ISF-66	K-49-a	0.42/0.28	0.22	2	黄褐色	UVK3.0	粘りなし	しまりあり	断面形状が多量に	後期奈良		
ISF-67									欠番			
ISF-68									欠番			
ISF-69									欠番			
ISF-74	J-48-c	0.40/0.28	0.20						記録なし	後期奈良		
ISF-75	K-47-d, K-48-a	0.24/0.28	0.40						記録なし	後期奈良		
ISF-76	K-48-d	0.40/0.22	0.20						記録なし	後期奈良		
ISF-77	K-48-a	0.24/0.22	0.20						記録なし	後期奈良		
ISF-78	K-48-b+c	0.22/0.12	0.16						記録なし	後期奈良		
ISF-79									欠番			
ISF-83	K-48-d	0.24/0.18	0.08						記録なし	後期奈良		
ISF-84	K-50-c	0.24/0.14	0.20						記録なし	後期奈良		
ISF-85	K-48-a	0.40/0.22	0.20						記録なし	後期奈良		
ISF-86	K-48-d	0.24/0.20	0.08						記録なし	後期奈良		
ISF-87	K-48-c+d	0.22/0.12	0.20						記録なし	後期奈良		
ISF-88	K-48-a	0.44/0.38	0.24						記録なし	後期奈良		
ISF-89	J-51-a	0.40/0.20	0.24						記録なし	後期奈良		

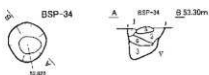
型の深鉢。全体の約3分の2が復元できた。器壁は底部から開き気味にほぼ直線的に立ち上がる。口唇は貼り付けによりバンド状に肥厚する。全面にわたって刷毛目状の調整がなされており、無文である。9は口縁部。折り返しもしくは外傾接合により整形されている。10はやや外反する口縁部付近。地文は燃糸文である。11は格子目状の燃糸文が施される胴部片。12は底部。地文の縄文の上に刷毛目状の調整がなされている。13は底部全周と胴部の一部が復元できた。やや胴長の深鉢とみられる。地文はLR斜行縄文を縦位に施した上、別原体の結節部が縦位に施されている。14は縄文施文後篋状工具により調整されている。15は沈線による格子目文が描かれるもの。16は底部。底面と残存する側面には、刷毛目状の調整がなされている。18は燃糸文が施文される胴部。胎土には砂粒が大量に混じる。20の地文はLR斜行縄文。21ABは同一個体。太さの違う原体を燃ったLR斜行縄文が横走気味に施文される。21Aは口縁部の可能性がある。22は多軸絡条体による縄文を地文とする。24は無文地に沈線文が施されるもの。25はRL斜行縄文と燃糸文が施文される口縁部。26は燃糸文が施文されている。27ABは同一個体。無文地に2条の沈線で縁取られた貼付帯により文様が描かれている。壺形を呈するとみられる。28、29は底部。28の地文はRL斜行縄文。29小型の深鉢。無文である。

30は条の横走するLR斜行縄文が施文される。31は結束第二種斜行縄文が施文される。32は折り返

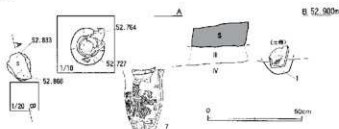
BSP-32



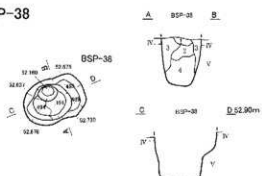
BSP-34



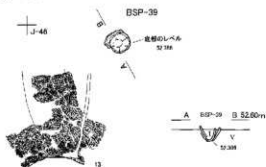
BSP-35



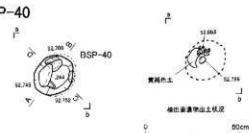
BSP-38



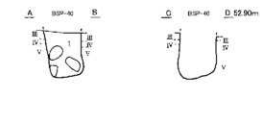
BSP-39



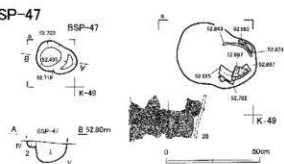
BSP-40



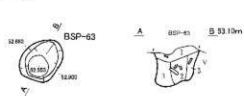
BSP-46



BSP-47



BSP-63



BSP-66

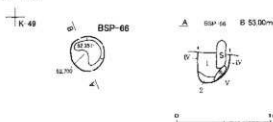
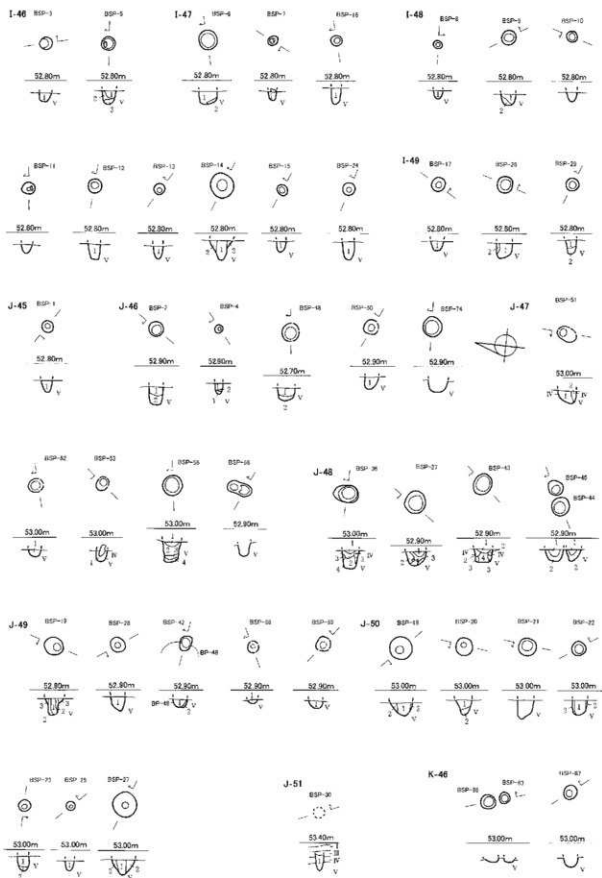
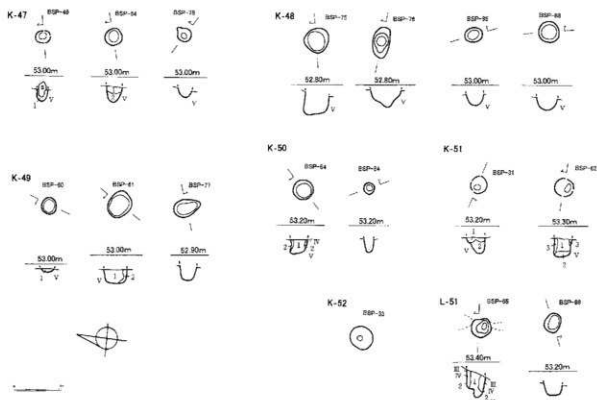


図 V-5-3 柱穴状小土坑(1)



図V-5-4 柱穴状小土坑(2)



図V-5-5 柱穴状小土坑(3)

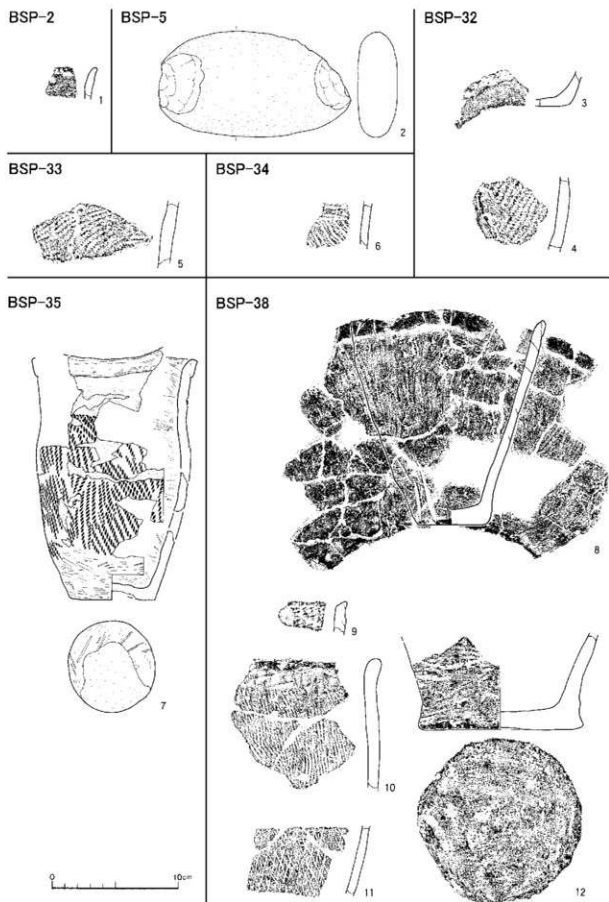
しによる口縁部。縄文が施文されるとみられるが、摩滅により不鮮明である。33は縄文の付く貼付帯により文様が描かれるもの。貼付帯は横位で2条の沈線により縁取られている。貼付帯上以外は無文である。34は底部付近。無文地に横位の沈線が施される。

35はLR斜行縄文が施文されるもの。0段多縄とみられる。

出土遺構は、1はBSP-2。3、4はBSP-32。5はBSP-33。6はBSP-34。7はBSP-35。8～12はBSP-38。13はBSP-39。14はBSP-40。15、16はBSP-41。18はBSP-46。20、21はBSP-47。22はBSP-48。24はBSP-54。25はBSP-55。26はBSP-59。27～29はBSP-61。30はBSP-62。31はBSP-65。32はBSP-77。33はBSP-66と77が接合している。

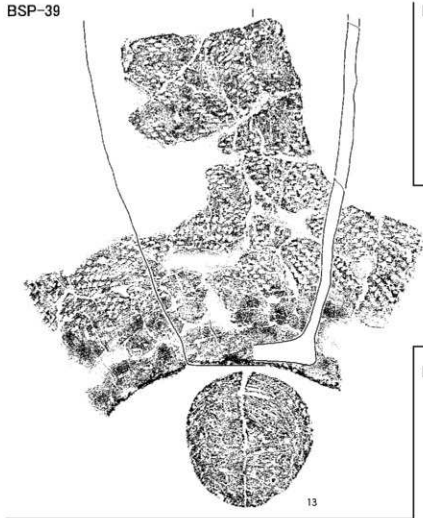
分類は、22がⅡ群b類。3、31はⅢ群a類。その他はすべてⅣ群a類である。

掲載遺物：石器 2は加工痕のある礫、BSP-5より出土したもの。砂岩の扁平礫の長辺両端を打ち欠いている。扁平打製石器の未製品である可能性が高い。17は石皿片。BSP-41より出土している。板状の角閃石安山岩を用い、平坦面を使用するもの。使用面は平滑である。19は石核。3面に原石面を残す小さなものである。23は石皿。BSP-49より出土した。砂岩礫の平坦面の中央付近を使用する。使用面は平滑である。

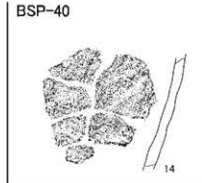


図V-5-6 柱穴状小土坑出土の遺物(1)

BSP-39



BSP-40

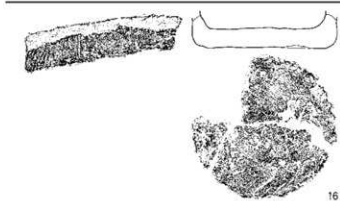
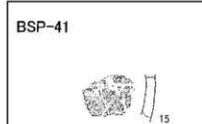


基本・横石器 0 5cm

19 0 5cm

17 0 10cm

BSP-41



BSP-46

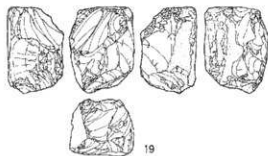
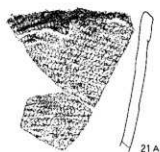


図 V-5-7 柱穴状小土坑出土の遺物(2)

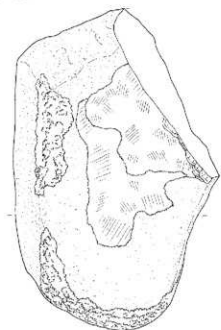
BSP-47



BSP-48



BSP-49



BSP-54



BSP-55



BSP-59

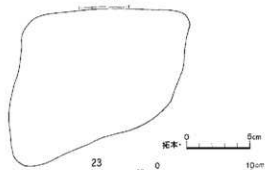
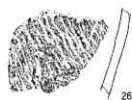
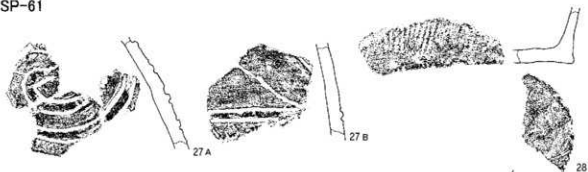


図 V-5-8 柱穴状小土坑出土の遺物(3)

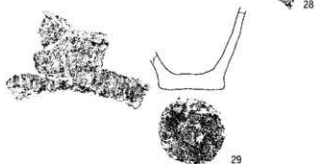
BSP-61



BSP-62



BSP-65



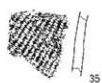
BSP-66・77



BSP-75



BSP-76



図V-5-9 柱穴状小土坑出土の遺物(4)

7 集石

本遺跡B地区で確認できた集石は計13か所である。集石は3種類あり、①大きさ2cm以下の砂利が1m内外の狭い範囲に集中しているもの（BS-1～8、11～13）。②直径12～13cmの扁平礫が集中しているもの（BS-10）。③一抱え程度の大礫が比較的広い範囲に分布するもの（BS-4、9）。である。この3種は他の遺構や遺物同様、調査区縁辺に分布しており、偏りはみられない。

また2cm以下の砂利から構成される集石については、出土する砂利に被熱しているものがあり、焼土が下位に検出されているもの（BS-6）や、焼土にも少量の砂利を伴うもの、住居BH-9のHF-1（石囲炉）でも焼土上に多量の砂利が出土しており、焼土との密接な関わりが指摘できる。

なお、BS-10については、焼土BF-10に事実記載、図を掲載した（図V-4-2）。

BS-1（図V-6-1、表V-4、5、図版55）

位置 L-31-d 規模 0.48×0.28m

確認 調査区北部の緩斜面に位置する。濁水処理施設部分の調査において、L-31区のⅢ層下部からⅣ層上面を調査中、北西～南東方向に長軸のある楕円形を呈する円礫の集中を検出した。

調査 なるべく出土状態を保つよう、刷毛を用いて礫を露出させ、軽く水洗いで範囲を記録し、取り上げた。

特徴 径5cm以下の円礫で構成される。明瞭に被熱し、赤変するものも多い。

遺物 検出面で砂利490点が出土している。

時期 周囲で検出される遺構から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BS-2（図V-6-1、表V-4、5、図版55）

位置 L-30-b 規模 0.44×0.50m

確認 調査区北部の緩斜面に位置する。Ⅲ層下部で小砂利が集中している部分を検出した。

調査 移植を用いて砂利があたる部分を残して掘り下げ、範囲を確定した後に出土状態を維持しながら竹べら、刷毛を用いて精査した。範囲を記録し、調査を終了した。

特徴 出土範囲は不整形形状であるが、概ね半径0.5mに収まる。ほぼ水平に分布している。

遺物出土状況 検出面でⅢ群a類土器8点、フレイク3点、焼成粘土塊1点、砂利177点が出土している。砂利は5cm以下の円礫を主とし、被熱して赤変したものが目立つ。

時期 周囲で検出される遺構から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BS-3（図V-6-1、表V-4、5、図版55）

位置 N-31-a 規模 0.54×0.34m

確認 調査区北部の緩斜面に位置する。BH-3を検出していたところ、その落ち込みの南西端において、小礫の集中を検出した。

調査 礫の集中部分を残して掘り下げ、礫を精査し、範囲を記録した。

特徴 礫はBH-3の落ち込みの中心に向かって扇型に広がっている。礫は5cm以下の扁平なものが目立つ。

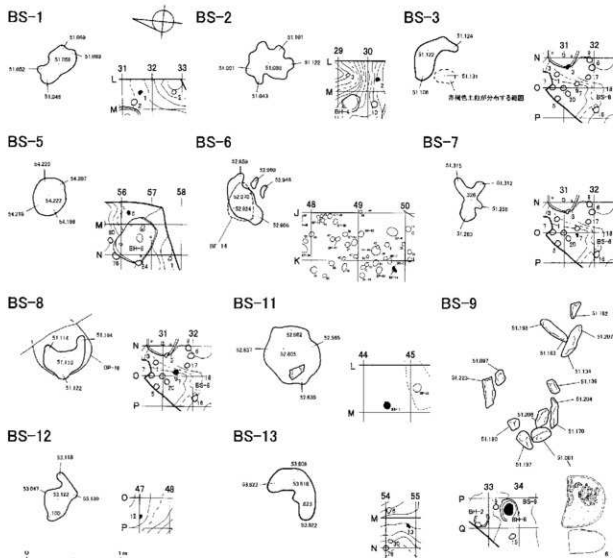
遺物出土状況 上面で砂利64点が出土している。

時期 住居との先後関係から、縄文時代中期前半以降のものとみられる。

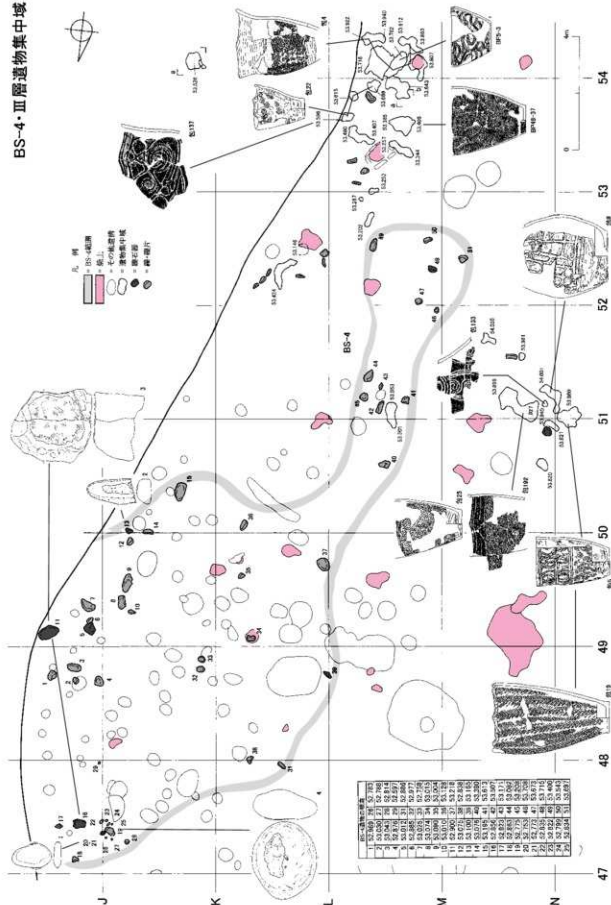
BS-4（図V-6-2、3、表V-4、5、8、図版55、56、84、86）

位置 I～M-47～52 規模 26.50×10.70m

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。濁水処理施設の側溝部分の調査において、I・J-



BS-4・Ⅲ層遺物集中域



図V-6-2 集石 (BS-4)・Ⅲ層遺物集中

47～49区のⅢ層を調査中、礫が集中して出土する地点を確認した。集中は比較的散漫であったが、西側の本調査区域に集中が続くようであったため、遺構として出土地点の記録を行なった。

その後本調査においては、広範囲にわたり同様な散漫な集中を確認でき、周囲で遺構に伴わない一抱え程度以上の大きさの礫（概ね30cm以上）の出土地点を記録し、BS-4とした。（図V-6-2）。調査 検出した後、礫を残して掘り下げ、下位に遺構の重複がないのを確かめてから出土地点を記録した。

特徴 東側調査区外に延びているとみられ、不明瞭であるが、K-51区を空白とする概ね帯状を呈している。さらに、本遺構の南端にはIV群 a 類土器を中心とした遺物の集中域が認められ、この区域にも若干の礫を伴っており図示している（図V-6-2）。この部分も含めBS-4 とするべきかもしれない。

遺物出土状況 番号を付し取り上げた51点のうち、石皿が5点、たたき石が1点、加工痕のある礫が1点、原石が2点、その他は礫、礫片である。

時期 検出範囲での遺物出土状況から、縄文時代後期前葉のものとみられる。

BS-5（図V-6-1、表V-4、5、図版56）

位置 L-56-b **規模** 0.40×0.38m

確認 調査区南部の平坦面に位置する。Ⅲ層中位を調査中に検出した。

調査 検出面を精査し、集中の範囲のみ残してⅢ層を掘り下げた。下位に遺構の重複がないことを確認し、記録を作成して取り上げ、調査を終了した。

特徴 礫はやや北東-南西方向に長い楕円形に分布する。4cmほどの高低差で平坦である。南西0.9mにBH-6が位置している。

遺物出土状況 検出面で砂利207点が出土している。

時期 周囲で検出される遺構から、縄文時代中期のものである可能性が高い。

BS-6（図V-6-1、表V-4、5、図版56）

位置 K-49-d **規模** 0.56×0.30m

確認 調査区中央東側の緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を調査中、礫が集中して出土する部分を検出した。

調査 周囲を精査して、集中の範囲を明確にした。さらに集中の範囲内において精査を行い、水洗したのち記録を作成して取り上げ、調査を終了した。

特徴 集中の範囲は概ね東西に長い不整形に広がっている。検出した礫の高低差は5cm以内でほぼ水平に分布している。本遺構の下位からBF-14を検出している。

遺物出土状況 検出面で砂利が出土しているが、点数は不明である。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BS-7（図V-6-1、表V-4、5、図版56）

位置 O-31-a **規模** 0.44×0.38m

確認 調査区北側緩斜面に位置する。Ⅲ層下部を掘削中に検出した。円礫の集中域である。

調査 Ⅲ層下部を調査中に円礫が数点集まって出土した。これらを残したまま掘り下げると更に同様な礫が出土した。範囲を記録して取り上げ、調査を終了した。

特徴 概ね5cm以下の円礫の集中。やや高低差のある不定形な分布である。

遺物出土状況 検出面でIV群 a 類土器11点、砂利301点、礫17点が出土している。

時期 検出面の遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BS-8 (図V-6-1、4、表V-4、5、7、図版56、77)

位置 N-31-b・c 規模 0.52×0.42m

確認 調査区北側緩斜面に位置する。IV層を掘削中、円礫の集中する範囲を検出した。

調査 精査し、出土範囲の記録を作成して調査を終了した。

特徴 検出面の標高はほぼ水平。調査終了後、下位よりBP-18を検出した。

遺物出土状況 検出面で礫19点が出土している。概ね7cm以下の円磨した礫からなる。

時期 周囲の遺物出土状況から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BS-9 (図V-6-1、4、表V-4、5、8、図版57、86)

位置 P-33 規模 1.62×0.90m

確認 調査区北側の平坦面に位置する。Ⅲ層中位を調査中、礫の集中を検出した。下位に遺構がある可能性を考慮し、トレンチを設定してV層まで掘り下げた。その結果、集石の下位に黒褐色土の落ち込みがあることを確認した。当初は落ち込みを伴う集石とし、一つの遺構とみていたが、その後の検討の結果、この落ち込みの中心付近に焼土があることを重視し、立ち上がりの不明瞭な住居が下位にあるものとした。上位の集石をBS-9、下位の住居をBH-8とした。北側0.2mにBP-19が位置している。

調査 両遺構の土層断面を記録し、BS-9の取り上げを行い、調査を終了したのち、BH-8の調査を行なった。

特徴 10点の礫、礫石器からなる集石である。礫の大きさは大きいもので長さ40cm程度である。

遺物出土状況 検出面の遺物10点の内訳は、石皿・台石1点、石皿片1点、礫7点、礫片1点である。

時期 BH-8覆土中から出土している、縄文時代後期前葉のものと思われる。

BS-11 (図V-6-1、表V-4、5、図版57)

位置 L-44-b・c 規模 0.68×0.58m

確認 調査区中央東側緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を調査中、礫が集中して出土する範囲を検出した。

調査 周囲を精査して、集中の範囲を明確にし、礫を水洗したのち記録を作成した。

特徴 半径約60cmの円形に広がり、高低差は3～4cmの範囲内でほぼ水平に分布している。

遺物出土状況 西側にやや大きな流紋岩礫を伴う。その他淘汰は良くないものの、概ね5cm以下の礫で構成されている。内訳はIV群a類土器5点、砂利288点、礫16点である。

時期 周囲で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

BS-12 (図V-6-1、表V-4、5、図版57)

位置 O-47-c 規模 0.52×0.34m

確認 調査区中央西側緩斜面に位置する。Ⅲ層下部を調査中、礫の集中を検出した。

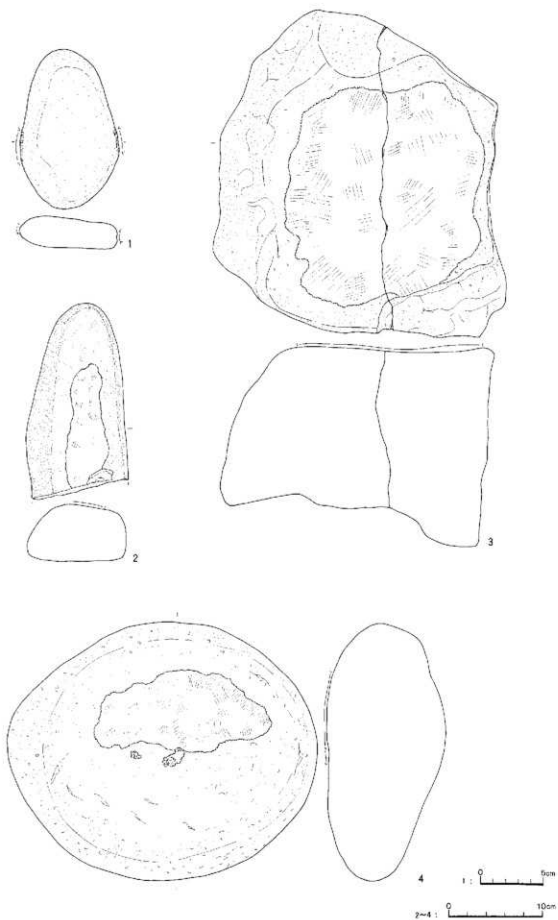
調査 精査して範囲を明確にしたのち、周囲をV層まで掘り下げた。その後、礫を水洗、記録し取り上げた。

特徴 やや小規模な集中である。

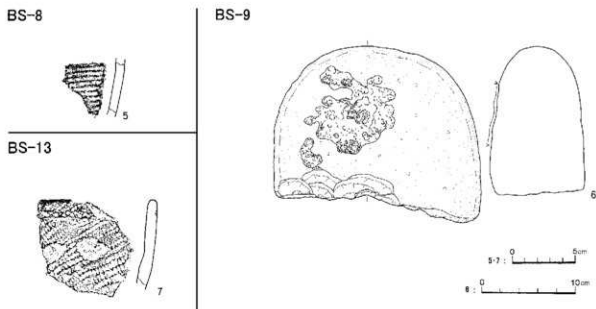
遺物出土状況 検出面で、砂利45点、礫8点、礫片1点が出土している。

時期 不明であるが、遺跡から出土する遺物から、縄文時代中期もしくは後期前葉のものである可能性が高い。

BS-4



図V-6-3 集石出土の遺物(1)



図V-6-4 集石出土の遺物(2)

BS-13 (図V-6-1、4、表V-4、5、7、図版57、77)

位置 M-54-d 規模 0.62×0.40m

確認 調査区南側緩斜面に位置する。Ⅲ層中下部を調査中、礫の集中を検出した。

調査 集石の範囲を明確にし、周囲を掘り下げた。範囲を記録して取り上げ、調査を終了した。

特徴 礫は半月状に分布し、高低差は最大で2cmほどである。

遺物出土状況 検出面において、Ⅳ群a類土器6点、砂利200点が出土している。

時期 検出面の遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。

掲載遺物：土器 5はBS-8より出土したⅣ群a類土器。0段多縄とみられる節の詰まったLR斜行縄文が施文される。7は口唇に縄線の付けられるⅣ群a類土器。地文はLR斜行縄文。

掲載遺物：石器 1はたたき石。扁平礫の端部に敲打痕があるもの。砂岩製。2～4は石皿。2はやや小さなもの。やや細長の扁平礫を用い、平坦面を使用している。使用面は平滑である。砂岩製。3は約6m離れて接合したものの。輝石安山岩の礫を用い、平坦な部分を利用してすり面とするもの。すり面は明瞭で平滑である。4は安山岩の楕円礫を用いるもの。平坦な部分を利用してすり面とする。すり面は平滑である。1～4はBS-4出土。6はBS-9出土の台石。安山岩礫の平坦な面に敲打痕があるもの。

8 包含層出土の遺物

(1) 土器・土製品 (図V-7-1~29, 44, 45 表V-9, 10 図版86~115)

包含層から出土した土器の総点数は、93,492点である。内訳は多いものからIV群a類土器88,778点、III群a類土器1,009点、III群b類土器620点、II群b類土器37点となっており、少量であるが、V群8点、VI群2点が出土している。グリッド別の点数は、図V-7-44, 45に示した。

土製品は112点出土し、このうち焼成粘土塊が92点で80%以上を占める。その他に鐳型土製品、土偶片、円盤状土製品などがある。以下掲載した土器を時期順に、次いで土製品を説明する。

II群b類土器 (図V-7-11-44, 45, 図版94, 表V-10)

円筒土器下層d式に相当するものである。44, 45は同一個体の可能性があるもの。頸部に貼付帯がめぐらされ、口縁がわずかに開く深鉢。貼付帯により区画された口頸部文様帯には、8条の縄線が概ね平行に付けられている。口唇端部には縄線による刻みが斜位に付けられ、貼付帯の下位には結束第二種羽状縄文が施文される。45の地文は多軸絡糸体の回転文である。

III群a類土器 (図V-7-1-1, 2, V-7-11-46~85, 図版87, 94~96表V-9, 10)

①円筒土器上層b式に相当するもの (46~50)

46は口縁部。肥厚した口縁部には縄線のつく貼付帯による装飾がなされている。47は文様帯部分。縄線、縄線の付く貼付帯、自縄自巻の原体による馬蹄形疋痕文が施されている。48は文様帯から胴部。文様帯には自縄自巻の原体による馬蹄形疋痕文が施される。地文は結束第一種羽状縄文。49は縄文地に縄線の付く貼付帯による文様がつけられるもの。50は平縁のもの。切出状に尖る口縁には、縄線が斜位に施されている。

②サイベ沢Ⅶ式に相当するもの (51~62)

51, 52は台形の突起を有するもの。51は突起部分のみ。素文の貼付帯と篋状工具による沈線が施文されている。52は突起部分を含めた口唇に縄線により刻みがつけられている。地文は結束第一種羽状縄文。53~55は細い貼付帯による文様がつけられるもの。53は口唇直下に素文の貼付帯がつけられている。54, 55は小ぶりの山形突起。貼付帯は突起部分につけられる。貼付帯の一部に平行する縄線が施されている。56~58は沈線文が施文されるもの。56は突起部分。突起の中央が穿孔される。59~61は縄線のつく突起部分。60には沈線文も施文される。62は口唇に縄線による刻みが施されている。

③見晴町式に相当するもの (1, 63~76)

63, 64は無文に調整された口縁部に刻みがつけられるもの。63は篋状の工具によるもの。64は縄文によるもの。いずれも地文はRL斜行縄文で、補修孔がある。1, 65, 66, 69は小ぶりの山形突起が付き、突起部分にのみ細い粘土紐による装飾がみられるもの。1は底部を欠く深鉢。突起部分に細い粘土紐による逆「の」の字状の貼り付けがみられる。口唇には篋状工具による刻みが斜位につけられる。体部にはRL斜行縄文が器面全体に施文される。69の口唇には、やや太い篋状工具による刻みが施されている。67, 68は山形突起が付き、口唇に縄線が施文されるもの。67は口唇端部に縄線により刻みがつけられる。突起の頂部には篋状工具の刻みがつく。68は、口唇に沿って縄線がつくもの。70~76は口唇に沿って1条の沈線がめぐらされているもの。70は小型の土器。やや胴部が膨らむ器形である。口唇の沈線は突起の頂部で右巻き渦が描かれている。体部には突起の頂部から垂下する2条の沈線文が描かれている。沈線は胴部で渦を巻き、わらび状の文様となっている。71, 72, 76は突起の頂部。71は刺突されているもの。72は円形の粘土紐がつけられるもの。76は小型土器。沈線は山形の突起にあわせ、波状となる。73A, Bは同一個体。地文は複節RLRである。74は口唇直下と体部にも沈線

が施文されている。

④サイベ沢Ⅶ～見晴町式に相当するとみられるが、限定出来ないもの。(2, 77~85, 図V-7-15-122, 132)

2は無文のミニチュア土器。器面全体が篋状の工具で粗く調整されている。ややいびつで口縁は波状を呈する。77, 78は無文の粘土紐による装飾があるもの。いずれも突起部分とみられる。79は地文が燃糸文とみられるもの。80は突起が「M」字状を呈するもの。突起下には貼付帯がつけられている。81, 82は平縁とみられるもの。81は口唇端部に縄線による刻みがつけられている。83~85は底部である。122は口唇直下に貼付帯が付き、貼付帯下には鋸歯状の沈線文が描かれている。貼付帯と口唇には縄線による刻みが施されている。132は口唇に篋状工具による刻みが施されるもの。

Ⅲ群b類土器(図V-7-1-3, 図V-7-8-30, V-7-13-86~98, V-7-14-99~110 図版86, 91, 96, 97, 表V-9, 10)

①口唇が平滑になでられ無文となるもの(86~92)

86, 87は平縁。86は口唇がわずかに開くもの。口唇上面は平坦に調整されている。87は口唇がなでつけられ断面三角形を呈するもの。地文はいずれもLR斜行縄文である。88~90は突起が山形を呈するもの。92は口縁部が半周する。頭部かくびれ、張り出す胴部をもつ。突起は3か所とみられる。91は断面三角形の口唇に縄文が施文されている。

②口唇に沿って太い沈線が施文されるもの(3, 93~98)

3は3か所の突起が付き、胴部のやや膨らむ深鉢。胴部上半が復元できた。沈線は口唇、突起部分のほか、3本一組の沈線が口唇直下、胴部最大径付近に横位にめぐらされている。地文はRL斜行縄文。93の沈線はやや細いが、条が横走気味となるRL縄文を地文とすることから、ここに含めた。94は突起部分。口唇下に粘土紐を貼り付け、すりなでて幅広の沈線とする。95~97は太い沈線で渦巻状の文様が描かれるもの。95は右、97は左巻き、96は2つの巻きの違う渦が突起部分に描かれる。98は口唇の上面に太い沈線がつく。沈線を跨いで細い粘土紐もつけられている。

③縄線が付くもの(99~102)

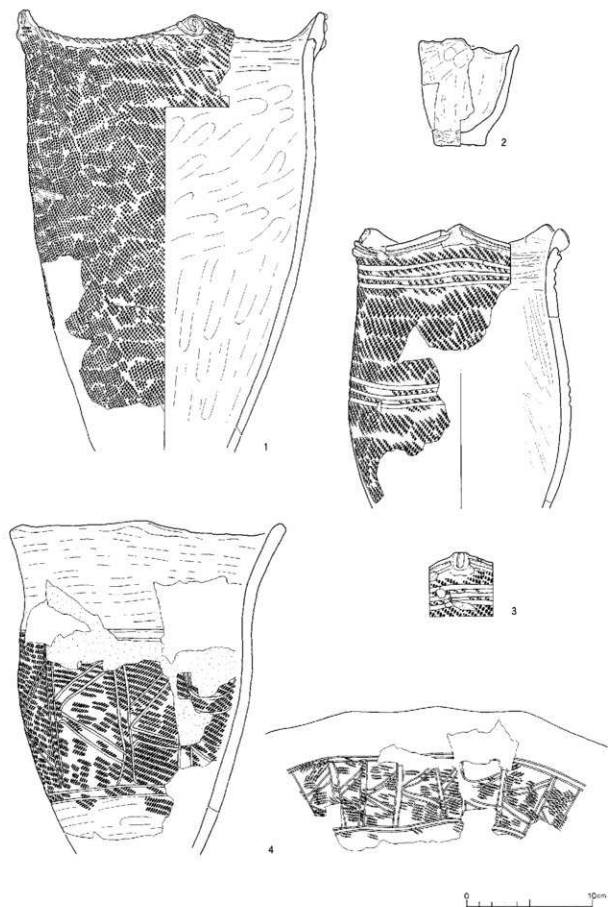
99は沈線のつけられる口縁下に縄線が2条施される。100は2本一組の縄線が縦横につけられる。頭部には2列の刺突文が施文されている。101は口唇直下に縄線がつけられている。口唇の断面は三角形で、縄文が施されている。102は口唇に沿って縄線が付けられ、胴部には3本組沈線による平行線文と弧状文が描かれている。

④燃糸文・沈線文による文様が描かれるもの(30, 103~105, 239)

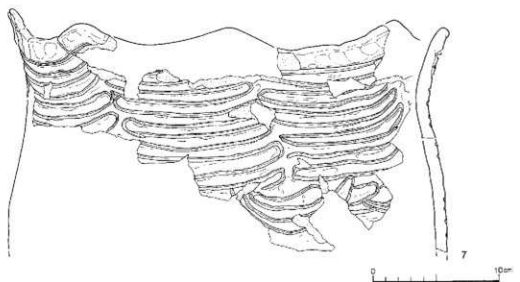
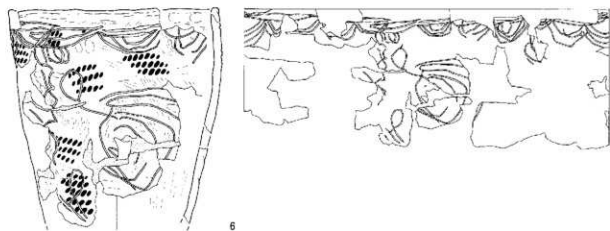
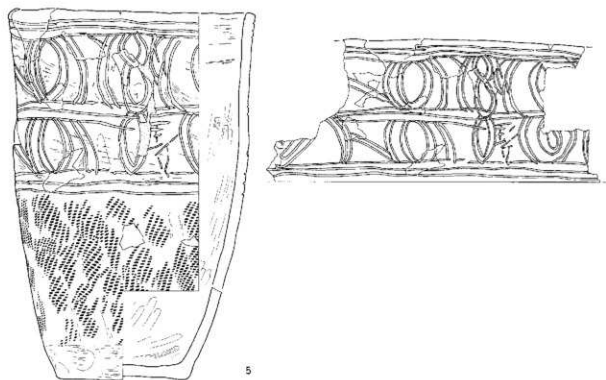
30, 239は条が縦位に流れる燃糸文が施文されるもの。いずれも突起がつく。30は4か所の突起が付く深鉢。底部が張り出し、胴部がわずかに膨らむ器形。103, 104は太く浅い沈線により二重の円形とみられる文様が描かれる。103の地文は燃糸文。105はやや細い沈線により二重円を基調とする文様が描かれている。

⑤そのほか当期に相当するとみられるもの(106~110)

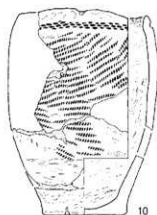
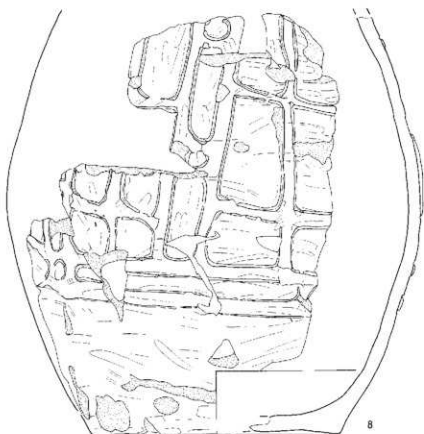
106~108は長万部町花岡3遺跡Ⅲ群b類A種に相当するとみられるもの。106は山形突起部分。口唇は角型で上面にも縄文が施文される。107は肥厚した口唇に2列の刺突文が連続して施文される。108は棒状の突起部分である。109, 110は底部。109の地文は条の横走るRL縄文。110は底部に乳頭状の突起がつく。



図V-7-1 包含層出土の土器(1)



図V-7-2 包含層出土の土器(2)



図V-7-3 包含層出土の土器(3)

IV群 a 類土器 (図V-7-1-4~, V-7-10-42, V-7-14-111~V-7-27-286
図版86~93, 98~114表V-9, 10)

本遺跡でもっとも多く出土しているものである。涌元 I、II 式、トリサキ式、大津式に相当するとみられるものがある。このうち沈線文による文様構成から大津式に相当するものを区別し、涌元、トリサキ式については沈線による文様がつくもの、縄線がつくもの、燃糸文、無文、縄文のみのものに分けて記載した。

①沈線と刺突文、列点文が施文されているもの (111・112)

111は縄文地に2本組沈線と列点文により文様が描かれる。2沈線間の地文はすり消され、間を埋めるように半截竹管状工具による列点文が施文されている。文様は涙状の楕円、波状の曲線がみとれる。112は縄文地に垂下する沈線が施され、沈線間に細い棒状の工具で刺突文がつけられる。

②縄文地に沈線が描かれるもの (4, 113~116)

沈線文がつけられるもの内、やや古手とみられるもの。4は胴部上半がわずかにくびれ、口縁が波状を呈する深鉢。2本組の沈線による直線を基調とした文様が施文される。沈線は頸部やや下、底部やや上に平行にめぐり、その間を文様帯としている。文様帯は縦位と斜位の沈線が組み合わせられ「K」字状の文様となり、横位に連続して描かれている。地文はLR縄文、すり消されてはいないが文様帯部分に施文されている。113は2本の平行沈線が描かれる。114は隆沈線手法によるもの。磨消縄文により円形、長方形の文様が描かれている。115は口縁部。口唇直下に2条の平行沈線が描かれ、区画された文様帯中に左に巻く沈線が描かれている。116は無文地にやや太目の沈線が描かれるもの。大津式に類似するが、尖り気味となる渦文など若干趣が異なるため、便宜上ここに含めた。

③突起・口縁部分 (117~121, 123~131)

突起・口縁部分を一括した。117~120は刺突文が付くもの。117は口唇頂部の連続刺突文に加え、太い棒状工具による沈線が施される。118は口縁の頂部と口唇から縦位に連続して刺突文がつけられる。119は口縁下の貼付帯に刺突文が施文されるもの。120はやや小型の鉢とみられるもの。口縁頂部にのみ刺突文が連続して施文されている。121は縄線文がつくもの。口縁突起部分。縄線文は数条で一部は曲線である。123~124は沈線文がつくもの。123, 124は突起にあわせ刺突による円形文が施文される。125~127は口縁に粘土貼付により肥厚しているもの。125は粘土がつままれ山形を呈する。126は突起の頂部に縦位の刻みをつけられる。127は突起にあわせて粘土紐が縦位につけられ、縄線がつけられている。128は細く浅い沈線により、突起頂部から垂下する渦巻文、鋸歯状文が描かれる。129~131は円形の貼付文がつけられるもの。129は二つの粘土粒を縦位につなげた。117~119はⅢ群の可能性もある。122, 132はⅢ群 a 類。誤ってここに掲載した。

④沈線文が施文されるもの (5~7, 133~181)

④-1 無文地に渦巻文、「S」字縄文が描かれるもの (133~146)

133は壺型とみられる土器。無文地に連結した縦位の渦巻文、縦横の弧線文により文様が描かれている。横位の弧線文は隆沈線である。134A~Cは同一個体。連携した「S」字状文とみられる文様が描かれる。135, 136は小型の鉢とみられるもの。137, 138は隆沈線手法によるもの。137は波状口縁を呈する深鉢。口縁に沿って2条の沈線が描かれ、体部は連携した渦巻状の文様を中心とした曲線を描く隆沈線で構成されている。Bはこの底部とみられる。138は壺の肩の部分。沈線部分にわずかに赤色顔料が認められる部分がある。139は連携する曲線文が描かれている。140A, Bは同一個体。壺型の土器とみられる。単位文様2群の円形文、長楕円形文、連結した渦巻文が施文される。沈線中に赤色顔料の残る部分がある。141~144は2本組沈線による文様が描かれるもの。141, 142は渦巻文



図V-7-4 包含層出土の土器(4)

とそれをつなぐ弧線文により文様が構成される。143は沈線の一部に赤色顔料の残る小型の土器。144は横位の「S」字状文と縦位の連続する山形文が描かれるもの。145は縄文地に3本組沈線による渦巻文が施文されるもの。146は4～6本の多重沈線により、渦巻文が描かれている。

④-2 無文地に直線を基調とした隆沈線文が描かれているもの(8、147～149)

8は壺型の土器。いわゆる「土器棺」の可能性もある。147A、Bは同一個体かもしれない。隆沈線手法による円形文、長方形文、長楕円形文で構成されている。

④-3 全体の文様が不明な口縁部(150～156)

150～152は隆沈線手法によるもの。150は弧状文が描かれる。151は口縁が肥厚し角型を呈する。153は壺型のもの。口唇は折り返され肥厚している。154は波状口縁に沿って沈線が付けられる。155は雷文、156は3本組沈線による縦位の弧線文が描かれている。

④-4 沈線により「8」の字、円形文が描かれるもの(5、157～162、165)

5は平縁の深鉢。口唇直下から胴部中央までに3本一組の沈線を等間隔に3条配して文様帯としている。文様帯中には弧線文による円形文、「U」字文、斜行文が2本組の沈線で描かれている。体部の地文はRL斜行縄文。157は波状口縁の一部。2本組の弧状沈線の組み合わせによる縦長の「8」の字文が描かれる。158～160は小型の土器。158A、Bは同一個体。Bの胴部には弧線文の組み合わせによる文様が描かれている。159は2本組平行沈線で区画された文様帯中に、弧線文に加え、縦位の「X」字状の文様を描き、それに沿わせて沈線を加え「8」字状文となっている。160は弧線文と渦巻文が、161は縦位の弧状沈線による文様が描かれる。162は貼り付けによる小ぶりの突起がつくもの。縦位の弧線文が左右対になり、三重の円形文が描かれている。165は壺型とみられる。2本組の沈線による「8」の字文、これを繋ぐように短い平行沈線が施されている。

④-5 連続する横位の弧状沈線を主とした文様が描かれるもの(163、164、166)

163A、Bは同一個体。口縁の外反する深鉢とみられる。口唇直下から数段にわたり、横位に展開する弧状沈線が描かれている。164は口縁が外反する深鉢。胴部に引かれた3本の平行沈線から口縁までを文様帯とし、弧状の沈線が連続して施文されている。166はやや張り出す胴部。垂下する2本一組の沈線が割り付けられ、そこから横位に弧状沈線が多重に描かれている。弧状沈線は垂下沈線の中間点で互いに交差し、胸骨文風の文様を形成している。沈線文の中でもやや異質で胎土には繊維が若干混じり、Ⅲ群に近い印象を受ける。無文地であるため、便宜上ここに含めた。

④-6 やや粗い調整の小型土器に沈線文が描かれるもの(167～170)

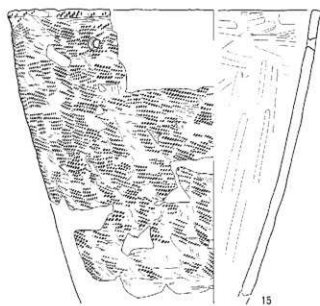
167は「し」の字状の文様が描かれるもの。168は燃糸文、169は縦位の沈線文を粗くすり消した後、曲線を主とする沈線文が描かれている。168は波頭状、169は横位に展開する弧状文。どちらの沈線も粗く、太さ、本数も一定ではない。170は無文面上に波状文、円形文が描かれている。

④-7 縄文地にやや粗く、複雑な構成の文様が描かれるもの(6、171、172)

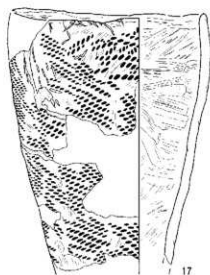
6は条が横走気味となるLR縄文が粗く施文された後、沈線文が施文されるもの。口唇直下には弧線文と直線文がめぐり、胴部の一部に螺旋状に垂下する文様、円形や数条の輪で構成される文様が単沈線により描かれている。171は0段多縄とみられる節のつぶれたLR縄文を地文とし、単位文様2群の渦巻文が描かれるもの。171は縄文地に単沈線により葉脈状の文様が描かれ、そこから放射状に伸びる短沈線が加えられるもの。

④-8 無文地に短沈線による雷文、垂下する蛇行沈線文、斜行直線文が描かれるもの(7、173～176)

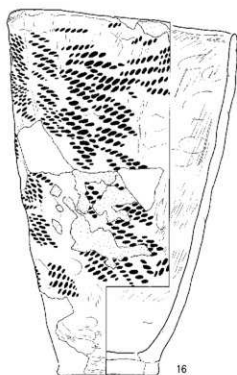
7は頭部のややくびれる深鉢。胴部上半半周を復元した。口縁はバンド状に肥厚し角型を呈する。



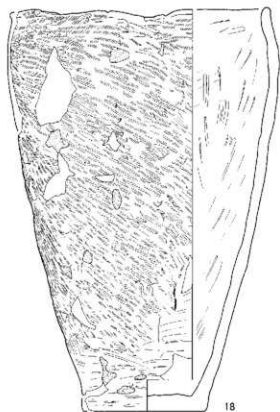
15



17



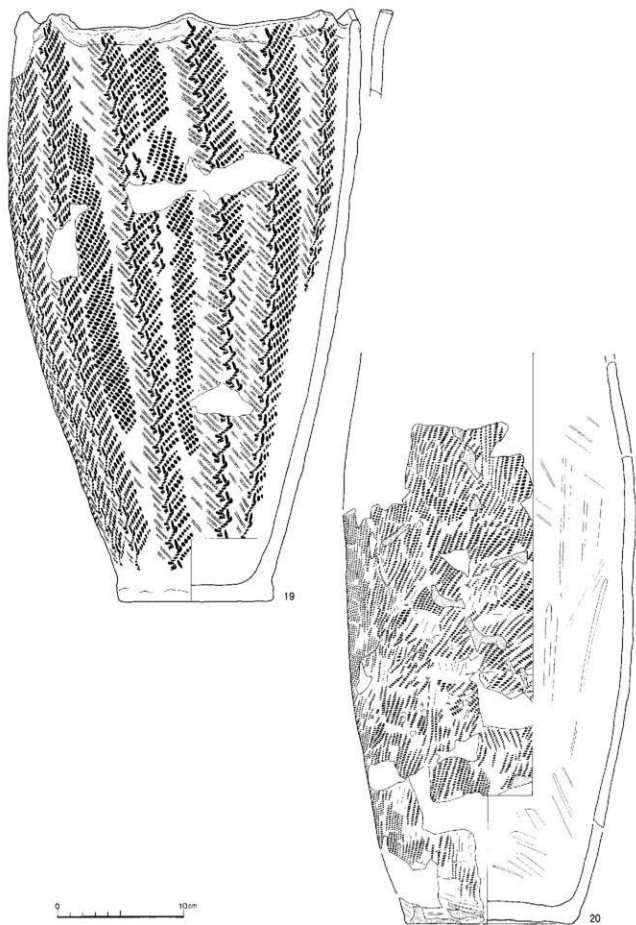
16



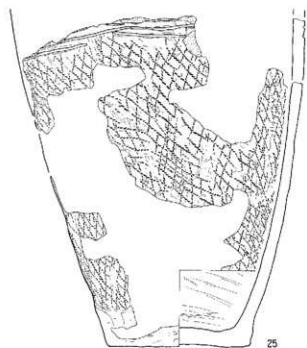
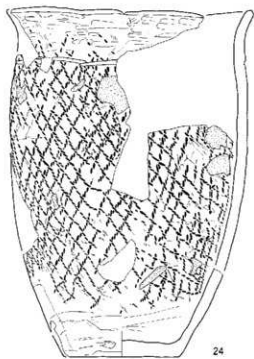
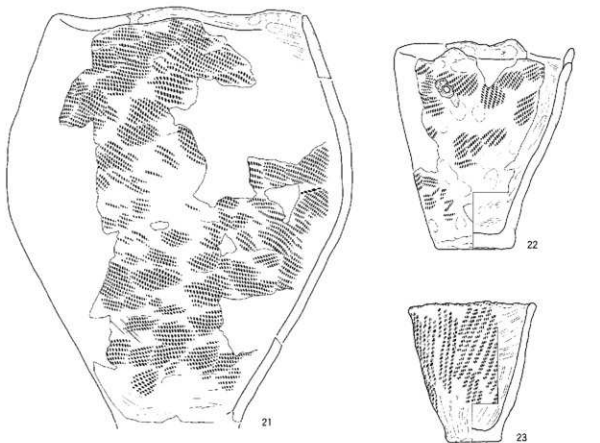
18



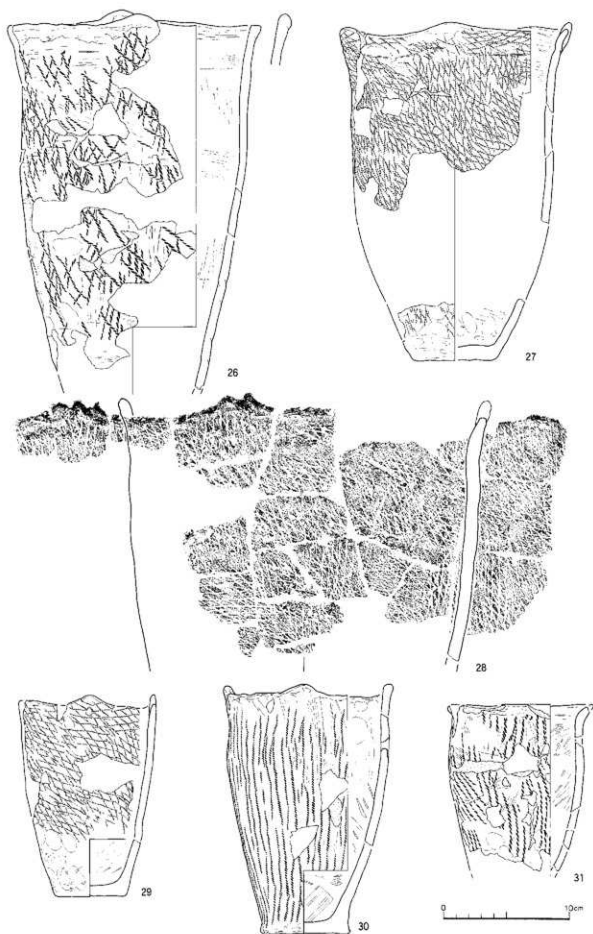
図V-7-5 包含層出土の土器(5)



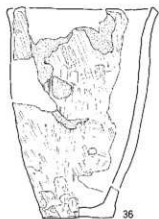
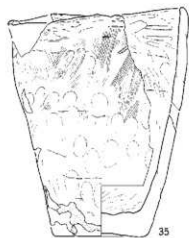
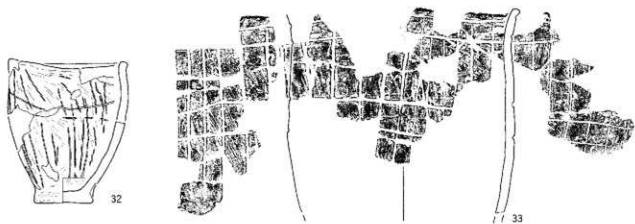
図V-7-6 包含層出土の土器(6)



図V-7-7 包含層出土の土器(7)

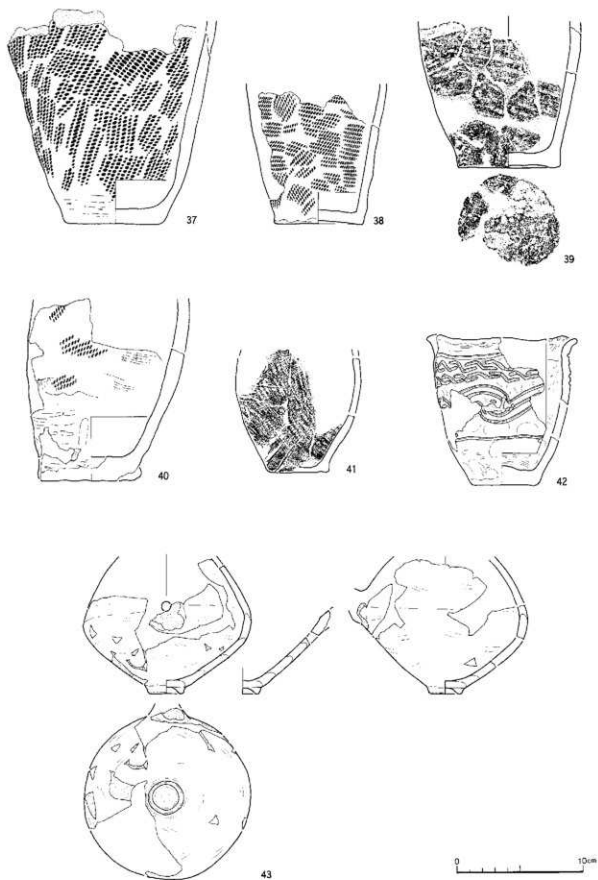


図V-7-8 包含層出土の土器(8)



0 10cm

図V-7-9 包含層出土の土器(9)



図V-7-10 包含層出土の土器(10)

沈線文は器面全体に施文される。部分的に単位文様2群の弧状に伸びる長楕円形文であるが、やや崩れて単沈線により蛇行して垂下する文様となっている。173は壺の肩とみられるもの。稲妻状の角のある垂下沈線が描かれている。174は波状口縁。口縁の頂部から発する蛇行沈線が器面全体に施文されている。175は小型の壺の口縁。176は小型の深鉢。底部に向かいすぼまる器形である。粘土紐貼付による小ぶりの突起が付く。外傾接合が明瞭な粗雑な土器である。頸部から発する斜位の連続沈線文が施文される。

④-9 沈線文がつく小型土器の口縁部 (177~181)

177は縦位の貼り付けが付く。貼付も沈線により縦位に刻まれている。沈線は口唇直下と内面にも施文されている。178、179は口縁部に縦位に穿孔が施されているもの。口唇頂部の孔周辺にも沈線文がつけられている。178は沈線のみ、179は隆沈線手法により水滴状の文様が描かれている。180は口唇に細い粘土紐貼付けによる文様が描かれているもの。181は口唇端部に半截竹管状工具による刺突文がつけられるもの。

⑤縄線文による文様がつけられるもの (9、10、182~197、199)

182は縄文地に縄線の圧痕が蛇行してつけられているもの。地文はRLR複節斜行縄文。縄線も同一原体とみられる。

183~192は縄線に区画された無文面上に、縄線による文様が描かれるもの。183、184は口唇直下に2条、頸部に1条の縄線をめぐらせるもの。184は波状口縁に沿って縄線がつけられる。185、186、192は文様帯に縄線で文様が描かれるもの。185は突起下に「X」字状の、186は縄線間に斜行する縄線が加えられている。地文は185がLR、186が複節RLR。192はやや薄手のもの。文様帯には平行な5条の縄線に加え、突起下に垂下する短い3条の縄線がつけられている。187~190は口縁端部に刺突文が加えられるもの。187は頸部にバンド状の粘土紐を貼り付け、バンドの両端に縄線がつけられている。口縁の頂部には指頭大の工具によりくぼみがつけられている。188は縄線の圧痕、189は口唇に縄文と突起の頂部には篋状工具による刻みがつけられる。190は絡条体の圧痕によるもの。頂部には同一原体が回転施文されている。191は口縁直下のみ縄線が付き、頸部は無文としているもの。

193、194は口縁に沿って2条の縄線が付けられるもの。地文は、193は条が横走気味となるLR縄文、194は条が縦走気味のRL縄文。

9、10、195~197は縄線が口唇下に1条つけられるもの。9は口縁約半周が復元できた深鉢。口頭部無文面上に縄線が1条つけられるが、全周はしていない。体部は条が横走気味となるLR縄文。口頭部は外傾接合による粘土紐の痕跡が明瞭であり、粗い作りである。195も縄線が口縁下の一部にしつつつけられないもの。10は胴がややふくらみ、口縁がすぼまる器形の小型深鉢。口縁のやや下に縄線がつけられている。地文はLR斜行縄文。底部付近、底面には、篋状工具によるケズリ状の調整がなされている。196は頸部がくびれ、口縁が波状を呈するもの。縄線は波状口縁に沿って1条つけられている。197は平縁のもの。

199は縄線部分が破損しており、2条以上の縄線がつけられるもの。縄線部分のみ地文であるLR縄文が方向を変えて施文されている。

⑥縄文のみのもの (11~23、198、200~225)

おおよその器体全体が推測できたもの (11~23)

11~13は器面ほぼ全面に縄文が施文されるものの中、縄文の条が縦走気味のものである。

11は上下が接合していない。口縁に向かって開き気味となる深鉢。底部はやや張り出し、口唇端部は尖り外に反っている。地文はRLR斜行縄文。内面と底面は板状の工具による調整痕が明瞭に残る。

12、13は器体が直立し、全体が概ね円筒形を呈するもの。底部の張り出しはなく、底部付近には地文は施文されない。12は頭部がわずかにくびれている。複節RLR縄文を地文とする。13は口唇が角型に整形されている。外傾接合の痕跡が明瞭なやや粗い作りである。地文はRL縄文。節がつぶれて条の間隔が開いており、0段多縄とみられる。

14、15は器面全面に縄文が施文されるもののうち、縄文の条が横走気味となるもの。14はほぼ上半、15は底部付近まで復元できた。14は外傾接合の痕跡が明瞭で、表面に指頭などによる調整痕、内面にも板状の工具による調整痕が残り、やや粗いつくりである。地文はLR縄文。15は口縁が角型に整形され、内面は丁寧な磨き調整がなされている。地文はやや細かいLR縄文。

16、17は節の大きな太い縄文により器面全体が施文されるもの。

16は底部から緩やかな曲線で口縁近くはほぼ直立する器形。底部はやや張り出す。地文はLR縄文。器面はでこぼこで指頭などの調整痕が残る粗いつくりである。17は口縁がやややすばまる器形。口唇の一部に笠状工具による刻みがつけられる。地文はLR縄文。16と17は胎土、原体がよく似る。

18は無節の縄文が施文されているもの。

頭部がやや内湾して口縁がすばまる器形である。無節Lの縄文が器面全体に施文される。口唇付近のみ条が横走する。内面は丁寧に調整されるが、内面の一部、底面と底部付近はケズリ状の調整痕が明瞭に残っている。

19、20は大型の深鉢。

19は波状口縁を呈し、底部が張り出すもの。地文はRLと無節Lの原体を結束させた結束第二種羽状縄文を縦位に施文するもの。器面全体に施文される。20は口縁付近まで接合したもの。口縁に向かいやややすばまる器形を呈する。地文はRL縄文。底部付近では条が縦走気味に施文されている。内面、底部は丁寧にミガキ調整される。

21は壺型を呈するもの。

図の正面のみ口縁から底部まで接合した。口縁は波状を呈し、胴部中央よりやや上が張り出す器形である。地文は節の細かいRL縄文が器面全体に施文される。波状を呈する口縁は折り返しもしくは外傾接合による接合痕が明瞭で、指頭による圧痕が残るなど、粗雑な作りである。

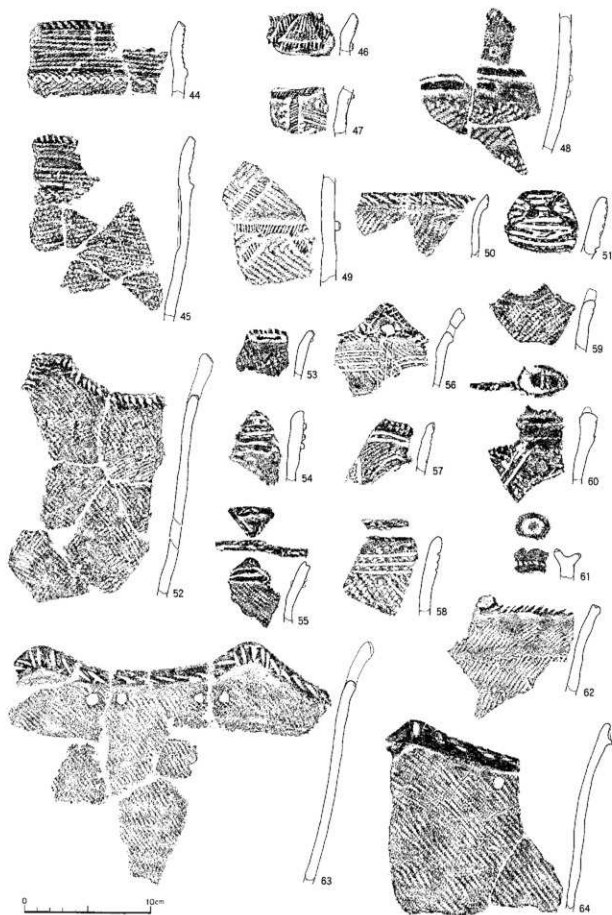
22、23は小型の土器

22は2か所の小ぶりの突起が付くもの。地文はLR縄文が部分的に施文される。つくりは粗く、外傾接合痕や指頭、沈線状の調整痕が明瞭に残る。23は平縁のもの。地文はやや条の間隔のあくRLR斜行縄文。口唇から器面全体に燃糸文風に条が縦走するように施文されている。

縄文のみ施文されるものについて破片資料を説明する。

198は便宜上ここに含めたもの。角形の口縁を呈し、連続する斜位の刺突がつけられている。200～203は口唇部の施文方向が体部と異なるもの。200、201は角型の肥厚する口縁部。いずれもLR斜行縄文が体部は縦位施文。バンド上は横位に施文している。202は肥厚した口縁に縄文の結節部が横位に施文されるもの。203は口縁が肥厚しないが、施文方向を変えているもの。

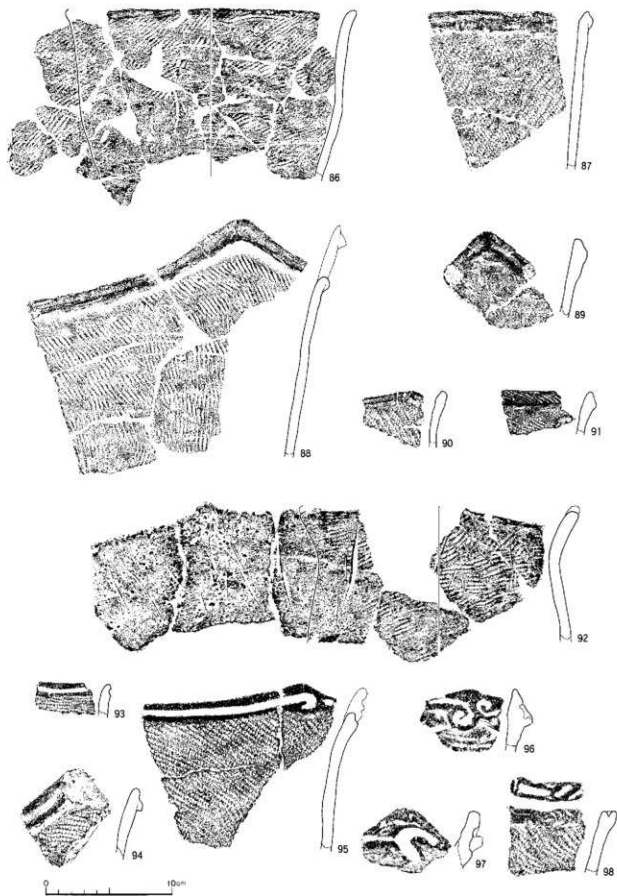
204、205、209、210は突起部分を含むもの。204は薄手で口唇端部は平坦に整形される。地文はRL縄文が縦位施文されている。胎土からIV群a類としたが、器形からIII群b類かもしれない。205は突起の頂部に指頭によるくぼみがつけられるもの。209は口唇が肥厚しているもの。210は結束第二種LR斜行縄文が施文されるもの。206は平縁の口縁部。口縁は平坦に整形される。一部に笠状工具による刻みがつけられる。207、208は無節Lの原体が重ねて施文されるもの。207はやや頭部がくびれている。208は平縁である。



図V-7-11 包含層出土の土器(11)



図V-7-12 包含層出土の土器(12)



図V-7-13 包含層出土の土器 (13)

211は口唇に無文のバンドがつくもの。折り返しによるとみられる。地文はLR縄文。条が斜行気味に施文される。212は輪積みの跡が明瞭なもの。地文はLR縄文。内面はナデ調整がなされている。213は頭部がくびれ、やや厚手である。地文はLR縄文。

214、215は縄文地に沈線による文様がつくもの。214は突起の付く深鉢。条が横走するLR縄文が施文された後、大きく斜格子状の沈線がつけられる。215は折り返し口縁による無文のバンドがある。板ナデ状の沈線が縦位につけられた後、LR縄文が施文されている。

216～219は一部無文となるもの。

216～218は無紋帯があるもの。216は頭部のくびれ部分の縄文がすり消されて無文である。217、218は頭部に幅広の無文帯がある。217は小型。218は胴部が膨らむもの。LR縄文が施文された後、棒状の工具で調整され無文となっている。219A、B、Cは同一個体。口縁付近が広く無文となる。無節Lの縄文が施文された後、棒状工具により調整される。

220～222は粗い器面に縄文が施文されるもの。

220、221は棒状工具による粗い調整の後、地文が施文されるもの。220の地文は付加縄とみられる縄文。221はLR縄文の縦位施文。222は板ナデ状の調整の後LR斜行縄文が施文される。口縁は明瞭ではない。

223～225は壺型の器形を呈するもの。

223は小型。口唇直下から無節Lの縄文が施文される。224A～Cは同一個体。やや大型のもの。口唇、底部以外の器面全体に条が横走気味のLR縄文が施文されている。225は大型壺の口縁部。口縁部は貼り付けにより幅広のバンド状となっており、断面は角型を呈し、突起もつけられている。地文はRL斜行縄文。バンド下から施文されている。

㊦燃糸文が施文されるもの (24～29、31、32、226～240) 30、239はⅢ群b類である。

㊦-1 斜格子目状の燃糸文が施文されるもの (24～29、226～229)

24、25、226、227は沈線で区画された文様帯があるもの。

24は口縁がわずかに外反する深鉢。頭部に1条の沈線をめぐらせ、燃糸文が沈線から底部付近まで施文される。内面、口唇は丁寧なミガキ調整がなされている。25は口縁を欠く。2条の沈線により区画される。燃糸文は沈線下位から底部付近まで施文される。内面は丁寧にミガキ調整されるが、底部は一部ケズリ調整される。226は沈線で区画された文様帯に、隆沈線と粘土紐貼り付け、沈線による文様が描かれる。227は3条の沈線とそれらを繋ぐ「S」字状の沈線が描かれる。

26～29、228、229は斜格子目燃糸文のみ施文されるもの。

26～29は全て小ぶりの突起がつく。施文はやや粗く方向は一定ではない。底部付近は施文されない部分がやや広い。26、27は口唇がやや肥厚し、27波状口縁に沿って沈線が付けられる部分がある。28は突起部分に指頭による刻みがつけられている。29はやや小型のもの。228A、Bは同一個体とみられる。底面には格子状の圧痕がみられる。229は内外面が丁寧に器面調整されている。

㊦-2 斜行する燃糸文を地文とし、口唇に文様がつくもの (230、231)

230A、Bは同一個体。少し張り出す底部を持つ深鉢。折り返しによりやや肥厚した口縁部の頂部に、指頭によるくぼみがつけられている。231は口唇にも燃糸文が回転施文される。

㊦-3 条が概ね縦走するもの (31、232、233、236～238、240、243、244)

31は口縁が外反し、胴部がやや膨らむ器形のもの。232は胴部片。233A～Cは同一個体。内外面は比較的丁寧に調整される。236は節が極めて細かい燃糸文。口縁に同一原体による縄文がつけられる。237は折り返し口縁、238は口縁が波状を呈する。240は平縁。節の明瞭な燃糸文が施文される。243、

244は同一個体の可能性がある。いずれも燃系文であるが、原体の軸とみられる直交する沈線が加えられ、斜格子目状を呈する。243は口縁部。

⑦-4 特殊な燃系文 (234, 235)

234はⅡ群b類に見えるが、内面に板ナデ状の調整痕があり、胎土に砂粒が混じるためここに含めた。235は斜格子目燃系文に更にもう一度巻きつけた原体を回転しているとみられる。

⑧格子目状の沈線文が施文されるもの (32, 33, 241, 242, 245)

32は胴部の膨らむ小型土器。縦位の燃系文が施文された後、補うように縦横の沈線が描かれるもの。33は器面全体に格子目状の沈線文が施文されるもの。板ナデ状の調整の後、縦位の後横位の沈線がつけられている。241A、Bは同一個体。胴部上半が膨らむ深鉢。口唇は貼り付けによりバンド状に肥厚している。口唇より下位に斜格子目状の沈線が描かれている。242は口唇が平坦に調整され篋状工具による刻みがつけられる。245A、Bは同一個体。ナデ調整の後縦位の沈線が施文される。

⑨無文のもの (34~36, 246~256)

34~36は無文で調整痕を明瞭に残す。34は底部が張り出す。35、36はやや目の細かい調整がなされる。246、248~251は口縁が貼付により肥厚したバンド状を呈する。248、249は外傾接合の痕跡を残す。247、252、253は突起付き、もしくは波状口縁を呈する。247は突起部分に板ナデ調整がなされている。252、253は粘土粒をつけた小ぶりの突起がつく。254A、Bは同一個体。胴部下半が膨らむ壺型を呈するとみられる。板ナデ調整の後、内外面が丁寧にミガキ調整される。

255は板ナデ状の調整痕が残るもの。256A、Bは同一個体。繊維質の胎土、器形ともにやや異質であるが、便宜上ここに含めた。円筒形を呈し、口縁が外反する器形を呈する。穿孔は補修孔である。

⑩底部 (37~41, 257~269)

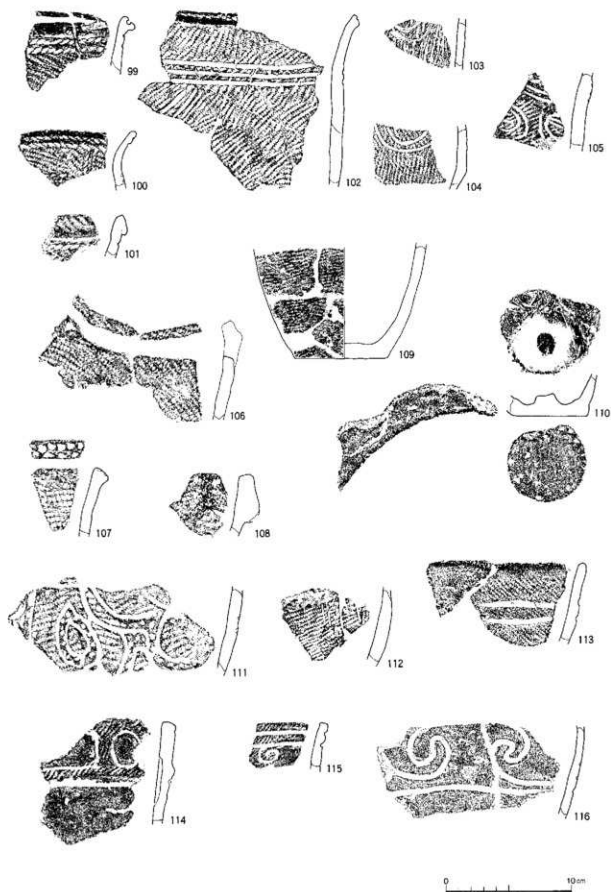
37~41は底部付近の器形がわかるもの。41はやや胴部が膨らむ。地文は37が燃系文。38は横走気味のLR。39、40、41はLR縄文である。257~259は底面に沈線文がつくもの。257、259は葉脈状を呈する部分がある。260は地文のLR斜行縄文が施される。261は網代状の痕跡がある。262は器壁が直立、263はやや角度が付き立ち上がる。264、265は底部が張り出すもの。266~268は小型。269は底部張り出し部分に穿孔がなされる。穿孔は2か所で、中心を通り対となる。

⑪小型・赤彩 (270~278)

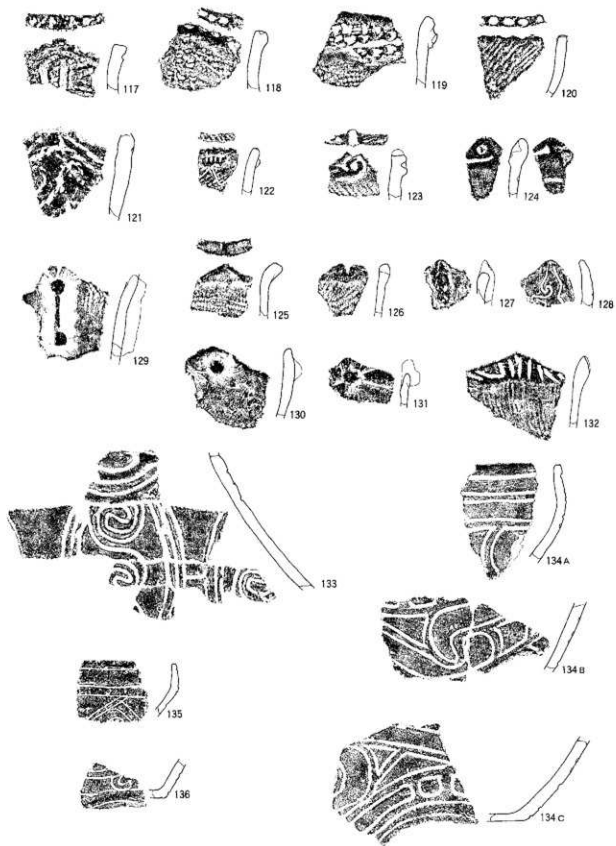
270~272は小型土器の底部。271、272は底部の突起があるもの。273はオオバコ回転文とみられる。274~278は赤彩のみられる小型土器。274、275は同一個体かもしれない。無文地に薄い貼付帯による文様がつけられるもの。貼付帯の接合部に赤色顔料がのこる部分がある。壺型とみられる。276は小型の鉢とみられるもの沈線文による、区画文や逆「の」の字文、口唇には長楕円形の文様や刺突文もつけられている。277は口唇部。貼付帯による装飾の隙間に赤色顔料が残る。278は渦巻沈線文が描かれる胴部片。沈線にわずかに赤色顔料が残る。

⑫大津式、白坂3式に相当するもの (42, 279~287)

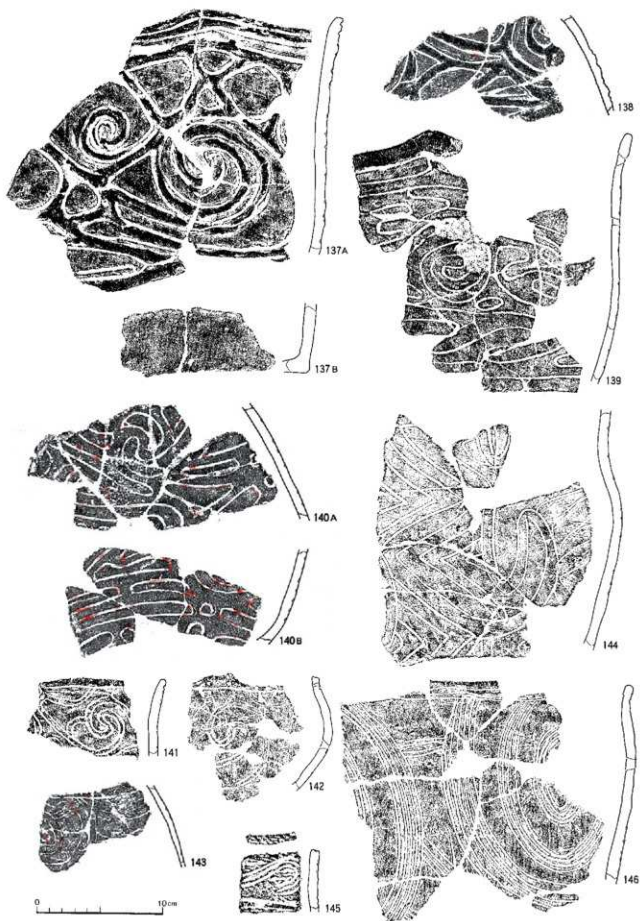
文様構成から明らかなもののみ選んだ。279~281は幅広の沈線文が描かれるもの。279、280は縄文地に連続山形文。垂下する蛇形沈線が描かれる。281は無文地に平行沈線のほか単位文様2群の「コ」の字文らしき文様が描かれる。42、282~284は沈線による「乙」地文が描かれるもの。42は口縁下が強くくびれる小型の深鉢。口縁はゆるやかに波状を呈する。無文地に頭部と胴下半に1条の沈線を描き、沈線間を文様帯とする。文様帯には2列の「乙」字文が連続して描かれ、波頭状を呈する入組文が描かれている。285、286は「カニのハサミ」状文が施文されるもの。282、283は壺。287は磨消縄文のものである。



図V-7-14 包含層出土の土器(14)



図V-7-15 包含層出土の土器(15)



図V-7-16 包含層出土の土器(16)

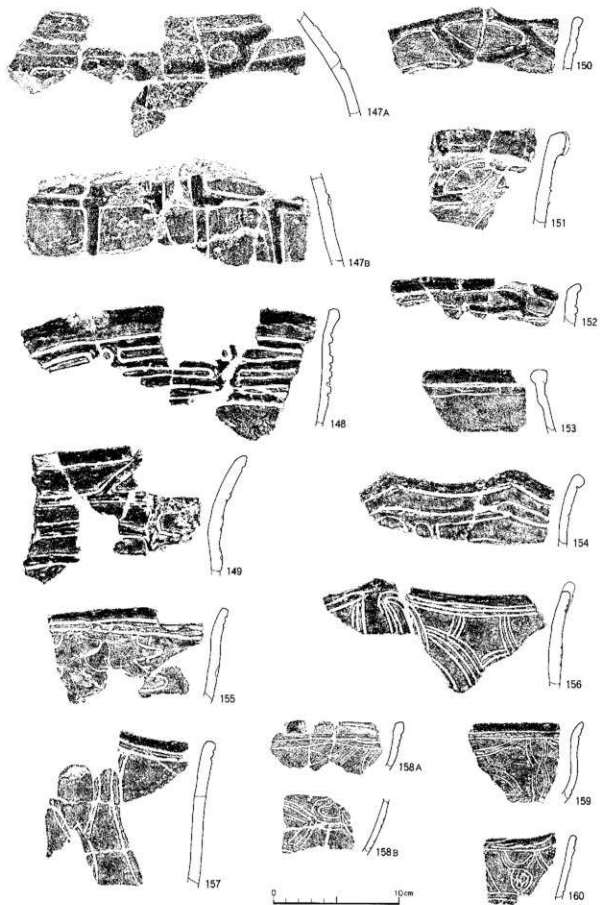
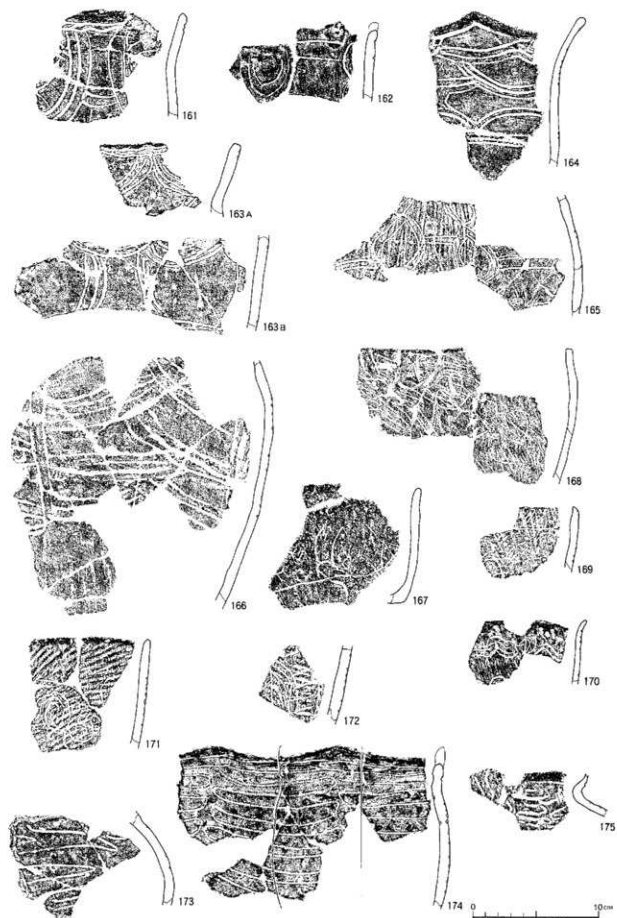
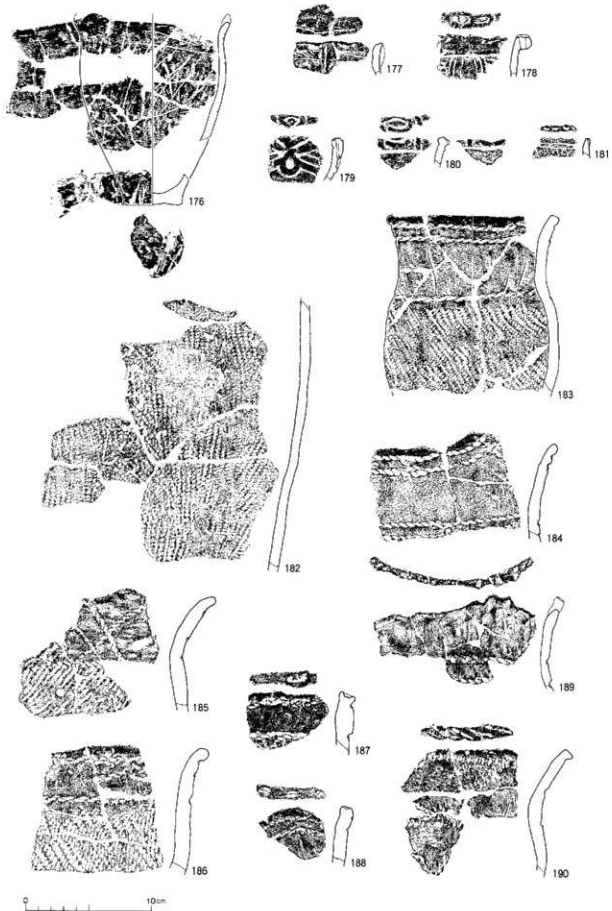


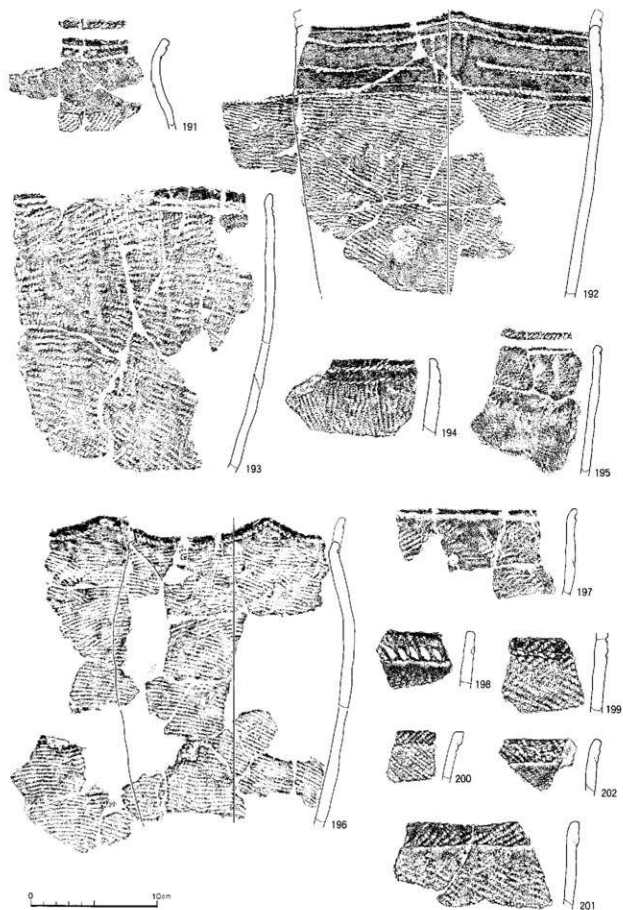
図 V-7-17 包含層出土の土器(17)



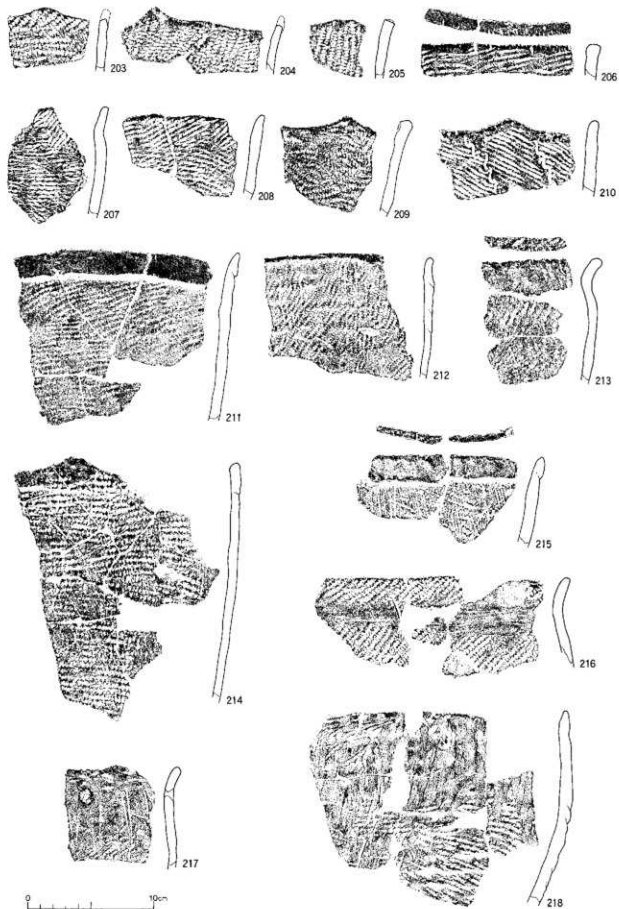
図V-7-18 包含層出土の土器(18)



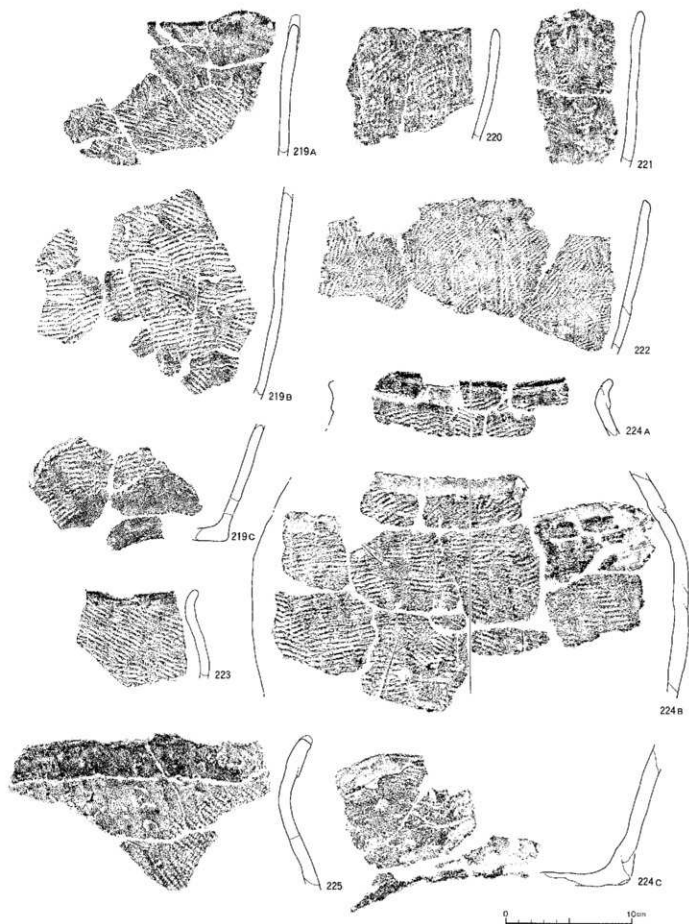
図V-7-19 包含層出土の土器(19)



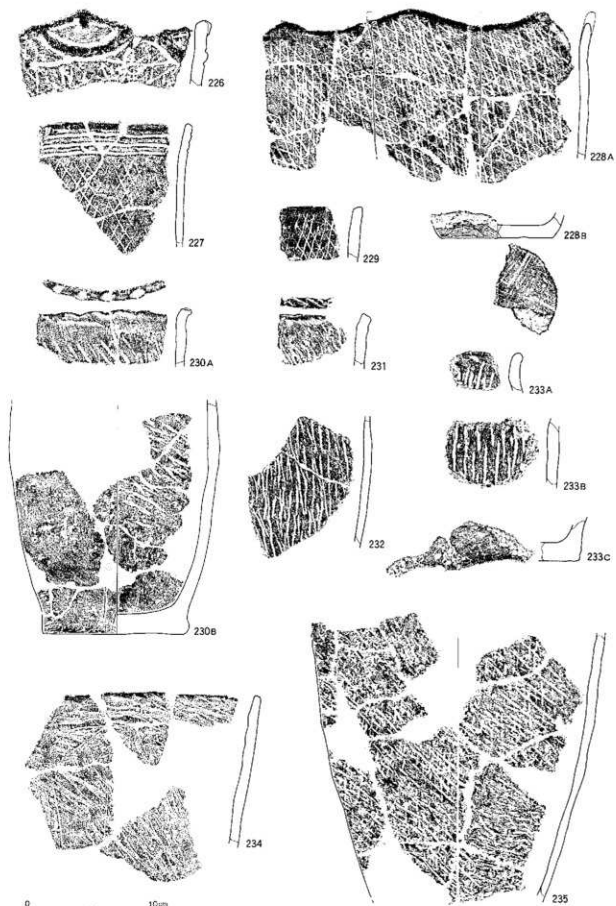
図V-7-20 包含層出土の土器(20)



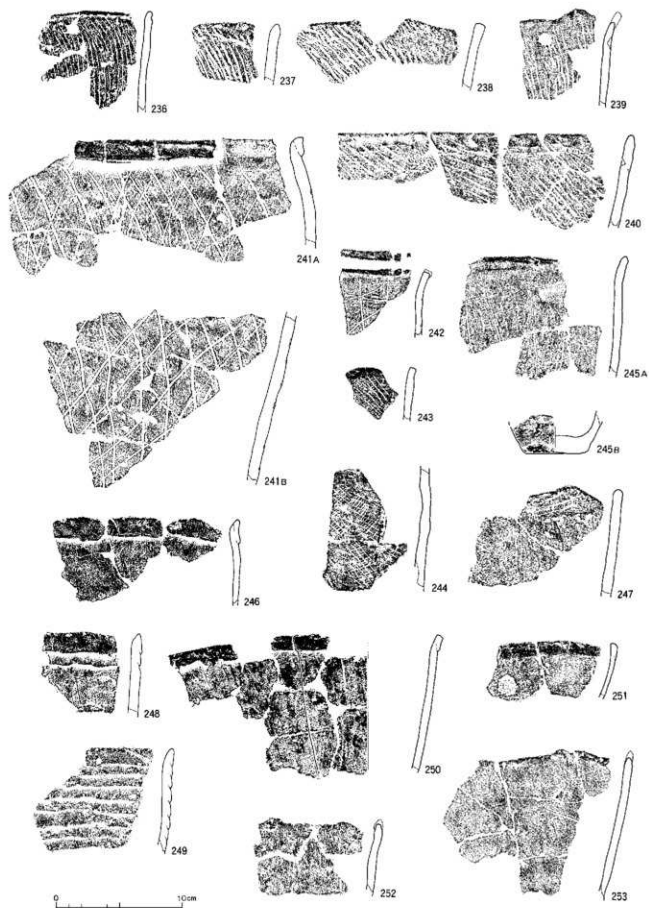
図V-7-21 包含層出土の土器(21)



図V-7-22 包含層出土の土器(22)



図V-7-23 包含層出土の土器(23)



図V-7-24 包含層出土の土器(24)

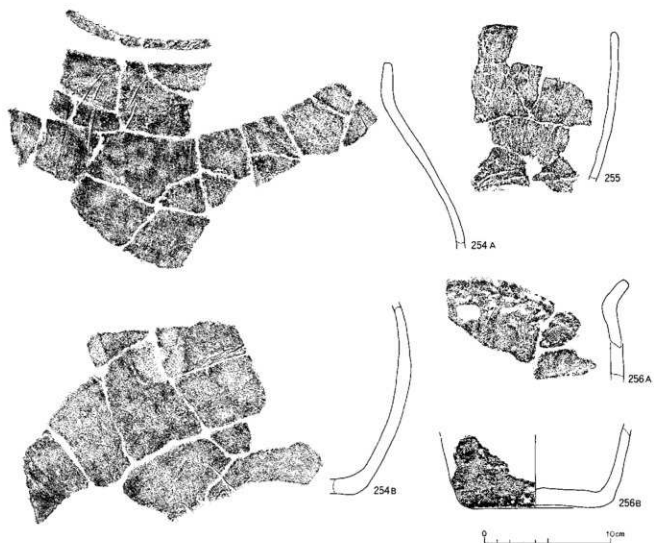
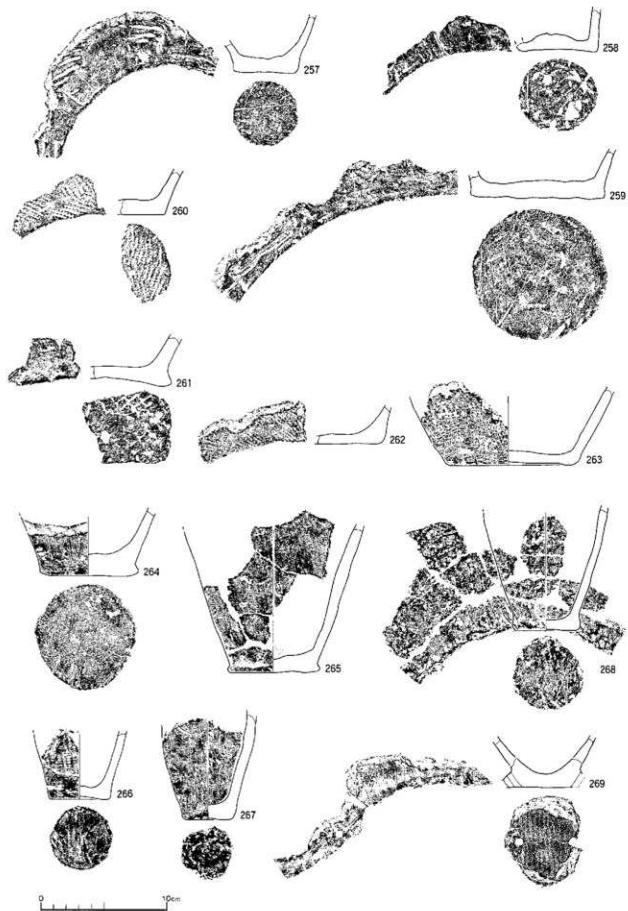
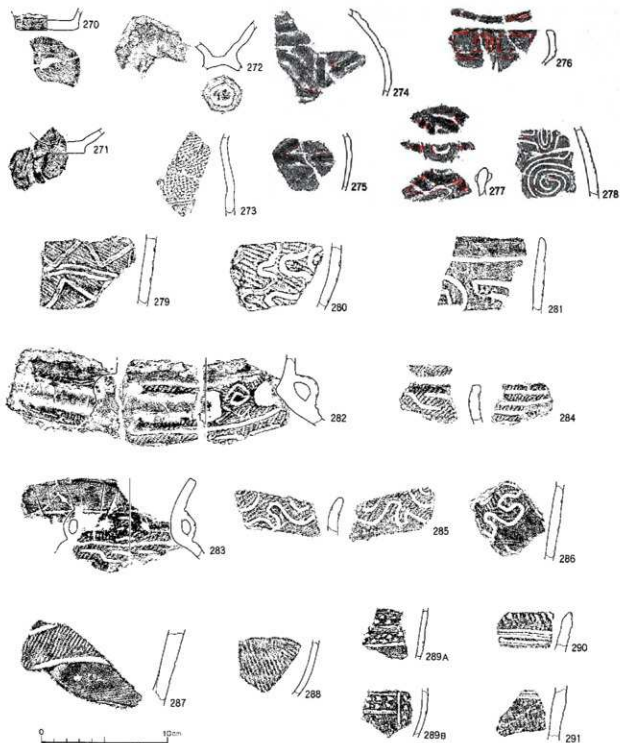


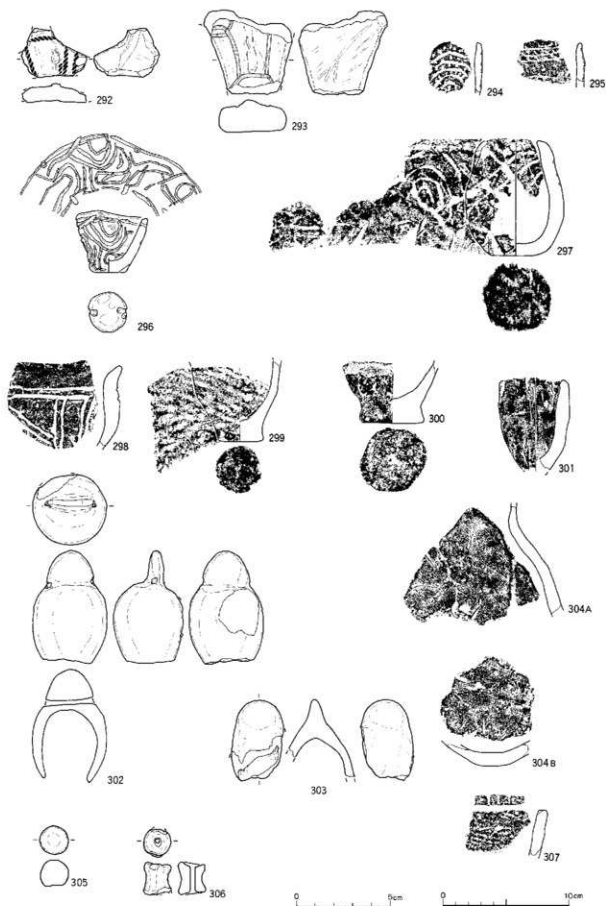
図 V-7-25 包含層出土の土器(25)



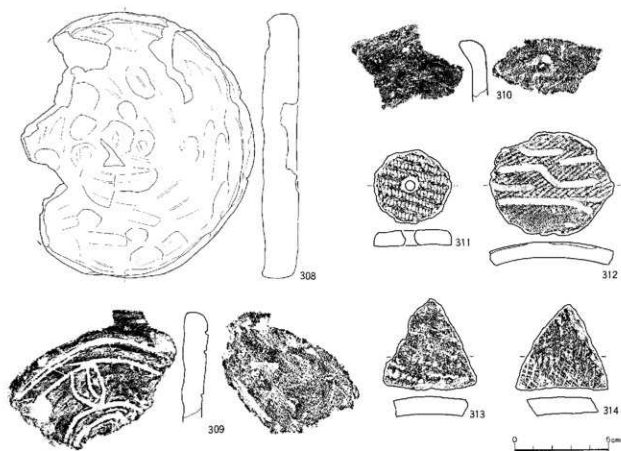
図V-7-26 包含層出土の土器(26)



図V-7-27 包含層出土の土器(27)



図V-7-28 包含層出土の土器(28)・土製品(1)



図V-7-29 包含層出土の土製品(2)

IV群c類土器(図V-7-43 図版93、表V-9)

一個体のみ出土している。43は注口土器である。器体の下半分が復元できた。中央がくぼんだ突起状の底部を持つ。器面は丁寧に磨き上げられ無文である。

V群・VI群土器(図V-7-27-288~291 図版114、表V-10)

V群、VI群は一括して説明する。288、289がV群、290、291がVI群。288は薄手の胴部片。やや条の間隔のあくLR斜行縄文が施されている。289A、Bは同一個体とみられる。半截竹管状工具による連続する刺突文が2列施され、沈線で区画されるもの。

290、291は同一個体の可能性がある。290は口縁部。口縁下に幅広の平行沈線が施され、口唇は縄線により刻みがつけられている。291の地文はLR縄文、条が縦位気味に施文される。恵山式かとみられる。

土製品(図V-7-27-292~314 図版114、115 表V-9)

土製品、ミニチュア土器を一括した。292はIII群a類、293はIV群a類の土偶とみられるもの。294~301はミニチュア土器。296は無文地に沈線文による文様が描かれるもの。口縁直下に対となる穿孔がなされ、その底部には篋状工具による刻みがつけられている。302~304は鐔型土製品とみられるもの。いずれも無文。302は耳の部分に器体と平行な穿孔がなされている。304A、Bは同一個体。全体の形状は不明である。305は土玉。306は耳栓。307はIV群a類土器の一部が削られているもの。土器

棺の一部かもしれない。308～310は土器底部様の土製品。309は沈線文がつく。311、312は土製円盤。313、314は三角形土製品。311～314はIV群a類土器の破片を利用したもの。

焼成粘土塊は遺構出土を含め95点が出土している。そのうち5点について写真のみ掲載した。写真図版115、315～320である。315～317は塊状のもの。土器製作中に剥落したか、製作残物とみられる。いずれも土器と同様に微細な砂粒が混じる。318～320はねじれた紐状のもの。318、319は微細な砂粒が混じる。320はほとんど混じらない。315は焼土BF-22から出土したもの。その他は包含層出土のものである。

(2) 石器等 (図V-7-30～41、45～47 表V-11 図版115～121)

調査により出土した石器等の総点数は、15,515点である。このうち砂利を含めた礫・礫片は8,599点で、55%の過半数を占める。道具類の内訳は石鎌76点、スクレイパー309点、石斧32点、たたき石182点、扁平打製石器59点、石皿・台石が42点などとなっている。主な石器のグリッド別点数は、図V-7-45～47に示した。

石鎌(図V-7-30-1～13、図版115)

石鎌は76点出土している。うち13点を実測した。形状がわかるもののうちでは有茎のものが68点で89%をしめる。

1は三角形を呈するもの(IA3)。これのみ出土している。両面に丁寧な細部調整が施され、薄手に仕上げられている。

2～13は有茎のものである(IA5)。6つの形状に区分できる。

a(2、3) 幅広、小型でかえしの明瞭なもの。8点出土している。石材は珪化岩7点とメノウ1点である。2、3はいずれも珪化岩製。両面にわたって入念な細部調整がされている。2は身部がやや外反しているもの。茎もやや尖り気味に整形されている。3は身部が直線を呈するもの。

b(4、5) 細身でかえしが明瞭、茎の部分が小さく台形状を呈するもの。18点出土している。石材はメノウ1点、珪化岩2点、珪質頁岩2点、頁岩13点である。頁岩13点のうち、7点の基部にアスファルトとみられる黒色物質の付着が認められる。4は身部が最も長いもの。側縁はわずかに曲線を描き、身部中央からかえしの部分までほぼ同じ幅で、細身に仕上げられている。5はやや簡素な加工で細部調整されるもの。4、5ともに茎にはアスファルトとみられる黒色物質が付着している。

c(6～8) 細身でかえしが明瞭であり、茎の部分が長く先端が作出されているもの。19点出土している。石材は頁岩8点、珪質頁岩1点、珪化岩9点、メノウ1点である。6は中でも細身のもの。かえしはあまり明瞭ではない。両面が入念に細部調整され、細身、薄手に仕上げられている。茎にわずかにアスファルト様の黒色物質が付着している。6は両面にわたり丁寧な細部調整が施される。メノウ製。7は両面にわたって細部調整が施され、側縁が直線に整形されるもの。頁岩製である。

d(9、10) かえしが明瞭ではなく、やや身幅の広いもの。厚手に調整されるものが多い。7点出土している。石材は珪化岩が2点、頁岩5点である。8は両面が丁寧に細部調整され、やや厚手に整形されている。側縁はやや張り出し緩やかに外反している。頁岩製である。9は入念な細部調整によりやや薄手に仕上げられている。かえしはなく、側縁は緩やかな曲線を描いて張り出している。珪化岩製。

e(11～12) かえしが明瞭ではなく、細身のもの。15点が出土している。石材は珪化岩3点、珪質頁岩が1点の他は頁岩である。10は両面が細部調整され、両端がやや尖るものである。頁岩製。12は素材剥片の背腹を大きく残したまま、やや粗い調整で尖頭部を作出するものである。珪化岩製。

F かえし、茎の形状が不明瞭なもの。2点出土し、いずれも黒曜石製である。

このほか、未製品とみられるものが5点、破片で形状のわからないものが1点出土している。13は未製品の例である。横長の薄い剥片を用い、両面の縁辺に細部調整を施している。おそらく有茎eの未製品とみられるものである。頁岩製。

石槍 (図V-7-30-14~16、図版115)

石槍は9点出土している。うち3点を図化した。14は有茎で黒曜石製のもの (I B 1)。黒曜石製はこれのみである。両面が丁寧に細部調整され、側縁は張り出し、肩部は木葉状を呈する。15は頁岩製でやや粗い調整のもの、破片も含め5点が出土している (I B 2)。いずれも頁岩製である。15は両面にやや粗い細部調整が施され、薄手に整形されている。側縁は小波状を呈している。16は厚手でややねじれのみられるもの。3点が出土している (I B 2)。16は両面の細部調整により厚手に加工されるもの。両端はやや丸みを帯び、石器にややねじれがみられる。頁岩製。

石錐 (図V-7-30-17、18、図版115)

石錐は6点出土している。石材は珪質頁岩1点ある以外は頁岩である。このうち2点を図化した。17は棒状のものである (II A 2)。これのみ出土している。石錐の破片を再利用したものとみられる。頁岩製。18は剥片の端部に先端が作出されるもの (II A 1)。5点出土している。このほか、図化していないが、先端のある剥片が2点出土している。

つまみ付きナイフ (図V-7-30-19~22、図版116)

つまみ付きナイフは13点出土している。うち5点を図化した。石材は頁岩が8点、珪質頁岩が2点、流紋岩が2点、チャートが1点である。19は片面全面に入念な細部調整が施され、裏面の側縁にも微細な細部調整が施されるもの (III A 1)。頁岩製。これのみの出土である。20はチャートの厚い剥片を用い、片面周縁に細部調整が施されるもの (III A 3)。簡略につまみが作出されている。片面周縁が加工されるものはこのほか2点が出土している。21は細部調整がほとんどされないものである (III A 4)。6点のうち1点である。縦長の剥片を用い、右側縁に微細な剥離を有する。つまみ部は簡略して作出されている。頁岩製。22は両面加工のもの (III A 5)。これのみ出土している。横長の剥片を用い、端部に刃部が作出されている。つまみ部は両面調整により丁寧に作られている。珪質頁岩製。このほかつまみ状の挟りが施された剥片が1点、破片で形状のわからないものが4点出土している。

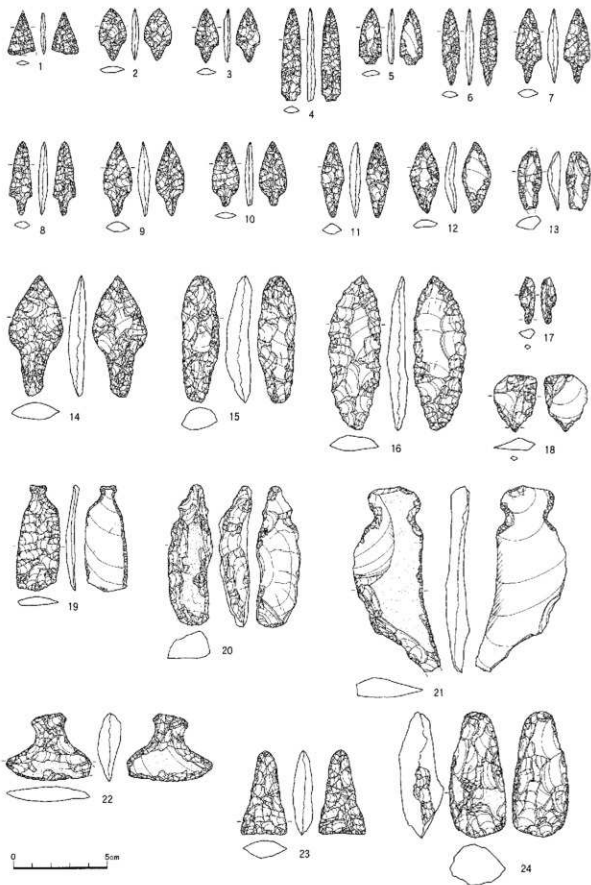
スクレイパー (図V-7-30-32-23~40、図版116、117)

スクレイパーは309点出土している。

23~27は筥状石器である (III B 1)。出土総点数34点のうち、5点を図化した。23、24は両面調整のもの。23は入念に細部調整され、台形状に加工されている。珪質頁岩製。24はやや粗い加工が施され、撥状で厚手のものである。頁岩製。25、26は一部両面調整されるもの。25は珪化岩を用い、撥状に整形される小型のもの。26は台形状に整形される。頁岩製。27は片面加工により、撥状に整形される厚手のものである。頁岩製。

28~31は縦長剥片を用い、外反する刃部が作出されるものである (III B 2 a)。28、29は左右両側縁を刃部とするもの。28は左側縁腹面側に、29は左側縁背面側に、使用によるとみられる光沢が認められる。30は右側縁背面側に、やや深い細部調整による刃部が作られているもの。右側縁腹面には、使用によるとみられる光沢が明瞭に認められる。31は腹面側に細部調整が施され、やや急角度の刃部が作出されるもの。背面右側縁に光沢が認められる。28~31は全て頁岩製。

32~38は、縦長剥片を用いているものの中で、直線状に近い刃部が付くもの (III B 2 b)。32、33は石刃状の剥片を利用し、両側縁を刃部とするもの。32は左側縁腹面側に、33は右側縁の背腹両面に



図V-7-30 包含層出土の石器(1)

明瞭な光沢が認められる。34、35は一側縁を刃部とするもの。34は右側縁背面側に刃部を作出する。35は左側縁背面側に細部調整がなされている。35には刃部の周囲両面に光沢が認められる。36～38は縦長剥片を素材とするものうちやや特殊なもの。36は左側縁を刃部とし、周囲に光沢が認められるが、右側縁両面に粗い加工が施されている。筈状石器の未製品の可能性がある。37は腹面側に主要な刃部が作出されるもの。38は無斑晶質の安山岩を用いているもの。

39、40は横長剥片を素材とするものである(ⅢB3a)。39は剥片端部の腹面側にやや急角度の刃部が作出されるもの。素材剥片の打箱部にも粗い調整が施される。刃部背面側に弱い光沢が認められる。40は流紋岩製。鋸先状の剥片端部を刃部とするもの。

両面調整石器(図V-7-32-41、42、図版117)

両面調整石器(ⅣA)は5点出土している。頁岩を用い、両面に比較的粗い調整がなされるいわゆる「粗工両面調整品」が全てである。うち2点を図化している。

41は背面に原石面の残る剥片を用い、両面に比較的粗い調整を施し楕形に整形されるもの。表採品である。42は粗い両面調整により、概ね四角形に整形されている。

Rフレイク(図V-7-33・34-43~53、図版117)

Rフレイク(XI1b)は234点出土している。うち11点を図化した。

43~49は石鏃などの小型剥片石器の未製品とみられるもの。43はやや厚手で細長の剥片を用い、背面左側縁に若干の細部調整がみられるもの。石鏃の未製品かもしれない。44は横長の剥片を素材とし、周縁に数枚の細部調整を行なっているもの。石鏃の未製品の可能性がある。

45~48は縦長剥片を素材とし、数枚程度の細部調整を施すもの。スクレイパー、両面調整石器などの未製品とみられるものである。45、46は縦長剥片の腹面側を加工されるもの。47、48は素材剥片の縁部を加工しているもの。47は腹面側、48は背面側が加工される。

49~53は素材剥片に数枚の粗い調整を施すもの。49は珪質頁岩、その他は頁岩製である。

Uフレイク(図V-7-34・35-54~66、図版117、118)

Uフレイク(XIA2)は、169点が出土している。うち13点を図化した。

95~99はスクレイパー様の縦長剥片を用い、側縁に微細な剥離痕があるものである。95~98の刃部には光沢が認められる。97~99は原石面の残る剥片を用いている。

100~104は不定形な剥片の一部に直線または外反する微細な剥離痕があるもの。

100~102は刃部が概ね外反しているもの。100、101には光沢が認められ、102にはタール状の付着物が認められる。103、104は刃部が概ね直線を呈しているもの。104は珪化岩製。

105~107は挟りのある微細な剥離痕を持つもの。105には右側縁にも微細な剥離痕がある。

石核(図V-7-35~37-67~71、図版118)

石核(XIIA1)は45点出土している。原石面を残すものがほとんどである。

67~69は3回以上打面転移を行なうもの。67は流紋岩、68、69は頁岩である。

70、71は打面転移を行なわないもの。70は頁岩、71はチャートを用いている。

石斧関連遺物(図V-7-38-42~48、図版119)

石斧は破片も含めて32点出土している。うち7点を図化した。

総点数32点のうち、13点が大ききにして2分の1以上のもの。擦切技法により得られた破片を用い、一部が研磨されるものを研磨石材(VB6)とし、1点が出土している。その他原石もしくは未製品とみられるものが2点、残り16点は2分の1以下の破片(VB9)であるが、刃部片2、基部片4の計6点以外の10点は、部位のわからない小片である。

なお小型の石斧である石のみ（VB）は2点出土している。

石材は緑色泥岩が8点、片岩が7点、緑色片岩が6点、閃緑岩が3点、片岩が2点、安山岩、ドレライト、泥岩が各1点ずつとなっている。

42～46は磨いて整形されているもの。42は擦切技法によるもの（VA1）。左側縁に明瞭な擦切痕がある。全面が丁寧に研磨され、刃部は直刃片刃である。緑色泥岩製。43～46は全面磨製によるもの（VA2）43は緑色泥岩製。円刃でやや片刃である。背面基部の刃部よりに明瞭な敲打痕が認められる。たたき石への転用とみられる。44は緑色片岩製。刃部は欠損している。45、46は花崗閃緑岩製のもの。45は円刃、弱い片刃である。背面は突出し、腹面は平滑に仕上げられている。端部は敲打痕があり、たたき石として転用されているのかもしれない。46は刃部が作出されていないもの。45に比し磨かれていない。原石に近い状態のものとみられる。

47は研磨石材（VA6）擦切技法により切断された素材を用い、周縁に調整が施されるもの。緑色泥岩製である。48は片岩製の石のみ（VB）。棒状の礫を用い、研磨により直刃片刃に整形されている。

たたき石（図V-39-79～93、図版119）

たたき石は183点出土している。

79～82は素材となった礫の端部に敲打痕があるもの（VI A 1）。65点のうち4点を図化した。

79は握飯状の礫を用い、2か所の端部に敲打痕がみられる。安山岩製。80は歪なチャートの垂円礫を用い、端部を敲打するもの。81は珪岩製。偏平な礫の端部を敲打するもの。石核の可能性もある。82は砂岩製。棒状の偏平礫を用いて端部を敲打するもの。

83～87は素材となった礫の周縁に敲打痕があるもの（VI A 2）。54点のうち5点を図化した。83は拳よりやや小さな珪岩を用い、周縁4分の3を敲打しているもの。敲打部分は平らに変形している。84は拳大のいびつな流紋岩を用い、周縁を部分的に敲打しているもの。85は砂岩製。偏平礫の周縁に敲打痕が認められる。86、87は偏平礫の縁辺の一部に、明瞭な敲打痕があるもの。いずれも凝灰岩製である。

88～93は素材礫の両面を敲打するもの（VI A 3）。64点のうち6点を図化した。88は拳大の楕円礫を素材とし、両端部に近い3か所に敲打痕がある。砂岩製。89～91は棒状の礫を素材とするもの。89は凝灰岩製。表面長軸上に2か所の敲打痕がある。90、91は砂岩製。いずれも長軸上の平坦面に敲打痕がある。90は3か所、91は2か所、敲打痕は明瞭で、主要なものはくぼみとして認められる。92、93は不定形な礫を素材としているもの。92は端部にも敲打痕が認められる。

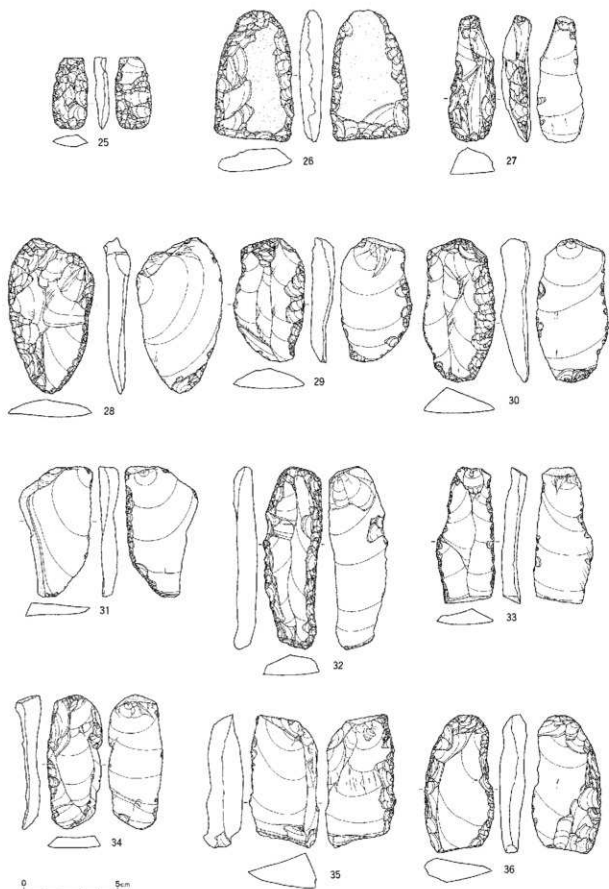
すり石（図V-7-40-94～97、図版120）

17点出土している。石材は砂岩が15点、デイサイト、安山岩が各1点となっている。

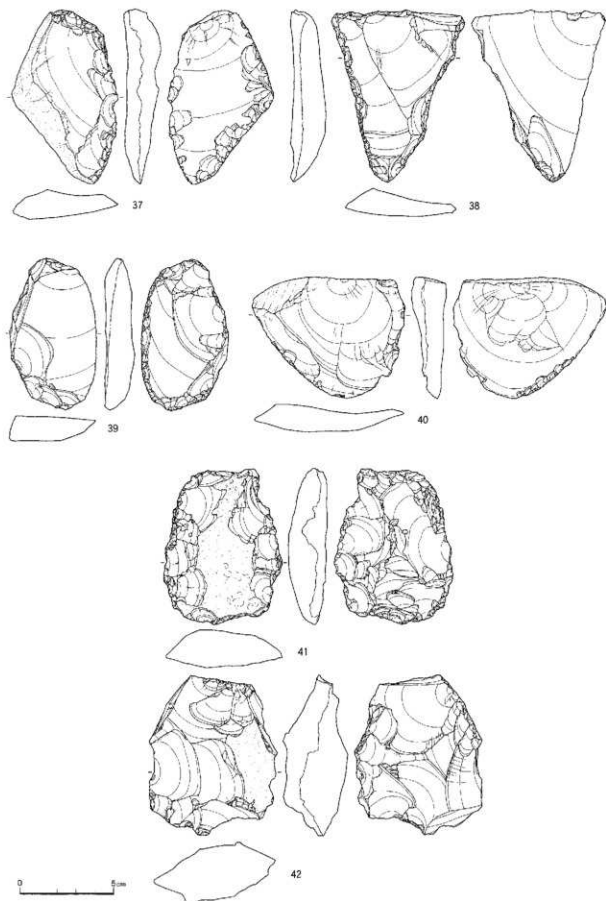
94は断面が三角形のもの（VII A 1）。総点数4点のうち、1点を図化した。砂岩のいびつな三角形を呈する礫の側縁を擦っている。すり面は平滑で、端部の一部を敲打している。

95、96は偏平礫の側縁を擦ったもの（VII A 2）。出土総点数12点のうち、2点を図化した。95はデイサイトの偏平な礫を素材とし、側縁の一部を擦っているもの。使用部を含め他の部分に打ち欠きなどの加工がみられないため、ここに分類した。96は砂岩製。偏平礫の二側縁を擦っている。

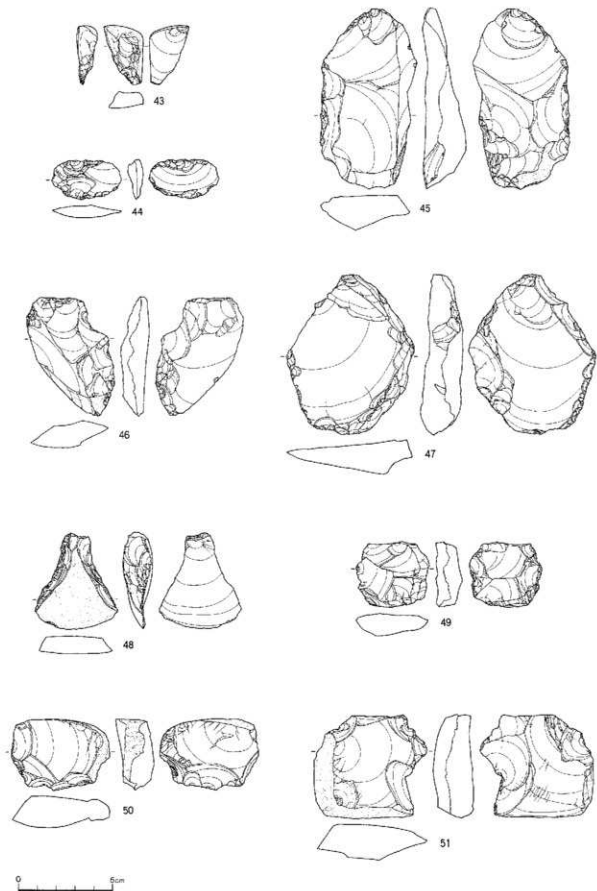
97は円礫の一部を擦ったもの（VII A 5）。この1点のみ出土している。67は砂岩製。円礫の表裏面にやや弱い使用面があるもの。



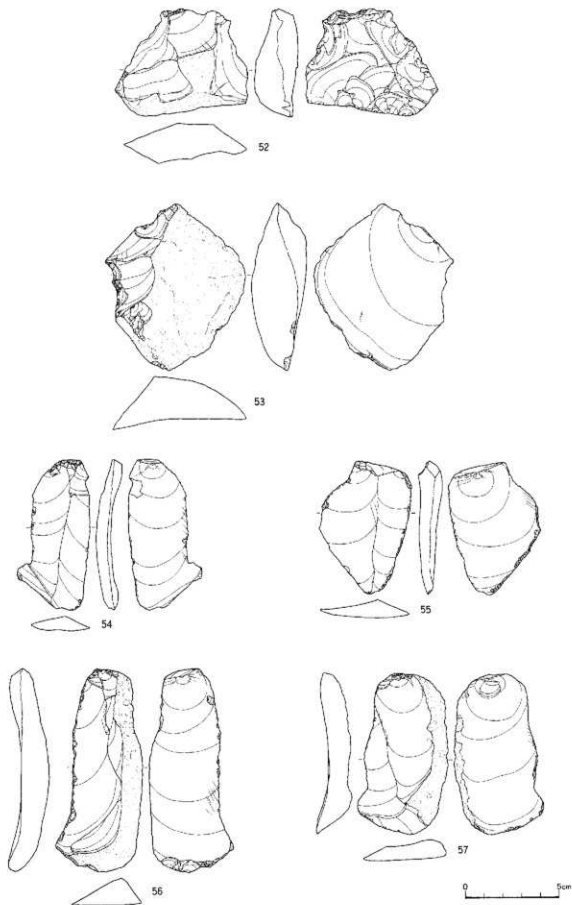
図V-7-31 包含層出土の石器(2)



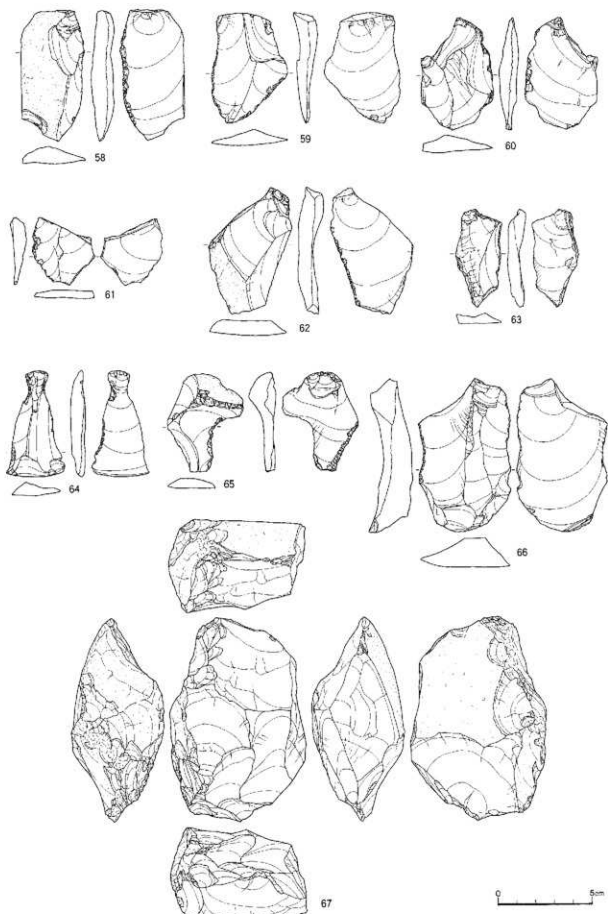
図V-7-32 包含層出土の石器(3)



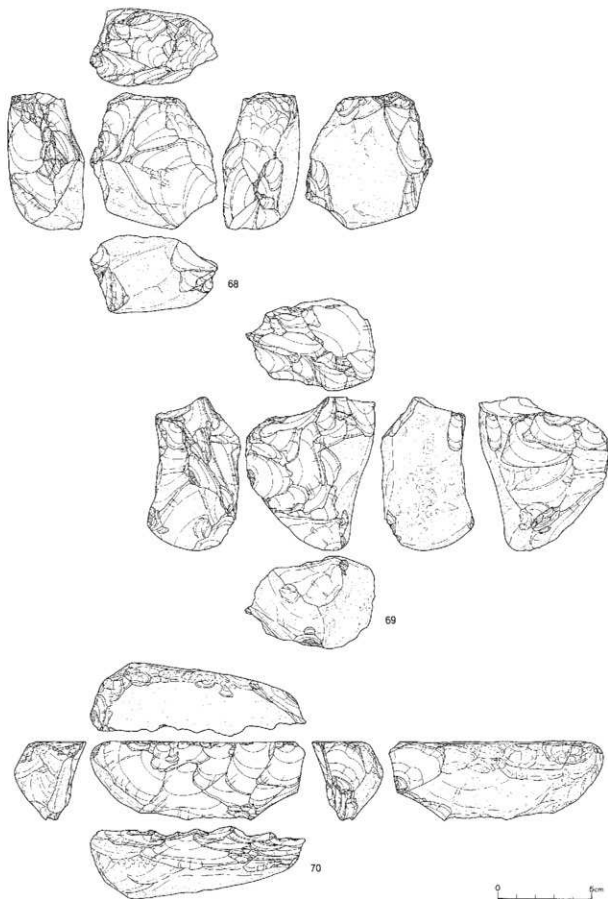
図V-7-33 包含層出土の石器(4)



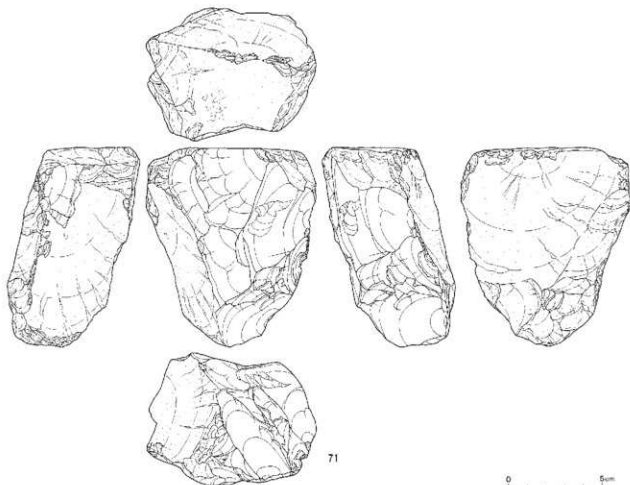
図V-7-34 包含層出土の石器(5)



図V-7-35 包含層出土の石器(6)



図V-7-36 包含層出土の石器(7)



図V-7-37 包含層出土の石器(8)

扁平打製石器 (図V-7-40・41-98~108、図版120)

扁平打製石器 (VII A 3) は、59点出土している。以下の5種に分類した。

A周縁を打ち欠いて半月型に整形する、狭義の扁平打製石器。(98~100)

7点出土している。うち3点を図化した。98は砂岩の扁平礫を用い、周縁を打ち欠いているもの。被熱し赤変する部分がある。すり面の幅はやや広く、最大で17mmである。99、100は打ち欠きと敲打により、概ね半月形に整形されている。すり面は打ち欠きにより幅が狭い。いずれも砂岩製。

B周縁を打ち欠いて整形するが、側面の形態が不揃いなもの。(101、102)

9点出土している。うち2点を図化した。101は砂岩の扁平礫を用いたもの。礫の周縁を打ち欠いて台形状に整形されている。すり面は打ち欠かれて幅狭である。102は周縁を打ち欠いて全体を隅丸方形に整形している。すり面は狭く、最大幅で4mm程度である。

C周縁の一部を打ち欠いて整形しているもの (103)

11点出土している。うち1点を図化した。103は流紋岩の扁平な礫をそのまま使い、刃部周縁と両端付近に打ち欠きが見られるもの。すり面の幅は比較的広く、最大で12mmの部分がある。

D礫をそのまま使用し、刃部にのみ打ち欠き欠かされているもの (104~106)

14点出土している。一般的な扁平打製石器のサイズのもの（11点）と、その2分の1くらいのもの（3点）がある。104、105は前者の一般的なもの。104は断面が三角形であるが、刃部付近が打ち欠かれているため、ここに含めた。105は流紋岩の扁平礫の側縁を使用したもの。106は小型のもの。砂岩の小礫を用い、側縁を使用している。

E礫の長軸端二か所のみ打ち欠きされているもの。（107）

従来このような特徴をもつものは、すり石として分類されているが、機能上同一とみられるため、扁平打製石器に含めた。9点出土している。うち1点を図化した。107は砂岩の扁平礫の両端を敲打し、側縁を擦ったもの。すり面は幅広く、最大18mmである。

F破片、未製品など、上記に含まれないもの。（108）

5点出土している。うち1点を図化した。108は砂岩の扁平礫を素材とし、周縁が粗く打ち欠いたもの。形状から扁平打製石器の未製品とみられる。

北海道式石冠（図V-7-41-109～111、図版121）

北海道式石冠（VII A 4）は、破片も含め7点が出土している。うち3点を図化した。石材は輝石安山岩2点、安山岩1点、閃緑岩2点、砂岩が2点である。

109、110は側面形が半円形を呈する典型的なもの。109は輝石安山岩製。使用面は平滑で片減りしている。110は安山岩製。持ち手の部分のほか、頂部にも敲打痕が認められる。111は砂岩の円礫に带状の敲打痕がめぐるもの。使用面はなく、本来使用面となる下端には敲打痕が認められる。

石皿・台石（図V-7-41-112、図版121）

石皿・台石（VIII A）は破片も含めて42点が出土している。このうち1点を図化した。112は砂岩礫を素材とし、表面を使用するもの。使用面は平滑で、一部に敲打痕を伴っている。

砥石（図V-7-41-113、図版121）

砥石（IX B 2）は12点出土している。シルト岩、泥岩、軽石製で使用痕が不明瞭なものがほとんどである。このうち1点を図化した。113は凝灰岩製のもの。薄い板状の礫を素材とし、表裏面を使用している。

石錘（図V-7-41-114、図版121）

石錘（XA）2点出土している。1点を図化した。83は砂岩製。扁平礫の両端に抉りのある打ち欠きがみられるものである。

加工痕のある礫（図V-7-41-42-115～120、図版121）

加工痕のある礫（XI B 1）は61点出土している。意図の不明瞭な打ち欠き、敲打などの加工がみられる礫である。

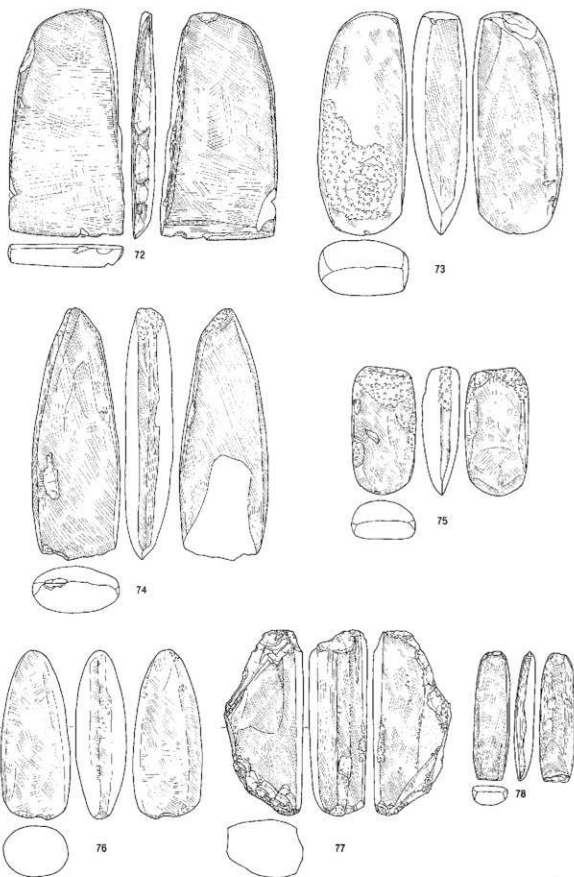
115～117は棒状の礫を素材とするもの。115は砂岩製。打ち欠きと敲打により全体を整形している。石製品もしくは石斧の未製品の可能性がある。116は粘板岩。棒状礫の一端周辺に加工がみられるもの。117は両端に打ち欠きの加工が施されている。

118～119は扁平で薄手の礫を素材とするもの。凝灰岩製。扁平礫の周縁の一部に打ち欠きによる加工がみられるもの。

120は粘板岩の扁平礫を用い、周縁を打ち欠いているもの。石製品の可能性もある。

原石

原石（XII A 2）は30点出土している。図化したものはない。石材はメノウが12点、頁岩8点、流紋岩3点、チャート3点、珪質頁岩2点、珪化岩1点、緑色片岩が1点となっている。



図V-7-38 包含層出土の石器(9)

フレイク

包含層から出土したフレイク（XⅡB1）は5,420点である。図化したものはない。石材は頁岩が4,559点、珪質頁岩371点、流紋岩200点、粘板岩74点、珪岩66点、砂岩34点、珪化岩28点、チャート20点、メノウ14点、凝灰岩9点、緑色凝灰岩6点、泥岩6点、黒曜石4点、安山岩3点、玄武岩1点、不明が25点である。頁岩、珪質頁岩、珪化岩といった剥片石器の加工とみられるもののほかに、石製品の製作に関わるとみられる粘板岩や、扁平打製石器の細部調整に関わるとみられる砂岩の剥片が出土している。

礫・礫片

包含層から出土した礫・礫片（XⅢA）は、4,872点である。図化したものはない。石材は多いものから砂岩2,217点、凝灰岩1,422点、流紋岩413点、泥岩387点、安山岩（角閃石・輝石含む）163点、珪岩56点、チャート55点、粘板岩39点、凝灰質砂岩26点、シルト岩21点、礫岩17点、頁岩12点、玄武岩7点、デイサイト7点、閃緑岩4点、花崗閃緑岩1点、メノウ1点、不明が24点である。

（花崗）閃緑岩、粘板岩、メノウについてはやや離れたところから持ち込まれている可能性があるが、そのほかの石材については周辺の河川、段丘礫層で採取可能なものとみられる。

石製品（図V-7-42・43、図版121）

石製品は72点出土している。円形・三角形礫石器、石刀、石刀関連品、線刻礫、有孔自然石、玉の順で説明する。

円形・三角形礫石器（図V-7-42-121～125、図版121）

流紋岩や凝灰岩、または砂岩の扁平な礫を用い、周縁を打ち欠き、楕円形、三角形などの形状に整形するものである。50点出土している。上磯町（現北斗市）茂別遺跡（北理調報121）で出土し、命名したものを踏襲した。本遺跡では三角形を呈するものは少数である。全体の形状から3種に区分した。

A円形もしくは楕円形を呈するもの（121、122）。24点出土している。うち2点を図化した。121は流紋岩製。やや厚手で大きなものである。122は砂岩のもの。節理割れた扁平礫を利用して作られる。

B短冊形もしくは台形状のもの（123、124）。9点が出土している。うち2点を図化した。122は流紋岩、123は砂岩製。

C概ね三角形を呈するもの（125）。この1点のみの出土である。円形の破損品かもしれない。

上記以外の16点は、不定形なもので、多くが整形途中の破損品とみられるものである。

石刀・石刀関連製品（図V-7-42-126～128、図版121）

126、127は石刀。いずれも持ち手付近の破片である。126は右側縁に沈線文が描かれる。127は持ち手が作りだされるのみである。128は切先部分の可能性のあるもの。全て粘板岩製。

線刻礫（図V-7-43-129、図版121）

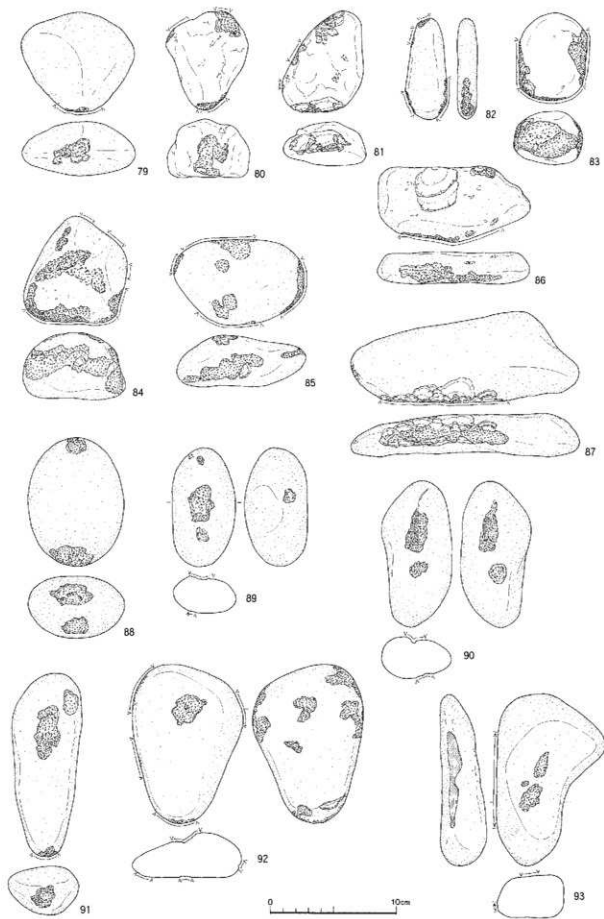
1点出土している。凝灰岩の扁平礫を用いている。129は表面に2本単位の格子状の文様が主として描かれるもの。

有孔自然石（図V-7-43-130、131、図版121）

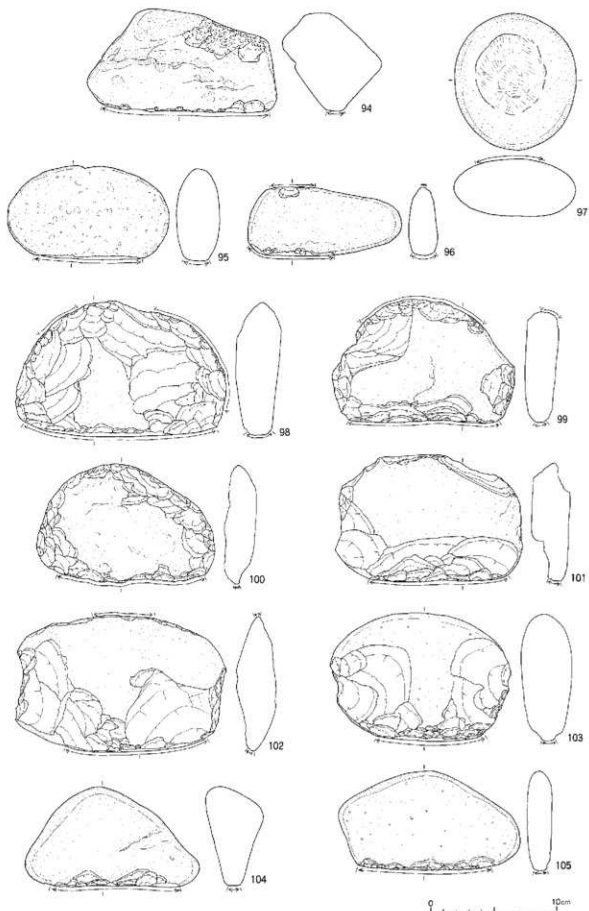
8点出土している。うち2点を図化した。130はメノウ、131は凝灰岩である。

玉（図V-7-43-132、図版121）

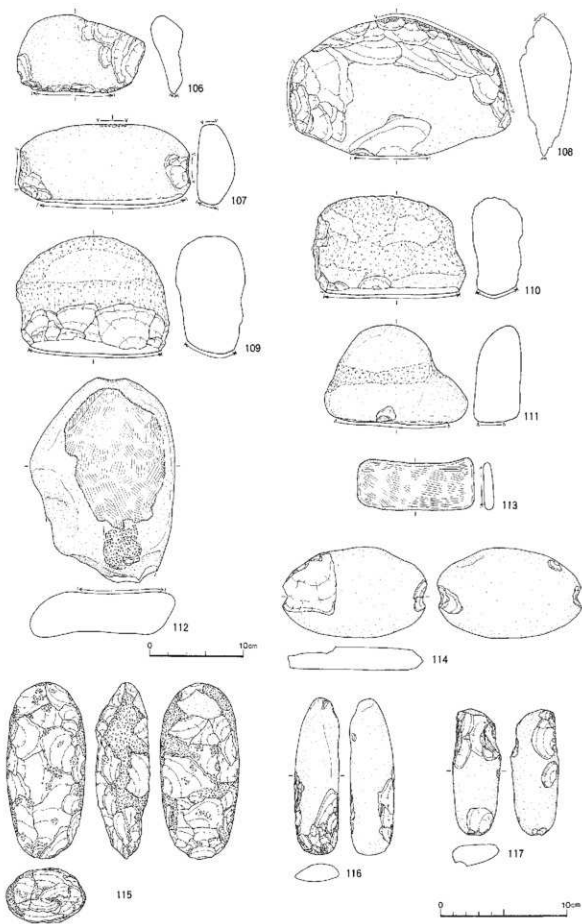
132は1点のみ出土した、凝灰岩製の玉である。ボタン状の礫を用いて、中央に両側から穿孔されている。



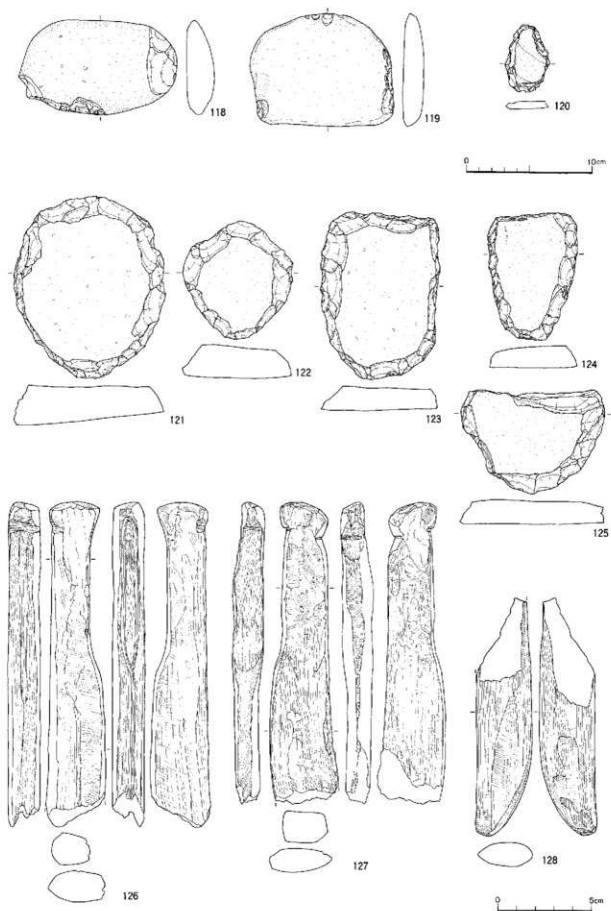
図V-7-39 包含層出土の石器(10)



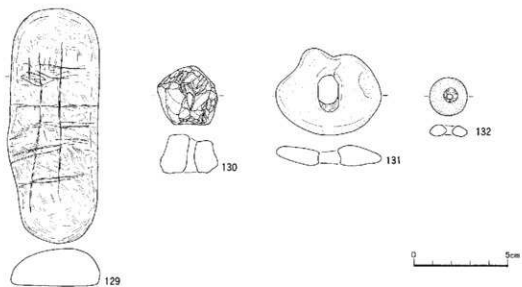
図V-7-40 包含層出土の石器(11)



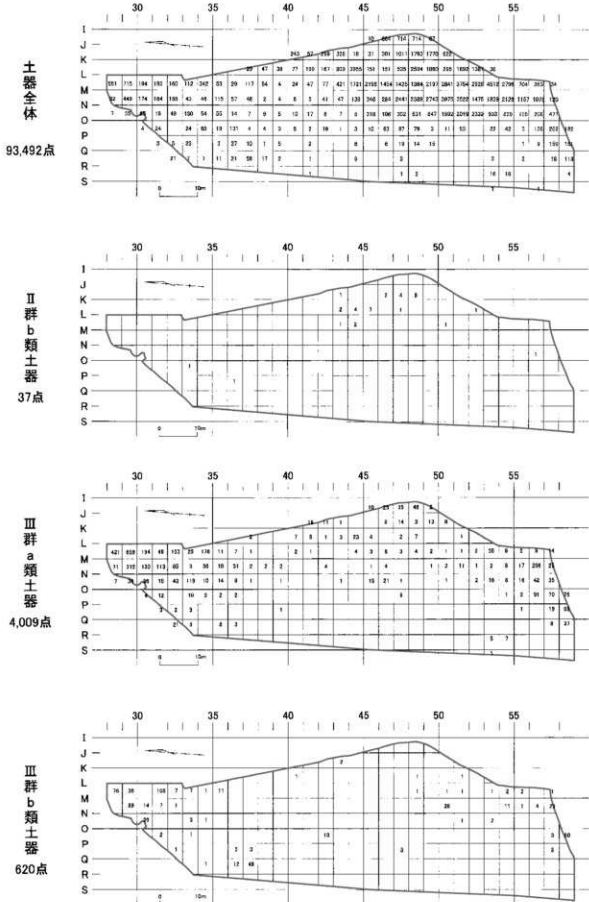
図V-7-41 包含層出土の石器(12)



図V-7-42 包含層出土の石器(13)・石製品(1)

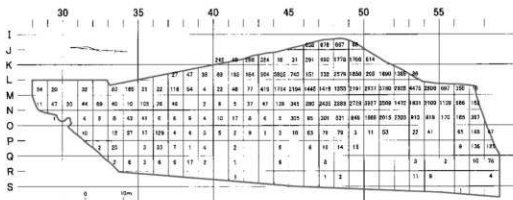


図V-7-43 包含層出土の石製品(2)

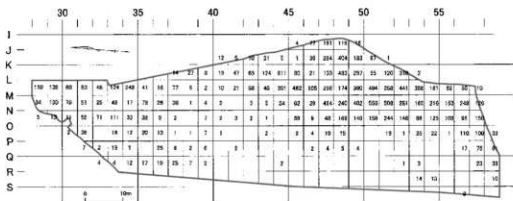


図V-7-44 グリッド別点数(1)

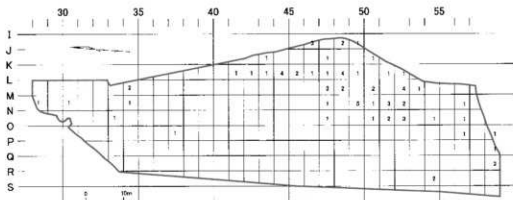
IV群
a類土器
88,778点



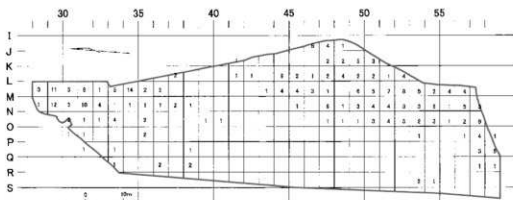
石器等
全体
15,515点



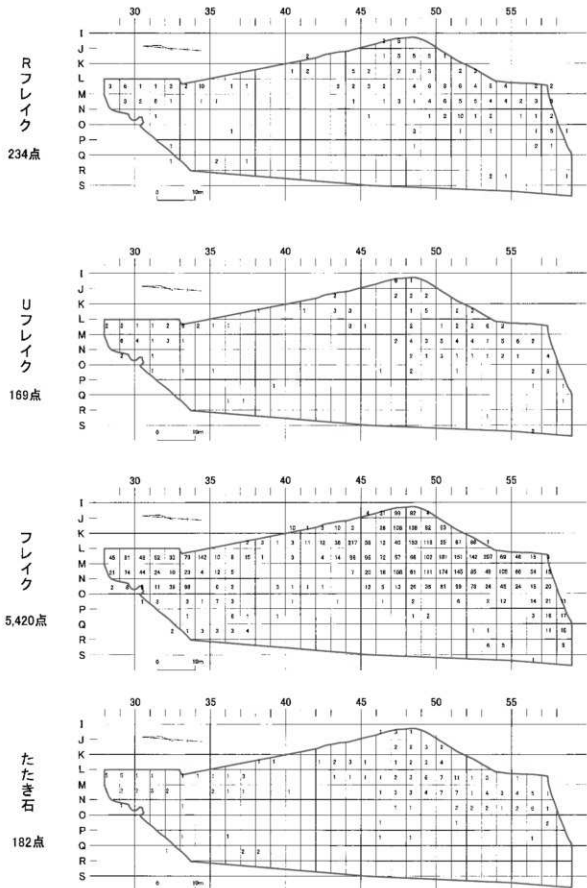
石
鏃
76点



スクレイパー
309点

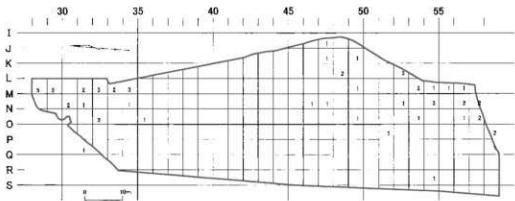


図V-7-45 グリッド別点数(2)

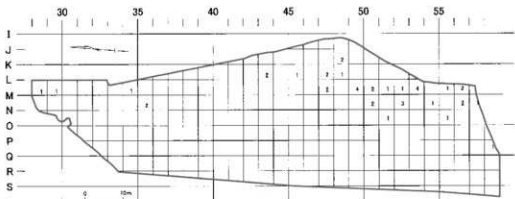


図V-7-46 グリッド別点数(3)

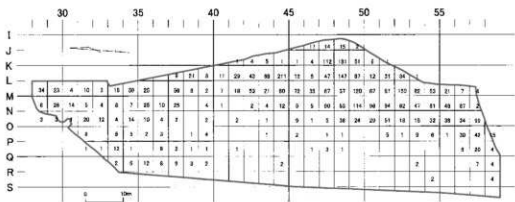
扁平打製石器
59点



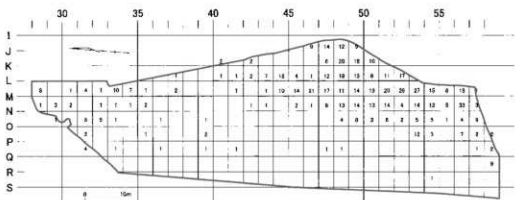
石皿・台石
42点



磔
4,133点



磔片
739点



図V-7-47 グリッド別点数(4)

表V-4 B地区遺構一覧

遺構名	グリッド	規模(m)	時期	特徴
BH-1	N-29-c・d, N-30-a・b P-32-c・d, Q-32-d	(3.10×2.52/2.28×2.18/0.48)	縄文時代中期後半(榎林)	先頭ピット?あり
BH-2	L-30-c, L-31-b, M-30-b・c・d, M-31, N-30-a・d, N-31-a	(5.68×4.12/3.28×3.58/0.46)	縄文時代中期前半(見晴町)	AMS補正年代 4,380, 4450±30Y _{BP}
BH-4	M-29 L-49-b・c, M-33 L-56-b・c, M-35-c・d	(2.46×(2.04)/1.84×1.88/0.30) (2.96×2.80/2.62×2.36/0.24)	縄文時代中期後半(榎林) 縄文時代中期前半(ノゾップ目)	床面から一俵体出土
BH-6	M-56, M-57-a・b N-55-d, N-56-a・d	(5.96×(4.02)/3.68×(4.40)/0.28)	縄文時代中期前半 (サイバ沢津式新段階)	床面から6俵体 AMS補正年代 4,370, 4400±30Y _{BP}
BH-7	L-57-b・c, O-57-a・d	(2.74×(2.14)/1.80×(1.64)/0.28)	縄文時代中期前半(見晴町)	床面から一俵体出土
BH-8	P-33	(2.8×2.18/2.4×1.88/0.38)	縄文時代後期前葉	
BH-9	L-46-c, L-47-b M-46-d, M-47-a	(2.22×2.12/1.92×(1.78)/-)	縄文時代中期以降-後期前葉	AMS補正年代 4,290, 4320±30Y _{BP}
BH-10	L-48-b・c, M-48-a・d	(2.76×2.62/2.34×2.12/0.16)	縄文時代中期後半(大安在B)	
BH-11	L-46-c・d, L-47-a・b M-46-d, M-47-a	(3.76×2.60/2.96×2.52/0.20)	縄文時代中期前半	
BH-12	O-56-c・d, O-57-a・b P-56-d, P-57-a	(2.58×2.18/1.78×1.36/0.22)	縄文時代中期後半(大安在B)	AMS補正年代 4,140, 4230±30Y _{BP}
BP-1	N-30-31-b・c O-30-31-a・d	(0.68×0.96/0.48×0.44/0.22)	縄文時代中期	
BP-2	L-31-b	(0.8×0.8/0.68×0.6/0.36)	縄文時代中期	
BP-3	N-30-b・c	(0.66×0.58/0.38×0.36/0.68)	縄文時代中期	
BP-4			欠番	
BP-5	O-30-d	(0.72×0.68/0.50×0.44/0.26)	縄文時代中期	
BP-6	N-31-d, N-32-a	(0.92×0.72/0.62×0.38/0.36)	縄文時代中期	
BP-7	N-30-c, O-30-d	(0.66×0.64/0.48×0.48/0.28)	縄文時代中期	
BP-8	J-49	(0.92×0.67/0.64×0.42/0.16)	縄文時代後期前葉	
BP-9	M-31-c, N-31-d	(0.74×0.70/0.52×0.50/0.2)	縄文時代中期	
BP-10	M-30-a・b	(0.84×0.76/0.64×0.34/0.62)	縄文時代中期	
BP-11			欠番	
BP-12	O-41-b, P-41-a	(0.94×0.88/0.4×(0.32)/0.74)	中層または後期前葉	
BP-13	P-39-c・d, P-40-a・b	(2.46×1.16/2.26×0.92/1.60)	中層または後期前葉	
BP-14	P-40-c, P-41-b	(1.58×1.14/1.14×0.94/0.88)	中層または後期前葉	
BP-15	Q-33-d	(0.9×0.66/0.74×0.52/0.12)	中層または後期前葉	
BP-16	O-31-c, O-32-b	((0.9)×(0.74)/0.78×(0.62)/0.12)	縄文時代中期	
BP-17	N-31-c	(0.62×(0.42)/0.48×(0.3/0.18)	縄文時代中期	
BP-18	N-31-b・c	(0.58×(0.45)/0.42×(0.38)/0.2)	縄文時代中期	
BP-19	P-33-a	(0.66×0.66/0.52×0.54/0.62)	中層または後期前葉	
BP-20	O-31-a	(0.76×(0.56)/0.64×(0.42)/0.68)	縄文時代中期	
BP-21	K-38-b	(0.84×0.78/0.4×0.42/0.38)	中層または後期前葉	
BP-22	K-39-c・d	(0.84×0.74/0.70×0.54/0.20)	中層または後期前葉	
BP-23	K-39-b	(0.72×0.64/0.44×0.34/0.34)	中層または後期前葉	
BP-24	Q-40-b・c, R-40-a・d	(1.34×1.16/0.92×(0.64)/-)	中層または後期前葉	
BP-25	M-35-c	(0.5×0.42/0.36×0.34/0.1)	縄文時代後期前葉	
BP-26	Q-37-c・d, Q-39-a・b	(2.66×1.91/2.62×0.28/1.62)	中層または後期前葉	
BP-27	P-38-b・c, Q-38-a・d	(3.56×1.62/1.62×0.42/-)	中層または後期前葉	
BP-28	N-38-c・d, N-39-a・b	(1.20×1.04/1.18×0.92/0.36)	中層または後期前葉	
BP-29	O-39-c・d	(0.88×0.78/0.78×0.70/0.20)	中層または後期前葉	
BP-30	K-45-c	(1.12×0.82/0.84×0.16/0.32)	縄文時代後期前葉	
BP-31	N-42-c・d	(1.34×0.41/1.12×0.32/0.10)	中層または後期前葉	
BP-32	N-42-a・b	(1.00×0.78/0.44×0.34/0.24)	中層または後期前葉	
BP-33	L-45-a・b	(0.74×0.66/0.48×0.46/0.20)	縄文時代後期前葉	
BP-34	J-47-c	(1.00×0.74/0.64×0.54/0.30)	縄文時代後期前葉	
BP-35	J-46-d	(0.48×0.42/0.38×0.34/0.68)	縄文時代後期前葉	
BP-36	J-46-a・d	(0.66×0.66/0.36×0.36/0.68)	縄文時代後期前葉	
BP-37	L-46	(0.90×0.86/0.68×0.48/0.34)	縄文時代中期前半	
BP-38	L-45-b, L-46-a	(0.58×0.26/0.46×0.40/0.14)	縄文時代中期前半	
BP-39	L-46-b	(0.52×0.50/0.38×0.46/0.20)	縄文時代中期	
BP-40	L-45-c, M-45-d	(0.68×0.54/0.42×0.48/0.22)	中層または後期前葉	
BP-41	K-48-c	(0.56×0.48/0.42×0.38/0.22)	縄文時代後期前葉	
BP-42	K-48-c	(0.46×0.36/0.40×0.30/0.06)	縄文時代後期前葉	
BP-43	Q-46-b・c, R-46-a・d	(0.68×0.68/0.52×0.48/0.40)	中層または後期前葉	
BP-44	K-47-a	(0.54×0.46/0.46×0.40/0.10)	縄文時代後期前葉	
BP-45	J-47-a・d	((0.98)×(0.7)/0.82×(0.38)/0.08)	縄文時代後期前葉	
BP-46	J-47-d	(0.62×0.58/(0.32)×(0.48/0.06)	縄文時代後期前葉	
BP-47	K-49-b	(0.90×0.78/0.50×0.38/0.44)	縄文時代後期前葉	
BP-48	J-49-b	(0.78×0.76/0.70×0.64/0.12)	縄文時代後期前葉	
BP-49	J-49-a	(0.44×0.40/0.38×0.30/0.10)	縄文時代後期前葉	
BP-50	K-47-b	(0.70×0.68/0.58×0.56/0.24)	縄文時代後期前葉	
BP-51	M-35-b・c	(0.56×0.46/0.42×0.38/0.12)	縄文時代中期	
BP-52	P-38-c	((1.00)×(0.50/0.96)×(0.38/0.10)	中層または後期前葉	
BP-53	M-46-c, M-47-b	(0.60×0.46/0.36×0.40/0.20)	縄文時代後期前葉	
BP-54	N-47-a	(0.68×0.48/0.56×0.42/0.14)	縄文時代後期前葉	
BP-55	M-47-b	(0.48×0.42/0.38×0.34/0.12)	縄文時代後期前葉	
BP-56	M-46-b・c	(0.54×0.50/0.48×0.42/0.06)	縄文時代後期前葉	
BP-57	N-46-d, N-47-a	(0.68×0.56/0.38×0.44/0.10)	縄文時代後期前葉	
BP-58	L-49-b・c	(0.58×0.32/0.46×0.4/0.22)	縄文時代後期前葉	

遺構名	グリッド	規模(m)	時期	特徴
BP-56	L-49-a・b	(0.70×0.60/0.23×0.45/0.24)	縄文時代後期前葉	
BP-60	K-47-a・b	(0.56×0.38/0.23×0.39/0.30)	縄文時代後期前葉	
BP-61	J-48-d, J-49-a・b	(0.48×0.42/0.24×0.22/0.14)	縄文時代後期前葉	
BP-62	K-49-b	(0.30×0.68/0.48×0.72/0.24)	縄文時代後期前葉	
BP-63	P-49-d	(0.58×0.54/0.46×0.44/0.05)	縄文時代後期前葉	
BP-64	K-49-a・b	(0.62×0.32/0.32×0.40/0.60)	縄文時代後期前葉	
BP-65	P-49	(2.38×1.82/2.20×1.68/0.10)	中期または後期前葉	
BP-66	K-48-c・d	(1.90×1.28/1.42×1.00/0.28)	縄文時代後期前葉	
BP-67	M-51-c・d	(0.80×0.76/0.62×0.64/0.34)	縄文時代中期または後期前葉	
BP-68	M-53-a・b	(0.88×0.86/0.68×0.66/0.24)	中期前半または後期前葉	
BP-69	N-53-d, N-53-a	(1.24×1.08/0.92×0.78/0.22)	中期前半または後期前葉	
BP-70	N-52-d	(0.66×0.61/0.40×0.36/0.30)	中期前半または後期前葉	
BP-71	K-48-c, K-49-b L-48-c・d, L-49-a・b	(2.56×1.34/2.14×0.94/0.20)	縄文時代後期前葉	
BP-72	M-47-a・d	(0.48×0.46/0.36×0.30/0.12)	縄文時代後期前葉	
BP-73	L-48-c, L-49-b	(0.34×0.48/0.44×0.42/0.16)	縄文時代後期前葉	
BP-74	P-56-a・b	(0.58×0.58/0.50×0.44/0.12)	縄文時代中期	
BP-75	K-49-a・b	(0.62×0.48/0.46×0.36/0.28)	縄文時代後期前葉	
BP-76	M-55-c, N-55-a	(1.02×0.80/0.74×0.64/0.20)	中期もしくは後期前葉	
BP-77	R-57-c	(0.56×0.32/0.44×0.44/0.08)	中期もしくは後期前葉	
BP-78	M-53-c, M-54-b N-53-d, N-54-a	(0.70×0.66/0.40×0.34/0.22)	縄文時代中期もしくは後期前葉	
BP-79	O-56-c, P-56-d	(0.68×0.38/0.34×0.48/0.20)	縄文時代中期	
BP-80	M-55-c・d	(0.72×0.68/0.36×0.60/0.20)	縄文時代後期前葉	
BP-81	L-50-d, L-51-a	(0.62×0.32/0.32×0.42/0.18)	中期または後期前葉	
BP-82	N-50-b	(0.78×0.68/0.48×0.56/0.30)	縄文時代後期前葉	
BP-83	M-55-b	(0.58×0.54/0.48×0.48/0.18)	縄文時代中期	
BP-84	N-56-a・d	(1.02×0.70/0.66×0.64/0.44)	中期もしくは後期前葉	
BP-85	K-50-a・b	(2.44×0.32/1.84×0.32/0.42)	縄文時代後期前葉	
BP-86	K-49-c, K-50-b	(0.68×0.54/0.56×0.46/0.46)	縄文時代後期前葉	
BP-87	K-45-c, K-46-b	(0.42×0.38/0.30×0.27/0.68)	縄文時代後期前葉	
BP-88	K-48-a・d	(0.46×0.38/0.22×0.20/0.10)	縄文時代後期前葉	
BP-89	L-48-b	(0.32×0.48/0.26×0.26/0.20)	縄文時代後期前葉	
BF-1	L-52-d	(0.42×0.28/0.65)	縄文時代中期	
BF-2	L-52-c・d	(0.61×0.60/0.10)	縄文時代中期	
BF-3	L-59-a・b	(0.48×0.36/0.60)	縄文時代中期	
BF-4	K-52-b・c	(0.30×0.68/0.16)	中期または後期前葉	
BF-5	L-53-a・b	(1.08×0.78/0.28)	縄文時代後期前葉	
BF-6	L-54-b	(0.50×0.46/0.10)	中期または後期前葉	
BF-7	J-49-c, K-49-d	(0.66×0.50/0.18)	縄文時代後期前葉	
BF-8	L-36-b・c	(1.34×0.60/0.10)	中期または後期前葉	
BF-9	N-39-c	(0.40×0.24/0.12)	中期または後期前葉	
BF-10	K-44-b	(0.60×0.36/0.60)	中期前半または後期前葉	
BF-11	Q-38-a・d	(0.38×0.71/0.64)	縄文時代中期	
BF-12	K-48-a	(0.48×0.28/0.60)	縄文時代後期前葉	
BF-13	K-49-c	(0.68×0.46/0.65)	縄文時代後期前葉	
BF-14	K-49-d	(0.4×0.27/0.65)	縄文時代後期前葉	
BF-15	K-49-c	(0.2×0.60/0.60)	縄文時代後期前葉以前	
BF-16	K-48-b	(0.26×0.24/0.64)	縄文時代後期前葉	
BF-17	L-49-c・d	(0.88×0.58/0.10)	縄文時代後期前葉	
BF-18	M-47-b・c	(0.68×0.36/0.60)	縄文時代後期前葉	
BF-19	N-48-d	(0.3×0.21/0.64)	縄文時代中期	
BF-20	L-48-d	(0.36×0.26/0.64)	縄文時代後期前葉	
BF-21	L-48-a	(0.28×0.22/0.60)	縄文時代後期前葉	
BF-22	M-48-c, M-49-a・b	(2.28×1.90/0.14)	縄文時代後期前葉	
BF-23	K-49-a	(0.48×0.46/0.64)	中期または後期前葉	
BF-24	K-50-c, k-51-b L-50-d, L-51-a	(1.00×0.6/0.10)	縄文時代後期前葉	
BF-25	M-49-b・c	(1.4×0.58/0.60)	縄文時代後期前葉以降	
BF-26	L-52-a	(0.72×0.60/0.10)	縄文時代後期前葉	
BF-27	M-51-b	(0.70×0.44/0.60)	縄文時代後期前葉	
BF-28	M-50-d, M-51-a	(0.86×0.70/0.66)	縄文時代後期前葉	
BF-29	M-50-a・d	(0.78×0.38/0.24)	縄文時代後期前葉	
BF-30	M-54-b	(0.50×0.41/0.64)	縄文時代後期前葉	
BF-31	P-57-a	(0.50×0.27/0.64)	縄文時代中期	
BF-32	K-47-b	(0.42×0.22/0.64)	縄文時代後期前葉	
BFC-1	N-32-c・d, N-33-a・b	(1.76×(1.64))	縄文時代中期	
BS-1	L-31-d	(0.48×0.28)	縄文時代中期	
BS-2	L-30-b	(0.44×0.50)	縄文時代中期	
BS-3	N-31-a	(0.34×0.34)	縄文時代中期前半以降	
BS-4	I-M-47-52	(26.50×10.70)	縄文時代後期前葉	
BS-5	L-56-b	(0.40×0.38)	縄文時代中期	
BS-6	K-49-d	(0.56×0.28)	縄文時代後期前葉	
BS-7	O-31-a	(0.44×0.28)	縄文時代後期前葉	
BS-8	N-31-b・c	(0.32×0.42)	中期または後期前葉	
BS-9	P-33	(1.66×0.80)	縄文時代後期前葉	
BS-10	k-44-a	(0.47×0.18)	縄文時代後期前葉	
BS-11	L-44-b・c	(0.68×0.28)	縄文時代後期前葉	
BS-12	O-47-c	(0.32×0.34)	中期または後期前葉	
BS-13	M-54-d	(0.6×0.40)	縄文時代後期前葉	

表V-5 B地区遺構別出土遺物一覧

遺構名	分類	遺物												土	瓦	総計																
		III a	III b	III c	IV a	石 瓦 (片)	石 瓦 (形)	つまみ付きカキヤツ	スクレイパー (片)	両面透磨石器	片フレイク	石 核	フレイク				石片・石の欠	すり石	磁器打割器 (片)	石皿・台石 (片)	加工類ある遺物	原石	土器類	焼成粘土類	四角・三角磨石器	有孔磨石	砂 粒	漆 片	漆 器			
住居跡	BP-01		95	21	4				1	6	2	1	40	2	1	1	3								18	4	199					
	BP-02																									8	15					
	BP-03	2	439	12	12	4				25	2	4	6	2	128	1	5	4	3	1				2	49	7	689					
	BP-04		61	60	1	1									10											8	143					
	BP-05		40	83	19					1	1	3	12					1							20	20	130					
	BP-06		974	1	82	18	1	1	1	9	9	5	202	12	6		4	4	1	1	2	1	2	4	32	197	1985					
	BP-07		104		4					1	1		4													3	119					
	BP-08				58					2								1								1	2	64				
	BP-09		138		30		1			6		1	26				1	2							1	17	14	251				
	BP-10			36	200	101					2		12													3	5	429				
	BP-11		91		1	10				1			8				2									6	4	123				
BP-12		18	104							1		6	1				1			1					7	3	140					
土	BP-02		1								1	1														1	4					
	BP-05			1																						2	1	3				
	BP-06																	1									1	1				
	BP-07																	1									1	71				
	BP-08																										3	41				
	BP-10		2																								1	3				
	BP-12																											1	1			
	BP-13													6													9	37				
	BP-15																											1	1			
	BP-16																											1	3			
	BP-17																	2								45	11	62				
	BP-18																										33	34				
	BP-19																											8	3			
	BP-20																										29	1	32			
	BP-21																											5	3			
	BP-22																										1	1	1			
	BP-24																	1										3	3			
	BP-25																											69	70			
	BP-26																											2	31			
	BP-27																	1										7	2			
	BP-28																											18	26			
	BP-33																											1	14			
	BP-34																											9	1	22		
	BP-35																											2	9			
	BP-36																											3	19			
	BP-37																											2	6			
	BP-38																											1	9			
	BP-40																												4	4		
	BP-41																											9	41			
	BP-43																											1	1			
	BP-44																												1	1		
	BP-45																												15	15		
	BP-46																												3	3		
	BP-47																												8	2	43	
	BP-48																												3	1	32	
	BP-49																												1	1	2	
	BP-50																											40	1	125		
	BP-52																												1	1	1	
	BP-53																											4	7	1	60	
	BP-55																													19	20	
	BP-57																												5	2	7	
	BP-58																												7	1	9	
	BP-59																													11	1	46
	BP-61																												1	1	6	
	BP-62																												2	12	25	
	BP-63																													9	9	
	BP-64																													2	2	2
	BP-65																													1	2	3
	BP-66																													47	3	58
	BP-67																													3	1	6
BP-68																													3	1	3	
BP-69																													1	1	3	
BP-70																													1	1	2	
BP-71																													9	2	22	
BP-72																													8	6	6	
BP-73																													3	2	3	
BP-75																													1	3	172	
BP-76																													2	1	5	
BP-77																													1	1	3	
BP-79																													2	4	1	
BP-81																													1	1	1	
BP-83																													1	1	1	
BP-84																														1	22	56
BP-85																													17	1	14	
BP-86																													109	1	109	
BP-88																													2	1	4	
BP-89																													14	1	16	
BP-91																													1	1	2	
BP-94																													5	2	8	

産地	分類	I b	II a	III a	IV a	石炭 (元)	石炭	つまみ付きタイプ	スクレイパー(C)	両面調整石炭	Uフレイトク	石炭	フレイトク	石炭・石のみ	小たき石	すり石	磁石打撃部(C)	石炭・台石(C)	紙石片	加工粗面石炭	原石	土質高	焼成粘土塊	円形・三角形磨石部	有孔白磁石	砂利	機	機片	総計	
																														20
セブ 中ワグ 製?	BP-05				244								3					1						1		15	2	271		
	BP-06												8													2		2		
	BP-09																												5	
	BP-10		55		75				1					1												16	5	1	134	
	BP-13				20									1												8			27	
	BP-14				2									1												15	2		20	
	BP-17				25									1															26	
	BP-18				2																						1		3	
	BP-19				6												1											1	8	
	BP-22				251									9						2					1	12	8	2	283	
	BP-24				1									1					2										2	
	BP-26				109																						2	1	114	
	BP-27				79																					283	3		287	
	BP-28				46																						2		50	
	BP-29				31																						2	2	34	
	BP-30				33																							1	1	35
	BP-31		1		3					1																	245	20		270
	セブ 中ワグ 製?	BPC-01		11	2	1							210								1						2	12	1	240
		BNP-02					13																							13
		BNP-03												1																1
		BNP-05																			1									1
BNP-06																				1									1	
BNP-07																											2		2	
BNP-11																											1		1	
BNP-12				1										1															2	
BNP-19				1																									1	
BNP-21						4																							4	
BNP-22				1		16								1														1	20	
BNP-23						7																							7	
BNP-24						7																					2	9	9	
BNP-25						18																							18	
BNP-26						10								2												11			23	
BNP-27						24																				71	3		90	
BNP-28					90																				14	6	2	123		
BNP-29					71																							71		
BNP-40					52									1											3	5	3	63		
BNP-41					85												1									3		73		
BNP-42					3																							3		
BNP-43					3																							3		
BNP-44					3								1														1	5		
BNP-46					59								1													2		63		
BNP-47					27																						1	29		
BNP-48		14	1		22								2												5	1	1	56		
BNP-49					3													1								3		6		
BNP-51																											1	2		
BNP-52													2															4		
BNP-55					3																						3	1	7	
BNP-54					1																					2		3		
BNP-55					14								1															15		
BNP-59					1																							1		
BNP-61					34								7													4	5	30		
BNP-62					17																							25		
BNP-63					9																						6	5	20	
BNP-64					3																								3	
BNP-65			2		5																							1	8	
BNP-66					4																							6	10	
BNP-72													1																1	
BNP-73																													1	
BNP-74					7								2															1	13	
BNP-75					10																								10	
BNP-76					10									1													5	3	13	
BNP-77					2																						2	2	7	
BNP-88																													1	
製石	BS-01																												400	
	BS-02			8										2												100			400	
	BS-03																									177			150	
	BS-04																	1		3	1	2				64			64	
	BS-05																									40	3		51	
	BS-07					11																				267			267	
	BS-08					6																				201	11		220	
	BS-09					6																				35	19		60	
	BS-10																									7	1		10	
	BS-11					5																				11			11	
	BS-12																									288	16		300	
	BS-13					6																				45	9	1	55	
	総計																													266
総計																													10108	

表V-6 B地区遺構別出土掲載土器一覧(復元土器)

掲載番号	分類	遺構名	グリッド	遺構番号	層位	復元品数	同層位発見品数	口径(㎝)	底径(㎝)	器高(㎝)	器文特徴	器形	出土品目
V-2 7 1	Ⅱa 見崎町	B-11 3	M M L L L	30 20 28 29	c c e b	22 焼土1層	2	34.3	18.0	-	口縁に凹行 口縁に凹行工具 による刻み	西が西の山形突起	砂粒(灰岩・石炭)
						21 焼土2層	1						
V-2 7 2	Ⅱa 見崎町	B-11 3				31 点検付	12	10.7	5.6	(12.7)	口縁に沿って 浅層突起下に 凹行	3ツ山 割部跡らむ	砂粒(灰岩・石炭)
						30 点検付	34						
V-2 11 1	Ⅱb 見崎町	B-11 4				3 焼土1層	1	19.1	7.3	22.3	口縁に沿って浅層 割部突起跡・凹文	3ツ山 割部跡らむ	分級の悪い砂粒(軽石・灰岩・ チャート)
						点検付	9						
V-2 14 1	Ⅱb 見崎町	B-11 5				28 焼土1層	18	21.4	-	(20.0)	器面全体 L状凹行	平縁	砂粒(石炭)
						25 焼土2層	3						
V-2 19 1	Ⅱa	B-11 6				146 トリコウ	1	34.0	-	47.7	台座 割部上半に2条の 浅層突起	4条のM字状突起	砂粒(灰岩・石炭)
						109 焼土1層	1						
						282 焼土1層	1						
V-2 20 2	Ⅱa サイバケ岡点	B-11 6				28 焼土1層	28	19.1	7.4	22.9	L状凹行凹文	平縁	高縁背群 磨面な砂粒(チャート)
						28 焼土2層	38						
V-2 20 3	Ⅱa サイバケ岡点	B-11 6				45 焼土1層	4	(18.0)	(8.0)	34.1	L状背群凹行凹文	小ぶりな4ヶ所の 突起	分級の悪い砂粒(軽石・灰岩) 高縁背群
						86 焼土1層下	74						
V-2 20 4	Ⅱa	B-11 6				2 焼土1層	1	(18.1)	(8.8)	24.8	口縁に凹行・口縁 に凹み	小ぶりな4ヶ所の 山形突起	分級の悪い砂粒(灰岩・チャ ート)
						3 焼土1層	1						
						28 焼土1層	11						
V-2 20 5	Ⅱa	B-11 6				47 焼土1層	17	12.2	5.7	14.7	L状凹行凹文?	小ぶりな4ヶ所の 突起	やや分級の悪い砂粒(灰岩・ 自然石炭)
						点検付	34						
V-2 20 6	Ⅱa	B-11 6				50 焼土1層	4	(4.3)	1.1	4.4	無文	Lニテアテ	磨面な砂粒(軽石・石炭)
V-2 21 7	Ⅱa	B-11 6				281 焼土1層	7	20.9	8.3	26.2	結束第一種凹行 突起に粒土紐	小ぶりな4ヶ所の 突起	磨面な砂粒(石炭)
						289 焼土1層	55						
V-2 21 8	Ⅱa 見崎町	B-11 6				286 焼土1層	31	(14.7)	5.2	14.3	口縁に沿って浅層 溝部に浅層文	割部跡らむ深縁	分級の悪い砂粒(軽石・灰岩) 高縁背群
						233 焼土1層	8						
V-2 22 9	Ⅱa	B-11 6				218 焼土1層	1	(24.8)	7.2	28.9	割部上半に2本一 組の粗い凹行文	平縁に小ぶりな突 起が付く。 底面ではまる	磨面な砂粒
						216 焼土1層	3						
						218 焼土1層	1						
						282 焼土1層	2						
						284 焼土1層	2						
						283 焼土1層	9						
						287 焼土1層	67						
点検付	33												
V-2 29 1	Ⅱa	B-11 7				1 アラト	1	10.9	5.8	12.6	結束第一種凹行 凹文 口縁に凹みと凹文	小型平縁土器	分級の良くない砂粒(軽石・ 灰岩)
						2 焼土1層	1						
V-2 30 1	Ⅱa	B-11 8				3 上層	12	(17.0)	-	(22.7)	L状凹行凹文。裏に 横定凹文	小ぶりな突起2か 所	高縁背群 砂粒(灰岩・チャート)
						4 上層	2						
						6 上層	1						
						3 裏	1						
						1 裏	1						
点検付	20												
V-2 30 2	Ⅱa	B-11 8				1 上層	1	(13.7)	6.9	18.6	L状凹行凹文短形隆 文	平縁 上面部に凹行	高縁背群 砂粒(灰岩・石炭)
						3 上層	14						
						3 上層	1						
						3 上層	2						
V-2 33 1	Ⅱa	B-11 9				50 焼土1層	2	28.1	-	(32.6)	結束第一種凹行 凹文 口縁に磨面による 刻み	口縁部に向かい斜 やかに高く凸部	高縁背群 磨面な砂粒(灰岩)
						21 焼土1層	2						
						18 中	3						
						19 焼土1層	5						
						L 40 b	1						
						L 46	1						
						L 47 b	1						
						点検付	48						
点検付	1												
点検付	119												

題名書目	分類	著者名	サブタイトル	題名	巻数	ページ数	冊数	同一題名本館有数	口径(㎝)	底径(㎝)	高さ(㎝)	施文形態	目録	その他 の注記
V-2 37 1	書b	B H 12			25	56	18	18	12.3	7.4	16.65	題名のくびれる小型装綴	小型装綴	精緻な装綴(石美・自然角四石)
V-3 17 3	書a	B P 23 未注記		1	16	49	11	11	(24.2)	(16.6)	(27.7)	L反(印袋多装?)	装綴がわずかに内開	高級装綴 分装の型(装綴・チャート)
V-3 18 37	書a	B F 48 L 49 c L 49 e L 52 L 53 20 L 53 22 L 53 28 L 53 43 L 53 44 L 53 a L 53 b L 53 c L 53 e L 53 e L 53 e L M 47 a L M 47 c J 47 c		1 3 4 20 22 28 43 44 2 4 1 23 24 2 2 2 1 1	1 3 4 20 22 28 43 44 2 4 1 23 24 2 2 2 1 1	1 3 4 20 22 28 43 44 2 4 1 23 24 2 2 2 1 1	1	37.1	(11.0)	(29.0)	糸が横走するL装綴	装綴のやや膨らむ装綴	高級装綴 装綴(装綴・チャート)	
V-3 21 70	書a	B F 88 B P 88 未注記	K 50 L 30 4	1 2 4	1 2 4	34 34 43	1 1 1	43	14.7	16.1	—	L装綴文層付装綴	口縁がわずかにすばまる	精緻な装綴(装綴・チャート)
V-4 6 3	書a	B F 5 K 32 K 32 K 32 L 52 c L 53 b L 53 b L 53 b L 53 b L 53 c		1 2 25 26 3 1 1 12 23 23 3 3	1 2 25 26 3 1 1 12 23 23 3 3	1 2 25 26 3 1 1 12 23 23 3 3	2	(18.7)	8.9	12.7	3本組洗滌 装綴状・装綴	口縁はわずかにくびれ、平装綴がある	装綴(チャート・石美)	
V-4 8 18	書a	B F 10 未注記		1	1	76	2	2	(17.3)	5.9	21.9	実地に糸組 短装綴	三ツ山 小型上品	高級装綴 装綴(装綴・石美)
V-4 10 28	書a	B F 28 L 32 a L 32 a L 32 b L 45 a L 46 a L 51 L 52 L 52 L 52 c L 52 b L 52 b M 31		2 1 2 5 1 3 1 1 15 30 3 3 4 1 1	2 1 2 5 1 3 1 1 15 30 3 3 4 1 1	2 1 2 5 1 3 1 1 15 30 3 3 4 1 1	19	—	18.6	(26.8)	ゆるく膨らんだL装綴	装綴がらみ口縁がすばまる装綴	高級装綴 装綴(チャート・装綴)	
V-4 10 39	書a	B F 28 L 34 L 32 a L 32 a L 32 b L 32 c L 32 c		2 1 1 2 2 1 1	2 1 1 2 2 1 1	17 1 1 24 7 1 1	20	(22.8)	(16.2)	35.1	無文 装綴工員による軽い調整	装綴がらみ口縁がすばまる装綴	高級装綴 装綴(チャート)	
V-5 6 7	書a	B SP 34 未注記	1 47 1 47	1 48	1 48	13 33	1 2	2	(12.0)	(6.5)	(12.0)	太さの違う短装綴 無文 無装綴	新直し小装綴 小型の装綴	分装の悪い装綴(装綴・チャート・自然角四石)
V-5 6 8	書a	B SP 28 B SP 28 B SP 28 B SP 28 B SP 28 B SP 28		1 3 7 7 9 11	1 3 7 7 9 11	4 4 1 1 5 11	1	33.35	5.9	16.7	無文(刷毛目状の調整)	小型装綴口縁に紐付装綴	装綴(装綴・チャート)	
V-5 7 13	書a	B SP 38 未注記	J 48 J 48	1 5	1 5	1 8	1 5	23 5	—	10.3	(26.3)	L装綴付装綴 結部部分の装綴	装綴の装綴	高級装綴 装綴(装綴・チャート)

調査番号	発掘区画	アゾット	層別	遺物	調査者	調査日	調査時間	調査場所	調査者	調査内容	調査結果	調査者	調査内容	調査結果	調査者	調査内容	調査結果	調査者	調査内容	調査結果																											
V 4 7 1	B 号	L 12 L 19 L 24	11 上層	4 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																									
																							L 29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1								
																																								L 35	1	1	1	1	1	1	1
合計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																										
V 4 7 8	B 号	L 12 L 19 L 24	11 上層	4 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																								
																								L 29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
																																														L 35	1
合計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																							
V 4 7 1	B 号	L 12 L 19 L 24	11 上層	4 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																							
																									L 29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																						
V 4 7 8	B 号	L 12 L 19 L 24	11 上層	4 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																							
																									L 29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																						
V 4 7 1	B 号	L 12 L 19 L 24	11 上層	4 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																							
																									L 29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																						
V 4 7 8	B 号	L 12 L 19 L 24	11 上層	4 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																							
																									L 29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																						

調査番号	発掘区画	アゾット	層別	遺物	調査者	調査日	調査時間	調査場所	調査者	調査内容	調査結果	調査者	調査内容	調査結果	調査者	調査内容	調査結果	調査者	調査内容	調査結果																											
V 4 7 1	B 号	L 12 L 19 L 24	11 上層	4 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																								
																								L 29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
																																													L 35	1	1
合計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																							
V 4 7 8	B 号	L 12 L 19 L 24	11 上層	4 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																							
																									L 29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																						
V 4 7 1	B 号	L 12 L 19 L 24	11 上層	4 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																							
																									L 29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																						
V 4 7 8	B 号	L 12 L 19 L 24	11 上層	4 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																							
																									L 29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11																						

編年層番号	分期	遺構名	プラット	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	備考	敷土中の主な出土物
V-5-4-21	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					須賀川段 (土)	
V-5-4-22	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					石鏡 (土)	
V-5-4-23	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					土器 (土)	
V-5-4-24	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					須賀川段 (土)	
V-5-4-25	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					土器 (土)	
V-5-4-26	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					須賀川段 (土)	
V-5-4-27	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					土器 (土)	
V-5-4-28	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					須賀川段 (土)	
V-5-4-29	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					土器 (土)	
V-5-4-30	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					須賀川段 (土)	
V-5-4-31	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					土器 (土)	
V-5-4-32	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1					須賀川段 (土)	

編年層番号	分期	遺構名	プラット	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	備考	敷土中の主な出土物			
V-5-4-33	Ⅲa	Ⅲa Ⅲ 10	1	遺土	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								
				瓦	1								

表V-8 B地区遺構出土掲載石器一覧

掲載図番	遺構名	遺物番号	分期	類別記号	点数	点取番号	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	光沢	アスファルト	備考
V-2-2-6	Ⅱ-01	38	Ⅲa	Ⅲ a	1	Sh	7.10	3.45	1.15	1.71				
V-2-2-7	Ⅱ-01	19	Ⅲa	Ⅲ b	1	Sh	8.85	4.45	1.20	21.24				
V-2-2-8	Ⅱ-01	53	Ⅲb	Ⅲ b c	1	Sh	7.25	3.10	1.00	11.31				
V-2-2-9	Ⅱ-01	37	Ⅲb	Ⅲ b 片	1	Sh	4.25	3.00	1.35	21.48				
V-2-2-10	Ⅱ-01	30	Ⅲa	Ⅲ A 2	1	Gr	8.20	4.50	2.70	48.90				ⅡP-1
V-2-2-11	Ⅱ-01	54	Ⅲa	Ⅲ A 2	1	Gr	7.40	4.35	1.25	40.49				
V-2-2-12	Ⅱ-01	48	Ⅲa	Ⅲ A	1	Se	6.10	12.60	3.25	255.00				
V-2-2-13	Ⅱ-01	50	Ⅲa	Ⅲ A 3	1	Se	8.45	14.40	3.25	506.00				
V-2-2-14	Ⅱ-01	51	Ⅲa	Ⅲ A 3	1	DZ	10.60	18.00	3.00	123.00				ⅡP-1
V-2-2-15	Ⅱ-01	56	Ⅲa	Ⅲ A 1	1	Se	8.20	17.20	6.15	1066.00				
V-2-2-16	Ⅱ-01	37	Ⅲa	Ⅲ A 3	1	Rh	7.80	6.20	2.15	187.37				
V-2-2-17	Ⅱ-01	30	Ⅲa	Ⅲ A 3	1	An	7.10	13.60	4.10	366.00				
V-2-2-18	Ⅱ-01	3	Ⅲa	Ⅲ A 3	1	An	8.60	16.20	3.65	806.00				
V-2-2-19	Ⅱ-01	4	Ⅲa	Ⅲ A 3	1	Se	6.90	13.35	3.10	456.00				
V-2-2-20	Ⅱ-01	59	Ⅲa	Ⅲ A	1	Sh	3.45	1.50	0.95	2.78				
V-2-2-21	Ⅱ-01	388	Ⅲa	Ⅲ A 4	1	Sh	13.80	1.35	0.60	13.77				
V-2-2-22	Ⅱ-01	197	Ⅲb	Ⅲ B 2 a	1	Sh	10.30	5.00	2.10	494.99				
V-2-2-23	Ⅱ-01	183	Ⅲb	Ⅲ B 2 b	1	Sh	5.40	3.30	1.70	78.15				
V-2-2-24	Ⅱ-01	184	Ⅲb	Ⅲ B 2 c	1	Sh	6.60	2.30	1.20	20.60				
V-2-2-25	Ⅱ-01	220	Ⅲb	Ⅲ B 2 b	1	Sh	5.40	0.20	1.70	15.39				
V-2-2-26	Ⅱ-01	221	Ⅲb	Ⅲ B 2 b	1	Sh	5.40	3.45	0.75	11.34				
V-2-2-27	Ⅱ-01	187	Ⅲb	Ⅲ B 2 c	1	Sh	7.10	4.00	1.80	45.29				
V-2-2-28	Ⅱ-01	173	Ⅲb	Ⅲ B 3 b	1	Rh	8.65	8.20	2.40	148.95				
V-2-2-29	Ⅱ-01	166	Ⅲb	Ⅲ B 3 b	1	Rh	8.50	5.50	2.00	61.74				
V-2-2-30	Ⅱ-01	183	Ⅲb	Ⅲ B 3 c	1	Sh	3.45	4.60	1.00	11.44				
V-2-2-31	Ⅱ-01	218	Ⅲb	Ⅲ B 3 b	1	Sh	4.65	4.50	1.90	16.14				
V-2-2-32	Ⅱ-01	161	Ⅲb	Ⅲ B 9	1	Sh	4.65	3.10	1.20	22.30				
V-2-2-34	Ⅱ-01	222	Ⅲb	Ⅲ B 9	1	Sh	13.30	14.25	0.95	110.22				
V-2-2-35	Ⅱ-01	167	Ⅲb	Ⅲ B 9	1	Sh	13.20	13.75	1.20	114.88				
V-2-2-36	Ⅱ-01	173	Ⅲb	Ⅲ A 2	1	Sh	6.70	4.30	1.10	26.40				
V-2-2-37	Ⅱ-01	223	Ⅲb	Ⅲ A 9	1	Sh	4.80	1.90	1.20	6.74				
V-2-2-38	Ⅱ-01	119	Ⅲb	Ⅲ A 1 b	1	Sh	7.20	4.50	2.60	82.47				
V-2-2-39	Ⅱ-01	169	Ⅲb	Ⅲ A 4	1	Gla	8.70	3.80	2.10	117.43				
V-2-2-40	Ⅱ-01	183	Ⅲb	Ⅲ A 1	1	Sh	15.80	6.35	5.10	646.00				
V-2-2-41	Ⅱ-01	32	Ⅲb	Ⅲ A 3	1	Se	9.50	6.30	3.70	284.70				
V-2-2-42	Ⅱ-01	104	Ⅲb	Ⅲ A 3	1	Tu	5.90	12.90	2.35	121.90				
V-2-2-43	Ⅱ-01	130	Ⅲb	Ⅲ A 3	1	Rh	8.20	15.90	3.10	480.00				
V-2-2-44	Ⅱ-01	117	Ⅲb	Ⅲ A 3	1	Se	10.70	16.30	3.00	1066.00				
V-2-2-45	Ⅱ-01	100	Ⅲb	Ⅲ A 3	1	Rh	9.40	10.90	3.55	476.00				
V-2-2-46	Ⅱ-01	157	Ⅲb	Ⅲ A	1	Sh								備付
V-2-2-48	Ⅱ-01	158	Ⅲb	Ⅲ A	1	An	(12.00)	(20.70)	6.10	1586.00				ⅡP-2 組合157+158
V-2-2-49	Ⅱ-01	212	Ⅲb	Ⅲ A	1	Sh	(3.80)	1.50	0.70	(2.20)				
V-2-2-50	Ⅱ-01	17	Ⅲb	Ⅲ A 2	1	Sh	4.90	7.70	1.60	48.44				
V-2-2-51	Ⅱ-01	117	Ⅲb	Ⅲ B 7	1	Sh	7.10	8.30	2.70	92.45				
V-2-2-52	Ⅱ-01	23	Ⅲb	Ⅲ A 1 b	1	Sh	4.60	5.10	1.80	31.17				
V-2-2-53	Ⅱ-01	4	Ⅲb	Ⅲ A	1	Sh-An	25.40	(18.80)	10.15	3526.00				
V-2-2-54	Ⅱ-01	89	Ⅲb	Ⅲ A 3	1	Rh	3.80	1.80	0.75	3.32				
V-2-2-55	Ⅱ-01	98	Ⅲb	Ⅲ A 4	1	Sh	(3.75)	1.20	0.45	1.91				

掲載図番番号	遺物番号	分類	遺物名	区分記号	点数	点取番号	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	光沢	アスファルト	備考
V-2-25-23	97	石鏝	1 A 5	1	43	Obs	3.15	1.30	0.56	1.49				
V-2-25-24	100	石鏝	1 A 5	1	31	Obs	3.75	1.90	0.75	2.37				
V-2-25-25	112	石鏝	1 A 5	1	An	3.20	1.56	0.55	1.88					
V-2-25-26	103	石鏝	1 A 5	1	34	Sh	3.00	1.25	0.60	0.99				
V-2-25-27	104	石鏝	1 A 5	1	35	Sh	2.40	1.05	0.40	0.72				
V-2-25-28	102	石鏝	1 A 5	1	33	Bs	3.10	1.20	0.55	1.91				
V-2-25-29	101	石鏝	1 A 5	1	32	Sh	3.20	1.56	0.70	1.33				石鏝転用?
V-2-25-30	114	石鏝	1 B 1	1	Sh	(6.40)	2.20	1.10	9.31					
V-2-25-31	116	つまみ付きナイフ	B A 4	1	Sh	6.00	2.35	0.90	11.00					
V-2-25-32	118	スクレイパー	B B 2 a	1	Sh	(4.85)	(3.50)	1.00	(15.07)					
V-2-25-33	119	スクレイパー	B B 2 a	1	Sh	6.90	4.40	1.20	24.80					焼熱
V-2-25-34	121	スクレイパー	B B 2 b	1	Sh	(4.20)	(7.00)	1.40	(25.04)					
V-2-25-35	121	スクレイパー	B B 2 b	1	44	Sh+G	8.00	4.50	1.80	34.90				
V-2-25-36	122	スクレイパー	B B 2 b	1	Sh	7.20	3.95	1.50	34.97					
V-2-25-37	86	スクレイパー	B B 2 b	1	Sh	(4.43)	(4.00)	1.00	(16.94)					
V-2-25-38	7	スクレイパー	B B 2 b	1	Sh	6.75	5.00	1.40	37.83					焼熱・黒色物付着
V-2-25-39	117	スクレイパー	B B 9	1	Sh	3.20	2.70	3.50	5.14					黒色物付着
V-2-25-40	120	スクレイパー片	B B 9	1	Sh	(3.83)	(4.00)	0.80	(7.43)					焼熱・黒色物付着
V-2-25-41	71	フレイク	X I A 2	1	6	Sh	5.00	3.60	1.80	16.87				
V-2-25-42	113	石斧	V A 1	1	21	G-Tu	8.15	3.65	1.60	45.37				
V-2-25-43	128	石斧	V A 1	1	23	Gr	8.65	3.50	0.90	197.10				
V-2-25-44	129	石斧	V A 4	1	56	Sc	7.90	3.20	0.95	37.82				
V-2-25-45	123	石斧	V A 1	1	22	G-Tu	7.90	3.20	1.00	31.90				
V-2-25-46	127	石斧	V A 1	1	41	MS	12.65	4.70	1.60	146.19				
V-2-25-47	128	石斧	V A 4	1	42	Sc	(10.40)	(5.00)	(2.40)	(146.83)				
V-2-25-48	130	石斧	V A 1	1	37	Gr	6.65	3.95	1.50	88.80				
V-2-25-49	131	石斧	V A 4	1	38	Sc	7.90	3.65	1.20	45.64				
V-2-25-50	132	石の凸	V B 1	1	47	Gr	(9.13)	3.65	1.10	39.38				
V-2-27-31	142	尖たき石	V A 3	1	Rh	10.45	8.35	4.20	356.00					
V-2-27-32	143	扁平打製石	V A 3	1	29	An	10.20	16.10	3.40	800.00				
V-2-27-33	146	扁平打製石	V A 3	1	Sc	6.20	12.70	2.50	366.00					
V-2-27-34	243	砥石片	R B 8	1	Tu	3.20	3.10	1.70	11.41					
V-2-27-35	147	石皿	V A 1	1	48	Se	21.20	32.60	11.90	1150.00				焼熱
V-2-27-36	288	土製品		1		1.80	4.60	1.05	19.57					
V-2-27-37	292	土製品		1		4.40	6.25	1.40	11.10					焼熱
V-2-27-38	295	土製品		1	59		(5.20)	3.10	2.00	38.41				
V-2-27-39	139	有孔石		1	60	PvP	4.75	4.05	2.05	28.95				
V-2-27-40	141	有孔石		1	45	MS	2.40	2.20	0.80	3.92				
図録122 1	105	石鏝	1 A 5	1	81	Sh	4.24	1.54	0.70	2.28				焼熱によるはじけ
図録122 2	106	石鏝	1 A 5	1	82	Sh	3.94	1.48	0.35	1.69				焼熱によるはじけ
図録122 3	107	石鏝	1 A 5	1	83	Sh	3.27	1.34	0.38	1.41				
図録122 4	108	石鏝	1 A 5	1	84	Sh	3.29	1.47	0.40	1.83				焼熱によるはじけ
図録122 5	109	石鏝	1 A 5	1	85	Sh	4.03	1.45	0.77	3.70				焼熱によるはじけ
図録122 6	110	石鏝	1 A 5	1	86	Sh	3.74	1.51	0.60	1.66				焼熱によるはじけ
図録122 7	111	石鏝	1 A 5	1	79	Sh	3.09	1.33	0.62	1.81				
V-2-29 8	117	スクレイパー	B B 2 a	1	Sh	6.75	4.40	1.20	23.79					
V-2-31 3	7	スクレイパー	B B 2 b	1	1	Sh	16.24	3.15	2.00	83.21				10P-2
V-2-31 4	8	スクレイパー	B B 3 b	1	4	Sh	10.20	4.45	1.90	52.26				10P-2
V-2-31 5	9	石皿・有石	V A 1	1	10	Se	18.70	14.20	7.00	1000.00				焼熱
V-2-34 10	1	石鏝	1 B 2	1	11	Sh	7.90	3.15	1.80	28.28				
V-2-34 11	2	スクレイパー	B B 2 a	1	Sh	7.00	3.90	1.70	29.53					
V-2-34 12	3	スクレイパー	B B 2 a	1	2	Sh	6.90	3.70	0.80	12.34				
V-2-34 13	4	スクレイパー	B B 3 A	1	An	6.20	8.40	1.40	56.83					
V-2-34 14	10	扁平打製石	V A 3	1	Se	11.20	18.85	3.90	1190.00					
V-2-34 15	11	石皿	V A 1	1	14	Hb-An	(28.10)	(21.40)	6.20	6026.00				
V-2-34 16	9	有孔石		1	9	MS	4.60	4.60	3.20	19.74				
V-2-36 3	9	フレイク	X I A 1 b	1	Sh	4.50	5.20	1.30	29.08					
V-2-35 3	11	スクレイパー	B B 9	1	Sh	3.10	4.40	1.15	17.78					
V-2-35 4	11	2 扁平打製石	V A 3	1	Se	7.40	14.00	2.20	330.00					
V-2-35 5	11	3 扁平打製石	V A 3	1	Rh	10.35	15.90	2.20	466.00					
V-2-37 5	11	1 石斧	V A 4	1	8	G-Tu	8.10	4.65	1.40	72.37				
V-3-16 2	RP-05	2 扁平打製石	V A 3	1	1	Rh	9.90	14.90	2.50	386.00				
V-3-18 1	RP-06	3 石皿・有石	V A 1	1	Sh	13.60	9.60	6.00	726.37					
V-3-18 7	RP-12	3 尖たき石	V A 3	1	An	5.45	8.65	3.00	189.92					
V-3-16 9	RP-17	3 石皿片	V A 1	1	2	Hb-An	21.80	(34.65)	8.20	4300.00				接合
V-3-16 9	RP-17	4 石皿片	V A 1	1	3	Hb-An								
V-3-18 10	RP-18	1 石皿	V A 1	1	2		23.20	(16.80)	(11.00)	8536.00				
V-3-17 12	RP-24	3 尖たき石	V A 1	1	Se	7.00	6.00	2.70	96.33					焼熱
V-3-17 16	RP-26	3 スクレイパー	B B 2 b	1	Sh	7.90	3.40	1.20	17.46					
V-3-17 19	RP-09	3 スクレイパー	B A 1	1	Sh	3.40	3.20	1.30	33.27					
V-3-17 22	RP-33	3 石皿・有石	V A 1	1	Se	11.10	16.40	10.50	2386.00					
V-3-18 24	RP-34	4 スクレイパー	B B 2 b	1	Sh	2.70	2.90	1.40	20.52					
V-3-18 25	RP-34	3 尖たき石	V A 1	1	An	5.20	4.10	3.90	123.52					
V-3-18 28	RP-37	2 石皿	V A 1	1	2	Hb-An	18.20	21.20	9.20	6586.00				
V-3-18 21	RP-40	2 尖たき石	V A 3	1	Se	14.70	5.05	4.40	476.00					
V-3-20 26	RP-06	3 フレイク	X I A 2	1	Sh	5.10	2.40	1.00	7.89					
V-3-20 27	RP-07	3 扁平打製石	V A 3	1	Se	7.55	3.20	3.20	356.00					
V-3-20 61	RP-71	1 石皿	X B A 1	1	Sh	6.85	4.20	2.60	132.23					
V-3-20 63	RP-76	1 スクレイパー	B B 2 c	1	Sh	11.20	6.10	1.40	56.89					
V-3-20 64	RP-84	2 ナイフ	V A 2	1	3	Hb-An	7.20	13.80	4.40	646.00				
V-3-20 65	RP-84	1 加工痕ある鏝	X I B 1	1	2	Rh	9.65	16.80	3.00	629.00				

掲載図版番号	遺物番号	分類	遺物名	細分記号	点数	点取番号	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	光沢	アスファルト	備考
V-3-20-08	BP-84	3	加工施ある礎	X1B1	1	5	Se	10.50	15.50	4.30	1075.00			
V-3-21-09	BP-85	2	三角形礎石版		1		Ma	3.10	3.40	0.65	9.73			
V-4-6-2	BP-04	6	スクレイパー	重口2a	1	5	S, Sh	7.40	6.00	2.15	84.14			
V-4-8-16	BP-05	3	三角形礎石版		1		Rh	5.20	6.00	0.95	32.97			
V-4-8-17	BP-05	19	石皿	ⅥA	1	9	Hb-An	46.30	26.70	13.30	2400.00			
V-4-8-23	BP-10	2	つまみ付きナイフ	ⅥA3	1		Sh	3.20	1.80	0.75	5.19			
V-4-9-29	BP-19	6	ひたき石	ⅥA1	1		Se	10.00	5.50	2.25	246.00			
V-4-9-25	BP-22	6	加工施ある礎	X1B1	1	1	Rh	5.25	14.50	2.25	246.00			写真有
V-4-10-37	BP-24	2	石皿	ⅥA	1	1	Se	15.20	17.00	2.70	946.00			
V-4-10-40	BP-26	2	石皿	ⅥA	1	2	Hb-An	28.00	20.00	7.30	886.00			
V-4-11-42	BP-27	10	石皿	ⅥA	1	1	An	31.30	33.50	15.20	2300.00			
V-4-12-49	BP-31	2	スクレイパー	重口2b	1		Sh	6.15	3.80	1.80	75.58			
V-4-12-22	PC-1	1	加工施ある礎	X1B1	1		Se	8.20	14.40	2.50	476.00			
V-5-6-2	BSF-05	1	加工施ある礎	X1B1	1		Se	8.30	15.20	2.50	545.00			
V-5-7-17	BSF-41	2	石皿片	ⅥA	1	1	Hb-An	12.40	17.70	4.25	1090.00			
V-5-7-19	BSF-46	2	石枕	X1B1	1		Sh	4.55	3.45	2.95	60.43			
V-5-8-23	BSF-49	2	石皿	ⅥA	1		Se	33.80	21.90	16.60	1550.00			
V-6-3-1	BS-04	1	ひたき石	ⅥA2	1	20	Se	12.40	7.85	2.80	386.00			
V-6-3-2	BS-04	2	石皿	ⅥA	1	13	Se	28.70	10.80	6.70	201.00			
V-6-3-3	BS-04	18	27石皿	ⅥA	1	10	Pc-An	24.30	21.00	21.00	2850.00			18, 27が境合
V-6-3-4	BS-04	29	石皿	ⅥA	1	19	An	27.30	32.90	12.00	1500.00			
V-6-4-6	BS-09	2	打石	ⅥA	1	12	An	22.00	18.70	26.00	4286.00			

表V-9 B地区包含層出土掲載土器一覧(復元土器)

掲載図版番号	分類	遺物名	グリッド	遺物番号	層位	接合点数	部位	合点数	同一個体未採	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	施文特徴	器形	胎土中の主な混入物
V-7 10 37	IV a		L 54	20	Ⅵ	1		(16, 8)	-	8.0			標糸文 板字跡ナリ ナデ 底部のみケズリ	底部	海綿骨針 砂粒(チャート・石膏)
			L 54	32											
			L 54	41											
			L 54 a	5											
			L 54 a	6											
			L 54 a	22											
V-7 10 38	IV a		L 53	46	Ⅵ	1		-	7.0	(10, 4)			糸が横走気味のLR縞文ナリナデ	底部	海綿骨針 砂粒(泥岩・チャート・自形角閃石)
			L 53 a	2											
			L 53 a	4											
			L 58 b	8											
			L 58	20											
			L 58	20											
V-7 10 39	IV a		N 52 a	1	Ⅵ	12		(13, 1)	8.1	(11, 5)			LR縞文 内外面板ナデ	底部	砂粒(泥岩・チャート)
			N 52 b	4											
			N 52 b	1											
			N 52 b	4											
			N 52 b	3											
			N 52 b	3											
V-7 10 40	IV a		L 54	5	Ⅵ	19		-	8.2	(14, 1)		LR縞文 ナリナデ	底部	砂粒(泥岩・自形角閃石)	
			L 55	12											
			L 55	12											
V-7 10 41	IV a		M 55	6	Ⅵ	10		-	4.9	(6, 0)		LR縞文 一部に波縞	底部	砂粒(石膏) やや磨削らむ	
			O 58	3											
			O 58	13											
V-7 10 42	IV a		O 58	2	Ⅵ	14		(11, 8)	5.1	(11, 8)			施文地に波縞文「乙」字 底部がくびれる小型の深鉢	底部	砂粒(砂岩・チャート)
			O 58	13											
			O 58	2											
			O 57	4											
V-7 10 43	IV c		N 57	15	Ⅵ	12		-	2.8	(10, 6)			白口土器 中央がくぼんだ突起状の 底部	底部	海綿骨針・砂粒(泥岩・チャート・石膏・自形角閃石)
			N 57	56											
			N 57	57											
			N 57	57											
			N 57	57											
				点數計	27										

発掘区番号	分類	遺構名	グリッド	遺物番号	層位	接合点数	部位	同一個体未検 合点数	口径 (φ)	底径 (φ)	器高 (φ)	施文特徴	器形	胎土中 の主な混入物
V-7 1 1	Ⅱa 見晴町	未注記	L 34 L 34	12 20	Ⅱ Ⅱ	2 43 1部		6	24.5	-	(34.5)	突起に「の」 字状貼付	深鉢	砂粒(チャート・凝灰岩)
V-7 1 2	Ⅱa		M 32 a	1	Ⅱ	12		1	17.9	4.1	18.5	無文	ミニチュア	海綿骨針
V-7 1 3	Ⅱb		L 28 a	18	Ⅱ	1		5	17.5	-	(22.0)	口径に沿って沈積・崩部に三本一組の平行沈積	胴部の膨らむ深鉢	なし
			L 28 a	23	Ⅱ	3								
			L 28 b	9	Ⅱ	5	12							
			L 28 b	16	Ⅱ	7	1							
			L 28 c	10	Ⅱ	1								
			L 28 d	22	Ⅱ	1	3							
			L 28 a	17	Ⅱ	1	1							
L 28 b	1	Ⅱ	2	2										
L 28 c	15	Ⅱ	2	2										
			点数計		18		27							
V-7 1 4	Ⅳa		L 54 a	2	Ⅱ	6			21.8	-	(26.2)	二本一組沈積による「K」 字状文様	胴部がわずかにくびれる深鉢	砂粒(虎岩・石英・白形角閃石)
			L 54 a	3	Ⅱ	2	1							
			L 54 a	6	Ⅱ	5								
			L 54 a	4	Ⅱ	12								
			L 54 a	5	Ⅱ	8	1							
			L 54 b	4	Ⅱ	5								
			L 54	5	Ⅱ	1	1							
			L 54	20	Ⅱ	3								
			L 54	21	Ⅱ	3	1							
			L 54	32	Ⅱ	1								
			L 54	33	Ⅱ	1	1							
			L 54	40	Ⅱ	3								
			L 54	41	Ⅱ	1								
L 54 b	2	Ⅱ	2											
			点数計		51		7							
V-7 2 5	Ⅳa		N 50	2	I	6		3	(19.4)	10.0	29.0	二本組沈積による円形文	平縁深鉢	砂粒(チャート・虎岩)
			N 50 d	2	Ⅱ	29	2							
			N 51	3	Ⅱ	1								
			N 51	4	Ⅱ	6	2							
			N 51	5	Ⅱ	1								
			N 50	3	Ⅱ	1								
			N 51 a	1	Ⅱ	1	2							
			N 51 d	2	Ⅱ	1	1							
			N 51	4	Ⅱ	1	1							
						点数計		53						
V-7 2 6	Ⅳa		K 51	19	Ⅱ	43			(16.7)	-	(17.2)	縄文地に沈積文(円形・線状)	平縁深鉢	海綿骨針 砂粒(虎岩・チャート・石英)
			K 51	18	Ⅱ	1								
			M 46	2	I	1	1							
			K 49	3	Ⅱ	1								
			K 51	19	Ⅱ	16								
			点数計		44		13							
V-7 2 7	Ⅳa		L 51 a	5	Ⅱ	11		13	(34.7)	-	(18.9)	一部単位文様2群弧状の長楕円形文 垂下する蛇行沈積文	胴部がくびれる深鉢 口径はバンド状に肥厚	海綿骨針 砂粒(虎岩・チャート・石英)
			L 51 a	8	Ⅱ	2								
			L 51 a	9	Ⅱ	1								
			L 51 d	3	Ⅱ	2								
			M 50	1	I	1								
			M 50 b	2	Ⅱ	1								
			M 50 b	1	Ⅱ	2								
			M 50 c	1	Ⅱ	1								
			M 50 c	2	Ⅱ	1	3							
			M 50 d	1	Ⅱ	3								
			M 51	2	I	1								
			L 51	1	I	1	2							
			L 51 a	4	Ⅱ	4	1							
L 51 d	2	Ⅱ	1	1										
			点数計		26		24							
V-7 3 8			L 53	6	Ⅱ	1			-	19.6	(33.0)	縄文手法による円形・長方形・長楕円形文	壺型土器類?	粗粒細な砂粒 精製土器?
			L 53	44	Ⅱ	1								
			L 53	46	Ⅱ	1								
			L 53	47	Ⅱ	1								
			M 51 b	5	Ⅱ	15								
			M 52	2	I	5								
			M 52 b	3	Ⅱ	5								
			M 53	4	I	1								
			N 51	1	I	1	5							
			N 51	2	I	1	2							
			N 51	3	I	1	2							
			N 51	4	Ⅱ	3								
			N 51 a	2	Ⅱ	1	1							
			N 51	4	I	2								
			N 51 b	1	Ⅱ	1	1							
			N 51	2	I	1	1							
			N 51	3	I	1	1							
			点数計		30		22							

掲載回番号	分類	通称名	グリッド	遺物番号	層位	接合点数	部位	同一個体未注 合計数	口径 (φ)	底径 (φ)	器高 (φ)	施文特徴	器形	胎土中の 主な混入物
V-7 3 9	IV a	未注記	L 50	30	Ⅲ	1						口唇に全周し ない一糸の横 線 地文は糸が横 走気味のLR	深鉢	海綿骨針 砂粒 (虎岩・ チャート・石 英)
			L 50 d	2	Ⅲ	7		6						
			L 50 d	3	Ⅲ	1		4						
			L 51	3	Ⅲ	1								
			L 51 a	2	Ⅲ	4		7						
			L 51 a	4	Ⅲ	7		15						
			L 51 a	5	Ⅲ	7		14						
			L 51 a	8	Ⅲ	2		7						
			L 51 a	9	Ⅲ	3		6						
			L 51	1	Ⅲ	1		5						
			L 51 c	3	Ⅲ	1		1						
						点数計	42							
V-7 3 10	IV a		M 54	54	Ⅲ	2						口唇やや下 に横線一糸 地文はLR斜 行縄文	割部のやや 膨らむ器形	海綿骨針 砂粒 (虎岩・ チャート・石 英)
			L 54	32	Ⅲ	1								
			L 54	48	Ⅲ	1								
			L 54 b	2	Ⅲ	12		2	(10.1)	6.5	16.3			
			L 54 b	4	Ⅲ	3								
			L 54	20	Ⅲ	1		1						
						点数計	19							
V-7 4 11	IV a		L 54	4	Ⅲ	12						器面全面に 糸が縦走気 味となるLR 複助縄文 内面砥ナデ	口縁に向か い横やかに 開く 底部やや張り 出す	海綿骨針 砂粒 (虎岩・ チャート・石 英)
			L 54	5	Ⅲ	5								
			L 54	11	Ⅲ	1								
			L 54	32	Ⅲ	1								
			L 54	41	Ⅲ	1								
			L 54	46	Ⅲ	1								
			L 54 a	1	Ⅲ	1		1						
			L 54 a	2	Ⅲ	8								
			L 55	12	Ⅲ	3		4						
			L 52 b	3	Ⅲ	1		1						
			L 53	20	Ⅲ	1		1						
			L 54	21	Ⅲ	1		1						
			L 54	48	Ⅲ	1		1						
						点数計	33							
V-7 4 12	IV a		J 42	9	Ⅲ	12		16				器面全面に 糸が縦走気 味となるLR 複助縄文	ほぼ円筒形	微細な砂粒 (チャート)
			J 43	3	Ⅲ	10		2						
			J 43	16	Ⅲ	5		1						
			J 43	3	Ⅲ	1								
			J 43	15	Ⅲ	1								
			J 43	16	Ⅲ	1								
			J 46	25	Ⅲ	1								
			J 46	2	Ⅲ	1		1						
			J 46	20	Ⅲ	1		1						
			K 44 c	8	Ⅲ	2		2						
			L 43 c	1	Ⅲ	1		1						
			L 44 d	5	Ⅲ	1		1						
			L 44 d	6	Ⅲ	1		1						
			M 43 d	1	Ⅲ	1		1						
						点数計	23							
V-7 4 13	IV a		L 52	19	Ⅲ	13		13				RL (0段多 縄?) 器面全体に 施文 内面ミガキ	ほぼ円筒形	分級の悪い 砂粒 (虎岩・ チャート)
			L 52	30	Ⅲ	11		5						
			L 52	65	Ⅲ	2								
			L 52 a	1	Ⅲ	8		3						
			L 52 a	2	Ⅲ	1								
			L 52 c	3	Ⅲ	1		1						
			L 52 d	2	Ⅲ	2								
			L 52 d	12	Ⅲ	1								
			L 53 d	8	Ⅲ	34		6						
			L 52 c	3	Ⅲ	2								
			L 52	68	Ⅲ	1		1						
			L 52	74	Ⅲ	1		1						
			L 52 c	4	Ⅲ	3		3						
						点数計	75							
V-7 4 14	IV a		M 51 a	2	Ⅲ	1						器面全体に 糸が横走する LR縄文施文	内面砥ナデ 外相接合明 瞭	微細な砂粒 (チャート)
			M 51 b	3	Ⅲ	2								
			M 51 b	4	Ⅲ	26		16						
			M 51 b	6	Ⅲ	1								
			M 50 d	1	Ⅲ	4		6						
			M 50 d	2	Ⅲ	3		3						
			M 51	2	Ⅲ	1		2						
			M 51 b	1	Ⅲ	4		4						
			M 51 b	2	Ⅲ	6		6						
						点数計	30							
V-7 5 15	IV a		K 49	2	Ⅲ	2						器面全体に 糸が横走する LR縄文施文	口唇角型 内面ミガキ	海綿骨針 微細な砂粒 (チャート・石 英)
			L 48	3	Ⅲ	1		1						
			L 49	5	Ⅲ	22		8						
			L 49 a	5	Ⅲ	17		8						
			L 49 a	7	Ⅲ	7								
			L 49 d	2	Ⅲ	1								
			L 49 d	3	Ⅲ	3								
			L 49 d	5	Ⅲ	1		1						
			L 49	1	Ⅲ	1		2						
			L 49 a	8	Ⅲ	1		1						
			L 49 c	4	Ⅲ	1		1						
			L 49 c	5	Ⅲ	1		1						
			L 49 c	6	Ⅲ	1		1						
						点数計	54							

掲載図番号	分類	遺構名	グリッド	遺構番号	層位	接合点数	部位	同一個体未検出 合点数	口径 (φ)	底径 (φ)	器高 (φ)	施文特徴	形状	胎土中の 主な混入物
V-7 5 16	IV a		L 52	a 3	Ⅲ	1		4	(18.0)	(7.8)	28.7	部の大きいLR縄文内面ケズリ	底部が張り出す	海綿骨針 微細な砂粒 (チャート・白形角閃石)
				b 3	Ⅲ	15								
				b 5	Ⅲ	2								
				c 3	Ⅲ	3								
				c 2	Ⅰ	5								
M 52	a 2	Ⅲ	2	1										
M 52	a 3	Ⅲ	9	1										
M 53	4	Ⅰ	1	1										
				点数計		28	7							
V-7 5 17	IV a		L 52	b 3	Ⅲ	18		1	(13.3)	-	(20.6)	部の大きいLR縄文 口縁の一部に刻み内面ケズリ	やや口縁がすぼまる	海綿骨針 微細な砂粒 (チャート・白形角閃石)
				b 6	Ⅲ	1								
				c 9	Ⅲ	1								
				点数計		22								
V-7 5 18	IV a	未注記	K 44	a 4	Ⅲ	3		12	(20.6)	(9.7)	31.8	無施シ内面ミガキ一部ケズリ	やや口縁がすぼまる	砂粒(泥岩・チャート・白形角閃石)
				a 6	Ⅲ	2								
				点数計		5								
V-7 6 19	IV a		N 50	d 2	Ⅲ	119		11	27.4	12.2	46.3	RL+無施シの結束第二種羽根縄文域位施文内面一部坂ナデ	起伏口縁の大型深鉢	海綿骨針 砂粒(砂岩・泥岩・チャート)
				d 1	Ⅲ	1								
				d 2	Ⅲ	1								
				d 2	Ⅲ	2								
				a 3	Ⅲ	3								
				点数計		119	16							
V-7 6 20	IV a		L 53	21	Ⅲ	3		4	-	(13.1)	(44.1)	部の細かいRL縄文内面ミガキ	口縁がややすぼまる大型深鉢	海綿骨針 砂粒(泥岩・チャート)
				36	Ⅲ	2								
				44	Ⅲ	7								
				46	Ⅲ	1								
				47	Ⅲ	1								
				b 1	Ⅲ	1								
				b 12	Ⅲ	3								
				b 23	Ⅲ	7								
b 24	Ⅲ	22												
c 3	Ⅲ	16												
c 4	Ⅲ	16												
c 1	Ⅲ	1												
L 53	b 3	Ⅲ	1											
L 53	c 3	Ⅲ	43											
				点数計		87	17							
V-7 7 21	未注記		L 52	d 13	Ⅲ	2		4	(26.0)	-	(32.6)	部の細かいRL縄文内面ミガキ	重型 胴部中央よりやや上が膨らむ 波状口縁	海綿骨針 砂粒(泥岩・凝灰岩・チャート)
				d 20	Ⅲ	4								
				d 46	Ⅲ	1								
				d 47	Ⅲ	1								
				b 1	Ⅲ	1								
				b 12	Ⅲ	3								
				b 23	Ⅲ	7								
				b 24	Ⅲ	22								
				c 3	Ⅲ	16								
				c 4	Ⅲ	16								
c 1	Ⅲ	1												
L 53	1	Ⅲ	1											
L 52	b 3	Ⅲ	1											
				点数計		63	35							
V-7 7 22	IV a		L 53	8	Ⅲ	2		1	(13.8)	6.0	16.5	LR縄文部分施文内面無調整ナデ	小ぶりな一對の山形突起がつく	砂粒(泥岩・チャート・石英・白形角閃石)
				9	Ⅲ	1								
				22	Ⅲ	1								
				d 5	Ⅲ	1								
				d 6	Ⅲ	16								
d 7	Ⅲ	1												
d 18	Ⅲ	5												
				点数計		29	5							
V-7 7 23		M 54	b 2	Ⅲ	2			10.0	4.5	11.1	茶の閉鎖のあくRL縄文内面ナデ	小型平縁土器	海綿骨針 微細な砂粒	
V-7 7 24	IV a		M 50	a 2	Ⅰ	4		2	(19.5)	(9.1)	27.5	沈線区画無文帯斜格子目燃糸文	口縁がわずかに外反する深鉢	海綿骨針 砂粒(泥岩・チャート)
				a 1	Ⅲ	1								
				a 2	Ⅲ	1								
				b 2	Ⅲ	17								
				b 3	Ⅲ	9								
				c 1	Ⅲ	1								
				d 4	Ⅲ	1								
				d 3	Ⅲ	1								
				b 3	Ⅲ	2								
				b 35	Ⅲ	2								
				P 36	d 1	Ⅲ								
				点数計		38	12							
V-7 7 25	IV a		M 51	2	Ⅰ	2		1	-	11.2	(26.0)	斜格子目燃糸文 二条沈線で区画内面ミガキ底面一部ケズリ調整	深鉢	海綿骨針 微細な砂粒 (チャート)
				2	Ⅰ	3								
				4	Ⅲ	1								
				5	Ⅲ	1								
				a 3	Ⅲ	2								
				b 1	Ⅲ	5								
				b 2	Ⅲ	7								
				b 3	Ⅲ	2								
				b 3	Ⅲ	2								
				b 4	Ⅲ	5								
				b 6	Ⅲ	1								
				30	Ⅰ	2								
				31	2	Ⅲ								
31	d 3	Ⅲ	1											
				点数計		28	1							

掲載図書号	分類	通称名	グリッド	遺物番号	層位	接合点数	部位	同一個体未検 合点数	口径 (D)	底径 (d)	器高 (H)	施文特徴	器形	胎土中 の主な混入物
V-7 8 26	IV a		N 50 d	1	Ⅱ	1		2	(20.0)	-	(20.8)	斜格子目隠 糸文 肥厚口縁 山形突起 内外面ミガキ	深鉢	海綿骨針 砂粒(チャート・石英)
			N 50 d	2	Ⅱ	5	1	2						
V-7 8 27	IV a		N 51 b	3	Ⅰ	3		1	(18.2)	(6.3)	(26.6)	斜格子目隠 糸文 肥厚口縁 山形突起 内外面ミガキ	深鉢 (底部未接合)	海綿骨針 砂粒(肥岩・チャート)
			N 51 a	2	Ⅱ	1	1	1						
V-7 8 28	IV a		M 52 a	4	Ⅱ	1	A	1	(29.2)	-	(20.5)	斜格子目状 控糸文 突起頂部にく びみ 内面ミガキ	深鉢	海綿骨針 砂粒(砂岩・肥 岩・チャート)
			L 54 a	4	Ⅱ	1	A	1						
V-7 8 29	IV a		L 54 b	5	Ⅱ	1	A	1	(10.8)	5.8	15.8	斜格子目状 控糸文 山形突起 ミガキ?	小型深鉢	海綿骨針 砂粒(チャート・石英)
			M 50 a	3	Ⅱトレ	1	1	1						
V-7 8 30	Ⅱb		M 50 a	2	Ⅰ	1		2	(13.2)	(6.6)	19.6	糸が縦位に ぬれる控糸文	突起四か所 割部がわず かにふくら み、底部は張 り出す。	砂粒(肥岩・石英)
			M 50 d	2	Ⅱ	7	7							
V-7 8 31	IV a		N 51 a	2	Ⅱ	2		1	(11.5)	-	(13.1)	概ね糸が縦走 する控糸文 内面調整不 明瞭	口縁外反 割部やや膨ら む	海綿骨針 砂粒(肥岩・チャート)
			M 51 b	3	Ⅱ	2	2							
V-7 9 32	IV a	未注記	L 52 b	4	Ⅱ下部	4		1	(8.3)	4.3	(11.3)	縦位の控糸 文の後沈線	小型 割部膨らむ	海綿骨針 砂粒(肥岩・チャート)
			L 52 a	3	Ⅱ	2	2							
V-7 9 33	IV a		L 50 a	2	Ⅱ	7		1	(18.4)	-	(16.0)	板子字後、縦 線の沈線文 が施文	深鉢	海綿骨針 砂粒(肥岩・チャート・石 炭)
			L 50 b	3	Ⅱ	6	6							
V-7 9 34	IV a		K 48 c	5	Ⅱ	1		1	-	12.4	(27.5)	無文 板子字調整	底部張り出し	海綿骨針 砂粒(肥岩・チャート)
			L 48 d	4	Ⅱ	2	2							
V-7 9 35	IV a		L 45 d	6	Ⅱ	20		1	(13.9)	(7.1)	18.0	無文板子字後 すりナデ	平鉢	微細な砂粒
			L 52 a	1	Ⅱ	1	1							
V-7 9 36	IV a		L 52 b	5	Ⅱ	12		1	(11.9)	5.5	16.7	無文 板子字	小型深鉢	海綿骨針 砂粒(肥岩・チャート)
			L 49 a	6	Ⅱ	1	1							

表V-10 B地区包含層出土掲載土器一覧(拓本土器)

掲載図番号	分類	包含層地層	遺物 番号	器 種	報告 書	表 面 積	特 徴	出土 の 状況 と 注 意 点
V-7-11-44	土器 平片	J 47 L 44	25 1	風置直 1 1	3	1	1) 白磁土様式非線 画六本	高橋洋 洋輔
V-7-11-45	土器 平片	J 48 K 49 L 45	21 2 1	風置直 1 1	3	1	1) 白磁土様式非線 画六本	高橋洋 洋輔
			22 1	風置直 1	1			
			23 1	風置直 1	1			
V-7-11-48	土器 土片	M 55	4	高橋洋 洋輔	6	1	横瀬川沖積層の 下から出土	神林(近野)
V-7-11-47	土器 土片	P 57 Q 58	3 1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土様式非線 画六本	神林(近野)・石原
V-7-11-48	土器 土片	K 44 K 44 K 44 K 44 K 44 M 51 M 51	1 1 1 1 1 1 1	風置直 1 1 1 1 1 1 1	3	1	1) 白磁土様式非線 画六本 2) 土器の 破片	高橋洋 洋輔
			2	風置直 1	1			
			3	風置直 1	1			
			4	風置直 1	1			
			5	風置直 1	1			
			6	風置直 1	1			
V-7-11-49	土器 中片	L 53	42	高橋洋 洋輔	2	1	横瀬川に埋納さ れた土器	神林(近野)
V-7-11-50	土器 中片	O 28 P 28	2 2	高橋洋 洋輔	1	1	平瀬 1) 白磁土	神林(近野)
V-7-11-51	土器 中片	M 55	3	高橋洋 洋輔	1	1	1) 横瀬川沖積層 から出土	高橋洋 洋輔
V-7-11-52	土器 中片	N 46 N 45 N 45 N 46	1 1 1 1	高橋洋 洋輔	4	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-11-53	土器 中片	M 46	1	高橋洋 洋輔	6	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-11-54	土器 中片	J 43	3	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・ 石原
V-7-11-55	土器 中片	M 54	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-11-56	土器 中片	L 53	4	高橋洋 洋輔	9	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-11-57	土器 中片	J 48 K 49	4 4	高橋洋 洋輔	8	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-11-58	土器 中片	N 46	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-11-59	土器 中片	M 53	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-11-60	土器 中片	K 47	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-11-61	土器 中片	J 50	23	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-11-62	土器 中片	L 46	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)
V-7-11-63	土器 見	L 28 L 28 L 28 L 28 L 28	10 6 7 14 2	風置直 1 1 1 1 1	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
			11	風置直 1	1			
			12	風置直 1	1			
			13	風置直 1	1			
			14	風置直 1	1			
V-7-11-64	土器 見	L 28 L 28 L 28	12 10 10	風置直 1 1 1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原	
V-7-12-65	土器 見	M 55 M 56	2 2	高橋洋 洋輔	2	1	1) 横瀬川沖積層 から出土	高橋洋 洋輔
V-7-12-66	土器 見	M 56	2	高橋洋 洋輔	3	1	1) 横瀬川沖積層 から出土	高橋洋 洋輔
V-7-12-67	土器 見	N 56	2	高橋洋 洋輔	1	1	1) 横瀬川沖積層 から出土	高橋洋 洋輔
V-7-12-68	土器 見	L 34 L 34	26 23	風置直 1 1	7	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-69	土器 見	O 57	3	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-70	土器 見	M 55	1	高橋洋 洋輔	2	3	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-71	土器 見	L 30	1	高橋洋 洋輔	2	3	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-72	土器 見	I 48	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-73	土器 見	L 29 L 29	23 23	風置直 1 1	7	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-74	土器 見	M 52 M 52	2 2	高橋洋 洋輔	2	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-75	土器 見	N 53 N 53	4 4	高橋洋 洋輔	4	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-76	土器 見	M 53	3	高橋洋 洋輔	2	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-77	土器 見	K 44	3	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-78	土器 見	N 55	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-79	土器 見	O 34 O 34	1 1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-80	土器 見	K 38 M 55	2 1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-81	土器 見	M 56 M 56	6 1	高橋洋 洋輔	3	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-82	土器 見	K 43	1	高橋洋 洋輔	2	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-83	土器 見	O 47	1	高橋洋 洋輔	9	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-84	土器 見	L 53	25	高橋洋 洋輔	2	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-85	土器 見	O 56 O 56	2 2	高橋洋 洋輔	8	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-86	土器 見	N 59 N 59	22 20	高橋洋 洋輔	7	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-87	土器 見	M 59 M 59	30 30	高橋洋 洋輔	20	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-88	土器 見	M 30 M 30 M 30	1 4 1	高橋洋 洋輔	2	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-89	土器 見	O 27 L 28 L 28	1 1 1	高橋洋 洋輔	17	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-90	土器 見	L 28 L 28 L 28	10 10 10	高橋洋 洋輔	3	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-91	土器 見	K 43 L 44	1 1	高橋洋 洋輔	6	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-92	土器 見	O 42	1	高橋洋 洋輔	10	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-93	土器 見	L 28 L 28 L 28	19 19 19	風置直 1 1 1	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-12-94	土器 見	L 53	3	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-95	土器 見	L 28 L 28 L 28	10 10 10	風置直 1 1 1	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-96	土器 見	L 55 L 55	1 1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-97	土器 見	L 29	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-98	土器 見	M 50	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-12-99	土器 見	L 24 M 54	1 1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-13-100	土器 見	L 15 L 15	1 1	高橋洋 洋輔	2	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-13-101	土器 見	N 51 L 28 L 28	1 1 1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-13-102	土器 見	K 43 L 28 L 28	1 1 1	高橋洋 洋輔	4	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-13-103	土器 見	K 43	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-13-104	土器 見	L 34 L 34	13 13	風置直 1 1	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-13-105	土器 見	N 56	1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔
V-7-13-106	土器 見	J 43 J 43	1 1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-13-107	土器 見	L 48 L 48	1 1	高橋洋 洋輔	1	1	1) 白磁土	神林(近野)・石原
V-7-13-108	土器 見	L 28 L 28 L 28	10 10 10	風置直 1 1 1	2	1	1) 白磁土	高橋洋 洋輔

掲載図書番号	分類	包含種別	種別	原書	複製	表紙	内容	特徴	著者の主な別人
V 7 18 131	W	M 51	1	1	1	1	1	2年級算数、理科、英語の教科書(国・数・英)	
		N 50	1	1	1	1			
		N 51	8	1	1	1			
		N 51	8	1	1	1			
V 7 18 132	W	K 151	1	1	1	1	小学用算数用(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 133	W	L 129	1	1	1	1	小学用算数用(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 134	W	N 54	8	1	1	1	1	算数・英語・理科(国・数・英)	
		M 54	2	1	1	1			
		L 50	2	1	1	1			
		L 50	2	1	1	1			
		L 51	8	1	1	1			
		N 54	2	1	1	1			
		N 54	2	1	1	1			
V 7 18 135	W	L 45	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 136	W	M 50	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 137	W	K 50	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 138	W	J 48	2	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 139	W	N 155	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 140	W	N 153	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 141	W	L 141	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 142	W	CO 155	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 143	W	L 128	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 144	W	M 155	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 145	W	M 150	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 146	W	N 153	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 147	W	J 117	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 148	W	L 131	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 149	W	M 49	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 150	W	R 53	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 151	W	L 53	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 152	W	K 44	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 153	W	M 51	3	1	1	1	1	算数(国・数・英)	
		M 51	3	1	1	1			
		M 51	3	1	1	1			
		M 51	3	1	1	1			
V 7 18 154	W	K 43	2	1	1	1	1	算数(国・数・英)	
		K 44	2	1	1	1			
		K 44	2	1	1	1			
V 7 18 155	W	N 50	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 156	W	K 43	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 157	W	L 53	43	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
V 7 18 158	W	M 50	2	1	1	1	1	算数(国・数・英)	
		M 51	2	1	1	1			
V 7 18 159	W	L 50	3	1	1	1	1	算数(国・数・英)	
		L 51	1	1	1	1			
		L 51	1	1	1	1			
		L 51	1	1	1	1			
		L 51	1	1	1	1			
		L 51	1	1	1	1			
		L 51	1	1	1	1			
		L 51	1	1	1	1			
		L 51	1	1	1	1			
		L 51	1	1	1	1			
		L 51	1	1	1	1			
		L 51	1	1	1	1			

掲載図書番号	分類	包含種別	種別	原書	複製	表紙	内容	特徴	著者の主な別人				
V 7 18 160	W	L 50	2	1	1	1	1	算数(国・数・英)					
		L 51	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		L 52	2	1	1	1							
		V 7 18 141	W	L 44	1	1	1			1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
		V 7 18 142	W	L 51	1	1	1			1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
		V 7 18 143	W	J 48	1	1	1			1	算数(国・数・英)	算数(アード)	
		V 7 18 144	W	K 49	3	1	1			1	1	算数(国・数・英)	
				K 49	3	1	1			1			
K 49	3			1	1	1							
K 49	3			1	1	1							
K 49	3			1	1	1							
V 7 18 145	W	J 43	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)					
V 7 18 146	W	M 50	1	1	1	1	1	算数(国・数・英)					
		M 50	1	1	1	1							
V 7 18 147	W	N 51	4	1	1	1	1	算数(国・数・英)					
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
		N 51	3	1	1	1	1						
V 7 18 148	W	M 54	1	1	1	1	1	算数(国・数・英)					
		M 54	1	1	1	1							
		M 54	1	1	1	1							
		M 54	1	1	1	1							
V 7 18 149	W	K 53	18	1	1	1	1	算数(国・数・英)					
		K 53	18	1	1	1	1						
		K 53	18	1	1	1	1						
		K 53	18	1	1	1	1						
		K 53	18	1	1	1	1						
		K 53	18	1	1	1	1						
		K 53	18	1	1	1	1						
		K 53	18	1	1	1	1						
		K 53	18	1	1	1	1						
V 7 18 150	W	M 51	2	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)					
V 7 18 151	W	M 49	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)					
V 7 18 152	W	L 46	1	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)					
V 7 18 153	W	M 43	1	1	1	1	1	算数(国・数・英)					
		M 43	1	1	1	1							
V 7 18 154	W	N 52	4	1	1	1	算数(国・数・英)	算数(アード)					

V章 館野2遺跡B地区の調査

縄縄図番号	分類	包含層地層	遺物 番号	部位	接合	表 接合	特徴	出土の 主な人物
V-7-18-155	Ⅱa	J 48 c 1 J 48 c 2 J 48 c 3	1	1	1	1	高野遺跡 高野(遺跡)による 土	高野遺跡 高野(遺跡)による 土
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
			4	4	4	4		
			5	5	5	5		
V-7-18-156	Ⅱa	K 51 M 49 K 42 M 51	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
			4	4	4	4		
			5	5	5	5		
V-7-18-157	Ⅱa	M 51 M 51 L 54 M 50 M 50 M 50 M 50 M 51 M 51 M 51 M 51	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
			4	4	4	4		
			5	5	5	5		
			6	6	6	6		
			7	7	7	7		
			8	8	8	8		
			9	9	9	9		
			10	10	10	10		
			11	11	11	11		
V-7-18-158	Ⅱa	M 50 M 51 M 50 M 50 M 50 L 51 M 51 M 51 M 51 M 51	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
			4	4	4	4		
			5	5	5	5		
			6	6	6	6		
			7	7	7	7		
			8	8	8	8		
			9	9	9	9		
			10	10	10	10		
			11	11	11	11		
V-7-18-159	Ⅱa	J 49 M 48	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-18-160	Ⅱa	M 51 M 49 M 49	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-18-161	Ⅱa	K 44 K 44 K 44 K 44	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-18-162	Ⅱa	K 44 K 44 K 44	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-18-163	Ⅱa	L 53 L 52 K 52 K 52 K 52 K 52	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
			4	4	4	4		
			5	5	5	5		
V-7-18-164	Ⅱa	L 47 L 47 M 47	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-18-165	Ⅱa	M 51	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-166	Ⅱa	L 51 L 51 L 51	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-18-167	Ⅱa	K 49 K 49	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-168	Ⅱa	L 50 L 50 L 50	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-18-169	Ⅱa	K 48 J 49 K 48	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-18-170	Ⅱa	L 49 L 49 L 50 L 50	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
			4	4	4	4		
			5	5	5	5		
V-7-18-171	Ⅱa	K 44	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-18-172	Ⅱa	M 53	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-173	Ⅱa	I 48 I 48 I 48	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		

縄縄図番号	分類	包含層地層	遺物 番号	部位	接合	表 接合	特徴	出土の 主な人物
V-7-18-174	Ⅱa	J 47 J 48 J 48 K 49 K 49 J 47 J 47 J 49 J 49 K 48	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
			4	4	4	4		
			5	5	5	5		
			6	6	6	6		
			7	7	7	7		
			8	8	8	8		
			9	9	9	9		
			10	10	10	10		
			11	11	11	11		
V-7-18-175	Ⅱa	J 48 J 48	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-176	Ⅱa	K 49 K 49 K 49 K 49 K 49 K 49 K 49	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
			4	4	4	4		
			5	5	5	5		
V-7-18-177	Ⅱa	J 48 J 48	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-178	Ⅱa	M 50 M 50	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-179	Ⅱa	L 53 L 53	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-180	Ⅱa	M 51 M 51	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-181	Ⅱa	M 51 M 51	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-182	Ⅱa	M 52 M 52 M 52 M 52 M 52 M 52 M 52 M 52 M 52	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
			4	4	4	4		
			5	5	5	5		
			6	6	6	6		
			7	7	7	7		
			8	8	8	8		
			9	9	9	9		
			10	10	10	10		
			11	11	11	11		
V-7-18-183	Ⅱa	M 50 M 50 M 50	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-184	Ⅱa	K 44 K 44	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-185	Ⅱa	L 44 L 44	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-186	Ⅱa	M 49 M 49	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-187	Ⅱa	O 36 O 36	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-188	Ⅱa	O 36 O 36	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
V-7-18-189	Ⅱa	O 36 O 36 O 36	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-18-190	Ⅱa	K 49 K 49 K 49 K 48	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-20-191	Ⅱa	N 45 N 45 N 45	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
V-7-20-192	Ⅱa	M 51 M 51 M 51 M 51 M 51 M 51 I 48 K 48 L 50 M 51 M 50 M 51 N 50 N 50 N 51	1	1	1	1	高野遺跡の上 高野(遺跡)の遺物	高野遺跡 高野(遺跡)
			2	2	2	2		
			3	3	3	3		
			4	4	4	4		
			5	5	5	5		
			6	6	6	6		
			7	7	7	7		
			8	8	8	8		
			9	9	9	9		
			10	10	10	10		
			11	11	11	11		

掲載図書番号	分類	包含種別(種別)	種別番号	原題	訳題	著者	著者の 主な生年人物
V 7 20 193	IV a	L	L 45 b 1	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			L 45 b 2	聖書	1		
			L 45 b 3	聖書	3		
			L 45 b 4	聖書	4		
V 7 20 194	IV a	M	M 51 d 1	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			L 51 a 1	聖書	1		
			M 51 a 2	聖書	2		
			M 51 a 3	聖書	3		
V 7 20 195	IV a	K	K 44 c 8	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			K 44 c 9	聖書	2		
V 7 20 196	IV a	K	K 48 d 3	聖書	3	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			K 48 d 6	聖書	6		
			K 48 d 7	聖書	7		
			K 48 d 8	聖書	8		
			K 48 d 10	聖書	10		
			K 49 a 2	聖書	2		
			K 51 b 3	聖書	3		
			K 48 c 5	聖書	5		
			K 48 c 4	聖書	4		
			K 48 c 3	聖書	3		
V 7 20 197	IV a	M	M 49 b 1	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 50	聖書	2		
V 7 20 198	IV a	K	L 52	聖書	9	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 20 199	IV a	J	J 43	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 20 200	IV a	L	L 34 c 1	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 20 201	IV a	N	N 53	聖書	4	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 20 202	IV a	L	L 52	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 21 203	IV a	L	L 53	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 21 204	IV a	K	K 52 a 8	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			L 50 c 2	聖書	2		
V 7 21 205	IV a	M	M 150	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 21 206	IV a	N	N 51	聖書	4	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 21 207	IV a	K	K 44 c 5	聖書	5	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 21 208	IV a	K	K 44 b 4	聖書	4	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 21 209	IV a	K	L 51	聖書	119	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 21 210	IV a	L	L 45 d 3	聖書	3	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 21 211	IV a	K	K 53	聖書	4	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 21 212	IV a	N	N 52 a 8	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			N 52 b 1	聖書	2		
V 7 21 213	IV a	L	L 53 b 12	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			L 53 b 23	聖書	3		
V 7 21 214	IV a	N	N 50 d 2	聖書	8	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			N 50 d 3	聖書	8		
			N 50 d 4	聖書	8		
V 7 21 215	IV a	N	N 48 a 3	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			N 48 a 4	聖書	2		
V 7 21 216	IV a	M	M 51 b 4	聖書	4	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 51 b 5	聖書	4		
V 7 21 217	IV a	N	N 149	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			N 149	聖書	1		
V 7 21 218	IV a	M	M 44 d 1	聖書	3	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 44 d 2	聖書	3		
V 7 21 219	IV a	M	M 51 d 2	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 51 d 4	聖書	4		
			M 51 d 5	聖書	5		
			M 51 d 6	聖書	6		
			M 51 d 7	聖書	7		
			M 51 d 8	聖書	8		
			M 51 d 9	聖書	9		
			M 51 d 10	聖書	10		
			M 51 d 11	聖書	11		
			M 51 d 12	聖書	12		
V 7 21 220	IV a	M	M 56	聖書	50	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 56	聖書	50		
V 7 21 221	IV a	L	L 53	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
V 7 21 222	IV a	L	L 46 b 6	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			L 46 b 7	聖書	1		
			L 46 b 8	聖書	1		
			M 44 c 3	聖書	3		

掲載図書番号	分類	包含種別(種別)	種別番号	原題	訳題	著者	著者の 主な生年人物
V 7 22 223	IV a	M	M 49 c 6	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 49 c 7	聖書	2		
			M 49 c 8	聖書	2		
V 7 22 224	IV a	M	M 54	聖書	21	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
			M 54	聖書	21		
V 7 22 225	IV a	M	M 53 c 3	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 53 c 4	聖書	2		
			M 53 b 4	聖書	4		
			M 53 b 4	聖書	4		
V 7 22 226	IV a	M	M 53 d 1	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 53 d 2	聖書	2		
			M 53 d 3	聖書	2		
			M 53 d 4	聖書	2		
V 7 22 227	IV a	M	M 53 d 5	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 53 d 6	聖書	2		
			M 53 d 7	聖書	2		
			M 53 d 8	聖書	2		
V 7 22 228	IV a	N	N 50	聖書	4	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			N 50	聖書	4		
			N 50	聖書	4		
			N 50	聖書	4		
			N 50	聖書	4		
			N 50	聖書	4		
			N 50	聖書	4		
			N 50	聖書	4		
			N 50	聖書	4		
			N 50	聖書	4		
V 7 22 229	IV a	L	L 53	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			L 53	聖書	1		
			L 53	聖書	1		
			L 53	聖書	1		
V 7 22 230	IV a	L	L 50 c 1	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			L 50 c 2	聖書	1		
			L 50 c 3	聖書	1		
			L 51	聖書	1		
			L 51	聖書	1		
			L 51	聖書	1		
			L 51	聖書	1		
			L 51	聖書	1		
			L 51	聖書	1		
			L 51	聖書	1		
V 7 22 231	IV a	K	K 56	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			K 56	聖書	1		
V 7 22 232	IV a	K	K 53	聖書	1	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			K 53	聖書	1		
V 7 22 233	IV a	M	M 54	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
			M 54	聖書	2		
V 7 22 234	IV a	M	M 50	聖書	2	11冊以下に 記載あり	高橋謙吾 神学(聖書・神学)
			M 50	聖書	2		
			M 50	聖書	2		
			M 50	聖書	2		
			M 50	聖書	2		
			M 50	聖書	2		
			M 50	聖書	2		
			M 50	聖書	2		
			M 50	聖書	2		
			M 50	聖書	2		

掲載図番号	分期	包含層地層	遺物番号	部位	接合	表裏	特徴	出土の 主な出土人物
V. 7. 23. 235	IVa	M 250	M 50	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			M 50	2	1	4		
			M 50	3	1	4		
			M 50	4	1	2		
			M 50	5	1	2		
V. 7. 24. 236	IVa	L 45	L 45	3	1	14	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			L 45	4	1	1		
			L 45	5	1	10		
			L 45	6	1	10		
			L 45	7	1	1		
V. 7. 24. 237	IVa	M 50	M 50	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			M 50	4	1	1		
V. 7. 24. 238	IVa	N 150	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 24. 239	IIIa	P 151	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 24. 240	IVa	Q 158	Q 158	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			Q 158	5	1	1		
V. 7. 24. 241	IVa	L 50	L 50	2	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			L 50	3	1	1		
			L 50	4	1	1		
			L 50	5	1	2		
			L 50	6	1	2		
			L 50	7	1	1		
			L 50	8	1	1		
			L 50	9	1	1		
			L 50	10	1	1		
			L 50	11	1	1		
			L 50	12	1	1		
			L 50	13	1	1		
			L 50	14	1	1		
			L 50	15	1	1		
			V. 7. 24. 242	IVa	K 49	K 49		
K 49	2	1				1		
V. 7. 24. 243	IVa	M 49	M 49	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			M 49	2	1	1		
			M 49	3	1	1		
V. 7. 24. 244	IVa	J 46	J 46	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			J 46	2	1	1		
V. 7. 24. 245	IVa	M 54	M 54	2	1	2	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			M 54	3	1	1		
			M 54	4	1	4		
			M 54	5	1	4		
V. 7. 24. 246	IVa	K 44	K 44	3	1	3	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			K 44	4	1	1		
			K 44	5	1	1		
V. 7. 24. 247	IVa	L 53	L 53	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			L 53	2	1	1		
V. 7. 24. 248	IVa	L 50	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 24. 249	IVa	M 47	M 47	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			M 47	2	1	1		
V. 7. 24. 250	IVa	K 44	K 44	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			K 44	2	1	1		
			K 44	3	1	1		
			K 44	4	1	1		
			K 44	5	1	1		
V. 7. 24. 251	IVa	K 44	K 44	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			K 44	2	1	1		
			K 44	3	1	1		
			K 44	4	1	1		
			K 44	5	1	1		
V. 7. 24. 252	IVa	M 50	M 50	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			M 50	2	1	1		
			M 50	3	1	1		

掲載図番号	分期	包含層地層	遺物番号	部位	接合	表裏	特徴	出土の 主な出土人物
V. 7. 24. 253	IVa	M 54	M 54	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			M 54	2	1	1		
			M 54	3	1	1		
			M 54	4	1	1		
			M 54	5	1	1		
			M 54	6	1	1		
			M 54	7	1	1		
V. 7. 25. 254	IVa	M 47	M 47	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			M 47	2	1	1		
			M 47	3	1	1		
			M 47	4	1	1		
			M 47	5	1	1		
			M 47	6	1	1		
			M 47	7	1	1		
			M 47	8	1	1		
			M 47	9	1	1		
			M 47	10	1	1		
V. 7. 25. 255	IVa	K 51	K 51	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			K 51	2	1	1		
			K 51	3	1	1		
			K 51	4	1	1		
			K 51	5	1	1		
V. 7. 25. 256	IVa	L 51	L 51	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			L 51	2	1	1		
			L 51	3	1	1		
			L 51	4	1	1		
			L 51	5	1	1		
V. 7. 26. 257	IVa	I 46	I 46	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			I 46	2	1	1		
V. 7. 26. 258	IVa	L 52	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 26. 259	IVa	M 47	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 26. 260	IVa	N 51	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 26. 261	IVa	K 45	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 26. 262	IVa	K 53	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 26. 263	IVa	L 50	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 26. 264	IVa	L 51	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 26. 265	IVa	K 43	K 43	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			K 43	2	1	1		
			K 43	3	1	1		
			K 43	4	1	1		
			K 43	5	1	1		
V. 7. 26. 266	IVa	L 43	L 43	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			L 43	2	1	1		
V. 7. 26. 267	IVa	L 43	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 26. 268	IVa	M 50	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 26. 269	IVa	L 54	L 54	4	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			L 54	5	1	1		
			L 54	6	1	1		
			L 54	7	1	1		
			L 54	8	1	1		
V. 7. 26. 270	IVa	L 41	L 41	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明
			L 41	2	1	1		
V. 7. 27. 271	IVa	M 44	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 27. 272	IVa	L 32	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 27. 273	IVa	M 35	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 27. 274	IVa	M 43	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	
V. 7. 27. 275	IVa	N 54	1	1	1	高麗磁器 高麗磁器(青 文)	出土人物不明	

掲載図書番号	分類	包含原掲載区	種別番号	種別	種別	表紙	特徴	第十の五五九種人物
V 7 27 276	Wa	N 48 a 4	書	3	4	1	中絶断片 神代(心霊・自然)	神代(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 277	Wa	K 49 B 4	書	1	3	1	中絶断片 断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 278	Wa	O 50 I	書	1	3	1	中絶断片 断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 279	Wa	N 49 a 1	書	1	1	22	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 280	Wa	L 41 d 3	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 281	Wa	L 51 a 4	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 282	Wa	M 54 P 52	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 283	Wa	O 54 O 57	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 284	Wa	O 58 B 52	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 285	Wa	O 48 a 1	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 286	Wa	N 47 c 1	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 287	Wa	L 52 c 1	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 288	V	F 58 B	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 289	V	R 48 a 1	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 290	V	R 48 b 37	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 27 291	V	I 1	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 292	K	43 I 14	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 293	M	47 a 11	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 294	Wa	M 49 B 15	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 295	Wa	L 155 a 13	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 296	Wa	K 44 c 56	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 297	Wa	L 149 a 16	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 298	Wa	N 51 c 13	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 299	Wa	M 51 B 3	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 300	Wa	M 47 I 1	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 301	Wa	K 51 K 51	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 302	L	153 a 13	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 303			書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 304	Wa	K 44 B 5	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 305	F	49 58	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 306			書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 307	Wa	N 156 I 3	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 308	F	143 15	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 309	Wa	L 148 c 17	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 310	Wa	L 155 a 13	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 311	K	131 I 1	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 312	M	51 c 11	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 313	M	47 a 10	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
V 7 28 314	L	44 b 6	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
圖書	315	D F 22 4	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
圖書	316	N 51 54	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
圖書	317	L 48 7	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						

掲載図書番号	分類	包含原掲載区	種別番号	種別	種別	表紙	特徴	第十の五五九種人物
圖書	318	L 47 B 13	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
圖書	319	J 48 B 11	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						
圖書	320	N 54 c 2	書	1	1	1	断片(心霊・自然)	断片(心霊・自然)
		点数計						

表V-11 B地区包含層出土掲載石器一覧

掲載順番号	グリッド	遺物番号	層位	日付	種別	分類	鑑定記号	点数	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	アスファルト 光沢	備考	
図V-7-30	1	I 48	8	2007/05/23	細片石器	石鏃	I A 3	1	Obs	12.10	1.40	0.25	0.83			
	2	M 49 d	3	2007/08/29	細片石器	石鏃	I A 5	1	SW	2.70	1.50	0.20	1.20	○		
	3	K 43 b	4	2007/08/24	細片石器	石鏃	I A 5	1	SW	2.90	1.25	0.25	0.88			
	4	K 48 d	14	2007/08/13	細片石器	石鏃	I A 5	1	Sh	4.90	1.00	0.40	2.17	○		
	5	J 30	12	2007/05/28	細片石器	石鏃	I A 5	1	Sh	2.90	1.20	0.35	1.22	○		
	6	I 46	11	2007/05/24	細片石器	石鏃	I A 5	1	SW	4.00	0.90	0.43	1.43	○		
	7	I 46	12	2007/05/28	細片石器	石鏃	I A 5	1	Ag	3.90	1.40	0.55	2.28			
	8	K 51	33	2007/05/28	細片石器	石鏃	I A 5	1	Sh	3.90	1.20	0.50	1.80			
	9	L 54 a	8	2007/08/19	細片石器	石鏃	I A 5	1	Sh	4.00	1.50	0.70	2.84		遺物集申%12	
	10	N 51	7	2007/07/18	細片石器	石鏃	I A 5	1	SW	3.40	1.50	0.45	1.82			
	11	Q 58	6	2007/05/21	細片石器	石鏃	I A 5	1	Sh	4.00	1.20	0.60	2.18			
	12	L 34	33	1	2007/07/28	細片石器	石鏃	I A 5	1	SW	3.90	1.50	0.50	2.00		
	13	N 52 b	2	2007/10/04	細片石器	石鏃	I A 8	1	Sh	13.10	1.30	0.70	2.41			
	14	L 30 c	5	2007/05/25	細片石器	石槍	I B 1	1	Obs	6.40	2.90	0.90	12.19			
	15	M 33 d	3	2007/07/28	細片石器	石槍	I B 2	1	Sh	6.70	2.00	1.20	19.59			
	16	N 50	9	2007/07/11	細片石器	石槍	I B 2	1	Sh	8.20	2.60	1.00	20.60			
	17	L 29 c	3	2007/05/19	細片石器	石鏃	I A 2	1	Rd	2.50	0.80	0.50	0.91			
	18	N 50	10	1	2007/07/10	細片石器	石鏃	I A 1	1	Sh	3.00	2.30	0.60	3.38		
19	L 29 c	17	2007/05/21	細片石器	つまみ付きナイフ	I A 1	1	Sh	5.60	2.20	0.50	3.85				
20	K 48 d	15	2007/08/12	細片石器	つまみ付きナイフ	I A 3	1	Ch	7.40	4.40	1.50	31.92				
21	L 47 b	9	2007/08/28	細片石器	つまみ付きナイフ	I A 4	1	Sh	0.70	3.60	1.20	35.28				
22	L 52	4	2007/05/28	細片石器	つまみ付きナイフ	I A 5	1	SSh	3.60	(4.50)	1.15	12.20				
23	K 46 b	5	2007/08/27	細片石器	スクレイパー	I B 1	1	SSh	4.40	2.50	1.00	9.41				
24	M 47	4	1	2007/07/13	細片石器	スクレイパー	I B 1	1	Sh	6.60	2.90	2.20	44.13			
25	I 46	3	2007/05/17	細片石器	スクレイパー	I B 1	1	SW	3.50	1.90	0.70	63.20				
26	K 48 a	11	2007/08/13	細片石器	スクレイパー	I B 1	1	Sh	7.00	2.20	1.20	44.84				
27	L 51 c	7	2007/08/27	細片石器	スクレイパー	I B 1	1	Sh	6.70	2.40	1.50	24.60				
28	K 47 a	5	2007/08/05	細片石器	スクレイパー	I B 2 a	1	Sh	8.20	4.40	1.30	40.20	○			
29	N 52	9	1	2007/10/04	細片石器	スクレイパー	I B 2 a	1	Sh	6.50	3.70	1.20	29.50	○		
30	P 37 a	3	2007/10/09	細片石器	スクレイパー	I B 2 a	1	Sh	7.60	3.90	1.50	39.72	○			
31	M 33 c	2	2007/10/03	細片石器	スクレイパー	I B 2 a	1	Sh	6.90	3.90	1.10	26.13	○			
32	M 29 d	22	2007/05/31	細片石器	スクレイパー	I B 2 b	1	Sh	9.60	5.00	1.10	38.70	○			
33	L 53	2	2007/05/28	細片石器	スクレイパー	I B 2 b	1	Sh	7.10	3.00	0.90	21.42	○			
34	L 32 c	3	2007/05/22	細片石器	スクレイパー	I B 2 b	1	SSh	7.10	2.90	1.40	22.75	○			
35	N 47 b	2	2007/08/19	細片石器	スクレイパー	I B 2 b	1	SSh	7.00	3.70	1.90	47.50	○			
36	J 48	15	2007/10/15	細片石器	スクレイパー	I B 2 b	1	Sh	7.00	3.60	1.30	37.44	○			
37	L 44 d	11	2007/08/31	細片石器	スクレイパー	I B 2 b	1	Sh	9.50	5.40	1.80	84.53	○			
38	M 33	4	2007/07/24	細片石器	スクレイパー	I B 2 b	1	An	9.10	7.00	1.90	82.53	○			
39	Q 36 d	3	2007/07/31	細片石器	スクレイパー	I B 3 a	1	Sh	8.00	4.60	1.40	56.16				
40	O 37 c	2	2007/06/19	細片石器	スクレイパー	I B 3 a	1	Rd	6.40	8.10	1.85	63.04				
41		19	2007/04/28	細片石器	両面調整石鏃	I VA	1	Sh	8.20	6.10	2.00	116.28				
42	L 51 a	12	2007/08/27	細片石器	両面調整石鏃	I VA	1	Sh	8.50	6.90	3.20	171.34				
43	M 37	14	2007/05/17	細片石器	Rフレイク	X I A 1 b	1	Sh	3.20	2.10	1.10	6.34				
44	L 29 a	18	2007/05/22	細片石器	Rフレイク	X I A 1 b	1	Sh	2.10	3.70	0.90	5.16				
45	M 34	4	1	2007/07/03	細片石器	Rフレイク	X I A 1 b	1	Sh	9.50	5.20	2.15	92.42			
46	L 32 d	5	2007/06/18	細片石器	Rフレイク	X I A 1 b	1	Sh	6.30	4.90	1.40	31.14				
47	L 29 b	2	2007/05/16	細片石器	Rフレイク	X I A 1 b	1	Rd	8.50	6.90	2.10	103.63				
48	L 53	24	2007/06/11	細片石器	Rフレイク	X I A 1 b	1	SSh	5.10	4.40	1.55	23.07				
49	P 36 c	1	2007/10/10	細片石器	Rフレイク	X I A 1 b	1	SSh	3.50	3.90	1.40	21.41				
50	M 30 b	8	2007/10/01	細片石器	Rフレイク	X I A 1 b	1	Sh	3.80	5.20	1.70	41.89				
51	M 54	29	1	2007/07/04	細片石器	Rフレイク	X I A 2 b	1	Sh	5.50	6.00	2.10	81.10			
52	N 51 d	7	2007/07/19	細片石器	Rフレイク	X I A 2 b	1	Sh	5.70	7.00	2.20	73.63				
53	L 49 b	9	2007/08/14	細片石器	Rフレイク	X I A 1 b	1	Sh	8.80	7.40	2.90	139.53				
54	K 49	12	2007/07/12	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	8.00	3.90	0.80	23.00	○			
55	K 49 b	5	2007/08/06	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	7.00	4.90	1.30	29.12	○			
56	N 48	4	1	2007/09/21	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	10.70	4.60	1.50	71.39	○		
57	J 49	21	2007/07/17	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	8.50	4.80	1.40	46.47	○			
58	M 30 c	10	2007/05/29	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	6.90	3.40	1.20	28.15	○			
59	M 54	54	2007/07/09	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	5.80	4.10	1.10	18.28	○			
60	L 32 a	7	2007/05/23	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	SSh	5.90	5.90	3.90	67.59	○			
61	M 35 a	7	2007/10/11	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	3.50	3.30	0.70	6.90	○			
62	M 35 c	9	2007/10/03	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	6.70	4.40	1.20	28.30	○			
63	L 33	2	2007/05/16	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	SW	5.20	2.40	0.90	7.26	○			
64	M 35 b	8	2007/10/03	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	5.60	3.10	0.90	10.33	○			
65	M 51	11	1	2007/07/11	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	3.20	4.10	1.40	15.03	○		
66	O 36 c	6	2007/10/04	細片石器	Uフレイク	X I A 2	1	Sh	8.10	4.90	1.70	66.13	○			
67	L 54 b	11	2007/08/19	細片石器	石槍	X B A 1	1	Rd	10.70	7.20	4.90	374.00				

用取図番号	グリッド	建物の番号	層位	日付	種別	分節	細分記号	点数	材質	長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重量(kg)	規格	備考	
図V-7-36	68	L 50 c	5	2007/07/13	押片石	石枕	X B A 1	1	Sh	7.20	6.70	4.20	229.10			
	69	L 54	52	2007/06/08	押片石	石枕	X B A 1	1	sh	8.00	6.80	4.90	250.83			
	70	K 48 d	19	2007/09/13	押片石	石枕	X B A 1	1	Sh	4.10	11.30	3.90	180.24		遺物集中%55	
図V-7-38	71	L 53 a	17	2007/06/19	押片石	石枕	X B A 1	1	Ch	105.00	9.00	7.00	662.00			
	72	L 33	21	1	2007/07/24	礎石	石斧	V A 1	1	G-Tu	12.00	6.10	1.25	172.63		
	73	P 57 b	3	2007/10/09	礎石	石斧	V A 4	1	G-Tu	11.70	4.70	2.90	280.97			
図V-7-39	74	M 50 c	5	2007/07/25	礎石	石斧	V A 4	1	Gri	13.20	4.70	2.50	278.03		遺物集中%37	
	75	K 48 a	12	2007/09/11	礎石	石斧	V A 4	1	Gri	6.70	3.40	2.00	70.28			
	76	J 49	68	2007/07/13	礎石	石斧	V A 4	1	Gri	8.90	3.70	2.70	128.46		遺物集中%66	
図V-7-39	77	L 53 c	8	2007/06/19	礎石	石斧	V A 6	1	G-Tu	9.70	4.20	3.05	188.25			
	78	K 48 d	51	2007/09/11	礎石	石のみ	V B	1	Sc	6.80	1.90	1.00	23.71			
	79	J 49	28	2007/05/25	礎石	たたき石	V A 1	1	An	7.70	8.90	4.30	310.00			
図V-7-39	80	M 31 b	7	2007/05/25	礎石	たたき石	V A 1	1	Ch	7.20	6.50	4.60	290.00			
	81	N 51	15	1	2007/07/17	礎石	たたき石	V A 1	1	Qua	7.90	6.40	3.40	199.00		
	82	L 51 b	6	2007/09/27	礎石	たたき石	V A 1	1	SS	7.90	3.30	1.60	62.00			
図V-7-39	83	K 44 d	30	2007/09/04	礎石	たたき石	V A 2	1	Qua	6.90	5.40	4.70	253.00			
	84	L 48	12	2007/09/18	礎石	たたき石	V A 1	1	Rh	8.30	8.10	5.30	420.00			
	85	L 49 a	10	2007/09/19	礎石	たたき石	V A 2	1	SS	6.70	10.50	4.10	320.00			
図V-7-39	86	K 45	9	1	2007/07/04	礎石	たたき石	V A 2	1	Tu	6.20	12.00	2.60	255.00		
	87	L 50 b	8	2007/10/01	礎石	たたき石	V A 2	1	Tu	7.30	18.10	3.40	440.00			
	88	M 56	47	2007/10/18	礎石	たたき石	V A 3	1	SS	10.10	7.60	4.90	600.00			
図V-7-39	89	M 55 c	8	2007/10/03	礎石	たたき石	V A 3	1	Tu	9.20	5.00	3.50	175.00			
	90	M 48	5	2007/09/20	礎石	たたき石	V A 3	1	SS	11.50	5.00	3.40	281.00			
	91	L 28 a	25	2007/05/22	礎石	たたき石	V A 3	1	SS	14.40	5.50	3.80	290.00			
図V-7-39	92	N 56	8	1	2007/10/01	礎石	たたき石	V A 3	1	SS	12.50	8.70	2.70	470.00		
	93	L 31 c	11	2007/03/22	礎石	たたき石	V A 3	1	Sh	14.00	8.00	3.70	473.00			
	94	L 34	27	2007/05/22	礎石	すり石	V A 1	1	SS	8.10	14.90	7.90	1060.00			
図V-7-40	95	N 52	16	1	2007/10/04	礎石	すり石	V A 2	1	Da	7.20	12.70	3.50	320.00		
	96	L 55	28	2007/06/08	礎石	すり石	V A 2	1	SS	5.40	12.15	2.30	251.96			
	97	K 51	50	1	2007/07/10	礎石	すり石	V A 5	1	SS	10.70	9.00	4.30	600.00		
図V-7-40	98	L 49 b	13	2007/09/18	礎石	扁平打製石	V A 3	1	SS	10.60	16.60	3.60	830.00			
	99	L 52 a	18	2007/06/19	礎石	扁平打製石	V A 3	1	SS	9.60	14.50	2.45	590.00		焼結	
	100	L 53 a, d	9	2007/06/19	礎石	扁平打製石	V A 3	1	SS	9.35	14.10	2.40	480.00		遺物集中%12	
図V-7-40	101	M 34 d	3	2007/07/04	礎石	扁平打製石	V A 3	1	SS	10.00	14.80	2.95	620.00			
	102	J 49 b	3	2007/06/05	礎石	扁平打製石	V A 3	1	SS	10.60	16.70	3.50	600.00			
	103	K 52	9	2007/06/07	礎石	扁平打製石	V A 3	1	Rh	10.00	14.30	4.45	680.00			
図V-7-40	104	P 31 a	1	2007/07/28	礎石	扁平打製石	V A 3	1	SS	7.90	13.70	4.50	500.00			
	105	M 54	9	2007/07/04	礎石	扁平打製石	V A 3	1	Rh	7.80	14.40	1.95	300.00			
	106	M 54	26	1	2007/07/04	礎石	扁平打製石	V A 3	1	SS	6.10	10.10	3.00	170.00		
図V-7-40	107	L 28 b	17	2007/05/22	礎石	扁平打製石	V A 3	1	SS	6.40	13.60	2.95	420.00			
	108	M 46	9	2007/07/09	礎石	扁平打製石	V A 3	1	SS	10.90	17.50	4.55	835.00			
	109	O 57 a	9	2007/10/10	礎石	北海道式石冠	V A 4	1	Px-An	9.25	12.10	5.45	920.00			
図V-7-41	110	L 31 d	9	2007/05/22	礎石	北海道式石冠	V A 4	1	An	7.80	112.00	4.70	550.00			
	111	J 48 a	13	2007/08/20	礎石	北海道式石冠	V A 4	1	SS	7.90	11.30	3.60	450.00			
	112	L 53 c	18	2007/06/19	礎石	石籠	V A	1	SS	21.50	15.30	7.40	2510.00			
図V-7-41	113	M 51 c	12	2007/07/23	礎石	碇石	X B 2	1	Tu	4.60	9.30	8.50	39.00			
	114	O 37	14	2007/06/14	礎石	石籠	X A	1	SS	7.10	11.10	1.90	211.00			
	115	L 45 a	8	2007/08/28	礎石	加工組あそ礎	X 1 B 1	1	SS	12.80	6.20	4.50	470.00			
図V-7-41	116	K 49	22	2007/07/13	礎石	加工組あそ礎	X 1 B 1	1	SI	12.20	3.50	2.60	108.00			
	117	M 54	51	1	2007/07/04	礎石	加工組あそ礎	X 1 B 1	1	MS	9.90	3.50	1.90	63.00		
	118	M 56	28	1	2007/10/01	礎石	加工組あそ礎	X 1 B 1	1	Tu	7.30	12.50	2.50	267.00		
図V-7-42	119	L 46 c	9	2007/08/20	礎石	加工組あそ礎	X 1 B 1	1	Tu	8.90	11.30	1.80	262.00			
	120	I 48	10	2007/05/23	礎石	加工組あそ礎	X 1 B 1	1	SI	3.30	3.50	0.60	14.00			
	121	M 51 c	9	2007/07/19	礎石	三角組礎石	1	1	Tu	9.60	18.00	2.65	192.19			
図V-7-42	122	N 52 a	3	2007/10/04	礎石	三角組礎石	1	1	SS	6.20	3.80	1.85	78.13			
	123	N 57	10	2007/05/16	礎石	三角組礎石	2	1	Rh	8.80	6.40	1.25	112.45			
	124	L 45 b	12	2007/08/23	礎石	三角組礎石	2	1	SS	6.70	4.90	1.25	54.84			
図V-7-42	125	L 52 d	17	2007/09/28	礎石	三角組礎石	3	1	Tu	5.50	7.65	1.50	65.21			
	126	K 52	58	2007/06/13	礎石	石刀	1	1	Sh	(17.10)	3.20	1.70	(133.83)			
	127	N 52 d	3	1	2007/07/09	礎石	石刀	1	SI	(15.90)	3.60	1.60	(123.97)			
図V-7-42	128	L 58 a	1	2007/09/28	礎石	石製品	1	SI	(12.50)	3.90	1.50	(62.03)				
	129	K 48	6	2007/09/11	礎石	磁器類	1	Tu	12.35	4.00	2.00	135.79				
	130	J 50	21	2007/05/28	礎石	有孔自然石	1	Ag	3.10	3.10	2.20	35.00				
図V-7-42	131	L 51	14	1	2007/07/10	礎石	有孔自然石	1	Tu	4.60	5.60	1.20	72.00			
	132	O 56 a	7	2007/10/09	礎石	石製品	1	Tu	2.00	2.00	0.90	2.00				

VI章 自然科学的分析

1 分析・同定の目的と結果

館野2遺跡における自然科学的分析調査は、a、住居から出土した炭化材についての樹種同定、b、炭化種実・動物遺存体同定、c、放射性炭素年代測定を行なった。それぞれの目的と結果を簡単に述べる。

a、樹種同定 (1) 目的 縄文時代中期とみられる住居跡BH-3、BH-6、BH-7、BH-12について行なった。これらは縄文時代中期の中でも時期が前半と後半に分かれており、さらには住居の規模も異なるものである。縄文時代中期の炭化材はクリが多いことが知られているが、その割合について時期や住居の規模による変化について知ることを目的としている。(2) 結果 縄文時代中期前半を画期としてクリ材の占有率が低下する。このことについては詳細をVII章に周辺の遺跡と比較し述べる。

b、炭化種実・動物遺存体同定 (1) 目的 時期の明らかな住居跡の炉跡、焼土の土壌、土坑、包含層の炭化物層の土壌をフローテーション処理し、得られた種子、骨を同定することにより、当時の食生活や周辺環境を推定するものである。(2) 炭化種子については、縄文時代後期前葉の住居跡BH-9の炉跡HF-2から、オニグルミとクリが得られた。これらは多くの遺跡で出土が報告されているものである。骨については、縄文時代後期前葉の焼土BF-5で魚類が、BF-10で鳥類の可能性のあるものが得られたが、小片のため、種の推定までできなかった。

c、炭素年代測定 (1) 目的 炭化材や炭化種子が得られた住居跡について年代を測定し土器型式との整合性を確認する。(2) 結果 出土遺物から縄文時代中期前半と推定したBH-3、6、後半と推定したBH-12については概ね整合性がある値が得られた。これについてはVII章で詳細を述べる。ただ後期前葉としたBH-9については縄文時代中期前半の年代であった。このことは、BH-9の下位に位置するBH-11の炭化物が混入しているか、炉自体が中期前半のものであった可能性がある。なおBF-5のI,200±30Y.b.p (IAAA-102918) という値については、混入の可能性は推定できず、誤差の原因は不明である。

2 館野2遺跡B地区における炭化材樹種同定

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

館野2遺跡B地区は、標高50～55mの海岸段丘上に立地しており、住居跡、土坑、焼土、集石等の遺構が検出されている。このうち、住居跡は、縄文時代中期または後期前葉と考えられており、火災住居も確認されている。今回の分析調査では、当時の住居における木材利用を確認するために、出土した炭化材の樹種同定を実施する。

(1) 試料

試料は、館野2遺跡B地区の縄文時代中期とされる住居跡から出土した炭化材14点(館2B-1～14)である。試料の詳細については、結果とともに表示する。

(2) 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を

現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東（1982）やWheeler他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

（3）結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、広葉樹4分類群（コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・ハリギリ・トネリコ属）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部はほぼ1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のもと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ハリギリ (*Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai) ウコギ科ハリギリ属

試料は年輪界付近で割れている。環孔材であるが、破損しており孔圏部の列数は不明。孔圏外の小道管は、塊状に複合して接線・斜方向に帯状あるいは紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状または対列状に配列する。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-30細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

（4）考察

炭化材が出土した住居跡は、いずれも縄文時代中期に属し、BH-7を除く3軒が火災住居跡とされている。炭化材は、BH-7以外は住居の構造材と考えられている。これらの炭化材は、全て落葉広葉樹でクリが多く、他にコナラ節、ハリギリ、トネリコ属が認められた。クリは重硬で強度・耐朽性が高い材質を有し、コナラ節、トネリコ属も比較的硬硬で強度が高い。一方、ハリギリはやや軟軟な部類に入り、加工は容易であるが、強度は低い。

住居別にみると、BH-3は3点全てがクリ、BH-6は6点中4点がクリで、ハリギリとトネリコ属が各1点認められ、BH-7は1点がクリに同定された。これらの住居跡では、クリを主体とした木材利用が推定され、BH-6では少なくとも3種類の木材が利用されていたことが推定される。一方、BH-12では、クリも1点確認されているが、4点中3点がコナラ節であり、他の住居跡とは

表VI-1. 館野2遺跡の樹種同定結果

サンプル番号	遺構番号	取上番号	部位	樹種
館2B-1	壁-3	No.3	覆土3層下部	クリ
館2B-2	壁-3	No.4	覆土3層下部	クリ
館2B-3	壁-3	No.5	覆土3層下部	クリ
館2B-4	壁-6	No.2	床	クリ
館2B-5	壁-6	No.8	覆土1層	トネリコ属
館2B-6	壁-6	No.9	覆土1層	クリ
館2B-7	壁-6	No.20	床	クリ
館2B-8	壁-6	No.29	床	クリ
館2B-9	壁-6	No.34	床	ハリギリ
館2B-10	壁-7	No.1	床	クリ
館2B-11	壁-12	No.1	床	コナラ属コナラ亜属コナラ節
館2B-12	壁-12	No.3	床	コナラ属コナラ亜属コナラ節
館2B-13	壁-12	No.4	床	コナラ属コナラ亜属コナラ節
館2B-14	壁-12	No.7	床	クリ

種類構成が異なる傾向を示す。

本遺跡周辺では、館野4遺跡でも縄文時代中期の住居跡出土材が全てクリに同定されている(植田, 2006)。また、周辺地域での調査例をみると、石川1遺跡、桔梗2遺跡、豊原4遺跡等でも縄文時代中期の住居跡出土炭化材にクリが多い結果が報告されており、BH-3やBH-6の結果とも調和的である(三野, 1988 a, 1988 b; バリノ・サーヴェイ株式会社, 2003)。一方、西桔梗D遺跡では、縄文時代中期の住居跡出土炭化材がナラ類(コナラ節)、クリ、カエデ属、ヤチダモ?で構成され、クリの利用される割合が低い事例が報告されている(石田, 1974)。この結果は本遺跡BH-12の結果に似ており、クリ以外の木材が主体となる住居も存在したことが推定される。

3 館野2遺跡出土の炭化種実・動物遺存体

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

館野2遺跡は、函館湾に面した海岸段丘上(標高49~58m)に立地する。これまでの発掘調査の結果、A地区から旧石器時代と縄文時代後期後葉の遺構・遺物が検出され、B地区から縄文時代前期後半~後期前葉の遺構・遺物が検出されており、竪穴住居跡、土坑、焼土、集石、小ピットなどが検出されている。本分析調査では、A地区とB地区の各遺構より出土した炭化種実と動物遺存体の同定を実施し、当時の動植物利用に関する資料を得る。

(1) 炭化種実同定

a) 試料

試料は、縄文時代中期前半(サイベ沢VII~見晴町式)や縄文時代後期前葉(涌元~トリサキ式)に想定されている各遺構より出土した炭化種実25点(シリアルNo.T2AB-001~24, 003は-1と-2の2点)である(表1)。なお、遺構名に記載されている記号は、頭のア、Bが地区名、Hが住居跡、Fが焼土、HFが住居の炉跡とみられる焼土、包含層Ⅲ層出土が出土した深鉢の中の土とされる。

b) 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照から、種類と部位を同定する。分析後は、種実遺体を容器に入れて返却する。

c) 結果

結果を表1に示す。炭化種実は、BH-9(T2AB-022)から、落葉高木のオニグルミの核破片が2個とクリの果実の破片が2個確認された。その他に、炭化材が3個(T2AB-003-2, 004, 021)、菌類の菌核と思われる径0.4~2.0mmの偏球~楕円体の黒色物質が確認された。いずれの試料も表面が不明瞭で、砂泥が付着している。

以下に、同定された種実の形態的特徴を記す。

・オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura) クルミ科クルミ属

核は炭化しており黒色。完形ならば、長さ3.0-4.0cm、径2.5-3.0cm程度の頂部が尖る広卵体で、縦に1周する縫合線がある。破片の大きさは4.0mm(図版1-1, 2)。核は硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫彩が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

果実は炭化しており黒色。完形ならば、径2-3.5cm、厚さ1-2cm程度の三角状広卵体で一側面は扁平、反対面は丸みがある。外面はやや平滑で、微細な縦筋がある。破片は筋に沿って割れ、基部を欠損する。破片の大きさは、最大5.1mm(図版1-5)。基部全面を占める着点は別組織で、灰褐色、粗く不規則な粒状紋様がある。内面には内果皮(渋皮)がある(図版1-3~5)。

d) 考察

同定の結果、縄文時代後期前葉(涌元・トリサキ)と想定されているB地区の住居跡H-9より、炭化したオニグルミの核とクリの果実の破片が確認された。

オニグルミは河川沿いなどの湿潤な場所を好んで生育し、クリは丘陵から山地に生育する二次林要素の落葉高木で、いずれも現在の本地域に分布する。また、オニグルミは核内部の種子が、クリは子葉が生食可能である。これらの堅果類は、長期保存可能で収量も多いことから、古くより植物質食糧として利用され、遺跡出土例も多い(渡辺1975など)。北海道では、縄文時代早期~晩期でオニグルミの出土事例が多く、ミズナラやコナラ、カシワ、クリ(道南のみ)、トチノキ、ハシバミ等の堅果類も報告されている。

以上のことから、オニグルミやクリは、当該期の本遺跡周辺の森林より遺構内に持ち込まれ、植物質食糧として利用されたこと、火を受け、炭化残存したことが推定される。また、可食部である子葉が出土したクリに対し、オニグルミは非可食部の核の破片のみが確認されることから、利用後の残渣の可能性はある。

(2) 動物遺存体同定

a) 試料

試料は、縄文時代後期前葉とされる焼土遺構BF-5・10・28・29の覆土のフローテーションで得られた骨類である。BF-5で2試料(シリアル№T2AB-025・026)、BF-10で2試料(シリアル№T2AB-027・028)、BF-28で1試料(シリアル№T2AB-029)、BF-29で1試料(シリアル№T2AB-030)の合計6試料が採取されている。土中から抽出された骨類は、同定用試料とそれ以外に分けられ、1試料の中に複数点の骨片がみられる。なお、試料の詳細については、結果とともに表示する。

b) 分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。なお、今回、同定用試料とともにそれ以外の試料についても観察を行った。

c) 結果および考察

結果を表2に示す。検出された骨は、いずれも焼骨である。フローテーションで得られた骨類を全て観察したが数量も少なく、魚類の可能性のある破片1点、鳥類末節骨の可能性のある破片3点が認められたが、明確な種類・部位を明らかにできた骨がない。

隣接する館野遺跡は、これまでに焼土内から焼骨が出土しており、巻貝類?が1種類、軟骨魚綱が6種類(ホボジロザメ属・メジロザメ科・ツノザメ科・ガンギエイ属・アカエイ科・トビエイ科)、硬骨魚綱が20種類(ウナギ科?・アナゴ科・マイワシ・ニシン・カタクチワシ・ウグイ属・コイ科・サケ属・タラ科?・ボラ科?フサカサゴ科・アイナメ属・ホッケ属・スズキ属・タイ科・キス属・ハゼ科?・サバ属・ヒラメ科?・カレイ科)、鳥綱が1種類(スズメ目)、哺乳綱が5種類(ネズミ目・ヒグマ・キツネ・海獣類・ニホンジカ)など多くの骨類が確認された。このように遺構による骨密度の違いが何に起因するのか興味深い点である。この点は、発掘調査所見や他の遺物の産状も踏まえて検討しなければならないだろう。

表VI-2 館野2遺跡出土骨同定結果

シリアルNo.	試料番号	遺跡名	遺構名			詳細	想定時期・型式
T2AB-025	19	タテ2B	BF-5	魚類	不明	破片	1 縄文時代後期前葉(函元〜トリサキ)
				不明	不明	破片	4
				不明	不明	破片	0.47g
T2AB-026	19-③	タテ2B	BF-5	不明	不明	破片	9 縄文時代後期前葉(函元〜トリサキ)
				不明	不明	破片	0.28g
				不明	不明	破片	2
T2AB-027	42	タテ2B	BF-10	鳥類?	未定骨?	破片	2 縄文時代後期前葉(函元〜トリサキ)
				不明	不明	破片	9
				不明	不明	破片	>0.00g
T2AB-028	43	タテ2B	BF-10	鳥類?	未定骨?	破片	1 縄文時代後期前葉(函元〜トリサキ)
				不明	不明	破片	4
				不明	不明	破片	>0.00g
T2AB-029	56	タテ2B	BF-28	不明	不明	破片	3 縄文時代後期前葉(函元〜トリサキ)
T2AB-030	57	タテ2B	BF-29	不明	不明	破片	3 縄文時代後期前葉(函元〜トリサキ)
				不明	不明	破片	>0.00g

4 館野2遺跡B地区における放射性炭素年代(AMS測定)

榛加速分析研究所

(1) 測定対象試料

館野2遺跡B地区は、北海道北斗市館野28ほか(北緯41° 47' 26"、東経140° 37' 15")に所在する。測定対象試料は、住居跡BH-3 炉跡HF-4 上面出土木炭(No. 1 (T2AB-031) -①:IAAA-102910, No. 1 (T2AB-031) -②:IAAA-102911)、住居跡BH-6 炉跡HF-2 上面出土不明種子(No. 2 (T2AB-032) -①:IAAA-102912)、同木炭(No. 2 (T2AB-032) -②:IAAA-102913)、住居跡BH-9 炉跡HF-2 上面出土クルミ(No. 3 (T2AB-033) -①:IAAA-102914, No. 3 (T2AB-033) -②:IAAA-102915)、住居跡BH-12床面出土木片(No. 4 (T2AB-034) -①:IAAA-102916, No. 4 (T2AB-034) -②:IAAA-102917)、焼土BF-5 上面出土炭化物(種子?)(No. 5 (T2AB-035) -①:IAAA-102918)、同木炭(No. 5 (T2AB-035) -②:IAAA-102919)の合計10点である(表1)。これらのうち、No. 1-①、②、No. 2-①、②、No. 3-①、②、No. 5-①、②の8点は、調査現場で採取された土からフローテーション法によって回収された。

(2) 測定の意義

遺構の年代を推定する材料とする。

(3) 化学処理工程

a) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

b) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1 M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001

Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

- c) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- d) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- e) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- f) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(4) 測定方法

3 MVタンデム加速器 (NEC Pelletron 9 SDH-2) をベースとした ^{14}C -AMS専用装置を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

a) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

b) ^{14}C 年代 (Libby Age:yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

c) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

d) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

(6) 測定結果

試料の ^{14}C 年代は、住居跡BH-3 炉跡HF-4 上面出土木炭No. 1-①が $4,450 \pm 30$ yrBP、No. 1-②が $4,380 \pm 30$ yrBP、住居跡BH-6 炉跡HF-2 上面出土不明種子No. 2-①が $4,400 \pm 30$ yrBP、

同木炭No. 2-②が4,370±30yrBP、住居跡BH-9 炉跡HF-2 上面出土クルミNo. 3-①が4,420±30yrBP、No. 3-②が4,390±30yrBP、住居跡BH-12床面出土木片No. 4-①が4,150±30yrBP、No. 4-②が4,090±30yrBP、焼土BF-5 上面出土炭化物(種子?) No. 5-①が1,200±30yrBP、同木炭No. 5-②が3,680±30yrBPである。各遺構から2点ずつ測定され、No. 1-①と②、No. 2-①と②、No. 3-①と②、No. 4-①と②の値は各々誤差(±1σ)の範囲で重なるか、わずかに重ならない程度に近接しており、おおよそ近い年代を示す。これらに対してNo. 5-①と②の間には大きな年代差が認められる。

暦年較正年代(1σ)は、No. 1-①が3315~3023cal BCの間に4つの範囲、No. 1-②が3021~2926cal BCの範囲、No. 2-①が3086~2929cal BCの間に3つの範囲、No. 2-②が3014~2925cal BCの範囲、No. 3-①が3097~2939cal BCの間に3つの範囲、No. 3-②が3080~2927cal BCの間に2つの範囲、No. 4-①が2869~2671cal BCの間に3つの範囲、No. 4-②が2835~2576cal BCの間に2つの範囲、No. 5-①が779~869cal ADの間に2つの範囲、No. 5-②が2134~2027cal BCの間に2つの範囲で示される。No. 1-①、②、No. 2-①、②、No. 3-①、②はおおむね縄文時代中期前半頃、No. 4-①、②は縄文時代中期後葉頃、No. 5-①は擦文文化期、No. 5-②は縄文時代後期前半頃に相当する年代値である。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表VI-3 放射性炭素年代測定結果(補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						LibbyAge (yrBP)	pMC (%)
LAAA-102910	No.11 (T2AB-031)-①	住居跡BH-3 炉跡HF-4 上面	木炭	AAA	-28.72±0.54	4,450±30	57.49±0.21
LAAA-102911	No.1 (T2AB-031)-②	住居跡BH-3 炉跡HF-4 上面	木炭	AAA	-25.06±0.45	4,380±30	57.96±0.23
LAAA-102912	No.2 (T2AB-032)-①	住居跡BH-6 炉跡HF-2 上面	不明種子	AnA	-27.29±0.42	4,400±30	57.84±0.22
LAAA-102913	No.2 (T2AB-032)-②	住居跡BH-6 炉跡HF-2 上面	木炭	AAA	-28.82±0.51	4,370±30	58.02±0.22
LAAA-102914	No.3 (T2AB-033)-①	住居跡BH-9 炉跡HF-2 上面	クルミ	AAA	-28.63±0.56	4,420±30	57.69±0.22
LAAA-102915	No.3 (T2AB-033)-②	住居跡BH-9 炉跡HF-2 上面	クルミ	AAA	-25.74±0.47	4,390±30	57.91±0.22
LAAA-102916	No.4 (T2AB-034)-①	住居跡BH-12 床面	木片	AnA	-29.56±0.41	4,150±30	59.64±0.22
LAAA-102917	No.4 (T2AB-034)-②	住居跡BH-12 床面	木片	AnA	-28.12±0.29	4,090±30	60.12±0.22
LAAA-102918	No.5 (T2AB-035)-①	焼土BF-5 上面	炭化物(種子?)	AAA	-29.65±0.41	1,200±30	86.09±0.29
LAAA-102919	No.5 (T2AB-035)-②	焼土BF-5 上面	木炭	AAA	-26.36±0.52	3,680±30	63.21±0.22

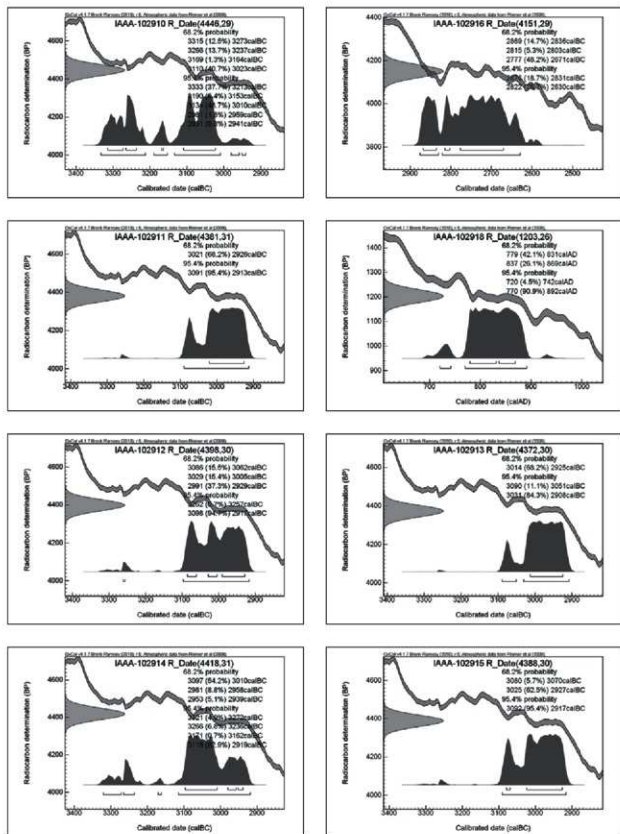
[#4129]

表VI-4 放射性炭素年代測定結果 (未補正值)

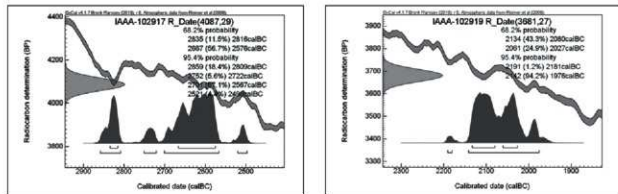
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-102910	4,510 ± 30	57.05 ± 0.20	4,446 ± 29	3315calBC - 3273calBC (12.5%) 3266calBC - 3237calBC (13.7%) 3169calBC - 3164calBC (1.3%) 3110calBC - 3023calBC (40.7%)	3333calBC - 3213calBC (37.7%) 3190calBC - 3153calBC (6.4%) 3134calBC - 3010calBC (48.7%) 2981calBC - 2939calBC (1.8%) 2951calBC - 2911calBC (0.8%)
IAAA-102911	4,380 ± 30	57.95 ± 0.22	4,381 ± 31	3021calBC - 2926calBC (68.2%)	3091calBC - 2913calBC (95.4%)
IAAA-102912	4,440 ± 30	57.57 ± 0.21	4,398 ± 30	3086calBC - 3062calBC (15.5%) 3029calBC - 3005calBC (15.4%) 2991calBC - 2929calBC (37.3%)	3262calBC - 3257calBC (0.7%) 3098calBC - 2917calBC (94.7%)
IAAA-102913	4,400 ± 30	57.81 ± 0.21	4,372 ± 30	3014calBC - 2925calBC (68.2%)	3090calBC - 3051calBC (11.1%) 3031calBC - 2908calBC (84.3%)
IAAA-102914	4,480 ± 30	57.26 ± 0.21	4,418 ± 31	3097calBC - 3010calBC (54.2%) 2981calBC - 2958calBC (8.8%) 2953calBC - 2939calBC (5.1%)	3321calBC - 3272calBC (4.9%) 3266calBC - 3236calBC (6.8%) 3171calBC - 3162calBC (0.7%) 3116calBC - 2919calBC (82.9%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-102915	4,400 ± 30	57.82 ± 0.21	4,388 ± 30	3080calBC - 3070calBC (5.7%) 3025calBC - 2927calBC (62.5%)	3092calBC - 2917calBC (95.4%)
IAAA-102916	4,230 ± 30	59.08 ± 0.21	4,151 ± 29	2869calBC - 2836calBC (14.7%) 2815calBC - 2803calBC (5.3%) 2777calBC - 2671calBC (48.2%)	2876calBC - 2831calBC (18.7%) 2822calBC - 2630calBC (76.7%)
IAAA-102917	4,140 ± 30	59.73 ± 0.22	4,087 ± 29	2835calBC - 2816calBC (11.5%) 2667calBC - 2576calBC (56.7%)	2859calBC - 2809calBC (18.4%) 2752calBC - 2722calBC (5.6%) 2701calBC - 2567calBC (67.1%) 2521calBC - 2498calBC (4.4%)
IAAA-102918	1,280 ± 30	85.27 ± 0.27	1,203 ± 26	779calAD - 831calAD (42.1%) 837calAD - 869calAD (26.1%)	720calAD - 742calAD (4.5%) 770calAD - 892calAD (90.9%)
IAAA-102919	3,700 ± 30	63.06 ± 0.20	3,681 ± 27	2134calBC - 2086calBC (43.3%) 2061calBC - 2027calBC (24.9%)	2191calBC - 2181calBC (1.2%) 2142calBC - 1978calBC (94.2%)

[参考値]



図VI-1 暦年較正年代グラフ (1)



図VI-2 暦年校正グラフ(2)

VI-1 引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 石田 茂雄, 1974, 縄文時代住居址内発見の炭化木について, 「西結梗」, 函館開発事業団, 428-431.
- 伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 三野 紀雄, 1988a, 石川1遺跡より得た炭化木片について, 「函館市石川1遺跡 一般国道5号函館新道道路改良用地内埋蔵文化財発掘調査報告書」, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第45集, 北海道埋蔵文化財センター, 255-258.
- 三野 紀雄, 1988b, 函館市桔梗2遺跡より得た炭化木片について, 「函館市桔梗2遺跡 一般国道5号函館新道道路改良用地内埋蔵文化財発掘調査報告書」, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第46集, 北海道埋蔵文化財センター, 202-205.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 2003, 自然科学的分析, 「函館市豊原4遺跡」, 函館市教育委員会, 341-358.
- 島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176 p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122 p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].
- 植田 弥生, 2006, 館野4遺跡焼失住居跡出土炭化材の樹種同定, 「北斗市矢不來6遺跡・矢不來11遺跡・館野4遺跡」, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第235集, 北海道埋蔵文化財センター, 158-161.

VI-2 引用文献

- 石川 茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328 p.
- 中山 至大・井之口希秀・南谷 忠志, 2000, 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642 p.
- 渡辺 誠, 1975, 縄文時代の植物食, 雄山閣出版, 187 p.

VI-3 引用文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363
- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360
- Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51 (4), 1111-1150

VII章 総括

発掘調査の結果から遺構に関して2項目「縄文時代中期前半から中期後半の住居跡について」、「住居出土の炭化材について」、遺物に関して7項目「A地区出土の旧石器時代の遺物について」、B地区出土遺物から、「Ⅲ群b類土器の一群について」、「Ⅳ群a類土器について」、「石鏃に付着するアスファルトとみられるものについて」、「花崗閃緑岩製磨製石斧について」、「円形・三角形礫石器について」を考察する。

それぞれ、縄文時代中期の住居跡については、B地区段丘の南北端で、隅丸方形→円形→卵形もしくは楕円形へと変化する様子が確認できた。住居跡出土の炭化材についてはクリ材の占有率が縄文時代中期前半サイベ沢Ⅶ式を境界に変化する様子を確認した。A地区出土の旧石器時代の遺物については時期の詳細を推定し、Ⅲ群b類土器については見晴町式に後続するとみられる一群を確認した。Ⅳ群a類土器については青森県小牧野遺跡出土土器での解釈を試みた。石鏃に付着するアスファルトとみられるものを5点確認し、近隣の出土例に類似することがわかった。青森県東通村尻屋崎の花崗閃緑岩を石材とする石斧を確認し、周辺の類例について調べた。円形・三角形礫石器について石材の点から、青森西部地域との類似性が認められた。本遺跡の調査により上記のように資料が増加し、遺物、遺構の詳細が明らかとなった。

1 遺構について

(1) 縄文時代中期前半から中期後半の住居跡について

本遺跡から検出された住居跡はA、B地区合わせて13軒である。推定される時期は、古い順から縄文時代中期前半、円筒土器上層b式からサイベ沢Ⅶ式期が2軒（AH-1、BH-11）。同じくサイベ沢Ⅶ～見晴町式期1軒（BH-6）、見晴町式期2軒（BH-3、7）、縄文時代中期中葉榎林式に相当するとみられるもの2軒（BH-1、4）。大安在B式、元和5群、ノダツⅡ式に相当するとみられるもの3軒（BH-2、8、9）である。このうち、出土遺物から時期の明らかな、BH-1、3、4、5、6、7、12について、放射性年代測定の結果を踏まえて考察する。

これらの住居は大きく南北の段丘縁辺に離れて立地している。1、3、4、5は北、6、7、12は南である。南に属するグループを古い順に述べる。BH-6は北東側に大きく風倒木による攪乱を受けるが、南東から北西方向に長軸のある隅丸方形を呈し、四隅に4本の支柱穴があり長軸上南東側に大きな柱穴状の土坑があるものである。床面からまともに出土した土器はサイベ沢Ⅶ式～見晴町式の土器が混在しており、サイベ沢Ⅶ式新段階の時期のものといえる。BH-7は円形の小型住居で、中央やや北よりに柱穴を二本並んで検出している。床面と覆土から見晴町式に相当する土器が出土している。BH-12は楕円形の小型住居。覆土中に炭化材と焼土を検出している。床面からは大安在B式の手先に相当する遺物が出土している。

北に属するグループはBH-3が最も古い。BH-3は南東から北西方向に長軸のある隅丸方形を呈し、四隅に4本の支柱穴があり、長軸上南東側に大きな柱穴状の土坑があるものである。床面からは破片資料であるが、見晴町式とみられる土器が出土している。これに続くのがBH-4である。BH-4は直径2.46mのほぼ円形を呈する住居で、ほぼ中央で焼土を、壁の一部に沿って溝を検出している。床面から榎林式の初頭に当たる土器一団が出土している。続いてBH-1は先端ピットの

2 遺物について

(1) A地区出土の旧石器時代の遺物について

A地区旧石器ブロック1から出土した13点の資料は、II章でも述べたように、北斗市でははじめての発掘調査による旧石器時代の資料である。しかし、出土資料中には細石刃核がなく、時期の詳細は不明である。このことから出土石器を周囲各遺跡の出土例を比較し、時間的な推定を行ない、報告の補遺としたい。

本遺跡で出土した彫器は、石刃を素材とし、周縁加工された左刃型の彫器である。これとよく似たものは、近隣の遺跡では、知内町湯の里4遺跡（北埋調報18）、今金町美利河1遺跡（北埋調報23）、長万部町オバルベツ2遺跡（北海道文化財保護協会2000）で出土しており、さらに道央では千歳市柏台1遺跡（北埋調報138）で出土している。これらは周縁の細かく急角度の細部調整、刃部の角度など、全体の形状がよく似ている。この遺跡群は寺崎康史の編年により6～7群（蘭越型細石刃核～峠下型1類・美利河型細石刃核石器群）に相当するものとされている（寺崎2006）。

寺崎によると、これらの時期の石器組成は単純で、上記の彫器のほか、石刃素材の搔器を伴うという。搔器の特徴は6群と7群でよく似ており、石刃を素材とし、石刃の端部に直線的な刃部を有するものである。本遺跡の搔器は、二次加工がほぼ端部のみ施されること、刃部が曲線状であることなど、細部の点で異なるが、石刃素材であるという点は共通している。

これらの点から、本遺跡出土資料はこの6～7群、蘭越型細石刃核、峠下型1類、美利河型細石刃核石器群に相当するものと推定しておきたい。

(2) B地区出土のⅢ群b類の一群について

B地区北側の先端部分、住居址BH-4の周囲約8グリッドの範囲において、見晴町式～榎林式に相当する資料の一群を得た（図VII-1）。これらの資料は、

- ①山形の突起（4または3単位）が付き、口唇に縄線や沈線による刻みが施されるもの（63、64）
- ②口唇に沿って沈線（凹線）がつけられているもの（BH4-1、73、75、76、95）
- ③頸部に3本組の平行沈線がめぐられるもの（3、102）
- ④沈線文様に円形文が加えられる（BH4-1）
- ⑤口縁をすりなでて無文とした平縁の土器がある（86、87）
- ⑥胴部が膨らみ頸部が屈曲し口縁が外反する器形（BH4-1）
- ⑦条が横走気味となる縄文が体部に施文されるもの（93、109）という特徴がある。

見晴町式は高橋正勝の命名（高橋1972）の後、資料の蓄積を経て、土器の文様構成が整理されつつある（佐藤2001・遠藤2003）。本遺跡資料の特徴のうち、①、⑥についてはこの形式内容に含まれ、②は沈線の太さにより区分され、細いものは含まれる。③～⑤、⑦に関しては見晴町式とされるものからやや外れる特徴と判断される。この特徴を持つものを榎林式に相当するものとした。

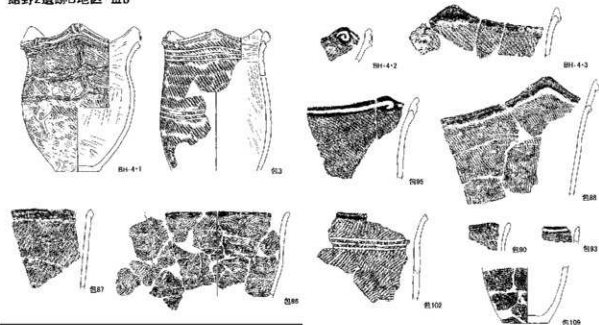
北海道南西部に類例を求めると、知内町森越遺跡Ⅲ群第二段階、江差町茂尻C遺跡、C群Ⅱ類土器、函館市見晴町B遺跡、第2類a、b土器が挙げられる。この中で森越遺跡では森越式、茂尻C遺跡では榎林式、見晴町B遺跡では、サイベ沢Ⅷ、見晴町式に伴う大木系類似の土器とされている。

東北部のこの時期の資料は、鈴木克彦、小笠原雅行、小保内裕之により内容が深められている（鈴木1998・小笠原2005・小保内2008）。直前の型式の捉え方により若干の差異はあるが、その特徴を本遺跡の資料に当てはめるとほぼ榎林式に相当するとしてよいように思われる。この観点からすれば、私がかつて見晴町式新段階とした八雲町野田生2遺跡H-5覆土出土の土器1（北埋調報167）は、

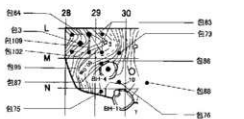
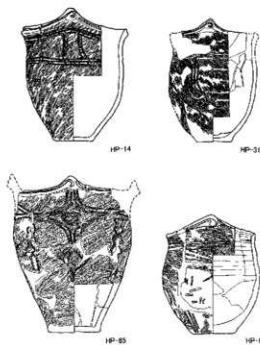
館野2遺跡B地区・Ⅲa



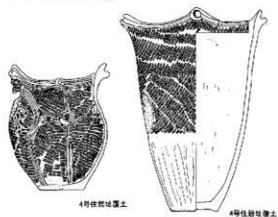
館野2遺跡B地区・Ⅲb



江差町・茂尻C遺跡



函館市・見晴町B遺跡



図Ⅶ-1 BH-4周辺の掲載Ⅲ群土器と周辺の資料

榎林式に相当するとみられる。この場を借りて訂正しておきたい。

榎林式については、森町石倉2遺跡の資料から東北北部とは文様構成が若干異なる可能性が指摘されている(阿部2004)。また本遺跡出土例は少量であることから、見晴町、榎林両型式の詳細な内容を検討するには不十分と思われる。今回は類例を紹介し、先行する型式設定を参考に区分するのみとし、今後の資料の増加を待つことにしたい。

(3) IV群a類土器について

a) 涌元・トリサキ式について

本遺跡から出土しているIV群a類土器は、涌元式～トリサキ式に属するものが多い。これらは東北北部で言えば、蛭沢Ⅰ、Ⅱ式、小牧野3類、十腰内Ⅰ式に相当するものである。当該期の青森県青森市小牧野遺跡を調査した児玉大成は、出土資料の層位的関係から文様構成による分類を行った。それによると、これらの時期に相当する沈線文を詳細に観察すると、主要文様は次のように分類が可能であるという(児玉2003)。

- ・1本の沈線で文様が描かれるもの(単位文様1群)
- ・沈線文一筆書きによる円形、楕円形、長楕円形などの図形単位(連結〇〇文と表現される)を配置することにより文様が描かれるもの(単位文様2群)。
- ・沈線文による図形単位を繋げる(連携〇〇文と表現される)ことにより文様が描かれているもの(単位文様3群)

の3種に区分し、さらに、a類) 単位文様と余白の幅が等間隔となるもの。b類) 単位文様が細手となるもの。c類) 単位文様が横方向に連続するもの。とに区分し、他に3本組の沈線による文様、櫛歯状の沈線による文様が描かれるものを区別している。

これらの文様構成は、小牧野遺跡における出土資料の分析から3群a類→3群b類→2群→3本組沈線手法→3群c類と変化していくことを想定している。

本遺跡出土例のうち、文様構成がわかるものを集成した(図Ⅶ-2)。4、5、134、137は単位文様3群b類に属するかとみられるもの。いずれも連携する円形文や渦巻文が施文され、隆沈線手法によるものも含まれている。139、140は単位文様2群のものである。BF-5出土の3は3本組沈線手法によるものである。本遺跡は3群b類、2群を主とし、3本組沈線のものも出土している。

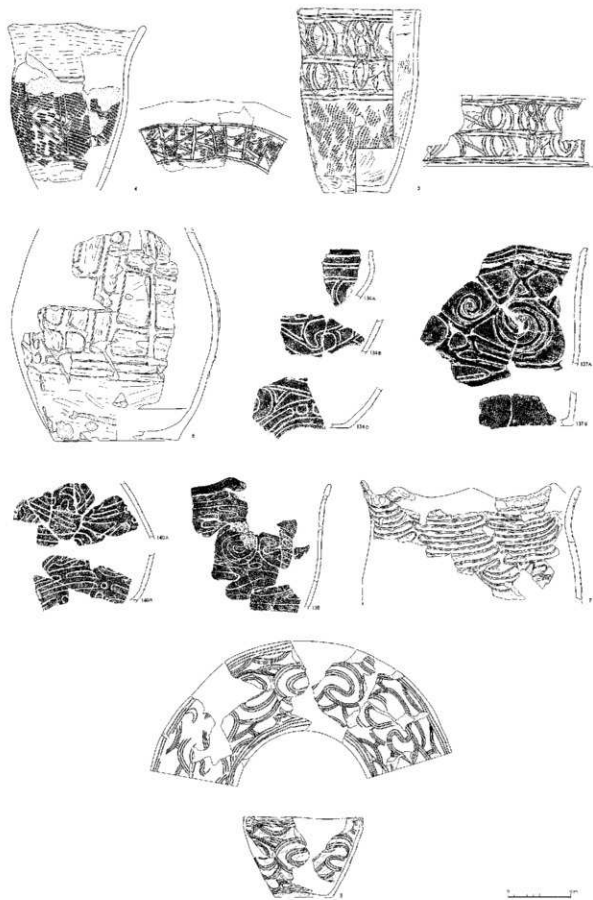
また、児玉が施文手法の変遷が認められると注目する(斜)格子目文モチーフによる土器も、本遺跡では燃系圧痕によるものと単沈線によるものが出土しており、多条の沈線によるものは出土していない。このことは2期～4期までの特徴であり、これらをあわせると、本遺跡出土資料の主体はほぼ小牧野3～4期に相当するものとみられる。

(4) 石罫に付着するアスファルトとみられるものについて

縄文遺跡において、アスファルトを塗布した石器が確認される例が増えている。福井によれば、道内で135遺跡に上るといふ(福井2010)。

本遺跡においても、石罫5点にアスファルトらしき黒色物質の付着が認められた。図Ⅶ-2はその部位を示したものである。石罫の形状は多種であるが、茎が比較的明瞭に認められ、石材は頁岩、珪化岩、メノウ等を用いている。これらは縄文時代後期前葉に属するものとみられる。本遺跡での部位の特徴や石材は他遺跡と共通するものである。

縄文時代中期前半サイバ沢Ⅶ式から見晴町式にかけての住居跡BH-6において、床面から18点の石罫が出土している。これらは床面の2か所に分かれて集中して出土しており、当期に属するものと推察される。これらの石罫の形状は、茎が極めて不明瞭な菱形に近い形状のものがほぼ全てである。



图VII-2 馆野2道跡B地区IV群a類沈線文土器



図Ⅶ-3 アスファルト様黒色付着物のある石斧

この18点にはアスファルトが付着するものはない。このことにはBH-6が焼失住居であることも関係している可能性があるが、上述の中期前半の特徴を持つ石斧に付着した例がないことを考え合わせると、これは時期的な差異である可能性が高い。

福井も、縄文時代中期においては少なく、縄文時代後期において爆発的に増加するとすでに指摘をしており（福井前掲）、本遺跡出土例も福井の見解を支持する結果となっている。

(5) 花崗閃緑岩製石斧について

花崗閃緑岩₁製石斧について

館野2遺跡B地区において、花崗閃緑岩製の石斧が2点出土している。大きさは10cm前後の丸みのある礫を素材とし、研磨して刃部を作出しており、残りの良いものを見ると両刃に近く円刃としてつくられているようである。石材は白っぽく、ルーペで見るとやや完晶質で、斜長石と角閃石とみられる結晶を見ることができる。

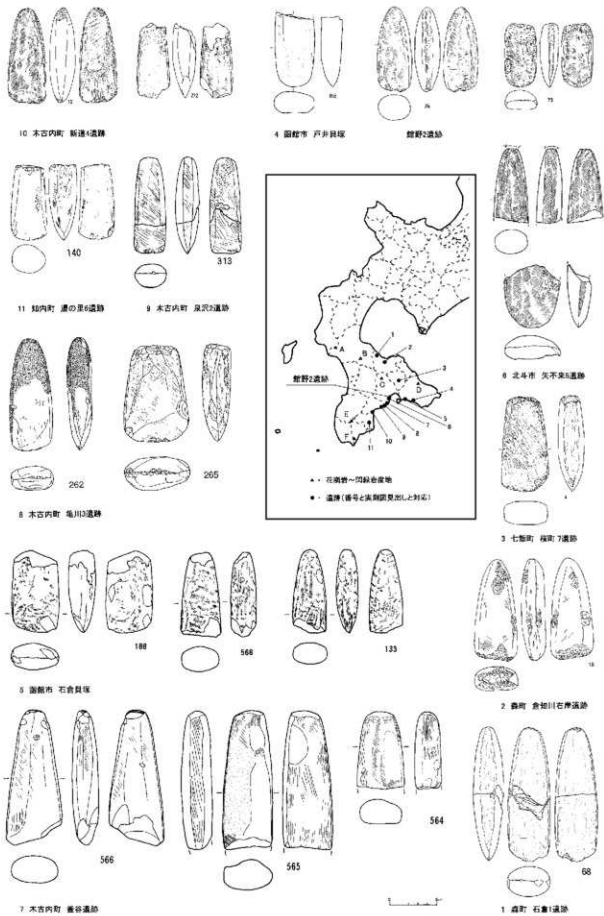
この石材を使った石斧は青森県で多く出土している。三内丸山遺跡を中心に石斧の石材を検討した齋藤岳によれば（花崗）閃緑岩の石斧への利用は、縄文時代前期後半、円筒下層d式期に下北半島で始まり、縄文中期や後期初頭～前葉には青森県ほぼ全域、北海道渡島半島まで分布するという。しかし剥片や製作途中とみられる打製石斧状のものは下北半島に出土が限られているとしている（齋藤2008）。齋藤は北海道側の資料として、函館市石倉貝塚（後期初頭）、木古内町釜谷遺跡（前期後半）、七飯町峠下聖山遺跡（晩期後半）を挙げている。

齋藤の見解を踏まえて、北海道内で類例がどのくらい増加しているのか調べてみた。この花崗閃緑岩は見慣れなければ一見珪長質の砂岩のようにも見え、遺跡により閃緑岩、花崗岩、安山岩などとも呼称されるようである。そのため石材の名称に加え、報告書の写真から色調や形状も参考にして集成してみた。その結果、9遺跡を追加することが出来た（図Ⅶ-3）。このうち、新道4遺跡が片麻岩、湯の里6遺跡が安山岩とされているが、写真図版を見るとこの花崗閃緑岩とよく似たものであることがわかる。₂その他については閃緑岩とされているものである。

本遺跡出土例のような小型で、断面形が円形を呈するものは新道4遺跡、泉沢2遺跡、矢不來8遺跡、石倉貝塚で出土しており、斉一性が高い。出土遺跡も函館市～木古内町の函館湾沿いにややまとまりを見せている。これらの遺跡は、縄文時代後期前葉涌元～トリサキ式の遺物が多く出土しており、この時期に属する遺物と考えてよいと思われる。

北海道における花崗岩～閃緑岩の産地は、齋藤も八雲町遊楽部岳近辺、奥尻島に分布することを紹介しているが、渡島半島付近に限っても、函館市（旧南茅部）大船川中流域、北斗市の毛無山周辺、千軒岳から白神岬にいたる松前層の一部、八雲町立岩周辺にも存在している。これらのうち、函館市大船川、北斗市毛無山、千軒岳、八雲町の4種と、それに尻屋崎の花崗閃緑岩を加え顕微鏡撮影し比較してみた（図Ⅶ-4）。やや風化した円磨した部分を倍率10倍で撮影している。

1が本遺跡出土石斧の表面、2が青森県東通村尻屋崎で採取した資料である。珪晶の大きさや色調



図VII-4 花崗閃綠岩製石斧の分布



1 館野2遺跡出土石斧(図V-7-38-76)



2 青森県尻屋崎採集資料



3 北斗市大野川採集資料(産地C)



4 福島町知内川採集資料(産地E)



5 八雲町遊楽部川採集資料(産地B)



6 函館市大船川採集資料(産地D)

がよく似ている。3は北斗市毛無山の閃緑岩。1、2に比し、褐色を呈する長石が少なく、有色鉱物の割合が多い。4は福島町千軒の知内川で採取した花崗閃緑岩とみられるもの。薄い桃色の長石が見え、やや片麻状である。5は八雲町遊楽部川で採取したもの。遊楽部店の角閃石黒雲母花崗閃緑岩が、立岩の花崗閃緑岩とみられるものである。撮影した全てのなかで最も結晶が大きいもの。石英とみられる部分が多い。6は函館市大船川河口で採取したもの。斑晶の大きさでは本道跡出土資料に類似するが、有色鉱物の割合が多く、色調がやや緑色を帯びる点で異なっている。これらのうち本道跡出土例は尻屋崎花崗閃緑岩に最も近い。

本道跡出土の花崗閃緑岩製石斧は青森県東通村尻屋崎の石材を用いて製作されている可能性が高まった。この花崗閃緑岩製石斧はおそらく円礫を素材とし、敲打と研磨を繰り返し製作されている。その結果、断面形は概ね円形に近くなる。このことは、緑色凝灰岩などを素材として伝統的に作成される緑色岩系石斧が概ね長方形の断面を示すのと対照的である。特に本道跡で出土する小型のものは、断面形やサイズの上でも、交換可能な道具であったことは想像しがたい。よってこの石斧は使い手とともに北海道に存在していた可能性が高いとみられる。

今回は他道跡の実見を含めた検証、全岩化学分析を行なわなかった。今後の課題としたい。

(6) 円形・三角形礫石器について

北斗市茂別道跡の調査において、凝灰岩などの扁平な礫を用い、周縁を打ち欠いて三角形、円形、四角形、五角形状に整形する礫石器が出土している（北埋調報121）。本道跡でもこれに類似するものが計52点出土し、茂別道跡にない「円形・三角形礫石器」と呼称した。包含層出土のものはV章に述べたが、遺構出土のものを含めた全体の傾向について若干補う。

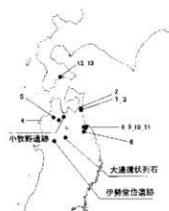
形態別の内訳は、円形・楕円形を呈するもの25点、台形、四角形を呈するもの9点、三角形のもの1点、一部が直線となる円形など、それ以外の形状が17点である。分布はL-51区で最多の5点、K-49、M-51、M-53、N-52区で各3点出土している。柱六状小土坑、集石BS-4、IV群A類土器と似た分布状況である。

これらは児玉大成のいう、「伊勢堂岱型岩版」（児玉2001）と同じものとみられる。北海道2例、青森県11例の石材をまとめた結果が表VII-3である。さらに、形状が類似するものとして、周縁を擦り加工された「小牧野型岩版」を含めた岩版の石材を見とみる。

大湯環状列石の調査では、伊勢堂岱と小牧野の両型式の岩版が出土している。石材は、凝灰質泥岩、砂質凝灰岩、泥質凝灰岩が多く、石英閃緑岩、石英安山岩、軽石質安山岩などの火成岩も含まれている（鹿角市教委2010）。伊勢堂岱道跡では、2006～2008年度の調査で伊勢堂岱型岩版が出土して

表VII-2 「岩版」類の石材

道・区	番号	所在館	遺跡名	名称	現在地 標高(m)	採取地 標高(m)	定年 定年	採取 時期	採取 方法	形状	小 形	報告書	
北海道	1	八ヶ岳村	土塚(2)遺跡	円盤状の製品	24	2	30		2			青森県教委昭和42年 110集	
	2	八ヶ岳村	大石平遺跡	円盤状の製品	12	1	12					青森県教委昭和42年 110集	
	3	八ヶ岳村	吾安平(1)遺跡	円盤状の製品	2	2						青森県教委昭和49年 98集	
	4	青森市	中平遺跡	円盤状の製品	2		2		2			青森県教委2009 C13集	
	5	弘前市	十徳内(1)遺跡	円盤状の製品	12	12					1	青森県教委1999 C31集	
	6	弘前市	十徳内(1)遺跡	円盤状の製品	12	63	63				4	1	青森県教委2001 C34集
	7	八戸市	松小崎遺跡	円盤状の製品	12	9	11	1	1				青森県教委2001 C36集
	8	八戸市	野子(2)遺跡	円盤状の製品	1		1						青森県教委2010 C38集
	9	八戸市	鶴岡遺跡	石質の製品	30		30						青森県教委2001 C39集
	10	八戸市	中野遺跡	円盤状の製品	4	25				1			青森県教委2010 C45集
	11	八戸市	赤土遺跡	板状の製品	12		12						青森県教委平成2年 129集
北海道	12	北斗市	茂別遺跡	円盤状の製品	1	1						青森県教委昭和29年 84集	
	13	北斗市	茂別遺跡	三角状の製品	25	24					1	北埋調報121	
	14	北斗市	茂別遺跡	石製品	19	19						北埋調報121	



おり、図化されたものは砂岩4点花崗岩1点である（北秋田市教委2006・2007）。小牧野遺跡では、平成12年度の調査では未製品を除く岩版類が38点出土し、石材は泥岩が19点50%、凝灰岩が13点34.2%、緑色凝灰岩が5点13.1%、細粒凝灰岩が1点2.6%である。平成12・13年度の調査では、円形岩版のみみると122点出土し、泥岩82点67.2%、凝灰岩37点30.3%、安山岩3点2.5%となっている（青森市教委2001・2003）。

これらの「岩版」の石材に関してしてみると、地域により異なる傾向が指摘できる。八戸市を中心とした地域では、粘板岩を主に用い、安山岩や砂岩が含まれている。六ヶ所村を中心とした地域では、安山岩に少量の凝灰岩が含まれている。小牧野遺跡では泥岩を主とし、安山岩、凝灰岩が含まれる。青森県西部の十腰内遺跡では、凝灰岩と安山岩が多く頁岩と花崗岩が含まれる。秋田県の大湯環状列石では凝灰岩を主とし一部火成岩が含まれるものである。

北海道内の資料はどうだろうか、茂別遺跡では、円形のものど三角形のものとあわせ、209点の遺物が出土している。このうち図化された25点のうち石材不明の1点を除く全てが凝灰岩となっている。館野遺跡では、一部に砂岩、安山岩製のものもあるが、凝灰質の泥岩を用いているという。本遺跡の資料は、凝灰岩27点（52%）、流紋岩14点（27%）、砂岩8点（15%）泥岩2点（4%）粘板岩1点（2%）である。

実見していないため詳細な検討はできないが、本遺跡の資料を含めた、凝灰岩を主とし、一部火成岩を含むという北海道内の資料は、岩版の石材使用の面からすると、秋田県大湯環状列石が傾向として近く、凝灰岩が比較的多い青森西部地域に似た傾向を示している。またこの岩版類の石材が各遺跡において一種類のみではないことは、特徴といえるかもしれない。

これらのいわゆる「岩版」類は、同時期で距離的に近い遺跡である函館市石倉貝塚、戸井貝塚、北斗市押上1遺跡、知内町湯の里1遺跡では出土していないようである。遺跡による偏りなど不明な点が多く、石材の混在状況の検証等については、今後実見し石材を確かめてから行なうこととしたい。

註1 青森県東通村尻屋崎の石は、地質図によれば石英閃緑岩とされるものようである（通産省工業技術院地質調査所1977）。報告書中では、青森県水木沢遺跡において礎石器石材と尻屋崎の石を指して微晶質花崗閃緑岩としている。水木沢遺跡にならない、他の閃緑岩と区別する意味でここでは花崗閃緑岩と呼称することにした。

註2 知内町湯の里6遺跡の資料については、その後実見の機会を得た。肉眼ではこれも尻屋崎の石とみられる。機会をいただいた知内町郷土館、高橋豊彦氏に末尾ながら記して感謝いたします。

引用参考文献

～論文等～

- 阿部昭義2001『VIまとめ 2 (1) 複形式土器について』『森町石倉2遺跡』(併4) 北海道埋蔵文化財センター北埋調報197
- 小笠原雅行2005「第2節 縄文土器」『近野遺跡VI』青森県教育委員会
- 遠藤香澄2003『VII成果と問題点2 III群 a 3 類土器について』『八雲町落部1遺跡』(併)北海道埋蔵文化財センター北埋調報181
- 大沼忠春1981「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』66巻4号
- 紀藤典夫1998「フコマ野遺跡から産出した火山灰層および花粉化石について」『フコマ野遺跡』上磯町教育委員会
- 紀藤典夫2003「泉沢2遺跡から産出した火山灰層について」『泉沢2遺跡A地点』木古内町教育委員会
- 上磯町1997『上磯町史』
- 国立歴史民俗博物館2001『落合計策縄文時代遺物コレクション』
- 小山正忠・竹原秀雄2004『標準土色帖』26版 日本色研事業株式会社
- 小保内裕之2008「陸奥大木系土器(複形式・最花式・大木10式併行土器)」『縄文土器総覧』
- 児玉大成2001「縄文時代後期前半の岩版類と大型配石遺構」『—北海道考古学情報交換会20周年記念論集—渡島半島の考古学』北海道考古学情報交換会20周年記念論集作成実行委員会
- 児玉大成2003「小牧野遺跡における縄文時代後期前半の土器編年」『第1回 東北・北海道の十穀内I式再検討』海峡土器研究会
- 齋藤岳2004「三内丸山遺跡の磨製石斧について」特別史跡三内丸山遺跡年報7 青森県教育委員会
- 佐藤剛2001『VII成果と問題点2(1)土器』『八雲町山越2遺跡』(併)北海道埋蔵文化財センター北埋調報163
- 高橋正勝1972「北海道における縄文時代中期の終末(1)」北海道青年人類科学研究会会誌No.9
- 高橋正勝1981「北海道南部の土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣出版
- 田近淳・大津直 2006『函館・江差自動車道(富川IC～茂辺地IC)の活断層露頭』『館野遺跡』(併)北海道埋蔵文化財センター
- 通産省工業技術院地質調査所1975『館地域地質』地域地質研究報告5万分の1図幅
- 通産省工業技術院地質調査所1977『尻矢崎地域地質』地域地質研究報告5万分の1図幅
- 通産省工業技術院地質調査所1979『木古内地域地質』地域地質研究報告5万分の1図幅
- 寺崎康史2006『北海道の地域編年』『旧石器時代の地域編年の研究』同成社
- 日本ベトロジー学会編2000『土壌調査ハンドブック改訂版』博友社
- 北海道火山灰命名委員会編1982『北海道の火山灰』北海道火山灰命名委員会
- 北海道立地下資源調査所1965『函館』5万分の1地質図幅説明書
- 北海道立地下資源調査所1966『大沼公園』5万分の1地質図幅説明書
- 花岡正光1990a「矢不來3遺跡の火山灰について」『矢不來3遺跡』上磯町教育委員会
- 花岡正光1990b「三ツ石遺跡の火山灰について」『三ツ石遺跡』上磯町教育委員会
- 宮内崇裕・八木浩司1984「松前半島東岸の海成段丘と第四紀地殻変動」『地学雑誌』Vol193 No.5
- 福井淳一2010「北海道における縄文文化から縄文文化のアスファルト利用」『池上悟先生選歴記念論文集』
- 藤本英夫編1980『日本城郭大系I 北海道・沖縄』新人物往来社
- 町田洋・新井房夫2003『新編火山灰アトラス』東京大学出版会
- 南北北海道考古学情報交換会2009『第30回南北北海道考古学情報交換会』資料
- 三宅徹也1989「円筒土器上層様式」『縄文土器大観』小学館
- 三野紀雄2001「先史時代における木材利用(5)—クリ材について—」『北海道開拓記念館研究紀要』第29号 北海道開拓記念館
- 森靖裕2002「北海道・上磯町の中世館跡と近世台場跡」『日本歴史』2002年5月号 吉川弘文館
- 吉崎昌一1982「下添山遺跡」『北海道における農耕の起源』
- ～遺跡調査報告書～
- 青森県教育委員会1977『水木沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第34集
- 青森県教育委員会1984『藍窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第84集

- 青森県教育委員会1985『弥栄平(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第98集
 青森県教育委員会1987『大石平遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第103集
 青森県教育委員会1988『上尾駮(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第115集
 青森県教育委員会1999『十股内(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第201集
 青森県教育委員会2001『十股内(1)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第304集
 青森県教育委員会2003『松石橋遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第360集
 青森県教育委員会2005『船館遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第388集
 青森県教育委員会2009『中平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第474集
 青森県教育委員会2010『笹子(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第480集
 青森県教育委員会2010『中居林遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第485集
 青森市教育委員会2001『小牧野遺跡発掘調査報告書VI』青森市埋蔵文化財報告書第55集
 青森市教育委員会2003『小牧野遺跡発掘調査報告書VI』青森市埋蔵文化財報告書第70集
 鹿角市教育委員会2010『特別史跡大湯環状列石(Ⅱ)』鹿角市文化財調査資料98
 北秋田市教育委員会2006『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書V』
 北秋田市教育委員会2007『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書VI』
 乙部町教育委員会1977『柴浜遺跡緊急調査報告書』
 上磯町1997『上磯町史』
 上磯町1981『館野2遺跡』
 上磯町1982『史跡 松前藩戸切地陣屋跡』
 上磯町1983『史跡 松前藩戸切地陣屋跡』
 上磯町1984『史跡 松前藩戸切地陣屋跡』
 上磯町1985『史跡 松前藩戸切地陣屋跡』
 上磯町1986『史跡 松前藩戸切地陣屋跡』
 上磯町1987『史跡 松前藩戸切地陣屋跡』
 上磯町1996『史跡 松前藩戸切地陣屋跡』
 上磯町2002『史跡 松前藩戸切地陣屋跡』環境整備事業報告書
 上磯町教育委員会1990 a『矢不來3遺跡』
 上磯町教育委員会1990 b『三ツ石遺跡』
 上磯町教育委員会1992『石倉野3遺跡』
 上磯町教育委員会1983『浜山』
 上磯町教育委員会1987『富川砲臺跡』
 上磯町教育委員会1998『フコマ野遺跡』
 上磯町教育委員会2001『町内遺跡発掘調査事業報告書』
 上磯町教育委員会2003『押上1遺跡』
 上磯町教育委員会2004『押上1遺跡』
 上磯町教育委員会2005『押上1遺跡』
 上磯町教育委員会2009『水無遺跡』
 上磯町教育委員会2009『ヤギナイ遺跡』
 上磯地方史研究会1990『柴浜遺跡とその周辺』
 木古内町教育委員会1998『亀川3遺跡』
 木古内町教育委員会2003『泉沢2遺跡A地点』
 河野常古1924『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』
 県北海道埋蔵文化財センター1985『湯の里遺跡群』北理調報18
 県北海道埋蔵文化財センター1985『今金町美利河1遺跡』北理調報23
 県北海道埋蔵文化財センター1987 a『上磯町矢不來2遺跡』北理調報37
 県北海道埋蔵文化財センター1987 b『木古内町建川2・新道4遺跡』北理調報43
 県北海道埋蔵文化財センター1988『上磯町矢不來天満宮跡』北理調報47

- 跡北海道埋蔵文化財センター1988『函館市石川1遺跡』北埋調報45
 跡北海道埋蔵文化財センター1987『桔梗2遺跡』北埋調報46
 跡北海道埋蔵文化財センター1988『木古内町新道4遺跡』北埋調報52
 跡北海道埋蔵文化財センター1998『上磯町茂別遺跡』北埋調報121
 跡北海道埋蔵文化財センター1999『千歳市柏台1遺跡』北埋調報138
 跡北海道埋蔵文化財センター2001『八雲町山崎4遺跡』北埋調報162
 跡北海道埋蔵文化財センター2001『八雲町山崎2遺跡』北埋調報163
 跡北海道埋蔵文化財センター2002『八雲町山崎5遺跡』北埋調報165
 跡北海道埋蔵文化財センター2002『野田生2遺跡』北埋調報167
 跡北海道埋蔵文化財センター2003『八雲町落部1遺跡』北埋調報181
 跡北海道埋蔵文化財センター2003『森町濁川左岸遺跡-B地区-』北埋調報190
 跡北海道埋蔵文化財センター2003『森町石倉2遺跡』北埋調報197
 跡北海道埋蔵文化財センター2004a『森町倉知川右岸遺跡』北埋調報196
 跡北海道埋蔵文化財センター2004d『森町濁川左岸遺跡-A地区-』北埋調報208
 跡北海道埋蔵文化財センター2006『北斗市矢不來6遺跡・矢不來11遺跡・館野4遺跡』北埋調報235
 跡北海道埋蔵文化財センター2006『北斗市館野遺跡』北埋調報237
 跡北海道埋蔵文化財センター2007『北斗市 矢不來8遺跡(2)・矢不來10遺跡』北埋調報244
 跡北海道埋蔵文化財センター2007a『森町濁川左岸遺跡(3)-C~E地区-』北埋調報246
 跡北海道埋蔵文化財センター2007b『森町石倉1遺跡』北埋調報247
 跡北海道埋蔵文化財センター2008『北斗市矢不來6遺跡(2)・矢不來9遺跡・矢不來11遺跡(2)』北埋調報257
 跡北海道埋蔵文化財センター2010『北斗市矢不來8遺跡(3)・矢不來9遺跡(2)・矢不來10遺跡(2)・矢不來11遺跡(3)』北埋調報272
 知内町教育委員会1972『知内町涌元遺跡』
 知内町教育委員会1975『森越』
 知内町教育委員会1979『知内川中流域の縄文時代遺跡』
 戸井町教育委員会1990『浜町A遺跡』
 戸井町教育委員会1993『戸井貝塚Ⅲ』
 七飯町教育委員会1991『上藤城7遺跡』
 七飯町教育委員会1999『桜町7遺跡Ⅱ』
 函館市文化財保護協会1974『西桔梗』
 函館市教育委員会1999『石倉貝塚』
 函館市教育委員会2008『函館市桔梗2遺跡』
 函館市教育委員会 函館市埋蔵文化財事業団発掘調査報告書第3輯
 北斗市2006『新大野町史』
 北斗市教育委員会2009a『水無遺跡』
 北斗市教育委員会2009b『ヤギナイ遺跡』
 北海道文化財保護協会2000『長万部町オバルベツ2遺跡(2)』北海道文化財保護協会調査報告書第13集
 函館市教育委員会1979『見晴町B遺跡発掘調査報告書』
 函館市教育委員会1999『函館市石倉貝塚』
 松前町教育委員会1974『松前町大津遺跡発掘調査報告書』
 松前町教育委員会1976『松前町原口遺跡発掘調査報告書』
 松前町教育委員会1983『白坂』
 南茅部町教育委員会1996『大船C遺跡』
 八雲町教育委員会1995『浜松5遺跡』



調査風景（濁水処理施設、沈砂池部分）

北西から



調査風景（拡張部分）

南から



調査終了状況

東から



調査終了状況

西から



旧石器調査風景

南から



旧石器遺物出土状況

北西から

図版 4



旧石器調査範囲調査終了状況

南から



旧石器調査範囲土層断面

南から



細石刃出土状況

北西から



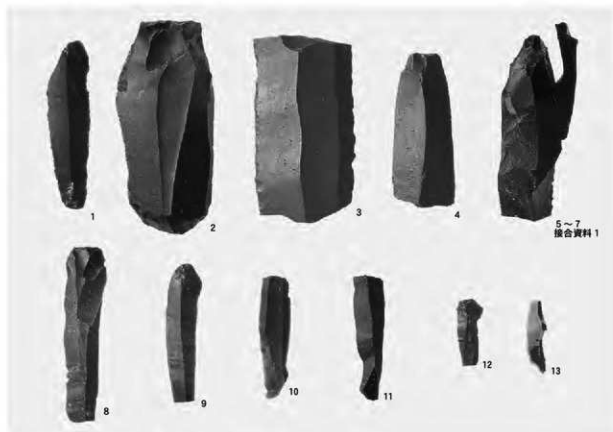
彫器出土状況

北西から



削器出土状況

南東から

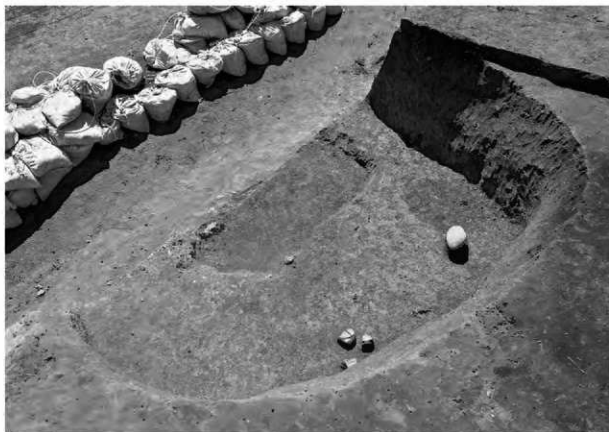


A地区 旧石器 1~13



5~7 接合状態

5~7



AH-1 全景

北西から



AH-1 土層断面

東から



AH-1 AF-1

東から



AH-1 SP-1 土層断面

東から



AP-1 土層断面

北から



AP-2 土層断面

東から



AP-3 土層断面

南西から



AP-4 全景

東から



AP-5 土層断面

南東から



AP-6 土層断面

南東から



AP-7 土層断面

南から



AP-8 土層断面

南から



AP-8 遺物出土状況

南西から



AP-8 遺物出土状況(2)

西から



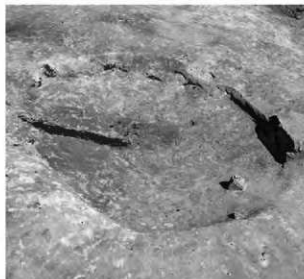
AP-9 土層断面

南から



AP-10 土層断面

東から



AP-11 全景

南から



AP-12 全景

東から



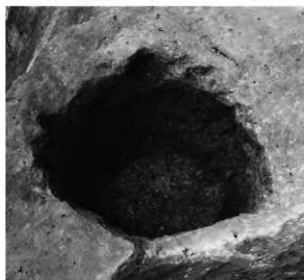
AP-13 土層断面

南から



AP-14 土層断面

東から



AP-14 全景



AP-15 土層断面

図版10



AF-1 検出状況

北西から



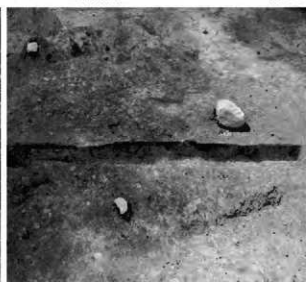
AF-2 土層断面

南から



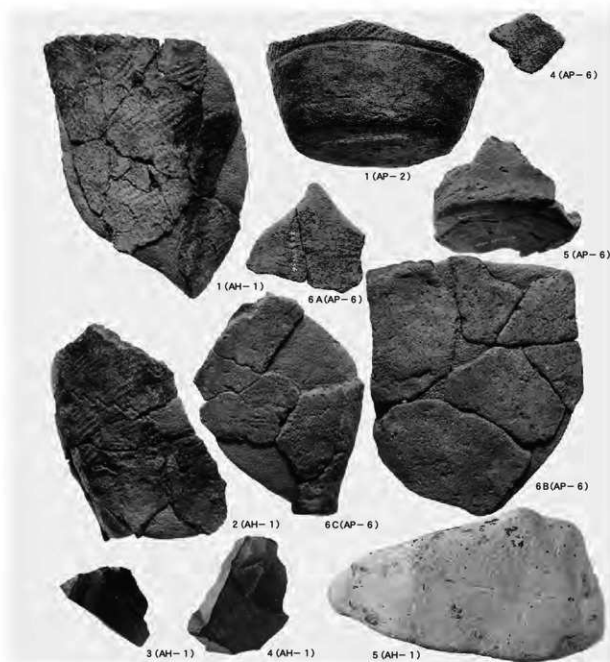
AF-3 検出状況

北から



AF-4 土層断面

南東から



A地区遺構出土遺物



AP-4 出土復元土器



AP-5 出土復元土器



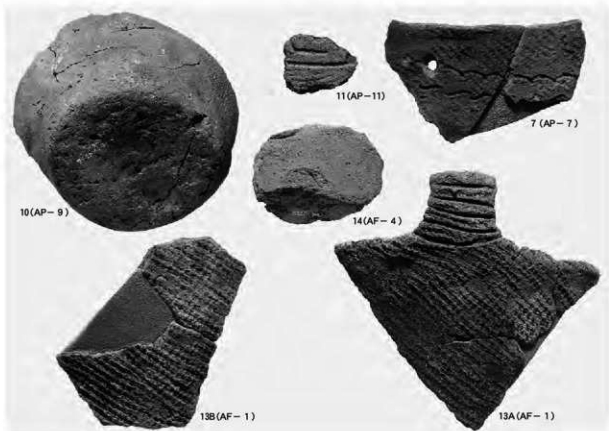
AP-8 出土復元土器



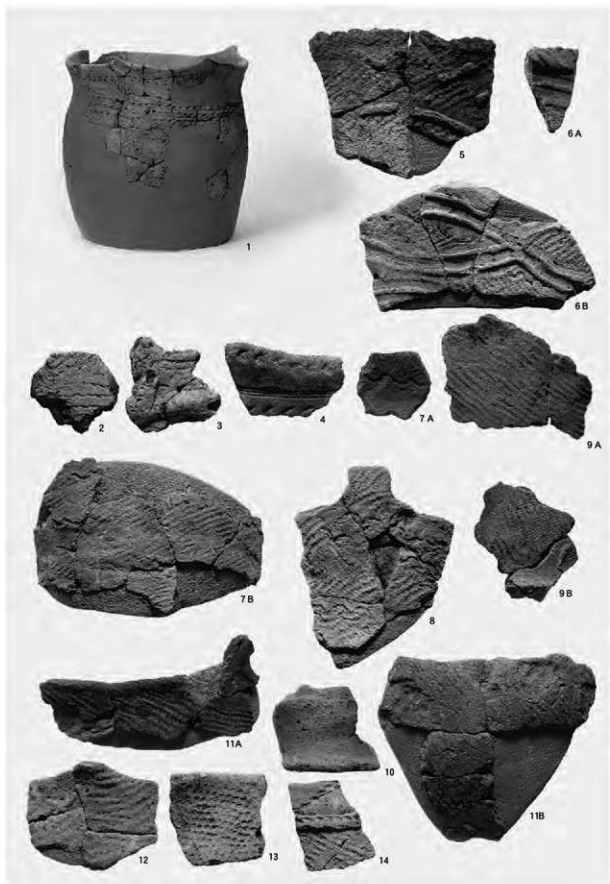
AP-8 出土復元土器



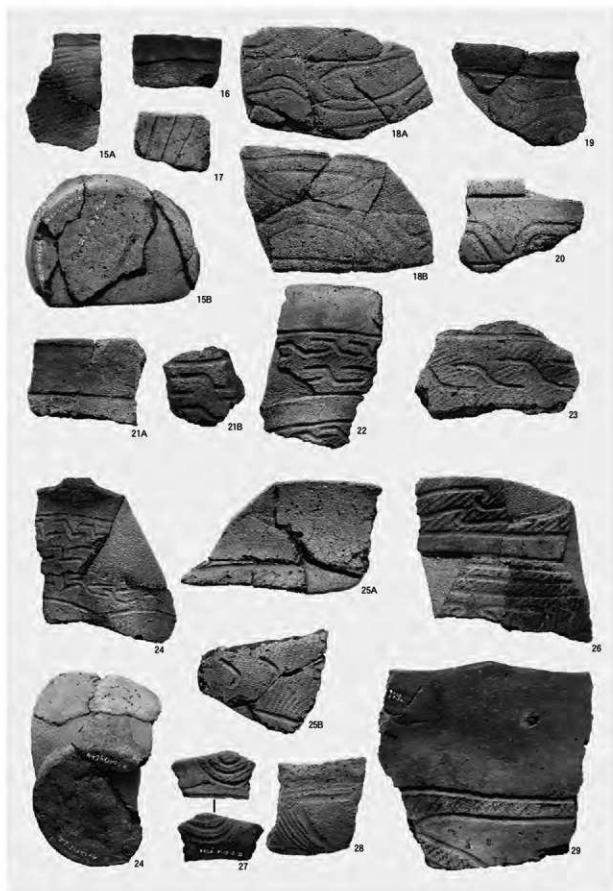
AP-14出土石器



A地区土坑・焼土出土土器



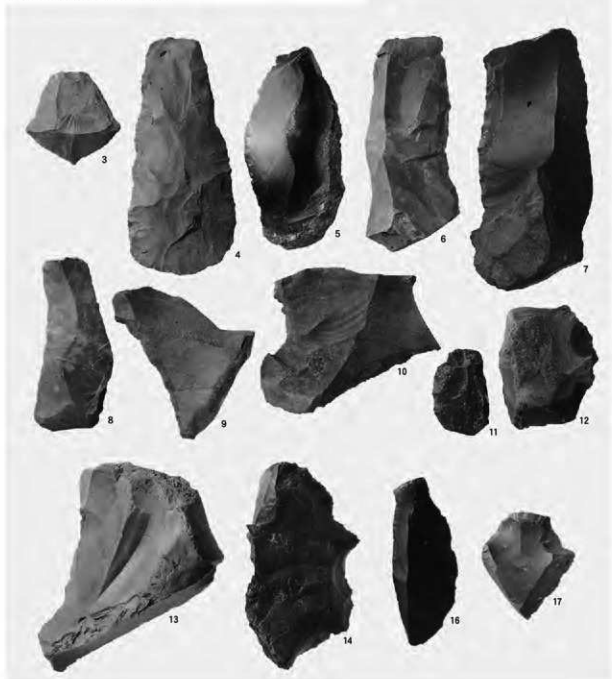
A地区包含層出土土器（1）



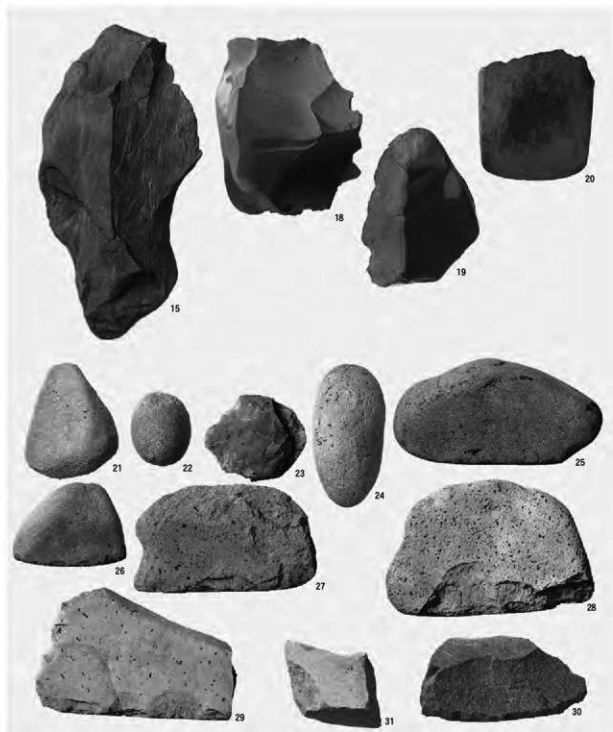
A地区包含層出土土器 (2)



A地区包含层出土石器(3)



A地区包含层出土石器(1)



A地区包含层出土石器（2）



調査風景

南から



調査風景

北西から



濁水処理施設部分 調査状況

北東から



調査風景

北東から



調査風景

北から



メインセクション

北西から



調査終了状況

南西から



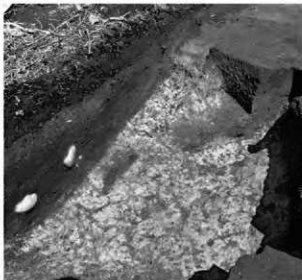
調査終了状況

南西から



BH-1 全景

北から



BH-1・HP・HF-1

南から



BH-1・HP-1

南東から



BH-2 南半全景

南東から



BH-2 北半全景

東から



BH-2 土層断面

北東から



BH-3 全景

北から



BH-3 調査風景

南西から



BH-3 土層断面

北から



BH-3 土層断面

南から



BH-3 床面遺物出土状況

東から



BH-3 床面遺物出土状況

北東から



BH-3・HP-1

北西から



BH-3・HF-3

北から



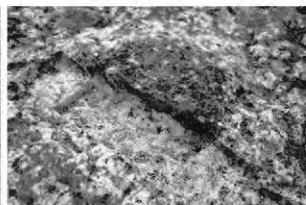
BH-4 ② 全景

東から



BH-4 土層断面

北東から



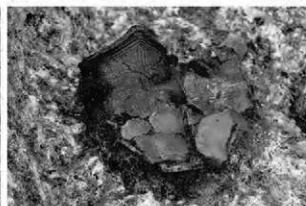
BH-4・HF-1

南東から



BH-4 床面遺物出土状況

南東から



BH-4 床面遺物出土状況

北東から



BH-5 全景

西から



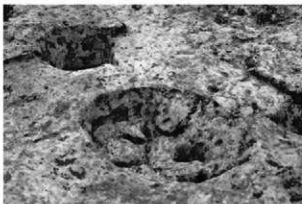
BH-5 床面遺物出土状況

南から



BH-5 土層断面

西から



BH-5・HP-1・HP-2 全景

南西から



BH-6 全景

南から

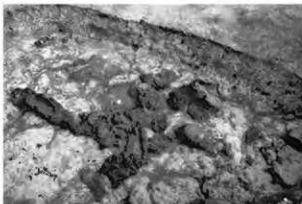


BH-6 土層断面

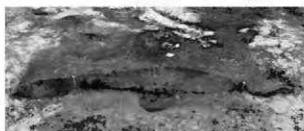
南東から



BH-6 · HP-3 土層断面 北西から



BH-6 炭化材出土状況 北から



BH-6 · HF-1 土層断面 南から



BH-6 遺物出土状況 南東から



BH-6 遺物出土状況 東から



BH-6 遺物出土状況 南東から



BH-7 (手前)・BH-12(奥)

南東から



BH-7 土層断面

南西から



BH-7 南半全景

南から



BH-8 全景

南東から



BH-9 全景

南から



BH-9・11 土層断面

南西から



BH-9・HF-1

南東から



BH-9・HF-1 土層断面

南から



BH-10 全景

北から



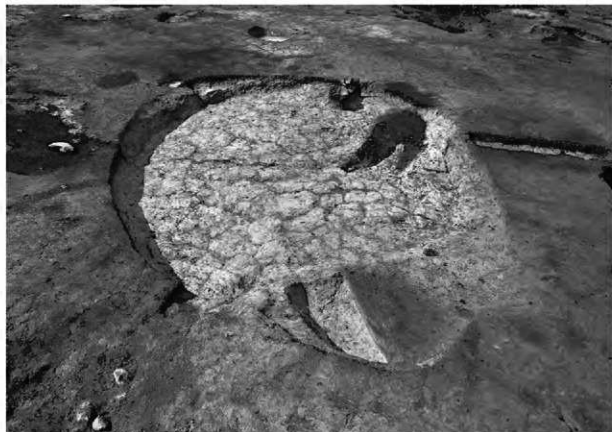
BH-10 全景

南から



BH-10 床面遺物出土状況

北から



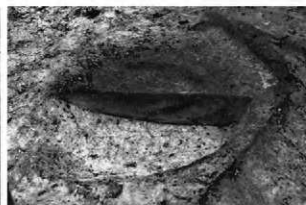
BH-11

南東から



BH-11・HF-1 部分土層断面

南東から



BH-11・HP-1 土層断面

南から



BH-11・HP-1 全景

南東から



BH-12

北から



BH-12 床面遺物出土状況

北から



BH-7 (手前)・BH-12(奥)

南東から



BP-1 全景

東から



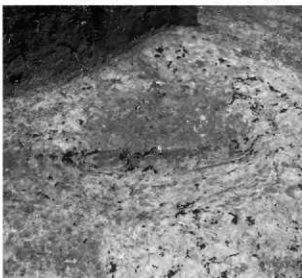
BP-2 土層断面

南から



BP-2 全景

南西から



BP-3 全景

南西から



BP-5 土層断面

南東から



BP-6 土層断面

南から



BP-7 全景

南から



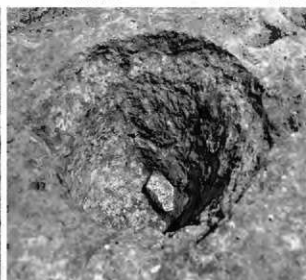
BP-9 土層断面

南から



BP-10 土層断面

南から



BP-10 全景

東から



BP-12 土層断面

南から



BP-13 土層断面

南から



BP-13 全景

南から



BP-14 全景

南から



BP-15 土層断面

南から



BP-16 土層断面

南から



BP-17 土層断面

南から



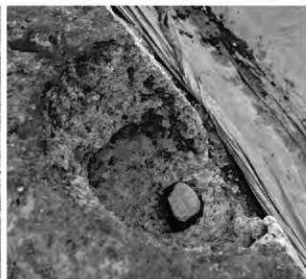
BP-18 遺物出土状況

北から



BP-19 土層断面

南東から



BP-20 全景

東から



BP-21 土層断面

南から



BP-22 全景

西から



BP-23 土層断面

南西から



BP-24 土層断面

南東から



BP-25 土層断面

南東から



BP-26 土層断面

南から



BP-26・27 全景

北から



BP-28 全景

南西から



BP-29 土層断面

南から



BP-30 土層断面

南から



BP-31 全景

南西から



BP-32 土層断面

南西から



BP-33 土層断面

南から



BP-34 土層断面

南東から



BP-35・36 土層断面

南から



BP-37 土層断面

南から



BP-38 全景

南から



BP-39 土層断面

南から



BP-40 土層断面

南から



BP-41・42、BSP-36・37 全景 南から



BP-42 土層断面 南西から



BP-43 全景 南から



BP-44 土層断面 南東から



BP-45・46 全景 南東から



BP-47 土層断面 南西から



BP-48 土層断面 南東から・南西から



BP-49 土層断面 南から



BP-50 土層断面 南西から



BP-51 土層断面 南から



BP-52 土層断面 南東から



BP-53 検出 東から



BP-54 土層断面

南西から



BP-54・56・57 全景

南西から



BP-55 土層断面

南から



BP-56 土層断面

南東から



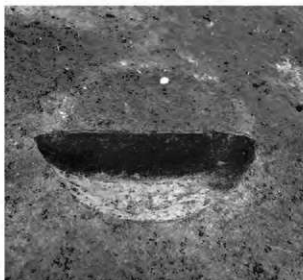
BP-57 土層断面

南西から



BP-58 土層断面

南から



BP-59 土層断面

南から



BSP-78・BP-60・68 全景

東から



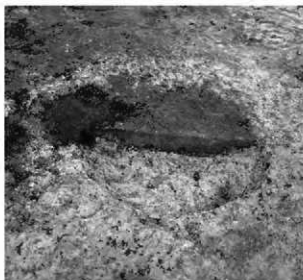
BP-61 土層断面

南から



BP-62 土層断面

南東から



BP-63 土層断面

南西から



BP-64 全景

北西から



BP-65 全景

西から



BP-66 全景

南東から



BP-67 全景

南東から



BP-68・69 土層断面

南東から



BP-68・69 全景

北東から



BP-70 土層断面

南から



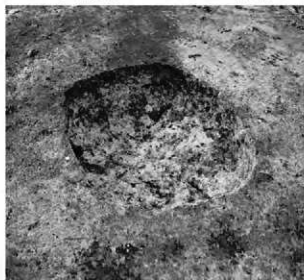
BP-71 土層断面

南東から



BP-72 土層断面

南から



BP-73 全景

南から



BP-74 土層断面

南西から



BP-75 土層断面

南から



BP-76 全景

南西から



BP-77 土層断面 南西から



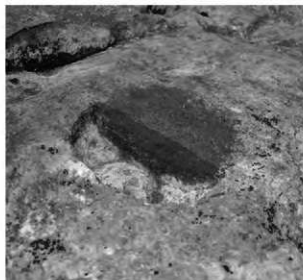
BP-78 全景 南東から



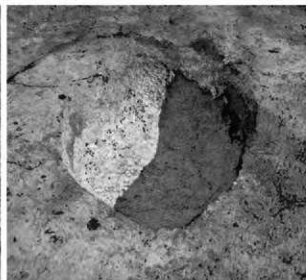
BP-79 土層断面 南西から



BP-80 土層断面 北西から



BP-81 土層断面 南から



BP-82 全景 西から



BP-83 全景

南東から



BP-84 全景・遺物出土状況

北東から



BP-85 全景

北西から



BP-86 全景

東から



BP-89 全景

南から



BF-1 土層断面

西から



BF-2 土層断面

南から



BF-3 検出

南から



BF-4 土層断面

西から



BF-5 土層断面

東から



BF-6 検出

東から



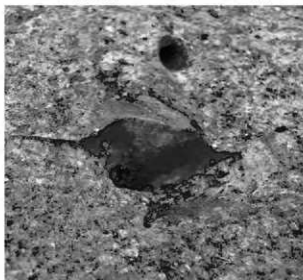
BF-7 土層断面

南から



BF-8 土層断面

南西から



BF-9 土層断面

南西から



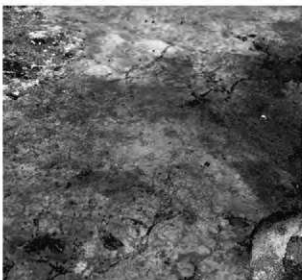
BF-10 検出

南から



BF-10 土層断面

東から



BF-11 土層断面

南から



BF-12 土層断面

西から



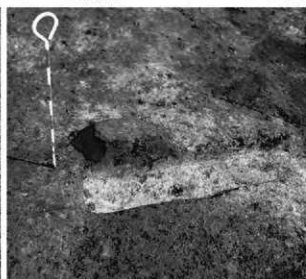
BF-13 土層断面

西から



BF-14 土層断面

西から



BF-15 土層断面

北西から



BF-16 検出

北から



BF-17 土層断面

南東から



BF-18 検出

南東から



BF-19 検出

北から



BF-20・21 検出

南から



BF-22・25 検出

北東から



BF-22・25 土層断面

東から



BF-23 検出

南から



BF-24 土層断面

南東から



BF-26 検出

南から



BF-27 土層断面

南から



BF-28 土層断面

南から



BF-29 土層断面

南から



BF-30 土層断面

東から



BF-31 土層断面

南から



BFC-1 検出

南西から



BSP-32 土層断面

南から



BSP-34 土層断面

南西から



BSP-35 遺物出土状況・土層断面

北から



BSP-38 遺物出土状況 南東から



BSP-39 遺物出土状況 南から



BSP-40 検出状況 南から



BSP-40 遺物出土状況 北西から



BSP-46 遺物出土状況 北東から



BSP-47 遺物出土状況 西から



BSP-66 土層断面

南西から



BSP-14 土層断面

南から



BSP-70 (方形柱穴列1)

北東から



BSP-71 (方形柱穴列1)

北東から



BSP-72 (方形柱穴列1)

西から



BSP-73 (方形柱穴列1)

東から



BS-1 検出

西から



BS-2 検出

西から



BS-3 検出

北から



BS-4 検出

北から



BS-4と周辺の遺物出土状況

北から



BS-4 と周辺の遺物出土状況

南西から



BS-5 検出

北から



BS-6 検出

西から



BS-7 検出

南西から



BS-8 検出

南から



BS-9 検出

南東から



BS-10 検出

南東から



BS-11 検出

南から



BS-12 検出

南東から



BS-13 検出

南から



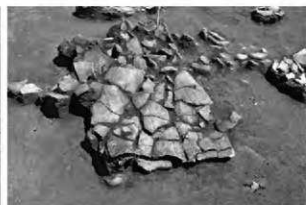
遺物集中検出状況

北西から



遺物集中検出状況

南東から



遺物集中No.28 検出状況

西から



Ⅲ層遺物出土状況

南東から



遺物集中No.40 検出状況

南西から



調査風景（濁水処理施設、沈砂池部分）

北西から



調査風景（拡張部分）

南から



調査終了状況

東から



調査終了状況

西から



旧石器調査風景

南から



旧石器遺物出土状況

北西から

図版 4



旧石器調査範囲調査終了状況

南から



旧石器調査範囲土層断面

南から



細石刃出土状況

北西から



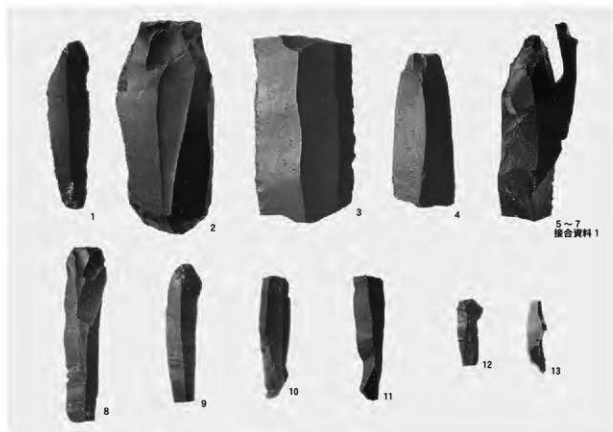
彫器出土状況

北西から



削器出土状況

南東から

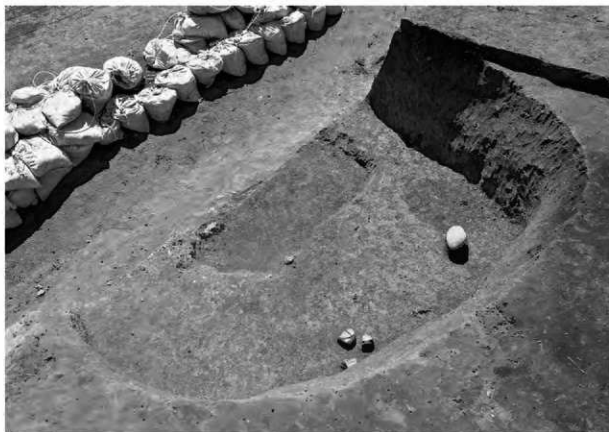


A地区 旧石器 1~13



5~7 接合状態

5~7



AH-1 全景

北西から



AH-1 土層断面

東から



AH-1 AF-1

東から



AH-1 SP-1 土層断面

東から



AP-1 土層断面

北から



AP-2 土層断面

東から



AP-3 土層断面

南西から



AP-4 全景

東から



AP-5 土層断面

南東から



AP-6 土層断面

南東から



AP-7 土層断面

南から



AP-8 土層断面

南から



AP-8 遺物出土状況

南西から



AP-8 遺物出土状況(2)

西から



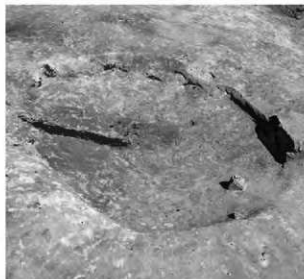
AP-9 土層断面

南から



AP-10 土層断面

東から



AP-11 全景

南から



AP-12 全景

東から



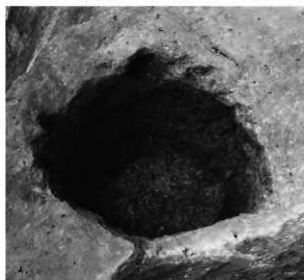
AP-13 土層断面

南から



AP-14 土層断面

東から



AP-14 全景



AP-15 土層断面

図版10



AF-1 検出状況

北西から



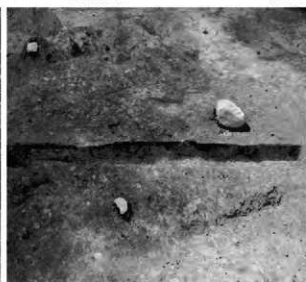
AF-2 土層断面

南から



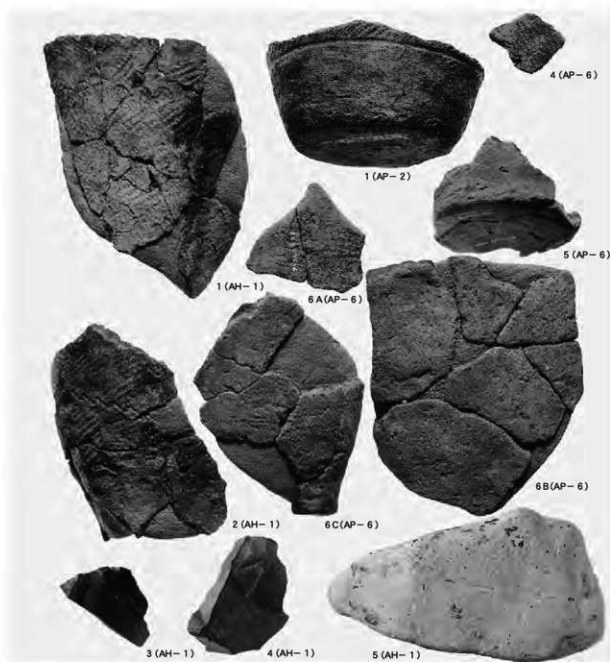
AF-3 検出状況

北から



AF-4 土層断面

南東から



A地区遺構出土遺物



AP-4 出土復元土器



AP-5 出土復元土器



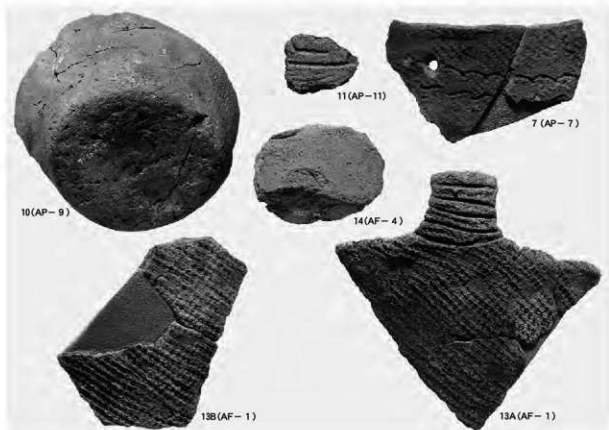
AP-8 出土復元土器



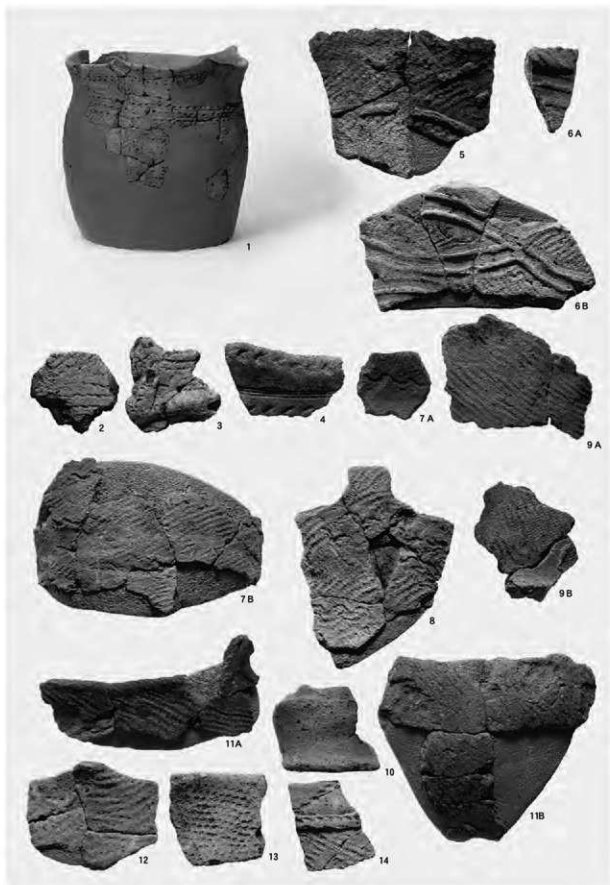
AP-8 出土復元土器



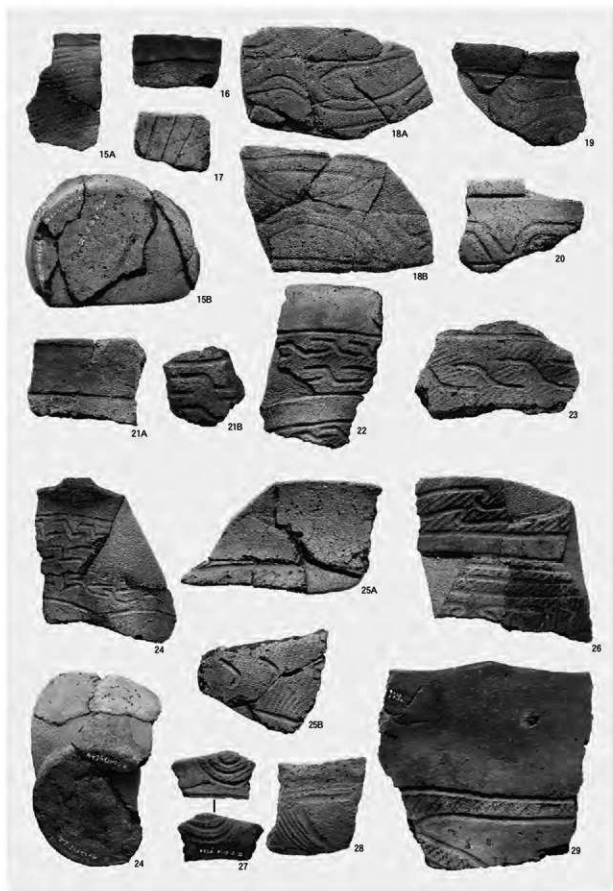
AP-14出土石器



A地区土坑・焼土出土土器



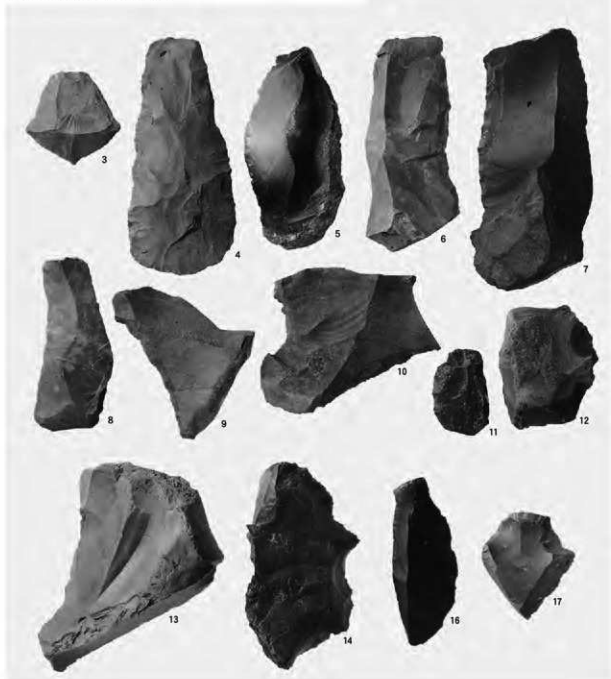
A地区包含層出土土器（1）



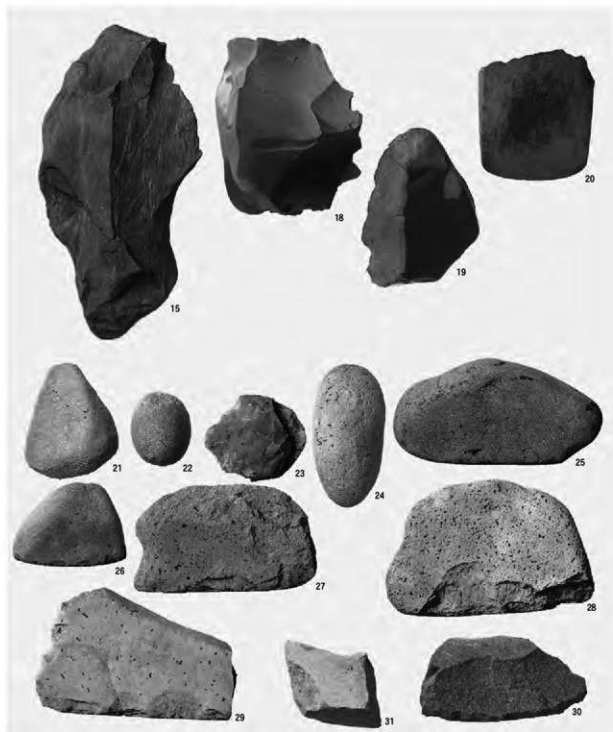
A地区包含層出土土器（2）



A地区包含层出土石器 (3)



A地区包含层出土石器 (1)



A地区包含层出土石器(2)



調査風景

南から



調査風景

北西から



濁水処理施設部分 調査状況

北東から



調査風景

北東から



調査風景

北から



メインセクション

北西から



調査終了状況

南西から



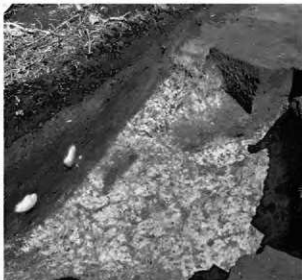
調査終了状況

南西から



BH-1 全景

北から



BH-1・HP・HF-1

南から



BH-1・HP-1

南東から



BH-2 南半全景

南東から



BH-2 北半全景

東から



BH-2 土層断面

北東から



BH-3 全景

北から



BH-3 調査風景

南西から



BH-3 土層断面 北から



BH-3 土層断面 南から



BH-3 床面遺物出土状況 東から



BH-3 床面遺物出土状況 北東から



BH-3・HP-1 北西から



BH-3・HF-3 北から



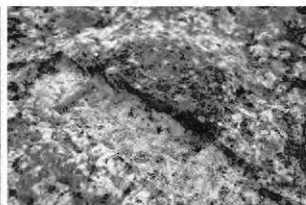
BH-4 ② 全景

東から



BH-4 土層断面

北東から



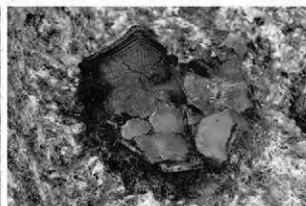
BH-4・HF-1

南東から



BH-4 床面遺物出土状況

南東から



BH-4 床面遺物出土状況

北東から



BH-5 全景

西から



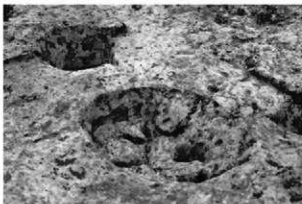
BH-5 床面遺物出土状況

南から



BH-5 土層断面

西から



BH-5・HP-1・HP-2 全景

南西から



BH-6 全景

南から

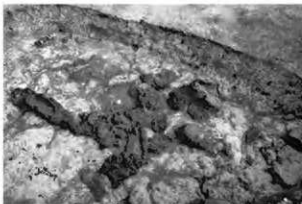


BH-6 土層断面

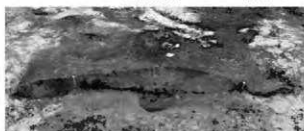
南東から



BH-6 · HP-3 土層断面 北西から



BH-6 炭化材出土状況 北から



BH-6 · HF-1 土層断面 南から



BH-6 遺物出土状況 南東から



BH-6 遺物出土状況 東から



BH-6 遺物出土状況 南東から



BH-7 (手前)・BH-12(奥)

南東から



BH-7 土層断面

南西から



BH-7 南半全景

南から



BH-8 全景

南東から



BH-9 全景

南から



BH-9・11 土層断面

南西から



BH-9・HF-1

南東から



BH-9・HF-1 土層断面

南から



BH-10 全景

北から



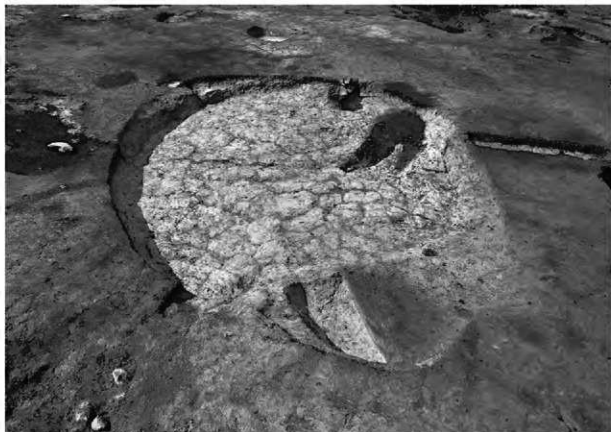
BH-10 全景

南から



BH-10 床面遺物出土状況

北から



BH-11

南東から



BH-11・HF-1 部分土層断面

南東から



BH-11・HP-1 土層断面

南から



BH-11・HP-1 全景

南東から



BH-12

北から



BH-12 床面遺物出土状況

北から



BH-7 (手前)・BH-12(奥)

南東から



BP-1 全景

東から



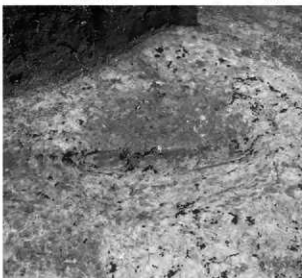
BP-2 土層断面

南から



BP-2 全景

南西から



BP-3 全景

南西から



BP-5 土層断面

南東から



BP-6 土層断面

南から



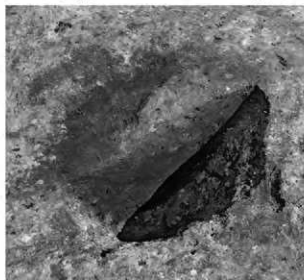
BP-7 全景

南から



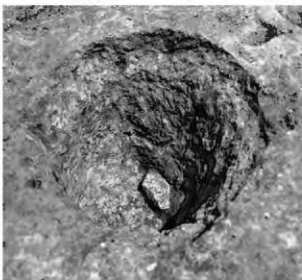
BP-9 土層断面

南から



BP-10 土層断面

南から



BP-10 全景

東から



BP-12 土層断面

南から



BP-13 土層断面

南から



BP-13 全景

南から



BP-14 全景

南から



BP-15 土層断面

南から



BP-16 土層断面

南から



BP-17 土層断面

南から



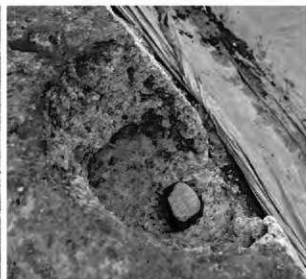
BP-18 遺物出土状況

北から



BP-19 土層断面

南東から



BP-20 全景

東から



BP-21 土層断面

南から



BP-22 全景

西から



BP-23 土層断面

南西から



BP-24 土層断面

南東から



BP-25 土層断面

南東から



BP-26 土層断面

南から



BP-26・27 全景

北から



BP-28 全景

南西から



BP-29 土層断面

南から



BP-30 土層断面

南から



BP-31 全景

南西から



BP-32 土層断面

南西から



BP-33 土層断面

南から



BP-34 土層断面

南東から



BP-35・36 土層断面

南から



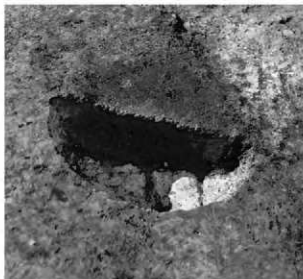
BP-37 土層断面

南から



BP-38 全景

南から



BP-39 土層断面

南から



BP-40 土層断面

南から



BP-41・42、BSP-36・37 全景 南から



BP-42 土層断面 南西から



BP-43 全景 南から



BP-44 土層断面 南東から



BP-45・46 全景 南東から



BP-47 土層断面 南西から



BP-48 土層断面 南東から・南西から



BP-49 土層断面 南から



BP-50 土層断面 南西から



BP-51 土層断面 南から



BP-52 土層断面 南東から



BP-53 検出 東から



BP-54 土層断面

南西から



BP-54・56・57 全景

南西から



BP-55 土層断面

南から



BP-56 土層断面

南東から



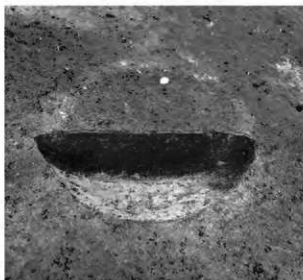
BP-57 土層断面

南西から



BP-58 土層断面

南から



BP-59 土層断面

南から



BSP-78・BP-60・68 全景

東から



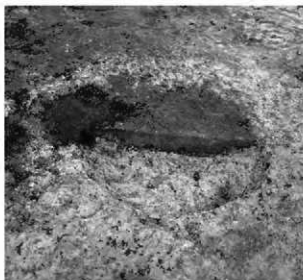
BP-61 土層断面

南から



BP-62 土層断面

南東から



BP-63 土層断面

南西から



BP-64 全景

北西から



BP-65 全景

西から



BP-66 全景

南東から



BP-67 全景

南東から



BP-68・69 土層断面

南東から



BP-68・69 全景

北東から



BP-70 土層断面

南から



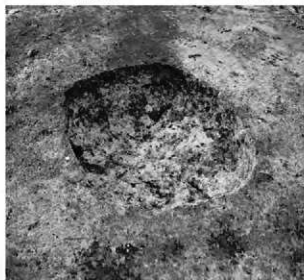
BP-71 土層断面

南東から



BP-72 土層断面

南から



BP-73 全景

南から



BP-74 土層断面

南西から



BP-75 土層断面

南から



BP-76 全景

南西から



BP-77 土層断面 南西から



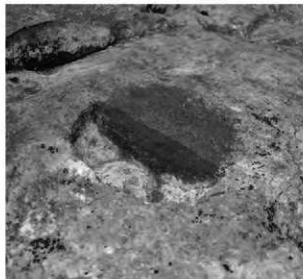
BP-78 全景 南東から



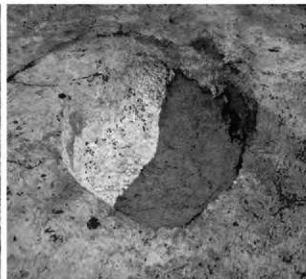
BP-79 土層断面 南西から



BP-80 土層断面 北西から



BP-81 土層断面 南から



BP-82 全景 西から



BP-83 全景

南東から



BP-84 全景・遺物出土状況

北東から



BP-85 全景

北西から



BP-86 全景

東から



BP-89 全景

南から



BF-1 土層断面

西から



BF-2 土層断面

南から



BF-3 検出

南から



BF-4 土層断面

西から



BF-5 土層断面

東から



BF-6 検出

東から



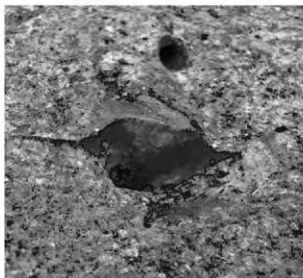
BF-7 土層断面

南から



BF-8 土層断面

南西から



BF-9 土層断面

南西から



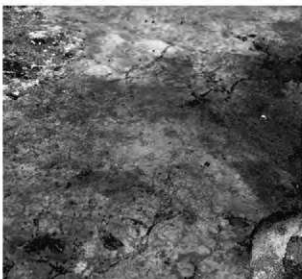
BF-10 検出

南から



BF-10 土層断面

東から



BF-11 土層断面

南から



BF-12 土層断面

西から



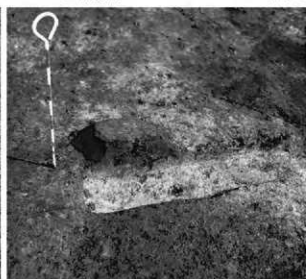
BF-13 土層断面

西から



BF-14 土層断面

西から



BF-15 土層断面

北西から



BF-16 検出

北から



BF-17 土層断面

南東から



BF-18 検出

南東から



BF-19 検出

北から



BF-20・21 検出

南から



BF-22・25 検出

北東から



BF-22・25 土層断面

東から



BF-23 検出

南から



BF-24 土層断面

南東から



BF-26 検出

南から



BF-27 土層断面

南から



BF-28 土層断面

南から



BF-29 土層断面

南から



BF-30 土層断面

東から



BF-31 土層断面

南から



BFC-1 検出

南西から



BSP-32 土層断面

南から



BSP-34 土層断面

南西から



BSP-35 遺物出土状況・土層断面

北から



BSP-38 遺物出土状況 南東から



BSP-39 遺物出土状況 南から



BSP-40 検出状況 南から



BSP-40 遺物出土状況 北西から



BSP-46 遺物出土状況 北東から



BSP-47 遺物出土状況 西から



BSP-66 土層断面

南西から



BSP-14 土層断面

南から



BSP-70 (方形柱穴列1)

北東から



BSP-71 (方形柱穴列1)

北東から



BSP-72 (方形柱穴列1)

西から



BSP-73 (方形柱穴列1)

東から



BS-1 検出

西から



BS-2 検出

西から



BS-3 検出

北から



BS-4 検出

北から



BS-4と周辺の遺物出土状況

北から



BS-4 と周辺の遺物出土状況

南西から



BS-5 検出

北から



BS-6 検出

西から



BS-7 検出

南西から



BS-8 検出

南から



BS-9 検出

南東から



BS-10 検出

南東から



BS-11 検出

南から



BS-12 検出

南東から



BS-13 検出

南から



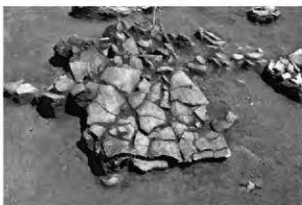
遺物集中検出状況

北西から



遺物集中検出状況

南東から



遺物集中No.28 検出状況

西から



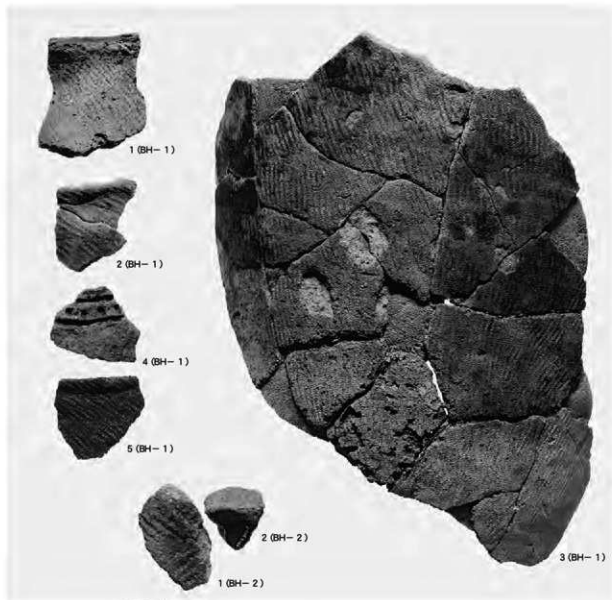
Ⅲ層遺物出土状況

南東から



遺物集中No.40 検出状況

南西から



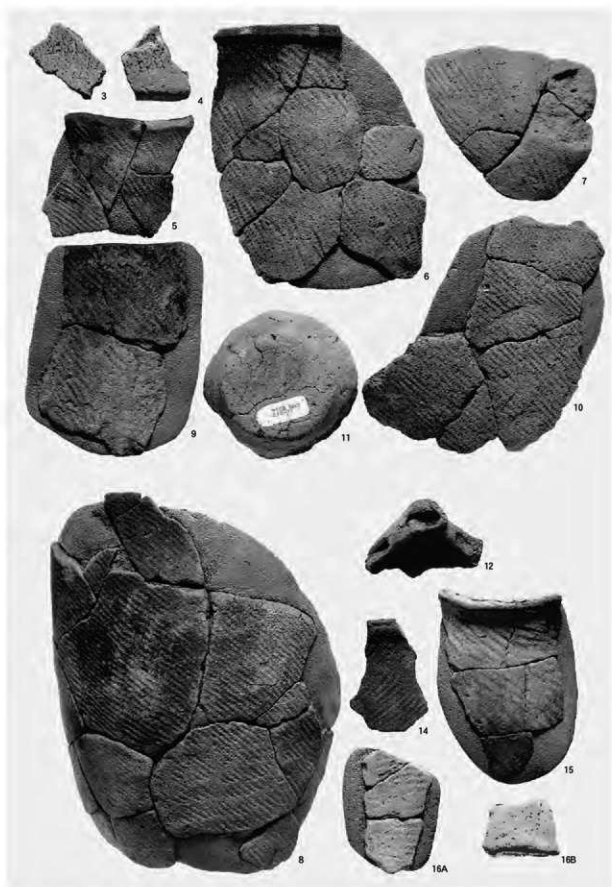
BH-1・BH-2 出土拓本土器



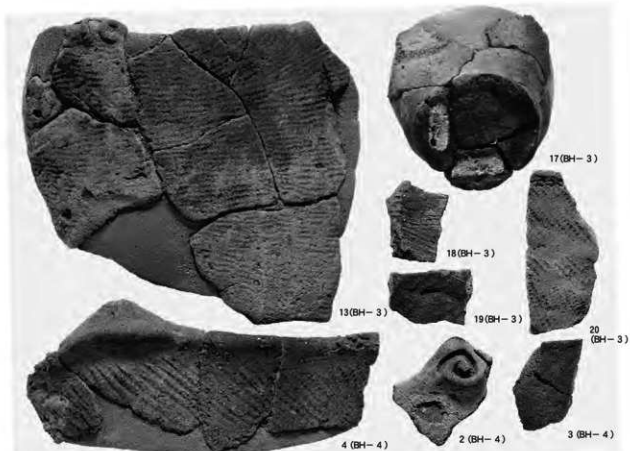
BH-3 出土復元土器



BH-3 出土復元土器



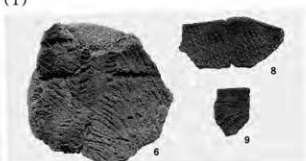
BH-3 出土拓本土器 (1)



BH-3 出土拓本土器 (2)・BH-4 出土拓本土器 (1)



BH-4 出土復元土器



BH-4 出土拓本土器 (2)



BH-4 出土拓本土器



BH-5 出土復元土器



BH-6 出土復元土器 (1)



BH-6 出土復元土器 (2)



BH-6 出土復元土器 (4)



BH-6 出土復元土器 (3)



BH-6 出土復元土器 (5)



BH-6 出土復元土器 (6)



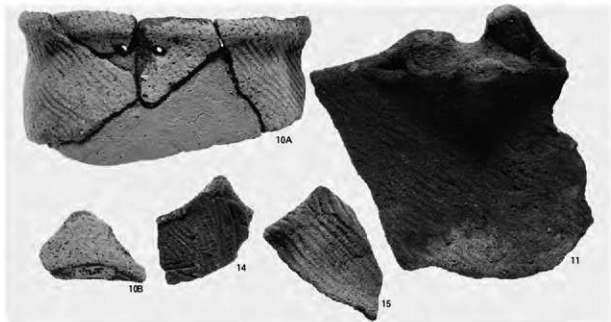
BH-6 出土復元土器 (7)



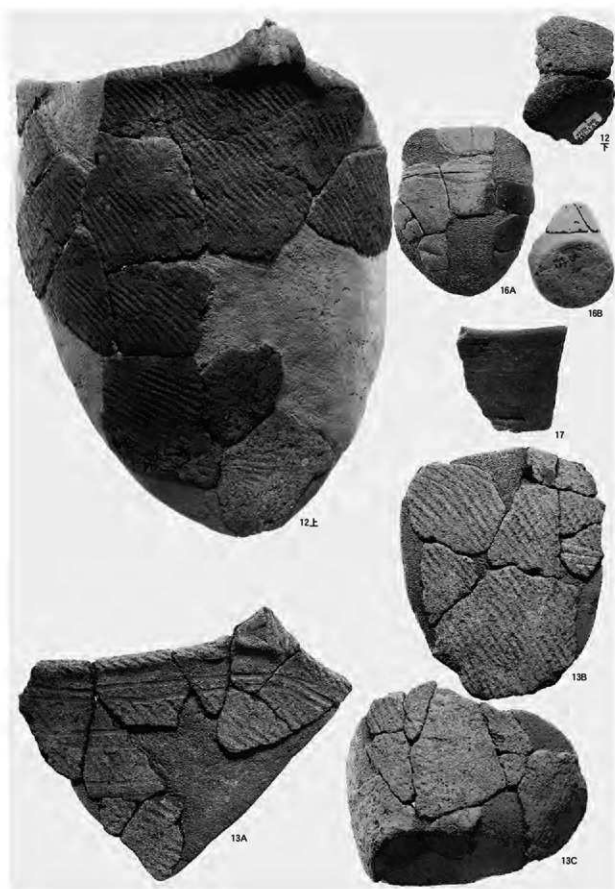
BH-6 出土復元土器 (8)



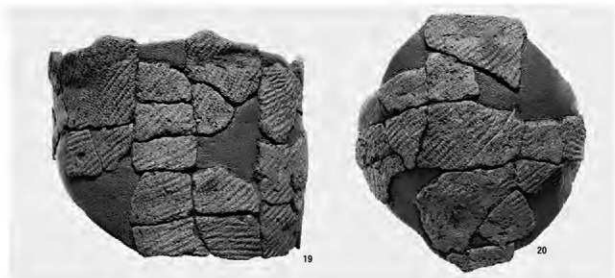
BH-6 出土復元土器 (9)



BH-6 出土拓本土器 (1)



BH-6 出土拓本土器 (2)



BH-6 出土拓本土器 (3)



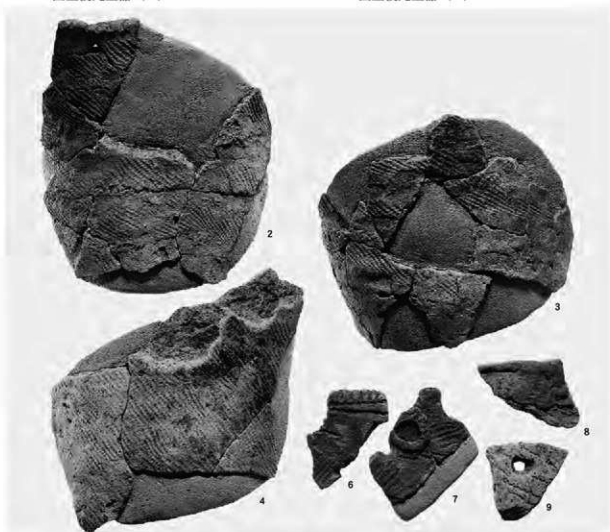
BH-7 出土土器



BH-8 出土復元土器 (1)



BH-8 出土復元土器 (2)



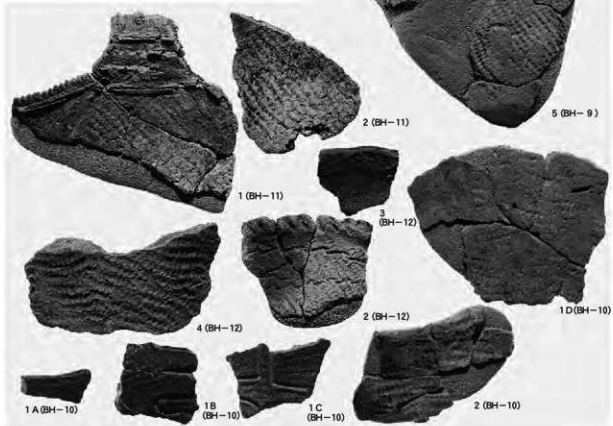
BH-9 出土拓本土器 (1)



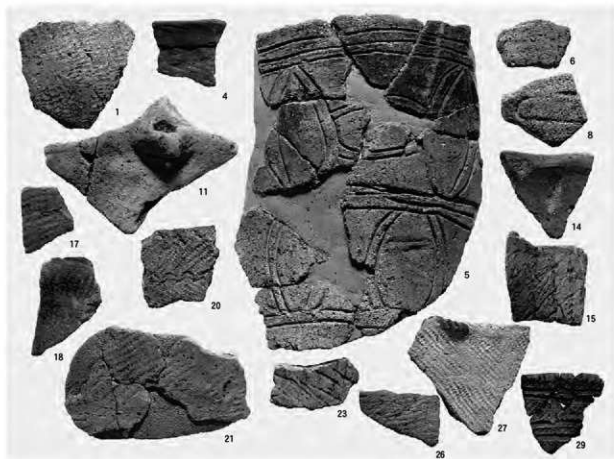
BH-9 出土復元土器



BH-12出土復元土器



BH-9 出土拓本土器 (2)・BH-11・BH-12・BH-10出土拓本土器



B地区土坑出土の柘本土器 (1)



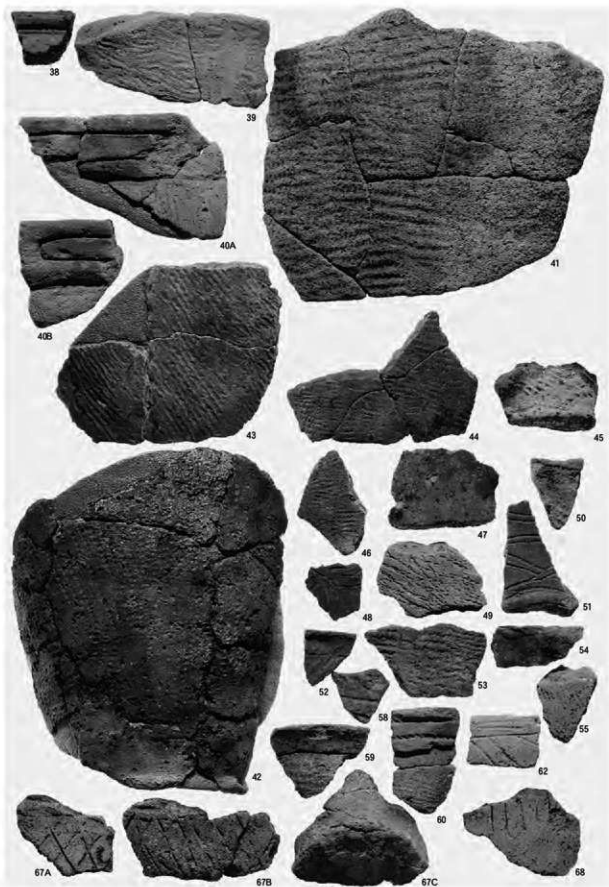
B地区土坑出土の復元土器 (1)



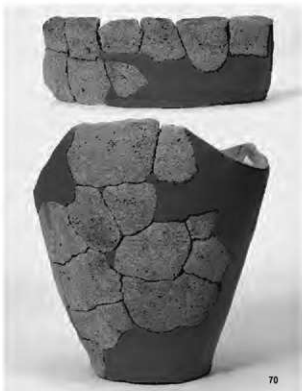
B地区土坑出土の復元土器 (2)



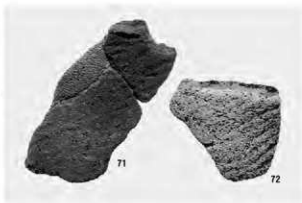
B地区土坑出土の柘本土器 (2)



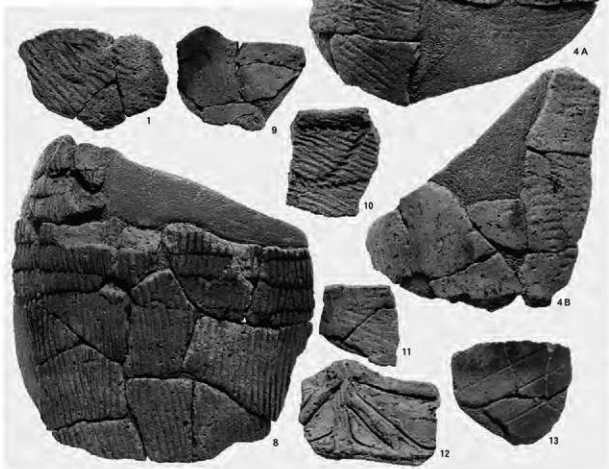
B地区土坑出土の拓本土器 (3)



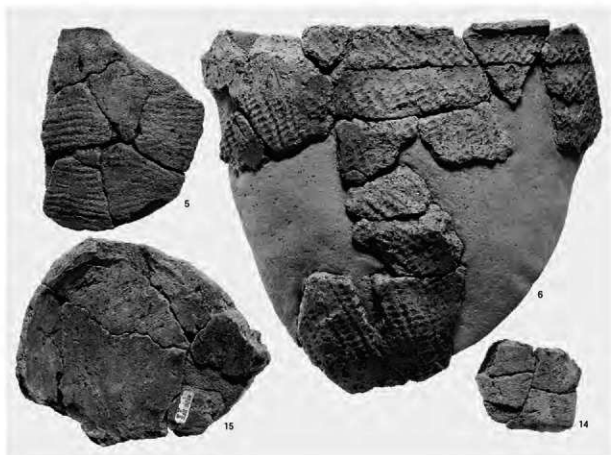
B地区土坑出土の復元土器（3）



B地区土坑出土の拓本土器（4）



B地区焼土出土の拓本土器（1）



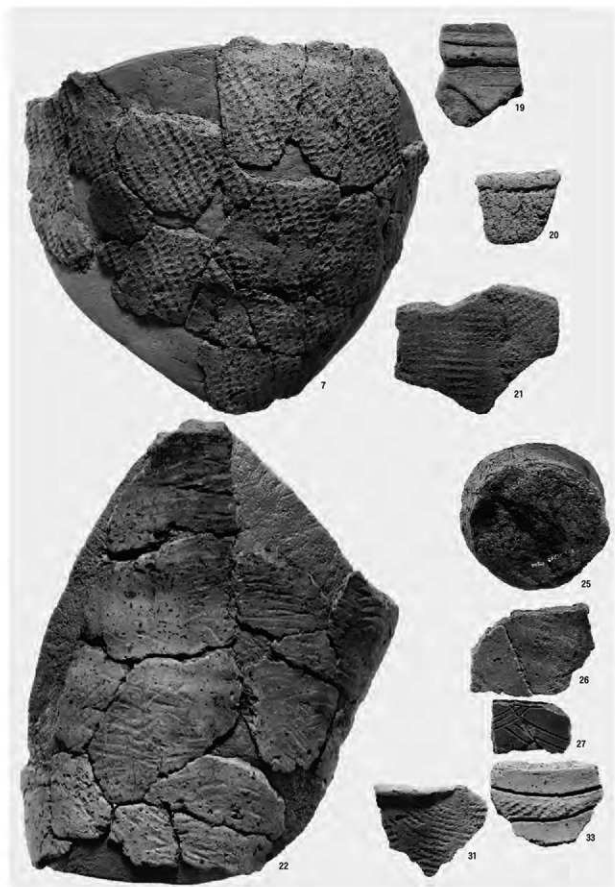
B地区焼土出土の拓本土器 (2)



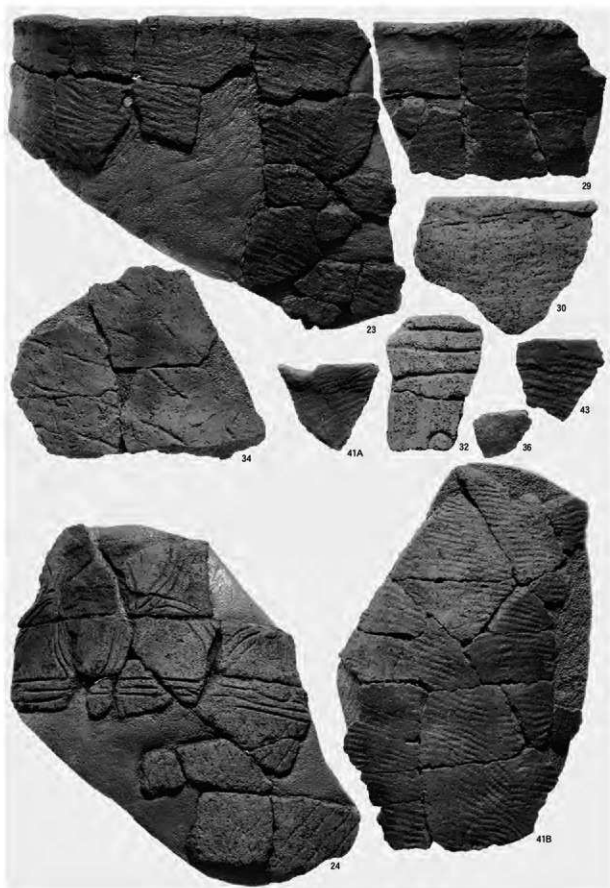
B地区焼土出土の復元土器 (1)



B地区焼土出土の復元土器 (2)



B地区焼土出土の柘本土器（3）



B地区焼土出土の拓本土器（4）



B地区焼土出土の復元土器（3）



B地区焼土出土の復元土器（5）



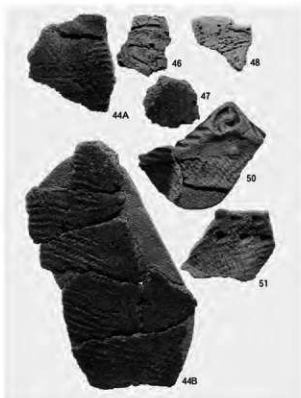
B地区柱穴状小土坑出土の復元土器（1）



B地区焼土出土の復元土器（4）



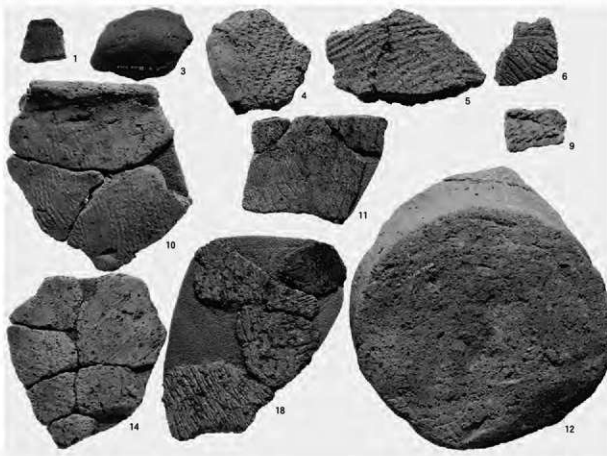
B地区柱穴状小土坑出土の復元土器（2）



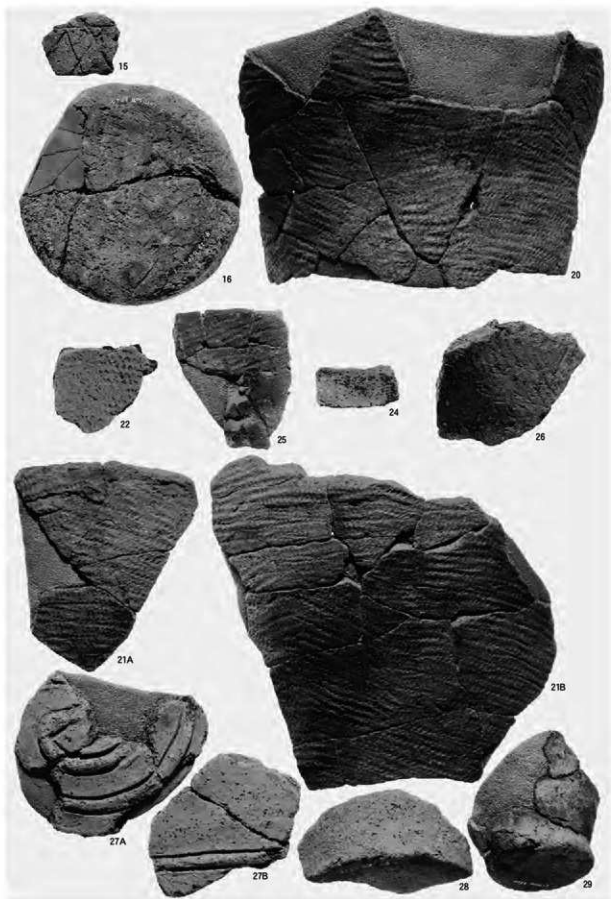
B地区焼土・BFC出土の拓本土器（6）



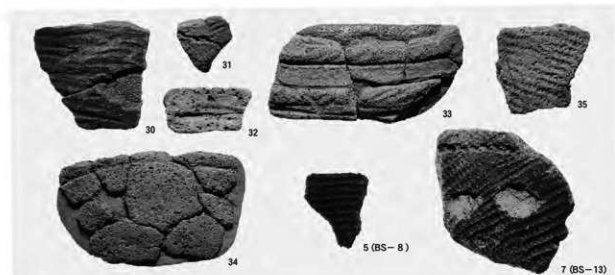
B地区柱穴状小土坑出土の復元土器（3）



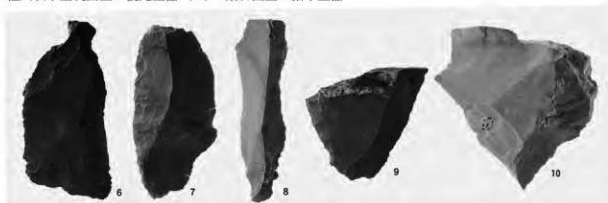
B地区柱穴状小土坑出土の拓本土器（1）



B地区柱穴状小土坑出土の拓本土器（2）



柱状小土坑出土の復元土器（1）・集石出土の拓本土器



BH-1 出土の剥片石器



BH-1 出土の礫石器

報告書抄録

ふりがな	ほくとし たてのにいせき							
書名	北斗市 館野2遺跡 A地区・B地区							
副書名	高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）							
シリーズ番号	第283集							
編著者名	立田 理・中山昭大・皆川洋一・新家水奈・佐藤 剛							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター (http://www.domaibun.or.jp)							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1 TEL (011) 386-3231							
発行年月日	平成24(西暦2012)年3月23日							
ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
館野2遺跡 A地区	北海道北斗市 館野28-1・4、 29-1・4、 30-1・2、 31-1	01335	B-06 35	41° 47'	140° 37'	20070530 ～ 20070727	953㎡	高規格幹線道路 函館江差自動車道
				(A地区とB地区 の境界にある無 名沢付近の遺)		20070515 ～ 20071019		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
館野2遺跡 A地区	遺物包 含地	旧石器時代	ブロック×1	彫器・搔器・削器		調査では北斗市初となる旧石器時代の遺物(13点)		
				縄文時代早期	住居跡×1	早期：東銅路IV、	大津式の大きな破片を伴う土坑を2基検出する。	
		縄文時代中期	土坑×15	中期：円筒上層a、b、 サイベ沢VII				
		縄文時代後期	焼土×4	後期：大津、白坂3				
館野2遺跡 B地区	遺物包 含地	縄文時代前期	住居跡×12	前期：円筒土器下層d		住居跡BH-6は焼失住居。		
		縄文時代中期	土坑×87	中期：円筒土器上層b、 サイベ沢VII、見晴 町式、榎林式		床面から復元個体6個と石鏃等が出土。後期前葉涌元～トリサキ式が多く出土している。		
		縄文時代後期	焼土×32 柱穴状小土坑×85 集石×13	後期：涌元、トリサキ式				
要約	<p>遺跡は函館湾を望む海成段丘上にある。調査区は沢を挟んで3か所に分かれており、北からA、B、C地区と呼称した。本報告はA、B地区の調査成果を報告するものである。</p> <p>A地区からは、発掘調査では市内初となる旧石器時代の資料が出土している。その内訳は、周縁加工左刃型彫器、搔器、削器、石刃、細石刃からなる計13点の資料である。</p> <p>B地区においては、縄文時代中期～後期の竪穴住居跡が12軒検出している。BH-6としたものからは、床面から縄文時代中期前半サイベ沢VII式から見晴町式の復元土器6個体、石鏃18点、石斧4点がまとまって出土している。</p> <p>出土した土器型式は、縄文時代早期・東銅路IV式、縄文時代前期・円筒土器下層d式、中期・円筒土器上層a・b式、見晴町式、榎林式、大安在B式、縄文時代後期・涌元式、トリサキ式、大津式、白坂3式、後期後半・堂林式、このほか、晩期、続縄文時代に相当するとみられるものもわずかに出土している。</p> <p>A地区においては、大津式、B地区においては、サイベ沢VII～見晴町式、涌元～トリサキ式の資料が多く出土している。</p>							

遺跡番号は北海道埋蔵文化財包蔵地周知資料登録番号、経緯度は世界測地系による。

町北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第283集

北斗市 館野2遺跡 A地区・B地区

高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 平成24(2012)年3月23日

編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 江別市西野幌685番地1

TEL (011)386-3231 FAX (011)386-3238

<http://www.hokkaidou.mmd.ntt-east.co.jp/maizou>

印刷 山藤三陽印刷株式会社

〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1

TEL (011)661-7161代 FAX (011)661-9570代

<http://www.sando-sanyo.co.jp/>